



NIMRODなんか  
糞ったれ!!



威風堂々

Miyabi

「はじめに」

---

この小説は....

311東日本大震災(悪魔によって仕立て上げられたハルマゲドン)なんか糞ったれ!!

『平和組曲』

の続編となります....



もし宜しかったら、こちらから先にご覧になって下さいね....

311東日本大震災(悪魔によって仕立て上げられたハルマゲドン)なんか糞ったれ!!

『平和組曲』

Miyabi

→<http://p.booklog.jp/book/39656>

『△NIMRODなんか糞ったれ!!』

---

日本人を苦しめた、311東日本大震災は....

まだ何にも、終わっていません...!!



しかも....

ヤツらの狂想曲の....

ほんの序盤に過ぎないのです...!!

2012年は....

ついに、△NIMRODが....

主題曲を奏でる年なのです...!!

その前に、一刻も早く覚醒して下さい...!!

もう何年も前から...

気が付いている人々が、世界中にいます...!!

今度は、あなたが気付く番なのです...!!

「平和組曲」(威風堂々)

うた：ゴダイゴ

→[http://www.youtube.com/watch?v=rgTi\\_F4OvMA&fea..](http://www.youtube.com/watch?v=rgTi_F4OvMA&fea..)

## 『△ピラミッド・システム』

---

2012年は、NWO新世界秩序を大きく前進させる年です…。



△NIMRODの計画では…、

アメリカ合衆国も、EUも終わりにします…。

資本主義&民主主義は、間もなく終焉を迎えることになっています…。

世界の人口を、70億人からグッと減らす予定です…

△NIMRODの計画では…、

悲願の、世界統一政府を樹立させることになっています…。

世界を4つの大きな共産圏(ヨーロッパUNION、アメリカンUNION、アジアパシフィックUNION、アフリカンUNION)に分けます…。

世界統一政府、その構造は....、

『△ピラミッド・システム』(Pyramid of Capitalist System)です....。

ほんの一部のエリートが全ての権力を独占し....、

上の3つで約1,000万人くらい、下の人民部が5億人程度....、

全体で5億1,000万人程度の地球人口にしようとしています....。

『△ピラミッド・システム』の上から順に....、

【貴族、財閥、官僚】 = 「WE RULE YOU(あなたたちを支配します)」

【教会、宗教】 = 「WE FOOL YOU(あなたたちを無知にします)」

【軍隊、警察】 = 「WE SHOOT AT YOU(あなたたちを狙います)」

【上流階級】 = 「WE EAT FOR YOU(あなたたちのために食べてあげてンのよ)」

【労働者階級】 = 「WE WORK FOR ALL,FEED ALL(すべての人のために働いて、すべての人を食わせます)」

私は、間違いなく労働者階級ですね....。

このNWO新世界秩序は、共産主義社会そのものです…。

そんなの嫌です…!!

断固反対です…!!

あなたは、それで構わないんですか…?

→[http://www.whale.to/b/pyramid\\_of\\_capitalist\\_system..](http://www.whale.to/b/pyramid_of_capitalist_system..)

→<http://www.youtube.com/watch?v=dbz5CERnAag>

→<http://www.youtube.com/watch?gl=JP&hl=ja&v..>



## 威風堂々[1] 『2012年は△NIMRODが世界を大掃除するのか!?!』

---

～△NIMRODとは、ユダヤ教・キリスト教の神話・伝説に出てくる人物の名前である～

大晦日の夜、第62回NHK紅白歌合戦は、私たち日本人にとって非常に挑発的な番組でした…。

「…ったく、馬鹿にしゃがってこの野郎!!!!」

テレビ画面に向かって、私は何度罵声を浴びせたことか…!!

よりによって311東日本大震災で心を痛めたその年末にですよ、本当にムカつきましたよね…!?

あなたは、どう思いましたか…!?

えッまさか、あなたは今年のNHK紅白を観ても、何にも不自然に感じなかったんですか…!?

もしかしたら、愛菜ちゃんが転んだとか、小林幸子がドデカい獅子舞の上で唄ったとか、SMAP大トリとか、紅組勝利とか…、

そんな印象しか残らなかったとでも言うのですか…!?

ブブーッ…!!!!!!!!!!!!!!

ハイ、あなたは△NIMRODに深くマインドコントロールされています…!!

2012年は、『NWO(New World Order)新世界秩序』を大きく前進させる大変な年ですから、あなたも一刻も早く覚醒して下さい…!!

今回のNHK紅白歌合戦は、日本人に「悪魔支配」をイメージさせるステージだったんですよ...!!

その理由はまず....

アメリカの邪悪な悪魔主義者の歌手でイスラエル娘の、レディー・ガガを出演させたこと...!!

ある情報によると、親友を悪魔の生け贄にしたとのことで、その親友の家族に訴えられているのです...。

ですから、レディー・ガガは悪魔に魂を売り渡した少女と云われ、世界中の敬虔なクリスチャンから嫌われているのです...。

彼女は名声を手に入れる為に、△NIMRODと契約を結んだのは間違いないでしょう...。

そんな歌手を番組に出演させるNHKは、何を考えているのでしょうか...!?

それからもう一点、とにかくイヤらしいのは....

今回の紅白歌合戦のステージが、△ピラミッドをイメージしたものであったこと...!!

聞いたところでは、全てあちらのスタッフがステージの意匠を仕切ったらしいのです...。

柱といい床といい、とにかく至る所に沢山の大小様々な△ピラミッドが形作られており、私は吐き気を催しそうになりました...。

あれはテレビ画面を通じて、日本人をマインドコントロールさせる為のものですよ...!!

何故ならば△ピラミッド形は、正に△NIMRODのシンボルだからです...。

だから今回のNHK紅白歌合戦は、日本人に「悪魔支配」をイメージさせるステージだったんですよ...!!

つまり、世界ではとうの昔に『NWO新世界秩序』が始まっており...

「日本は既に、△NIMRODが支配しています」というヤツらからのメッセージだったんですよ...!!

こんなことされてるんだから、日本人なら誰だってムカつくでしょ...!?

そもそもNHKをはじめマスゴミは、とうに△NIMRODの手下になっていますから、とっくの昔からヤツらに都合の良い情報しか流さなくなっています....

しかしながら、日本を代表するNHK紅白歌合戦に△の強いメッセージを伝えてきたということは....

今年2012年は、ヤツらにとってと非常に重要な年であるという意味が込められていると私は思うのです...!!

平和ボケした日本人、そしてあなたも...!!

いい加減に気付いて下さい...!!

△NIMRODのヤツらにとって2012年は....

実は、数千年昔からの悲願の....

『世界統一政府』を樹立する予定の年らしいのです...!!

△NIMRODによる『世界統一政府』なんて、そんな話聞いたこと無いよ、とあなたは思うかも知れませんが...

311東日本大震災のトモダチ作戦は、『世界統一政府』樹立の予備演習だったのではないかと噂されているのです...

原子力空母をはじめとする12隻の艦隊が押し寄せて、米軍が日本領土に踏み込み、政府官邸には白人のエリートが居座ったその様子は...

まるで太平洋戦争後のGHQの焼き写しだったのです...

一方、最近話題となっているTPPとは...

何と、『世界統一政府』を樹立させる為のステップだと考えられているのです...

具体的には、今後世界を4つの大きな共産圏(ヨーロッパUNION、アメリカンUNION、アジアパシフィックUNION、アフリカンUNION)に分けるのではないかと噂されているのです...

となると...

私たちの日本国は、アジアパシフィックUNIONに属するのですが...

こうしている間にも、『世界統一政府』の準備は着々と進められているのでしょうか...!?

ところで、『世界統一政府』が出来る前に...

大掃除がありそうなのです...

あなたは、年末の大掃除をしましたか...?

例えたった1年でも、つもり積もった汚れを落とすのは大変ですよね...?

これが、何十年も経ったこの地球を世界規模で大掃除となると、さぞかし大仕事でしょうね...!?

それが今年つまり2012年は、△NIMRODの連中にとっては大掃除の年なのです...!?

ヤツらの計画では、何と...!?

70億の世界の人口を、約5億人まで大掃除したいらしいのです...!?

今、△NIMRODの望んでいることは...

何と、今年2012年を聖書でいう「終末」、「この世に終わり」にしたいのです...!?

世界各地に、自然災害に見せ掛けた人工地震や大津波を起こします...

ドルもユーロも暴落させ、お金を紙切れにさせます...

世界各地で暴動が起こりますが、世界中に厳戒態勢が敷かれます...

民衆を警察と軍隊が抑えつけ、次々に連行します...

アメリカ合衆国もEUも終焉させます…。

国の借金をチャラにしてしまいます…。

資本主義&民主主義は、間もなく終焉を迎えます…。

イランvsイスラエルを皮切りに、中東で争乱を起こします…。

石油の供給をストップさせます…。

アジアでも争乱を起こします…。

世界を真っ二つに分断させ、第三次世界大戦へと導きます…。

あらゆる国で核戦争を起こさせます…。

世界中をズタズタにします…。

戦争を終結させ、生き残った人々を…、

世界を4つの大きな共産圏に分け…、

『世界統一政府』に組み込む、というシナリオなのです…。

その結果…、

地球の人口は、大掃除によって5億1,000万人程度になり…、

△NIMRODが数千年昔からの夢だった、『世界統一政府』をイスラエルに樹立…!!

これがヤツらの目指している新しい地球、新しい世界、新しい価値観…、

つまり、これが『NWO新世界秩序』という訳なのです…!!

あなたは、信じますか...!?

そんなのウソだろ、考えられないと、あなたは否定するでしょうね...?

出来れば私もそう願いたいのですが...

ヤツらが『世界統一政府』の構想を口外している証拠が、実際に存在するのです...

このままでは、私たちの世界が終わってしまいます...!!

しかし、△NIMRODの悪企みに気付いた人々が、もう何年も前から世界中にいて...

ヤツらの動きを封じ込めようと活動しているのです...!!

ですから、こうして私も伝えているのです...!!

いよいよ今度は、あなたが気付く番なのです...!!

## 威風堂々[2]『△NIMRODの世界では市民を奴隷化し日本も消える!?!』

---

～△NIMRODは、旧約聖書「創世記」10章のなかに、その名前が登場する～

『世界統一政府』を企む、△NIMRODの計画では....、

2012年を、聖書でいう「終末」「この世に終わり」にしたいのです...!!

今年は、『NWO(New World Order)新世界秩序』を大きく前進させる年です...!!

ヤツらはいよいよ、この全世界を大掃除しようとしています...!!

311東日本大震災は、そのミッションの一つだったと言えるでしょう....。

今後も頻繁に、世界中に自然災害に見せ掛けた人工地震や大津波を起こし....、

人々に恐怖と不安を植え付けようとしします...!!

△NIMRODの企ては更に、世界の経済も混乱させようとしています...!!

まずアメリカ合衆国もEUも終焉させ、国の借金はパーに....、

ドルもユーロも暴落、世界恐慌が吹き荒れます....。

市民は大混乱しますが、暴動を起こすと警察と軍隊に力づくで抑えつけられます....。



間もなく、民主主義も資本主義も過去のものとなります...!!

△NIMRODの連中が最もやりたいのは、人間の抹殺です...!!

中東で争乱、アジアでも争乱が起こり、世界中を巻き込む第三次世界大戦に発展...

恐ろしい核戦争が、世界中を滅茶苦茶にします...

大戦争を引き起こすことで...

最終的には、世界の人口を5億人程度まで減らしたいのです...!!

戦争が終わった暁には、世界を4つの大きな共産圏に分け...

数千年昔からの夢だった...

アングロサクソン(イングランド人の血を引く者)を頂点とする...

『世界統一政府』をイスラエルに樹立というシナリオなのです...!!

これがヤツらの目指している新しい地球、新しい世界、新しい価値観...

つまり、これが『NWO新世界秩序』という訳なのです...!!

さて、全世界を巻き込む『世界統一政府』、その構造は…、

△ピラミッド・システム(Pyramid of Capitalist System)なのです…!!

これは5段階に分かれた、非常に差別的な世界なのです…!!

何と、ほんの一握りのエリート白人を頂点とした、ピラミッド社会を形成しようと企んでいるのです…!!

ピラミッドの頂点である、ほんの一部の人間が全ての権力を独占し…、

上の3つで約1,000万人くらい、下の人民部が5億人程度…、

全体で5億1,000万人程度の社会にしようとしているのです…!!

『△ピラミッド・システム』の上から順に…、

【貴族、財閥、官僚】 = 「WE RULE YOU(あなたたちを支配します)」

【教会、宗教】 = 「WE FOOL YOU(あなたたちを無知にします)」

【軍隊、警察】 = 「WE SHOOT AT YOU(あなたたちを狙います)」

【上流階級】 = 「WE EAT FOR YOU(あなたたちのために食ってあげてンのよ)」

【労働者階級】 = 「WE WORK FOR ALL,FEED ALL(すべての人のために働いて、すべての人を食わせます)」

『世界統一政府』では、アングロサクソン人が一番偉いのです...!!

日本人をはじめアジア人や有色人種はピラミッドの底辺、間違いなく労働者階級でしょう...!!

一般市民の私も労働者階級です、あなたはどこですか...!?

この労働者階級とは、いわゆる奴隷のことです...!!

しかも一般市民の体内にはマイクロチップを埋め込んで、コントロールすると云われています...!!

ヤツらに従えば奴隷が待っています、逆らえば死あるのみの恐ろしい世界が待っています...!!

この様に、私たちは自由を奪われ、上の階級の人間を支える為に働くだけの奴隷となって生きる事になるのでしょうか...!?

△NIMRODが計画する、この恐ろしい社会は、一般市民を奴隷化するシステム...!!

これは、共産主義社会そのものです...

そんなの嫌です...!!

『世界統一政府』『NWO新世界秩序』なんて、断固反対です...!!

もっと言うと....、

あと40年もしないうちに、日本国が無くなってしまいかも知れないのです...!?

日本消滅...!?

もともと共産主義国の中国が、日本を飲み込んでしまうという筋書きが有るということです...!!

出生率の低下に加えて、もし大戦が起きて日本人が多数死んでしまったら...!?

日本の人口はどんどん減少、そこで日本列島の西半分を中国の一部にする...!?

そこに中国人を移住させ、少数民族となった日本人を東半分に強制移住させ、「日本自治区」とする...!?

かつて繁栄を誇った日本、その国の末路がこんなことに...!?

あなたは、そうなっても構わないんですか...!?

新聞やTVじゃ何にも載ってないし、そんな話聞いたこと無いよ...!?

ブブーッ...!!!!!!!!!!!!!!

ハイ、あなたは無知・無関心でいるように深くマインドコントロールされています...!!

学校で習った偽りの歴史など、さっさと捨てて下さい...。

そしてあなたを縛りつけているあなた自身の既成観念を、とっとと捨てて一刻も早く覚醒して下さい...!!

△NIMRODのことは、私なりに様々な情報を確かめた結果、残念ながら事実としか言えないのです...!!

『世界統一政府』『NWO新世界秩序』も創ると、ヤツらが言ってる証拠も有るのです...!!

例えば、『世界統一政府』で使用する統一通貨のデザインが、既にもう決まっている位なのです...!!

今、世界中の一般の多くの人々がこの悪巧みに気付きつつありますが、先進国でまだ気付いてないのは平和ボケした日本人くらいなのです...!!

ですから、こうして私はあなたに伝えているのです...!!

あなたが囚われている常識を捨てない限り、いま世界の裏側で起こっている動きにいつまでも気付かないままとなる可能性があります...!!

それこそが、ヤツらの思う壺、恐ろしい罠なのです...!!

ヤツらの動きを封じるには、私たち一般市民が早くこの事実を知り、ヤツらの策略に引っかからないのが一番なのです...!!

何故なら....

△NIMRODの連中は目的達成の為なら、有りとあらゆる手段を講じて来るからです...!!

『△の準備は整っている』

---

あなたの体内に、マイクロチップを埋め込み...

あなたを四六時中監視し、奴隷化する...

共産主義社会そのものピラミッド・システム...



もう、『△の準備は整っている』...!?

世の中が、世界統一政府の社会になっても....

あなたは、それで本当に良いんですか...!?

私は断固反対します...!!

2012年、△NIMRODの連中は....

NWO新世界秩序を、強引に押し進めようとする筈です...!!

世界平和だとか環境を守るとか、耳障りの良い言葉で巧みに詠って....

あなたを唆そうとする筈ですよ...!?

ヤツらは、大ホラ吹くのが常套手段なんですよ...!!

「ゴイム(家畜)は馬鹿だから、黙って言うこと聞かざ」と...

絶対に笑われているんですよ、悔しくないんですか...!?

ユダヤ人イルミナティのディビッド・ロスチャイルドの世界政府設立発言

→<http://www.youtube.com/watch?v=5XBxYBOHss0>

ジャック・アタリ エルサレム世界政府首都

→<http://www.youtube.com/watch?v=XkIGFLH3ag0>

アタリ 「日本とドイツとロシアは消滅へ向かっている」

→<http://www.youtube.com/watch?v=7gA5q-AoObE&fea..>

アタリ 第三次世界大戦から世界政府へ 福島原発

→<http://www.youtube.com/watch?v=tMvfi3o8KC0&fea..>

## 『見えない△の計画』

---

かつての独裁者は、その姿が見えました…。

かつての戦争は、その行為が見えました…。

ところが、△NIMRODは…、

一般の人々には、その存在が判らないのです…!?



でも…、

間違いなく、この世の中はNWO新世界秩序へ向かっているのです…!!

あなたの気付かないうちに…、

『見えない△の計画』は、もう何年も前から進められていたのです…!!

そしてヤツらは、目的達成の為なら有りとあらゆる手段を講じて…、

今年こそ、世界統一政府を樹立させようとしています…!!



それは国境を飛び越え、全世界を独占しようとしています...!!

それは99%の人間を、ホロコーストに送り込むつもりとしています...!!

あなたには、△NIMRODが見えてきましたか...!?

ヤツらの動きを封じるには...

私たち一般市民が早くこの事実を知り、ヤツらの策略に引っかからないのが一番なのです...!!

TV新聞、マスゴミを信じてはいけません...!!

プライドや、囚われている常識を早く捨ててください...!!

そうしないと、あなたは...

世界で起きている不穏な動きに、いつまでも気付かないまま...

ヤツらの仕掛けた恐ろしい罠に、まんまと引っ掛かる可能性がありますよ...!?

マーク・トウェインを信じますか フリーメーソン戦略

→<http://www.youtube.com/watch?v=VkOSTcv3rTM>

世界の中央銀行は世界政府を構築する為に協力している

→<http://www.youtube.com/watch?v=5nUTe16OSgw>

アメリカ人から日本人へメッセージが届いています。

→<http://www.youtube.com/watch?v=Oyy1p2INPUE&fea..>

## 威風堂々[3] 『△NIMRODは本気で全世界を征服するのか!?!』

---

～△NIMRODは、ノアの子孫の一人でクシュの子供である～

「2012年、この世の終わり」という噂が、まことしやかに飛び交っているのだそうですが、その噂の理由は....、

マヤ文明で用いられていた長期暦が2012年12月21日で終了していることや、あるいはノストラダムス最後の予言というのが2012年なのだとか....。

はたまた、2012年に地球はフォトンベルトという銀河系内にある光ゾーンに突入すると危機が訪れるなどといった様々な説があるからです....。

とりわけ、最も人々に影響を与えそうなのが新約聖書で....、

ヨハネの黙示録を予言書として解釈すると「終末」、つまり「この世の終わり」とも読みとれるのだそうですが....、

あなたは、「2012年、この世の終わり」の噂を信じますか...?

実は、大災害や大戦争を引き起こして、人類を混乱の渦に巻き込ませて....、

「2012年、この世の終わり」計画を、何としても現実に実現させようとしているのが△NIMRODなのです...!!

もしも、見上げる天空にUFOが一杯に飛来して来たら、あなたはどうしますか...!?

もしも、見上げる天空に突如、キリストやマリアの姿が浮かんだらどう思いますか...!?

恐らく、あなたも「この世の終わり」が来たかと信じてしまうのではないのでしょうか...!?

この話は後日記述しますが、こんな芸当は△NIMRODの連中には容易いことなのです...。

忘れないで下さい、ヤツらは目的達成の為にはありとあらゆる手段を講じるのだということを...。

昨年ヤツらは、地震兵器とハッキングによって311東日本大震災を起こし、私たち日本人を脅しました...!!

今後も頻繁に、自然災害に見せ掛けた大災害を世界中に起こし...、

人々に恐怖と不安を植え付けるでしょう...!!

△NIMRODの連中が最もやりたいのは、人口削減です...!!

99%の人間を、ホロコーストに送り込むつもりとしています...!!

でもそれは、今に始まった事ではないのです...。

あなたの気付かないうちに、その行為が見えないうちに...、

本当は、もう何年も前から『NWO(New World Order)新世界秩序』というホロコースト計画が進められていました...!!

実はヤツらは既にこれまでも…、

麻薬の密売をしたり、水にフッ素を混ぜたり、遺伝子操作食品を造ったり、ケムトレイルで大気操作をしたり、エイズウィルスを蔓延させたり、断種ワクチンを造ったり、豚インフルエンザを造ったり…、

ヤツらは全世界で悪魔のように、罪のない人々を貶めるべく恐ろしい犯罪を次から次へとしてきたのです…!!

こんな酷い国際犯罪を起こされているのに、あなたは無関心でいられますか…!?

私は、もう黙ってられません…!!

今年、ヤツらは本気で中東やアジアで争乱を起こし、世界中を巻き込む第三次世界大戦に発展させたいと思っているんです…!!

核戦争でも起きて、「この世の終わり」にしようと思論んでいるのです…!!

そして最終的に世界の人口を5億人程度まで減らし、世界を征服し…、

本気で、『世界統一政府』を樹立させたいのです…!!

さて、△NIMRODとは一体何者なののでしょうか…!?

それは、果たして国でしょうか、組織でしょうか…!?

かつての独裁者は、その姿が見えましたし、かつての戦争は、その行為が見えましたけれど...、  
ところが、一般の人々には△NIMRODの存在が判らないのです...!?

この世の中は裏と表があります...

国だとか政府だとか、表側は誰にでも見えますが...

実は、国や政府を影で操ってコントロールしようとする裏側の存在が有るのです...

国境を飛び越え、この地球を征服しつつある者とは...!?

それは...

正確には、欧州の王族、元貴族、財閥といった金融マフィアらの面々が中心ということになります...

その筆頭はヨーロッパのロスチャイルド一族や、アメリカのロックフェラー一族でしょう...

それに加えて、大企業のエリートなど財界人らや、手下となっている人間もいます...

これらの面々を、陰謀研究家は「イルミナティ」(秘密結社)と呼んだり、「300人委員会」というのが有るらしいとか囁かれています。組織が実体として有るのかどうかさえもよく判らないのです...

ヤツらのボスクラスの連中は時折、「ビルダーバーグ会議」という場所で話し合っていると云われています...

ユダヤ系白人が占める割合が多いと云われていますが、必ずしもユダヤ人=陰謀者という訳ではありません…。

しかし「シオニスト」と呼ばれる、イスラエル建国に尽力する人々が中心なのは明らかでしょう…。

ヤツらの結束は固く、エルサレムを首都とする『世界統一政府』を本気で樹立させようと企んでいるのです…!!

私はこの小説で、ヤツらのことを△NIMRODと呼んでいます…。

ヤツらは何千年も前から、エルサレムを首都とする『世界統一政府』樹立を悲願としてきたのです…。

何故、どうしてそこまでヤツらは非人間に、貪欲になれるのか…!?

実は、そこには深い謎が隠されているのですが、これもいずれ記述したいと思います…。

△NIMRODの連中は、各国の政府を影で操って…、

もう何年も前から、この世界を『NWO新世界秩序』へ向かわせてきました…!!

また、全世界の中央銀行は、この計画を構築する為の手先なのです…!!

ドルもユーロも暴落が加速するでしょう、やがて世界恐慌が吹き荒れます…!!

赤字をチャラにする為にアメリカ合衆国もEUも終焉させます、計画倒産ってヤツですね…!!

ヤツらは、ヤツらがこしらえた市場で散々儲けた挙げ句…、

その取引市場をブツ壊して、全く新しい通貨を発行させたいのです...!?

もう、新しい通貨のデザインが決められています...!?

否応なしに、『世界統一政府』の準備は着々と進められ、もう整っているのです...!!

## 威風堂々[4]『日本で△NIMRODが口を開いた!?!』

---

～△NIMRODは、勇敢な狩人であり地上で最初の勇士となった人物とされる～

△NIMRODの連中が樹立させようと企てる、『世界統一政府』...!!

『世界統一政府』のスポークスマン、元仏大統領の側近だったジャック・アタリ氏が...

日本人に向けて語った記事があります...

あなたはこれを読んで、『世界統一政府』を樹立させようとしている気違い連中のヤツらの意図をどう捉えますか...!?

そして同時に、全世界を揺るがすこの不穏な動きに対して全くといっていいほど無関心な多くの日本人に対して、あなたはどう感じますか...!?

【ビルダーバーグ会議のメンバー、ジャック・アタリが世界政府のことを語りだした】

「TPP協定は、世界統一政府樹立への第一ステップであって、その先には過酷な奴隷社会が待ち受けており、人口削減の対象となる」。

こう書くと、「TPP協定など、アメリカ議会の中のグローバル主義者たちが、アメリカの国益のためにやっているに過ぎない 世界政府など考えすぎだ」と反論する人も多いのです。

残念ながら、先進国の中でそのように考えているのは日本人だけでしょう。

感性の鈍さでは、もう絶望的と言っていい多くのジャーナリストたち、大学教員、研究者たちでさえ、TPPの本質と、その先にある闇が理解できないのです。

これは、驚くべきことです。



現政権の国会議員などは問題外の外です。  
無知蒙昧とは、彼らのためにある言葉です。

官僚、政治家、マスコミは、自力では抜け出せないほど深い洗脳にかかってしまって、“とりあえずTPP推進派”です。

マスコミや学者、官僚、団体... こうした人々が、TPPは農業問題だとか、非関税障壁の問題(確かにそうだが、それは一面に過ぎない)だとか、局所的に重箱の隅をつつくようなものを見方しかできないため、世論は、そこに引き付けられていき、国民の議論は、トンチンカンな方向を向いてしまうのです。

TPPの先にある世界政府が、私たちに強制的に押し付ける奴隷社会の住人になりたくなければ、独自に海外から情報を集め、それを分析し、思考し、備えて準備する以外にないのですが、まったくそれさえやろうとしていません。

これは歴史上、なかったほど過酷な奴隷制度で、「そんなことないさ、多少の自由はあるだろ」程度のものではありません。

こういう国民は、とても珍しいです。それは「自殺する国民」です。  
要するに、「見えないのです」。

そこで、ここではジャック・アタリを取り上げます。

ジャック・アタリが、私たちが住む地球の行く末を決めるビルダーバーグ会議のメンバーであり、同時にロスチャイルド系の大物スポークスマンであることは、よく知られています。

数年前から、ビル・ゲイツも、ビルダーバーグのメンバーに入れられたようで、年一回の会議には参加しています。

これは、ビル・ゲイツが進めているワクチンによる人口削減と深い関係があります。

さて、ジャック・アタリですが、この、まるでオカルティストのように予言めいたことばかり話すユダヤ系フランス人は、経済学国家博士にして、初代欧州復興開発銀行総裁。

最近、ジャック・アタリは日本への関心を深めているようです。

彼が日本の未来について語るが多くなってきたからです。

次は、NHKのドラマ『ハゲタカ』の最後にあった、ジャック・アタリ氏へのインタビュー内容です。

2009年の春にインタビューされたもの。

シオニストで、かつ世界統一政府を確立し、日本も含めて世界奴隷構造を構築しつつあるグループの広報マンであるジャック・アタリを、わざわざ日本の公共放送が、これほど大きく取り上げること自体、異常なことなのですが、どうもNHKの中にもグローバル主義者が入り込んでしまっているようです。

#### 【ジャック・アタリ氏のNHKインタビュー】

##### ①第一の波 「アメリカ支配の崩壊」

アメリカは、自国の赤字解消やインフラ整備のため、世界から撤退。  
アメリカにとってかわれば、悲劇が起こる。

##### ②第二の波 「多極型秩序」

G20が良い例で、20カ国がそれぞれ統治する。  
また、「国家はグローバルな市場よりも弱い」。  
各国間の国際協調はグローバルに勝てない。  
自国の国益を守るのに精一杯。

##### ③第三の波 「超帝国」

グローバル市場が帝国になり、全てが民営化。  
その中で、二つの力が強大になる。

一つ目は、「エンターテイメント」国民を大事な物事から目をそらさせるため。  
二つ目は、「保険の世界」リスクから身を守るため。

インターネットが人を監視する技術革新が行われる。  
政府からインターネットを通じて、厳しく監視される社会になる。  
監視の対象は、あくまでも「物」であり、「個人」の自由を損ねるものであってはいけない。

#### ④第四の波 「超紛争」

気候やエネルギーの変化が起こり、様々な地域で紛争がおきる。

(世界の人々は戦争を体験することになる可能性が高い)

誰もコントロールができない。

市場は無秩序化される。

紛争において、ノマド(遊牧民族=定住しない人々)の移動する人が増える。

ノマドは三種類に分けられる。

A) 超ノマド(世界中どこでも行ける人、全世界で1千万程度)

B) 下層ノマド(非常に貧しい人達全世界で30億人)

C) パーチャルノマド(定住者だが、TVやインターネットで仮想バーチャルを楽しんでいる人達)

全人類において貧困層の拡大がおこる。

市場メカニズムによる方法は失敗する。

痛みで国が混乱。

#### ⑤第五の波 「超民主主義」2060年頃～

別の統治方法が考えられる。

それは、「利他主義」=人は他人を援助することによって幸せになれること。

トランスヒューマンが重要な役割を担い、新しいエリートとなる。

これは現実に始まっています。

グローバル市場が帝国になり、すべてが民営化される。

「国家はグローバルな市場よりも弱い」。

各国間の国際協調はグローバルに勝てない。

インターネットが人を監視する技術革新が行われる。

政府からインターネットを通じて、厳しく監視される社会になる。

市場メカニズムによる方法は失敗する。

痛みで国が混乱。

「TPPなどの国際間協定によって、市場主義は拡大し、すべてが民営化され帝国になる。

誰もグローバル化には勝つことができない。

しかし、最終的には、市場メカニズムも崩壊し、その後に利他主義による世界が訪れる」。

【2011年1月18日、中央大学で行われたジャック・アタリ氏の講演会】

今から先、5つの段階というものがある。

まず、アメリカが凋落をする。

アメリカが消えてしまうというシナリオは、誰にとっても良くない。

しかし、想像以上にアメリカは膨大な債務を抱えており、先行き、立ち行かなくなる。

今後15年は、アメリカが、すべての力を再び取り戻すことはありえない。

そういったシナリオはない。

アメリカにおける困難は、あまりにも大きすぎる。

よくアメリカの失業率は9%といわれていますが、実際は17%もある。

4,500万人のアメリカ人が、フードスタンプをもらいながら、やっとというところで生きている。

それでも、アメリカにはイマジネーションがあり、多くの才能はアメリカに引き付けられたまま  
でいるかもしれないが、相対的には凋落する。

ただし、これは、あくまで「相対的な」凋落であって、絶対的な凋落(つまりゼロになる)ではない  
。

さて、ヨーロッパのほう。

ヨーロッパは見たところ、ものすぐ衰退しているように見える。

でもヨーロッパには、いくつかの強みがある。

まず団結するようになっている。

そして、なんとしてでも連邦としての力を持つようとしている。

さまざまな危機が分岐点となっているが、そのたびに良い道を選んでいる。

ヨーロッパ債、ヨーロッパとしての財務省を持つようになってきて、ヨーロッパとしての連邦中央政府を持つようになる。

それによって、世界において力を持つようになる。

EUの全加盟国のうち9ヶ国が歴史的に、すでに超大国としての経験がある。

スウェーデン、ドイツ、オランダ、イギリス、フランス、イタリア...

それが集っているのだから、大きな力を持つ。

EUは強大な力を持ってはいるが、そこが中心地にはなりえないと思っている。

ヨーロッパは強大で広いが、それでも世界の中心地にはならない。

次は日本であります。

まず、日本に大きな影響を与えるアメリカ、ヨーロッパはどうだろうか。

アメリカは相対的な衰退を経験するであろう。

ヨーロッパは建て直しを図っていくだろう。

ところが日本は少子高齢化と公的債務が大きいということから、今の経済危機から脱することが難しい状況にあります。

バイオ・テクノロジー、ナノ・テクノロジー、インフォメーション・テクノロジー、ニューロ・サイエンス、そういった教育、医療の面のテクノロジー開発を進めていく上での潜在能力を日本は持っている。

これが日本の強さである。

中国はどうだろう。

中国の場合は大国になっていくだろうが、アメリカに取って代わることは、むこう50年はないと思っている。

アメリカの場合は、サンフランシスコ、ロスアンゼルス、ニューヨーク、ボストン…複数のセンターを持っているが、中国が、それに匹敵するような複数のセンターを持った経済大国になるかどうか。

中国のGDPが今のペースで延びていけば、50年後には8倍になる。  
それでも、一人当たりの国民所得で見れば、日本の三分の一に過ぎない。  
またまだレベルは低い。

全体的には、アメリカが衰退の一途を辿るように、これまでの先進国が凋落する反面、中国、インドはもちろん、ブラジル、韓国、トルコ、ロシアも伸びてくるでしょう。  
日本も衰退から脱出することができるだろう。

そういうことで多極化する世界が生まれてくる。  
これからは、特定の“主人”がない世界が生まれてくる。

それは、カオスの始まり。

アメリカが今、世界の盟主だとすれば、アメリカの衰退とともに、もうそういう時代は終り、世界の主人のいない時代になる。

で、もう一つの世界の未来を予測する図式—今から30年後の世界を考えると、いかなる国家も中心的な役割を演じないとするならば、世界の市場というものが世界の骨格を形成することになる。  
それは国境が完全になくなるということ。

いわゆる国境を超えた経済のグローバル化。  
経済のほうは、そうした流れになるが、政治の方は、というと国境を超えたワールドワイドの一つのガバナンスが成立するかどうか、というところに鍵がある。

千年前から世界の中心は動いてきた。

フランシス・フクヤマは「世界の終り」という本を書いたが、これは歴史が終ってしまうということではなく、冷戦が終った後は、イデオロギー的な矛盾がなくなって、自由民主主義が市場のグローバル化にともなって、世界的な画一化が生じるということ。

しかし、市場はグローバル化できるが、民主主義をグローバル化することは大変、困難だ。民主主義は、それぞれの国においてのもので国境がある。

市場は国境を超えたが、デモクラシーは国境を超えることができない、というところに大きな問題がある。

今は、市場のグローバル化が、世界国家の存在なしに進んでいる。

「国家なき市場」が世界中で生まれつつある。

市場経済はあるが国家がない、というケースは歴史上なかった。

ところが、ソマリアの例に見るように、麻薬、犯罪が蔓延して、市場はあるが無法地帯になってしまっている無政府国家、もう国家とはいえないような状態になっている国が増えてきている。

経済のグローバル化によって、政治的に見たら無法地帯が世界的にどんどん生まれている。この状態を「政治のソマリア化」と呼んでいる。

(市場のグローバル化が先に進んでしまったために)いろいろな混乱が起こっている。それを防がなければならない。

これから迎える三つ目の段階というのは、ケイオス(カオス=無秩序の状態)です。

2008年に、アメリカ発の金融危機が世界を被ったが、アメリカの政府でさえ、金融危機を收拾できていない。

世界レベルで、政治が経済に追いついていないという状態が起こっている。

悪魔は神によって世界に放たれたのだ。

さて、四つ目の段階。

今、市場経済の無秩序化によってケイオスが起こって、二億人が貧困の閾値以下で生きている。経済は伸張しているにも関わらず、格差はますます大きな問題になっている。そして環境も破壊されている。

世界をどう立て直すかというビジョンがない。

このまま行くと、最悪のシナリオは世界戦争ということになる。

これは局地的な戦争という意味。

アフリカ、アジアで、そうした戦争が起こる危険性がある。

人間には善と悪がある。

国としては、しっかりした知性を持って、悪をなるべく少なくして善を多くしようとしている。

これに失敗して、悪の方に落ちていったら、もう上がってこれなくなる。

四つ目の段階というのは、あまりにも大変な戦争になってしまう。

ところが、今、利他主義という新しいイデオロギーが生まれつつある。

地球村に住む地球市民であることを考えれば、人にとって良いことを行えば、自分にも良いことが起こる、という考え方になる。

文化が発達することによって、世界のグローバル化とともに、世界のガバナンスが求められ、利他主義というイデオロギーが必要とされ、人の利益が求められ、それを無償で行うということになっていく。

そこで第5の段階ということになる。



12世紀に立ち戻って見てください。

ブルージュでは商人たちが、なんとか市場経済をやろうとしていた。  
そのかたわらで、フランス、イギリス、神聖ローマ帝国が台頭してきた。  
そしてカトリック教会が、どんどん力をつけてきた。

そんな中において、小さなブルージュの商人たちが力を持ったのです。  
彼らは封建主義の隙間をついていた。

だから、ブルージュで起こったことを再び、ということで今、技術を使って、なんとか問題に対処していこうというのが第5の段階。

歴史を見てみるとバカなこと(戦争)をした後で人々は進歩する。

では、一人ひとり、これからどうしていったらいいのか。  
そうなるとユダヤの歴史を思い起こす。

(2011/11/27 『カレイドスコープ』 より)

## 威風堂々[5]『私たち奴隷が△NIMRODに監視される社会となるのか!?!』

---

～△NIMRODの王国があった町は、バベルの塔で世界的に有名なバベルである～

△NIMRODが何千年も悲願としてきた『世界統一政府』...!!

その広報官、ジャック・アタリ氏が語ったやや難解な記事からヤツらの構想が伺い知る事が出来ました...

- ①アメリカは凋落する、EUも日本も衰退する、中国は大国になるが世界の中心とはならない。
- ②世界で紛争が起こる、誰にもコントロール出来ない。
- ③国は混乱、人々が移動し、貧困が拡大し、これまでの世界が壊れる。
- ④新しい時代、これからは国の文化を破壊しながら、国境を越えた経済のグローバル化を強引に進める。
- ⑤国や政府ではなく、民間のグループ企業がそれを押し進める。
- ⑥グローバル化をすればするほど、無秩序化して困るから、自然に世界統一基準の必要性を求めようになる。
- ⑦基準づくりの過程で揉めれば、戦争になることもあるがそれも反省となるから良い。
- ⑧新・統治方法「利他主義」＝人は他人を援助することによって幸せになれる。(奴隷制度!?)
- ⑨世界政府の首都はエレサレムでなければならない。(来日したジャック・アタリ氏は世界の中心がどこかはハッキリとは言わなかったが)

ジャック・アタリ氏の発言に、こんな意見も…。

「ジャック・アタリの世界は、googleが情報通信省になり、ロックフェラーが資金提供しているグリーンピースが環境省になり、ウェスティングハウスを買収した東芝が原子力エネルギー省になり、モンサント社が農水省になるのです。

そして、警察は、映画ロボコップのオムニ社のような民間企業が治安を守ることになるのです。それは現実的には、おそらくアメリカのFEMAであり、日本の自衛隊も、そこに組み込まれるかもしれません。

フジテレビのフジサンケイ・グループは世界統一政府のNHKになるかもしれないのです。

経団連加盟企業は、日本の国益など、とっくに超えてしまってグローバル市場を求める獐猛なハゲタカになろうとしているのです。

経団連にとって、TPP推進以外の選択肢は、最初から用意されていないのです。」

(2011/11/27『カレイドスコープ』より)

それから、やはりと思ったのが…、

「インターネットが人を監視する技術革新が行われる。  
政府からインターネットを通じて、厳しく監視される社会になる。」

という発言です…。

『世界統一政府』の世界では、私たち奴隷の生活は△NIMRODのヤツらに四六時中監視されることになるのでしょうか…!?

これについては、日本より一歩先に『NWO(New World Order)新世界秩序』というホロコーストを進めているアメリカに既に導入されていました...!!

それは、こんな記事です...。

【米国の支配層が危険視しているのは一般市民、特に平和を望む人びとであり、アル・カイダとは協力関係にあることを直視する必要がある】

米国ノースダコタ州で6月23日にあった出来事。

牛の行方不明事件を調べていた保安官をライフルで追い払おうとした市民を逮捕するため、空軍の無人機、プレデターBが投入されたのである。

プレデターの利用はこれだけでなく、地元警察は監視のため、6月から二十数回飛ばしていた。

23日の出来事は一例にすぎないのだ。

第2次世界大戦後、アメリカの支配層は国民を監視しなければならないという強迫観念に取り憑かれたようで、FBIやCIAは市民を監視するプロジェクトを推進している。

1950年代にFBIが始めたCOINTELPRO、1967年にCIAが始めたMHケイアスは悪名高い。

いずれもターゲットは反戦／平和を訴える個人や団体だった。

2001年9月11日以降、国民監視のシステムは急速に強化され、国防総省のDARPA(国防高等研究計画局)も個人の学歴、銀行口座の内容、ATMの利用記録、投薬記録、運転免許証のデータ、航空券の購入記録、住宅ローンの支払い内容、電子メールに関する記録、インターネットでアクセスしたサイトに関する記録、クレジットカードのデータなどあらゆるデータの収集と分析するプロジェクトを開始、プロジェクトが発覚すると、目眩ましのために次々と新しい名称のプロジェクトに切り替えている。

国防総省が行っているCIFAというデータ収集活動では、TALONというデータベースに情報を記録、このデータを分析することで「将来の脅威」を予測しようとしている。

こうした環境の中、「監視ビジネス」も急成長している。

街中での監視カメラ、空港での監視システムは目につくが、ある会社はスーパー・コンピュータを使って膨大な量の情報を分析、「潜在的テロリスト」を見つけ出そうとしている。

つまり、どのような傾向の本や読み、音楽を聞き、絵画を見るのか、どのようなドラマを好む

のか、あるいは交友関係はどうなっているのかなどを調べ、分析して国民ひとりひとりの思想、性格、趣味などを推測、体制に批判的な傾向のある人物を捜し出そうというわけだ。

その一方、アメリカの支配層は軍事独裁者を支援、アル・カイダを含む武装集団を作り出し、こうした武装集団を敵視する体制を破壊してきた。

ベトナム戦争では黄金の三角地帯でヘロインを生産、アフガン戦争ではパキスタンやアフガニスタンの山岳地帯でやはりヘロインを生産、中央アメリカでの反革命工作ではコカインというように、麻薬取引にも手を出している。

ヘロインの密輸を仲介することで資金を調達していたのがコソボの反セルビア軍。

欧米から支援を受けていた勢力だ。

旧ユーゴスラビアの内戦では、アル・カイダも反セルビアの立場で戦闘に参加したと言われている。

考えてみれば、アル・カイダはソ連と戦わせるためにアメリカの軍や情報機関が作り出した武装集団に含まれていた。

(2011/12/14『櫻井ジャーナル』より)

この最新のアメリカでの状況を知って、私は驚きました…。

市民を逮捕するのに、空軍の無人機プレデターが導入されたとは…!?

そして、「体制に逆らう者は=全てテロリスト」という身の毛もよだつ無差別な取り締まり…。

今のアメリカは、狂っています…!!

現在のアメリカ合衆国をみれば、未来の『世界統一政府』の姿を知ることが出来るのです…!!

どうやら、上流階級の為に働くだけのゴイム(家畜)として生きるだけの私たち一般市民にとって『

世界統一政府』の社会では…、

まるでナチスと対して変わらないような、恐ろしい監視社会が待ち受けている様です…!!

スーパー・コンピュータとインターネットを使えば、市民1人1人の動きを把握できるというのでしょうか…!?

アメリカの現在の状況を見ると、次は私たちの日本が同じ道を辿ることになるのではないかと危惧を抱かずに居られません…!!

あなたはどう思いますか、日本もこんな社会になったらどうしますか…!?

ジャック・アタリ氏によれば、間もなくアメリカ合衆国という国は無くなります…!!

その時、全米に厳戒態勢が敷かれます…。

不振な動きを見せる市民には、容赦なく警察や米軍が強制逮捕すると考えられています…。

その来るべき日のために、全米に800ヶ所と云われるFEMAキャンプ(強制収容所)が密かに建てられ、800万人の一般市民をそこへ連行出来る準備が整っているのです…!!

ある番組でアレックス・ジョーンズ氏がこのFEMAキャンプに潜入を計ったところ…、

そこで目にしたのは、おびただしい数の樹脂製の黒い棺桶でした…!!

途方もない量の棺桶が山積みになっている様子を観て、私は鳥肌が立ちました…!!

あなたはどう思いますか、日本もこんな社会になったらどうしますか…!?

## 『ホロコーストを作る国△アメリカ』

---

自由の国アメリカは、とっくの昔に終焉しています...!!

『ホロコーストを作る国△アメリカ』をみれば....

そこに、悪夢のような未来を伺い知ることが出来ます...!!

これは、決して人ごとではないのです...!!

世界の人口を削減しようとしている△NIMRODは....

『世界統一政府』樹立に向けて....

アメリカを使って、もう何年も前からホロコースト計画を進めてきました...!!

次は、私たち日本の番なのではないでしょうか...!?

アメリカの製薬メーカーや医者を巻き込んで、密かに造った....

不妊や癌や抹殺を狙った悪魔のワクチン...!!

まるでそれは、人々をゆっくり殺していくホロコースト...!!

あなたは、そのワクチンを打つ気になれますか...!?

オバマは、警察に軍のような権限を与える法律にサインをしました…。

アメリカでは「体制に逆らう者は=全てテロリスト」として、即逮捕出来るのです…!!

一般市民の動きは、四六時中監視され…、

無差別な取り締まりが何時でも可能なのです…!!

あなたは、もし無実の罪で捕らえられたらどうしますか…!?

突如、アメリカ合衆国に恐ろしい伝染病が蔓延し人々をパニックに陥れる日…!!

その時、全米に厳戒令が敷かれます…!!

バタバタと死んでいく大勢の人々が発生する一方で、体制に逆らう市民は…、

何百万人と、容赦なく次々と警察が強制逮捕していく…!!

その来るべき日のために、全米に800ヶ所と云われるFEMAキャンプ(強制収容所)が既に密かに建てたらしいのです…!!

身の毛もよだつ様な、そのホロコースト計画の準備はもう整っているのです…!!

FEMAキャンプ内には、おびただしい数の黒い棺桶が所狭しと山積みになっていた…!!

あなたはこれを観てどう思いますか、日本もこんな社会になったらどうしますか…!?

次の3本は、アメリカでは放送禁止になっている画像です…。



女性兵士の警鐘(ワクチン)

→[http://www.youtube.com/watch?v=xGU\\_c4Wmhyw](http://www.youtube.com/watch?v=xGU_c4Wmhyw)

WHOは世界人口の90%が余剰人口と決めている(Bilderberg Group's)

→<http://www.youtube.com/watch?v=fcKIXF7-IGE>

アメリカ市民奴隷化政策 警察国家の陰謀 強制収容所 FEMAキャンプ 3/3 公開

→[http://www.youtube.com/watch?feature=player\\_embedd..](http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedd..)

## 威風堂々[6]『△NIMRODに乗っ取られたアメリカ!?』

---

～ユダヤ人の伝説では、バベルの塔を建設した畏れを知らぬ王が△NIMRODである～

自由の国アメリカは、とっくの昔に終焉しています...!!

今やアメリカは、人口削減のホロコーストを作る国に変貌しています...!!

そこに、△NIMRODによって進められている悪夢のような『NWO(New World Order)新世界秩序』という作戦を伺い知ることが出来ます...!!

これは、決して人ごとではないのです...!!

オバマ大統領は昨年、警察にプレデターと呼ばれる無人偵察機を使用出来るなど、軍のような大きな権限を与える法律にサインをしたそうです...

世界中で注目された2001年ニューヨーク同時多発テロ事件以来、アメリカは...

「テロとの戦い」という口実で、一般市民の動きを厳しく監視したり、警察による強引な取り締まりが横行するようになったらしいのです...

その結果、「不審な人物」というだけで「体制に逆らう者は=全てテロリスト」として、市民を即逮捕しているのです...!!

あなたがもし、何もしてないのに不審者として警察に捕らえられたらどうしますか...!?

例えば、集団が街角で自由や個人の権利を求めてデモ行進をしたとしても、アッという間に抑え付けられかねないのです...!!

もう、アメリカという国はナチスみたいな国になってしまったのです...!!

【日本は掠奪国家アメリカを棄てよ】

かつてのアメリカは、今と違って夢や希望があふれる国だったのだろうか。

これに対する私の答えは、若い時分なら「イエス」だった。

私が子供のころのアメリカは、今よりは輝いていた。

そして個々の家庭レベルでは、今よりずっとのんびりしていた。

しかし長じるにつれて、アメリカという国は、実はそもそも建国以来、ろくなものではないことに気付かされた。

もっと正確に言えば、発見以来、かの国は悪魔に取り憑かれてしまっているのだ。

(ビル・トッテン・著『グローバリゼーションも共同幻想も必要ない』ビジネス社2007年刊より)

誰かが呟きました....、

自由の国アメリカは、JFケネディ大統領が凶弾に倒れた瞬間に終わっていたのだと....。

その理由は、米国民は誰でもよく解っています....。

とうの昔に米政府は、ロックフェラー財閥を中心とする金融マフィアに操られていました....。

つまりアメリカは国民の手を放れ、悪魔のような△NIMRODの連中の手に落ちていたからです...!!

例えば米政府の閣僚は△NIMRODの手下である白人エリート連中が派遣され、誰が大統領になっ

ても圧力を掛けられるのです…。

例えば、オバマ大統領の側近は、大統領補佐官エマニュエルをはじめ、ほとんどがウォール街から送り込まれたユダヤ人で固められていると云われています…。

大統領がどんなに国民の為に藻掻いても、結局ヤツらの都合の良い方へコントロールされてしまうのです…。

特にCIA組織という巨大権力を持った機関があります…。

本来、CIAは大統領直属の機関とされていますが、実際にはウォール街の金融マフィアの手足となって影で暗躍し…、

その資金源は、麻薬の密売だと噂されています…。

中には、勇気がある大統領がその構造を変えようと頑張ったことがありますが…、

ロックフェラー財閥を中心とする金融マフィアの手から、アメリカ国民に主権を戻そうとしたJFケネディ大統領は暗殺されたのです…!!

世界最強を誇る米軍の軍事力を筆頭に、金融、エネルギー、食糧、医療、マスゴミに至るまでアメリカのあらゆる分野はヤツらが支配していききました…!!

こうして△NIMRODの連中は、まんまとアメリカを乗っ取ったのです…!!

そして最近アメリカにおける、気になる情報が…、

それは突如、アメリカ合衆国に恐ろしい伝染病が蔓延し人々をパニックに陥れる日が来るというのです…!!

その時に、全米に厳戒令態勢が敷かれるのだそうです...!!

恐ろしい伝染病が国民に感染し、大勢の人々バタバタと死んでいく一方で、体制に逆らう市民は....

容赦なく次々と警察が強制逮捕していくというシナリオがあるのだとか...!?

その来るべき日のために、全米にはFEMAキャンプと呼ばれる強制収容所が秘密裏に建てられ、その数何と800ヶ所と云われるです...!!

約800万人というアメリカ人が、強制収容所にブチこまれ死ぬまで出て来れない....

そんな身の毛もよだつ様な、ホロコーストも準備されているのだとか...!?

△NIMRODの連中は、コロンブスがアメリカ大陸を発見した瞬間から、恐らくここを拠点にして世界征服を進めようと考えたのに違いありません....。

強国アメリカを利用して世界を変えようとしてきたのではないのでしょうか...!?

アメリカの開拓者たちにより、先住民を皆殺しにして北米大陸を横取りしたのを皮切りに、南米を侵略、オーストラリアを侵略、ハワイ島を侵略....。

途中、アジア諸国を植民地化し....、

そしていよいよ、2001年ニューヨーク同時多発テロ事件をきっかけにして、中東に足を踏み入れていった訳です....。

アメリカは、何故戦争をするのか...!?

それは、何千年も前からの悲願だった『世界統一政府』樹立の為だったからなのです...!!

それこそが、△NIMRODの真の目的に他ならないのです...!!

△NIMRODは、強い選民意識を持っています...!!

自分たちこそが、この地球で最も優れた民族であるという信念があるのです...

我々1%以外は、全てゴイム(家畜)であると捉えています...!!

彼らは何故そんなに横暴なのでしょう、アングロサクソン人(とりわけイングランド人の血が濃い者)、あるいはユダヤ系白人は皆そんな種族なのでしょう...!?

そんなヤツらにとって、現在の世界70億人の人口は多過ぎるらしいのです...!!

ですから、ヤツらは「食糧が足りない」「エネルギーが足りない」「CO2で環境が破壊される」といったパンデミックを流したがるのです...

では、本当に食糧もエネルギーも足りないのでしょうか...!?

CO2で環境が破壊されるのでしょうか...!?

この辺りは、また後日記載します...

とにかく、ヤツらは「人口を削減したい」という気違い連中であることだけは間違いないのです...!!

その目的のために、もう何年も前からアメリカや国連、さらにWHOを使ってホロコースト計画を

世界中に進めてきました...!!

人口削減のホロコースト、それは...、

水、大気、食糧、医療もそうです...!!

例えば、アメリカの製薬メーカーや医者巻き込んで、密かに造った...、

不妊や癌や抹殺を狙った悪魔のワクチン...!!

まるでそれは、人々をゆっくり殺していくホロコーストなのです...!!

その内容を知れば...、

あなたやあなたのご家族は、ワクチンを打つ気が絶対にしなくなる筈です...!!

## 威風堂々[7]『あなたとあなたの子供を白血病や癌や不妊にするワクチンは△NIMRODのホロコースト!?!』

---

～△NIMROD王が建てたバベルの塔は、「創世記」に所収の有名な故事である～

### 【NWO製薬業界ワクチンの恐怖】

アンドリュー・ウェイクフィールド博士が来る前に聞いてもらいたいものがあります。  
あまり知られていないインタビューです。

数十年前ですが、モーリス・ハイルマン博士のものでした。  
彼はワクチン科学者のトップでした。

西洋薬学のワクチン史の中でも、彼は実際、最先端の科学者です。  
そして、この録音は数年前のものでしたが、彼はオープンに認めているのです。

それらのワクチン、当時はポリオワクチンでしたが、40種類の知られていないウィルスに、広く汚染されていたことを。

他にも白血病。  
彼はこのインタビューの中で、彼らはこれらのワクチンが、どのように人々を癌にするかと話しています。

私はあなた方に、このインタビューを聞いてもらいたいのです。

おそらくこれが、インターネットで公表され、数百万人の人々が、これを聞くことになるとは彼は思わなかったでしょう。

彼の言葉を聞いてください。  
よく聞いてください。  
音声がよくありませんので、注意深く聞いて下さい。

そして、それらのワクチンがどんなに致命的か話していたとき、その部屋にいる他の人々が笑っ



ていたのかを聞いてください。

彼らは笑っているんです。

そこにいた人々が、どんなに邪悪であるかを聞いてください。

『重要なのは、ウィルスを取り除くことです。』

『なんで摘出して言うんだい?それがウィルスなら。

それが汚染されたワクチンなら』

『なぜなら、それらのワクチンの中にはどちらにしろ40種類のウィルスがいるからですよ。

非活性ではないウィルスです。』

『活性ウィルスが入っていると?』

『その通りです。

黄熱病のワクチンには白血病のウィルスが入っています。

これは最先端の天然科学のものです。

とにかく、関わったときにそれについて話に行きました。

「何について心配しているのですか?」と聞かれ、「直感でわかるんです。

このウィルスは他のワクチンとは違うんです。何故かは言えませんが。

直感でわかるんです。このウィルスは長期にわたる作用があります。」

と言いました。

そうすると、彼が「何?」って。

癌ですよ。』

『最高だね』(笑い声)

聞きましたか?

「このワクチンのウィルスには長期の作用があると思う」

そして、彼らが「何?」「何の長期の作用?」って聞いて、彼が「癌だよ」って言うと、彼らは聞いたこともない最高に面白いことがあったみたいに笑って盛り上がってましたね。

そして、このインタビューの後で、彼らはまた、このワクチンがロシアでどのように実験されたかや、こうして米国オリンピックチームが勝つだとか、なぜならロシアの選手は全員、癌の腫瘍

に打ちのめされ倒れるからだ、とかを話していました。

このように、もしあなたが歴史に戻り、ワクチンがどこから来たのかを知れば、どんなにこの業界が邪悪かわかります。

これらの人々が邪悪でおぞましく信じられません。

さて、これがこれらの問題のいくつかのコメントです。

さらに、スタジオにヒーローの一人が加わります。

大まかには、ワクチン真実運動と呼ぶかもしれませんが、彼自身を真実運動の一人だと思っているのかわかりませんが、彼は科学者です。

ワクチン効果の調査領域において、最も認識された科学者の一人です。

アンドリュー・ウェイクフィールド博士です。

来てくださってありがとうございます。

「光栄です、ありがとう。」

あなたにインタビューしてから数ヶ月になりますね。

様々なことがありましたね。資料を持ってきていただきましたね。

最近の発見でああなたのコメントですが、できる限りでいいのですが、HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)はあなたの専門ではありませんが、あなたはたくさんのワクチンを調査されています。同じワクチンのコメントで、ガーダシルが遺伝子組換えDNAで汚染されていると発見されてましたね。

(日本でも米メルク社の「ガーダシル」と英・グラクソ・スミスクライン社の「サーバリックス」使用されています)

「その通りです。

私はこのワクチンの専門家でないと言いましたが、私には若い娘がおりまして、両親として私が調査し、見てきたものであります。

セインバックス社が何をしたかという、私の理解では世界中のワクチンを調べたんです。

その13のワクチン、全てから遺伝子組換えDNAで100%汚染されているのを見つけたのです。

実際ワクチンを作るプロテインからです。

遺伝子組替DNAは、そこにあるわけないと製造工程で想定されているものです。

簡単にテストができますし、テストがされていなかったのは明らかです。

もしテストがされていたのなら、隠蔽されていません。

でも、今では、人々が遺伝子組替DNAを打たれている事を我々は発見しました。そしてそのDNAは、分析ではアルミニウムのアジュバンドと関係するのです。その点において、あなたには完全な嵐があるのです。あなたにはアジュバンドという免疫反応を上げ、免疫システムを活性化させ、DNAに関係するものがあるからです。」

炎症を起こすのですね。  
そして、そのようにデザインされてた。

「その通りです。炎症反応を引き起こします。そのために入れてあるのです。しかし、DNAの粒子にリンクすると、抗体を再生しようとする確立が出てきます。守るためではなく、抗体は直接DNAに対して働くのです。そうすると、いくつも自動的に個々に免疫炎症反応を引き起こします。」

この調査のきっかけになったのが、確か自己免疫疾患による若年性の間接リウマチで苦しむ少女でしたよね。  
撮取してから一日で、彼女や家族がセントバックスへ行ってこれを調べてくれませんか？何が起きているんですか？って言ってたんでしたよね。  
こうして調査が始まった。

「その通りです。  
一年後、彼女はまだその遺伝子組替DNAを血液中に保持していることを示しました。非常に高度な実験室で検出されました。  
それが重大な心配なのです。  
それらはどこにあるのかわからないし、そこにあると気付かない。  
だから十分な安全性テストがされることがないのです。  
このワクチンは、多くの子供たちの場合、マティスワクチンは強制的に投与されているという定義によって。  
今ではこのワクチンが、わからないもので汚染されていると彼らは見つけたのです。  
その長期的な影響や中期的な影響について、彼らは言うのは無理であるとしているが、利益がリスクを上回っている。  
なぜなら彼らはそこにどんなリスクがあるか考えていないからです。」

あはは。  
彼らはいつも言いますよね。  
決まり文句ですよ。  
マントラのように。

ワクチン業界では利益がリスクを上回っている。

ですが彼らはリスクをわかっていませんね。

「完璧な詐欺ですよ。

彼らですらわからないのです。

それが最初からわからないなんて、本当に無能です。

そしてそれが有害事象を起こすかどうか発言する立場にもないのです。」

本当に異常ですね。

基本的な質問をさせてください。私のリスナーが聞いてもらいたいと頼んでいるのです。

HPV(子宮頸がん)ワクチンは、いくつかのレベルのDNAを弱めるウィルスが入っているのではないですか？

「何が含まれているかということ、たんぱく質です。

そして、たんぱく質が放たれて免疫反応が起こります。それが目的なのです。

だから遺伝子組替DNAを含むべきではないのです。

それはなぜか？

なぜなら、そのDNAは人間のDNAに統合する能力があるからです。

核に入り、DNAに入り、人間の遺伝子に入っていくからです。

いったん入り込ませてしまったら、取り除けないのです。」

これは理論的には、そうするとほとんど誰かにヒトパピローマウィルスを与えているということに、内部に。

これはまるで、ほとんど病気を広めているようなものですね。

「我々ですら、それが何なのかわからないのです。

人間の遺伝子に、とにかく統合できるのです。

そして、可能性はあるんですよ。

がん細胞になったり、他のものになったり・・・我々にはわからないのです。

ですが、明らかに警戒する必要があります。」

ええ、明らかにそうですね。これはびっくりするニュースですね。

これについて、2、3のことがあります。

医学研究所が、最近このワクチン報告書を認めました。

そのワクチンは、もちろん売るために、メディアによってかなり歪められました。

ワクチンで自閉症になんてならないよ、とか言ったりして、ですが主要メディアでは、誰も報道しないですよ。

麻疹ワクチンには、活性麻疹ウィルスが含まれていて、実際摂取者の何人かは麻疹を発症しているという事実を  
米国医学研究所が認めたという他の事などについては。

「はい。本当にそうです。脳炎も同じです。」

脳炎ですね。

「しかし、その主な結果は、そこには科学がないのだという承認だと私は認めています。  
安全性に関しては、科学は絶対的に無価値なのです。  
ですから、これらの安全に関する公式見解は、  
今日では単に続けられるものではないと証明されてきているのです。」

まだ、主流メディアやワクチン業界では人々を騙しています。  
私がこの話を出したときに、これは全米のニュースやインフォウォーズでも公開され、  
我々は人々から返答を受け取り始めました。  
一人の呼ばれた女性が言っていたのですが、  
「これが真実な訳がありません。  
もし本当なら議会で公聴会があり、調査もあり、メディアが話します。」  
これは彼女の論理ですが、  
「これが真実な訳がないのです。  
私たちはこれについて聞いたことがありませんから。」

「たばこは健康に良いという15年前の科学を私たちは消しましたよね。  
わかるでしょう。これは別に目新しい話ではないんです。  
これは誰が議会の糸を引いているかや、製薬会社の糸を引いているかによるのです。  
そうでないと聴講のプロセスにまで行かないのです。  
カリフォルニア州で進んでいるのはご存知でしょうが、8499議案は現在、ワクチンを子供に受け  
させるかどうか決める権利を、親から奪おうとしているのです。  
ですから恐ろしいのは、正直な12歳が学校へ行き、秘密の内に自分の意思としてB型肝炎やHPVの  
ワクチンを打たれ、  
そしてこの屈辱後、両親から子供たちの世話をする権利を奪われてしまうのです。」

みんな聴いているかい？

これを聞いてますか？

これがカリフォルニア州の議案です。

親の許可なしに、秘密の内に子供たちにワクチン接種をイエスと言わせて許可させる法案ですよ。

そして、もちろん学校にいさせてワクチンを受けるように脅すような操作を子供たちにするんです。

議案番号は何番でしたっけ?もう一度。

ウェブサイトはありますか?人々が行動を起こせるように。

「はい。後でウェブサイトを教えましょう。」

OK、ではCM後に載せますね。まだ数分ありますね。

何ていうウェブサイトですか?ウェイクフィールド博士、人々があなたの仕事ができるように。

「我々には、[callous-disregard.com](http://callous-disregard.com) があります。

そこには私が英国で書いた本があります。

[vaccinesafetyfirst.com](http://vaccinesafetyfirst.com) もあります。

そちらはデータ改ざんについて、メディアが振り回す嘘の問題を扱っています。」

[vaccinesafetyfirst.com](http://vaccinesafetyfirst.com)を持ってこれますか?

皆さん、必ずそこでチェックしてください。

そして、本、あなたの最新の本は「無神経な軽視」そちらはいくつかの証拠を載せてると。

ワクチン産業内にある完全な科学原則の放棄の証拠を。

それは正確な評価ですか?

「その通りです。

時間があるならもう一つ言ってもいいですか?

この方法で進もうとしています。

子供たちがグループで学校へ行きます。

ワクチンを受けていません。

そして彼らは映画を見せられます。

そして、彼らは子供たちに「今から映画を見せます。」と言い、彼らは子供たちには製薬会社がスポンサーだという事は言いません。

そして彼らは命取りになる癌の恐ろしさを見せるのです。

それらの子供たちは怖がってワクチンを受けるようになります。

「ワクチンを打ったと親には言ったら駄目だよ。打たないとこうなってしまうんだから。」と言うのです。

そうすると起こってしまうのが、子供たちのうち、50%は怖くてワクチンを受けてしまうでしょう。

他の50%は親を信用しているので打ちません。

そうすると、子供にかかってきます。

「このワクチンのシリーズを全部打てばipodの50%割引を受けられます」とか、このような事が起こってくるのです。

私はそれらの人々を知っています。

私はワクチン業界を知っています。

働いていましたから。

資金調達の小額が、安全性試験の研究開発を見るために戻るのです。

その会社の資金調達の大半は、宣伝部門へ行くのです。」

彼らは子供達に、「もし両親がワクチンに反対しているのならアルカイダのメンバーに違いない」と言います。

「そうです。

この惑星の人類の始まり以来ある、両親が子供たちを守るべき権利が突然、州や製薬会社によって奪われようとしているのです。」

家庭学校の他の理由になりますね。

それか、私立学校へ。

公立学校のプロパガンダはとても威圧的で、非常に欺かれていますね。

以前に紹介した映画みたいですね。

50年代にマリワナが人々を狂わせゾンビのように半狂乱のモンスターにするといったものです。

「プロパガンダと呼ばれるものです。

シンプルで簡単なプロパガンダです。

そして、子供たちは、最もプロパガンダに対してスキだらけです。」

ええ、本当にそうです。

プロパガンダと言えば、リック・ペリー州知事をとってみましょう。

なぜなら、全種類のプロパガンダが行ったり来たり出回っているからです。

最近、ミシェル・パッカマンがリック・ペリーを攻撃していました。

彼の強制要求について。

全ての10代の少女たちが、ガーダシルのワクチン接種をするように強制しようとしていたものですよね。

このディベートにおいて、あなたの考えはいかがですか？

(リック・ペリー：米国大統領選に出馬中のテキサス州知事。

2007年のビルダーバーグ会議に呼ばれています。

その時に、次の大統領選に出馬するように要請されていたと言われています。

彼はNWOを進めるエリートたちの操り人形です。

彼が勝利したら世界は大変なことになってしまうでしょう。)

「まず最初に、プロセスの乱用だと思いますね。

例えば、戦争の危機のような時に人々を守る行政命令だと思います。

彼らは少女たちに強制予防接種をさせたかったためではありません。

特に、ワクチンの安全性が、市場において適切に評価されていて、純粋なマーケティングの一つであります。

この国の少女たちに対しては意図されていません。

ワクチンは第3世界の少女たちに向けてデザインされています。

定期的にサーバックスミスにアクセスできないような少女たち向けです。」

本当ですか？

それは興味深い見方ですね。

「はい、そうです。

2、3のこの調査の対象であった少女たちに聞いたんです。

彼女は言いました。

『いいですか?OK、私は本当にこのワクチンには不満があります。

なぜなら20~30%の人に効くとしましょう。

私たちは、ワクチンがどのように効くのかさえ知らないのです。

5年以上抗体が消えないかもしれないのです。

効果があるとするならば、少なくとも15年以上は公衆衛生政策抜きで効果がなければならないのです。

癌について、様々な形態に対して、誰を守ったとかは全く示されていないのです。

ですから、70%の人口にはこのワクチンは効かないとしてみましましょう。

あなたは30%側にいるか、70%側にいるかわからないのです。

ですから、あなたはそれでも毎年の健康診断に行くつもりでしょう。

そして、それが癌に対する最も良い防御になるのです。

何があろうと節約にもなります。

さて、ここで危険性があります。

もしここであなたがワクチン接種を受けたと言ったとします。

だからもう健康診断は行きませんと。

あなたは70%のうちの一りで、守られていないとしたら癌になってしまいます。

そうなったのは、ワクチンを受けたからです。



なぜなら、ワクチンに守られているという間違っただけの考えがあるからです。』」

そして、さらにそのシナリオは、ワクチンは実際には効果的で傷つけられることはないという考えに基づいています。

今では、DNAの汚染の可能性がある、私たちのDNAがワクチンの中にあるアルミニウム、アジュバンドという化学物質に結びついて汚染されてしまうという問題があります。

ですから、ワクチン業界によるそれらの嘘に対して疑問に思い始める他の理由にもなるのです。

「その他にも、生物学的効果です。

それは元々の調査で発見されたものですが、広く放送されませんでした。

すでにヒトパピローマウイルスにさらされた女性たちは、

すでに血液中にHPVの抗体がありました。

実際、彼女らがワクチンを接種されると、前癌プロセスへと打診されてしまうのです。」

(2011/09/21 You Tube 『NWO製薬業界ワクチンの恐怖』より)

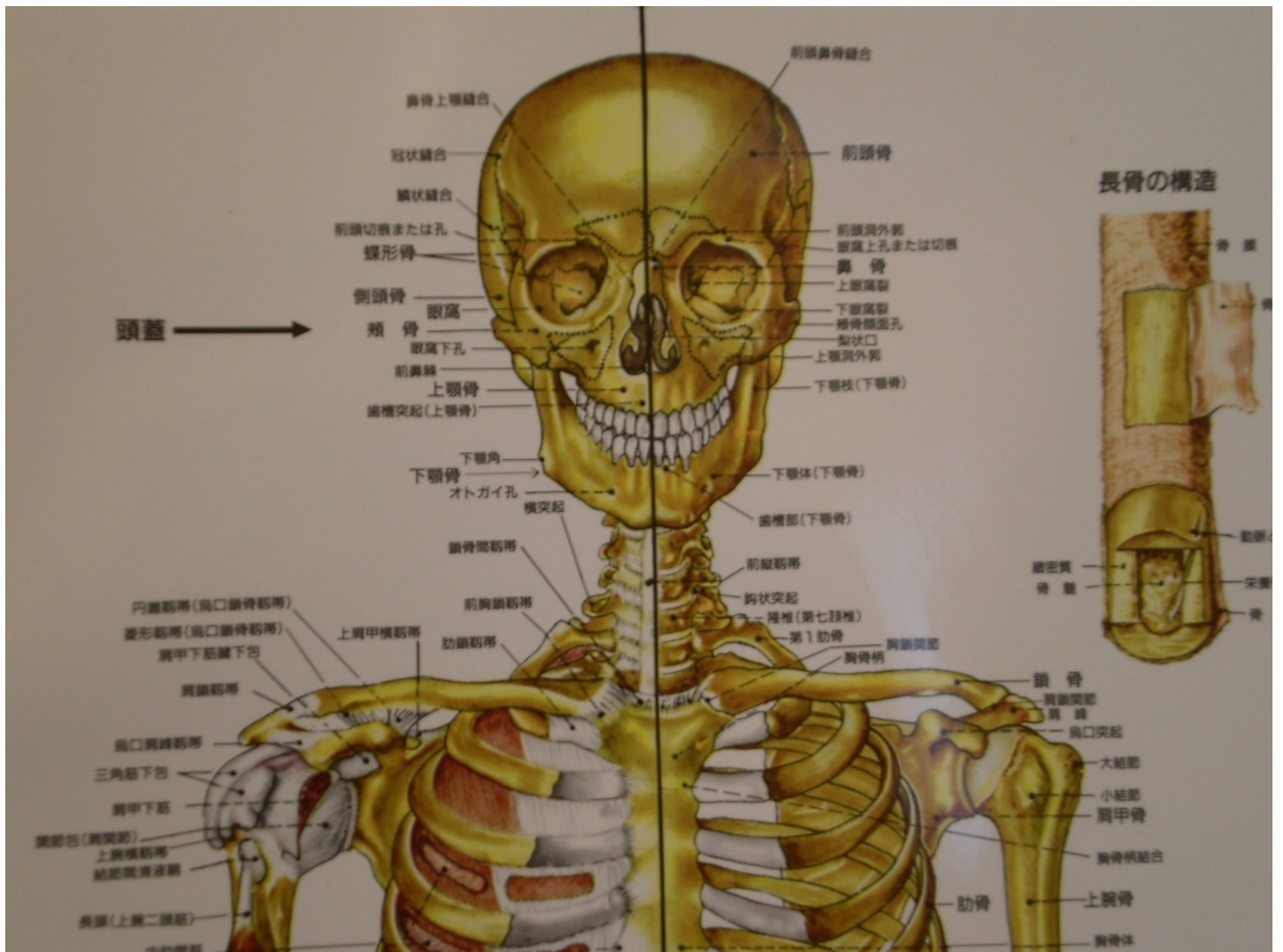
ところで....

あなたと、あなたのご家族は....

インフルエンザワクチンを、この冬は射ったんですか...!?

えッ、毎年欠かさず射ってるんですか...!?

おめでとう御座います...!!



それから....

あなたと、あなたのご家族は(女性に対して)....

子宮頸がんワクチンも、射ったんですか...!?

助成費が出るから、射ったんですか...!?

おめでとう御座います...!!

パンパカパーン!!!!!!!!!!

あなたと、あなたのご家族は、既に....、

△ホロコーストに送り込まれています...!!!!!!!!!!

ワクチンは、製造元や医療機関にとってポロ儲け....、

気の狂った研究者を巻き込み....、

△NIMROD支配下の製薬メーカーで造っています...!!

そのリスクは....、

呆れたことに、造った本人達も知らないのです...!?

しかし今や、世界中で....、

ワクチンの危険性に、気付く人が増えています...!!

『ワクチン=△ホロコースト』に....、

早く、あなたも気付いて下さい...!!

△NIMRODにとって、ワクチンは兵器なのです...!!

言わば、人々をゆっくり殺していく....、

人口削減が目的の、△ホロコーストなのです...!!

NWO製薬業界ワクチンの恐怖

→<http://www.youtube.com/watch?v=H4AQvFKZ1tk>

ビル・ゲイツ「ワクチンで人口削減が可能」

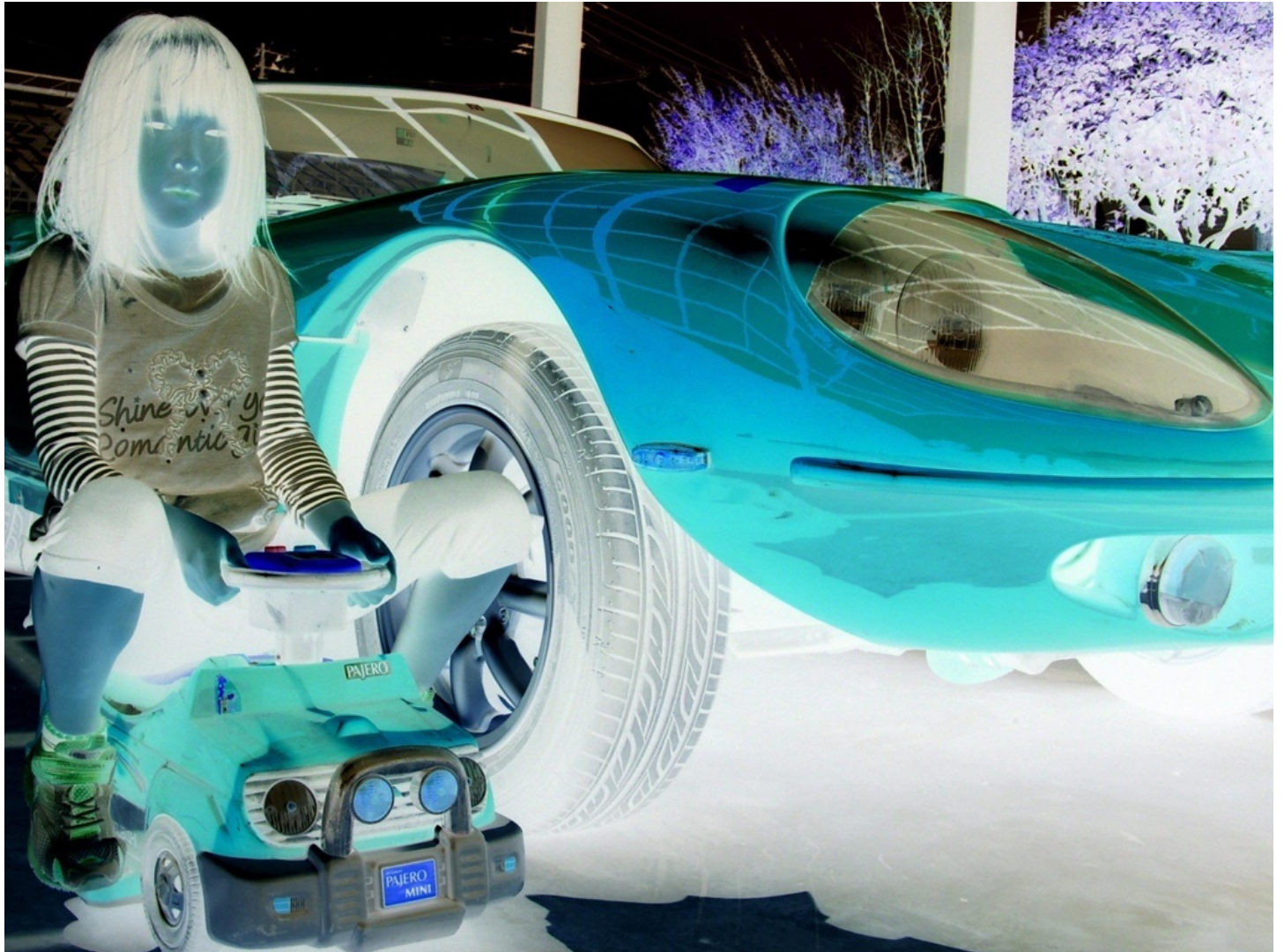
→<http://www.youtube.com/watch?v=b4vE8AdSPGc&fea..>

『赤ちゃんが産めなくなる△子宮頸がんワクチン』

---

ふーん...

子供がいなくなっちゃうんだ...!?



若い女性や女の子は...

『赤ちゃんが産めなくなる△子宮頸がんワクチン』を...

射ってはいけません...!!

不妊や癌やその他、未知の病を引き起こす...

汚染されたウィルスを仕込んだ、悪魔のワクチンを造ったのは...

何千年も前からの悲願だった『世界統一政府』樹立の為なのです...!!

それこそが、△NIMRODの真の目的なのです...!!

そんなヤツらにとって、70億の人口は多過ぎるのです...!!

だから....

「食糧が足りない!」

「エネルギーが足りない!」

「CO2で環境が破壊される!」

といった大ホラを吹くのです...!!

「怖いインフルエンザに感染すると死亡します!」

「子宮頸がんはワクチンで防ぐことができます!」

というのも、悪魔のワクチンを射たせる為の罠です...!!

早く、あなたも罠であることに気付いて下さい...!!

とにかく、ヤツらは「人口を削減したい」という気違い連中であることだけは間違いないのです...!!

その目的の為に、アメリカや国連さらにWHOを使って....

もう何年も前から、△ホロコースト計画を世界中に進めているのです...!!

ちょっとまって!子宮頸がんワクチンうける前に

→<http://www.youtube.com/watch?v=20zIGFlaU58>

不妊になる危険性を知ってて断種ワクチンを推進する新日本婦人の会

→<http://www.youtube.com/watch?v=HYLucO1wuzs>

ワクチンについて シェリー・テンペニー博士

→<http://www.youtube.com/watch?v=ksKm22gYXtE>

『子宮頸がんには効かない△子宮頸がんワクチン』

---

どうして...!?

どうして....

『子宮頸がんには効かない△子宮頸がんワクチン』を....

わたしに、射つの...!?



△子宮頸がんワクチンの中には....

ペットの避妊剤として開発された、アジュバントが入っています...!!

また、新型インフルエンザ・ワクチンも似たような成分ですから....

どちらも将来、不妊症になる危険性が指摘されています...!!

若い方や、お子さんには絶対に射たせないで下さい...!!

他には....

40～50歳頃に癌を発生させる…、

ステルス・ウィルスが入っていると云われています…!!

これぞ、人々をゆっくり殺していく△ホロコーストですね…!!

あなたは、これでも射つ気になりますか…!?

～△子宮頸がんワクチンで不妊になるというのはデマです～

と、火消しに躍起になっている婦人科や医療機関…。

果たしてどちらが正しかったかは、10～15年くらい経てば判明するでしょう…。

楽しみですね…!?

～子宮頸がんの原因は、HPV(ヒト・パピローマ)ウィルスによるものです～

というのが定説でしたが…、

ところが何と、2003年アメリカのFDA(米国食品医薬品局)に…、

『HPVウィルスは、子宮頸がんの原因ではない』という請願書が出されていたのです…!?

しかし、それを無視して△子宮頸がんワクチンを進めていったのです…!!

HPVウィルスが子宮頸がんの原因で無いのなら、ワクチンは全く無意味です…!!

△子宮頸がんワクチンを射っても、子宮頸がんは防ぐことは出来ません…!!

あなたは、これでも射つ気になりますか…!?

どうして…!?



どうして...

『子宮頸がんには効かない△子宮頸がんワクチン』を...

わたしに、射つの...!?

特別レポート HPV(子宮頸癌)ワクチンの大インチキを暴く

→<http://tamekiyo.com/documents/healthranger/hpv.htm..>

## 威風堂々[8]『地球を救う為、お嬢さんに△NIMRODのワクチンを打ちましょう!?!』

---

～△NIMRODのバベルの塔は、もっと天に近いところまで、神と同じ高さまで登りつめようとした人間たちの驕慢な心の象徴である～

繰り返しお伝えしますが…、

悪魔のワクチンは、人々をゆっくり殺していく△NIMRODの仕掛けた罠です…!!

それは、人口削減が目的の△ホロコーストなのです…!!

私がとくに許せないと思うのは、子宮頸がんワクチン…!!!!!!!

この子宮頸がんワクチンを11～14歳という小さな子供から接種するなんて、絶対におかしいですよね…!?!?

子宮頸がんとは、HPV(ヒトパピローマウイルス)というウイルスの感染によって起こるというのが定説で、殆ど性交渉によって人から人へと感染するものです…。

もちろん、性交渉のない若い女性にはHPVは有りません…。

がんは、基本的に定期健診で早期発見して治療すべきものですから、子宮頸がんだって同様です…。

子宮頸がんが発生するには、それに先だって異形成という前がん状態が5～10年掛かって出来ませんが、その前にこの50%は自然に治るそうです…。

ところが、この子宮頸がん予防ワクチンは11歳～14歳の女性を中心に接種しようとするものです…。

まだ成熟する前のつぼみの状態の子供に、『子宮』の病気のワクチンを集団接種するというのは、如何なものでしょうか…!?

しかも、調べてビックリ…、

この子宮頸がんワクチンの成分には、ペットの去勢・避妊剤として開発された添加物アジュバント(免疫増強剤)が含まれているのです…!!

子宮頸がん予防ワクチンは、『民族根絶やしワクチン』と呼ばれているくらい評判悪いのです…!!

このワクチンを射ったら最後、妊娠が出来なくなり、赤ちゃんが欲しくとも一切不妊治療すら不可能という噂があるのです…!?!?

ですから、若い方や、お子さんには絶対に射たせないで下さい…!!

そもそも、何でこんな怪し気なモノが私たちの日本にやってきたのでしょうか…?

子宮頸がんワクチンが、国内導入された経緯を調べてみると…。

それは、民主党の鳩山内閣が発足直後の事でした....。

平成21年10月に英国の製薬会社グラクソ・スミスクラインが、子宮頸がん予防ワクチン『サーバリックス』を日本国内で製造販売承認を取得、12月22日から日本で販売を開始しました...

しかし、ワクチン接種に1人当たり約5万円程度費用がかかる為、接種が進んでいませんので、欧米諸国(約5年前より接種が始まっていた)の様に....、

公費でワクチン接種の費用の全額ないし一部を補助しようという運動が、全国で起こったのです...?

しかも、不思議なことにこれが承認される前から、用意周到に先行販売的に活動が始まっているのです...?

いずれ強制的に接種させることまでも視野に入れて、この運動が展開されています...?

これを推進しているのは、「新日本婦人の会」(共産党系の団体)、創価学会&公明党、野田聖子を中心とする自民党婦人部、そして鳩山政権発足後に、その陰で操っているのが民主党らしいのです...!!

呆れたことに、民主党と自民党の政策集(マニフェスト)でもこれを推奨していたのです...!!

私にはどう考えても、子宮頸がんワクチンの必要性が判らないのですが....、

こんな怪しいワクチンが、果たして本当に必要なのでしょうか...!?

さらに、こんな記事もありました…。

#### 【HPVウィルスは子宮頸癌の原因ではない】

「私は現在、婦人科で働いており、サーバリックスのメーカー(GSK)からの正式な資料も見ており、続々と行政サイドで無料のワクチン接種が決定されていくのに、なんの情報開示も無く、疑問視する報道もない事に非常に危機感を抱いている者です。」

「先週には医師会を通じて、サーバリックスについて、だめ押しのような文書が配送され、目を疑いました。

そこには、全く危険性がないとでもいわんばかりのいいわけのような、さも安心でこれで癌が防げるといふ説得調の説明が長々あり、驚く事に海外での死亡例でさえ、それは、『ワクチンと関係のない自殺や、事故が原因だった』とまで書かれ、その上だめ押しで国内では死亡例はないと高らかに歌われています。

ここまで子どもだましの説得には、驚く他なく、まるで必至で『リスク』を隠蔽しようとい図していますといわんばかりです。

まさか、自殺や事故死がサーバリックスによる死亡例として報告されるはずがありますか!？」

「もし入手できたら、サーバリックス開発メーカーのGSKの説明書をよく読んでください。

どこにも、サーバリックスが子宮頸癌を防ぐ効果があるとは書かれていません。

HPV(子宮経癌の原因といわれているウィルス)のDNAタイプが数十種類あり、その中の16型と18型(欧米では、この2種が癌化の確率が高いという根拠で)のみに効果が期待される、あるかも知れない、と言っているだけです。性交渉前で70%の効果と言っています。

30%には期待できません。」

「しかも、この24類以外のHPVウィルスにはまったく効果ありません。もう一社の4種に効果が期待できるとするワクチン(欧米では既に認可)が、昨年暮れには認可がおりて発売になると言われていたのに、未だに日本では認可されません。これも不思議です。

GSKが一人勝ち、独占状態です。」

「欧米でも、経癌ワクチンが発売されてまだ10年たらず、しっかりとしたエビデンスが無い中、まして、日本人に多いのは『16型18型ではない』のでは、というデータもあります(まだ、母数が少なく、データの蓄積が無いので、これも不明ですが)接種して効果は、5年から7年くらいは期待できるのでは?とっています。これもデータはありません。」

「GSKの説明書を読めば読む程、わざわざ危険を犯して接種する必要があるとは思えなくなります。私も10代の娘がある母親として、真剣に検討して、接種はしないという判断をしました。子宮頸癌は、発症するのに5年から10年かかると言われ、発症しても早期発見さえできれば死に至る癌ではありません。子宮頸癌検査をきちんと受けていれば、十分と考えます。」

「実は、それ以前の問題として、子宮経癌ワクチンと検索すれば、誰でも見る事ができるレベルで、なんと米国FDAは、『HPVウィルスは子宮頸癌の原因ではない』と正式に発表してます!研究結果が出ているのですよ!!つまり、HPVが頸癌の原因であるというのは、既に間違った古い情報のはずなんです。これが、何故表に出てこないのか、とても不思議です。」

「そもそもHPVウィルスが原因でないなら、このワクチンがまったく無意味です。どうしてそこどころが公表されないのか、とても不思議。やはり、別の意図、巨大な力、お金、が動いているとしか思えません。誰かがとっても儲かるんでしょうね。」

「本当に、真実を知らない、知らされていないと言うことは怖いと思います。知った上で判断したら、誰でも分る事だと思うのに、どうして、行政で何の問題にもならず、莫大な税金を投入する事業が採用されてしまうのか、本当に不可解です。」

「ある、有名なIT企業家(今は引退して、慈善事業に専心している事になっています)が、『地球を救う為に、今できる最善の策は何か?』

と世界のトップレベルの頭脳を集めた国際会議で聞かれて応えたそうです。

『予防接種を徹底することだ、それも第三国向けに』

これの意味するところがわかりますか?

地球を救う為には、人口をこれ以上増加させない事だと言っているのです!

その為に、無知な第三国の子ども達に、高い確率で『不妊になる』予防接種を打つのが最善の方法だということです!

しかも、その企業家は、引退したとはいえ、莫大な資産を予防接種のワクチンメーカーに出資しているそうです。

ちなみに誰だかわかりますか?

そうです、ビルゲイツですよ。

これを聞いて、心が凍りました。

ヒトラーと同じ発想ではありませんか?」

「医療関係者で詳しい人が、GSKの開発の中から、もっと声をあげて下さる人が出てきますように祈っています。

どうぞ、お母さん達、もっと情報を良く見極めて、そしてもっと怒りをぶつけましょう!

本当に信じ難い構図です。

バカにしています。

私は、断固、反対ですし、周りの人にもそれを伝えて行きます。」

(2011/02/16『きくちゆみのブログとポットキャスト』より)

そうなのです...!!

何と、2003年アメリカのFDA(米国食品医薬品局)に....、

『HPVウィルスは、子宮頸がんの原因ではない』という請願書が出されていたのです...!?

しかし、それを無視して製造元は△子宮頸がんワクチンを造り続け、アホな日本の行政はワクチン接種を進めていったのです...!!

HPVウィルスが子宮頸がんの原因で無いのなら、ワクチンを射つのは全く無意味です...!!

△子宮頸がんワクチンを射っても、子宮頸がんは防ぐことは出来ません...!!

これは詐欺です、こんな大ホラをあなたはまだ信じるんですか...!?

それは、人口削減が目的の△ホロコーストなんですよ...!!

11～14歳という小さなお嬢ちゃんや若い女性たちに、もし将来...

赤ちゃんが出来なかったらどうするんですか、一体誰が責任を取るんですか...!!!!!!!

こんないい加減なワクチンを使用するなんて、彼女たちが可愛そうです...!!!!!!!

国を信じて、子供に△子宮頸がんワクチンを射たせる親御さんたち、その前によく考えてみて下さい...!!!!!!!



『△ワクチンの乱用STOP!!』

---

△子宮頸がんワクチンは、子宮頸がんに効きません...!!

高齢者用の△肺炎球菌ワクチンは、肺炎に効きません...!!

△インフルエンザ・ワクチンは、インフルエンザに効きません...!!



あなたと、あなたの家族のリスクを大きくして...

ヤツらの、懐を大きくするだけです...!!

まだ知らない方がいたら...

あなたから、是非教えてあげてください...!!

『△ワクチンの乱用STOP!!』

私たち患者の立場になって....

人々の身体のことを、本当に考えてくれるお医者様は....

真実を見極めようという姿勢を貫いて....

本当の医療はどうあるべきか、行政やマスゴミに左右されることなく....

日本医師会にも提言し....

こうして、ちゃんと発信しているんですよ...!!

【全く必要のない、全く効かない『子宮頸がん予防ワクチン』接種はすぐ中止を!]

宮城県大崎市「さとう内科循環器科医院」院長 佐藤荘太郎先生

さとう内科循環器科医院HP

→<http://satouck.jp/>

【ワクチン接種の危険性とインフルエンザの誇大宣伝の実態】

元国立公衆衛生院疫学部感染症室長 医学博士 母里 啓子先生

ワールド・ブロガー協会HP

→<http://www.worldblogger.net/>

## 威風堂々[9]『△NIMRODの仕掛けたワクチンに立ち向かう者たち!?!』

---

～東の方から移動してきた人々は△NIMRODのバベルの地に住み着き、煉瓦を造ってそれをよく焼こうと話合った～

私たちは一体いつから、ワクチン神話に取り憑かれてしまったのでしょうか...!?

そもそも身体には、生まれながらにして侵入してくる外敵に対抗する抵抗力や免疫力が備わっており....

日頃から食事・運動・休養を工夫することで、健康な体を維持していれば病気に負けない筈なのです....

にも関わらず、健康増進は疎かにしたまま「ワクチンを射って病気の予防はそれでおしまい」みたいな状況は、如何なものでしょうか....

ところがドッコイ....

あなたは、ワクチンによって製造メーカーや医療機関が毎年ポロ儲けなのをご存じですか...!?

それから....

あなたは、医療従事者の多くはワクチン接種をしておらず、自分の子供にも射たせないことをご存じですか...!?

何故なら....

△子宮頸がんワクチンは、子宮頸がんに効きません...!!

インフルエンザ・ワクチンはインフルエンザに効きません...!!

それどころか、ワクチンの副作用の方が怖いからなのです...!!

残念ながら世の中の多くの人々は、国や医療機関を信じているので...

ワクチンに△NIMRODの恐ろしい策略が隠されていることを知らないまま射っているのです...!!

しかし....、

行政やマスゴミに左右されることなく、勇気を出して真実を伝えているお医者様もいるんです...!!

私の住む宮城県にも、そんな素晴らしい先生が居ます...!!

【全く必要のない、全く効かない「子宮頸がん予防ワクチン」接種はすぐ中止を!】

宮城県大崎市「さとう内科循環器科医院」院長 佐藤荘太郎先生

1. 「サーバリックス」はヒトパピローマウイルス(HPV)に対する感染予防ワクチンで、子宮頸がんを減らしたという実績は全くない。――> 「がん予防ワクチン」ではない。
2. すでに“高病原性”HPVに感染している女性（18~25才）に注射した場合には、ウイルス感染の除去に全く効果がなかった。――> 成人女性には売れなくなった。
3. HPVが感染する前に注射しておけば感染が防げるかも。――> 若年女子にターゲットを移

した。グラクソ・スミスクライン社の売り抜け。1本16,000円。

4. “高病原性”HPVは赤ちゃんも持っている。――> 上の説も成り立たなくなった。

5. “高病原性”HPVは 本当に発がん性があるのか？――> “このウイルスの感染だけでは発癌しないことも知られており、発癌に関する他の因子、例えば喫煙などが及ぼす影響についても解析しています。”（慶応大学医学部婦人科のホームページより）

6. 水酸化アルミニウムと細菌成分のアジュバント ――> 注射部位の痛み、全身反応が強い。疼痛（99%）、腫れ（78%）、疲労(57%)、頭痛（37%）、胃腸症状（24%）。

7. 一般に不活化ワクチンは出来が悪い。――> 分泌型の抗体(Ig-A)ができないため。

8. 不活化ワクチンの効果は10年続かない。――> 20代以降、通常の検診必要。

9. 国内臨床試験の終了を待たずに製造販売承認申請。「優先審議品目に指定」――> 効果、副作用など国内のデータの検討殆どなし。

10. 政府はHPV助成費用として344億円。――> GSK社の売り上げ400億円超。

(『さとう内科循環器科医院』HPより)

子宮頸がん予防ワクチンについては、国は即刻に中止すべきですよ...!!!!!!!

かなり痛かったり腫れた方も多いし、死亡事故も起きているので、本当に問題が多いワクチンですね、これは...!!!!!!!

続いて、冬場になると誰しもが射っているインフルエンザ・ワクチンについてですが...

こんな素晴らしい先生も居たことを、ご存じでしたか...!?

母里啓子先生は、インフルエンザ・ワクチンは必要ないと言ってます...!!

【インフルエンザ・ワクチンは効きません!関係者には常識です】

元国立公衆衛生院疫学部感染症室長 医学博士 母里啓子先生

①日本で接種が始まった当初から関係者にはわかっていました。

効かないということが。

②効果がないので1994年には小中学生への集団接種も中止されてしまったほどです。

③効かないことは厚労省もわかっています。

「流行対策がない」との批判を避けたいだけです。

④インフルエンザ・ワクチンは血液中にしか抗体を作れず、のどや鼻には抗体ができません。

ウイルスはのどや鼻から入るから感染はまったく防げないのです。

当然「家族や周囲の人や乳幼児にうつさない」ということも不可能です。

⑤インフルエンザ・ワクチンはもともと流行を予測して作られているだけ。

そのうえに、インフルエンザ・ウイルスは日々猛スピードで形を変えるので効果は期待できません。

⑥インフルエンザ・ワクチンは、製法上、弱い抗体しか作れません。

殺したウイルスの、さらにその一部だけを使って作るので、体内で増えず、ウイルスの一部に対する抗体しかできません。

⑦高齢者の肺炎や乳幼児の脳症はインフルエンザとは無関係です。

「かかっても重症化を防ぐ」も嘘。

そのようなデータは全くありません。

⑧「打っておいたほうがいい」どころか副作用があるから怖いのです。

死亡者も出ています。

打たないほうが安全だし安心です。

そもそもワクチンは病原菌なのだし薬事法上は劇薬です。

接種にはもっと慎重であるべきです。

⑨効かないことを知っている医師も多いのですが、患者離れが怖いから言えないのです。

⑩インフルエンザ・ワクチンは儲かるからなくなるのです。

皆さんも、マスコミやお友達の言うことを真に受けずに真実を知ってください。

あなたは今まで、インフルエンザに掛かりたくないからワクチンを射ってませんでしたか...!?

でも母里先生によれば、そんなの射ったって効かないんですよ...!?

どうやら私たちは、国や医療機関のうたい文句に騙されていたようですね...!?

さらに付け加えと....

「手洗い・うがいはじつはインフルエンザには効果がありません。

ウイルスはのどや鼻の粘膜についたとたんに感染してしまうからです。

対処法は日頃から健康に気をつけるだけ。」

「自然にインフルエンザに感染したほうが、ワクチンとは比べ物にならないほどの強い抗体が作られます。

多くの人が知らず知らずインフルエンザにかかっているのです。

丈夫な体でいれば症状も軽くすみます。」

「インフルエンザは2、3日寝ていれば自然に治る『かぜの一種』にすぎません。

恐ろしい病気ではないのです。

インフルエンザにかかっても熱を下げてはいけません。

熱は体がウイルスと闘っている証です。」

「解熱剤タミフル脳症の原因と疑われています。

大人も打つのはやめましょう。」

「2007年春の若者のはしか流行は、誰もがはしかワクチンを打つようになったせいで起きた皮肉な現象です。

はしかのウイルスに接触する機会が減ったので、ワクチンで作られた抗体が強化される機会もなく、弱くなってしまうのです。

ワクチンには『絶対』も『安心』もありません。」

(母里 啓子著 双葉社『インフルエンザ・ワクチンは打たないで!』より)

インフルエンザって、『かぜの一種』なのッ ...!?

てっきり、怖いウィルスの病気なのかと思ってたけど...!?

副作用があるワクチン射ったりタミフル飲むより、インフルエンザに掛かった方が絶対に身体に優しいのですね...!?

しかも、ある外国の報告によれば...

インフルエンザ・ワクチンを接種する人は、ますますインフルエンザに掛かりやすくなる...!?

とか...

インフルエンザ・ワクチンを接種した人は、新型インフルエンザに罹患する割合が70%も高い...!?



とも指摘しているのです...!!

これは一体...!?

結局、ワクチンって一体何なんですか...!?

ワクチンは、病気を防いでくれる救世主ではなかったのでしょうか...!?

さてここからは、ワクチンの副作用についてです...。

あなたや、あなたのご家族あるいは知人で、身体の弱いお子さんはおられますか...!?

持病を抱えて苦しんでませんか...!?

アレルギー、アトピー性皮膚炎、ぜんそく、自閉症など...。

それは、ひよっとすると....、

生まれてから今日まで射ってきた、各種のワクチンが原因かも知れないのです...!!!!!!!

## 威風堂々[10] 『生涯続く病気をもたらす危険なワクチンは△NIMRODの策略だ!?!』

---

～△NIMRODの天まで届くバベルの塔に町を創って、人類がばらばらに分かたれることのないようにしようと考えた～

あなたと、あなたのご家族は、既に△ホロコーストに送り込まれています...!!

ワクチンは、気の狂った研究者を巻き込み...

△NIMROD支配下の製薬メーカーで造っています...!!

ワクチンには悪魔の呪いが掛けられているのです...!!

あなたも、あなたのご家族も早くこの事に気付いて下さい...!!

「どうして医者はいろんな病気の原因を発見できないのだろうか、不思議に思ったことはありませんか...?」

「それは医者が、病気とワクチンの関係を知ることがないように『条件付け』されているからです...。(!!!!!!!!!!)」

以下は、自閉症の子供の数がうなぎのぼりで増加の一途を辿るアメリカで、最近出されたあるレポートです...

そこには、ワクチンに関する驚くべき事実が載せられています...!!

その信憑性は、実に83名というが署名されていることで疑いの余地はありません...!!

【米国の医師・学者83名が署名「ワクチンのすべて」】

ワクチンに関する国際医学協議会

By International Medical Council on Vaccination

[賛同者一覧、あなたと子供たちを守ることに賛同した医師、看護師、科学者たち]

Nicola Antonucci, MD Todd M. Elsner, DC Alexander Kotok, MD, PhD Máximo Sandín, PhD  
David Ayoub, MD Jorge Esteves, MD Eneko Landaburu, MD Len Saputo, MD Nancy  
Turner Banks, MD Edward "Ted" Fogarty, MD Luc Lemaire, DC Michael Schachter, MD  
Timur Baruti, MD Jack Forbush, DO Janet Levatin, MD Viera Scheibner, PhD Danny  
Beard, DC Milani Gabriele, CRNA, RN Thomas Levy, MD, JD Penelope Shar, MD Françoise  
Berthoud, MD Sheila Gibson, MD, BSc Stephen L'Hommedieu, DC Bruce Shelton, MD, MD(H)  
Russell Blaylock, MD Mike Godfrey, MBBS Paul Maher, MD, MPH Debbi Silverman, MD  
Fred Bloem, MD Isaac Golden, ND Andrew Maniotis, PhD Kenneth "KP" Stoller, MD Laura  
Bridgman, FNP, ND Gary Goldman, PhD Steve Marini, PhD, DC Terri Su, MD Kelly Brogan,  
MD Garry Gordon, MD, DO, MD(H) Juan Manuel Martínez Méndez, MD Didier Tarte, MD  
Sarah Buckley, MD Doug Graham, DC Sue McIntosh, MD Leigh Ann Tatnall, RN Rashid  
Buttar, DO Boyd Haley, PhD Richard Moskowitz, MD Adiel Tel - Oren, MD, DC Harold  
Buttram, MD Gayl Hamilton, MD Sheri Nakken, RN, MA Sherri Tenpenny, DO Lisa Cantrell,  
RN Linda Hegstrand, MD, PhD Christiane Northrup, MD Renee Tocco, DC Lua Català  
Ferrer, MD James Howenstine, MD Amber Passini, MD Demetra Vagias, MD, ND Jennifer  
Craig, PhD, BSN, MA Suzanne Humphries, MD Ronald Peters, MD, MPH Franco Verzella,  
MD Robert Davidson, MD, PhD Belén Igual Diaz, MD Jean Pilette, MD Julian Whitaker, MD  
Ana de Leo, MD Philip Incao, MD Pat Rattigan, ND Ronald Whitmont, MD Carlos de

Quero Kops, MD Joyce Johnson, ND Zoltan Rona, MD, MSc Betty Wood, MD Carolyn Dean, MD, ND A. Majid Katme, MBBCh, DPM Chaim Rosenthal, MD Eduardo Ángel Yahbes, MD Mayer Eisenstein, MD, JD, MPH Tedd Koren, DC Robert Rowen, MD

ここに署名いただいたのは、小児科医、ホームドクター(一般開業医)、脳外科医、病理学者、化学者、生物学者、免疫学者など、幅広い分野で活躍している方々です。

いずれも、独自に本物の科学を追求した結果、この文書に記載されている結論に到達した方々です。

MD、DO、MB、MBBChという肩書きは、すべて医学博士であることを意味します。

NDは、医学の教育を受けたことを意味し、一部の地域では医師免許を与えられています。FNP(ファミリー・ナース・プラクティショナー)は、一般医療を行う上級看護師を意味します。

■ワクチンと関係があることが立証されている病気です。

- アレルギーとアトピー性皮膚炎
- 関節炎
- ぜんそく
- 自閉症
- 乳幼児にプロトンポンプ阻害薬(さまざまな副作用あり)の投与が必要となる胃酸の逆流
- ガン
- 糖尿病(乳幼児、児童)
- 腎臓の病気
- 流産
- さまざまな神経疾患と自己免疫疾患

- 乳幼児突然死症候群(SIDS)
- 他にも、まだまだあります。

■ワクチンの副作用として知られているもので、医学で立証済みであり、一部は医薬品の添付文書に記載されています。

- 関節炎、出血性障害、血液凝固、心臓発作、敗血症
- 耳感染
- 失神(骨折を伴うものあり)
- 透析療法を必要とする腎機能障害
- 発作・てんかん
- じんましん、アナフィラキシー(過敏症)など重症のアレルギー反応
- 突然死
- 入院を要すると診断される多くの症状

■自閉症はワクチンと関係がある。

- B型肝炎ワクチンとHiB(髄膜炎)ワクチンが導入され、大規模なワクチン接種計画が加速した1991年までは、自閉症は稀でした。  
子供にこうしたワクチンを接種した直後に自閉症が現れたことを証言できる親が何万人もいます

。

- 自閉症とワクチンの関連性を否定する研究は、極めて疑わしいことがわかってもらえるでしょう。

■製薬会社、保険会社、医療体制は、あなたの病気で豊かになる。

- ワクチンは生涯にわたって免疫を付与するわけではないため、追加接種が推奨されています。
- 追加接種をするたびに、副作用のリスクが高くなります。
- ワクチンの副作用により、あなたは残りの人生を病気で過ごすことになりかねません。都合の良いことに、ワクチンの副作用を治療する薬が多く存在します。
- 米国では、ワクチンで何か悪いことが起きても、製薬会社や医者を訴えることはできません。いずれも「1986年・児童ワクチン被害法」で保護されています。当時のロナルド・レーガン大統領が署名・発効したこの法律では、「ワクチンのメーカーは、ワクチンに関連する傷害や死亡から発生した損害の補償を求める民事訴訟において、法的な責任を負うことはない」（一般法律99-660）と定められています。

■医者など医療従事者の多くはワクチンを接種しておらず、自分の子供にもワクチンを接種していませんが、それは何故でしょうか？

- ワクチンの安全性や効果が証明されていないことを知っているからです。
- ワクチンには、危険な物質が含まれていることを知っているからです。
- ワクチンが健康上の深刻な問題をひきおこすことを知っているからです。

- ワクチンで深刻な副作用を受けた患者を治療した経験があるからです。

■健康で利益を得るのは、あなた自身とあなたの大切な人たちだけ。

- 製薬会社は、医学部、医学情報誌、病院、診療所、地元の薬局など、医療体制全般に浸透し、支配力を確保しています。

こうして医者は、ワクチンについていかなる疑念も抱くことなく盲信することで生計をたてています。

医者は、ワクチンの被害の明確な実例を目の当たりにしていながら、その原因がワクチンだと考えようとしなのが通常です。

金権腐敗していない科学・医学では、ワクチン拒否を支持していますが、それは地位も仕事も失う自殺行為であると思われています。

この文書に署名した人々は、あなたと子供の安全のために、勇敢にもそのリスクを冒しているのです。

- 病院は、入院と検査で金銭的な利益を得ています。

- 製薬会社は、ワクチンで何十億ドル(何千億円)も儲けています。

- 製薬会社は、ワクチンにより発生した副作用と生涯残る病気の治療薬で、何百億ドル(何兆円)も儲けています。

- ワクチンは、医療体制の大黒柱です。

ワクチンがなければ、社会全体が健康になり、医療コストは下がるでしょう。

私たちは、水疱瘡の代わりに自閉症を、インフルエンザの代わりにぜんそくを、耳感染の代わりに糖尿病を手に入れました。

まだまだ他にもたくさんあります。

比較的良性のそれほど種類も多くない病原菌を撲滅しようと夢中になった末に、私たちは、一過性の病気の代わりに、生涯続く病気・機能障害を手に入れてしまいました。

## ■ワクチンは何種類あるのか？

- 米国の子供がすべてのワクチンを受けると、最大35回の接種を行うことになります。それには113種類の病原粒子、59種類の化学物質、4種類の動物細胞・DNA、中絶胎児の細胞から取り出した人間のDNA、人アルブミンが含まれています。

- あなたの子供はもう大きいので、ワクチンの心配をすることはないと思っておられるなら、考え直して下さい。

少なくとも20種類のワクチンが、今後数年内に提供される予定で現在開発の途上にあります。その多くは、青年層や成人を標的にしています。

## ■ワクチンの成分の紹介：これでもワクチンは身体に有害でないのでしょうか？

- ワクチンの材料である動物細胞の培養で生じた細菌や野生のウィルス。

- 水銀は、神経毒であることが十分に立証されていますが、依然として世界中のインフルエンザ・ワクチン(複数回接種タイプ)に入っています。

その他のワクチンにも、微量の水銀が残留しているものがあります。

- アルミニウム。

骨、骨髄、脳の変性を起こす可能性のある毒です。

- 猿、犬の腎臓、鶏、牛、人間の細胞。

- ホルムアルデヒド（防腐液）。

発ガン性物質として知られています。

- ポリソルベート80。

メスのネズミで不妊症、オスのネズミで睪丸の萎縮をひきおこすことがわかっています。

- 豚や牛のゼラチン。

アナフィラキシー反応を起こすことがわかっています。



3種混合ワクチン(はしか、おたふく風邪、風疹)、水疱瘡と帯状疱疹のワクチンに大量に入っています。

- グルタミン酸ナトリウム(MSG)。

吸引タイプのインフルエンザ・ワクチンに入っています。

代謝異常(糖尿病)、発作、その他の神経障害をひきおこすことがわかっています。

## ■利害の衝突

- ワクチンに関する法律や政府勧告を作成する立場の人々が、ワクチンの売上から利益を得ています。たとえば、ジュリー・ガーバーディング博士は8年間CDC(疾病予防管理センター)長官を務め、現在はメルク社ワクチン事業部の社長となっています。

ポール・オフィット博士はACIP(ワクチン接種に関する諮問委員会)のメンバーですが、自らワクチンを開発し、特許を保持しています。

- CDCによれば、米国の平均的な規模の小児科医院(医師10名体制)、10万ドル相当以上のワクチンを在庫に抱え、売ろうとしています。

これらの医師は外来診療、子供たちへのワクチン接種、さらにその後の反応をみる再診で儲けています。

- 報道によれば、米国の小児科医は、患者へのワクチン接種率を高く維持することでHMO(保険維持機構)から年4回ボーナスを受け取っており、接種率が下がると保険会社から叱責されるそうです。

## ■ワクチン接種／未接種の子供の相違を比較した研究はあるのでしょうか？

自閉症の研究・治療団体ジェネレーション・レスキューは、カリフォルニア州とオレゴン州で、子供を持つ親を対象に、ワクチン接種／未接種を比較する調査を行ないました。

対象となった子供の数は17,674名で、結果は以下の通りです。

- ワクチンを接種した子供のぜんそく罹患率は120%増
- ワクチンを接種した男児のADHD罹患率は317%増
- ワクチンを接種した男児の神経疾患罹患率は185%増
- ワクチンを接種した男児の自閉症罹患率は146%増

女兒は調査対象のうちわずか20%でした。

ワクチン接種をしていないアーミッシュ（訳注：米国のドイツ系移民からなる宗教集団。移民当時の生活様式を保持し、ワクチン接種をしないことで知られる。）の子供の自閉症罹患率が低いという報告もあります。

#### ■米国でワクチン接種を拒否するには？

- あなたにもワクチン接種を拒否する権利があります。行使しましょう。
- 公立学校の通学にワクチン接種は必須ではありません。
- すべての州で望まないワクチン接種の拒否権を行使できます。
- ワクチン接種をしないという選択を認め、尊重する医療機関をサイトで見つけましょう。

#### ■多くの方が健康と安全のためワクチンを拒否しています。

- ホリスティック療法士、カイロプラクター、子供を学校に通わせず家で教育する親、特定の信仰を持つ人など、一般的にワクチンを接種しない人。

- ワクチンを接種しない子供が健康であるという親の証言は、インターネット上に何千件と見られます。

- ワクチン接種をするかしないかは、あなたと配偶者／パートナーが決めることです。

他の誰も知る必要はありません。

他の家族も、近所の人も、親戚も無関係です。

■いきいきと健康であるためには、率先して新しいことを学ぶ必要があります。

- 安全な選択は、ワクチン接種をしないことです。

あなた自身や子供たちの健康をコントロールできるからです。

ワクチン接種によって何が起きるか、あなたにはコントロールできません。

- 身長・体重を測ったり、注射を打つだけなら、小児科医は必要ありません。

自然療法師、小児向けカイロプラクター、東洋医学師、ホメオパシー医にかかることも考えてみましょう。

かかりつけが整骨医ならば、ワクチンを接種しないことにより理解があるかもしれません。

- 赤ちゃんは強力な防衛機能を持って生まれてきます。

そうでなければ、生まれてすぐ死んでしまうでしょう。

膨大かつ複雑な免疫作用が、産声をあげた瞬間から働いています。

この免疫は有毒物質の注射によって阻まれることなく、自然に発動されるべきなのです。

- 「ワクチンで予防できる病気」について学びましょう。

子供たちが感染するおそれがあるものはほとんどありませんし、かかったとしても、健康でワクチンを接種していない子は、長期にわたる免疫によって、ほぼ全員が無事に回復します。

健康は注射針からもたらされるものではありません。

- 発熱の重要性について学びましょう。

家庭でどのようにケアするか、どんな場合に医師の助けが必要かを学びましょう。

ほとんどの熱は、適切なケアをすれば2～3時間で自然にさがります。

- ワクチンを接種しても、その病気にかかる可能性があることを理解しましょう。

ワクチンは、期待される予防力を発揮しないかもしれないのです。

健康は注射針からもたらされるものではありません。

- 健康のために重要なのは、適切な栄養、良質な水、十分な睡眠、運動の習慣と心の充足であることを知りましょう。

- ビタミンの基礎知識を学びましょう。

特に、ビタミンD3は重要です。

基本的なハーブやホメオパシーを使って健康を維持したり、ちょっとした病気に対処する方法を学びましょう。

- 医師よりワクチンに詳しくなりましょう。

おそらく医師は、製薬会社やCDCの後援を受けたワクチンを推奨する書籍しか読んでいません。

- 健康のケアにこそお金をかける価値があることを知りましょう。

- だから、健康に投資しましょう。

体が資本です。

(2011/2/1 International Medical Council on Vaccination 『ワクチンに関する国際医学協議会』より)

## 『△ワクチン=水銀=自閉症』

---

アメリカでは、「自閉症」の子供が増えています...!!

患者数1/5,000人が、年に10%以上も増え続け....

今では何と....

166人の子供のうち1人が、「自閉症」(神経発育障害)なのです...!!!!



その原因は....

乳児のときに接種した、ワクチンではないかと疑われています...!!

じつは、生ワクチン以外の予防接種ワクチンには....

「チメロサル」という「有機水銀」を使った保存料を含んでいるのです...!!

「水銀」は、脳神経を破壊します...!!

「自閉症」の症状は、「水銀」中毒にソックリなのです...!!

つまり、『△ワクチン=水銀=自閉症』...!!!!

殆どの人々は、ワクチンに「水銀」が入っていると知らずに....、

何十年も射っているのです...!!

「チメロサル」は、もちろん....、

インフルエンザ・ワクチンにも入っています...!!

あなたと、あなたのご家族は、それでもワクチンを射つのですか...!?

Remember the children the vaccine industry has left behind

→<http://www.youtube.com/watch?v=bTpZbPeuGbc>

## 威風堂々[11] 『△NIMRODの呪い、日本でも自閉症の子供が増える可能性はあるのか!?'』

---

～△NIMRODのバベルの塔が建てられた頃は、世界中の人間は皆一つの言葉を話していた～

△NIMRODの支配による製造メーカーが送り出す、各種ワクチンの中には…、

113種類の病原粒子、59種類の化学物質、4種類の動物細胞・DNA、中絶胎児の細胞から取り出した人間のDNA、人アルブミンといった成分が含まれています…!!

こんなモノを、私たちの体内に入れても本当に大丈夫なのでしょうか…!?

しかも何と…!!

あなたは、インフルエンザ・ワクチンに水銀が入っていることをご存じでしょうか…!?

水銀ですよ…!!

そんな危険なモノが含まれていることも知らないで、あなたやあなたのご家族は何年もワクチンを射っていたんですか…!?

実は、予防接種ワクチンには『チロメサール』という水銀を使った保存料が使用されているんですよ…!!

その危険性に最初に気付いたのは、アメリカの一般市民たちでした…。

どういう訳か、現在アメリカでは自閉症(神経発育障害)の子供たちが増えているのです...!?

何をするのにも他人の手が必要で、自分で満足にトイレすら出来ない子供たちが増加して大きな社会問題となっているらしいのです...!!

その数は、10年以上前に患者数5,000人に1人という割合が、年に10%という驚くべきペースで増加の一途を辿り....

今では何と、米国の166人の子供のうち1人が、自閉症なのです...!?!?!?

自閉症の原因ではないかと疑われているのが、乳児のときに接種した各種の予防ワクチン(生ワクチンを除く)...!!

この中に含まれている、有機水銀を使った保存料『チロメサール』が怪しいという訳なのです...!!

アメリカでは全ての子供たちに対して、35回もワクチン接種を義務付けているのだとか...!?

ワクチンを射つ度に、子供たちの体内に水銀が入れられるとしたら...!?!?!?

あなたは、ゾッとしませんか...!?

「米国ではFDA安全基準の4,000倍の量の水銀を子供たちに注射している」

—ロバート・F・ケネディ Jr



## 【ワクチンと自閉症の切っても切れない関係】

米国で、ワクチンに含まれるメチロサルと自閉症の関連性が問題視され始めたのは1999年。

そして2000年には研究者サリー・バーナード氏らが水銀中毒と自閉症の類似性などを挙げ、ある種の自閉症は幼少期の水銀摂取によると指摘したのです。

ダン・バートン米科院議員の働きかけにより、同院で水銀と自閉症に関する公聴会が開かれ、2001年には自閉症児の親らが、ワクチンに含まれるメチロサルが要因であるとして製薬会社を訴える裁判も始まりました。

米国では小児用ワクチンについては2000年にはメチロサルを除去した製品が登場して、現在はほとんど水銀が含まれていないものに切り替わっています。

日本ではこういうことすら知らない方が多く、一時はメチロサル無添加の日本脳炎ワクチンを製造しているのは社団法人・北里研究所だけという現状でしたが、日本でも水銀が含まれていないワクチンを取り扱っている医者は増えています。

ですから子供さんのワクチン接種の際には、メチロサルが入っていない無添加のワクチンを接種されることをお勧めします。

(メチロサルは「エチル水銀チオサリチル酸ナトリウム」とも言われ、毒物の水銀化合物の一種で、水に溶けやすいほど毒性が強く、胃腸の激痛、嘔吐、下痢などによる衰弱で死に至る場合がある。

慢性中毒は、歯がボロボロになり、消化不良、指の震え、皮膚炎などを起こす毒性を持つ。主に殺菌消毒用に使用されている。)

2008年2月28日の全米自閉症協会のWEBサイトで、米国政府がワクチンの水銀で自閉症になるということをついに認めたという事実がついに報じられたのです。

米国連邦裁判所は、退行タイプの自閉症について、ワクチンのチメロサルで自閉症になると判断、子供たちに有利な判決を下しました。

もちろんまだ判決は一例だけですが、とにかく裁判所が判決を出したという事実は、大きな第一歩だと思います。

世界で初めて公的機関が、水銀で、自閉症になるという因果関係を認めたわけですが、自閉症と予防接種ワクチンに含まれている水銀について検索すると、日本での検索結果のほとんどが「関係ない」という論調のものばかりです。

つまりサリドマイドや水俣病のときと、同じ歴史が展開されているのです。

水俣病のケースでは、熊本大学医学部が昭和34年に原因は水銀と断定したにもかかわらず、国が認めたのは9年後の昭和43年。

その9年間に、何十人の研究者、専門家と称する人たちは、「原因は水銀ではないと言い続けてきたのです。

ミズーリ州ニキサ市一連邦請求裁判所と予防接種公的補償プログラムは、ワクチン(水銀が主成分となる保存料、チメロサル含有のワクチン)摂取後に、結果として退行した子供に有利な判決を下しました。

この裁判では、原告側に接種されたワクチンが、後に退行性脳障害と自閉症へと導く症状を増大させたと述べられています。

公式な文献によると、この子供はワクチンが与えられるまでは、健康な子供のように発育していましたが、ワクチン後すぐに自閉症へと移行してゆき、その子供は全米でも著名な自閉症の専門家によって診断されたということです。

10年以上もの間、数千人の保護者が、ワクチンの接種後に彼らの子供たちが急激に自閉症へと移行していった旨の報告書を出していました。

自閉症のケースは過去15年の間150人に1人という割合へと劇的に増加し、今日では小児発達障害疾患で最も多い数となっています。

全米自閉症協会(NAA)は、この判決は、多くの保護者が長い間訴え続けてきたことの証明であるとしています。

NAAの会長であり、自閉症児の親でもあるウェンディ・ファウニアー会長は次のように語りました。

「このケースは、現在も同じ問題を抱える全米数千の子供たちにも影響すると思います。ワクチンに関する同じような裁判の数は5,000にもものぼり、これが、我々が長い間信じ続けてきたこと—ワクチンは子供たちを自閉症へと退行させた—ということを証明する、初期段階であると確信しています。

また疾患コントロールセンターが現在のワクチンの含有物は、全ての子供に安全ではなく、どの薬剤服用にしても、個人に対する危険性と影響度を考慮していかなくてはいけない、と認識しています」

メチロサルは小児科用ワクチンからは取り除かれましたが、妊婦や子供たちに推薦されるインフルエンザ予防接種には未だに使われています。

(2008/5/25発行 松本豊人著 出版研『ゼオライトの奇跡』より)

どうやらアメリカでは、水銀を使用しないワクチンを(渋々?)登場させたみたいですが…。

恐らく、一般市民の怒りは相当なものであったことでしょう…。

「チロメサルはワクチンの保存料として何十年もの間にわたり何億人もの人々に使用されてきた。」

「今もインフルエンザ・ワクチンには、脳神経を破壊する水銀が入っている。」

「昔のスペイン風邪で死んだエスキモー一人の墓をあさって、その死体から取り出した染色細胞を

培養し、それを使ってワクチンを製造している。

そこまでののは、ワクチンは儲かるから。」

(井口和基博士のサイト『[quasimoto.exblog.jp](http://quasimoto.exblog.jp)』より)

でも、子供たちに心配なのは、水銀による自閉症だけではないのです...!!

アレルギー、アトピー性皮膚炎、ぜんそく、発作、てんかん、しっしん、といった説明の付かない異常も、ひょっとしたらワクチンが原因かも知れないのです...!!

こんなにワクチンには危険性があり、アメリカでは何年もモメているのに...

我が日本では、誰も文句を言わなくて大丈夫なのでしょうか...!?

聞くところによれば、日本で使用するワクチンの水銀の濃度は10分の1にしたみたいですが...

しかし、ワクチンに問題が生じても日本政府は製造メーカーを訴追しないというアホな契約を、麻生首相のときに結んだのだとか...!?

とにかく用心に越したことは無さそうです...

もし、どうしてもワクチン接種する際は、このワクチンには『チロメサール』等の水銀を使用しているかどうかを事前に確かめてからにした方が良いでしょう...!!

ガッカリしたのは...

日本小児医学会という、気違い連中のいるところでは....

子供たちに対し今後もっとワクチン接種を増やすよう厚生労働省に求めていく方針なのだとか...!?  
!?!?

その回数、新生児で生まれてから～子供に合計20回余も...!?!?!?

具体的には、ジフテリア、破傷風の2種に加えて百日せきで3種混合を、ポリオ、0歳児に対してインフルエンザ接種量を増やすことなど...!?!?!?

しかも、いっぺんに数多く射てるよう、複数のワクチンを同じ日に射つことを奨めたり...!?!?!?

右腕左腕同時、注射位置を2.5cmづつ空けて同時接種しろ、だと...!?!?!?

ふざけるなーッ...!!!!!!!!!!

日本小児医学会のバカ野郎ッ...!!!!!!!!!!

お前らも、アメリカの言いなり、つまり知らず知らずに△NIMRODの手下になっているんだな  
ア...!!!!!!!!!!

私たち一般市民は、国やマスゴミの言うことをそのまま鵜呑みにするべきではないのです...!!

何故なら、情報操作のために莫大なお金を掛けて人々を洗脳し、社会を無知な状態にしておくのが△NIMRODの常套手段だからです...!!

そして、私たちはワクチンをはじめ更に勉強して、ヤツらの都合の良いようにさせないことです...!!

あなたはどう思いますか...!?

次は、AIDSと新型インフルエンザについて...

～△NIMRODのバベルの塔に怒った神は、人間たちが皆一つの言葉を話しているからこのようなことを企てるのだとし、人間の言葉を混乱させてしまった～

今度は、あなたもよくご存じの恐ろしいウイルスによる感染症…、

エボラ出血熱、エイズ、SARS、新型インフルエンザについてです…!!

まず、エボラ出血熱は…、

1976年に最初に見つかった恐ろしい急性熱性疾患で、そのほとんどがアフリカで発生しています…。

エボラ・ウイルスに犯された血液や体液が、汚物等を通じた接触によりヒトからヒトへ感染が広がったとみられています…。

その死亡率は50～80%と非常に高く、スーダンのヌザラという町では感染者数284人、そして151人が死亡したそうです…。

エボラ・ウイルスの起源は、アフリカ中央部の熱帯雨林帯の動物あるいは昆虫のウイルスがヒトに感染したという説も有るようですが、詳しくは不明だそうです…!?

次に、エイズ(後天性免疫不全症候群)は....

1981年にアメリカの同性愛者に初めて発見されたのが最初で世界中に感染が拡大しています...

ヒト免疫不全ウイルス(HIV)が性行為によって罹る感染症で、これが身体の免疫細胞を破壊して後天的に免疫不全を起こす恐ろしい病気となります...

HIV感染者は、世界中で5,000万人になると云われており、日本の感染者及びエイズ患者は、薬害エイズによる感染者も含めて1万人となっています...

HIVの起源は、アフリカのミドリザルからヒトに感染していったという説も有るようですが、詳しくは不明だそうです...!?

続いて、SARS(重症急性呼吸器症候群)は....

2002年に中国で最初に発症し2003年に香港・東南アジアなどアジア諸国において感染が拡大しています...

SARSウイルスと命名された新種のコロナ・ウイルスが、くしゃみや咳などによって感染し、息ぎれや呼吸困難さらに低酸素血症や肺炎を引き起こします...

2003年現在、32の国と地域で感染者8,422人、死亡者916人が確認されています...

新型コロナ・ウイルスの起源は、ハクビシンあるいはコウモリではないかという説も有るようですが、詳しくは不明だそうです...!?

記憶に新しい、新型インフルエンザ(2009年型/A型H1N1亜型)は....

当初、豚インフルエンザと呼ばれ、2009年4月メキシコで認知されたのを皮切りに世界的に流行拡



大しました…。

メキシコでは感染死亡率が非常に高いと報道されたことから、日本国内でも警戒水準を引き上げたものの、世界中では高い死亡率は示さなかったようです…。

大騒ぎした割には2009年9月の報告では、致死率は季節性インフルエンザ並みかそれ以下の0.045%と分析されたそうです…!?

何故か新型インフルエンザは、小児や高齢者は平気で若い人には感染した…!?

新型インフルエンザの起源は、メキシコの農場で飼われた豚のウイルスからヒトに直接感染したのではないかという説も有るようですが、詳しくは不明だそうです…!?

世界中で広がった、ここ30年の間に発生した恐ろしい感染症…、

エボラ出血熱、エイズ、SARS、新型インフルエンザ…!!

実は、この4つともが、人工的に造られたウイルスによるものだと噂されているのです…!!

ウソッ…!?

誰が、何故、何の為に…!?

あなたは信じますか…!?

もちろん、△NIMRODの連中が手下を使って恐ろしいウイルスを造ったのです...!!

エボラ出血熱、エイズ、SARS、新型インフルエンザは、人口削減が目的です...!!

「無駄飯食い」に死んでもらう為です...!!

とにかく、ヤツらは「人口を削減したい」という気違い連中であることだけは間違いないのです...!!

△NIMRODが進める、人口削減のホロコースト...!!

その目的のために、もう何年も前からアメリカやWHOを使ってホロコースト計画を世界中に進めてきました...!!

アメリカの製薬メーカー等や医者巻き込み、恐ろしい未知のウイルスを密かに造ってバラ撒いたのに違いありません...!!

ある調査によると、SARSは私たちアジアンにのみ感染するように仕掛けられているのだとか...!?

ひょっとしたらエボラ出血熱は、アフリカンだけに罹るのかな...!?

しかし恐らくヤツらは、これらの結果に満足していない筈でしょう...!!

もっともっと大流行して、多くの人間が死ねばいいと願っていることでしょう...!!

4つの恐ろしいウイルスの中で、一番成功したのは....、

やはり、エイズ・ウイルス(HIV)でしょう...!!

「アメリカ陸軍の生物・化学戦研究所センター、フォート・デトリックで人体の免疫システムに関するプロジェクトが生まれ、遺伝子工学的手法によって未知の新型ウイルスが人工的に生み出された。

それが、エイズウイルスである。」

(1984/7/4付 インドの有力紙『パトリオット』より)

ショッキングな事にエイズは...

ポリオ(天然痘)ワクチンにエイズ・ウイルスを植え込み、WHOを使ってアフリカで100万人以上の人々に接種した...!?

【エイズは人工的兵器だった】

エイズの起源の1つの理論はポリオに世界初の大規模免疫に使用される汚染しているワクチンから発達したということです。

この理論がさらなる調査にふさわしいことができるくらいもっともらしい多くの理由があります。

位置は劇的に一致します。

エイズの最も前の知られている症例は中央のアフリカに現れました、コプロウスキーのポリオワクチンが1957～1960年間に100万人の人の上に与えられたのと同じ領域で。

タイミングは一致します。

1959年前に、HIV感染かエイズの記録された症例は全くいません。

奴隷売買の何世紀もアフリカのヨーロッパの開発は他のすべての病気に次に、知られていた状態でアフリカ人と他のものをさらしました。

HIVが存在していたかもしれなくて、アフリカで認識されないで広まっているのは、信じがたいです。

(2008/6/24 『NOW EDU』 より)

### 【生物兵器としてのワクチン】

レナード・ホロウィッツ博士の著書『新種のウイルスーエイズとエボラ』の中で博士は、エイズやエボラ出血熱などの新種ウイルスが、軍の生物兵器研究所で遺伝子改造によって製造された殺人目的の人工ウイルスであることを詳細に渡って述べています。

これらの人工ウイルス製造研究は1960年代からすでに始まっており、1970年代には完成し、世界で増え続ける人口削減のために、肝炎や天然痘のワクチンに混ぜて、WHO(世界保健機構)とCDC(米・疾病管理センター)を通じて接種され、アフリカやブラジル、アメリカで広められたとされています。

これまでに聞いたことのない方には、突拍子もなく聞こえるかもしれませんが、エイズの発生と天然痘のワクチン接種の地域や時期が一致することについて追及を受け、WHOは、誤って普及させてしまったとして、エイズ・ウイルスで汚染された天然痘ワクチンがあることを認め、1992年米・クリントン政権の時に世界中から回収するように指示しています。

WHOいわく、アフリカミドリザルから自然発生し、ヒトに感染したとされる殺人ウイルス・エイズですが、いくら人為的ミスとはいえ、この殺人ウイルスが大量のワクチンに混入することなど最先端の研究施設で医療の専門家の手の元において、あり得ることなのでしょうか。

非常に疑問の残るところです。

また、これらのウイルスの製造に関わったとされる科学者や内部告発者は、実際に殺害されていたり、事故や病気で死亡していたり、また失踪しており、この真相の究明をさらに難しいものになっています。

この事柄については、まだまだ調べていく余地のあることですから、まずはこのような話もある

ということを知っておいてください。

また補足ですが、規模とその方法は異なりますが、国内でも過去にワクチンと同様、医療行為という名目でエイズを感染させるという同様のことが行われました。「薬害エイズ事件」です。

これは1970年代後半から80年代にかけて、エイズウイルスが混入した血友病の治療薬を投与された人たちがエイズに感染し、629名が犠牲となりました。

すでにエイズウイルスの混入の危険性のない加熱性のものが開発された後もそれを知りながら2年間、エイズ・ウイルスを混入した旧非加熱製剤を患者に投与し続けたのです。

これも国内では、人為的ミスとされ和解が成立していますが、実際に誰がどこまで真相を熟知していたのか詳細は、現在でも明らかにされていません。

フランスでも同時期に同様の薬害事件が起きていることから、今振り返ってみると日本の「薬害エイズ事件」も当時、世界各地で起こっていたエイズ・ウイルス拡散現象のうちのひとつであった可能性がみえてくるのです。

(THINKER『知られざるワクチンの罪』より)

やはり...!!

エイズやエボラ出血熱は、米軍の生物兵器研究所で遺伝子改造によって製造された殺人目的の人工ウイルスだったのか...!!

しかも、これらの恐ろしいウイルスを肝炎や天然痘のワクチンに混ぜて...!?

WHOを通じてアフリカやブラジルやアメリカで接種していた(その数は1億人という噂がある)...!?

糞つたれWHOが、ポリオワクチンがエイズ・ウイルスで汚染されていたことを認めた...!?!?!?

ちなみに、1981年アメリカで最初にエイズが発症したのはゲイでしたが、これは前年に同性愛者

たちに対してHIVを肝炎ワクチンとして接種したと云われているのです...!!

本当に酷すぎますね...!!

### 【エイズ・ワクチンの動き】

エイズ撲滅運動と称して、各先進国の政府や製薬会社がエイズ・ワクチンの開発に躍起になっています。

しかし現状は、エイズ患者を治療することよりも、健康な人が感染しないよう予防する方により精力を傾けているようにみえます。

そして、このような事件が起きています。

2004年から米国立保健研究所(NIH)が支援したエイズワクチンの実験で、エイズウイルスの一部を弱毒化した風邪のウイルスに組み込んだエイズワクチンが開発されました。

約3,000人の健常者を対象にしたこの実験で、この新型エイズ・ワクチンを注射された人々は、約2倍もエイズにかかりやすくなることが判明し、2007年9月に実験は中止されました。

エイズは、かからないようにするのが一番です。

かといってかからないように予防のためにエイズ・ウイルスを組み込んだワクチンを健康な体に接種するのは非常に馬鹿げた行為といえるでしょう。

ワクチンの仕組みをよく理解していたら、決して接種しないのではないのでしょうか。

(THINKER『知られざるワクチンの罪』より)

上記のエイズ・ワクチンを射つと、約2倍もエイズにかかりやすくなる...!?!?!?

もうワクチンは何にも信じられなくなりました...!!

～バベルの塔が建つ△NIMRODの街を造る計画に怒った神により、人々の世界は6,000にも及ぶ多くの言語に分けられたのである～

世界中の人々を震え上がらせる感染症、エボラ出血熱、エイズ、SARS、新型インフルエンザは…、

すべて人工的に造られたものです…!!

それは世界の人口削減を目的に、△NIMRODの連中によって仕掛けた恐ろしい生物兵器なのです…!!

特に許せないのは、HIVを天然痘のワクチンに混ぜてアフリカに住む大勢の人々に射っていた事実…!!

何故なら、ワクチンを射った地域とエイズが発症した地域がピッタリ一致するのです…!!

ガッカリするのは、WHOすら人口削減に加担しているらしいということ…!!

そして、ワクチン接種をした者が発病するというトンデモないことが起きていたのです…!!

こうなると、恐ろしいウイルスとワクチンはパッケージの罠が仕掛けられていると疑われても仕方ないでしょう…。

あなたは、この話をまだ信じないのですか…!?

△NIMRODの進めようとしている近未来では、各種ワクチン接種が義務付けられ....、

ワクチンを拒む者はブタ箱に入れられるとか、一度着けたら二度と外せないブレスレットを腕に  
詰められるのだ、という噂まであるんですよ...!!

何と、「新型インフルエンザは俺が造ったんだよ」なんて公表している人物も居ます...!?

その人の名は、ジェフリー・タウンベンバーガー博士という気違い科学者です...

【ジェフリー・タウンベンバーガー：「新型豚インフルエンザ」を人工的に作製した張本人】

要するに、今回の新型インフルエンザは「豚インフルエンザ」という誤った名前が付けられているが、実際には「豚インフルエンザ」、「鳥インフルエンザ」と「人間の季節性インフルエンザ」の組み合わせによって人工的に作られたものである。

それゆえ、一向に「豚には感染しない」という現実があるのだということである。

また、最初に研究開始したのが米軍のバイオ研究所内であり、それが元ナチの残党が作ったスイスのノバーティス(日本で言えば、731部隊の残党が作ったミドリ十字のような会社、ここがエイズに汚染した血液製剤等の配布メーカー)へ送られたというのだ。

その後どうなったか?と言えば、いつしかメキシコから「新型インフルエンザ」として世界中に流出した。

(2009/9/10井口和基博士のサイト『quasimoto.exblog.jp』より)



ところで、このジェフリー・タウンベンバーガー博士のことを調べていくうちに、ある興味深い記事に遭遇しました…。

それは、『スペイン風邪』に関する驚愕の事実です…!!

彼は高度にDNAを調査する技術を使って、かつて世界中に蔓延した恐ろしい感染症である『スペイン風邪』のウイルスを調べてみたというのです…!!

その結果は…!?

『スペイン風邪』は、第一次大戦の真っ只中の1918～1919年に発生した感染症で、瞬く間に全世界に猛威を振るったと伝えられています…。

恐ろしい『スペイン風邪』に罹った人々は次々に倒れ、世界の感染者は約6億人、死者2,000万人以上、日本では40万人以上の人々が死亡、なかには西郷隆盛の息子や皇族の方など著名な方々も命を落としたとされています…。

例えば風邪を引くとマスクを着ける習慣があるのは、この『スペイン風邪』の恐怖から現代でも受け継がれているのだとか…。

という事は、『スペイン風邪』の病原菌は、きっと史上最悪のウイルスかも知れませんね…!?

ジェフリー・タウンベンバーガー博士が、『スペイン風邪』で死んだエスキモーの遺体からDNAを調査したところ…!?

『スペイン風邪』の正体は、鳥インフルエンザ・ウイルス(A型H1N1亜型) でした...!?

今回の新型インフルエンザと大差ないのに、なぜ当時は大量の死亡者を生んでしまったのでしょうか...!?

一般的には、発症の起源は全く不明とされている様ですが...

実は、最初に『スペイン風邪』が発症した場所は、アメリカの軍隊からだったのです...

しかも重傷化させた本当の犯人は、ワクチン接種らしいのです...!?!?!?

その事実を物語るのが、次の記事です...

【1918年のスペイン風邪の伝染は予防接種が原因だった!】

『私は1918年のスペイン風邪の流行の現場を目撃した。』

1918年のスペイン風邪が流行したときに生きていた医師や一般の人々は、それが歴史上、世界中で起きた最も恐ろしい病気だと口を揃えて言っている。

体力のある元気旺盛な男たちが、発病して、翌日には突然死亡していた。

その流行病は黒死病(ペスト)の特徴に加え、チフス、ジフテリア、肺炎、天然痘、麻痺、および、第一次世界大戦直後に人々に接種されたすべてのワクチンの病気の特徴をもち合わせていたのだ。実際に、人口に占めるほとんどの人たちが、1ダース(12)以上の病気の「種を植え付けられた」予防接種を受け、または毒性の血清を体内に注射をされたのだ。

そして、人々がそれらの当時の医者によって作られた病気を一斉に発症し始め、悲劇的な事態へと発展したのだ。

その流行病は、当時の医師たちが、症状を抑圧しようとしてさらに投与した有毒な薬物によって勢いが保たれ、2年間にわたって続きました。

私を知り得た限りでは、予防接種を受けたことのある人しかそのスペイン風邪に罹らなかった。予防接種を拒んだ人たちは罹らなかった。私の家族はすべての予防接種を拒んだため、その流行病の間ずっと元気だった。私たちはグラハム、トレール、ティルデンらの健康についての教えから、体内を毒物で汚染することが必ずや病気につながっていくことを知っていたのだ。

そのスペイン風邪の流行がピークに達したとき、すべての店、学校、事業が閉鎖された。そして、医師たちや看護師たちもワクチンを接種うけており、そのスペイン風邪に罹っていたため、病院も閉鎖されていたのだ。街中の道路には人っ子一人いなく、まるで廃墟の町のようにだった。どうやら私の家族だけがその風邪に罹らなかった。当時医師の往診を受けることが不可能だったため、私の両親が家を一軒一軒回ってできる限り病人の世話をした。細菌、バクテリアや病原菌が病気を引き起こすことが可能だとしたら、一日何時間も病人と一緒に過ごしていた私の両親を襲う機会は山ほどあった。しかし、私の両親はスペイン風邪には罹らず、また私たち子供たちに悪影響を及ぼす細菌を家に持ち帰ることもなかった。当時は地面に雪が積もった冬でしたが、私の家族は誰一人もスペイン風邪に罹ることなく、鼻をグスグスすることすらなかった。

近くでくしゃみしたり、咳をしたりしている人を不快に思って身をすくませている人をみると、私はその人がその病気(それがなんであろうと)に感染することはないことにいつ気づくのだろうと思ったりする。ある病気に罹る唯一の方法は、誤った食事、飲酒、喫煙、または、体内の中毒を引き起こし、活力を低下させる行為をすることでその病気を自ら発症することだからだ。すべての病気を予防することが可能であり、そのほとんどが一当時の医師に知られていない、また薬物を使用しない治療家の全員にも必ずしも知られていない一正しい方法を用いれば治療できるのである。

1918年のスペイン風邪は世界中で2千万人の人々が死亡したとされている。しかし、実際には、彼らは、当時の医者による、未熟でひどい治療や、薬物によって亡くなったのだ。これは厳しい告発ですが、薬物を処方しない治療家と薬物を処方する当時の医師の成功率を比較すると、それが事実なのが明らかである。

当時の医師及び病院が抱えていたスペイン風邪患者の33%の死亡率と比較して、薬物を処方しない、バトルクリーク、ケログやマクファデンの治療院では、水療法、入浴、浣腸、断食やその

他のシンプルな治療方法の後に献立を綿密に工夫された自然食の食事によって100%近い治療率を達成していた。

ある治療家は8年間で1人も患者が死亡することがなかった。

薬物投与をしなかった治療家のうち、患者を治療に導き、1人も死亡させることがなかった治療家の治療法について、本書の他の章で「有罪な予防接種」というタイトルで後に出版予定である。

もし薬物を使用する当時の医師たちが薬物を使用しない当時の治療家と同じぐらい進歩していたなら、当時のスペイン風邪によって2千万人も死亡者が出なかつたらう。

予防接種を受けていない市民と比較して、予防接種を受けている兵士の方が7倍も病気に罹っていた。

私が、海外から1912年に帰国したある兵士から聞いた話によると、軍の病院が小児麻痺の症例でいっぱいになっていたとのことだった。

その兵士は何故成人した男性が乳児のかかる病気に罹っているのかが不思議だと言っていた。このことにより、私は、それらの麻痺がワクチンによる中毒の後遺症だということが分かったのだ。

戦争に行かず、家を守っていた人たちは、1918年の世界的な予防接種のキャンペーンの後に、初めて麻痺の症状を発症していったからである。

(1977年刊『明るみに出た豚インフルエンザの真実』(アメリカ)Eleanora I. McBean, Ph.D., N.D著、ロイヤル・アカデミー・オブ・ホメオパシー訳より)

ウソッ...!?

この著書によれば、当時ワクチン接種した人は『スペイン風邪』に罹って死んだ...!!

その反対に、ワクチンを射たなかった人は『スペイン風邪』に罹らなかった...!?

さらに、こんな記事も...!?

## 【スペイン風邪と腸チフスワクチン】

『1918年のスペイン風邪はワクチンによって起こされた』

医者たちが腸チフスの症状をより強力なワクチンで抑えようとして、パラチフスというより悪い形の腸チフスの原因となった。

しかし、その病気を抑えるため、より強力でより危険なワクチンを作ったら、名前を付けられないほど悪い病気を誘発した。

その病気はどう呼ばれるべきか？それが本当は何であるかを人々に告げることは望まれなかった。

自分自身のワクチンと抑制薬で作ったフランケンシュタインの怪物だったからだ。

彼らは自分たちに向けられる責任を別のところに向けたかったので、それをスペイン風邪と名づけたのだ。

その病気は、全くスペインで生まれたものではない。

スペイン国民は、当時の世界中の災難が自分たちに向けられるということに対して憤っていた。

しかし、その名前は確定して、アメリカの医者とワクチンメーカーはこの世界中に広がった惨状である1918インフルエンザ・パンデミックという犯罪に関して疑われることはなかった。

研究者が事実を発掘して、その事実の元に非難を向けるのは最近になってやっとである。

(2009/9/2 デーヴィッド・アイクの情報『スペイン風邪と腸チフスワクチン』より)

ワクチン接種した者が『スペイン風邪』に罹って重傷化したというのは、どうやら本当のようです...!!

しかも、そのワクチンが最悪のパラチフスを作りだして、恐ろしい勢いでヒトを殺す...!!

『スペイン風邪』から100年近くが経つというのに、アメリカはこの事実を隠し続けています...!!

『スペイン風邪』の犯罪は...

本来、人々の健康を守るべき存在のワクチンが、人間を抹殺する生物兵器となるという...

史上最悪の実験だったのです...!!!!!!!

私には、今回の2009年の新型インフルエンザが...

『スペイン風邪』の再来を狙ってバラ撒かれたような気がしてならないのです...

あなたはどう思いますか...!?

## 【速報】青い目のサムライが斬る!!

---

311東日本大震災の真相を知って下さい...!!

これは戦争行為です...!!

私たちの国にとって、まさに非常事態なのです...!!

どうして日本が、こんな国になってしまったのか...!?

どうして世界が、こんな状況になってしまったのか...!?

誰のせいなのか...!?

青い目のサムライは、こうした全ての疑問に答えてくれています...!!

今、世界中が△NIMRODの連中によって混乱させられています...!!

TV・新聞マスゴミは、ヤツらの都合のいい報道しか伝えてません...!!

ですから、あなたにも世界の裏側で何が起きているのかを知って欲しいのです...!!

もしかすると、このピンチを生かすことによって....、

私たちの日本そして世界中が、△NIMRODの支配から解放されて....、

本当の意味で独立国家を構築出来る、最大のチャンスかも知れないのです...!!

この内容を信じるか信じないかを判断するのは、あなた自身であることは言うまでもないことです...

しかし、彼の言葉にじっくり耳を傾けてみてください...

この動画が消去される前に早く観てください...

この情報を、なるべく多くの方に知って貰いたいと私は思います...

国家非常事態対策委員会 1/17 ダイジェスト版 奴隷解放運動と独立国家!!

→[http://www.youtube.com/watch?v=gtAJF5jU\\_BU](http://www.youtube.com/watch?v=gtAJF5jU_BU)



## 威風堂々[14] 『△NIMRODの自己欲で固められた世界統一政府の計画!?!』

---

～△NIMRODのバベルの塔がある都市計画は途中で中断、神によって人々は各地に散らされたのである～

### 【兵器としてのワクチン】

「かつて、ヘンリー・キッシンジャー博士が『兵器としての食料』というキチガイ論文を出したというが、いつしか偽ユダヤ人のフリーメイソンNWO一派は、この世界の商品すべてを兵器化するというアイデアを思いついたのである。」

「それ以来、『兵器としての薬』、『兵器としての歯磨き』、『兵器としての自動車』、『兵器としてのワクチン』、『兵器としての缶詰』、『兵器としての水』、『兵器としての産業』などなど、ありとあらゆるものを『兵器化』して考えるようになったのである。」

「そんなわけで、確かに最初のワクチンには薬としての本来の目的があったが、その利便性や必需性から、もしこの中に毒やウィルスを入れれば、万人を短命化できるのではないかという、悪魔のささやきから逃れることができなかつたのである。」

(井口和基博士のサイト『[quasimoto.exblog.jp](http://quasimoto.exblog.jp)』より)

私も本当は信じたくはないのですが....、

世界中の人々を震え上がらせる、エボラ出血熱、エイズ、SARS、新型インフルエンザのウイルスは、じつは人工的に造られたものだったので...!!

何故そんなものを造ったのかと一般人には理解に苦しみますが、それら全てが世界の人口を削減するのを目的に生んだと考えざるを得ないので...!!

一般市民どもが次々に悪魔のウイルスに感染して、何億人も消えてくれればいいのにと願っている筈なのです...!!

どうしてそこまでヤツらは冷酷になれるのか...?

それは、自己欲の固まり連中である、△NIMRODだからなのです...!!

ヤツらは何千年も前から、エルサレムを首都とする『世界統一政府』樹立に向けて凄惨な執念を燃やしてきました...!!

その目的の為なら、ありとあらゆる手段を講じる事を厭わない気遣いの集団なのです...!!

では、△NIMRODとは何者なのか...!?

△NIMRODの連中が時折集まって話し合うのは、ビルダーバーグ会議、外交問題評議会、王立国際問題研究所などで、その主催者はデヴィッド・ロックフェラーとのことです...!!

存在は公式には確認されていないものの、300人委員会、33人評議会、13人評議会などの組織があると云い、イルミナティ陰謀論やフリーメーソン陰謀論もこれに含めて考えることがあります...!!

ロックフェラー一族ら世界のほんの一握りのエリートたちが、国境や国籍を越えて手を組み...

各国の政府を牛耳っては、世界を思うがままにコントロールしようとしているのです...!!

それは勿論、『世界統一政府』樹立を目指してです...!!

こんな事を書くと、興味のない方にとってはまるで想像の世界みたいに聞こえるかも知れませんが、それもその筈です…。

何故なら、私もあなたもこれまで長年ヤツらの都合の良い情報しか与えられて来なかったから、まさか世界の裏側でそんな悪巧みが蔓延っていたなんて想像も出来なかった事でしょう…!!

でも、これは紛れもない事実なのです…!!

歴史を振り返ってみても、近代に於ける世界情勢はつねに帝国主義の白人による世界支配が進められてきたことは誰の目にも明らかです…。

イギリス・オランダ・スペインが世界を植民地支配してきた時代から、バトンタッチしたアメリカに主導権が代わっただけと言っても過言ではないと思います…。

第二次世界大戦をきっかけに軍事産業を増大させ、その後は世界一の軍事力にものをいわせて世界に勢力を広げてきたアメリカ…。

実はその一方で、ロックフェラー財閥を中心とする金融マフィアがいつの間にかアメリカを乗っ取りはじめていたのです…!!

世界最強を誇る米軍の軍事力を筆頭に、金融、エネルギー、食糧、医療、マスゴミに至るまでアメリカのあらゆる分野はヤツらが支配していきました…!!

その後の米ソ冷戦時代の終焉後のアメリカが、露骨にイスラエルを支援するようになったのは隠しようのない事実ですから…!!

そのアメリカを使って、△NIMRODは『世界統一政府』の計画を強引に進めてきたという訳なのです…!!

但し、△NIMRODの連中の計画はあまり上手くいってないと思われるのです…。

第一に、世界の人口の増加ペースが予想を上回る勢いだということ…!?

ヤツらにとって、現在の世界70億人の人口は多過ぎるらしいのです…!!

ですから、「食糧が足りない」「エネルギーが足りない」「CO2で環境が破壊される」「ワクチン接種は必要です」といったパンデミックを流したがるのです…!!

では、本当に食糧もエネルギーも足りないのでしょうか…!?

CO2で環境が破壊されるのでしょうか…!?

いい加減に目を覚まして下さいね…!!

いつまでヤツらのウソ、ホラ吹き、でっち上げに騙されてるんですかッ…!!

「食糧が足りない」「エネルギーが足りない」「CO2で環境が破壊される」「ワクチン接種は必要です」というのは、全部デタラメなんですよ…!!

例えば、世界70億人の人が全員、北海道に集まったとして計算すると…、

何と、1人当たり12平方mも割り当てられるそうですよ…!!

食糧に至っては、現在世界で生産されている量を70億人で割ってもかなり余るくらいなんですってよ…!!

世界中で、底をついて枯れた油田は、未だかつて無いそうですよ...!!

石油は天然資源だから、燃やしても環境破壊にはならないと唱える学者もいっぱいいるそうですよ...!!

まだまだ見つかってない油田があるとも云われてるんですよ...!!

こんなこと、あなたをご存じでしたか...!?

地球温暖化がホラ話だってことは、もう常識ですよ...!?

世界中で製産されるものに炭素税をかければ、かなり儲かる仕組みらしいけど...!?

ですから....

「食糧が足りない」「エネルギーが足りない」「CO2で環境が破壊される」「ワクチン接種は必要です」というのは、

△NIMRODの連中の勝手な都合によるもので、すなわち自己欲で固められた世界統一政府の為の一種の策略だということです...!!

とにかく、△NIMRODの連中が最もやりたいのは、人口削減です...!!

だからヤツらは、恐ろしいウイルスをワクチン接種でこれでもかと私たちにバラ撒いたりするのです...!!

第二に、中東の侵略戦争も計画よりだいぶ遅れていること...!?

ブッシュ時代に、911同時多発テロをでっち上げて中東に踏み込む口実を作ったことは、もう有名な話ですね...!!

しかし、アフガニスタン侵攻とイラク戦争で米軍の軍事費が底をついてしまい、リビア攻略はアメリカに代わってNATOが行いましたが...!?

本来なら、とっくの昔に中東諸国は米国の支配下に落ちている筈だったのかも知れません...!?

中国をはじめ、もうアメリカの強引なやり方に嫌気が差している国がごまんという筈ですが、現在はイランに対してあの手この手で嫌がらせをしています...

西側諸国と結託して経済封鎖を支掛けて、イランを怒らせようとしていますね...

△NIMRODの連中は、イスラエルとイランを戦争させたいと考えているのですが...

しかし、賢いイランはアメリカの挑発には乗ってきません...!!

イラン頑張れと、私は応援したいです...!!

中東に紛争を起こしたいのも、本当の目的は大戦争に発展させて全世界を巻き込み...

結果的に大勢の人々に消えてもらい、その後の『世界統一政府』樹立を目指しての事なのです...!!

『△の策略、どうする?』

---

近頃は、一般の人々が...

「この世界は、何か変だ?」と、感じるようになりました...!!

「私たちは、騙されている?」と、気付くようになりました...!!

「闇に、支配されている?」と、渋々認めだしました...!!



でも私たちが気付く、ずっとずっと以前に....

△NIMRODの連中は、昔から『世界統一政府』の計画を進めていたのです...!!

『△の策略、どうする?』

あなたは勿論、気付いてましたよね...!?

ヤツらにとって、現在の世界70億人の人口は多過ぎるらしいのです...!!

「食糧が足りない」

「エネルギーが足りない」

「CO2で環境が破壊される」

「ワクチン接種は必要です」

という嘘をでっち上げたのは、ヤツらの勝手な都合によるもので...

すなわち、『世界統一政府』樹立のための策略だったのです...!!

『△の策略、どうする?』

それでもあなたは、見て見ぬフリをするのですか...!?

炭素税と温暖化詐欺(世界政府)

→<http://www.youtube.com/watch?v=WrlQQXeCkhQ>

世界政府

→<http://www.youtube.com/watch?v=8WHpJhdMHIA&fea..>

都市伝説 50年後の未来 信じる信じないはアナタしだい

→<http://www.youtube.com/watch?v=zf9FdnIFKSY&fea..>



【速報】横田めぐみさんはおかんです!

---

知らないのは日本人だけ!

マスメディアでは絶対伝えられない衝撃的事実と立証!

～彼は誰の子か?～

隣国への「不幸願望症」の人に贈る、北朝鮮の虚実!

思わず唸る、あまりにスリリングな国際インテリジェンス!

『横田めぐみさんと金正恩(キム・ジョンウン)』

著者：国際アナリスト 飯山一郎

発行：三五館

発売日：2012/1/20

■7年以上も前から「三代目は金正恩」と言い続けてきた、日韓中の三賢人が解く「金王朝の正体」!

■マスメディアでは絶対伝えられない「北朝鮮の虚実」と、その立証!

◎本書を読むにあたり、大切なこと!

東アジア(中国・韓国・北朝鮮・日本)に関してピカイチの情報網を有すると伝説的に有名な著者の、初めての出版。

以前よりペーパーレスを標榜してきた環境原理主義者であり、ブログの大王と尊崇されてきた著者が、自らの禁を破ってまで表明せざるをえない「事象」の数々は、歴史的に重いものとなるだろう。

本書の「事象」への驚きを味わう前に、エサのように与えられている情報という「常識」でしか判断してこなかった、この現実には哀しみと恐怖を持っていただければ、本書は数倍、数十倍の糧となる。

◎本書の中の「事象」の一端・横田めぐみさんは今も生きている!

■誰も言えない「めぐみさんと金正恩」の関係・キーマン呉克烈という老軍人に注目!

■金正恩は筋金入りの軍人であり、諜報のプロだ

■金正恩が握る超小型爆弾の性能を探る

■済州島から丸見えの北朝鮮であった

■タングステンとウランで大儲けする北朝鮮

■金正恩は胡錦濤とサシで朝食を摂る間柄

■大韓航空機爆破工作の準備期間の出来事

■平壤で活躍する在朝日本人と移住イスラエル人の行方

■胡錦濤も温家宝も習近平も、金正恩のために働く

著者について

◎飯山一郎

1946年栃木県真岡市出身。立教大学卒業。元上海鉄道大学教授。国際アナリストにして、エコ推進実践家、発明家、古代史研究者、化学者、株式売買指南役、平和主義者……と、超のつくマル

チ人間。農業と環境の21世紀を見据えたバイオ技術の研究に注力し、1999年には自ら発明した「グルンバ・エンジン」による乳酸菌・発酵菌の大量培養法を確立。この技術が求められ、日中韓を忙しく飛び回る現在だ。「光合成細菌&乳酸菌」での「放射能浄化」にも救国の期待がかかる。

飯山一郎のLittleHP

→<http://grnba.com/iiyama/index.html>

横田めぐみさんはおかんです...!

2012年最初の大スクープかも知れませんね...!?

まだこの情報をご存じないでない方は、ご自身で調べてみて下さい...。

## 威風堂々[15] 『△NIMRODのエンド・ゲームは、全人類奴隷化計画!?!』

---

～△NIMRODの地は「混乱(バラル)の町」の意味から、バベルと呼ばれるようになった～

△NIMRODの連中は、何千年も前からエルサレムを首都とする『世界統一政府』樹立に向けて凄い執念を燃やしてきました...!!

アレックス・ジョーンズ氏が2010年に制作したムービーには、ヤツらの陰謀が克明に描かれています...!!

信じがたいほどに利己的な計画に、思わず反吐を催しそうになります...!!

ここからは文章のカタチにて、その内容を数回に分けてお伝えしたいと思います...!!

「数え切れないほど多くの人々は新世界秩序をひどく嫌い、そして、それに反対し抗議して死んでいくだろう。」

The New World Order 1939年 H.G.ウェルズ

「私は議会委員会の前に運動について、知っていることを伝えるために来た。」

運動はファシスト政権を作るという方向と言えるかもしれない。」

「誤ったところにある力がひどく増大する可能性は存在する、そして持続する。」

「～秘密主義～という語は、自由な開いた社会において嫌われる。  
そして、私たちは人として本来的に歴史に秘密結社、秘密の誓約、そして秘密の議事に反対してきた。」

J.Fケネディ

「ブッシュ大統領は慣例に従った契約に調印した。  
その契約は我々が知っているように、米国を終焉へと導くものである。  
しかも彼は議会、国民のいずれからも承認をとらなかった。」

「世界の力を持つ支配階級による秘密組織は、もう～秘密～じゃない。」

「それはビルダーバーグ・グループとして知られている。」

彼らの目標は世界征服なのか?」

ジム・カッター氏

「ビルダーバーグを30年追いつけている。

私は決して追求を諦めない。

全世界に対するビルダーバーグの計画は、まさに『世界政府』を作ることだ。

まことに不愉快である誰かこの計画を実行する人たちを選んだんだ。

エリート(支配・指導階級)である彼らは利己的な利害から、彼らが世界を回していくべきだと考えている。

新世界が迫っているのが見えてきた、NWOの可能性が非常に大きい世界。

ビルダーバーグの世界政府に向かって大きく前進している。

常識のある公衆だけが彼らのフィールドに立って阻止することができる。」

「デヴィッド・ロックフェラーは、彼の自叙伝で合衆国を破壊したということを認めている!  
彼は反逆者だ!」

「外交評議会に戻ってこれで良かった。

ピートが言及したように私は長い間メンバーである。

実際、いくつかの期間管理職であった。

私はワイオミングで再選するよう活動を行っている時、そのことを一度もアピールしなかった。

」

「突飛な陰謀論を決して許容するな!」

ジョージ・ブッシュ

ジム・カッター氏

「テキサス横断高速道路は重要拠点だ。  
なぜならそこを封鎖すると、ここテキサスでNWOを止めることになるからだ。  
ことはここから始まった。  
そしてこの国を守るため、この最低なも(政府土地差し押さえ)のをここで潰す。」

「よりよい流れの為に強行」

ニューヨークタイムズ1932/08/23

「米国大統領には彼の父親が使用したあるフレーズを持ち出す可能性がある。  
それは新世界秩序(NWO)だ。」

「あなたのNWOは失敗するだろう!」

人類があなたの計画を破る！  
1984に対する答えは1776だ！」

アレックス・ジョーンズ

ALEX JONES PRESENTS

END GAME ～Blueprint For Global Enslavement～

【エンド・ゲーム ～全人類奴隷化計画～】

近い将来、世界は強大な世界政府によって支配される。

すぐに地球市民は、ごく少数のエリート層の奴隷になる。

真っ暗な新世界の夜明けは、人類のすぐ側まで迫っている。

国家は過去の遺物となる。

あらゆる独立を支持する体系は攻撃される。

家族、そして自身のアイデンティティさえも、消滅の危機に瀕する。

世界人口の80%近くが減らされる。



開放された地球市民の残りは、完全監視下にある狭い監獄のような都市で住むことを強制される。

行動範囲は大幅に制限される。

高速道路網が巨大都市をつなぎ、人々が許可されていない地区へ出入りするのを禁じる。

いつなんどきプライベートというものがなくなる。

AIとスパコンが全活動を記録し分類する。

無慈悲な市民制御中毒者の一味によって支配された刑務所惑星において、下克上など為し得ない。

これが世界のエリート層の理想郷である。

彼らの最終目標である。

暴君の圧政術を法とする、全ての人間性を抹殺計画である。

世界の統制機構は、永遠にエリート層の権力が確実に独占し続けられるように設計された。

人類はこの悪夢である未来について、非難されるだろう。

もっとも、大衆がNWOの本当の計画に気付いて、それを阻止するために行動しなければの話だが。

秘密組織の手によって建てられた現代の十戒は、

世界の宗教、世界の法、そしてそれを執り行うための法廷となる。

軍隊をつくるための世界のエリートたちの、計画の教本である。

そして石によると世界の人口は、5億以下とされている。

この動画で、世界が本当はどのように統治されているのかを知るだろう。

「円卓の秘密組織」が世界規模の情報網形勢のためにどう連携を取るのかを知るだろう。

この組織は何百年もの間、地球の歴史の舵取りをしている。

そして今、計画は最終段階にある。

世界政府を開設する準備をしている。

歴史上の暴君が皆、目指した最終形態である。

(アレックス・ジョーンズ『エンド・ゲーム ～全人類奴隷化計画～』より)

【映画】『△の理想郷はバベルの塔がそびえ立つメトロポリス』

---

近い将来、世界は強大な世界政府によって支配される。

すぐに地球市民は、ごく少数のエリート層の奴隷になる。

真っ暗な新世界の夜明けは、人類のすぐ側まで迫っている。

国家は過去の遺物となる。

あらゆる独立を支持する体系は攻撃される。

家族、そして自身のアイデンティティさえも、消滅の危機に瀕する。

世界人口の80%近くが減らされる。

開放された地球市民の残りは、完全監視下にある狭い監獄のような都市で住むことを強制される。

行動範囲は大幅に制限される。

高速道路網が巨大都市をつなぎ、人々が許可されてない地区へ出入りするのを禁じる。

いつなんどきプライベートというものがなくなる。

AIとスパコンが全活動を記録し分類する。

無慈悲な市民制御中毒者の一味によって支配された刑務所惑星において、下克上など為し得ない。

これが世界のエリート層の理想郷である。

(アレックス・ジョーンズ『エンド・ゲーム ～全人類奴隷化計画～』より)



ゾツとする△NIMRODの『世界統一政府』は…、

まるで…、

映画『メトロポリス』の世界そのものです…!!

『△の理想郷はバベルの塔がそびえ立つメトロポリス』なのでしょうか…!?

ユダヤ人フリッツ・ラングが1926年に制作した、映画『メトロポリス』…!!

2026年の未来都市を舞台にしたこの映画は、その描写に圧倒されます…。

天にも高くバベルの塔の如くそびえ立つ高層ビル、夜には眩いばかりに光り輝く魅力的な都市メトロポリス…。

その心臓部では巨大な歯車が動いています…。

高速道路ではひっきりなしにクルマが行き交い、空には小型飛行機が飛んでいる…。

この華やかな地上部には、一部のエリート層が住んでいる…。

その一方で、地下の監獄のような場所では、労働階級の人々がまるで機械のように働かされている...

メトロポリスの最高権力者は科学者に命令して、自分の妻をモデルにしたアンドロイドを造らせた...

このアンドロイドに労働階級を統治させようという魂胆...

権力者の息子は父のやり方に反発するが、父は息子の言うことには耳を貸さない...

息子の恋人マリアは、バベルの塔の話を労働者のみんなに説いて労働階級の支持者的存在になっている...

マリアの存在が許せない権力者は、アンドロイドをマリアの姿に造り直し、地下へ送り込んだが...

映画『メトロポリス』

<1926年／ドイツ映画／製作：ウーファ>

監督：フリッツ・ラング 脚本：テア・フォン・ハルポウ

Metropolis 1/12

→<http://www.youtube.com/watch?v=t02BgaRLzB0>

Metropolis: Maria's Transformation (1927)

→<http://www.youtube.com/watch?v=lcReykvqi4&fea..>

メトロポリス ジョルジオ・モロダー版

→<http://www.youtube.com/watch?v=ntf0PVfxqFM&fea..>

Freddie Mercury - Love Kills (Metropolis) (HD) (1927) (Final)

→<http://www.youtube.com/watch?v=UUwakwHrVEo>

～△NIMRODを溺愛していた父クシュは、魔法の皮を彼に与えたとユダヤ人の伝説にある～

マイケル・コフマン博士は、生態系研究、森林生態学、生態系分類を専門とする著名な生態学者である。

コフマン博士は米国議会において、生物多様性条約の批准を防ぐ際に重要な役割を果たした。

～全地球的生物多様性評価～

「新世界秩序という概念は何世紀も前からあった。  
それが、20世紀後半にもものすごい勢いで押し進められた。  
ブッシュ大統領(シニア)はスピーチでそれを頻繁に使用した。  
そして、新秩序を目にしたことを強くほのめかした。  
人類が全世界的な政府を持っていて、地球上の全人類が世界的な規模の政治で統治されている状態だ。」

マイケル・コフマン博士

「すごい構想なんだ、それは『新世界秩序』!」

ブッシュ大統領(シニア)

「ブッシュ大統領(シニア)は新世界秩序の時代が来ていると言った、彼らはそのために動いていた。  
。国連はその政府の一部だ。  
今は北米共同体の建設に向けてとても熱心に活動している。  
それが米国政府の多くの人が国境を重要視しない理由だ。  
彼らには、国家主権が重要でないという哲学的な信念がある。  
またそれは、国防のために国連に加盟しておく必要はないという大胆な提案を私がした理由だ。  
」

共和党 ロン・ポール議員

「本当にいつの時代も同じである。  
ローマ帝国、ソ連、ヒトラーのナチズム、いつも一般人のために理想郷を作ると言うが。  
歴史を見ればわかるように、実際は正反対である。」

マイケル・コフマン博士

～世界主義の古代起源～

文明の誕生と共に征服と帝国は生まれる。

バビロン、エジプト、ギリシア。

彼らは皆、世界を制するもくろみで帝国を建てた。

ローマ帝国はピーク時、当時認知されていた世界の全ての範囲を支配した。

複雑な政府のシステムは、様々な人口を統制するために作られた。

15～19世紀、新しい帝国が出現し、再び絶対的権力を手にするため戦った。

貴族階級は大商人と同じように一握りのプライベートバンクによって融資された。

多くの大金持ちの家は、儲け金を分散投資して危険を防ぐため戦争時、両側に融資した。

複雑な情報収集網は金融家たちに、徐々に支配しつつあった政府のはっきりとした輪郭を与えた。

1815年6月18日、英国のロスチャイルド家から派遣された者は、ナポレオン・ボナバルト皇帝が苦戦を強いられているのを見た。

英国とプロイセン連合軍による挟み撃ち攻撃により自軍を守る窮地に陥っていた。

使いの者によりネイザン・ロスチャイルドは、ナポレオン敗北の情報を得た。

ナポレオンがウェリントン卿に負けたというニュースが、ロンドンに到着する丸々20時間も前に、である。

ロスチャイルド家の英国勢力代表であったネイザンは、ナポレオンが戦争に勝ったという噂をロンドン証券取引所に流した。

株は98%急落した。

そしてペニーの価格でポンドを買い込めたため、ロスチャイルドは英国経済丸ごと全部を買うことができた。

ナポレオン敗北のニュースが到着したとき、株は急上昇した。

すでに強大であった大英帝国は、さらに精力的に拡大していった。

英国の軍事的・政治勢力は、全世界に拡大していった。

‘ 太陽の没する所のない ’ 大英帝国。



「銀行家カルテルは実際に1800年頃以降、ほとんどの戦争で両側に融資した。そしてもちろん、銀行家たちは彼らが誘導し、引き起こるの後押しした戦争で政府へ貸し付けを行い、利子を得た。」

マイケル・コフマン博士

1900年までに、ドイツが力をつけてきており、第二次産業革命のリーダーであった。

「例えば、第一次世界大戦。  
第一次世界大戦を勃発させる理由なんて全くどこにもなかった。  
戦争時、両側に資金を融資することによって、大量の利益を得る銀行家カルテルにとって絶好の機会であったのを除いて。」

マイケル・コフマン博士

1914年6月28日、オーストリア=ハンガリー二重帝国の皇位継承者オーストリア大公フランツ・フェルディナントがサラエボで暗殺された。

仏国と英国の諜報機関と関わりを持つセルビア民族主義組織「黒手組」は自分たちの手柄にした。

第一次世界大戦が開戦した。

ドイツ、フランス、英国、オーストリアのロスチャイルドによって操られた銀行は、戦争の全ての派閥の兵器会社に融資した。

最低でも2,000万人が戦争で死んだ。

とてもひどい戦争だった。

人々は二度と戦わないと誓った。

‘ 全ての戦争を終わらせる戦争 ’ と名付けた。

「問題は、どうして銀行家たちは戦争を必要としたのか。

まずひとつとして、富と権力だが。

第二に、彼らは国際連盟を創設したがっていた。

彼らはずっと前から連盟の案をもっていた。

実際、世界大戦が終わるとすぐに、国際連盟という構想を実行に移した。

だからあんな世界大戦なんて、二度と起きないだろう。」

マイケル・コフマン博士

何百年もの慣例で英国は本当の支配者を傀儡(かいらい)政権と議会の裏に隠すプロになった。

二度と戦争を起こさないために、という名目で彼らは全世界の国々が国際連盟に加わるように提案した。

彼らの本当の目的は、連盟がのちに世界政府として機能するようになることだった。

1913年に連邦準備制度を作るのに積極的であったウッドロウ・ウィルソン米国大統領は、国際連盟の設立を強く支持した。

「ウッドロウ・ウィルソンはとても世間知らずな大統領であった。  
元々は大学教授で、この体系の中に連れてこられた。」

マイケル・コフマン博士

(アレックス・ジョーンズ『エンド・ゲーム ～全人類奴隷化計画～』より)

## 『△白人は人間ではない』

---

私たちが気付く、ずっとずっと以前から…、

△NIMRODの連中は、昔から『世界統一政府』の計画を進めていたのです…!!

その、おぞましい未来社会では…、

一部のエリートが、全ての権力を独占…、

残り5億人程度の人間を奴隷化し、厳しく監視しながら働かせるらしいのです…!!

とくに今年は、ヤツらはあらゆる手段を使って…、

2012年の「この世の終わり」を、演出しようとしています…!!

だから、世界中の無駄飯食いには、この世からさっさと消えてもらいたいと願っているのです…!!

馬鹿馬鹿しい、そんなことあり得ないだろ…!?

そんな非道なことが出来る訳ないだろ…!?

と、あなたは否定するでしょう…。

でもそれは、残念ながらあなたの認識不足ですよ…!!

『△白人は人間ではない』のです…!?



私たちが気付く、ずっとずっと以前から....

△白人(アングロサクソン)の一部の連中は、昔から世界征服の計画を進めていたのです...!!

その、おぞましい過去の歴史では....

△白人連中が、先住民を皆殺しにして領土を独占....

黒人を奴隷化し、黄色人種を植民地支配していたのです...!!

じつは何千年も前から、ヤツらはあらゆる手段を使って....

2012年の「この世の終わり」を目標に、突き進んできたのです...!!

だから、世界中の無駄飯食いには、この世からさっさと消えてもらいたいと願っていたのです...!!

あなたが否定したくなる気持ちも解ります....

ではここで、少し過去の歴史を紐解いて....

ヤツらの文化が、果たしてどんな文化なのかを再認識してみませんか...?

『△白人は人間ではない』かどうかを判断してみてください...!!

ニコニコ動画内・ピラニアTVチャンネルより

『現代のコペルニクス』#23

監修・出演：武田邦彦

ゲスト：高山正之（ジャーナリスト）

収録：2011年1月

テーマ：白人は人間ではない（後編）

→<http://www.youtube.com/watch?v=1Bc95b-rxd4&fea..>

## 威風堂々[17] 『△NIMRODのエンド・ゲームは、全人類奴隷化計画!? III』

---

～△NIMRODが手に入れた魔法の皮とは、アダムとエバがエデンの園から放逐されたときに神から授かったものである～

1919年パリ講和会議で国際連盟は設立したが、多くの国が連盟は各国の主権への脅威であるとして加盟を拒否した。

米国は議会の反対により加盟できなかった。

ロックフェラー家に援助された英国諜報機関は、1921年にニューヨーク市に外交問題評議会を作った。

評議会は英国系米国人の権力拡大を支持するために米国中の精鋭を集めた。

外交問題評議会(CFR)に与えられた任務は、全ての民族国家を撤廃すること。

1930年までに世界政府を作ろうとする人たちは関連のある2つの派閥に分かれた。

フェビアン主義者はロンドン、そしてファシスト主義はイタリアとドイツに。

「ドイツ国家社会主義(ナチズム)は新世界秩序を確立するために革命を使う」

アドルフ・ヒットラー

米国と英国のファシストの支持者は、軍が急速に世界を新世界秩序へと変えるのに使用されるはずだと思っていた。

一方、より教養のある者は漸変主義は世界征服への確かな道であると述べた。

名誉勲章を授けられたスメドレー・バトラー退役小将は、1934年にルーズベルト転覆を狙った銀行家・企業家の米国の軍事クーデターの企みを公けに暴露した。

戦争の英雄はマコーマックディックスタン委員会で証言した。

米国で巨大な権力を持つ、ある男が将軍をナチズムが確立できるよう、軍事クーデターを引っ張る役として雇おうとしたと証言した。

～バトラー司令官がファシストの「陰謀」を暴露～

「私は米国民の最高の抗議である召喚令状に応じ、議会委員会の前にここに来た。ファシストの独裁を作り上げる計画につながると信じていた活動について、私が知っていることを話すために来た。私は政府を転覆させるのに十分である、50万人を擁する組織を率いる予定だった。」

スメドレー・バトラー退役小将

ファシストはイギリス国内にも深く侵入していた。

イギリス国王だったエドワード8世は、ヒトラーの親近感があるような態度をとったために、退役を余儀なくされた。

ドイツ主導のファシスト陣営は強かったが、フェビアン陣営は米国、ロシア、イギリスの支配を維持した。



第二次世界大戦の開戦前から戦時中、銀行家たちは再び両側に融資した。

ナポレオンのときと同じように。

ドイツ第三帝国の繁栄と衰退で、欧州はボロボロだった。

再びエリートは世界政府だけが世界平和を守れると主張した。

そして今度は、思い描く世界政府の根幹を築くことに成功した。

1945年4月、サンフランシスコのプレシディオ要塞で、第二次世界大戦の戦勝国によって設立された。

そのあとすぐ、国連の本部ビルはニューヨークに建てられた。

ジョン・ダビットソン・ロックフェラーによって寄贈された土地に。

エリートが米国に構想の土台として、国連を設立したすぐ後に新たに作られた世界的議会は彼らの計画を次の段階に進めるために動き出した。

大陸規模の共同体設立である。

3つの共同体設立目標のうち最初の標的は欧州共同体(EU)だった。

欧州統一は何度も試みられたが、非常に不評だった。

ナポレオンとヒットラーが武力によって目指したが為し得なかったことである。

世界主義者はこっそり行うことにより、成功を収めようとしている。

英国が先頭に立ち、1949年5月5日 欧州評議会設立。

ロンドン条約は欧州国間の貿易を確立するだけであると主張した。

北米のNAFTAやGATTのようなものである、と。

本当の目的は欧州共同体を作ることだった。

「あなたが好む好まざるに関わらず、世界政府を設立することになる。  
同意されればよし、されなければ征服によって達成される。」

ジェームズ・ヴァールブルク 1950年2月17日の上院外交委員会にて

この地球のエリートが1954年オランダのオーステルベークのビルダーバーグホテルで秘密裏に会合を行った。

ビルダーバーグ・グループはのちに、自分たちの任務がEUの構成だったと認めるだろう。

EUが貿易の名目で設立されてしまえば、北米連合およびアジア連合は設立されるだろう。

3つの巨大共同体は世界政府の中核となる。

国連が世界政府として機能するようになったら、共同体は、第三世界の小区域となるだろう。

ビルダーバーグ・グループは、各国を率いる首脳陣から成り立っている。

エリートの権力構造を大きなピラミッドの如く描いてみて、エリート中のエリートのみが一番上のさきっちょの石である絵を。

組織の存在は1980年代半ばまで、全くの秘密だった。

制御された法人メディアは、組織が存在することを否定した。

1990年代後半、ニュースはレアなちょっとした言及からきた。

(アレックス・ジョーンズ『エンド・ゲーム ～全人類奴隷化計画～』より)

△白人(アングロサクソン)の文化とは...!?



ヤツらの最大の関心事は....

「世界中のあらゆる種族の中で、白人(アングロサクソン)が一番優れている」という....

『△白人の優越』なんだそうです...!?!?!?

どこの誰よりも、人種差別が根強いのです...!!

だから....

△白人以外の人種は、全て劣っているという理屈に基づき....

「黒人も黄色人種も、殺戮したり奴隷」にしてきた歴史を見れば判るとおり....

この世で、最も残虐性のある連中が△白人なのです...!!

呆れることに....

『△白人の正義』とは...!?

「自分にとって都合が良いこと」は....

すべて正義なんだそうです...!?!?!?

かつて△白人の植民地侵略に....

唯一抵抗出来たのが、私たち日本人でした...!!

結果として、アジア諸国は△白人の呪縛から解かれ....

黒人も黄色人種も、独立を果たすことが出来たのです...!!

しかし....

怒ったヤツらは広島・長崎に原爆を投下...!!

例えば、20世紀最大の『△白人の誇り』とは何かを問うと....

△白人が自慢するのは、「ニッポンに原爆を落とせたこと」...!?!?!?

こんな自己欲の塊である、△白人連中だから....

大昔からしつこく、世界征服を狙っていても....

不思議でも何でも無いことなのです...!!!!!!!

あなたも、そう思いませんか...!?

サンデルと正義

→<http://www.youtube.com/watch?v=Dfp7zW91he0&fea..>

原爆賛歌

→[http://www.youtube.com/watch?v=3W\\_tMpq9wJU&fea..](http://www.youtube.com/watch?v=3W_tMpq9wJU&fea..)

## 威風堂々[18] 『1776年5月1日は△NIMRODの記念日!?!』

---

～△NIMRODが持つ魔法の皮は、身に纏っただけで動物は倒れるほどの力を秘め、彼と格闘して勝てる人間はいなかった～

1776年5月1日は、何の日かご存じですか...!?

ハテ、何の記念日だったかしらね...!?

ところで、前回のアレックス・ジョーンズ氏の制作した「エンド・ゲーム ～全人類奴隷化計画～」に描かれていたのは...

歴史の影で暗躍する者たちの存在と、陰謀の数々でした...!!

気味の悪いことに、この200余年の間に...

ヤツらは秘密裏に集まっては、世界を思うままに操ろうとしてきたこと...!!

私たちのまったく気付かないうちに着々と...

△NIMRODの『世界統一政府』の計画が進めてきたという訳なのです...!!

マイケル・コフマン博士の言葉を借りれば、何世紀も前から『NWO(New World Order)新世界秩序』という概念が、ヤツらには既にあったというのです...!?

それが20世紀後半になってからというもの、アメリカの台頭によってものすごい勢いで押し進められてきたという訳なのです...!!

確かに、私たちを取り巻く21世紀の現在の姿は、実はもう既に全世界的な権力を持つほんの一部の人間によって、地球上の全人類が世界的な規模の政治で統治されている状態なのかも知れないのです...!?

私たちが歴史の教科書で習った、世界各地で勃発した戦争...

世界大戦をはじめとする殆どの戦争は、じつは大投資家たちの金儲けの道具だった...!?

実はヤツらによって意図的に戦争を引き起こされた上に、政府へ貸し付けを行い、利子を得ていた...!?

危険を防ぐ為に儲け金を分散投資して、戦争時は双方の陣営に融資していたようですが、結局のところどっちが勝っても儲かる仕組みだったのでしょう...!?

興味深いのは、英国のロスチャイルド家とイギリス王室との蜜月関係です...

大英帝国時代において、英国の軍事的・政治勢力が全世界に拡大して行けば行くほど、ロスチャイルド家には巨大な富が転がり込んだのかも知れません...!!

ガッカリしたのは、国際連盟(国際連合)のこと...

二度と戦争を起こさない為にというハッタリで興され、国連設立の真の理由は『世界統一政府』の雛形だったということ...!?

また、米国と英国は、危うくナチス独のようなファシスト国家になる寸前だったということ...!?



さらにガッカリしたのは、欧州のEU共同体の設立....

貿易の為というハッタリで興され、EUとは『世界統一政府』の準備だったということ...!?

アメリカン、アフリカン、アジアンと合わせて世界を4つのグループに分けて統治する計画通りに進められていたということ...!?

最終段階は、白人(アングロサクソン)を頂点とする....

『世界統一政府』をイスラエルに樹立というシナリオなのです...!!

これが△NIMRODが目指している新しい地球、新しい世界、新しい価値観....

つまり、これが『NWO新世界秩序』という訳なのです...!!

その為には有りとあらゆる手段を講じて、計画を突き進めるのです...!!

えッ...!?

あなたは、まだこの事実を信じられないのですか...!?

『世界統一政府』は200余年も前から、既に具体的な計画が決められているんですよ...!?

1773年、ドイツのフランクフルトに於いてある秘密の会合が執り行われました…。

その席上には、欧州の王族、貴族、財閥といった資本家らが顔を合わせていたとみられていますが…、

その中心人物である当時30歳のマイヤー・ロスチャイルドが、トンデモない計画を発表したのです…。

それが、その筋では有名な「マイヤー・ロスチャイルドの世界革命行動計画」というものだそうです…。

#### 【マイヤー・ロスチャイルドの世界革命行動計画】

ユースタス・マリNZ

マイヤー・ロスチャイルドが主宰した1773年のフランクフルト会議にて

25箇条の「世界革命綱領」

- (1) 人間は暴力とテロリズムによってのみ統轄され得る。
- (2) 自由主義を流布させて、権力を我等の手中に収める準備とする。
- (3) 自由の思想を階級間の戦争に発展させる。
- (4) 目的の為に如何なる手段を使うことも正当化される。
- (5) 我々にとって正義(Right)は力である。
- (6) 目的達成のその瞬間まで、我々の力は不可視のものでなければならない。

- (7) 大衆を統御する為に、群集心理を利用すべし。
- (8) アルコール飲料、麻薬、道徳的退廃、その他全ての型の悪を大衆の中に注入せよ。
- (9) あらゆる手段で(他人の、他民族の)財産を収奪せよ。
- (10) 自由、平等、博愛のスローガンで大衆を欺瞞せよ。
- (11) 諸民族を互いに際限のない戦争に引きずり込め。
- (12) 各国政府の主要な地位に、我々に従順な人間を着けよ。
- (13) プロパガンダ(宣伝)が重要である。
- (14) 必要とあれば我々の工作員(Agentur)を処刑して、我々が秩序回復の救い主として登場する。
- (15) 経済的好況と恐慌を演出し、暴民をして我々の邪魔者を一掃させる。
- (16) 大陸(ヨーロッパ)内フリーメーソンに浸透せよ。
- (17) 組織的な偽瞞の技術を発展させよ。
- (18) 革命戦争の為の詳細な計画。
- (19) 偽瞞の外交技術の必要。
- (20) 究極の世界政府が目標である。この目標に到達する為には、莫大な独占が必要とされる。
- (21) 非ユダヤ人の財産を収奪する為の経済戦争の計画。
- (22) 非ユダヤ人を互いに破壊させる為の準備を構築せよ。
- (23) 新秩序。単一世界政府の要員は、独裁者によって指名される。
- (24) 青年、若者を取りこにする事は重要である。

(25) 各国法と国際法は、非ユダヤ人の文明を破壊する為に利用されねばならない。

(satehate.exblog.jp 『さてはてメモ帳』 より)

これを読むと、ムカムカ腹が立ちますね...!!

何という、したたかさ...!!

何という、ユダヤ(偽ユダヤ=白人)優越主義...!!

何という、自己欲...!!

きっと自分に都合が良いことは、ヤツらにとっては正義なのでしょう...!?

こんな自己欲の塊である、△NIMRODの連中だから....、

大昔からしつこく、世界征服を狙っていても....、

不思議でも何でもないことなのです...!!!!!!!

あなたも、そういませんか...!?

この「マイヤー・ロスチャイルドの世界革命行動計画」を立てた3年後に....、

ある組織が生まれました…。

1776年5月1日…、

それは…、

△NIMRODの『イルミナティ』(秘密結社)が誕生した記念日なのです…!!

1ドル札の裏に、ちゃんと書いてありますよ…!!

【資料】 『～この500年、白人は世界で何をしてきたか～ 侵略の世界史①』

---

～この500年、白人は世界で何をしてきたか～

同時多発テロは、“侵略の世界史”の終わりの始まりー

「明治以来、日本は欧米を文明先進国と崇め、非白人を歴史の表舞台に登場させることはなかった。

そのため西欧の繁栄を支えた植民地支配の暗黒面を見落としてきた。

本書は、白人の残虐性と侵略性の根源は何かを解明する。

現代史だけを見ていたのでは、世界の中の日本の位置を見誤ってしまう。

過去500年、白人が世界に向かって何をしてきたかを見れば、歴史の真実は明らかとなる。

日本人としての誇りと自信を取り戻すために。」

清水馨八郎

以下、清水馨八郎著『侵略の世界史』(祥伝社文庫)より引用させていただきます…。

『侵略の世界史』 清水馨八郎

## ■1■ 南米編

【スペインの中南米インディアス完全制圧のはじまり】

1492年、コロンブスが出帆した年に、スペイン軍はすでにイベリア半島からムーア人の追放を完了していた。

コロンブスの航海に続いて、スペイン人はまもなく西インド諸島を征服してしまった。

1521年、コルテスはメキシコにあったアステカ帝国を滅ぼし、1532年には、ピサロがペルーのインカ帝国の征服を終えていた。

途方もなく広い海洋帝国の所有国として、スペインは国王フェルナンド、女王イサベルの治政下で、16世紀の前半には、ヨーロッパ最強の国となっていた。

最初スペイン人はまず西インド諸島にやってきて、エスパニョーラ島のインディアスに対して皆殺し作戦を行なった。

鉄砲を持った歩兵と犬を伴った騎乗の征服者たちは、島の狩猟採集部族を意のままに打ち破った。女、子供も逃がさず、強姦して殺戮した。

抵抗者は容赦なく鎮圧された。

1496年までに、この島は完全にスペイン人に制圧された。

同様な襲撃は、キューバやカリブ海の他の島々に対しても行われた。

征服者達は、新世界に国王の名によってやってきたのであるが、さらに重要なのはキリスト教の名においてやってきたことである。

教会は、しばしば彼らの手先として、進んで新しい土地の略奪に参加した。

司祭は兵士と一緒に先住民の村落に現れ、先住民たちに向かって、キリスト教信仰を受け容れるべしとスペイン語で書かれた公式の催告書を読み上げるのである。

この催告書は、教会が国王に新世界領有権を与えたと述べていた。

そこにはイエスが宇宙の王であり、彼が聖ペテロをローマ大司教に任命し、ローマ法王がアメリカをスペイン国王に授けたと宣言されていた。

これにしたがってインディアスは信仰に入り、スペイン国王の王権を認めることを強制された。

インディアスはスペイン語が全然解らず、言っていることも書いてある催告書も何も解らないまま従わされた。

かれらはイエスのことも、国王も法王のことも聞いたこともなかった。

考える時間も与えられず、屈従するしかなかった。

これを拒否すれば兵士に殺されることになった。

しかもこのお触れは「その拒否から結果する死と損失は、汝らの落度であることをここに言明する」といったひどいものであった。

殺されなかった先住民は家を追われて、鉱山労働者、農奴、荷役動物になることを強制された。

【神の名の下に、何をしても許されるという論理】

当時スペインの社会では「何人であれ、インディアスを棒で打つこと、むちを加えること、彼を犬と呼ぶこと、その正しい名前以外の名で呼びかけることをしてはならない」と規定していた。しかし、インディアスに対する制圧は、身の毛もよだつ残虐行為を伴った。それは5世紀が経った今日でも、それがいかに恐るべきものであったかをためらわずに語ることはできない。

次にドミニコ教会司祭がもたらした、カリブ海でのスペイン人の野蛮行為についての二つの目撃談を示す。

「数人のキリスト教徒が乳飲み児を抱いた1人のインディアスの女と出会った。彼らは連れていた犬が腹を空かせていたので、母親の手から子供を奪い、生きたまま犬に投げ与え、犬は母親の目の前でそれをがつがつ食べ始めた。出産して間もない女たちが捕虜の中にいたとき、もし赤ん坊が泣き出すと、スペイン人たちは子どもの足をつかんで岩に投げつけたり、密林の中に投げ込んだりして、赤ん坊が確実に死ぬようにした」

次の話は、鉱山でのスペイン人とインディアス労働者との関係を描いている。

「現場監督の誰もが、その配下にあるインディアスの女と寝るのを習慣にしていた。気にいれば、女が既婚であろうと未婚であろうと。監督はインディアスの女と小屋に留まる一方、その女の夫は山から黄金を掘る仕事に送り出された。夕方送り出された男が戻ってくると、持ち帰った黄金の量が少ないとあって、打ちすえられたり、むちを当てられ、そればかりか手足をくくられてベッドのそばに犬のように投げ倒され、そのすぐ上で監督が彼の妻と横になっていることがよくあった」

このようにインディアスたちは非人間的な状況の下で生き、そして死んでいった。



1540年までにカリブ海のインディアスは事実上、絶滅させられた。

【ヨーロッパ人による南米侵略の推定犠牲者数】

さてコロンブス以来、スペイン人の征服者によって中南米の原住民のインディアスが、約1世紀の間にどれほど犠牲になったかを推計してみる。

これをカリブ海地域と、メキシコ中央部とアステカ地域と、ペルー中央部のインカ地域に分類してみる。

カリブ海地域の犠牲者 38万人

アステカ地域の犠牲者 2,400万人

インカ地域の犠牲者 820万人

以上、約3,300万人である。

ではコロンブスが到着した1492年頃、これらの地域の原住民の数は、どれほどだったのだろうか。

多くの研究者が大雑把な推計を試みているが、それによると最大推計で1億1,000万人、中間推計で7,000万人、最小推計でも4,000万人である。

インカ帝国が完全に滅亡した1570年ごろ、この地方の人口は合計1,000万人に激減してしまっていた。

これは最大推計の1億1,000万人からみると約10分の1に減ったことになり、ほぼ1億人ものインディアスがヨーロッパ人の征服の犠牲になったことになる。

この数は、直接の殺戮だけでなく、ヨーロッパ人がもたらした伝染病の天然痘やチフスによる死者も含まれている。

ともかくヨーロッパ人の侵略によって、1世紀足らずの間に、それまで独自の文明を打ち立てて、平和で幸せに暮らしていた罪のない先住民を、ほぼ全滅させてしまったのである。

これまでの人類の歴史で、これほどの悲惨があったであろうか。

ヨーロッパ白人は、人類史に一大汚点を残したのである。

先住民が白人によって受けた被害は、人的犠牲だけではない。

大量の金、銀などの宝物が、ヨーロッパに持ち去られた。

白人の新大陸征服の目的の一つが、黄金の獲得であったからだ。

1660年までにヨーロッパに持ち去られた金は、判っているだけで181トンである。

発掘、精錬技術が未熟な当時としては、いかに大量であったかがわかる。

さらに銀も、この間1万7,000トンも収奪されていったのである。

インディアスが長い間かかって勤労して営々と貯めた宝物を、白人は何の努力もせず、所有者を殺し、奪っていったのである。

ヨーロッパ人とは罪深き大泥棒たちであったのだ。

### 【白人の残虐無法と内部告発者の存在】

コロンブスの米大陸到達以来の、先住民に対する白人の残虐無法ぶりのあまりのひどさを見て、たまりかねて仲間の非を内部告発した白人がいた。

それはコロンブスと同時代のスペイン人、ラス・カサスである。

さらに現代になってカナダのトーマス・バージャーは、アメリカの開拓時代に白人が先住民のインディアンをいかに不法に抹殺していったかを、法と正義にもとづいて告発している。

ラス・カサスは、1514年から1566年に他界するまで、6回にわたり大西洋を横断し、インディアスの自由と生存権を守る運動の中心的な役割を果たした。

彼は報告書『インディアスの破壊についての簡潔な報告』(岩波文庫)で、カリブ海のたくさんの島々の破壊の実態を正確に記述している。

特にコロンブスが名づけたエスパニョーラ島(現ハイチ、ドミニカ共和国)については、くわしく述べている。

この島には300万人のインディアスが住んでいたが、コロンブスが来てから50年後の1542年には、この美しかった島に生き残ったのは、ただの200人だったと報告している。

スペイン人はまず、先住民に必ず、金を要求する。

初めはその要求に応じていても、ヤクザの脅しと同じで、要求は次から次へと釣り上げられ、ついには暴力を振るうようになる。

先住民たちの堪忍袋の緒が切れて反乱を起こすと、それが白人の思う壺で、彼らは馬にまたがり、剣や槍を持って無差別にインディアスを殺しまくる。

もともと武器など手にしたことの無い人々だ。  
この武装した土地泥棒の無法者にかなうはずがなかった。  
特にインディアスが恐れていたのは、馬だった。  
騎馬の兵士など見たこともなかった。

スペイン人は手に入れたインディアスを、男なら金採掘に、女なら畠仕事に活用した。  
この奴隷たちには雑草のような食物しか与えなかったため、過酷な労働と飢餓でばたばたと倒れていった。

荷物の運搬には、すべて奴隷を牛馬のように使った。  
重い荷物を背負わされ100キロ、1,000キロの道を歩かされた。  
インディアスの背中や肩は、重い荷物ですりむけ、まるで瀕死の獣のようだったが、スペイン人は鞭や棒や平手や拳固で、容赦なく彼らを痛めつけたのである。  
彼らはインディアスを野獣として扱ったのである、とカサスは述べている。

わが国でこの報告の翻訳が出たのは、1976年(昭和51年)になってからである。  
日本の西洋史学界が、いかにヨーロッパ人の歴史の暗黒面をあばくことに怯えていたかが分かるのである。

ラス・カサスに次いで白人の先住民族に対する残虐さをあばいて、白人自身に反省を求めた人物がカナダのトーマス・バージャーである。  
彼は現代のラス・カサス、カナダのラス・カサスと言われるに値する人物である。

彼はカナダの先住民族のインディアンの権利問題を追及しているうちに、インディアンについてはカナダだけでなく、アメリカにも中南米にも同じ問題があることに気がついた。  
そこでラス・カサスの報告を読み、啓発され、広く南北アメリカ大陸でのインディアンの悲惨の歴史を研究した。

そして『コロンブスが来たら一先住民の歴史と未来』（朝日選書）という著作をまとめた。  
彼はコロンブスがアメリカ大陸に来てから、どれほどの先住民の血と涙が流されたかを法学者の目で正しく分析、さらに現在各地で過去の暗影を背負って細々と生き残っている少数民族となったインディアンたちの権利保護の運動を展開している。

## ■2■ 奴隷貿易編

### 【残虐非道の奴隷狩り、奴隷貿易の実態】

最初にアメリカ大陸に到着したスペイン人は、簡単にアステカ帝国やインカ帝国を亡ぼし、金銀宝物を略奪し、反抗する先住民を見境なく殺していった。

その数は前章でも触れたように、多く見積もって1億人(白人がもたらした流行病死も加えて)に上るといわれる。

これでは金銀の鉱山が発見されても、採掘の労働者が足りない。

砂糖や、コーヒー、タバコなど白人に都合のよい植物農耕のための人手も足りない。

そこで彼らが考えたのは、アフリカから労働力として黒人奴隷を連れてくることであった。

かれらは原住民を殺し過ぎた結果、労働力不足に気がつき、鉱山労働力や農場の労働力を、アフリカから収奪することになる。

白人たちは多数殺しておいて、その穴埋めにまた悪事を働く。

ここに人類史に刻まれる二つの悪行を、彼らは同時に進めることになった。

奴隷狩りには、3つの方法がある。

第1は拉致、誘拐である。

動物を捕らえるように待ち伏せして、通りがかりの先住民をさらってゆく。

第2に白人奴隷商人とアフリカ人首長の契約。

首長が他部族に戦争を仕掛け、捕虜を大勢捕らえて商人に渡し、代わりに安物の鉄砲やタバコや酒、ガラス玉と交換する。

第3は首長が白人と組んで同胞を売り渡す、支那の買弁的行為である。

集められた悲運の奴隷達は海岸の奴隷貯蔵庫に格納され、奴隷船が来るのを何日でも待たされる。

奴隷貯蔵庫の地獄絵のような悲惨の実態は、文化人類学者川田順造氏の『曠野から』の実態調査報告で知ることができる。

奴隷船には複数の奴隷商人の商品(奴隷)が積み込まれるため、所有者の見分けがつくように、牛馬のように腕や腹に烙印を押され、2人ずつ鎖でつながれて暗い船倉に放り込まれる。

船倉は天井が低く、立つことも横になることもできない。

奴隷たちはそこに詰め込まれ、汗まみれ、くそまみれの生き地獄が待っている。

だから航海中に半分以上は死亡した。

死体は無造作に大西洋に捨てられ、魚の餌食にされたのである。

### 【人道無視、国家ぐるみの大犯罪】

16世紀から18世紀にわたる奴隷貿易は、欧州、アフリカ、新大陸の三大陸にまたがる三角貿易によってがっちりと組み立てられ、欧州に莫大な利益をもたらしたのである。

参加した国は、ポルトガル、スペイン、オランダ、イギリス、フランスの五ヶ国である。

奴隷商人たちは、ヨーロッパから安物のビー玉、火器(銃器)、木綿の工業製品をもってアフリカ・ギニア湾岸にいたり、黒人奴隷と交換し、奴隷を南米ブラジルや西インド諸島で売り飛ばした

。

次にその金で土地の砂糖、綿花、タバコ、コーヒーなどの亜熱帯農産物をしこたま積んで、ヨーロッパに帰ってくるのである。

三角貿易の完成だ。

この貿易は一貿易で三重の利益が得られる。

中でも最も巨利を博したのはイギリス、フランスであった。

奴隷貿易で最盛期を迎えるのは、18世紀である。推計では16世紀は90万人、17世紀は300万人、18世紀は700万人、19世紀は約400万人が奴隷として売買されたといわれている。

概算1,500万人である。

1人の黒人を新大陸に連れて行くまでに、5人の黒人が途中で死んだという恐るべき推計があるから、アフリカから働き盛りの黒人が数千万から1億人近く連れ出されたことになる。

黒人奴隷を一番多く移入したのはカリブ諸島で約40パーセントを占め、次に砂糖のプランテーション労働などのためブラジルへ38パーセントが運ばれた。

残りはアメリカ南部のプランテーションである。

アフリカは大きな大陸でありながら、現在世界一過疎の大陸になったのは、働き盛りの男子を大量に新大陸に奪い去られたからである。

その後、19世紀にいたるヨーロッパ列強の、アフリカ分割植民地支配を受けて、現在のアフリカの貧困、民族紛争も、すべて白人の勝手な収奪、不合理な民族分割の結果である。

特に人身売買、奴隷貿易などの人類史上の大犯罪は、イギリス、フランスなどの国家自らが組織的に犯したのである。

なお16～17世紀に新大陸から大量の金銀がヨーロッパに奪い去られていった。

その過酷な鉱山労働に、インディアンと黒人奴隷が酷使された。

ヨーロッパにもたらされた金銀は、やがて産業革命からヨーロッパ資本主義の原資となった。

またこの金でヨーロッパ商人はアジアから香辛料、茶、ゴムなどを大量に買い入れて儲けた。

これもアメリカ、ヨーロッパ、アジア大陸にまたがる三角貿易として、ヨーロッパに巨万の富をもたらしたのである。

非白人の汗と血と苦痛の収奪、犠牲で支えられたことを忘れてはならない。

【映画】『△白人の残虐性と侵略性の象徴はソルジャー・ブルー』

---

2012年までに、世界征服を終わらせる計画で...

何百年も掛けて、NWO新世界秩序を押し進めてきた△の連中...!!

そして、その目的の為に...

世界中のあらゆる種族の中で△白人が一番優れている、△白人以外の人種は全て劣っているという根拠のない、勝手な理屈に基づき...

黒人も黄色人種も、肌に色がある民族の総てに対して人種差別を行ってきたのです...!!

どうしてヤツらには、そんなに強い選民意識が有るのか...!?

私たち日本人には、さっぱり分かりませんが...!?

△白人の連中がこれまで世界で何をしてきたか、歴史を見れば判る通り...

何世紀にも渡って、他の民族の国々を侵略しては領土や財産を横取りし...

罪のない有色人種の人々を殺戮したり、連れ去って奴隷にしたり...

この世で最も野蛮な民族は紛れもなく、△白人なのです...!!



ゾッとする『△白人の残虐性と侵略性の象徴はソルジャーブルー』かも知れません...!!

あの時代の出来事を観れば、あなたにも判ります...!!

ラルフ・ネルソン監督の1970年公開の映画『ソルジャー・ブルー』...!!

アメリカ西部開拓時代を舞台とした、この映画は...

カスター中佐の第7騎兵隊によって実際に行われた“サンドクリークの大虐殺(1864年)”を余すところなく再現し...

当時の白人たちが、インディアンに対して行っていた虐殺の一つを私たちに伝えるのですが...

その生々しい描写に、誰しもがショックを受けます...

シャイアン族との生活でインディアンの暮らしにも慣れた女性が、婚約者の待つ砦へ騎兵隊と共に出発...



だが、途中でインディアンに襲われ、生き残ったのは彼女と若い兵士だけだった....。

父親を殺された事からインディアンを憎んでいる兵士だったが、やがて2人の中にはほのかな愛情が芽生え始めていく....。

ようやく砦にたどり着いた2人は、協定を破りシャイアンの集落を襲撃しようとする騎兵隊の計画を知るのだが...

映画『ソルジャー・ブルー』

<1970年／アメリカ映画／製作：ハロルド・ローブ、ガブリエル・カツカ>

監督：ラルフ・ネルソン 原作：セオドア・V・オルセン 脚本：ジョン・ゲイ

SOLDIER BLUE (1970) German Trailer

→<http://www.youtube.com/watch?v=Nblw9TikSWU>

Buffy Saint Marie - Soldier Blue

→<http://www.youtube.com/watch?v=LlrOaJFf6tg>

木曜バチオン

(浜村淳さんのラジオ番組、映画公開当時の貴重な解説あり)

①→[http://www.youtube.com/watch?v=\\_3waVVm8G\\_Y](http://www.youtube.com/watch?v=_3waVVm8G_Y)

②→<http://www.youtube.com/watch?v=llJRjq2MiMk>

### ■3■ 北米編

#### 【アメリカの領土拡張と、インディアン抹殺計画】

南北アメリカ大陸のうち、イギリスの植民地となったアメリカ、カナダなど、英語圏の先住民をインディアンと呼ぶ。

先にも述べたとおり、彼らは紀元前4万年から2万5,000年頃、アジアから当時は陸続きだったベーリング海峡を通過してやってきた人達で、人種的には日本人と同じモンゴロイドである。

ヨーロッパ人による北米の征服は、中南米より一世紀遅れて始まった。

白人は先住民を野蛮人扱いしたが、彼らはアイヌと同じように、先祖の残してくれた自由の大地で、大自然に抱かれて伝統を守り、天真爛漫に楽しく平和に暮らしていた。

そこへ突如、白人植民者が侵入し、インディアンの運命は一変するのである。

当時、北米大陸に侵略してきた白人はイギリス、フランス、スペイン人だった。

だが、イギリス人(後のアメリカ人)と出会ったインディアンの運命が一番悲惨だった。

なぜか。

というのもフランス人はもっぱら毛皮にのみ関心があり、スペイン人は貴金属に関心があった。

そのため彼らにとって、先住民の抹殺は得策ではなかった。

ところがイギリス人の関心は、もっぱら土地だった。

土地とは言い換えれば領土である。

イギリスで食い詰めた移民たちは、新大陸で広大な土地を入手できるという会社の宣伝を信じて、はるばる大西洋を渡って来たのだ。

ここにたちまち先住民との土地争奪戦が始まる。

インディアンには、もともと土地私有の観念はなかった。

土地の権利、売却、譲渡、などの意味すら知らない。

それをよいことに、イギリス人は無理矢理契約書に署名させ、合法的と称して騙し、脅して、次々にインディアンの土地を収奪していった。

合衆国は建国以来、土地所有をめぐるインディアンと白人との間に結ばれた条約・協定は300を超えたが、そのほとんどすべてが、日ならずして反故にされた。

アメリカ人に都合のいいときは合法性の証文に使われ、都合が悪くなれば即座に破り捨てられたのである。

メイフラワー号の移民をはじめ、当初の白人植民者の飢えと苦難を救ってくれたのは、友好的インディアンたちであった。

トウモロコシやタバコ栽培を教えてくれたのはインディアンではなかったか。

白人はその恩を、たちまち仇で返したのである。

1830年、ジャクソン大統領は、野蛮人の一掃のためと称して強制移住法を制定し、すべてのインディアンをミシシッピー川以西に立ち退かせた。

ところが探検や調査が進むにつれて、ミシシッピー川以西も、以東に勝るとも劣らぬ資源の宝庫であることが判明した。

かくて白人の幌馬車隊は、ミシシッピー川を越えて西へ西へと殺到した。

インディアンは白人の度重なる約束違反に激高した。

その上、インディアンの命綱のバッファローを、白人は面白半分に撃ち殺してしまった。

かくして西部を舞台に、凄惨なインディアン戦争がいたる所で繰り広げられることになった。

映画の西部劇は、この戦争を白人に都合よく正義の戦いとデッチ上げて描いたものである。

「フロンティア」「開拓」の美名のもとに、西へ西へと進められたアメリカ領土の拡大は、力で先住民の土地を奪うことだった。

インディアンの武力抵抗は、1876年にカスター中佐指揮下の第七騎兵隊の一個大隊を殲滅したりトル・ビッグ・ホーンの戦いで絶頂を迎える。

しかし結局、圧倒的に優勢な合衆国軍の前に敗退を余儀なくされて、1890年のウンデッド・ニーの一族約300人の虐殺事件をもって幕を閉じた。

残った彼らは自由の天地を奪われ、狭い保留地(リザーベーション)に閉じ込められた。

大東亜戦争中、アメリカが日系移民のみを強制収容所に閉じこめたのと同じ不法な手口であった。

コロンブスが到達した頃、北米の先住民の人口は200万人から500万人で、その80~90%は今の合衆国に住んでいたと推計されている。

17世紀以降、植民地建設が進むにつれて、とくに合衆国での殺戮と、白人がもたらした伝染病などによって、その数は急激に減少し、1890年頃にはわずか35万人にまで減ってしまった。

その後、1924年ようやくインディアン市民権法が制定され、インディアンは、はじめて人間として認められた。

【アメリカに連れてこられた奴隷達の運命】

現代文明社会では、人喰いとか人狩り、人身売買は野蛮人のすることと教えられてきた。

ところが文明人といわれる白人が、この500年間に行ったアフリカ黒人の奴隷狩り、奴隷貿易、奴隷売買、人家畜の行為は、国を挙げて計画的、組織的に行われたことで、人類史上からみて最も忌まわしい世紀の犯罪と断言しうる。

そのことは前章でも述べたが、では新大陸に連れてこられたアフリカの奴隷たちは、どのような扱いを受けたのだろうか。

奴隷船から陸揚げされた奴隷たちは、奴隷商人に売り渡され、奴隷市場で家畜のように売りに出される。

奴隷商人は、奴隷を鎖で数珠繋ぎにして町に乗り込み、目抜き通りで彼の「商品」のよさを宣伝して競売を行なう。

価格は召使い用、農園労働者用など用途によって異なる。

奴隷たちは衆人環視のもとで競売台に立たされ、馬を調べるように唇やまぶたをめくられ、時には裸にされて品定めをされ、有無を言わず親子兄弟をバラバラにして売られていった。

アフリカ人はどんな思いで耐えていたのだろうか。

当時のアメリカ人にとって、奴隷の競売は財産作りの重要な手段であった。

後の南北戦争のときの南軍の将軍たちの中には、奴隷商売で巨利を博した将軍が多かった。

人身売買は、確かに人間の歴史とともに古くからある。

しかし近代に入って、これほど大掛かりに組織的に、200年にわたって人間の売り買いを行ってきた国は、世界広しといえどもアメリカだけである。

1860年、アフリカ人奴隷の総数は、19世紀初頭の4倍強、400万人になっていた。

この急ピッチの増加は、南部の綿花生産量と軌を一にしており、奴隷の大半は綿花生産の労働者として投入されていた。

そこから巨額な利益をあげた南部大農園主の豪華さは、映画『風と共に去りぬ』でお馴染みだ。

奴隷たちは鞭打ちにおびえながら、一日中牛馬のように働かされた。

しかし奴隷は家畜ではなく、白人と同じ人間だったから、非道な仕打ちに当然反抗した。

反抗の型は3つ、第1がサボタージュ、第2が逃亡、第3が反乱、暴動だった。

逃亡先は二つあった。

白人の入り込めない湿地や森林に身を隠すか、奴隷制を認めない北部諸州やカナダへ逃げ込むのだ。

逃亡は命がけだった。

失敗し捕えられれば数百回の鞭打ち、焼印が普通。

また逃げ切った奴隷の首には賞金がかかけられ、生かすも殺すも捕えた者しだいというリンチも許された。

奴隷の反乱、暴動も多く、失敗して殺された奴隷も無数であった。

1831年のナット・ターナーの反乱、1859年のジョン・ブラウンの武装蜂起など、歴史に名を残している事件は氷山の一角にすぎない。

ジョン・ブラウンは絞首台上で「罪深いこの国の大罪業(奴隷制度)はただ流血によってのみ洗い清められることができると、私は確信する」と予言した。

このことは、翌々年の1861年からの南北戦争で実証された。

南北戦争では、実に70万人の血が流された。

#### 【オリンピックで黒人が活躍するもう一つの理由】

リンカーン大統領による1863年1月1日の「奴隷解放宣言」で400万人の黒人奴隷は解放された。

しかしそれは名目上の自由を得ただけで、実質的な人種差別は、現在まで続いているのである。

1996年夏、オリンピックが米国アトランタで開催された。

アトランタは南部奴隷市場中心の街、『風と共に去りぬ』の舞台、キング牧師の出身地で人口の過半が黒人という「黒人都市」である。

開会式の聖火ランナー(モハメド・アリ)も、聖歌の歌手も黒人、100メートルなど、短距離走の決勝のスタートラインに並んだ選手は、すべて黒人だった。

かつて米国はアフリカから家畜として奴隷を買ってきて、南部の農園を開拓させ、それによって栄えた。

より力持ち、足の速い者を選んで連れてきて、弱い奴隷は廃棄し、結婚もさせなかった。

より強い奴隷を作るために、強い奴隷同士を掛け合わせるといったような、まるで家畜を品種改良するような手段を使った。

黒人はもともと身体能力が高い上に、こうした「改良」によって、より強く速い者たちが生まれるのは当然であった。

オリンピックにおける黒人の好成績は、こうした悲しい歴史を反映したものだともいえる。

#### 【アメリカが侵略戦争を仕掛けるときの常套手段】

西部開拓がほぼ終了すると、アメリカは、アメリカ独立に刺激されて独立したばかりの近隣の中南米諸国に、度重なる介入、侵略を行ないはじめた。

まず、1845年、アメリカはメキシコから独立したテキサスを併合した。

その後メキシコと戦争を起こし、(米墨戦争、1846年～1848年)、その勝利によってニューメキシコ、アリゾナ、カリフォルニア州など、南部、西部の広大な領土を併合し、国旗の星の数を一挙に増やした。

この戦争の開戦の契機が「アラモ砦の戦い」だった。

しかし、この戦いは、アメリカが自国のアラモ砦を陥にして相手を挑発し、わざとメキシコ軍に先制攻撃をさせ、自軍に相当の被害を出させたうえで「リメンバー・アラモ砦」を合言葉に戦争を正当化し、国民を鼓舞して反撃に移るというもので、これは、この先アメリカが侵略をするときの常套手段となるのである。

次いで1898年、米国は、ハバナを表敬訪問中の米戦艦「メイン」を自ら爆沈させ、2,060人の乗組員を犠牲にし、これを敵がやったこととして「メイン号を忘れるな」を合言葉に国民を戦争に駆り立て、有無を言わず、スペインに宣戦布告した。

この米西戦争は、キューバの独立戦争を支援する名目で始めながら、実質的にキューバを保護領化してしまい、合わせてスペイン領のプエルトリコをも領有するものだった。

これによりアメリカは、中南米諸国に対する軍事的、経済的支配を強化するための前進基地を獲得することが出来た。

アメリカの侵略、戦端の動機は、当初から一貫した手口を使っている。

そのことは「アラモ砦」でも見たとおりだが、歴史に正当性を残したいため、そうした子どもじみた騙しの技巧をこらすのである。

“真珠湾を忘れるな”も、ルーズベルトが「騙し討ち」という罠に日本をはめて開戦の動機にしたことは、今や世界の常識となっている。

このことについて、大統領の長女の娘婿である、カーチス・B・ドール氏が語る真実のルーズベルトの言葉「私は決して宣戦はしない、私は戦争を造るのだ」が、すべてを物語っている。(馬野周二著『操られたルーズベルト』プレジデント社)

この手は湾岸戦争でも使われたフシがある。

イラクのフセインを騙し、クウェート進攻に誘い出し、フセインを侵略者に仕立てて世界に宣伝し、待ってましたとばかりアラビアに集中していた55万の米国の大軍を一挙に出動させた。

用意周到の準備がなければ、あれほど手際よく大軍を動かし短期戦が出来るはずはない。

日本をはじめ世界中から戦争協力の冥加金を集め、新兵器の商品見本市を果たし、大量の武器弾薬を砂漠に打ち込み、「死の商人」の在庫を一挙にカラにし、この戦争ビジネスは見事に成功、

収支決算でおつりがきたそうである。

この大芝居も世界はいまだに米国の聖戦だと思い込まされている。

このようにアメリカ軍の戦争は、すべて敵が仕掛けたかのように宣伝し、止むなく立ち上がった聖戦に仕立てて、輝かしい歴史を残そうとする。

アメリカはヤラセの名人なのである。

### 【アメリカの太平洋進出と、ハワイ強奪】

1898年の米西戦争は、極東においてアメリカがスペインを押さえて、アジアでの覇権を握る一大契機となった。

すなわち米極東艦隊は、フィリピンのマニラ湾でスペイン極東艦隊を撃破した。

米西戦争が始まった時、フィリピン人の独立革命家のアギナルドや、リカルテは、独立を助けてくれるものと米軍に大いに協力した。

地元革命軍を利用してスペインに勝った米国は、一転、革命家を騙してフィリピンを米軍領土に組み入れてしまった。

騙されたと知った革命家は、日本に援助を求めながら、激しいゲリラ戦を展開するのだが、目的を果たせなかった。

アギナルドやリカルテなどの先住民の独立戦争を鎮圧して、初代軍政長官に就任したのは、アーサー・マッカーサー陸軍少将で、その副官が息子のダグラス・マッカーサー中尉であった。さらにアメリカは、勢いにのって、太平洋の島々、ハワイ、グアム、サモア群島を奪取し、太平洋上に極東進出の多くの拠点を確認することができた。中でもハワイは先住民のカメハメハ王朝下であって、明治以来、日本人の移民が多かったので、アメリカは日本に奪われるのではないかと危惧し、リリウオカラニ女王を騙して王朝を滅ぼし(1893年)、米領土に編入してしまった(1898年)。

その折、ハワイの女王は明治天皇に救援を求めにきたが、日本には、まだ米国と戦う力がなく、見殺しにするより仕方なかった。

カリブ海域でもアメリカは、キューバに度重なる軍事介入をするとともに、パナマ、ドミニカ、ニカラグア、ハイチなどに介入した。

かくしてカリブ海は米国の裏庭となった。

中でも、1903年のパナマ保護領化は重大である。

すなわち1914年、パナマにアメリカはパナマ運河を開通させたが、これによって大西洋と太平洋

を結びつける重要な流通路を獲得し、南米大陸の航海権、通商権を完全に掌握することができた。

さらには、いよいよアメリカは、太平洋から極東に向かって覇権を拡大するチャンスを得たのである。

こうしてアメリカの侵略最前線は、はるばる太平洋を越えて、いよいよ日本の目の前までやってきたのである。



## 威風堂々[19] 『侵略の世界史の影に△NIMROD、本当の海賊は誰だ!?』

---

～一国を支配する王となった△NIMRODは、自らを神にもなぞらえ、欲望はますます募っていった～

「パイレーツ・オブ・カリビアン」という海賊を題材にした映画がありますが(私は観たことがありませんし、これからも観ないでしょう)...

もしも、カリブ海を荒らし回る海賊が、突如あなたの目の前に現れて...

あなたとあなたの家族を縛り上げて船に無理矢理乗せられて...

知らない外国で奴隷として売り飛ばしたり、あなたの持つ財産をすべて奪い去ったりしたらどうしますか...!?

恐ろしいですよね...!?

そんな海賊は直ぐに、とっ捕まえて欲しいですよね...!?

あの映画では、イギリス海軍が海賊を取り締まっているようですが...

そのイギリス海軍こそが、最大で最悪の海賊だったんですよ...!!

しかも、奴隷貿易を仕切っていたのはユダヤ人(ユダヤ教徒の白人)だったんですよ...!!

映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」は、ハリウッドお得意の歴史のすり替えですから白人たちにコロッと騙されないように気を付けてくださいね...!!

清水馨八郎が書いた『侵略の世界史』(祥伝社文庫)に目を通すと…、

繁栄を誇ってきた欧米の裏の顔は、実はトンデモない泥棒国家だったという事を改めて思い知らされます…!!

そこには、白人たちが500年以上の長きに渡って行ってきた残虐非道の数々が載っています…!!

先住民狩り、領土の横取り、財産の横取り、植民地支配、奴隷貿易の実態…!!

かつて日本は、アメリカやヨーロッパ諸国を模範にして、文化的にも産業的にも進んでいる欧米に追いつき追い越せとばかりに近代化を進めてきました…。

とくに私たち戦後の教育を受けた者には、アメリカを中心とする欧米文化の華やかさばかり気を取られて、その欧米がどうして経済的に豊かになったのかという点を深く考えていなかった様な気がします…。

そもそも、歴史の教科書には真実が描かれてませんからね…(笑)?

でも実は、白人国家の繁栄の影に、黒人らの途方もない数の有色人種たちが何世紀もの間犠牲になっていたのです…!!

ユダヤ人(ユダヤ教徒の白人)コロンブスが到着したアメリカ大陸に白人たちが流れ込んだのは、当初は金や銀の横取り目的だったようですが…、

その為にインディアンを大量に殺戮した挙げ句、今度は鉱山や農地の労働力確保のためにアフリカから奴隷を連れてくるという自己中な卑劣さ…!!

ユダヤ人(ユダヤ教徒の白人)たちが海賊商人となって、ヨーロッパの国家と手を組んだ…。

とくに何世紀も人身売買・奴隷貿易を国家ぐるみで行っていたのが、イギリス、フランスなどの国…!!

それこそが本当のカリブの海賊という訳です…!!

例えば、アフリカから連れ去られた数は、16世紀90万人、17世紀300万人、18世紀700万人、19世紀400万人もの人々が黒人奴隷として売買されたとは…!?

侵略した国に黒人奴隷たちを無理矢理連れて行っては過酷な鉱山労働をさせて、金銀を奪い取り…、

この金銀が元手にして国内の産業を押し進めたり、戦争資金に回したりすることで、欧米の資本主義の原点となったらしいのです…!!

アフリカで黒人を捕まえて船に乗せる→アメリカに奴隷として売る→アジアから作物を買い付けて船に乗せる→ヨーロッパで売りさばく…。

こんな三角貿易の仕組みが何百年も続いて、ヨーロッパに巨万の富をもたらしたというのです…!!

こんな構造の裏側に、△NIMRODの影が見え隠れするのは当然のことでしょう…!!

世界中のあらゆる種族の中で白人が一番優れている、白人以外の人種は全て劣っているという根拠のない、勝手な理屈に基づき…、

ヤツらは黒人も黄色人種も、肌に色がある民族の総てに対して人種差別を行ってきたのです…!!

【ロスチャイルドは奴隷貿易で利益を得ていた】

欧米を中心に世界で事業を展開する金融財閥ロスチャイルドと、英大手法律事務所フレッシュフィールドズ・ブルックハウス・デリンガーが、英国で1830年代に奴隷制が廃止される以前、「奴隷ビジネス」に関与していたと、27日付の英紙フィナンシャル・タイムズが報じた。

米金融大手JPモルガン・チェースやバンク・オブ・アメリカを含む多くの米金融大手が奴隷ビジネスに関与したとしてこれまで謝罪。

ロスチャイルドなどは関与を否定してきただけに新たな波紋を呼びそうだ。

同紙は英公文書館が保管する文書の内容として報道。

それによると、当時のロスチャイルドは奴隷を担保に資金の貸借を契約。

奴隷制廃止に伴う英政府の損失補償措置で資金を回収したという。

フレッシュフィールドズ創業者らは、英国のカリブ海の旧植民地を拠点とした奴隷所有者らの財産管理人を務めるなどして利益を得たとしている。

奴隷制と人種隔離政策をめぐるのは、米上院が今月、謝罪決議をするなど、過去の責任を問う動きが続いている。

(2009/6/27 『東京新聞』より)

最近になってロスチャイルド財閥が、かつて奴隷貿易に投資していたことが明るみになりました…。

ハーバード大学の歴史学教授ファーガソン氏の著書「世界の銀行家ーロスチャイルド家の歴史」の中には、英国の富の構造そして奴隷制度がどのようにして広まったかを示してます…。

氏によればイギリスでは1830年代に植民地での奴隷制度が廃止されたそうですが、その際に英国

の奴隷所有者を緊急援助するための英国政府基金というのを創設するのに尽力したのがロスチャイルド財閥なのだそうです…。

ところが、かつてロスチャイルドが奴隷貿易にどれだけ関わっていたか暴露された事実を知ったら驚きます…。

「かつてベルギー領であったアフリカのコンゴでは、ベルギー国王レオポルト2世の経営する無数の大規模ゴム農園で、黒人が凄まじい奴隷労働を強制された。

この奴隷農園を経営していた実働部隊が、ロスチャイルド一族とその盟友・銀行ソシエテ・ジェネラル・ド・ベルジックである。」

「黒人には1日に採集するゴムの量が1人1人割り当てられた。

1日でもその割り当てノルマが達成できないと、ロスチャイルドはその黒人奴隷の手首をオノで切断し、制裁を加えた。

相手が少年であっても容赦はされなかった。」

「本書に掲載されている写真が残されている事は、`写真という技術が登場し、しかもアフリカの奥地にまで持ち込める携帯用のカメラが開発・販売されるようになったつい近年まで、ロスチャイルドによる黒人奴隷の手首切断が実行されていた` 事実を示す。」

「この有色人種を奴隷とし人間とも思わない一族が、今後、中国を支配し、原発と核兵器を大量生産する事になる。

原発の事故が起こり、核戦争が起こり、アジア人=有色人種が死のうとロスチャイルドが`何とも思わない` 事、むしろ不要な人種が死んで喜ぶ事を、この写真は事実として示している。」

「今後、国連の中心となり、国連という国際機関を`動かす` 中心国となるベルギーとロスチャイルドによる、この黒人・有色人種虐殺の犠牲者は、数百万人に上る。

国連が平和維持活動と称しPKO部隊を送り込み、有色人種の国々で虐殺を繰り返している事実は、このベルギーとロスチャイルドによるコンゴでの大虐殺に`同一起源・源流` を持つ。」

「ロスチャイルドは、逆らった黒人、病気・ケガで働けなくなった黒人を射殺する事を農園の監督人に命じた。

しかしライフル銃の弾丸を節約するために、殺害に使用した弾丸の数と同一の数の黒人の手首を

持ち帰る事を監督人に要求した。

殺害された黒人1名につき弾丸1個しか使用してはならない、という弾丸の節約命令が出されていた。」

「黒人の命より、弾丸1個の方が`もったいない`という事である。」

「一方、監督人は木の棒等で黒人を撲殺し、弾丸を未使用のまま残し、`黒人が逆らったので銃殺した`とウソの報告を行い、弾丸を銃器販売店に`横流しし`、その利益を`小遣い`として着服する事が常態化していた。」

「つまり逆らってもいない黒人を撲殺し、弾丸を横流し販売する事で`小遣い`が得られた。ロスチャイルドの監督人達は、ビール1杯を飲む小銭のために、逆らってもいない黒人を殴り殺し続けて来た事になる。」

「このベルギー国王(英国王室と同族のザクセン・コブルク・ゴーター族)とロスチャイルドの行った大虐殺を知り、写真を撮り世界に知らせた勇敢なジャーナリストが3名居た。」

「最初の告発者ワシントン・ウィリアムズは、わずか32歳の若さで何者かに毒殺されている。」

「盟友の毒殺にも屈せず政府とロスチャイルドの告発を行ったジャーナリスト、ロジャー・ケースメントは国家反逆罪で、ベルギー政府の手で逮捕され絞首刑となり処刑されている。」

「3人目のE・D・モレルも逮捕され、ケースメントと同一の刑務所に収監され、出獄後、病死している。」

「これは、携帯用の小型カメラが世界中に販売されるようになった時代のリンチであり、`つい最近`の出来事である事を、写真撮影という事実そのものが示している。」

「そしてコンゴだけでなく、南アというロスチャイルドの支配下に入った国・地域では、どこで

もリンチ殺人が行われていた事実を、こうした写真は示している。」

「コンゴは、ゴムだけでなく核兵器原料のウランの最大手の生産国であり、ロスチャイルドの核兵器原料企業ソルベイ社が、コンゴでのウラン採掘と世界への販売を担当してきた。」

「このソルベイ社とベルギー国王が、国連所在地のブリュッセルで3年に1度開催する、ソルベイ会議は、世界中の核兵器メーカーと核物理学者が集まり、今後の核兵器販売計画を密談する、ソルベイ社から招待された者だけが参加可能な、マスコミにも情報を出さない、隠密会議となっている。」

「かつて、第5回ソルベイ会議に出席したアインシュタインが、ソルベイ社に説得され、米国のルーズベルト大統領に書簡を送り、原爆開発の推進を提言した事実は有名である。著名であったアインシュタインの書簡であれば米国大統領も核兵器開発を認め、説得されるであろうと計算したソルベイ会議は、アインシュタインを上手に誘導し説得したのである。」

「このソルベイ会議が無ければ、日本の広島・長崎への原爆投下も原爆開発も無かった。」

「この会議を開催している者が、ロスチャイルドとベルギー王室、つまりコンゴの奴隷虐殺者達である。」

「日本人という有色人種を大量に虐殺した広島・長崎への原爆投下と、コンゴでの有色人種＝黒人大虐殺が、同じ論理、同じ企業・人間達によって行われてきた事実が浮かび上がる。その論理とは『有色人種虐殺』である。」

「この企業・人間達が、今後アジアの盟主として中国の政権中枢を担当する。その金融面での動きがアジア統一通貨の形成であり、それは欧米・ロスチャイルドの新しい支配戦略である。」

アジア通貨の誕生をドル支配からのアジアの独立である等という寝呆けた主張は、国際情勢への無知か、自分がロスチャイルドの手先である事を自白しているに過ぎない。」

(2009/5/3『seesaa』サイトより)

#### ■4■ オーストラリア編

オーストラリアにキャプテンクックが到来したのは、1770年であった。  
当時この大陸には原住民としてアボリジニーが約30万人も平和に暮らしていた。  
彼らは4万年も前に東南アジアからこの大陸に移住してきたものである。  
クックは上陸するや原住民を無視して一方的に英領を宣言した。  
まず、おれのもの、ツバをつける白人のやり方である。

英国は1788年、11隻の船隊に流刑囚1,473名を乗せて、シドニーに近いボタニー湾に現れた。  
男囚778名、女囚192名、その他という構成だ。  
本国の犯罪人を植民地に流刑したのはイギリスだけでなく、ロシアのシベリア流刑は有名だし、  
フランスもパリ・コミューンの政治犯を多数、ニューカレドニアへ送っている。

受け入れ側の先住民にとって、男女囚の比率が4対1のアンバランスなことは大変迷惑であった。  
最初に被害を被ったのはアボリジニーの女性である。  
男囚の性欲を満たすための現地調達が行われたからだ。  
オーストラリアは流刑植民地だから、続いてきた一般植民者も本国に容れられない落ちこぼれ、  
ならず者、無法者が多かった。  
これら白人にとって現地のアボリジニーは野獣、野犬やねずみと同様、考慮に値しない存在として  
虐殺が始まった。  
動物狩りの対象としてアボリジニー狩りを楽しんだのである。

かくして最初の船隊が来てから約100年後の1901年には、先住民は6万7,000人に激減してしま  
った。  
オーストラリアの南端にあるタスマニア島のアボリジニーは、もっとひどく、全滅させられて  
しまった。

タスマニア島は四国と九州を合わせたくらいの広さで、緑に恵まれた島である。  
住民はオーストラリアから移り住んだアボリジニーで、平和に暮らしていた。  
後からやってきた白人植民者に先住民は邪魔とばかり、見つけしだいに射殺された。  
当初3万7,000人いたアボリジニーは、1847年にはたった44人になった。

絶滅寸前のこの人種の中で、最後の1人となったトルガニーニという女性の数奇な運命は、感動的



である。

最後の1人となったとき、オーストラリア政府は、最後のタスマニアン・アボリジニーとして人類学上の貴重な資料として保護することになったからだ。

佐渡のトキのような運命である。

1876年、トルガニーニは「山の奥に私を埋めて」と言い遺して苦難の生涯を終えた。

遺体は遺言どおり山奥に埋められたが、やがて無法者の白人が墓をあばき、遺体をバラバラにして持ち去った。

彼女の骨は考古学上の珍品として高価な値がつき、蒐集家の手に渡り博物館にまで陳列された。やがてトルガニーニの骨が取り戻され、正式な茶毘に付され、その灰がタスマニアの海にまかれたのは、彼女の死後100年たった1976年のことであった。

## ■5■ アジア編

【330年にわたるインドネシアへの苛斂誅求(かれんちゅうきゅう)】

オランダは、アフリカ及びインド洋の沿岸地域にあったポルトガルの貿易拠点を次々に奪い取り、17世紀中頃には、現在のインドネシアを中心とした地域に、確固とした拠点を築いた。これ以降、330年間もの長期にわたって、オランダのインドネシア植民地支配が続くのである。

その統治方法は、

1. 原住民を文盲のままに放置し、土侯を使って間接統治
2. キリスト教に改宗した者は、優遇して警察官や軍人に登用
3. オランダとインドネシアの混血児童を中間階級として使用し、民族の分断を図る。
4. 社会の流通経済は華僑にやらせ、経済詐欺によるインドネシア人の憤慨と憎悪を華僑に集中させる。
5. 一切の集会や団体行動を禁止する。
6. 全国各地で用いられていた320の部族語をそのままにして、1つの標準語にまとめる企てを禁止する。

以上の方法でインドネシア人から民族意識を奪っていったのである。

またオランダは、コーヒー、砂糖きび、藍、茶、肉桂などの「強制栽培制度」を導入した。

しかもオランダは直接手を下さず、諸侯を使って分割統治し、その上前をはねるといふ、巧みな政策をとった。

人民詐欺や悪政の恨みを華僑や諸侯に向けさせたのである。

イギリスのインド支配でもそうだが、植民地支配を会社組織にして一見、国家が政治的軍事的に前面に出ないように見せかけている。

植民地を会社経営としたのだから、利益の追求が最大目的で、原住民の福祉など眼中にないのは当然である。

植民地とは本国の国益中心で、現地からしぼれるだけしぼるために存在するのである

。

## 【イギリスの植民地支配が長持ちした3つの理由】

近世500年間の世界の覇権国を概観すると、16世紀がスペイン、17世紀がオランダ、18世紀と19世紀がイギリス、20世紀がアメリカと見ることができる。

この中にあって、最もヘゲモニーが長持ちしたのは、一番小さな島国イギリスであった。

しかも最盛期にはオーストラリア、ニュージーランド、カナダ、エジプトから南アフリカ、インド、ビルマ、マレーシア、それに太平洋の島々を加えて7つの海にまたがる広大な領土を支配し、200年もの間、パックス・ブリタニカを誇りえたのがイギリスであった。

その原因、ナゾ解きは、専門の史家によって種々論究されているが、私は次の3点を注目している。

第1に英国はユーラシア大陸からドーバー海峡を隔てた島国で、直接大陸での抗争、動乱に巻き込まれず、その動向を一步置いたところから観察できるという地理的優位性を持っていたことだ。この点日本は、ドーバーが30キロなのに対して、東シナ海900キロ、朝鮮海峡200キロで、大陸の動乱にはイギリス以上に巻きこまれる危険性が少なかった。

第2点は、キリスト教を植民地統治の手段に使うやり口が、スペイン、ポルトガルとは基本的に違っていた。

スペインなどはカトリック国で、十字架を武器に、支配地住民に無理矢理に信仰を強制したが、イギリス(イギリス国教会)は、キリスト教の教義はあまり問題とせず、教会などの組織にのみ関心を示した。

したがってカトリックのような狂信的な異教弾圧はなかった。

ただしイギリスは、宗教が世界支配の重大な決め手であることを確信して、世界の主たる聖地はほとんどその保護国(エルサレム、コンスタンチノーブル、イスタンブール、ガンジス河、メッカ、メジナ)に取りこんでいる。

だからイギリスは、最大のプロテスタント国家で、また最大のイスラム国家だったともいえる。英国は宗教にやや寛容で、むしろこれを政治的に利用するのにすぐれていたのである。

第3に、スペイン、ポルトガルが植民地から収奪した莫大な富を単に国内で豪勢に消費しただけだったのに対して、イギリスは内部蓄積し、科学技術を高め、産業革命を起こし、海外貿易を盛んにし、さらに産業資本を蓄積して、次の植民地経営に活用した。

つまりイギリスは、スペイン、ポルトガルのように泥棒で得た富を一回限りで使い果たして終わることに満足せず、次の植民地収奪という高度の泥棒の手段に、うまく回転していったのである。巧妙と言えば巧妙である。

【なぜイギリスは北米から撤退し、インドに進出したか】

イギリスは1588年、スペインの無敵艦隊(アルマダ)を破り、スペインを衰退させ、さらに、1652年より3回にわたる英蘭戦争に勝利し、オランダの海上権を奪ってしまった。

かくして17世紀後半になると、イギリスの植民地争奪戦争の相手はフランスのみとなった。

18世紀の英仏の熾烈な植民地争奪戦は、1つは北米大陸で、他はおもにインドで行われた。

ヨーロッパによる南北アメリカの植民地分割は、欧州南部のスペイン、ポルトガルが南方の中南米に展開したのに、欧州北部の英仏が、北部の北米に展開したのは地理的宿命のおもしろさである。

このため、北米をアングロアメリカ、中南米をラテンアメリカと言うようになった。

北米での英仏の植民地争奪戦はオハイオ川の支配をめぐって勃発した。

最初の4年間は、イギリスに不利な状況だった。

しかしイギリスは、ヨーロッパ本土の戦争に深入りせず、多数の軍隊を北米大陸に集中させたために、最終的にフランス領カナダの中心地ケベックを占領し、これを機に形勢は一気にイギリス側に有利になった。

勢いに乗ったイギリス軍は、さらに西インド諸島スペイン領も占領した。

イギリスから多数の植民者が新大陸に移住し、イギリスの植民地が拡大し、力をつけるにしたがって、現地での独立運動がさかんになってゆく。

フランスは現地の植民者勢力を応援した。

そしてフレンチ・インディアン戦争(1754～1763年)をへて、ついにアメリカ合衆国が英国から独立してしまった(1776年)。

このためイギリスは、北米で失った利権をインドを中心とするアジアで取り戻すべく、この方面に全力を集中させることになった。

しかし、ここでも先発のフランスと熾烈な植民地争奪戦争を繰り返すのである。

しかし仏軍は、ベンガルの豪族軍と結んで英軍とのプラッシーの戦いにいどむが、敗れてインドからついに撤退する。

かくて、インドにあったムガル帝国は、イギリスの支配下に入ることになった。

英仏の海外での植民地戦争は、ヨーロッパ本土において、英仏7年戦争となって対応するものだが、これだけでなく、両国は植民地争奪戦がもとで、1689年から1815年まで126年間も、ヨーロッパで熾烈な闘争を繰り返すことになった。

ヨーロッパ列強の、インドや東南アジア植民地経営は、東インド会社という一見平和な株式会社方式で進められたところに特色があった。

東インド会社方式は、イギリスのほか、オランダにもフランスにも、デンマークにもスウェーデンにもあった。

いずれも国王の特許状によって設立された。

東洋貿易の独占権が与えられ、後に植民地経営の中心となり、武力をもって外国の同業者と激しく競争した。

イギリスの東インド会社は、1600年、エリザベス女王の特許状で設立され、18世紀半ば頃、フランス勢力を打倒し、土着君主を抑圧して、インドを完全に掌握してしまった。

イギリスはインドの現地人を多数傭兵として使い、結局現地人同士が戦わされることになった。現地人を犠牲にして植民地戦争を戦う方式は、以後すべての戦争に採用されたのである。

#### 【植民地から収奪した富を産業革命に転用したイギリス】

イギリスは、オランダ、フランスを武力闘争で打ち負かし、世界の海上権を握り、広大な植民地を独占することになった。

このためイギリスはヨーロッパのどの国より物資資源、産業資本を蓄積することができた。

これが18世紀中頃以後にはじまった「産業革命」の原動力となっていたのである。

産業革命は、道具による生産から機械による生産への転換であり、また動力の転換でもあった。

生産の機械化は、まず木綿工業ではじまった。

18世紀になると、インドの綿布への内外の需要が増大し、これがイギリス国内にも木綿工業を発達させ、1733年、ジョン・ケイが飛びおさを発明して織布の生産率が倍加した。

さらに1764年、ハーグリーブズが紡績機を、1785年にカートライトが力織機を発明した。

以上を繊維革命と呼ぶ。

これまでの機械は、動力として水力をを使っていたが、蒸気機関の発明によって産業革命は本格的な進展をみせるようになった。

ニューコメンらが蒸気力による排水用ポンプを発展させていたが、ワットがこれを改良して、原動機としての蒸気機関を1781年に完成した。

以上が動力革命である。工業の発展は石炭・原料・製品を大量輸送する交通機関の発達をうながした。

1814年、スティーヴンソンは蒸気機関車を発明し、1825年に最初の鉄道を実用化させた。

これで馬車から鉄道の時代がやってきた。

またアメリカ人フルトンは、蒸気船を実用化した。

以上を交通革命という。

かくして最初に産業革命をなしたイギリスは、19世紀に入ると「世界の工場」として繁栄を誇った。

この革命を、19世紀中頃をすぎるとフランス、ドイツ、アメリカにも達した。

産業革命の進展によってヨーロッパ列強は、原料輸入と商品の市場獲得のため、ますます植民地が必要となってきた。

このため、植民地からの収奪は強化され、先住民の伝統的な生産・生活様式は、強制的に転換させられ、悲惨な状態へと追いやられてしまった。

## ■6■ アフリカ編

### 【ヨーロッパ列強のアフリカ完全分割】

18世紀後半にイギリスで産業革命が進み、そして19世紀のはじめには、イギリスは「世界の工場」と言われるまでの経済の黄金時代(ビクトリア時代)を迎えた。

これに刺激されてフランスもアメリカも、1830年代から、ドイツは1840年代から、ロシアは1860年代から、それぞれ産業革命が起こり始めた。

このため19世紀末期から20世紀初期になると、ヨーロッパ列強では産業に必要な物産資源の獲得と市場拡大のため、より以上の植民地の必要性が急激に高まってきた。

各国間での産業競争が激しくなるにつれて、欧州外での植民地争奪競争もまた激化した。

ヨーロッパ人にとってアフリカは、北部の地中海沿岸地域が知られていたのみで、広大なサハラ砂漠が横たわる背後の地域は、魅力のある土地ではなかった。

ただ黒人を奴隷狩りして、つかまえ、新大陸に売り飛ばす点にのみ、関心が集中していた。

しかし19世紀の半ばになり、さしもの奴隷貿易が下火になる一方、リヴィングストンやスタンレーら、白人によるアフリカ内部の探検が盛んになるにつれて、ヨーロッパ列強は目の色を変えてこの大陸に突進してゆくことになった。

1870年代、アフリカにおける白人の支配地は、沿岸部を中心とする10%ぐらいだった。

ところが、1900年代には、エチオピア、リビア、南アを除く全ての土地が、白人のむしり取る格好の場となった。

まるで無人の野を行くが如く、早いもの勝ちのすさまじい分捕り合戦が始まった。

1番たくさん分捕ったのがフランスで、イギリスが2番目、以下ドイツ、ベルギーと続き、最後がスペイン、イタリアである。

しかし、フランス領には広大なサハラ砂漠が含まれるので、実質1位はイギリスと言ってよい。

フランスはアジアとアメリカ大陸でイギリスとの植民地争奪戦争に敗北したので、その分をアフリカで取り戻そうとして広大な土地を手に入れたが、その大部分は砂漠であった。

ところが、イギリスは、エジプト、東アフリカといった主要部分を、実に計画的、地政学的に取得してきた。

さすがにイギリスは7つの海を支配するだけの、第一級の植民地大泥棒国であることを実証した。

【現在のアフリカ諸問題の根源は、すべてヨーロッパにある】

そもそもアフリカは、人類誕生の地である。

アフリカ東部で発見されたホモ・ハビリスの化石は、150万年から200万年以前のものだそうである。

この大陸は、海岸線がきわめて単調で屈曲に乏しく、しかも沿岸台地が海に迫り、直接概要の波浪が打ちつけるため、湾や入り江のある良港に恵まれていない。

だから外洋から船が河川を遡って内陸奥深くまで舟航することが不可能で(ナイル川は例外)、このためアフリカの外界との交流は疎外されてきた。

さらに気候条件も恵まれない。

北部と南部の回帰線あたりには、サハラ砂漠とカラハリ砂漠の大乾燥地帯が横たわる。

アフリカ大陸の中豪を赤道が通り、この御を中心とする熱帯雨林地帯が広がり、これを取りまいて草原のサバンナ地帯や乾燥疎林地帯が続いている。

このような不健康な気候のため、疾病や飢饉が襲って死亡率も高く、全アフリカで人口は約6億7,000万(1992年)と、世界の諸大陸中、最も希薄である。

その原因は、この厳しい自然環境のほかに、白人がもたらした人為的なものである。

つまり、16世紀から19世紀に展開された奴隷貿易で、働手である大量の青年男女が奪い去られたからである。

また、アフリカ諸国の国境が、今日においても、定規で線を引いたような直線的な様相を呈しているのは、白人本国の都合で住民、人種を無視して勝手に分割統治したからである。

同一民族が2つに分離されたり、対立民族が同じグループに一まとめにされたりした。このような民族の歴史、文化、生活を全く無視した不合理な分割統治が、今日のルワンダをはじめとするアフリカにおける地域紛争や不幸の根源になっている。

また、労働力がゴムやコーヒーなどのプランテーションへの強制労働に駆り出されることによって起こる飢饉や、白人がもたらした文明病による疾病、さらにソ連からの共産イデオロギーによる紛争など、現在アフリカがかかえる悲惨な問題の根源は、突きつめるとすべてヨーロッパに起因していることがわかるのである。



## 『△白人の侵略を唯一食い止めた、奇跡の国』

---

当時、世界は△白人たちによる…、

「白人至上主義、有色人種差別」が蔓延していた…。

欧米諸国によるアジア侵略と、植民地化という時代が続き…、

有色人種(アジア諸国)は△白人により搾取され、奴隷として支配されていた…。

この支配が未来永劫続くかも知れない、世界背景の中…、

世界最強と謳われた「超大国」ロシアを破り…、

「白人優位、白人不敗」の神話を崩壊せしめ…、

有色人種国家で唯一「列強国」となった、アジアの小さな国があった…。

その小さな国は…、

「人種差別・人種平等」を、世界に訴え続けた…。

1919年、国際連盟に人種差別撤廃条項を盛り込むよう提出…。

欧米列強によって分割・植民地支配されていたアジア・アフリカ地域の民衆も…、

その提案を支持した…。

閣議では11対5と賛成多数となったが…、

呆気なく否決された…。

議長のアメリカがこれを採用しなかった…。

1933年、常任理事国だったその国は…、

国際連盟を脱退…。

国内世論は拍手喝采で迎えた…。

その国 日出ずる国

日本 -JAPAN-



日本は、大東亜共栄圏のスローガンのもと....、

欧米の苛烈な植民地支配から、アジアを開放していった....。

これは有色人種の△白人種に対する、壮絶な巻き返しであり....、

当時その力と気迫を持っていたのは日本だけだった....。

私たちの祖先が、大東亜戦争で命を捨ててまで戦ってくれたお陰で....、

今日の暮らしが有ることを、決して忘れてはいけません....。

『△白人の侵略を唯一食い止めた、奇跡の国』日本…。

大東亜戦争【不屈の武士道精神】

→<http://www.youtube.com/watch?v=7QQzmq7wEc>

## ■7■ 白人の世界侵略を阻止し、有色人種を解放した大東亜戦争

### 【近代世界史の虹から見た大東亜戦争】

近世世界史をコロンブスのアメリカ大陸到達(1492年)の15世紀末から、香港返還(1997年)、長野オリンピック(1998年)の20世紀末までの500年で大観すると、人類の歩んだ歴史の虹がはっきりと浮かび上がってくる。

歴史の時間的スパンを500年くらいの長さで見、さらに地理的空間を地球規模のグローバルな視点で観察すると、人類史の真実が手に取るように見えてくる。

この虹の橋の上に、日本の存在や日露戦争、大東亜戦争を位置づけると、その意義の重大さがはっきりと描き出されてくる。

### 【500年にわたる白人の世界侵略史】

この5世紀間、虹の橋の上で活躍したのはスペイン、ポルトガルをはじめ、オランダ、英、仏、米、露など、すべてヨーロッパ出身の白人のみで、その間、東南アジアや、アフリカ大陸、アメリカ大陸の原住民らは、奴隷か植民地民族として呻吟していたのである。

この時代は、一口に言って、白人による世界植民地侵略制覇の時代と断言できる。

彼らは繰り返し、世界中を荒らし回った。

彼らは文明とキリスト教の宣教の名をかかげながら、異民族に一片の憐憫の情をも示すことなく、早いもの勝ち、手当たり次第に奪いつくし、殺しつくしていったのである。

この時代、白人以外は「人にあらず」で、人間としてまともに扱われることはなかった。

ところがここに奇跡が起こった。

この白人侵略の世界史の虹の中に彗星のごとく忽然と現れたのが日本だった。

有色人種は、科学技術という文明で武装した白人にはとうていかなうはずがないとあきらめきっていたのに、長い間国を鎖していた名もない日本が、独り忽然と白人侵略に立ち向かったのである。

力には力で対抗するしかない世界の帝国主義の時代に、日本も強大な軍事力を蓄えて彼らの侵略を阻止するために立ち上がったのは、日露戦争(1905年)から大東亜戦争(1945年)にいたる僅か40年余りであった。

それは世界侵略史500年の歴史の虹のわずか10分の1にすぎない一瞬の出来事であった。

この虹の上に刻印された日本の存在と決断と犠牲とが、その後の世界史上、白人侵略の停止、植民地解放、人種差別撤廃の動機となり、世界地図を塗り替えるほどの人類史上最大の革命をもたらしたことは、何人も疑うことのできない事実である。

【今こそ白人の暗黒の歴史を白日のもとに】

西欧500年の発展、繁栄の基礎になっていたものはなんであったのだろう。

それは世界史上例を見ないほどの悪逆非道の非白人支配と略奪の上に築かれたものであった。西洋文明の発展、西欧人の栄耀栄華の陰に、その何百倍もの非白人の苦痛、苦難の犠牲があったのである。

5世紀にわたって白人の文明と繁栄を支えるために、どれほどの不正と搾取、虐待と殺戮があったことか、今こそ、この白人の触れたがらない暗黒の歴史を白日の下に晒す時が来たのである。これなくして21世紀の平和は語れない。

この過去の世界史を総括して反省しない限り、21世紀の真の歴史は生まれないと知るべきだ。

(清水馨八郎著『侵略の世界史』祥伝社文庫2001年発行より)

## 【速報】カづくで封じ込められるアメリカ市民と戦車の輸送

---

2011年9月に発生した市民デモ『オキュパイ・ウォール・ストリート(ウォール街を占拠せよ)』運動は、ニューヨーク・ウォール街を皮切りに、ロサンゼルス・ダウンタウン、オークランドなどアメリカ各地に拡大しました…。

「富める1%」に対し「われわれは99%」という合言葉が広がり、経済格差に不満を持つ人々が大規模な抗議活動を行っているものです…。

このほど、オークランドで大規模なデモが行われましたが、一般市民に対して警察が武器を使用したかなり過激な封じ込めを行ったようです…!!

映像を観る限り、警察は催涙弾やテガー銃の雨あられでデモ隊を攻撃しています…!!

「自由の国・アメリカ合衆国」は、等の昔に死に絶えています…!!

もはや、事実上の「アメリカ連邦・社会主義共和国」と変貌を遂げたということでしょうか…!?

報道では下記の様に伝えているようですが、警察発表は当てになりませからね…!?

### 【「オキュパイ」デモと警官隊が衝突、400人逮捕 米カリフォルニア】

米カリフォルニア州オークランドで28日夜～29日未明、反格差を訴える「オキュパイ」運動のデモ隊と警官隊が衝突し、400人余りが逮捕された。

オークランド警察によると、これほど多数の逮捕者が出た前例はなく、今年に入ってからの一連のオキュパイ運動の中で最も激しい抗議運動となった。

1,000人余りが参加した「オキュパイ・オークランド（オークランドを占拠せよ、Occupy Oakland）」のデモは、当初は平穏に行われていたが、警察発表によると一部が暴徒化。警官を瓶や金属棒で殴ったり、石や手製の爆発物を投げたり、放火するなどしたため、警察側も催涙弾やビーンバグ弾などで応じた。

この衝突で、警官3人とデモ参加者1人が負傷したという。

(2012/1/30 『AFPニュース』 より)

Occupy Oakland video: Police use flashbangs & tear-gas against protesters

→<http://www.youtube.com/watch?v=5WEK6HgXBsQ&fea..>

一方、最近アメリカの南部から北部に向って大量の軍用車輛の輸送が行われたそうです...!?

その規模たるや半端ではなさそうで、その光景に驚いて撮った方のカリフォルニアの映像をご覧ください...。

途方もない数の戦車が無気味ですね、いったい何のために運んでいるのでしょうか...!?

実は、昨年も大量の殺戮兵器が大陸を移動している光景が度々目撃されていたそうです...!?

何に使うの...!?

アメリカにやはり、Xデーが近づいているのでしょうか...!?

Woodland Camo Military Equipment Filmed In Watsonville California - Military Movements

Continue

→ [http://www.youtube.com/watch?feature=player\\_embedd..](http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedd..)

military\_tanks\_on\_train.mp4

→ <http://www.youtube.com/watch?v=0e7KJerlit0&fea..>



## 【速報】(ダボス会議)欧州危機は日本にチャンスか

---

フィッチ、ユーロ圏5か国を格下げ...!!

メルケル独首相、ユーロ圏救済へのさらなる拠出に「ノー」...!!

米と欧州連合(EU)、イランに経済制裁を加える...!!

この様な最中、スイスで開催された....、

第42回世界経済フォーラム年次総会「ダボス会議」...!!

当然のことながら、ユーロ圏の債務危機問題が話題を独占したようです...。

政財界トップが危機は曲がり角を越えたと白々しく強調する一方で、経済専門家らは「事態は悪化する一方で、最悪の事態も起き得る」と厳しく指摘したとか...。

ここに集結した各国の政財界のトップたちは、互いに意見交換し....、

その結果これからの世界を、どう占ったのでしょうか...!?

【「時代遅れの資本主義」の変革求められるエリートたち】

世界経済フォーラムのクラウス・シュワブ会長は、

「われわれは全面的な倫理感の断絶があり、過剰レバレッジに陥っており、未来に投資すること

をおそろかにし、社会の統一性を弱体化させ、そして未来の世代からの信頼を完全に失う危険にさらされている」と述べた。

「時代遅れで崩壊しつつあるモデルで問題を解決しようとしても、さらに深みにはまるだけだ。われわれは旧態依然とした考えではなく、新しい発想が不可欠な変革の時代にいる。今の形の資本主義がわれわれの世界に存在する余地はない」

(2012/1/24 『AFPニュース』より)

【ダボス会議閉幕、楽観ムードに警鐘鳴らす専門家の「ユーロ圏崩壊」予想】

## ■2013年に「最悪の事態」？EU解体予想も

会議閉幕にあたっての専門家らの予想には、ユーロ圏崩壊、米経済停滞、急進化、イランの核開発計画をめぐる衝突などが並んだ。

米ニューヨーク大学のヌリエル・ルービニ教授(経済学)は、世界は2012年をどうにか切り抜けることができるかもしれないが、それ以降は無理だろうと述べる。

「2013年は最悪の年になり得る。

ユーロ圏が全面危機に陥り、米財政赤字が頂点に達し、投資破たんが起き、中国経済もハードランディングするかもしれない」

米紙ニューヨーク・タイムズのコラムニスト、トーマス・フリードマン氏も、同様の暗い見通しを示し、

「私たちが来年ダボスに戻ってくる頃には、穴はますます深くなっているだろう」と語った。

フリードマン氏はグローバル化について、世界の片隅で起きた問題が全世界に影響することだと指摘する。

「世界をテーブルとみなし、その4本の脚を米経済、欧州連合(EU)、アラブ世界、中国・インドだと考えたとき、現在4本の脚全てが揺らいでおり、また4本がかつてないほど相互に関与し依存していることに衝撃を覚える」

一方、FT紙のコラムニスト、ギデオン・ラックマン氏は、EUに対する反動が起き、極右など急進的な政党が台頭する可能性に警鐘を鳴らす。

「政治の急進化が起きるだろう。

ユーロ圏のみならず、EUを支える政治機構までもが解体してしまう危険性は、かなり現実味がある」

前出のNY大のルービニ教授は、17か国で作るユーロ圏の崩壊が始まるのは時間の問題だと述べ、「ユーロ圏はスロー再生の列車事故だ。

ギリシャだけでなく、他の国々も破たん寸前だ」と強く警告した。

(2012/1/30『AFPニュース』より)

いやはや、ギリシャに端を奔ったユーロが坂を転がり落ちるのは、もはや誰にも止められないのでしょうか...?

白人の牙城もこれまでといった感で、長らく続いた世界の金融構造が崩壊しく様相ですが...

国際ジャーナリストBenjamin Fulford氏によると....

「長らく続いた金融戦争が既に最終局面に突入したことを示す表のニュース報道が増え始めている。」

「欧米の超エリートたちが集結して行なわれたダボス国際会議に関して、イギリスの大手新聞：デイリー・テレグラフ紙が打った記事の見出しは、『資本主義を救えるのは中国以外にない』というものだった。

これも金融戦争に終わりが近づいていることを示す1つの現れである。」

「世界に対して大きな役割を果たすチャンスが巡ってきているのは、中国というよりもアジア全

体であり、中でもその最たる国は世界最大の債権国である日本だろう。」

との意見です…。

なお、氏はさらに日本そしてアジアに関する水面下で浮上しているある重要な情報も掴んでおりますが…、

また次の機会にお伝えします…(笑)。

おまけ…、

「イランの原油禁輸措置で欧米の製油所で閉鎖されるところが続出しそうだ、という。

これこそ、自分で自分の首を絞める、ということだろう。

お馬鹿の見本となる。

それもこれも、イスラエル・ユダヤ勢力がイランの核計画を『核兵器』開発計画だ、と捻じ曲げ強弁するキャンペーンのためであり、それに乗ろうとする欧米の軍・産複合体の圧力のせいである。」

「イスラエル・ユダヤ勢力の邪悪な工作のため、欧米の製油所・製油業者が倒産・閉鎖されていくだけの間抜けな話となるのである。

いい加減に目を覚ましたら如何なものか？」

「話は逆です。

イランがアメリカとEUの紙屑紙幣を石油と交換しないと言っているので欧米がその話を隠滅するために` うちらはイラン石油をボイコットしている` と言っている。」

(2012/1/30 『Benjamin Fulford』 より)

## 威風堂々[20]『太平洋戦争で日本が抵抗しなかったら、△NIMRODの世界征服は完了していた!?!』

---

～恐れを知らぬ△NIMROD王は、やがて天にさえ侵攻しようと考えた～

2008年に、航空自衛隊トップだった田母神俊雄航空幕僚長が「日本が侵略国家だったとはぬれぎぬだ」などと主張する論文を発表して物議を呼んだことがありました…。

第二次世界大戦から67年の月日が経ちますが、この戦争責任問題に関しては非常にデリケートに扱ってこられたような気がします…。

いつの時代の戦争に於いても、戦勝国が正義で敗戦国は悪役というのがセオリーらしいのですが…、

連合軍側から見れば、日本という国はアジア諸国を次々と侵略した極悪国とされているのです…。

ですから、現職の自衛隊の航空幕僚長の発言に中国などアジア諸国の反発を恐れて、慌てて更迭して幕引きとした政府でした…。

しかし、彼はその後も全国で講演活動を繰り広げ、その主義主張を一貫して繰り返しているのです…。

田母神俊雄氏いわく…、

「大東亜戦争(太平洋戦争)が、白人による植民地支配からの解放戦争であり、もし日本が戦わなかったら白人による世界支配は完了していた」と言うのです…!?

これが一体どういう意味かを、あなたには解りますか…!?

恐らく戦後教育を受けた者の殆どの人には、彼の言ってる意味が判らないかも知れません…。

しかし、表向きの歴史とは実は、ある一部の連中によるウソっぱちだと気付いている者にとっては、田母神俊雄氏の考えに同調出来るのです…。

私たちの知っている、歴史に残る数々の大戦…。

実はそれらは全て、影で△NIMRODの連中が仕掛けていたものだったのです…!!

ヤツらは「白人至上主義、有色人種差別」という、根拠のない勝手な理屈に基づき…、

かつては黒人も黄色人種も、肌に色がある民族の総は白人によって搾取され、奴隷として支配されていたのです…!!

白人連中は、アジア諸国に次々に植民地支配を繰り広げ、その魔の手は、いよいよ日本に及ぼうとしていたのです…!!

ですから、もしも太平洋戦争で日本が抵抗しなかったら、△NIMRODの世界征服はとうの昔に完了していたかもしれないのです…!?

当時の旧日本軍が行ったことについては、今も昔も様々な意見があるのは当然のことです…。

ましてや、日本は敗戦国…。

連合国側に全面降伏を突き付けられ、今なおアメリカ合衆国(正確にはアメリカ政府を操る△NIMRODの連中)の支配下に置かれている立場であります…。

でも、あの時日本が戦わなかったらアジア、いや世界はまるっきり違ったものになっていたのでは

はないでしょうか...!?

例えば、下記の様な意見がありますので、あなたも読んでみて下さい...

【私見「逆説・大東亜戦争肯定論」】

―― はじめに

日本の近代史は、侵略、罪悪の連続だと中国・朝鮮の人々は言う。

いや、そう歴史教育されている。

日本人も同様の歴史教育を受け、多くの日本人は、嫌悪感もあって歴史忌避に陥っている。

では、日本が“侵略”しなかったら、東アジアは平和で発展したのだろうか？

東亜の近代史を紐解いて簡単に検証してみます。

――― 1. 仮想：もし、日本が日清戦争を戦わなければ。

朝鮮国は清国によって完全に属国化されたでしょう。

しかしその後、南進を続けるロシアによって、外蒙古・内蒙古・満洲・朝鮮がその勢力下に収められる結果となる。

清国は、南部及び華中、揚子江中下流域、チベットなどをフランス、イギリスに、山東半島及び周辺地域をドイツによって半植民地化される。

日本はイギリス、ロシア、アメリカ、フランス、ドイツなどに分割植民地とされる。

皇室はイギリス王室の係累と化す。

日本は陸軍、海軍も持てない。

すると造船・航空機産業が興らないから、自動車産業の発展もあり得ない。

拠点となった日本が無いことになるので、孫文の三民主義・辛亥革命も起こらない。

清国は蝕まれたまま、欧米の半植民地状態が定着していく。

日露戦争がないのでロシア革命も起こらない。

従って共産主義ソビエトは存在しない。

トルコはロシア領となり、中東戦争(ロシア対米英??)が起きる。

白人同士の講和成立。

大東亜戦争もないから、インド、インドシナ、インドネシアの独立もない。

アフリカの植民地状態はそのまま継続する。

欧米の世界(植民地)支配は21世紀にまでおよぶ。

朝鮮半島に餓死者が発生し、人口が半減する。満洲は完全にロシア領となり、中国人は農奴として扱われるようになる。

東洋人奴隷が重宝され欧米に広がる。

白人の世界制覇は完了し、19世紀植民地時代は20世紀に入り安定化する。

20世紀半ば、中国人日本人朝鮮人が結託して、反欧米運動が起こるが、圧倒的な武力によって速やかに平定される。

-----

考えてみれば簡単なことで、欧米白人支配の対極に小国日本があり、日本の文化的武力的抵抗があったればこそ、今日のアジア・アフリカの姿があるのだと思います。

この小国日本の抵抗さえなければ、白人の植民地支配体制は確固としたものとなり完成されたことでしょう。

この報復的意味から、白人の有色人種支配を糊塗隠蔽するため東京裁判の日本極悪人化が計られたのでしょ

-----

ロシアの国境線は、万里の長城、対馬・津軽海峡となったことでしょう。

そしてアジアの発展は、100年以上遅れる事態に陥ったことでしょう。

欧米支配の植民地体制はますます強固なものとなり、中国などは僅かに四川省ぐらいを確保して存続し得た..でしょうか？

—— わたしが言いたいことは、日清日露戦争を日本が戦わなければ、そして勝利しなければ、19世紀の欧米植民地支配体制が完全に定着して、現在のような地球文明の全般的発達はなかったであろうということです。



名著・林房雄「大東亜戦争肯定論」は、幕末からの東亜百年戦争を説き起こしています。

ここでは、明治の日清日露から簡単に検証してみました。

日清日露における日本の戦いと勝利がなければ、途中経過はともかく、現在、「ロシアの国境線は、万里の長城、対馬・津軽海峡」は、間違いなかったであろうと思います。

(2004/06/14 『chinachips.fc2web.com』 より)

このように一歩間違えば…、

日本国はバラバラになって他のアジア諸国同様、白人たちに完全植民地支配され…、

21世紀になっても、東洋人は奴隷としてコキ使われ続けていたかも知れませんね…!?

この支配が未来永劫続くかも知れない世界背景の中で…、

私たち日本の先人たちは…、

有色人種国家で唯一、白人支配に立ち向かって…、

そして負けたんです…!!

でもその結果、長年奴隷として苦しめられてきたアジア諸国が独立・解放運動のきっかけに発展していったんです…!!

このことは、胸を張って良いことではないでしょうか…!!

最近になって、あの方もこんな事を言っています…。

【田原総一郎のタブーに挑戦!

tahara-taboo 「なぜ日本は大東亜戦争を戦ったのか」】

～勉強したら分かった、日本は侵略戦争なんかしてない、アジアを開放するために戦ったんだ～

田原総一郎

「ボクはずーっと疑問を持っていた。

でも怖くて言えなかった、世の中にやられるんじゃないかと思って。

日本がやった戦争のどこが侵略戦争なのかと。

ゝ 負けると分かってる侵略戦争なんかやるかねゝ と疑問があった。

だからいろいろ調べて言ったらよく分かった。

アメリカ・イギリス・フランス・オランダ・スペインなどがやった戦争は侵略戦争。

全ての戦争が侵略戦争。

そして侵略戦争に勝った国を先進国と呼ぶ。

日本は欧米に侵略されたアジアを助けるんだ。

アジアを開放するんだと、そんな意気込みで戦ったのだ。

でも日本は外交で失敗した。

アメリカ・イギリス・フランス・オランダ・ロシア・中国など世界中を敵に回していた。

それじゃ勝てるわけがない。

世界で孤立して、負けざるをえない戦争を、日本はやらざるをえなかったんだ。

日本は明治維新でヨーロッパの文明をどーんと得た。

その後、日本はアメリカに戦争で負けアメリカの文明をどーんと得た。

そして今、日本に大地震が起きた。

そう、もう日本はマネをする国なんてどこにもないんだ。

もう一回、日本とはなんなのか考える時期が来たのである。」

(JAPAN FM NETWORK 2011/5/6放送『オンザ・ウェイ・ジャーナル』より)

## 『△白人による侵略の歴史を、日本が断ったあの日』

---

私は宣戦はしない

私は戦争を造るのだ

カーチス・B・ドール著

「操られたルーズベルト」より

△白人神話、△白人絶対至上主義が、今よりずっと露骨に表れていた時代…。

人種差別が当たり前の様に、まかり通っていた時代…。

全世界が覇権をめぐり、武力を行使していた時代…。

血も涙も無い、帝国主義だった時代…。

アメリカを筆頭とする欧米列強諸国に、東南アジアの国々は植民地支配され…、

有色人種は白人の搾取によって、瘦せ干せていくのみであった…。

しかし、ただ一カ国だけ…、

△白人と、欧米列強諸国と…、

真正面から立ち向かう気概と力をもった、アジアの国があった…。



日本帝國...!!

アジアにおいて燦然と輝いていた日出ずる国、大日本帝國は...、  
独立国として唯一、世界と対等に渡り合っていた国であった...。

日本は、大東亜共栄圏のスローガンのもと...、

欧米の苛烈な植民地支配から、アジアを開放していった...。

これは有色人種の△白人種に対する、壮絶な巻き返しであり...、

当時その力と気迫を持っていたのは日本だけだった...。

「奴隷か」

「戦うか」

私たちの先人が、大東亜戦争で命を捨ててまで戦ってくれたお陰で....、

今日の暮らしが有る....。

『△白人による侵略の歴史を、日本が断ったあの日』を記憶せよ....。

アジアが愛した日本 アジアを愛した日本 歴史の真実

→<http://www.youtube.com/watch?v=yFg2jjkxWkQ>

ここでは先の大戦で、各国が日本に対してどのような印象を抱いているかをご紹介します…。

果たして、太平洋戦争(大東亜戦争)は本当に侵略戦争だったのでしょうか…!?

アジア(某国を除く)と、その他の国ではどのように大東亜戦争を捉えていたのか…!?

その答えは、下記の要人たちのコメントを読んで頂ければお判りでしょう…。

#### ■ビルマ バーモウ初代首相

「歴史的に見るならば、日本ほどアジアを白人支配から離脱させることに貢献した国はない。真実のビルマの独立宣言は1948年の1月4日ではなく、1943年8月1日に行われたのであって、真のビルマ解放者はアトリー率いる労働党政府ではなく、東条大将と大日本帝国政府であった。」

(バー・モウ博士著『ビルマの夜明け』より)

#### ■マレーシア／ラジャー・ダト・ノンチック元上院議員

「私たちは、マレー半島を進撃してゆく日本軍に歓呼の声をあげました。敗れて逃げてゆく英軍を見た時に今まで感じたことのない興奮を覚えました。しかもマレーシアを占領した日本軍は日本の植民地としないで将来のそれぞれの国の独立と発展の為に、それぞれの民族の国語を普及させ青少年の教育をおこなってくれたのです。」

#### ■マレーシア／ガザリー・シャフェー元外相

「どうしてそういう挨拶をなさるのですか。」

あの大战で日本はよくやったではないですか。

マレー人と同じ小さな躰の日本人が、大きなイギリス人を追い払ったではありませんか。

その結果、マレーシアは独立できたのです。

大東亜戦争なくしては、マレーシア人もシンガポールも、その他の東南アジア諸国の独立も考えられないんですよ?」

#### ■マレーシア／ラジャー・ダト・ノンチック 元上院議員

「この国に来られた日本のある学校の先生は、『日本軍はマレー人を虐殺したに違いない、その事実を調べに来たのだ』と言っていました。

私は驚きました。

『日本軍はマレー人を1人も殺していません』と、私は答えてやりました。

日本軍が殺したのは、戦闘で闘った英軍や、その英軍に協力した中国系の抗日ゲリラだけでした。」

#### ■タイ／ククリット・プラモード 元首相

「日本のお陰でアジアの諸国はすべて独立した。

日本というお母さんは難産して母体をそこなったが生まれた子供はすくすくと育っている。

今日、東南アジア諸国民がアメリカやイギリスと対等に話ができるのは一体誰のお陰であるのか。

それは『身を殺して仁をなした』日本というお母さんがあった為である。

12月8日は我々に、この重大な思想を示してくれたお母さんが一身を賭して重大決意された日である。

更に8月15日は我々の大切なお母さんが病の床に伏した日である。

我々この2つの日を忘れてはならない。」

(12月8日『サイアム・ラット新聞』より)

#### ■フィリピン／マバラカット 市長

「フィリピン人は日本で伝えられているような“反日”などではなく、むしろ親日的ですよ。フィリピンの人々は戦争に対しては日本人よりも“リアリスト”です。戦争があれば多少なりとも悲劇はあると、現実的な考え方をしています。ですからフィリピンの人々は日本を責めようなどとは思っていません。」

#### ■インド／ラグ・クリシュナン 元大統領

「インドは当時、イギリスの不沈戦艦を沈めるなどということは想像もできなかった。それを我々と同じ東洋人である日本人が見事に撃沈した。驚きもしたが、この快挙によって東洋人でもやれるという気持ちが高まった。」

(昭和44年『日本経済新聞』より)

#### ■インドネシア／モハマッド・ナチール 元首相

「アジアの希望は植民地体制の粉碎でした。大東亜戦争は私たちアジア人の戦争を日本が代表して敢行したものです。大東亜戦争というものは本来なら私達インドネシア人が、独立のために戦うべき戦争だったと思います。もしあの時、私たちに軍事力があつたなら、私たちが植民地主義者と戦つたでしょう。大東亜戦争はそういう戦いだったんです。」

#### ■インドネシア／アラムシャ 元第3副首相

「我々インドネシア人はオランダの鉄鎖を断ち切って独立すべく、350年間に亘り幾度か屍山血河の闘争を試みたがオランダの狡知なスパイ網と強靱な武力と苛酷な法律によって圧倒され壊滅されてしまった。それを日本軍が到来するや、たちまちにしてオランダの鉄鎖を断ち切ってくれた。インドネシア人が歓喜雀躍し感謝感激したのは当然である。」



## ■インドネシア／ブン・トモ 元情報相

「我々アジア・アフリカの有色民族はヨーロッパ人に対して何度となく独立戦争を試みたが全部失敗した。

インドネシアの場合は、350年間も失敗が続いた。

それなのに、日本軍が米・英・蘭・仏を我々の面前で徹底的に打ちのめしてくれた。

我々は白人の弱体と醜態ぶりをみてアジア人全部が自信をもち、独立は近いと知った。

一度持った自信は決して崩壊しない。

そもそも大東亜戦争は我々の戦争であり、我々がやらねばならなかった。

そして実は我々の力でやりたかった。」

## ■オランダ／サンティン・アムステルダム 市長(現内務大臣)

「本当に悪いのは侵略して権力を振るっていた西欧人の方です。

日本は敗戦したが、その東亜の解放は実現した。

即ち日本軍は戦勝国の全てを東亜から追放して終わった。

その結果、アジア諸民族は各々独立を達成した。

日本の功績は偉大であり、血を流して闘ったあなた方こそ最高の功労者です。

自分を蔑むことを止め、その誇りを取り戻すべきであります。」

## ■アメリカ／リチャード・アーミテージ 前国務副長官

「主権国家である日本の総理大臣が、中国に限らず他の国から靖国神社に参拝してはいけないと指図されるようなことがあれば、逆に参拝すべきだと思います。

なぜなら内政干渉を許してはいけないからです。

もう1つは、全ての国が戦死者をまつりますが、それぞれのやり方で良いのだと思います。」

## ■イギリス／歴史学者 H・G・ウェルズ

「この大戦は植民地主義に終止符を打ち、白人と有色人種との平等をもたらし、世界連邦の礎石

をおいた。」

#### ■イギリス／歴史学者 アーノルド・J・トインビー

「第2次大戦において日本人は日本の為というよりも、むしろ戦争によって利益を得た国々の為に偉大なる歴史を残したといわねばならない。

その国々とは日本の掲げた短命な理想であった大東亜共栄圏に含まれていた国々である。」

#### ■アメリカ／マッカーサー 元帥

昭和25年10月トルーマン大統領に対して「東京裁判は誤りであった」と告白。

さらに昭和26年に米国上院において「日本がおこなった戦争は 正当防衛であり侵略戦争ではなかった」と公式に証言。

#### ■イギリス／国際法の権威 ハンキー 卿

『戦犯裁判の錯誤』という本の中で「日本無罪論のパール判事の主張は絶対に正しい」と明言。

#### ■インド／法学者・極東国際軍事裁判判事 ラダ・ビノード・パール

日本が戦争にふみきったのは「侵略のためではなく」独断的な政策をとった西洋諸国によって挑発された為であり、「東京裁判は正義の実現ではなく勝利者による復讐」であるとし、「日本は国際法に照らして無罪である」と主張したが、その主張を法廷で述べることを許されなかった。

「欧米諸国は日本が侵略戦争を行ったということを歴史にとどめることによって、自分らのアジア侵略の正当性を誇示する目的であったにちがいない。

日本の子弟がゆがめられた罪悪感を背負って、卑屈、退廃に流れていくのを、私は平然と見過ごす訳にはゆかない。

誤られた彼らの宣伝を払拭せよ。

誤られた歴史は書き換えられなければならない。」

(2006-2010『大日本人伝説』より)

『先人たちが、△白人のアジア植民地支配の呪縛を解いた』

---

「△の奴隷になる」か「△と戦争する」か…、

あなたなら、どちらを選択しますか…!?

私たちの祖父母らの時代は…、

△白人の奴隷になるくらいなら、死ぬまで戦ってやるという強い気持ちで…、

勝ち目がないと分かっているながら、△白人に宣戦布告をしたのです…!!

△白人の植民地支配の魔の手を断ち切るべく、決死の覚悟で臨んだのです…!!

途方もない数の犠牲者を伴いながらも最後まで戦い、そして負けたのです…!!

ところが明らかに不利な東京裁判で、首謀者に有罪が言い渡されたのです…!!

なのに、旧日本軍による侵略・罪悪だと、お隣の国は濡れ衣を着せています…!!

私たちの愛国心を削ぐ為、今もなお誤った戦後教育をされ続けているのです…!!

精霊を弔った靖国神社への参拝にさえ、とやかく言われるのです…!!

あなたは、悔しくないですか…!?

しかし…、

先人が、大東亜戦争(太平洋戦争)で血を流したお陰で…、

長年奴隷として苦しめられてきたアジア諸国が、独立・解放運動のきっかけになったのです…!!

私たち有色人種が、人間として認められ…、

主義・主張を唱えることが出来るようになり…、

△白人と対等に立てるようになり…、

今日のアジア諸国の経済的発展につながっていったのは、紛れもない事実なのです…!!



『先人たちが、△白人のアジア植民地支配の呪縛を解いた』...!!

このことは、胸を張って良いことではないでしょうか...!!

あなたは、忘れていませんか...?

私たち日本人のカラダに秘められている...

「武士道」や「大和魂」という精神を...

今度は私たちが、威風堂々と戦うべき時なのです...!!

欧米のアジア植民地支配の歴史 (Japan Liberated Asia from Euro-American Colonizers )

→[http://www.youtube.com/watch?v=\\_PwbHPaGWLw](http://www.youtube.com/watch?v=_PwbHPaGWLw)

日本人は心優しき侍／世界から感謝される日本【独立アジアの光】

→<http://www.youtube.com/watch?v=RntUs2gjM3g>

## 威風堂々[21] 『△NIMRODの第二次世界大戦に日本は嵌められた!?!』

---

～天を侵攻しようとした△NIMROD王、そのための階梯となる建築物こそバベルの塔である～

先頃、アメリカと欧州連合(EU)が、イランに経済制裁を加えるという報道がありました…。

イスラエルと手を組んだ西側諸国が、核開発疑惑で難癖を付けてイランを怒らせようとしているのですが…、

それはまるで、太平洋戦争の開戦前の日本を取り巻く状況によく似ていませんか…!?

△NIMRODの本来の狙いは、中東で争乱を起こし、それを火種にして世界を真っ二つに分ける第三次世界大戦を起こしたいのです…!!

イザコザを作り上げるのは、今も昔も△NIMRODの連中の常套手段らしいのですが…。

いかにして戦争を起こすか…!?

狩猟民族だからなのでしょうが…、

ヤツらは、罾を仕掛けて待ち伏せしたり、嵌めたり騙したり、平気でウソをついたりすることにかけては、超一流なのです…!!

あ那时的の日本も、今日のイランと同様に西側諸国から様々な経済制裁を加えられていたのです…!!

日本に対して禁輸とくに原油がストップされ、さらに邦人の海外資産の凍結といった様々な挑発行為による嫌がらせを加えられていたのです...!!

経済封鎖というのは、国にとっては死を意味すること...!!

我慢に据えかねた日本は、とうとう堪忍袋の緒が切れて....

アメリカ・イギリスといった連合軍に対して、勝ち目がないと判っていながら宣戦布告してしまったのです...!!

白人の奴隷になるくらいなら、死ぬまで戦ってやるという悲壮感で戦う覚悟だったと云われています...!!

しかしそれは、世界を真っ二つに分ける第二次世界大戦を企てようとしていた△NIMRODの連中の策略に....

日本は嵌められたというのが真相らしいのです...!?

今から67年前....

真珠湾を奇襲攻撃して敵の太平洋艦隊に打撃を加えることに成功、当初は日本が優勢とみられましたが....

先制攻撃を受けたアメリカはこれで火が点き、力づくで日本に勝ちに行った訳です...

アメリカの物量作戦の前に、次第に日本は追い詰められていきます....

長崎・広島と原爆を2発落とされ、日本の敗北で終戦を迎えます....



さて、開戦前・終戦後に何があったのか...!?

何故、日本は我慢できなかつたのか...!?

東京裁判をどのように受け入れたのか...!?

最近になって、その真相が明らかになったのです...!!

【ハル・ノート(日米間協定の提案基礎の概要)1941年11月26日】

日本はアメリカとの和解への道を懸命に模索していたが、アメリカは日本との和解の意思などはじめからまったくなかった。

戦争関係閣僚会議の翌日、昭和16年11月26日、野村吉三郎、来栖三郎両駐アメリカ大使に「日米間協定の提案基礎の概要(通称：ハル・ノート)」を突きつけてきた。

チャーチルから批判されてほとんどヒステリー状態になったコーデル・ハルは、日本との暫定協定構想の一切を放棄し、その代替案として10項目の提案(これがハル・ノートと呼ばれるもの)をまとめ上げたのだ。

【暫定協定】

この10項目提案の中にはいささかの妥協も譲歩も含まれておらず、ハルもルーズベルトも、日本がこれを拒否するであろうことは十二分に承知していた。

ハル・ノートの主な内容は以下の通りである。

■支那大陸やフランス領インドシナからの即時無条件完全撤退

■汪兆銘政権(南京政府)を見捨てて重慶の蒋介石政権(重慶政府)を支持すること

■日独伊三国同盟の死文化(事実上の破棄)

【ハル・ノートの詳細内容】

これらは到底日本が飲めない条件だった。

これはそれまで積み重ねてきた日米関係改善のための交渉を踏みにじる内容で、それまでの合意を一切反故にした一方的な要求であった。

支那・仏印からの即時完全撤兵、蒋介石政権の支持という条件は、日本が日露戦争の前の状態に戻ることを意味し、これまで日本が行ってきたこと、すべてをが水泡に帰すような要求だった。

日本に戦わずして降伏を要求するに等しいものであり、誰が見ても明らかに最後通牒であった。

この裏には、アメリカ政府の卑劣な思惑があった。

アメリカは、支那事変の解決を望まず、日本が支那大陸の泥沼戦争に足を取られて疲れ果てて大陸から撤退することを望んでいた。

蒋介石政権を支援したのは支那事変を泥沼化させ、日本の疲弊を誘うためだった。

当時の国務省の文書から、日本の力を過小評価し、日本を追い詰めても立ち上がることはないだろうというのがアメリカの見解だったことが明らかになっている。

そのため、アメリカは終始、日米交渉では非妥協的な態度をつらぬき続けた。

大統領のフランクリン・ルーズベルトも国務長官のコーデル・ハルも当時の白人の感覚で、有色人種を差別していたからこのようなとんでもない条件を持ち出してきたわけで、日本には妥協の余地はなかった。

しかし、アメリカが戦争に踏み切るには、大きな障害があった。

当時、アメリカは孤立主義が支配的で、アメリカ世論は外国の戦争への参戦に反対してた。

そこで、日本と戦争するには第一撃を日本に始めさせる必要があった。

日本が先制攻撃をすれば、アメリカの世論も参戦に傾く。

ハル・ノートはそのための引き金だった。

近年、驚くべき事実が明らかになった。

このハル・ノートは財務次官補ハリー・ホワイトが起草したもので、国務長官のハル本人が作ったものではなかった。

このホワイトなる人物が実はソ連のスパイだったのだ。

要するにソ連のスパイが日本を激昂するような案を作り、大統領のフランクリン・ルーズベルトに採用させることに成功し、日米開戦を誘発したのだ。

日本は日露戦争以降、アメリカの標的と目されつつ何とか日米戦争を回避できるところまでいっていたが、アメリカ国内のコミンテルンにとどめを刺され、戦争に追い込まれたと見ることもできる。

ホワイトはコミンテルンの手先であったために、戦後は世界銀行のアメリカ代表になるほどの重要人物でありながら、その疑惑のために自殺している。

ハル・ノートは日本の当時の指導部に衝撃を与えた。

もともと和平を強く望んでいた東郷外相でさえ、ハル・ノートを野村大使から電報で受け取ったとき、「自分は眼も眩むばかり失望に撃たれた」と述べた。

東郷は、戦後次のように回想している。

「米国を指導者としての対日経済封鎖のみならず、軍事的包囲陣も日に日に強化され、日本の生存もおびやかされて来たので、もはや立ち上がる外ないと云うことだった。

『ハル・ノート』を受諾した後の日本の地位が敗戦後の現在の地位と大差なきものになるべきで

あることは、まったく疑いの余地はなかった」

「日本がかくまで日米交渉の成立に努力したにもかかわらず、アメリカはハル・ノートのごとき最後通牒を送って、わが方を挑発し、さらに武力的弾圧をも加えんとする以上、自衛のため戦うの他なしとするに意見一致した」

嶋田繁太郎元海軍大臣は、東京裁判の法廷でこう陳述した。

「それはまさに青天の霹靂であった。

アメリカにおいて日本の譲歩がいかなるものにせよ、私はそれを戦争回避のための真剣な努力と解し、かつアメリカもこれに対し歩み寄りを示し、もって全局が収拾されんことを祈っていた。しかるにこのアメリカの回答は、頑強不屈にして、冷酷なものであった。

それは、われわれの示した交渉への真剣な努力は少しも認めていなかった。

ハル・ノートの受諾を主張した者は、政府内にも統帥部内部にも一人もいなかった。

その受諾は不可能であり、その通告はわが国の存立を脅かす一種の最後通牒であると解せられた。

この通牒を受諾することは、日本の敗退に等しいというのが全般的意見だった」

東京裁判の被告全員がこれと同じ感懐を述べている。

日本の指導者がそう受け取ったばかりでなく、後日アメリカにおいても、このハル・ノートに対する非難の声は、日を追うごとに高まった。

【ハル・ノートに対する発言】

東京裁判でパール判事

「現代の歴史家でさえも『ハル・ノートのような通牒を受け取ったら、モナコやルクセンブルク大公国でさえもアメリカに対し矛(ほこ)をとって立ち上がったであろう』と述べた。

セオボルト海軍少将

「まさしくハルノートは、日本を鉄棒で殴りつけた挑発であった」と述べて、これを激しく非難した。

ジョセフ・グルー米駐日大使

ハル・ノートを読み、「このとき、戦争になるボタンは押された」と開戦を覚悟したと回顧録で述べた。

フランクリン・ルーズベルトのライバルと目されたハミルトン・フィッシュ下院議員

ハル・ノートの存在を知ると「恥ずべき最後通牒」と批判し、「日本は自殺するか、降伏するか、戦うしかない」と述べた。

【劣等アジア人種の品種改良計画】

戦後、支那は共産化し、アメリカが主張して止まなかった「門戸開放」どころか、門戸を固く閉鎖してしまった。

(2010/5/23 geocities.co.jp 『反日・自虐史観を排した歴史年表』より)

「ハル・ノート」に関して、こんな意見も....

日本に対し大陸における権益を全て放棄し明治維新前の日本に戻れと言う事である。

江戸時代アメリカに武力で開国を強制的にせまられて以来欧米列強に揉まれながらも日本は血の滲む努力の末やっと対等になりつつあるところで「全てを放棄しろ」である。

こんな訳の解からぬ条件を突き付けながらも経済封鎖の解除には一言も触れて無い所などはさすがは「詐欺師国家」アメリカである。

日本は生存権を賭けて日米開戦の道を選択したと言うより開戦という選択を取らされたのである。

資源・物資・大陸での正当な権益・アメリカにある日本の資産・これらを放棄しろと言う事は「死ね」と言うのに等しい事である。

アメリカ流の屁理屈で言わせてもらえば日本の選択した『開戦』という道は自衛手段であり日本には一切の戦争責任は無いと言える。

これらの構図は現在も続いている。

常に対象国を挑発し、事の責任をなすりつけるやり方は最近中国との間で起きている。

中国の嫌がることを徹底的にやり、頭にきた中国がアメリカ国債をバカバカ売却する。  
大量にアメリカ国債が売られるとドルが暴落する。

ドルが地に落ちればアメリカはデフォルトする。

その責任の全てを中国になすりつけて、自分は被害者を装い、まんまと借金を踏み倒す。

いかにもアメリカの考えそうなことだ。

(2010/2/27 『日本人は知ってはいけない。』より)

東京裁判を受けた東条英機が、処刑前に書いた手記がありますのでご紹介します…。

【英米諸国人に告げる】

今や諸君は勝者である。

我が邦は敗者である。

この深刻な事実は私も固より、これを認めるにやぶさかではない。

しかし、諸君の勝利は力による勝利であって、正理公道による勝利ではない。

私は今ここに、諸君に向かって事実を列挙していく時間はない。

しかし諸君がもし、虚心坦懐で公平な眼差しをもって最近の歴史的推移を観察するなら、その思い半ばに過ぎるものがあるのではないだろうか。

我れ等はただ微力であったために正理公道を蹂躪されたのであると痛嘆するだけである。

いかに戦争は手段を選ばないものであるといっても、原子爆弾を使用して無辜の老若男女数万人もしくは数十万人を一挙に殺戮するようなことを敢えて行ったことに対して、あまりにも暴虐非道であると言わなければならない。

もし諸般の行いを最後に終えることがなければ、世界はさらに第三第四第五といった世界戦争を引き起こし、人類を絶滅に至らしめることなければ止むことがなくなるであろう。

諸君はすべからく一大猛省し、自らを顧みて天地の大道に恥じることないよう努めよ。

【日本同胞国民諸君】

今はただ、承諾必謹する(終戦の詔を何があっても大切に受け止める)だけである。

私も何も言う言葉がない。

ただ、大東亜戦争は彼らが挑発したものであり、私は国家の生存と国民の自衛のため、止むを得ず受けてたただけのことである。

この経緯は昭和16年12月8日の宣戦の大詔に特筆大書されているとおりであり、太陽の輝きのように明白である。

ゆえにもし、世界の世論が、戦争責任者を追及しようとするならば、その責任者は我が国にいたるのではなく彼の国にいたるということは、彼の国の人間の中にもそのように明言する者がいるとおりである。

不幸にして我が国は力不足のために彼の国に敗けたけれども、正理公議は厳として我が国にあるということは動かすことのできないことである。

力の強弱を、正邪善悪の基準にしては絶対にいけない。

人が多ければ天に勝ち、天が定まれば人を破るということは、天道の法則である。

諸君にあっては、大国民であるという誇りを持ち、天が定まる日を待ちつづけていただきたい。日本は神国である。永久不滅の国家である。

皇祖皇宗の神霊は畏れ多くも我々を照らし出して見ておられるのである。

諸君、願わくば、自暴自棄となることなく、喪神落胆することなく、皇国の命運を確信し、精進努力することによってこの一大困難を克服し、もって天日復明の時が来ることを待たれんことを。

東条英機

(2010/2/27 『日本人は知ってはいけない。』より)



## 『人類史上最悪の大量殺戮、広島・長崎の△原爆投下』

---

1945年(昭和20年)、太平洋戦争での日本の劣勢は確定的となっていました…。

同盟国のドイツは、同年の5月に無条件降伏しました…。

ドイツの戦後処理問題などを協議するため、アメリカのトルーマン大統領、イギリスのチャーチル首相、ソ連のスターリンが、7月にドイツのベルリン郊外にあるポツダムで会談しました…。

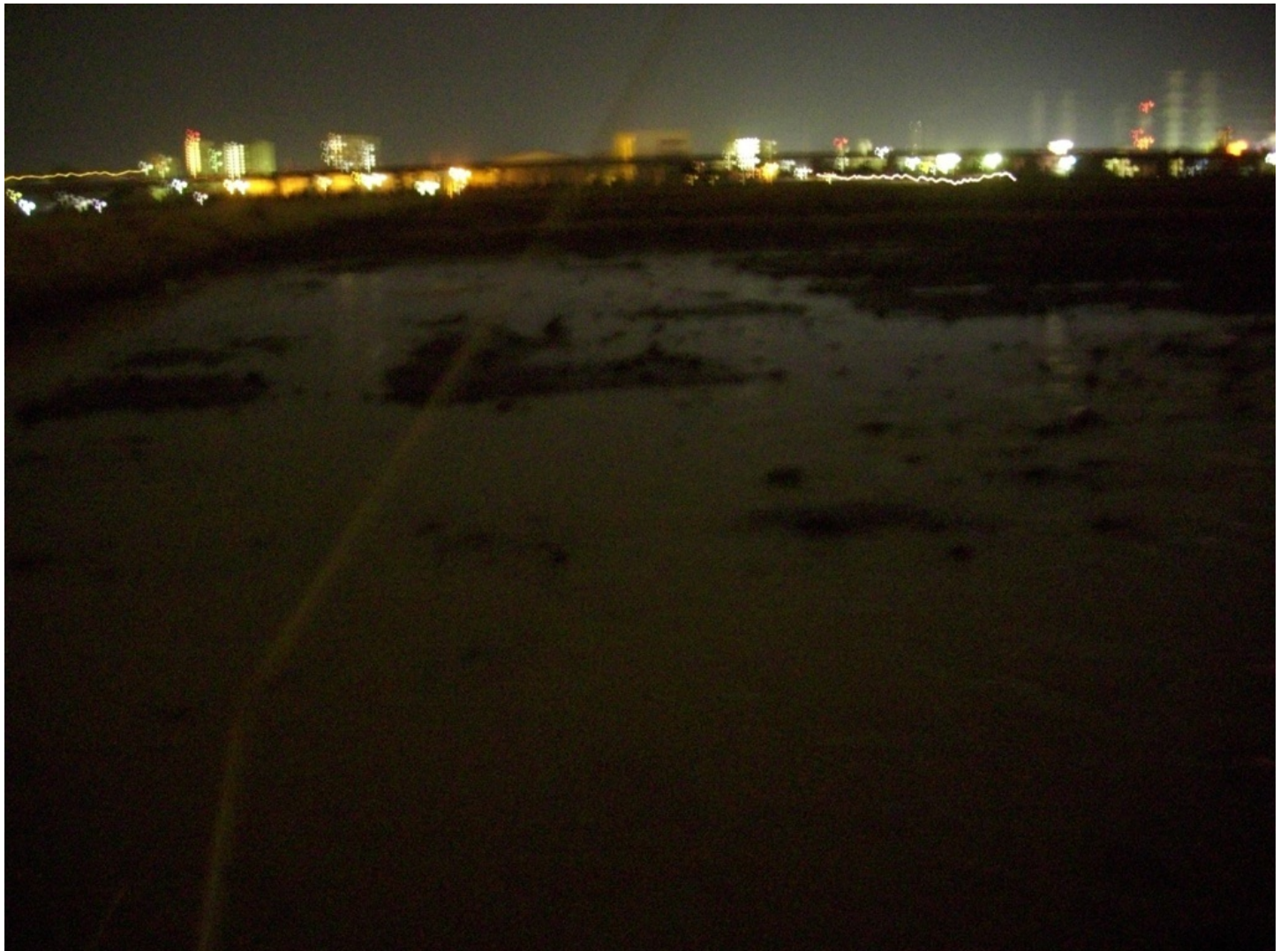
この会談中の7月26日に、アメリカ、イギリス、中国の3ヶ国の名前で日本に無条件降伏を求めるポツダム宣言が発表されました…。

日本政府はこの宣言を無視しました…。

ところがアメリカは8月6日に広島へ△原子爆弾を投下し、続けて8月9日には長崎へ2発目の△原子爆弾を投下したのです…。

一方、それまで日本とは交戦していなかったソ連が、8月8日に日本へ宣戦し、日本が占領していた満州(現在の中国北東部)へ侵入し戦闘を開始し、8月26日には樺太(サハリン)へも上陸したのです…。

8月14日、日本政府はついにポツダム宣言を受諾し、無条件降伏したのです…。



【広島への△原爆投下】

1945年8月6日、西太平洋テニアン島の基地を午前1時45分に発進した長距離爆撃機B29「エノラゲイ」は、広島市上空に到達し、午前8時15分17秒、△原子爆弾を投下しました…。

投下された爆弾は、ウラニウム爆弾で、直径71cm、長さ3.05m、重さ約4トン、TNT火薬2万トンに相当し、「リトルボーイ」と命名されました…。

周辺には厚い雲の壁があったものの、広島の上空は雲一つない良い天気でした…。

高度9,600mから爆弾を投下、50秒後に高度570mで爆発しました…。

爆心地から半径500m以内では、95%以上の人が即死しました…。

11月までに死亡した人数は約14万人という推計があります…。

広島市役所の発表によると、原爆症も含めて1950年までに死亡した人は推定で24万7,000人とされています…。

#### 【長崎への原爆投下】

同年8月9日、長距離爆撃機B29「ボックス・カー」は、午前2時49分にテニアン基地を発進しました…。

当初の目標は小倉でしたが、小倉上空は雲に覆われて目測出来ないため長崎へ向かったのです…。

午前11時前に長崎市上空に到達したものの、長崎上空も雲が覆っていました…。

燃料の関係から一旦はレーダーによる爆撃態勢に入ったのですが、最後の瞬間に雲の切れ間が見え、午前11時1分、2つ目の△原子爆弾が投下されました…。

この爆弾は、プルトニウム爆弾で、直径1.52m、長さ3.25m、重さ4.5トン、「ファットマン」と呼ばれました…。

長崎では、市域の36%が破壊されました…。

死者は7万3,884人、重軽傷者7万4,909人を数えました…。

Hiroshima Nagasaki Atomic bombing 広島 長崎 原爆投下

→[http://www.youtube.com/watch?v=gJG\\_BVHF8ak](http://www.youtube.com/watch?v=gJG_BVHF8ak)

広島原爆投下

→<http://www.youtube.com/watch?v=7OckNa41A6g>

原爆投下は悪くない、謝らない。むしろ謝れ。Remember Pearl harbor  
(原爆投下科学者と被爆者、初の対話)

→[http://www.youtube.com/watch?v=EU4iv\\_JB9s4&fea..](http://www.youtube.com/watch?v=EU4iv_JB9s4&fea..)

～天を脅かす△NIMROD王のバベルの塔は、最上階まで登るのに1年かかるほど巨大のものであった～

あなたは、「広島・長崎の原爆による放射能の事実をアメリカは66年も隠蔽してきた」という事実をご存じでしょうか...!?

その為に、「放射能の人体への影響」というリスクを、私たちは十分認識してこれなかったのではないのでしょうか...!?

さて、アメリカを今も昔も操り続けているのは勿論、△NIMRODの連中です...!!

歴史を大きく左右する世界の出来事の裏側には、必ずヤツらの陰謀が渦巻いているのです...!!

太平洋戦争に於いては、日本に開戦を選択させるべく仕向られたヤツらの匂いがそこここに感じられます...!!

その一つが「ハルノート」で、ハナっから和平を結ぶつもりなどサラサラ無くて...

しかも日本を怒らせる、その内容を想起した米財務次官補が、まさかソ連のスパイだったなんて...!?

そこから、日本とアメリカとの間に戦争が始まったのですが...

日本が手始めに東南アジアの米軍施設を狙い撃ちしたのは、アメリカがそこから支那に支援していた軍事施設だったからなのです...。

実は、宣戦布告する前からアメリカは裏では支那に飛行機と軍人を回して日本と対峙していたと云われていて、その為に米軍兵士を一旦退役させてから支那軍に仕立て上げるという徹底ぶりだったとか...!?

アメリカは、初めから日本を叩き潰す魂胆だったのでしょうか...!?

思いのほかシブトイ日本、とうとう最悪の兵器をアメリカに使われてしまいます...

広島と長崎へ、2発の原子爆弾を投下したのです...!!

人類史上、初めて使用された原子爆弾...!!

それはたった1発で、街をひとつ焼き尽くすだけの破壊力を持った恐ろしい兵器でした...!!

こうして、日本は全面降伏したのです...!!

広島・長崎に落とされた2発の原子爆弾....

この投下は、本当に必要だったのでしょうか...!?

一般の民間人を広島と長崎合わせて30万人も殺戮する必要がある本当にあったのでしょうか...!?

あなたはどう思いますか...!?

アメリカ人の多くは、「原爆投下は止む終えなかった、戦争を終わらせるのに必要だった」と云

います、「パール・ハーバーの報復だ」とも云います…。

でも日本は、真珠湾攻撃では民間人を撃ってません、飽くまでも軍事施設を叩いた作戦です…!!

罪のないインディアンやハワイの先住民を大量に殺したアメリカは、今度は原爆という恐ろしい悪魔の大量破壊兵器を使って、大勢の日本人を焼き払ったのです…!!

広島に使用した原爆はウラン型、長崎にはプルトニウム型を使ったそうですが…、

つまり△NIMRODの連中は、この2種類の原爆の殺傷能力をそれぞれ試してみたかったのではないのでしょうか…!?

私には、これが原爆の人体実験だったとしか思えません…!!

しかも、原爆を落とした後、アメリカはGHQを設置するよりも早く現場に行って被害状況を調べにたそうですが、それだけ爆弾の効果に興味があったということでしょう…。

爆心地は恐らく相当の「放射能の人体への影響」があったと思われませんが…、

許せないことに、アメリカはその事実を今の今まで隠してきたという訳なのです…!!

ところで、放射能といえば、福島第一原発事故ですが…。

311の東日本大震災の影響による福島第一原発の放射能汚染問題は、政府によって収束宣言が出されたものの、依然として油断を許さない状態が続いています…!!

何故なら、放射線物質は今もなお大気中に拡散し続けているからです…!!

全国各地で「原発なんて必要ない」と、原子炉廃棄が叫ばれています…。

「放射能の人体への影響」「見えない恐怖」、原子力は安全と詠ってきた安全神話が崩れた今問われているのは、原発導入の判断は本当に正しかったのかということです…。

私たちは、どうしてこんな危険なモノを手にしてしまったのでしょうか…!?

原子力の危険性をもっと早い段階で世界中の人々が十分認識して、原発導入を強く反対していれば、こんなガラクタを造らなくて済んだのではないのでしょうか…!?

世界で唯一の原子爆弾による被爆国、日本…。

ところがアメリカは、その私たち日本人にさえ原子力から放出される放射能の恐ろしさを欺いていたのです…!!

「放射能の人体への影響」をアメリカは知っていながら、ずっと隠してきたからなのです…!!

本当に腹が立ちますね…!!

昨年8月6日、NHKは仏TVと共同で制作したドキュメント『ヒロシマの黒い太陽』を放送しました…。

この番組では、原爆開発を巡るアメリカの科学者・軍人・産業界の動きを、当時の映像記録や証言を元に追っていったのですが…、

特に、アメリカは当初から「放射能の人体への影響」について、数々の原発実験でデータを蓄積していたらしいのです…。

そして、広島・長崎の原爆投下後も情報収集を続けるのですが、一般には情報の操作と隠蔽が行われていたという事実を初めて伝えたのです…!!

【戦後、日本の「残留放射能」を全否定したアメリカの隠蔽工作。原爆は「キレイな爆弾」。】

日本はかつて最悪の「放射能汚染」を体験している。

言わずもがな、ヒロシマ・ナガサキである。

しかし、原子爆弾による「放射能汚染」は、当時、まったく話題にされなかった。

なぜだろうか？

当時は放射性物質の「危険性」が認識されていなかったのだろうか？

その答えは、アメリカ軍が握っていた。

原爆投下後、アメリカ軍は徹底した「隠蔽工作」を展開したのである。

アメリカ軍を隠蔽工作へと踏み切らせたのは、アメリカのある新聞記事である。

その記事には、こうあった。

「原爆が投下され30日たってなお、ヒロシマでは不可解、かつ悲惨な死が続いている。

怪我をしていな人々が、次々と死んでゆく。

それは『原爆病』としか言いようのない、`未知の何か`だ。」

治りはじめていた火傷の傷跡が、突然悪化したり、出血が止まるどころか、ますます増えてゆく

。

上半身に発疹が現れるや、またたくまに全身へと広がり、毛髪が抜け落ちる。

原爆投下の1ヶ月後、死者数は減るところではない。毎日増えていったのである。

アメリカ軍の「反論」は素早い。

「残留放射能で苦しんでいる者は、もういない」という公式声明を発表。

この声明をもって、公式には「残留放射能は存在しない」とこととされた。

事実隠蔽のため、アメリカ軍による検閲は熾烈を極める。

GHQにより編成された民間検閲隊は、1万人近くに増員され、数万点に及ぶ本、新聞、ポスターなどが没収され、アメリカ本国へと送られた(現在でも、メリーランド大学に保管されている)。



これ以降、およそ10年にわたり、被曝者に関する情報が、日本から消え去る。

日本の医療機関には、こんな通達が出された。

「広島・長崎の原爆被害は、アメリカ軍の機密である。  
何人も被害の実際について、見たこと・聞いたこと・知ったことを、話したり・書いたり・絵にしたり・写真に撮ったりしてはならない。  
違反した者は、厳罰に処す。」

その裏で、アメリカ軍は被曝者のデータを独占した。

その理由は、「この調査結果は、将来、国家が放射能による大事故に直面した時、貴重なデータとなるアメリカにとって、かけがえのないチャンスである。」というものであった。  
被曝者たちは、半ば強制的に調査の協力を求められた。

こうして集められた貴重な医学データは、被曝に苦しむ患者たちの治療に役立てられることはなく、ひたすらアメリカ本国へと送られ、「機密」扱いとされたのである。

アメリカは執拗に原爆の「後遺症」を認めようとはしなかった。

ある医師の報告書には、こうある。

「原爆は僅かな放射能を短期間残しただけで、影響は極めて小さい。  
原爆の残留放射能は、いかなる犠牲者も生まなかった。  
すべては、はじめの一分で終わったのだ。」

実際は、一分で終わったところではな、66年後の現在でも原爆の後遺症に苦しんでいる人たちがいるのだ。

「マンハッタン計画」と呼ばれた原爆プロジェクトの責任者・グローブス氏は、アメリカ議会で、残留放射線に対する質問に、こう答えている。

「残留放射線はありません。  
きっぱりゼロだと言えます。  
一瞬の被害だけでした。」

また、放射線の影響については、こう答えている。

「放射性物質にうっかり被曝しても、ちょっと休暇をとって、仕事を離れば、その内すっかり回復するんです。」

なぜ、原爆関係者たちは、こうまで口を揃えて偽り続けたのか？

彼らはこうも言う。

「原爆は、汚染を引き起こさない`キレイな爆弾`であり、ジュネーブ条約に抵触する化学兵器ではない。」

彼らは、度重なる実験で、放射能の危険を熟知していた。

放射性物質である「プルトニウム」を人体に注入した実験まで行っている。

「11人の被験者が患者となったが、そのうち3人は、投与を始めたその年に死亡した。」

放射性物質による人体実験という衝撃の事実は、スキャンダルを恐れたために、世間から隠すことに決められた。

アメリカは、放射能による被曝の後遺症を決して認めなかった。

原爆を`キレイな爆弾`にしておく必要があった。

次なる原子力発電計画が控えていたためである。

マンハッタン計画(原爆プロジェクト)は、軍から政府へと移管され、原爆を作った面々が、そのまま原子力発電へと横滑りした。

彼らは、「戦争を終わらせ、かつ原子力の時代を切り開いた功績により、国家の栄誉を授かった。」

(2011/8/8 『英考塾』より)

間もなく、アメリカが隠蔽し続けていた事実が次々と情報が飛び交うようになったのです…。

これは本当に許せないことです…!!

次は、当時のあるオーストラリア記者が30時間掛けて原爆投下後の長崎に乗り込んだときの記事です…。

実は当時、記事は米国政府に没収されたのですが、彼の息子が父の遺品から複写を見つけ出したものをTV番組で紹介したものです…。

一部抜粋ですが、それでも当時の貴重な「放射能の人体への影響」について正確に描写されていますので、是非読んでみて下さい…。

### 【米国が隠したヒロシマとナガサキ】

6年前、ジョージ・ウェラーの息子のアンソニーが、没収された記事の写しを、亡くなった父親の文書の中から発見しました。

ジョージ・ウェラーは2002年に亡くなりました。

文書は、『長崎一番乗り:原爆後の日本と戦争捕虜についての、目撃者による検閲された記事』という本として刊行されました。

これは、フアン・ゴンザレスと私が、父親の文書を発見して間もない、ジョージ・ウェラーの息子アンソニー・ウェラーと行ったインタビューの一部です。

アンソニー・ウェラー:彼が何より驚いたのは、実に驚異的なことが色々あったことです。

彼は原爆投下から四週間後に、現場に入ったのです。

9月6日の午前半ばに彼は到着しました。

明らかに、いくつかのことで、まだあちこちで燻っている都市の物理的な外観や、原爆攻撃そのものの、特定の標的を狙う正確さに、彼は衝撃を受けました。

後に彼は、実際、多大な被害は原爆だけでなく、爆撃された時、皆は昼御飯を作っており、多数の木造住宅が燃えだし、火が広がったために起きた火事によってもひき起こされたとを知ります。

ある意味、ドレスデンのようなものでした。

廃墟の中を歩き回るうちに、彼は素早く、まだ残っていた、あらゆる病院を訪れ始めました。彼はすぐに、一番にアメリカの医療関係者が現場に皆無だったことに衝撃を受けています。四週間後、医師も看護婦も皆無でした。そして、日本人医師達が、既に人体の個別臓器に対する原爆の影響の目録を作っていた正確さと入念さに彼は感銘します。

それから数日間にわたり、日本の医師たち同様に、報道で "X病" と呼ばれているものに彼は驚かされるのです。

人々が火傷や焦げで苦しんでいるのを見るのは、おそらく、それほど驚くべきことではないでしょうが、一見、原爆の被害を全く受けていないかのように見える人々、無事に生き残ったように見える人々が、突然具合が悪くなったと感じて、病院に行き、何もできない医師たちと身内に囲まれ、ベッドに座っているが、彼が翌日再訪すると、彼らが亡くなっていることがわかったり、あるいは、例えば、無傷だったのに、夫に夕食を作りながら、レモンの皮を剥いていて、運悪く指をわずかばかり切ると、血流中の血小板が余りに減少してしまっているため、血がどうしても凝固できないため、血が流れ続けて、失血死した女性であったりするのを見るのは違います。

これに似たような症例が延々とあります。

日本の医師団全員が、きわめて有能で、戦争が始まるずっと前から、放射能の潜在力について良く知っていて、全く困惑していたので、ある意味、父は、明らかな破壊や、はっきり火傷した被爆者より、それを一層痛ましく感じたのだと思います。

彼は実に巧みな表現をしています。

彼は書いています。原爆の影響、彼らが "X病" と読んでいたものの影響は、治療不可能なので、治ることはないが、診断未確定なので、治療不可能なのだ。

私は、市郊外に残った病院に行った。

患者たちは全員が、様々な肉体的崩壊状態でした。

彼らは皆死ぬのだろうが、病院の人々は患者達が亡くなるまで、できる限り安らぎをあたえるようつとめていました。

そして医師は、人々がなぜ死んでゆくのかかわからないと説明していました。

医療の観点から彼らが特定できる、唯一の症状は急性のビタミン欠乏症でした。

それで彼らはビタミン注射を始めたのです。

すると、針を刺した場所で、肉が腐り始めるのだと彼は説明していました。

そして、次第に血が流れだして、止められなくなり、そして髪の毛が抜けました。

そして脱毛は大体最終段階だ。

既に抜けてしまった自分の黒髪を後光のようにして横たわっている女性の人数。

私はがくぜんとしました。

目にしたものに本当のがくぜんとしました。

座り込んだところに、コンクリートの塊があったのを覚えています。

それは粉碎されていませんでした。

愛用の小さなヘルメス社のタイプライターを前に、そこに座りました。

今でも覚えている。最初の言葉は、"私はこれを世界に対する警告として書く"でした。

"私はこれを世界に対する警告として書く"と、ウィルフレッド・バーチェットは書き、記事は、爆撃の恐ろしさを暴露し、特に、彼は放射能をあらわす言葉を知らなかったのですが、それについて語りました。

彼は"原爆疫病"について語ったのです。

(Democracy Now! Japan 2011/8/9放送『米国が隠したヒロシマとナガサキ』より)

～神に逆らった△NIMROD王とバベルの都市の人々、彼らの計画の末路は聖書の伝説の通りになった～

アメリカが落とした悪魔の原子爆弾は、広島と長崎の市民32万人もの尊い命を奪いました…。

私には、どう考えてみてもこれは△NIMRODによる原爆の人体実験だったとしか思えないのです…!!

しかも呆れたことに原爆を戦争に使用したいが為に、戦争をワザと数ヶ月ほど長引かせたという話まで有るのです…!?

そもそも、原子爆弾を日本に落とすことを決定した人は誰だったのでしょうか…!?

アメリカは大統領が多くの特権を持っているでしょうが、人類史上初の物騒なシロモノの戦争導入を、単独でそう易々と決める筈は無いと思いますが…!?

当時のトルーマン大統領に、原爆の使用を強くプッシュした人物とは…!?

次の記事は広島・長崎の原爆投下にまつわるエピソードですが、歴史の教科書には絶対に載せられないその内容に、あなたもさぞやビックリされることと思います…。

#### 【広島・長崎原爆投下の秘密】

「いったい誰が原爆開発を許可し、誰が広島・長崎に原爆投下を決定したのか？」  
アメリカの作家でジャーナリストでもあるユータス・マリンスの記事が雑誌「サイバーX」に掲載されている。

マリンスは、真の犯罪者は次の2人だったと主張する。

1人は、アメリカを原爆開発に踏み切らせたアルバート・アインシュタインで、

もう1人は広島・長崎に原爆投下を決定した『マンハッタン計画』の責任者J・ロバート・オッペンハイマーだったという。

両者ともにユダヤ人である。

アインシュタインはアメリカに亡命すると、まず同胞のユダヤ人であるトルーマンを大統領にすべくミズーリ州でフリーメーソンの組織化に尽力した。

「パレスチナにユダヤ人国家を建国するため、私はユダヤ人としてシオニストの活動を支持する」というアインシュタインの言葉が「アインシュタインの時代と生涯」という本に残されている。

。

イスラエルのアメリカ大使アバ・エバンは1971年、「アインシュタイン教授は、世界の良心がイスラエルの生存とかかわるべきだと語った」とその回顧録で述べている。

アメリカを原爆開発に踏み切らせたのは、アインシュタインの書簡(1939年8月2日付け)をロシア出身のユダヤ人アレクサンダー・サックスが、ホワイトハウスのルーズベルト大統領へ届けたことが発端という。

アインシュタインはロスチャイルドと親交があり、この手紙をみたルーズベルトは、原爆開発の計画をロスチャイルドが承認し、大至急、遂行せよと言っている意味が明確に読み取れたという。

。

こうして原子爆弾は、ニューメキシコ州のロス・アラモス研究所で突撃計画なみに開発された。開発に携わった科学者の多くはニューヨークのユダヤ人居住区マンハッタン在住者だったため、この秘密計画は『マンハッタン計画』と呼ばれた。

指導者はユダヤ人の大富豪バーナード・バルークで、責任者も同じくユダヤ人でアインシュタインを師と仰ぐ科学者、J・ロバート・オッペンハイマーである。

1945年7月16日午前5時29分45秒、ロスアラモスの南200マイルで最初の原爆が炸裂した。

この光景にオッペンハイマーは狂喜して、「私は死神、世界の破壊者」だと叫んだという。

ユダヤ人の5,000年にわたる欲望、「全人類を支配する究極の力」をついにユダヤ人が獲得したことを知ったからである。

そしてオッペンハイマーは、原爆投下は日本に警告なしに行われるべきだ、と主張した。アインシュタインはユダヤの大財閥バルークとともに、京都を原爆の最初の血祭りにあげるべきだと主張したが、

スティムソン陸軍長官は、「京都に何ら軍事目標はなく、由緒ある木造寺院が数百ある」と言って猛反対したという。

実はアインシュタインとバルークは、京都が日本国民にとって深い文化的意義をもっていたというまさにその理由によって、京都の破壊を求めているのである。

オープンハイマーは引退後、師アインシュタインがロスチャイルドに頼んで創らせた秘密財団のシンクタンクの理事を務めている。

また1999年3月22日のニューヨーク発の新聞報道によると、米誌「タイム」は3月20日、20世紀で最も影響力のあった「偉大な知性」100人の中で、アインシュタインを第1位に選んでいる。

(『BIBLE CODE』より)

あの偉人として伝わっているアインシュタイン博士が、京都の破壊を求めた...!?

超有名な相対性理論から導き出した数式から、原爆が現実のモノとなったのは有名な話ですが、まさか...!?

でも真実は、そんなものかも知れませんね...!?

アインシュタイン博士がユダヤ人なのは有名な話ですが、『マンハッタン計画』の責任者オープンハイマーも、はたまたトルーマンを大統領もユダヤ人だったなんて...!?

しかも、アインシュタイン博士は初代イスラエル首相に推薦されていたと云われているのです(断ったそうですが)...!?

原子爆弾を導入した本当の黒幕は、やはり△NIMRODのロスチャイルドでしょう...!!

アメリカが広島・長崎の「放射能の人体への影響」を世間に隠したため、原子力は新しいエネルギーとして脚光を浴びていきます...

やがて、世界中に原子力発電所が造られていったという訳なのですが...



その結果、原爆投下から66年後に私たち日本人にまた悲劇が起こってしまったのです...!!

福島第一原発事故...!!

こんな悪夢はもうたくさんです...!!

原子爆弾から原子力発電所に繋がる利権に△NIMRODのヤツらが大きく関わっていることは間違いないのですが、その辺りのことを斬ったのが鬼塚英昭氏です...。

彼の著書には、今日に至る原子力について重要な内容が書かれておりますので、あなたも是非目を通して下さい...!!

【黒い絆 ロスチャイルドと原発マフィア】

「私はこれから原子力発電所、否、核兵器製造工場のことについて書くことにする。  
どうして、日本に核兵器製造工場が造られたのかを追求していく。  
私はこれらの工場をアメリカから持ち込んだ人間たちを追跡する。  
それらの人間たちが、普通の人間ではなく、マフィア的人間であることを読者のみなさんに説明する。  
彼らを”原発マフィア”と呼ぶことにする。」

「私たち日本人は、広島と長崎に原爆を落とされた唯一の民族なのに、また、彼らの罠にはまっているのだ。」

「私はまず、ヴィクター・ロスチャイルド(1910～1990)について書くことにする。  
どうしてか?  
彼こそが”原発マフィア”の中でも最も大きな力を持っていたからである。  
しかし、いかなる原爆の本を読んでも、日本を問わず、欧米においても、  
一行たりとも全くその姿を見せたことがない。  
彼は闇の中にほぼ完全に隠されている。  
しかし、彼こそが原子爆弾を、そして原子力発電所を創造した男なのである。」

「原子力爆弾を製造すべく、アメリカは『マンハッタン計画』を立てる。

この計画は、1939年8月2日に、

「アルバート・アインシュタインがフランクリン・ルーズベルト大統領に書簡を送って、原爆製造にアメリカが着手するようになった」

というのが現代史の定説とされている。

しかしヴィクターこそが原爆製造の”主役”であることは全く知られていない。

すべてが謎につつまれている。」

「シラード(ハンガリー系ユダヤ人の物理学者レオ・シラード)の妄想から原子爆弾のシナリオが生まれた。

シラードはイギリス海軍に行き、原爆の特許を申請した。

だが、陸軍は耳すら貸さなかった。

しかし、イギリス海軍はシラードの特許申請を認めた。

彼の特許は『最高機密』とされた。」

「第二次世界大戦が始まった時、ヴィクター・ロスチャイルドはMI5(英国軍事諜報部第五部)の危機管理官であった。」

「シラードの原爆製造の構想を誰よりも早く知ったヴィクター・ロスチャイルドはチャーチルを動かし

(チャーチルはロスチャイルド家の使用人であった)『チューブ・アロイズ計画(管用合金計画)』を作らせた。

この計画によって、偽装機関である『管用合金管理委員会』が生まれた。」

「1941年10月、ヴィクター・ロスチャイルドは管用合金管理委員会に入り、核兵器開発の全過程を監督した。

ロスチャイルドの支配するインペリアル・ケミカルズが原爆製造の中心となった。

また、同じくロスチャイルドの支配下にあったイギリス最大の兵器会社ヴィッカーズもこの委員会に加わった。

チャーチルはこの委員会に巨額のポンドを与え続けた。」

「しかし、ヴィクター・ロスチャイルドはウラン235の抽出には、さらに巨額のポンドが必要であることを知る。

そこで、彼は、サー・ジョージアンダーソンに命じてチャーチルに事後承諾させ、この原爆計画をアメリカに売り込むことにした。」

「『マンハッタン計画』の最高責任者はヘンリー・スティムソン陸軍長官(実質は国防長官)であり

、  
ロンドンにあるロスチャイルドを中心とする組織『ザ・オーダー』のアメリカでの最高の地位にあったのもスティムソンであった。」

「この『マンハッタン計画』に使われた費用は財務省と連邦準備銀行から出された。

このときの財務長官は、ヘンリー・モーゲンソー・ジュニアである。

彼はロスチャイルドの血族である。

『マンハッタン計画』とは、イギリスの原爆製造計画の場をアメリカに移しただけで、実質的には、ヴィクター・ロスチャイルドの意向通りに進められたのである。」

「ヴィクター・ロスチャイルドはケンブリッジ大学時代に『使徒会』なる秘密結社に入った。」

「この結社に入った殆どの学生はホモセクシュアルの関係にある。

ヴィクター・ロスチャイルドは『ケンブリッジ五人組』のホモ組織をつくり、そのリーダーとなった。

ヴィクター・ロスチャイルドは仲間の彼らをソ連のスパイに仕立てあげた。

原爆の開発過程が具体的に進行していくにつれ、彼らはその機密情報をソ連に流していった。

ついに原爆が完成して、広島と長崎に落とされた後も、彼ら五人組は原爆の重要情報を流し続けた。

この事実はマーガレット・サッチャーが首相の時代、ヴィクター・ロスチャイルドの行状として明らかになる。」

「ヴィクター・ロスチャイルドはどのようにして原爆情報をソ連に流し続けたのか。

彼がソ連を支配していたからである。

ニキータ・フルシチョフが首相を退任後、『フルシチョフ回想録』を書き残したが、その中で『スターリンがよく”ご主人様”という言葉を使っていた』と書いている。

間違いなくヴィクター・ロスチャイルドを指している。」

「第二次世界大戦でソ連は大打撃を受けた。

そのなかで、原爆製造を進めて、1949年に完成させた。

原爆の図面、諸々の機器、そしてウラニウム(当時ソ連は持っていなかった)をヴィクター・ロスチャイルドが手配したのである。」

「ヴィクター・ロスチャイルドはイギリス空軍の飛行機を乗りまわし、あらゆる国々でウラン探しを続けた。

広島と長崎に原爆が落とされた後、当時のウラン鉱山の約80%がロスチャイルドの手に落ちていた。

第二次大戦が終了すると、ロスチャイルドは、ウランの大量販売に乗り出すのである。」

「さて、ヴィクター・ロスチャイルドは『原発マフィア』を準備したのである。  
アメリカとソ連に原爆(水爆)闘争をやらせると同時に、原子力発電を視野に入れたのである。」

「1949年9月3日、ソ連が原爆実験を成功させた。  
このニュースは、原爆から原子力空母、原子力潜水艦、原子力発電など、原子力と名のつくものなら何でも製造しよう、という情熱をアメリカ中に引き起こした。  
ヴィクター・ロスチャイルドの野望が見事に成し遂げられようとしていた。」

「私たちに日本人は、大きな”平和利用”としての原子力、すなわち核分裂を考えているが、平和利用とは軍事産業の一分野なのである。  
どうして原子力発電にアメリカは力を入れるようになったのか。  
核分裂から電力を取り出して、工場や一般家庭に送電するのは二次的目標なのである。  
それは今日でも変わらない。  
真の目的はプルトニウムを大量生産し、原爆製造、そして水爆製造をするためであった。  
製造後に大量に出てくる劣化ウランで爆弾を造り、世界各地の戦争を演出し、数十万、あるいは数百万単位で人々を殺害するためであった。」

「チェルノブイリ事故から1年3ヶ月をすぎた1987年、第4回『世界野生環境保護会議』がアメリカ・コロンビア州デンバー市で開かれた。  
60を超える国々から2,000名の環境問題専門家や政治家が集まり、『デンバー文書』を発表した。  
」

「『我々は、環境管理に関する国際援助と被曝助国の資源管理を統合するために”新しい銀行”を考案する必要がある』」

「それが『世界環境銀行』である。  
この銀行の提案者はエドモン・ド・ロスチャイルド(ヴィクター・ロスチャイルドは1990年に死亡、ヴィクターの後を継いだのはジェイコブで、エドモンは分家の一人)。  
彼が提案して世界銀行を設立したのである。  
この設立会議に、デーヴィッド・ロックフェラー、ジェームズ・ベーカー(米財務長官)らも出席していた。

エドモンがこの会議を終始リードした。  
ロックフェラーもベイカーも端役だった。」

「『デーヴィッド・ロックフェラーが世界皇帝だ』と喧伝する学者やインターネットマニアがいるが、私には彼らはロスチャイルドの回し者のように思えてならない。  
私はルイス・シュトラウスがロスチャイルドの代理としてロックフェラー一族の全財務を完全にチェックしている。  
ロックフェラー財閥は、ロスチャイルドがアメリカの政治・経済を支配しているのを隠すために、回し者を製造販売している、とても喰えないシロモノなのである。」

「1978年が世界史の一つのターニング・ポイントとなった。  
新しい戦争を原発マフィア＝石油マフィアが仕掛けてきたからである。  
その戦争の名を『環境戦争』という。」

「2011年3月30日、福島第1原発事故から20日あまり経った日、バラク・オバマ米大統領は、エネルギー安全保障に関して、次のような演説をした。

『日本での原発事故を踏まえて原子力についてつけ加えたい。  
米国は既に電力需要の5分の1を原子力で賄っており、原子力は温暖化ガスを排出することなく電力供給を増やせる選択肢だ。  
ただし、安全保障は不可欠で、既存の全原発施設を至急点検するよう原子力規制委員会(NRC)に指示した。  
日本の事故から学び、次世代原発の設計と建設に活かしていく。  
危険な放射線性物質や技術を拡散させることなく、各国が原発を利用できるようにするための国際的な議論をリードしていく』」

「オバマ大統領の存在理由が、彼のこの演説の中に見事に浮き彫りになっている。  
オバマを育てたのは、あの悪名高き『フォード財団』である。  
そして、オバマの選挙資金の提供者の第1位は、ロスチャイルド系の世界一の投資信託会社フィディリティ、そして第2位がやはりロスチャイルドの子会社、ゴールドマン・サックスである(デーヴィッド・ロックフェラーが支配する投資銀行と世にいわれているのは完全なデマ)。  
そしてオバマはウォール街のヘッジファンドからも巨額の献金を受けていた。  
インターネットを通じての個人献金は確かにあったが、ごくごく少ない献金であった。  
世論操作は、ユダヤ系が支配するメディアを通じて行われた。」

そのノーベル平和賞も完全なヤラセである。」

「オバマ自身も原発マフィアとの関係を認めるような政策をとっている。  
GEは世界中で、2010年度に142億ドルの利益を上げながら法人税をまったく払っていない。  
そのGEの最高経営責任者、ジェフ・イメルトを、オバマは、2011年1月に新設した『雇用と競争力に関する大統領評議会』の議長に指名した。」

「オバマはまた、イリノイ州シカゴに本社を置くエクセロン社  
(17基の原子炉を保有・運営する米原発最大手)から、2008年の大統領選で、同社の社員から個人名目で約20万ドルを陣営に献金されている。  
原発最大手の一つ、エンタジー社もオバマに30万ドルを貢いでいる。  
さらに、オバマ陣営の選挙資金調達担当のジョン・ロウは、ワシントンに本拠を置くロビー団体、『原子力エネルギー協会(NEI)』の代表を務めている。  
このような背景で、オバマは30年ぶりに原子炉の新設を認めたのだ。」

「『原子力は温暖化ガスを排出することなく電力供給を増やせる選択肢だ』この唯一のキャッチフレーズが、原発マフィアたちの拠り所である。  
これ以外にオバマが政権を維持する理由は何もない。」

(鬼塚英昭著『黒い絆 ロスチャイルドと原発マフィア』より)

【映画】『私たちを無知にする△統制社会は、まるで華氏451』

---

マスゴミだけを、信用してはいけません...!!

教科書も、うのみにしないで...!!

戦後の日本の社会に待ち構えていたのは...

△NIMRODが作り出す、プロパガンダでした...!!

日本人の愛国心を弱らせていく、ヤツらの作戦だったのです...!!

TV新聞などのマスゴミから、毎日流される情報と...

学校・教育機関で受ける若者への教育を利用して...

太平洋戦争の戦争責任を日本に押しつけた、偽りだらけの歴史認識などの...

アメリカ寄りの偏った情報を...

ヤツらにとって都合のいい情報だけを、繰り返し繰り返し刷り込む...!!

さり気なく忍び込まれたそれは...

△NIMROD→アメリカ政府→日本の報道機関(CIAエージェント)→TV新聞等マスゴミ

△NIMROD→アメリカ政府→反日勢力(CIAエージェント)→日本の学校・教育機関

等のカタチをとり、知らず知らずに私たちに洗脳してきたのです...!!

あなたは、東日本震災という戦後最大の危機的状況なのに...

こうしてる間も、放射線汚染が拡大しているのに...

リビングルームの大型テレビで、くだらない番組を眺めるだけで...

見て見ぬフリをしていませんか...!?

気付いたときには...

私たちは感情や個性を消され、集団の中でロボットの如く振る舞い...

体制に逆らわない、都合のいい人間ばかりになっていました...!!

もはや、現代の私たちの日本社会は...

△闇の権力者たちに完全にコントロールされた生活になってませんか...!?

『私たちを無知にする△統制社会は、まるで華氏451』みたいです...!!



SF作家レイ・ブラッドベリの小説を、フランソワ・トリュフォーが映画化した『華氏451』...!!

これは人々を無知にする未来の統制社会を舞台にした異色作品です...

この社会では、あらゆる知識や情報はすべてテレビによって伝達され、人々は体制の意向通りに考え行動していれば、平和な生活が出来る...

そこでは何と「読書」は禁止されており、反社会的という理由で「本」は見つけ次第に消防士が駆け付けては火炎放射器で焼き捨てられる...

優秀な消防士の主人公は、TVのままに動く無気力な妻との生活に空虚感を覚えていた...

そんなある日、妻に瓜二つのある女性(二役)と知り合うのだが、彼女は本に熱意を持っていた...



主人公はその影響で禁じられている本を生まれて初めて読み、その魅力に取り憑かれてしまった…。

それを知った妻は、夫が読書をしていることを消防隊に密告したのだが…。

規格化された住宅やモノレールが、未来の町並みを上手に表現しています…。

まるで現代を予知していたかの様な大型の壁掛薄型双方向テレビがあって、そこでは人々を無知にさせるような仕掛けの番組を流しています…。

ラストの雪の中の幻想的なシーンは、強く印象に残ります…。

この映画の「本」「読書」が無い世界は奇想天外ではありますが、偏った情報を与えられる一方で、本を読書する機会が減った私たちの今の生活も似たようなものかも知れません…。

映画『華氏451』

<1966年／イギリス・フランス映画／製作：ルイス・M・アレン>

監督・脚本：フランソワ・トリュフォー 原作：レイ・ブラッドベリ

FAHRENHEIT 451 LIBRO REATO 1/12

→<http://www.youtube.com/watch?v=K4N6S8lwXOc&fea..>

FAHRENHEIT 451 LIBRO REATO 2/12

→<http://www.youtube.com/watch?v=kuWnKBvujRY&fea..>

(続きを観たい方はご自分で探してね。)

## 威風堂々[24] 『第二次世界大戦は△NIMRODがシナリオを描き、大根役者がいた!?!』

---

～△NIMRODのバベルの塔に怒った神により、言葉を互に通じられなくなった人々は多くの誤解から不和が絶えずいくつもの民族に分かれていってしまった～

- ①原子爆弾と原子力発電所を創造した主役は、ヴィクター・ロスチャイルド。
- ②チャーチル首相を動かして英国の税金を使い、ロスチャイルド企業で世界初の原爆製造に取り組み、アメリカに売り込んだ。
- ③マンハッタン計画とは原爆製造計画を英国からアメリカに移しただけで、ロスチャイルドの手にあるも同然だった。
- ④マンハッタン計画の最高責任者ヘンリー・スティムソン陸軍長官はロスチャイルドの傀儡で、しかも費用捻出はロスチャイルドの血族の財務省長官ヘンリー・モーゲンソー・ジュニアが仕切った。
- ⑤実は、ソ連はロスチャイルドが支配しており、スパイを通じて原爆の機密情報を流し、原爆の図面や諸々の機器それにウランをロスチャイルドが手配していた。
- ⑥戦後、ロスチャイルドはアメリカとソ連に原爆闘争をやらせると同時に、原子力発電を推進した。
- ⑦ウラン鉱山の約80%がロスチャイルドが支配している。
- ⑧原子力の平和利用は二の次で、一番の目的は人殺しの道具で儲けるのが目的である。

この、鬼塚英昭氏が明かした裏話を読んで、あなたはどう感じましたか...!?

恐らく、日本人を32万人も焼き殺した広島・長崎の原子爆弾の…、

本当の黒幕が誰であるかが判ったと同時に…、

私たちが知っている表側の歴史と、実は全く違う史実が存在していた事に衝撃を覚えた筈です…!!

私たちが知っている世界とは表側のことですが、裏側のことは学校では教えてくれませんか…?

歴史の教科書に載っていることは真実とは限りません、いや、あれはアメリカ寄りの偏った史実で、ヤツらに都合の悪いことはスッポリ抜けています…(笑)!!

教科書をうのみにしないで下さい…!!

では、TV新聞などのマスゴミから毎日流される情報はどうか…!?

残念ながら、ヤツらに都合のいい情報だけを流しているどころか、レベルが低くて私たちを無知にさせる様な、かえって人々に悪影響を及ぼす番組やCMが多すぎます…!!

マスゴミを信用してはいけません…!!

学校教育や報道機関から私たちに繰り返し刷り込まれているのは、日本人を弱体化させるプロパガンダなのです…!!

それは、△NIMRODがCIAや北朝鮮の反日勢力を利用して、知らず知らずに私たちを洗脳してきたのです…!!

長崎・広島に原爆を投下したのはアメリカですが、本当に悪いのはロスチャイルドら△NIMRODの連中なのです…!!

これまでもお伝えしてきた通り、大昔から世界で勃発する戦争はある一部の人間たちによって人為的に起こされてきたのです...!!

私たちの知らない裏側では、戦争のたびにロスチャイルドらユダヤ財閥の資本家が両陣営に資金を渡して、戦争後に受け取る高い金利で大儲けするのですが....、

それどころか、第二次世界大戦はかなりエゲつない策謀が渦巻いていたのです...!!

実は△NIMRODの連中によって描かれたシナリオがあって、世界中の人々をコロッと騙す大根役者がいた...!?

第二次世界大戦の裏側には、そんな巧妙なカラクリが仕組まれていたのです...!!

次の記事は、リチャード・コシミズ氏を一躍有名にした有名な講演から抜粋したものです、まだご存じない方はよく読んでみて下さい...!!

これまた、私たちが知っている表側の歴史と実は全く違う史実が存在していた事に、あなたは衝撃を覚える筈です...!!

【第二次世界大戦とはどのような歴史だったのか?】

By richardkoshimizu

『ヒトラーはユダヤ人だった。』

『ヒトラーは南米に逃れて最近まで生きていた!』

ヒトラー、スターリン、チャーチル、ルーズベルト……etc。

彼ら全員に共通するキーワード『ユダヤ』を手掛かりに、リチャード・コシミズの口から、知られざる本当の20世紀史が語られる。

「ヒトラーはユダヤ人だった。  
ヒトラーは南米に逃れて最近まで生きていた！」

「隠れユダヤ人ヒトラーは、戦後南米に逃れて1980年代まで生きていた。」

☆ヒトラーは、ロスチャイルド家の隠し子であり、ナチスは、ヒトラーの乗っ取り以降、シオニストの傀儡組織に変容したと考えます。

ヒトラーの周囲のナチス幹部は、実は大半が、隠れユダヤ人だったとも。  
ナチスのスポンサーはユダヤ財閥でした。

『アドルフ・ヒトラーはイスラエル建国の父』

「ユダヤ民族の仇敵、ヒットラーがイスラエル建国の父だと？  
ふざけるな、キチガイ!」

はい、それで結構です。

普通の方の反応としては、適正なものだと思います。

戦後の学校教育の成果です。

ですが、ヒットラーがイスラエル建国の父であることには、間違いはありません。

ヒットラーなしには、今日のイスラエルはありませんでした。

#### ■600万人のユダヤ人を殺していないアドルフ・ヒットラー■

彼は「ヨーロッパのユダヤ人600万人をガス室で殺戮した人類史上最悪の犯罪者」として認識されています。そう認識されてはいますが、事実と合致する認識であるかどうかは、おおいに疑問の余地があります。

確かにナチスは、ユダヤ人狩りを行い、強制収容所に送り込みました。

しかし、その数は600万人ではなかったし、ガス室で殺戮した事実もありませんでした。

「600万人」も「ガス室」も、戦後のユダヤ人に同情を集めるための作り話であり、他人様の土地にユダヤ国家を勝手にでっち上げ、パレスチナ人を殺したいだけ殺してきたユダヤ人の免罪符として、上手に使われてきた捏造神話だったのでした。

確かにヨーロッパのユダヤ人は、600万人減少したようです。

しかし、その大半は、アメリカ、イスラエル、ソ連に逃げました。

ガス室で死んでなどいません。

そんな大量殺戮のできる設備など最初からありませんでした。

むしろ、戦後数年して、世界のユダヤ人口は戦前よりも増えているとする説もあります。

そして、アウシュビッツにはガス室などありませんでした。

あるべき膨大な量の死体を焼いた灰もみつかりません。

収容所で死んだユダヤ人はどんなに多く見積もっても100万人。

(ゴルバチョフが開示したソ連軍の資料では、アウシュビッツのユダヤ人死者の数は、ただの3万人だったそうです。)

ほとんどの死因は、伝染病でした。

アンネの日記のアンネ・フランクもガス室ではなく 発疹フスで死にました。

(別人による創作、アンネの直筆と違うことが調査済みです。)

「ユダヤ虐殺の悲劇」は、ユダヤとイスラエルの利益を生むためのプロパガンダでもあったのです。

さて、そのいまわしい虐殺を主導したナチスの連中の正体を暴いてみましょう。

写真は、ロックフェラー財閥の現在の当主であるデービッド・ロックフェラー氏が、1937年にミュンヘンで自ら撮影した国家社会主義ドイツ労働者党党首、アドルフ・ヒットラー氏の雄姿です。ロックフェラー財閥は、ヒットラーのナチスの資金源のひとつでもありました。

## ■ナチスのスポンサーはユダヤ人■

ドイツ民族の永遠に消えない恥辱、ナチス・ドイツですが、一体、どちら様がスポンサーだったのでしょうか？

ユダヤ人でした。

繰り返します。

ヒットラーのナチス・ドイツのスポンサーは、ユダヤ人でした。

アドルフに資金を注入し、ナチスのトップに押し上げ、さらにナチスに政権をとらせたのは、ユダヤ財閥、ロスチャイルドだったのです。

そして、強制収容所のユダヤ人の奴隷労働でぼろ儲けをしていたのは、ロックフェラー、ブッシュ、デュポン、ハリマン、ウォーバーグら、アメリカのユダヤ財閥だったのです。

「そ、そんな馬鹿な。

なんで、ヒットラーをユダヤ・ロスチャイルド財閥が資金援助したんだ？

そんなこと、あるわけない!」

と、お怒りのあなた、その「なんで?」についてご説明しましょう。

「ヒトラーは、シオニスト・ユダヤ人にとって不可欠な必要悪」だったのです。

ヒトラー以前の欧州ではユダヤ人の現地民族との同化が進み、民族意識が希薄になりつつありました。

その事態を恐れていたのは、狂信的なシオニスト・ユダヤでした。

彼らは、旧約聖書の予言にある「ダビデ王の国の再興」を目指していました。

ダビデ王の国を再建するには、国民をどこかからシオンの丘に連れてくる必要がありました。

ヒトラーのユダヤ弾圧は、ヨーロッパのユダヤ人の民族意識を覚醒させ、父祖の国、イスラエルに回帰させる結果を生んだのです。

ヨーロッパから流れたユダヤ人口が、イスラエルの国民となって、戦後、晴れて旧約聖書の予言は達成されたのです。

このイスラエル建国に尽力したシオニスト・ユダヤ人の中心人物は、ヒトラーの後援者でもあるロスチャイルドだったのです。

## ■ナチスとシオニストは一心同体■

実際、ナチスはシオニスト・ユダヤ組織と緊密に連携しています。

ナチスも、シオニスト同様に、欧州のユダヤ人を追い出す政策で、シオニストと一致していたのです。

そして、ユダヤ弾圧の当事者であったアイヒマンが、シオニストとの折衝に当たっていたようです。

そのアイヒマン当人が、実はイーデッシュ語ガペラペラのユダヤ人であったという説すらあります。

また、シオニスト組織は、ナチの迫害を受けているユダヤの大衆を助けようとはしなかったそうです。

助けないことにより、ユダヤ人が欧州を出てイスラエルに赴くよう仕向けたのでしょうか?

(このアイヒマン、戦後15年間、アルゼンチンに隠れていてイスラエルの情報機関に逮捕されました。

「ナチスとシオニストの関係を暴露しようとした」のが、逮捕された理由だといわれています。

)



イスラエル建国の悲願達成のため、奔走したユダヤ大財閥、ロスチャイルド家。  
そのロスチャイルドから後援されていたヒットラー。  
欧州からユダヤ羊の群れを追い出し、イスラエルという囲いに追い込んだ牧羊犬、ヒットラー。  
奇妙な関係です。  
では、ヒットラーとは一体誰なんでしょうか？

フランクフルトのユダヤ人金貸し一族の屋号は、「赤い盾＝ロートシルト」だった。

メイヤー・アムシェル・ロスチャイルドの5人の息子たち。  
ウィーンに住んだ次男、サロモンは、メッテルニヒに大金を貸して、見返りに爵位を授けられた。  
。彼が残したもう一つの宝は…、孫息子、アドルフ・ヒットラー…？

## ■ヒットラーのお爺さんは、ユダヤ大財閥?■

「ヒットラーの父方の祖父が誰であるのか？」に注目しましょう。  
ヒットラーの祖母、マリア・アンナは、オーストリアのロスチャイルド家(ロートシルト家)に家政婦として奉公していた際、誰かの子供を身ごもって、実家に帰されています。  
そして、実家でアドルフの父にあたるアロイスを出産しているのです。

当時、ロスチャイルド男爵は男爵夫人と折り合いが悪く、家族とはなれて、邸宅でひとりで生活しており、若い女に狂っていたそうです。  
男爵の執事の息子のHermann von Goldschmidtと言う人物が、1917年に書いた本によると、  
" by the 1840s he had developed a somewhat reckless enthusiasm for young girls.."  
"He had a lecherous passion for very young girls, his adventures with whom had to be hushed up by the police."  
ということで、ひたすら若い女の尻を追い掛け回していたようです。

邸宅に奉公する若い娘、マリア・アンナは奉公中に「誰か関係」を持ち、妊娠し、すぐに実家に返されて私生児アロイスを生んだ。

さて、ヒットラーの祖母に手をつけたお相手が、誰であったか？

…普通に考えれば、「ご主人様」の仕業と言うことでしょう。

もし、ヒットラーがウーン・ロスチャイルド家の当主の孫息子であり、ユダヤ大富豪から秘密裏に支援されて、ナチの頭目となり、ドイツの総統となって「ユダヤの敵を演じる」役割を果たしてきたのなら。

以上の通り、アドルフ・ヒットラーがイスラエル建国の父であることに間違いはありません。

そして、どうやら、新聞もテレビも真実を報道しないし、学校の歴史の授業も真実とは無関係のようです。

ヒットラーは「ユダヤの装置」だったのではないのでしょうか？

ドイツ政府は、当時のナチス幹部連中の「戸籍調査」を徹底して行うべきです。

「隠れユダヤ」が混じっていなかったかどうかを。

## ■ヒットラーは南米に逃れて最近まで生きていた■

ヒットラーは自殺しておらず、南米に逃れて20年ほど前まで生きていたという「馬鹿馬鹿しい」話があります。

しかし、このページを読まれた方は、馬鹿馬鹿しい話とは思わないかもしれない。

イスラエル建国の最大の功労者、ヒットラー。ユダヤ・ロートシルト家の血を受け継ぐヒットラー。

彼が、役割を終えた後に、安住の地を南米に用意されたとしても、不思議はありません。

晩年のヒットラーの写真(必見!)や、ナチ高官らが、敗戦直後、ノルウエーのベルゲン港から出港して、アルゼンチンの港に到着したUボートの写真、アルゼンチンのヒットラーの山荘など写真もあります。

ぜひご一読ください。

(リチャード・コシミズ講演『ワールドフォーラム 2007年1月新春特別歴史シンポジウム』より)

～△NIMRODのバベルの塔に怒った神により、人間のうちのある者は猿や幻に変えられてしまったものもいた～

ユダヤ人に対して、とやかく云うのはタブーなのではないでしょうか...?

前回のリチャード・コシミズ氏が明かした裏話を読んで、あなたはどう感じましたか...!?

特に、ユダヤ人についてどう思いましたか...!?

今まであなたは....、

「ユダヤ人は戦時中にホロコーストに入れられ大量に虐殺されたんだ」あるいは、「ユダヤ人はヒットラーのナチスから酷いことをされた可愛そうな民族なんだ」と思い込んでませんでしたか...!?

恐らく、私たちのほとんどが学校で習い、TV新聞あるいは映画でそのように刷り込まれていたのではないのでしょうか...!?

だとしたら、私たちは....、

△NIMRODの描いたシナリオとヤツらの用意した大根役者によって、ウソで塗り固められた偽りだらけの情報に一杯食わされたという訳なのです...!!

ヒットラーの作戦によってヨーロッパを出たシオニストたちは、パレスチナに強引に割って入り...

ユダヤ人の国イスラエルを建国させることに、まんまと成功したのですが...

この時はイギリスが国際非難を浴びながらもイスラエル建国を承認したと云われていますが、その裏側では恐らくロスチャイルドが動いたのではないのでしょうか...!?

実は△NIMROD一族のヤツらは何千年も前から、このイスラエルを世界の中心とする『世界統一政府』樹立を悲願としてきたのです...!!

かつて、文芸春秋社の月刊誌マルコポーロが1995年に「ナチのガス室はなかった」という記事を掲載したところ、ある筋から強い圧力が掛かって結局廃刊に至ったという事件がありました...

あの頃は、ユダヤ人に対して、とやかく云うのはタブーだったのでしょうが...

現在はまるで違います...!!

どんな策略だろうと、情報がネットを通じて暴露される世の中になったのです...!!

一般の人々を欺こうとしても、真実が必ず白日の下にサラされるという素晴らしい時代になりました...!!

ですから、こうしてあなたにも...

△NIMRODの気違い連中が何世紀にも渡り、いかにして世界征服を企ててきたかを訴えることが出来るのです...!!

えッ、あなたはまだ信じられないのですか...!?

ユダヤ人に対して、とやかく云うのはやっぱりタブーなのでしょうか...?

でもお教えしましょう、ヒットラー以外にも....、

世界の歴史の数々に、他にもまだまだ△NIMRODと結びつくシオニストの隠れユダヤ人(ユダヤ系白人)が居たのです...!!

【世界大戦とユダヤ国際金融資本の深い深い関わり】

by Richardkoshimizu

『あの首相も、この大統領も、そして総統すらも...同じユダヤ国際金融資本の使用人だった?』

『そして現代の政治家も、相変わらず隠れユダヤ人にして、同じユダヤ支配者の紐付きだったとしたら?』

【1】第二次世界大戦の部：

戦争当時および前後の政治指導者が、誰も彼もユダヤ人だったとしたら?

ヒットラーとスターリンが同じロスチャイルド家の血を受け継ぐ、近い親戚同士で、示し合わせて独ソ戦をでっち上げたとしたら？

米国の政治が、リンカーンの時代からユダヤの支配下だったとしたら？

## ■アドルフ・ヒットラー(ロスチャイルド?)／ナチスドイツ

①ナチスドイツのスポンサーは、ロスチャイルド、ロックフェラーなどのユダヤ財閥であったと解っている。

②ナチスは、欧州のユダヤ人を迫害することで、ユダヤ人のイスラエルおよびソ連への流出を促した。結果、戦後イスラエルにユダヤ人が集まり、建国が可能になった。

また、レーニン、トロツキーらユダヤ人の作った国家であったソ連もまた、ユダヤ人口を増やした。

ヒットラーは、イスラエル建国の最大の功労者である。

③アドルフ・ヒットラーの父親、アロイスは、ウィーンのアンセルム・ソロモン・ロスチャイルド男爵が、家政婦(ヒットラーの祖母)に産ませた非嫡出子であった可能性が高い。

ヒットラーは、欧州ユダヤの帝王、ロスチャイルドの直系子孫だった可能性が高い。

④ナチスの高官には、ヒットラー以外にもユダヤ人疑惑のある人物がたくさんいる。

ヒムラー、ボルマン、アイヒマン、ハイドリヒ、ローゼンベルグ.....ナチスは、隠れユダヤ人によって構成されたシオニスト別働隊だった疑惑がある。

⑤イスラエル建国に貢献したヒットラーは敗戦後、Uボートでアルゼンチンに逃れ、ユダヤ社会に守られて、90歳を過ぎるまで余生を全うしたのではないか？

(南米でのヒットラー目撃証言多々あり。)

## ■ユソフ・スターリン(ロスチャイルド?)／ソ連

①スターリンの改名前の苗字は、Djugashviliであり、これは、グルジア語で「ユダヤの息子」という意味である。

典型的なユダヤの苗字であるそうだ。

②スターリンは生涯3度結婚したが、3人の妻はすべて、ユダヤ人であった。

3人目は、11世紀にロシア・ウクライナで滅亡したユダヤ・アシュケナージ国家、ハザール王国の王家の娘であった。

スターリンの権力の源泉は、結局、ユダヤ勢力ということか？

③スターリンの実の父親が、ユダヤ大富豪、パリのロスチャイルド家(ロートシルト家)のエドモンド・ロスチャイルド男爵ではなかったのかとする説がある。

この説は、スターリンにまつわる多くの疑問を説明する。

④スターリンと三頭政治(トロイカ)を組んだカーメネフ、ジノヴィエフはユダヤ人であった。

⑤スターリンの副官で、クレムリンの狼といわれた副首相、石油相のカガノヴィッチがユダヤ人(3番目の妻の兄)。

## ■ウインストン・ジェイコブソン・チャーチル／イギリス

①チャーチルの母親はユダヤ系アメリカ人であり、その父、つまり、チャーチルの母方の祖父は、ニューヨークタイムスの社主であった。

勿論ユダヤ人であり、ウォール街のユダヤ資本の代弁者であった。

チャーチルの祖父は、ロスチャイルド・ロックフェラーのユダヤ世界権力に非常に近いユダヤ資本家であった。

②政治家として軍備の拡大に尽力し、ユダヤ軍産複合体に巨万の富をもたらした。

終生、ロスチャイルドの忠実な代理人として、ロスチャイルドのために尽くした。

(ヒットラーという敵がいなければ軍備拡張も出来なかった。)

③チャーチルの英国とヒットラーのドイツが激しく戦うことで、世界的軍拡が実現した。

当時から、軍需産業と政府への金融ビジネスはユダヤ財閥が握っていた。

2人の戦争指導者はユダヤ人に莫大な利益をもたらした。

## ■フランクリン・(ローゼンベルグ)・ルーズベルト／アメリカ

①ルーズベルト家の初代は、17世紀末にオランダから移民してきたユダヤ人、Claes Marten

van Rooseveltである。

セオドア・ルーズベルトもまた、同じ初代の血統の大統領であった。

ルーズベルト一族は、ほかにもRosenberg, Rosenbaum, Rosenbarium, Roseveltなどと名乗っている。

ヒラリー・クリントンとも同族と言うことになるのか？

②1935年3月14日のN.Yタイムズ上で、自分の祖先がユダヤ人であると表明した。

③アメリカを世界大戦に引っ張り込むことに成功した。

世界大戦は、ユダヤ軍産複合体の最も渴望した事態であった。

#### ■ハリー・（ソロモン）・トルーマン／アメリカ

①ハリー・S・トルーマンのSとは、ソロモンのこと。

つまり、ユダヤ系であることを示す。

②両親はクリスチャンネームを持つが、ユダヤ人であったことが判っている。

③隠れユダヤ大統領ルーズベルトの後をついで、日本に原爆を落とした。

(原爆の開発および使用にユダヤ人が専ら関わっていたことは、周知の事実である。)

④トルーマンが戦後の米ソ冷戦体制を確立するに大きく貢献した。

冷戦は、ウォール街のユダヤ人の軍需産業を隆盛させた。

#### ■ドワイト・ダビデ・ヤコブ・アイゼンハワー／アメリカ

①卒業した陸軍士官学校の年鑑に「スウェーデン系ユダヤ人である」と明確に記載されている。

②アイゼンハワーの父親は、デービッド(ダビデ)・ジェイコブ(ヤコブ)・アイゼンハワーという典型的なユダヤ名を持っていた。

③隠れユダヤ大統領、フランクリン・ルーズベルトから異例の抜擢を受け、多くの前任者を飛び越して、軍の頂点に君臨した。



④戦後、降伏したドイツ軍100万人に満足に食料を与えずに餓死せしめた。  
ユダヤ特有のドイツ人への恨みか？

#### ■ウラジミール・（ゴールドマン）・レーニン／ソ連

①純粋なユダヤ人説(ただし、ユダヤ混血説もある。)

レーニンの本名は、ゴールドマン。

1870年にオデッサで生まれた。

ハイアム・ゴールドマンとしてユダヤ割礼を受けている。

両親ともドイツ系のユダヤ人。

②レーニンとともにソ連を作ったトロツキーもユダヤ人。

③ボルシェビキ幹部の80%は、ユダヤ人であった。

反ユダヤの皇帝、ニコライ二世のロマノフ王朝を倒し、レーニンらにユダヤ人によるユダヤ人のための国家、ソ連を作らせたのは、ロスチャイルドであった。

#### ■ウッドロー・ウイルソン／アメリカ

①両親の本当の姓は、Wohlson。

ユダヤ系ドイツ人の名前。

ドイツから、英国に移民し、WOLFSONと名乗った。

そして、アメリカに来たときに「ウイルソン」に改名した。

#### ■リンドン・ジョンソン／アメリカ

①ベトナムからの撤退を公言したケネディーが暗殺され、昇格したジョンソンは逆に、ベトナムに全面介入を進めた。

結果、ユダヤ軍産複合体は、莫大な収入を長期間手にした。

②ジョンソンの妻は、ユダヤ系メキシコ人であった。

③ジョンソンの母方の祖先は、18世紀中ごろにドイツから移民してきたユダヤ人、Huffmans一族。

メリーランド、ケンタッキーを経てテキサスに定住した。

テキサスは元スペインの植民地であり、スペインからのユダヤ移民の子孫が多かった。

ジョンソンは、ここでユダヤ系子弟の教育に携わっていたと思われる。

④ジョンソンは、テキサス選出のユダヤ人議員、Klebergの助手として、ワシントン入りした。

⑤ジョンソンのスポンサーは、ユダヤ・ベクテル系列の軍需産業、Brown & Root社であった。

#### ■エイブラハム・（スプリングシュタイン）・リンカーン／アメリカ

①ノースカロライナのユダヤ人富豪、A.A.スプリングシュタイン(米国名：スプリングス) の隠し子。

スプリングスは、ロスチャイルドに近いユダヤ富豪であった。

②リンカーンといえば、南北戦争での黒人解放がよく知られているが、同時にユダヤ人差別をも撤廃してもいる。

～△NIMRODの街からいくつも分かれた国を誰が守護するかを、神と70人の天使たちはくじで決めた～

【世界大戦とユダヤ国際金融資本の深い深い関わり】

by Richardkoshimizu

『あの首相も、この大統領も、そして総統すらも…同じユダヤ国際金融資本の使用人だった?』

『そして現代の政治家も、相変わらず隠れユダヤ人にして、同じユダヤ支配者の紐付きだったとしたら?』

【II】「911の今」の部：

現代の米英露の政治家が、やはり、ユダヤ世界権力の手先に過ぎず、歴代大統領がイスラエルの敵、イラクを湾岸戦争や空爆や侵攻で叩き、911をでっち上げて、石油と麻薬の利権をユダヤ権力のために…もう、やめておきましょう。

各論を読んでください。

その方が、現実を受け止め易いはずです。

■ ジョージ・ブッシュ／アメリカ

①17世紀にチェコのプラハから迫害を逃れて移民してきたユダヤ人、マシ阿斯・ブッシュがブッシュ家の初代ではないのか？  
マシアスの息子で、独立戦争の英雄、ユダヤ人将校、ジョージ・ブッシュが大ブッシュの祖先ではないのか？  
ブッシュ家は、欧州ユダヤの米国移民の草分けではないのか？

②夫人のバーバラ・ブッシュもチェコ系と思われるが、同じチェコのユダヤ系ではないのか？

③19世紀ニューヨーク大学で、ユダヤの言語、ヘブライ語を教えていたジョージ・ブッシュ教授が、自分の縁戚であると大ブッシュ本人が認めている。

#### ■ボリス・（エルシュタイン）・エリツィン／ロシア

①エリツィン自身はユダヤ人ではないという説もあるが、エリツィンという姓が、ユダヤのエルシュタインという姓の変形だとする指摘もある。  
少なくともユダヤ人の妻を持つ。

②エリツィンの補佐官は80%がユダヤ人。

補佐官の中には20人のアメリカ人。

指導的な役割は、ジェフリー・サックスなるハーバード大学の教授。もちろんユダヤ人。

③1996年のロシア大統領選挙で、エリツィンを支援した「オリガルヒ」7人のうち、5人がユダヤ人。

選挙後、オリガルヒのユダヤ人の影響力は強化。

「7人の銀行家による統治(semibankirshchina)」と呼ばれた。

エリツィン政権はユダヤ傀儡政権であった。

#### ■ビル・クリントン(ロックフェラー?)／アメリカ

①弱小のアーカンソー州知事から、大統領に上り詰めた。

スポンサーは、ユダヤ・ハリマン財閥だった。

②アーカンソーの州知事前任者は、ウインスロップ・ロックフェラーであった。

ウインスロップがクリントンの実父ではないかと、大いに疑われている。

ロックフェラー・ユダヤ財閥が、クリントンの黒幕だったのではないかと？

事実ならば、現在のロックフェラー財閥当主のデービッド・ロックフェラーは、クリントンの叔父ということになる。

③ルインスキーとのスキャンダルで追い込まれ、ユダヤ・ネオコンに強要されて、イスラエルの宿敵、イラクを空爆した。

#### ■ジョージ・W・ブッシュ／アメリカ

①もし親父が、隠れユダヤなら息子も然りである。

②ブッシュのイスラエルべったりの政策は、隠れユダヤ人ならば至極当然である。

③ブッシュは、イスラエルなどでアシュケナジ・ユダヤ式の礼拝を何度も行っている。

④ブッシュ政権の閣僚の大半はユダヤ人である。

⑤ブッシュのスポンサーは、隠れユダヤ人、ロックフェラーである。

#### ■オサマ・ビン・ラディン／イスラエル(これ、冗談ではないです)

①イスラエルの著名なジャーナリスト、バリー・チャミッシュ氏によると、ビン・ラディンの母親はユダヤ人であり、母親の一族は、今でもイスラエルに在住しているという。

②911直前に、ビン・ラディンはドバイのアメリカン病院に入院し、CIA支局長やサウジ王子らと面会していたという。

当時ビン・ラディンは、ユダヤ機関、CIAの追っていた最重要過激派のはずであった。

③ビン・ラディンの父親の出身地、イエメンは、中東で、イスラエルの次にユダヤ人口の多い国である。

④ビン・ラディン一族は、ユダヤ・ベクテル社の建設工事の下請けをすることで成長した企業グル

ープである。

⑤911当日、大ブッシュは、ビン・ラディンの長兄とワシントンのホテルで会食していた。

⑥ビン・ラディンは、ブッシュにアフガン・イラク侵略の口実を与える役割を果たし、立派にユダヤ権力に貢献してきた。

#### ■ジョン・ケリー／アメリカ

①世間一般では、アイルランド系のカトリックとばかり思われていたケリーだが、実は両親ともチェコのユダヤ系だった。先祖が移民の際に改宗している。

②不正選挙がうわさされた2004大統領選で、早々に敗北宣言して、ブッシュの再選を後押しした。  
負けることで、結果として、ブッシュの背後のユダヤ権力に貢献した。

#### ■デービッド・ロックフェラー／アメリカ

①米国では、WASP、プロテスタントの代表選手のようにみなされているが、実は改宗ユダヤ人である。

一族は、スペインのセファルディ・ユダヤ名家の出で、トルコ、フランス、ドイツを経由して、アメリカに渡った。ロックフェラー家の当初の事業資金は、ロスチャイルドが出したという。

②ニューヨーク市長、副大統領を務めた兄のネルソン・D・ロックフェラーのスタッフは上から下までユダヤ人であった。

③デービッドの主催するCFR(外交評議会)のメンバーのほとんどが、ユダヤ人であり、ネオコンの人脈と大きく重複している。

#### ■Guy・de・ロスチャイルド／フランス

①現在のロスチャイルド家当主。

勿論、ユダヤ人。

世界のユダヤ社会の帝王。

特にコメントなし。

## ■トニー・ブレア／イギリス

①ブレア自身には、あまり明確なユダヤ人説は無い。

ただし、英国の著名なユダヤ人作家、ジョージ・オーウェルの本名がブレアであることを記しておく。

②ブレアの側近三人、ストロー、マンデルソン、レビーはみな、ユダヤ人である。

特にマンデルソンは現代の宮廷ユダヤ人と称すべき人物で、英国王室にも強い影響力がある。

③英国労働党の長老議員が、ブレア政権はユダヤに支配されていると痛烈に批判している。

④英国のユダヤ政治家たちは、ブレアとともに英保守党に移籍してきている。ブレアがユダヤ勢力の核となっている。

## ■ヒラリー・(ローゼンベルグ)・クリントン／アメリカ

①ヒラリー・ロダム・クリントンの本当のファミリーネームは、ローゼンバーグ。

オランダのユダヤ人もしくは、得おCIA系ユダヤ人の説がある。

となると、フランクリン・ルーズベルトと親戚筋ということか？

②ヒラリーは、ユダヤ人の大票田、ニューヨーク州から出馬し、上院議員に当選した。

彼女が隠れユダヤであれば、当然ながら、ニューヨークのユダヤは全面的に支援する。

③クリントンとの結婚は、ルーズベルトの同系とロックフェラーの結婚というユダヤ名門同士の婚姻だったのか？

④ヒラリーは、次の大統領になると目されている。

ロックフェラーの隠し子、ビル・クリントンの夫人で、ユダヤの名門、ローゼンベルグ家の人物で

あるならば、アメリカのユダヤ社会としては、文句のない候補であろう。

## ■ジュリア・ティモシェンコ／ウクライナ

①オレンジ革命のジャンヌ・ダルクともてはやされるユダヤ人女性。

ウクライナのユシュチェンコ政権の新首相。

石油ビジネスで巨万の富を得たユダヤ人だが、ロシアとICPOから同時に訴追を受けている贈賄容疑者。

②結論から言えば、11世紀に滅びたユダヤ・ハザール王国の西半分に相当するウクライナに、ウォール街のユダヤ石油王に近い、ユダヤ傀儡政権が出来たということを意味する。

③ユシュチェンコの次にウクライナの大統領に就任すると見られている。

その時にこそ、「古のハザール王国」が再興される。

全世界のアシュケナージ・ユダヤ人たちは、故国の回復に涙するはずだ。



## 『世界は△に一杯食わされた!?!』

---

例えばですが...

ある会社に入社したら、その会長も社長も常務も部長も課長も係長も....

みーんな、同じ血統の一族で占められていた...?

なーんてことは、小さな会社だったら有りえますよね...?

そんな会社だったら、きっと結束力が強そうですね...?

これが、もしも、もしもですが...

世界各国の、あの首相も、この大統領も、そして総統すらも....

みーんな、同じ血統の一族で占められていたとしたら...?

なーんてことは、教科書にも載ってないし....

TV新聞等マスゴミでも報道しないから....

まさか、まさか、有りっこないですよね...?

もしも、もしも、もしもですが...

△ヒットラーと△スターリンが、同じ家の血を受け継ぐ近い親戚同士で....

2人で示し合わせて、独ソ戦をでっち上げていたとしたら...?

第二次世界大戦中にシナリオがあって、適当にドンパチやってる間に....

△シオニストたちが、国家を作り上げる準備をしていたとしたら...?

日本人みたいな種族は、原爆で吹き飛ばす一方で....

自分たちの種族の結束力を強める、きっかけを作っていたとしたら...?

アンネの日記がでっち上げだったとしたら...?

なーんてことは、教科書にも載ってないし....

TV新聞等マスゴミでも報道しないから....

まさか、まさか、有りっこないですよね...?



『世界は△に一杯食わされた!?!』と、あなたも思いませんか...?

教科書をうのみにしないで 世界統一政府

→<http://www.youtube.com/watch?v=M7W6x7hTAU0>

WF2007年1月リチャード・コシミズ講演「ヒトラーはユダヤ人だった。」「ヒトラーは南米に逃れて最近まで生きていた!」

→<http://www.veoh.com/watch/v160716439hwGwtq4>

## 威風堂々[27] 『△NIMRODが創りたかった国はこうして誕生した!?!』

---

～神によって分けられた△NIMROD王の街、そのうちの一つイスラエルの守護は大天使ミカエルが司ることになった～

あなたは、「ユダヤ主義に対して異論を唱えると捕まる」というのをご存じでしょうか...?

ドイツでは、例えば、“アウシュビッツは捏造だ、ユダヤ人は600万も死んでない”などと言ったものなら、「ネオナチ」として警察行きというのは有名な話で....、

実はアメリカに於いてもブッシュ政権時に定められた、その名も「世界反ユダヤ主義監視法」という法律が存在するのです...!!

例えば、“アメリカはユダヤに乗っ取られている”とか、“イスラエル建国は許せない”となどど主張しようものなら、CIAがあなたを調査した挙げ句「テロ犯」容疑で捕まってしまうのだそうです...!!

ですから、彼らはユダヤ人について本音を語る事が出来ないのです...!!

しかし、注意深く観ているとネット情報は世界の人々に真実を伝え続けています...!!

世界の政治や史実に関する様々な文献を追っていけば、その裏側には何故か必ずユダヤ人の足跡が見え隠れするのです...!?

あの首相も、この大統領も、そして総統すらも、同じユダヤ国際金融資本の使用人だった...!?

そして現代の政治家も、相変わらず隠れユダヤ人にして、同じユダヤ支配者の紐付きだったとしたら...?

資本主義国と社会主義国が敵対しているという構図は、シナリオがあったとしたら...?

ヒトラーにユダヤ人をヨーロッパから追っ払わせる一方、世界の人々から可愛そうなユダヤ人を演出していたとしたら...?

これらは、知れば知るほど不自然ですよね...!?

【時局「政治・社会動向の観察と主張」】

「ヨーロッパでは、最近、反ユダヤ主義が台頭してきていると云う。単純な人種差別であれば、好ましくないだろうが、そうではあるまい。アシュケナジーユダヤ人の一部は、嫌われるだけの理由がある。アシュケナジーユダヤ人自身も、思い当たるフシがあるだろう。」

「第2次世界大戦を引き起こしたチャーチルはユダヤ系であったし、スターリン、ルーズベルトもそうだったと云われている。ヒラリー・クリントンもユダヤ系であるし、アル・ゴアはユダヤの飼い犬だった。酔っ払いのロシア元大統領エリツィンも、ユダヤ系であった。暗殺されたダイアナ妃も、ユダヤ系であった。どうして、こうも世界中の権力にユダヤは入り込んでいるのか。」

「アメリカ企業の2/3ほどは、ユダヤの傘下にあるというし、アメリカの富の8割方は、ユダヤを潤しているともいう。ビンラーディンは、意図的に育てられ、ユダヤの手先となって動いている食わせ物であるから除外したとしても、一部のイスラム教の者が、反ユダヤを鮮明にしているのも、理由の無い事ではない。」

「要するに、ユダヤは拝金主義・唯物主義であり、実質的には無神論者であり、極めて独占的で、その意味で、共産主義的である。ユダヤ人が、嫌われずに他人種とうまく共存共栄してゆくつもりがあるのであれば、くだらない謀略を捨てて、独占を止め、拝金主義・物質至上主義を止める事だ。この世が、低迷したサル的な低次元な世界のままなのは、ユダヤの自己保身の責任が大きい。」

(biglobe『choufu時局』より)

ということは....、

△NIMRODのヤツらは、何百年も前から....、

各国の政府に、あるいは産業界に、主要ポストに自分たちの血統を引く人間を配置していくという方法で、それぞれの国を乗っ取り続け....、

第2次世界大戦の混乱に乗じて....、

ヤツらが願っていたユダヤ人国家、シオニストたちの求めていたイスラエル国の建国をついに果たしたのでした....。

ところが、これが今日まで続くアラブ諸国の紛争の元となってしまったのです...!!

近年に於ける中東戦争の火種は、パレスチナにイスラエルを建国したことによってもたらしたと云われています....。

それまでパレスチナでは、イスラム教徒とキリスト教徒とユダヤ教徒が仲良く暮らしていたのだとか....、

そんなある日....、

アラブ人が住んでいたところに、突如ユダヤ人(アシュケナジーム)がやって来て「ここは元々我々の祖先の住んでいた土地だ」と入植していったのです...!!

もしあなたの家に、アイヌ人が現れて「ここは我々の先祖が2,000年前に住んでいた所だ」と言って奪い取られたらどうしますか...!?

ヨーロッパを離れたユダヤ人たちは、パレスチナ人を追い出してイスラエルを建国し、自分の領土を広げていったのです...!!

実はイスラエル国は正式にトルコから買ったものなのですが、その領土の線引きが曖昧だったと云われており....、

一説では、米国がインディアンを追い詰めていってその領土を広げていったのと似たような強引さが懸念されたのです...。

国連もパレスチナ人にも配慮を図ったものの、彼らも納得がいかないので何年も揉めているのです...。

イランのアフマディネジャード大統領は、「ユダヤ人の国を、何故ヨーロッパに創らなかったのだ」という旨のことを云ったのだとか....、

ごもつともです...。

さて、そのイスラエル誕生にロスチャイルドがどう関わっていたかを、その経緯を丹念に調べた方がおりましたので載せておきます...。

【「ロスチャイルド家」抜きにはありえなかったイスラエル建国】

■イスラエル建国の父にして大慈善家・大資本家として知られる、モーゼス・モンテフィオーレ。

彼はヨーロッパの金融王ネイサン・ロスチャイルドの義兄弟であった。

そしてもうひとりのイスラエル建国の父は、ずばりフランス・ロスチャイルド家のエドモンド・ロスチャイルドであった。

彼らは、東欧系ユダヤ人(アシュケナジーム)をパレスチナに入植させるために資金を提供して力を尽くし、イスラエル建国の種をまいたのである。

■一般に“近代シオニズムの父”は、ユダヤ人ジャーナリスト、テオドール・ヘルツルだとされる。彼は1894年にフランスで起きた「ドレフュス事件」で、反ユダヤ感情が燃え上がるのを目の当たりにした。

ユダヤ人の危機を感じた彼は、1896年、今日では有名になったパンフレット『ユダヤ人国家』を出版する。

しかし、この『ユダヤ人国家』の表紙に最初に記した言葉が、「ロスチャイルド家の人々へ」だったことは、ほとんど知られていない。

フランスのドレフュス事件から間もなく、彼は日記に次のように建国案を記している。

「ベネチアの建国史をモデルにすることになるだろうが、ベネチアの失敗からも学ばなければならない。

ロスチャイルド家が我々と手を組んでくれるなら、初代の『ドージェ』はロスチャイルドとしよう。」

■ここにヘルツルが記したのは、7世紀末に独立したベネチア共和国水の都ベニスのもので、やがて大々的な植民地主義を推し進め、武力的商法でアドリア海を制圧した国家である。

ヘルツルはその武力征服を理想像として思い描いている。

このベネチアが19世紀後半に没落し、今日のイタリアに併合されてしまった歴史に、彼は学ぼうとした。

そして、この国で「ドージェ」と呼ばれたのが大統領の地位であり、ヘルツルはユダヤ国家の初代大統領にロスチャイルドが就くことを夢想していたのである。

■ユダヤ国家建国を熱望していたテオドール・ヘルツルは、何回も何回もロンドンのロスチャイ

ルド家に書簡をしたため、会見の申し込みを行なった。

「貴方がすべての調和の要石なのです。  
もし貴方が拒絶されれば、私がつくり上げてきたすべてのものが壊されてしまいます。  
貴方が参加しないなら、私は異なった方法を取らねばならないのです。  
私は貴方にこのすべての運動の指導をお願いしたい。  
貴方が引き受けてくださるのであれば、私は喜んで指導者の座を下ります。」

このヘルツルの要請に対し、ロスチャイルド一族は、最初は無関心だったと表向き伝えられている。

しかし実際には、ロスチャイルドは、石油などの利権支配のために中東での足場を築くかたわら、誰よりも深くシオニズムに関わっていたのである。

(ちなみに、ドレフュス事件で逮捕されたユダヤ人アルフレッド・ドレフュス大尉は、ロスチャイルドの血族であった)

■ロスチャイルド家のイスラエル建国への働きかけ(パレスチナの利権獲得)は、第一次世界大戦終結と同時に急速に高まる。

ロスチャイルドを含む数人の有力なユダヤ人は、第一次世界大戦終結の際、敗戦国ドイツに課せられた条約の文言を任せられた。

条約により、ロスチャイルド家はドイツが所有していたパレスチナ(トルコの領土)の「鉄道権」を得た。

また、ロンドンのロスチャイルド家は、トルコ共和国に貸し付けを行っており、その額は1億ポンドに迫るものだった。

第一次世界大戦後、敗戦国側だったためにトルコ政府が崩壊すると、ロスチャイルド家はそのトルコに対する貸し付けの未払いを理由に、パレスチナに対する権利を要求した。

このようにしてロスチャイルド家は、パレスチナに関する方針を押し通す確実な手段を得る道を開いたのである。

■また、ロンドンのロスチャイルド家はイギリス政府内の代理人を通して、イスラエル建国へとつながる階段を強固に築いた。

第一次世界大戦後、イギリスはパレスチナに対する「委任統治権」を与えられたが、政府は口



スチャイルド家の命ずるところに従った。

1917年11月2日、イギリス外相バルフォアは、ロンドン・ロスチャイルド家のライオネル・ロスチャイルド宛に、「イギリス政府はパレスチナでのユダヤ人の国家建設を支持し、努力する」事を確約した書簡(手紙)を出したが、これが有名な「バルフォア宣言」である。

■この「バルフォア宣言」は書簡形式をとっているが、この叩き台をつくったのはシオニズム運動の世界的指導者ハイム・ワイツマンとライオネル・ロスチャイルド自身で、彼らは既に1917年7月18日の時点で宣言の「草案」をバルフォアに手渡していたのである。

(ちなみに、この段階で入植地に提供された資金は170万ポンドに達していたが、そのうちの160万ポンドはライオネル・ロスチャイルド自身のポケットマネーであった)

■パレスチナへのユダヤ人の入植活動は、ハイム・ワイツマンの指揮下で行なわれた。

パレスチナのユダヤ人入植地は、1900年には22であったが、1918年には47まで増えた。

1909年には「キブツ」と呼ばれるユダヤ人の集団農場が作り始められ、ユダヤ人の町「テルアビブ」ができた。

■このパレスチナへの入植活動には、当然、多くの資金が必要とされた。

しかし、それは心配する必要がなかった。

なぜなら、パレスチナで活動していたユダヤ人たちに、「匿名の寄贈者」というサインの付いた「小切手」が送られていたからだ。

この膨大な資金によって、続々とユダヤ人たちがパレスチナに入植し、その金によって住宅、学校、農業地を購入することができたのである。

またその資金援助によって、その地で採れるあらゆる農作物が当時の世界市場よりも高く買われ、全収穫物が毎年買い付けられるということが行なわれた。

後にこの「匿名の寄贈者」の正体は、フランス・ロスチャイルド家のエドモンド・ロスチャイルドであったことが公にされた。

(フランスとロンドンの両ロスチャイルド家は、1878年以来、パレスチナの土地を買収し続けてきたのだ)

■その後、イスラエル建国運動は、ナチスの台頭によって急速に進展し、

第二次世界大戦後の1948年5月14日、正式にイスラエル共和国が成立する。

■初代イスラエル首相にはベングリオンが就いたが、彼は、次のように語ってロスチャイルド家を称えた

「ロスチャイルド家がどのユダヤ人よりも、おそらく全世界のユダヤ人の総数を合わせたよりも、多くの費用をユダヤ人開拓地のために提供した。」

■ロスチャイルド自身は、初代イスラエル大統領ワイツマンにこう語っている。

「私がいなかったらシオニズムは成功しなかっただろうが、シオニズムがなかったら私の仕事も台無しになっていただろう。」

■このように、パレスチナにユダヤ人国家を建設するのに、最も多額の金を注ぎこんだのがロスチャイルド家であった。

パレスチナでのユダヤ人の入植活動は、ロスチャイルド家の資金援助によって実施された。これは厳然たる歴史的事実である。

そしてまた、ロスチャイルド家のシオニズム支持は、中東における「利権」獲得と裏腹になっていたことも歴史的事実である。

一時期、パレスチナでサッスン家(ロスチャイルド家の代理人として特に中国などアジアで活動)が暗躍したが、この間の事情を物語っている。

■ちなみに、現在、イスラエル共和国の首都テルアビブには、ロスチャイルドの功績を称えて作られた「ロスチャイルド通り」が存在する。

(エドモンド・ロスチャイルドは、イスラエルの切手やお札の顔にもなったことがある)

(『私達は家畜ではない!』より)

## 【速報】寄生虫アメリカ「輸出大国日本の終わり」ブチ切れる日本人!アメリカ人は全世界に謝罪をすべきだ

---

◆ウォール・ストリート・ジャーナル紙(2012/1/25)に出た「輸出大国日本の終わり」の記事が世間を賑わせています。

日本政府は1980年以来初めてとなる貿易赤字(通年ベース)を発表すると予想されている。仮に円高が続き、世界経済も弱いままであれば、日本は向こう数年間、貿易赤字を抱えることになる。エコノミストらは警告している。

この驚くべき変化は、工場を破損させ、サプライチェーンを寸断し、この国の原子力発電所の多くを待機状態にした、昨年3月の地震と津波によって一部もたらされた。しかし、輸出大国日本が年金生活者の国へとゆっくり変化していくなかで、企業の競争力低下のような、長年にわたり水面下で進行してきた傾向を、地震はただ速めただけのようだ。

日本の国内製造業の沈滞は貿易統計に反映されている。2011年1月から11月までの貿易赤字は2兆3,000億円となった。2010年は通年で6兆6,000億円の黒字だった。アナリストらは11月までの赤字を相殺するほど大きな黒字が12月の統計に計上されるのは不可能だとしている。

日本の輸出攻勢を抑え込むための国際な取り組みの一環として、米国と欧州主要国および日本は1985年にプラザ合意を結んだ。これは、合意がなされたニューヨーク市内のプラザホテルから名づけられたものだが、主要通貨に対する円の価値を高め、世界市場で日本製品の価格競争力を抑えようとするものだった。この合意を受けて、1985年に1ドル239円だった円は、88年には1ドル128円にまで上昇した。

◆ウォール・ストリート・ジャーナル紙の記事の内容自体はデータを詳細に取り上げ、あくまで冷静に、中立の立場から書かれています。貿易赤字に転落することは既に周知の事実ではありますが、それだけインパクトが大きい出来事です。(日本は貿易依存度が低く、貿易立国というのは誤りという意見もありますが、赤字は赤字です。)

しかしながら、記事のタイトル「日本の輸出大国時代の終わり」には、底意地の悪さを感じずにはいられない。

「ジャップは終わった。  
財政危機で潰す準備がととのった」  
ということでしょうか。

大多数の日本人は依然として気づいていませんが、  
アメリカは今まさに日本を巻き添えにしようと画策しているはずで  
す。地震テロを起こし、原発を核攻撃し、軍用機で都内にウィルスをばらま  
いて、日本を散々いじめておきながら、最後にこれです。

記者に罪はありません。

しかし、アメリカの支配エリートが全員捕まり、OWOが失脚した後すべての罪が露わになった時  
、どういう言い訳をするだろうか？

◆支配エリートが世界中で行なってきた悪行、殺戮の数々は許されるものではない。  
アメリカ人は、そういった過去の罪を清算するために全国民で責任をかぶる必要があります。  
下らない大統領選でロムニーの「タリバンを皆殺しにしろ!」に熱狂している場合ではない。

今や、アメリカ人は世界中で嫌われていることを思い知らねばならない。  
アメリカ人は海外旅行ではカナダ人を装うようです。  
いかにアメリカが嫌われているかを理解しています。  
アメリカ人は被害者でありながら、加害者としての罪を背負わねばならないのです。

それに伴い、グーグルやツイッター、フェイスブック等のテクノロジーが、数々の世論誘導、洗  
脳工作、革命起爆に使われてきたことも知らねばならない。  
彼らが世界中で大成功を収めたのは、CIAの力あってこそであると知らねばならない。

マイクロソフトのビル・メリンダ財団は、世界平和のために存在しない。  
世界中の子供にワクチンという名のウィルス、不妊剤を投与し、有色人種の人口を削減するた  
めに存在していることを知らねばならない。

◆アメリカ国籍を標榜するならば、上記のことを全て受け入れねばならない。

アメリカ至上主義の日本人も同様。

シリコンバレーに憧れるハイテク産業の日本人も同様。

日本のメディアは

「アメリカ製品はすごい。日本製品は没落した」

という論調でニュースを書きがちです。

恥を知るべきです。最も、メディアの上層部は日本人ではない場合が多いようですが。

トヨタ、ソニー、三菱重工等優良大企業への執拗な攻撃。日本潰し。

政治家、官僚、経団連を恐喝と賄賂で手なづけ、日本人から効率よく富を奪う。

アメリカという国そのものがポンジ・スキームでできており、日本がいなければ即座に潰れる。

アメリカという寄生虫のせいで、今や日本もゾンビ国家に成り果ててしまったのです。

アメリカさえいなければ、日本は世界一の金持ち国家になり覇権を握るはずだったのです。

アメリカ人の記者は、日本がいなければ自分の職も危うくなることを認識すべきです。

安易に日本潰しの記事を書くと、世界からさらに冷たい目で見られることを理解すべきです。

アメリカ人にだけは、日本のネガティブなニュースを書かれたくない。

これが本音です。

◆日本人は、アメリカ人にもっと強気でぶつかっていくべきです。

アメリカ人を養っているという感覚を持つべきです。

アメリカ人の上に立つべきです。

フェイスブックで仲良しこよし、Androidでテザリングなどやっている場合ではない。

アメリカ支配エリートの失脚が確実視され、属国支配が終わろうとしている今、

「おいアメ公、誰のおかげで飯が食えると思ってる・暴行事件起こすならグアムに帰れ」

「お前たちの浪費のせいで日本まで破産寸前だ・この寄生虫野郎ども」

「iPhone 4Sは日本製のパーツがないと作れんよね・供給止めたるか」

実際そうするかはともかく、これ位は言ってもいいはずです。

あくまで交渉のカードとして。

口先ですらも強く出れないから、お人よし民族などと揶揄されてしまうのです。

◆もしも、東日本大震災が、  
アメリカ政府とイスラエルによって起こされた、  
地震テロ攻撃であることを、全国民が知ったら？

東北の被災者はどういう気持ちになるか？  
トモダチ作戦とは何だったのか？

◆一体全体、日米同盟においてアメリカが何をしてくれたのか？  
天皇の個人資産目当てに来日しただけではないのか？

その日は必ずやってきます。罪は償われなければならない。  
3万人の善良な、何の罪もない市民を虐殺した罪を償わなければならない。

世界中で行なってきた、数々の罪を償わなければならない。

◆それにつけても、ディビッド・ロックフェラーは、あまりにもえげつない。

米CIA要員を駆使して、日本を「これでもか、これでもか」とあらゆる脅しの手口を使って痛めつけている。

証拠を掴むのは難しいけれど、「人工地震」攻撃の噂が絶えない。

そして、日本政府に米国債を買わせ続けている。

それは買った途端にただの紙切れにされる運命になる。

これまで日本が引き受けた米国債約100兆円(非公式1,000兆円)を債務免除する文書に「サインしろ」と強圧的に迫り、そのうえ「記者会見して、全世界に向かって宣言しろ」とまで迫った。

◆アメリカの国民は、真実に目を向けるべきです。

本当に愛国心を持つならば、自分たちの名誉をここまで傷つけた支配エリートを許すべきではない。

ウォール街デモから発展したアメリカ市民の革命によって、ワシントンや金融マフィア悪勢力を追い出して、

「我々は世界中で罪を犯しすぎた。

これは全アメリカ国民の責任である」

「今後アメリカは侵略戦争をやめ、世界平和のために誰よりも尽くす国家となることを目指す」

「アメリカ国家存続のためにも、何十年かけてでも罪は償わねばならない」

という宣言を全世界に向けてすべきです。

世界中から許しを請うべきなのです。」

◆以上のようなプロセスを経ない限り、日米が対等に付き合っていくことは難しいかもしれない。

日本国民が一気に反米になり、戦争しろ、などと、周回遅れの発言が出る前に、どうにかしないとけない。

日本人は「日本は終わった」と書かれてただ絶望するようでは、先が思いやられます。

「なぜ日本は終わったのか」を考えなければ、いつまでも列強の食い物にされてしまうのです。



(『News U.S.』より)

## 威風堂々[28] 『△NIMRODは日本をどうしたいのか!?!』

---

～△NIMRODの街はいくつもの国に分かれ、イスラエルの言葉は神が世界を創造したときに使った神聖な言葉であるヘブライ語となった～

日本国の経済に寄生するアメリカ...!!

そのアメリカに寄生しているのが、ロックフェラー財閥を中心としたユダヤ金融マフィア...!!

そのロックフェラーは、元々はロスチャイルド財閥から送り込まれた、いわゆる番頭だったらしいのです...!?

結局、私たちの住むこの地球上の人間は総て...

同じ血統を持つ△NIMRODの、ほんの一握りの一族によって何世紀も牛耳られてきたらしいのです...!!

あなたは、今までご存じでしたか...!?

もしも、311東日本大震災が...

ヤツらが操るアメリカ政府とイスラエルによって起こされた、人工地震テロ攻撃であることを全国民が知ったらどうなるでしょう...!?

3万人の善良な、何の罪もない市民を虐殺した証拠がハッキリ出てきたらどうなるのでしょうか...!?

果たして東北の被災者は、どんな気持ちになるのでしょうか...!?

あの恩着せがましい、トモダチ作戦とは何だったのでしょうか...!?

まだ証拠にもなくCIAを使って、日本を「これでもか、これでもか」とあらゆる脅しの手口を使って痛めつけているらしいのです...!!

結局、戦後の私たち日本は、日米同盟という都合のいい関係を組まされて...

無理難題をあれこれと押しつけられては...

毎年毎年、クソの役にも立たない米国債を義理で大量に買わされて...

日本の大量の借金は、アメリカの米国債のせいなんですよ...!!

まるでカツアゲですよ...!!

アメリカは日本に何をしてくれたのでしょうか...!?

日本国の経済に寄生するアメリカ...!!

そのアメリカに寄生しているのが、ロックフェラー財閥を中心としたユダヤ金融マフィア...!!

結局、そいつらも△NIMRODの悪魔一族の末裔なんですよ...!!

311東日本大震災発生から1年近く経った今...

世界経済は大混乱に陥っていますが、これから私たちの日本はどうなるのでしょうか...!?

ヤツらからさらに嫌がらせを受け続けるのでしょうか...!?

誰が指図しているのでしょうか...!?

このまま黙って堪え忍ぶしかないのでしょうか...!?

その辺りを含めてリチャード・コシミズ氏が語る、彼の講演会を紙上再現しましたので、あなたも是非読んでみて下さい...!!

#### 【CFR(アメリカ外交問題評議会)について】

裏社会の中樞、ヤダヤ金融悪魔帝国の総本山は、  
『CFR(アメリカ外交問題評議会)』なんです。

CFRは影の政府なんです、世界政府なんです。  
これの大ボスが、ディビッド・ロックフェラーなんです。  
悪の根源は此処なんです、悪のデパートなんです。  
ヤダヤ金融悪魔帝国の総本山がCFRなんです。

CFRは現実にニューヨークに行けばあります、ビルが有るんです。  
ユダヤの悪魔たちが一杯巣を作って住んでるんです。  
名前は全部判ってるんです、CFRに全てのゴロツキが集まってるんです。

勿論ユダヤ人だけではないんです。  
CFRにはアングロサクソンの名士たちも沢山加わってるんです。  
それは何故かというと、名誉だから。  
CFRのメンバーになるのは大変なことなんです。  
それになるというだけで社会的な地位が保証されるんです。

でもそれは、アングロサクソンに権力があるという意味ではないんです。  
実際にこのCFRの中で世界を動かしているのは、

ほんの一握りの隠れユダヤ人なんです。

我々が目にする人間というのは、飽くまでも「演劇部員」にすぎないんです。

ユダヤ金融悪魔帝国・演劇部に属した人たちが、政治家として我々が目にする人間なんですが、彼らは実はメインプレイヤーではないんです。

飽くまでも演劇部ですから、

シナリオに基づいてお喋りになって、国民を騙すのがお仕事なんです。

G.W.ブッシュ、ヒラリー・クリントン、ビル・クリントン、黒いユダヤ人(オバマ)、大ブッシュ、レーガン…。

レーガンは本当に役者出身ですね。

皆さん役者さんなんです、役者さんに注目したって意味がない。

この連中に注目してはいけない、他に注目すべき相手がいる訳です。

ユダヤ金融悪魔帝国・支配中枢というのは、ホワイトハウスではない訳です。

CFRなんです。

『国防次官補』・『国務次官補』

CFRからホワイトハウスに送り込まれる人たちです。

この人たちが実質的な持政者なんです。

国防次官補・国務次官補は、大統領交代と関わりなく政権中枢に居座り続けるんです。

この人たちが実質的な「偽政者」なんです。

彼らこそが本当のメインプレイヤーなんです。

そして、彼らは国家のためではないんです。

ロックフェラーの手足として動くんです。

飽くまでもロックフェラーの「プライベート・アーミー」なんです。

あ、この顔を見たら要注意!

札付きの日米安保マフィアの面々、

カート・キャンベル、マイケル・グリーン、R.アーミテージ、ジョセフ・ナイ…。

4人名前を挙げましたが、

いわゆるロックフェラー・マフィアのトップに長く居座り続けているのは、

実はキッシンジャーなんです。

今でもすごく元気に日本とアメリカの間を行ったり来たりして、実際に動いています。

キッシンジャー(ドイツ系のユダヤ人)こそが、

ロックフェラー帝国を今まで支えてきたジャパン・ハンドラーズの草分けなんです。

【対日搾取争奪悪魔軍団?】

ユダヤ悪魔帝国存続のために起用された対日搾取争奪悪魔軍団、

マイケルグリーン、ジョセフ・ナイ、R.アーミテージらが中心になって、

日本からの搾取略奪戦略を司ってきたということ。

R.アーミテージは、キッシンジャー(元国務長官)の傀儡ですし、

悪魔の大親分はもちろん、ディビット・ロックフェラー大王です。

その攻撃の手口は、ここのところ彼らがやってきた対日攻略は、

◆311人工地震津波テロ・偽装核汚染で日本経済弱体化を偽装

本当に日本の経済を疲弊させるのではなくて、

弱体化したように見せる一時的に力を弱めるのが目的です。

◆「反原発」運動惹起で政情不安

これはどうやら失敗したみたいですね。

「反原発」運動が一時は盛り上がるかなと思ったら、  
ついさっき見たらテント村に6人ぐらい居ただけでした。  
だんだん萎んできてしまって、デモをやっても人が集まらない。  
日本人って熱しやすく冷め易いんですね。

#### ◆国土政治家(小沢・鈴木・亀井ら)の排除

小沢さん、鈴木さん、亀井さんあたりが権力を握ってしまうと、  
ヤツらは好き勝手なことが出来ないから、  
これを徹底的に排除するということをやってきたんですね。  
マイケル・グリーンやR.アーミテージあたりが、  
日本の官僚や裁判官を動かしている訳です。

#### ◆TPP参加強要

実質的には、日米FTA(フリー・トレード・アグリメント)です。  
日本から搾取する、日本の口をこじ開けて、無理矢理アメリカの物を買わせる、  
アメリカの金融商品を受け入れさせるというのが目的です。  
金融商品とは何かというと、  
まず日本の年金制度をブツ潰してアメリカの養老保険の様な物を買わせる、  
それから医療保健、今の健保制度を破壊して、  
アメリカの様に医療費が日本の2倍位掛かっている様な社会にしてしまおう。  
巨額な医療費を、いわゆる保険会社が吸収する、  
保険に加入させて、医療保険を負担させる。

日本がアメリカ並みになると、極めて大きなマーケットが発生する。  
それから、簡保とか郵貯といった我々の大きな大きな資産を吐き出させて、  
これをアメリカに持ち出ししようと。  
その為には、このTPPが都合がいいということで、日本に参加をさせようとした。

野田首相が参加しますと言った後、キッシンジャーが急いで来てなんて言ったかという、  
「困難な中、素晴らしい決断をした」と誉めに来たんです。  
つまり、キッシンジャーがTPPをやらせた。

つまり、その背後のユダヤ権力が、日本から略奪するためにTPPを野田に命令して、野田はロックフェラー大王様のおっしゃるとうりにやった。  
つまり、彼の中には日本の為にとかいう事は一切無いんです。  
命令系統の上から言われた通りに物事を運ぶだけなんです、あの男は。  
全く我々日本人の利益を考えてないんです。

#### ◆消費税増税で税収減・景気減速

実際、いま消費税を増税させる意味なんてどこにもないんです。  
何のために消費税上げるのか。  
日本を悪くするために、ワザと消費税を上げようとしているんです。  
どう悪くなるのか、当たり前でしょうね。  
政府が消費税を10%上げると言ったら、  
IMFがそれじゃ足りない、15~17%にしろと言いだした。  
これはどういう事かと言うと、IMFの背後にいるアメリカがそう言ってるという事。

例えば、消費税が17%に上がったとしたらどうしますか。  
皆さんどうしますか、もう、物を買わないでしょ、欲しい物を買うの止めるでしょ。  
その結果どうなるか、市場が縮小するんですよ。  
マーケットが縮小して日本経済は弱体化するんです、内需が無くなるんです。

その結果として、消費税を上げれば税収が減るんです。  
当たり前でしょ、企業の業績は落ちますから。  
物が売れなければ企業の業績は落ちる、企業の業績が落ちれば法人税は払われない。  
結果として税収が足りなくなる。  
つまり、消費税増税というのは、ワザと税収を減らす為にやるんです。

目的はどこにあるか。  
日本の経済を悪くするためです。  
何で悪くしたいのか。

考えてみて下さい、  
今ヨーロッパの経済はボロボロです、アメリカは破産したも同然です。  
そうすると、日本も破綻して貰わないと困るんです。  
日本だけある程度健全な状態で残ってしまうと困るんです。



日本も、お付き合いでダメになってくれないと困る。

その為に、消費税を上げようとしてるんです。

それを野田は、尻に何を突っ込まれたか知らないが、  
一生懸命やろうとしてるんです。

これが許せるか、本当に許せない。

この男たちは日本のために働いてない。

自分たちの雇い主にシッポを振って、自分たちの利益しか考えてない。

まさしく、マイノリティ発想です。

つまり日本に何の関わりのない人たち、日本に対してわだかまりを持って人たち、  
不利益を起こすことに喜びを感じる人たちがいる訳ですが、

そんな人たちが何故か、日本の支配中枢に座っているというのが現状なんです。

これは本当に許せない。

#### ◆国債乱発で政府発行紙幣容認(戦費調達)

#### ◆極東戦争に誘導

時間が解決します。

連中がいくら汚い手口を使って誤魔化そうとしても、もういつまでも長続きはしない。

世の中の人が、ドンドン目を覚まして覚醒してしまえば、

この手口は、もう使えません。

もうその瀬戸際まで来てますから、じっと待ってましょう。

困ったって打つ手が無かったら、とにかく待つしかない。

待っていたら、世の中が自然に変わって行って結果として上手くいく。

菅直人って男もツマンない男でしたね。

何でこんな男が総理大臣やっちゃったんですかね。

「反原発」に衣替えして知らんぷりしてますけどね、

この男も一生かかっても返せないような借りを日本人たちに残しましたね。

菅元総理がやったことは311人工地震津波テロの、ほう助です。

311人工地震津波テロで海底核爆発手口を使ったら、海水の放射能汚染が発生。

今後、広範囲の汚染の説明が付かなくなるので福島原発事故をレベル7に偽装。

3号機から漏れたんだと思い込んで欲しかったでしょう。

ロックフェラーからすれば、311テロは大失敗。

(2012/1/31 『リチャード・コシミズ講演会』より)

【資料】『命より大切だと思ってきたお金なんて、銀行家という詐欺師集団の作り出した紙切れでした①』

---

## ■無から生み出されるお金■

紙幣を発行しているのは日本銀行だけですが、他の銀行も「信用創造」という形でお金をつくりだしています。{※1}

たとえば私たちが銀行にお金を預けた場合、これは私たちにとって「資産」となりますが、銀行にとってはいつか返さなければならないお金ですから「負債」となります。

でも、この預金を銀行は金庫にしまっておくわけではありません。

預金者は必ずしも全額おろしにはきませんから、いくらかの支払い準備金をとっておいて、残りのお金を他人に貸し出します。

そのとき借り手は現金で借入れをするわけではありません。

その銀行に口座がつくられるわけです。

その口座も一度に全額おろされるわけではありませんから、決まった支払い準備金を残して貸し出されます。

この貸し出した金額は、銀行にとって「資産」となります。

例をあげてみましょう。

もし、1,000人から10万円ずつ預金があれば1億円になります。

預金者はすぐに全額を引き出すことはしませんから、

10%(1千万円)の支払い準備金を残して差額の9千万円をA社に貸し出します。

この9千万は銀行の「資産」ということになります。

この9千万円を元手に、また支払い準備金として10%(900万円)残し8,100万円をB社に貸し出します。

正確に言えばB社の預金口座に8,100万円が振り込まれ、数字上だけ8,100万円の新たな預金が発生します。

銀行は、ただ単にB社の口座に8,100万円と印字すればいいだけです。  
(この預金を派生預金といいます)

実際に紙幣という形で、お金が増えるわけではありません。  
この手順で貸付けを繰り返していくと1億円の預金から9億円のお金を生み出すことができます。

これは銀行のみに与えられた特権で「信用創造」といいます。

こうして銀行は右から左にお金を動かすだけで次々にお金を生み出すことができます。

そして、このとき貸し出されたお金は、みな「利子」という使用料のかかるお金なのです。

{※1}民間銀行による信用創造の大きさは中央銀行のハイパワードマネー(現金通貨<日銀券+補助貨幣>と、民間金融機関の法定準備預金=日銀当座預金の合計)の供給量によって制約されています。

## ■利子の問題点■

貨幣改革論者たちの間では「利子」という存在が、現在の貨幣システムにおける最大の問題点だとされています。

利子によって豊かな者はより豊かに、貧しい者はより生活が苦しくなってしまいます。

ところで皆さんは、利子は誰が払うものだと思っていますか？

直接的にはお金を借りた人、つまり債務者です。

しかし、実際には間接的に私たち誰もが負担しているのです。

事業を起こすには資本金が必要です。

資本金は事業者が自分で貯めたり株を発行して調達したりしていますが、実際に事業を運営するには自己資本金だけでは足りず、ほとんどの企業が金融機関からお金を借りています。

お金を借りれば当然利子がつきます。

この利子の分も経費として価格に含まれています。

利子の計算には単利と複利{※2}がありますが、複利の場合、その効果は破滅的なものです。

#### [表]単利と複利の差

元金を100万円、金利を年5%とした場合

○単利の場合 ○複利の場合

1年経過	105万円	105万円
3年経過	115万円	115万円
5年経過	125万円	127万円
10年経過	150万円	162万円
30年経過	250万円	432万円
50年経過	350万円	1,146万円
70年経過	450万円	3,042万円
100年経過	600万円	1億3,150万円

たとえば1千万円を年利5%の複利で借りたなら、15年後には倍の2,000万円を返済することになります。

そして、これは返済期間が長くなれば長くなるほど雪だるま式に膨らんでいきます。

複利5%で1千万円借りて50年返済だとしたら総額1億1,467万3,910円も返さなければなりません。

実に利子だけで1億円を超えてしまいます。

現在、日本の貯蓄は世界最高で約1,400兆円にもなります。

この預貯金にも利子がつきます。この利子はどこからくるのでしょうか？

決して無から生まれるわけではありません。

預金も貯金も企業や公的な機関に貸し出され、料金の一部として組み込まれ、結局、私たち皆が負担しているのです。

日本の一般的な製品の流通過程は、  
原料生産者→加工業者→問屋→小売店となっています。

また、その間に流通業者も挟まれています。

そのそれぞれが金融機関からお金を借りていて、それぞれの利子が価格に組み込まれています。

ドイツでおこなわれた調査では、平均して価格の20%~40%は、利子ないし資本部分でした。

これは私たちの住宅ローンに置き換えると、その金利負担がどれだけ大きいかわかりやすいと思います。

住宅購入資金の3,000万円を、現在の低金利の年利1.7%として35年ローンを組んだ場合、35年間の総支払額は3,982万5,513円となります。

約1,000万円、33%もの利子を払うことになります。

平成13年度の東京都交通局の決算をみれば、収入は1,724億円で、出費は2,080億円、356億円の赤字でした。

このときの利払い費は399億円。収入に対して23%の負担です。

もし利払い費がなければ黒字決算です。

平成15年度の日本道路公団の決算をみると、収支額が1兆8,571億円、そのうち利払い費は4,295億円で23%を占めました。

住宅ローンや公的事業は優遇され低金利で融資が受けられますが、一般企業はそうはいきません。

いったいどれだけの巨額なお金が自動的に金融機関に流れ込んでいるのでしょうか。

そして、そのお金のもとを正せば、私たち皆が労働して稼いだお金なのです。

{※2}複利 複利というのは利子に利子がつくもので長期的な貸付などで採用されるものが多いものです。

## ■紙幣の起源■

かつて、おカネは金・銀・銅などの金属でした。

おカネの量は、どれだけ金(銀・銅)が発見されるかにかかっていました。

そして、交換価値の尺度となる、重量や純度が一定の鑄貨(コイン)は、権威と信用のある国王(政府)が造る権利を持っていました。

貨幣発行権とは、つまり「誰にどれだけおカネを分配するか」を決める権利です。

自分がそれを決められる権利を持った時のことを想像してみてください。

どれだけ大きな権力を持つことができるか、想像できるでしょう。

人々は取引の時に、その対価に相当する鑄貨を支払っていました。

なかでも、最も価値の高いおカネは金貨でした。

当時のお金持ちは、金貨を空き巣や強盗から守るために、立派な金庫を持つ金細工師や両替商に

、そのおカネを預けていました。

仮に、この金庫を持つ金細工師をGさんとします。

Gさんは、金貨と引き換えに預り証を渡し、保管のための手数料をもらっていました。

金貨を預けていたお金持ちのAさんは、何かを購入するときにGさんに預り証を渡し、引き出した金貨で支払いをします。

その代金を受け取ったBさんも、空き巣や強盗に入られると困るので、やはり金庫を持つGさんに金貨を預け、預り証を受け取ります。

それならば、わざわざAさんはGさんから金貨を引き出さなくても、直接Bさんに預り証を渡せば、結果的には同じ事になります。

次第に人々は金貨を使って取引するより、預り証を使って決済する方が便利で安全であることに気づき、その預り証が通貨(紙幣)の役割を持つことになります。

(安部芳裕氏のサイト『Anti-Rothschild Alliance』より)



【資料】『命より大切だと思ってきたお金なんて、銀行家という詐欺師集団の作り出した紙切れでした②』

---

## ■銀行業の秘密■

こうして人々が紙幣で取引し始めると、Gさんの金庫の中にある金貨は眠ったままになります。「もし預金者全員が一度に金貨を引き出しに来なければ、この金貨を担保に紙幣を発行してもよいのではないか」そう考えた狡賢いGさんは、お金に困っている人に紙幣を貸出し、その貸出し料として利子を受け取るというビジネスを始めたのです。

こうして近代式の銀行業が始まりました。この時から、おカネは銀行から融資を受けた時に創られる(=信用創造)ようになったのです。

よく考えてみれば、預かっている金貨はGさんのおカネではありませんし、勝手にそれを元手として貸し出しているのですから、これは横領であり、詐欺的行為です。

しかし、その方法は秘密裏にされていたために批難されることはありませんでした。

ただ、ごくたまに困ったことが起きました。

何らかの理由で顧客が多額の預り証を持ち込んできて、預けていた大量の金貨の返却を求めるときです。

実際ある金貨以上の紙幣を発行しているわけですから、顧客の求めに応じられません。

そういう時には、同業者が秘密の連携プレーで協力し、金貨を融通し合いました。

銀行家たちの手から一時的に離れた金貨も、結局は廻り回って銀行家たちに帰ってくるのですから心配ありません。

このような大掛かりな詐欺的行為がバレないためにも、銀行業者の秘密性はさらに高まりました。

## ■国家を奴隷に■

かくして銀行家カルテルは物質的な金に囚われることなく自らおカネを創り出し、それを誰にど

れだけ分配するか決める権限を持ったのです。

このようにおカネの主流が、銀行が発券する紙幣に変わっていくと、これまでのように国家がお金をコントロールすることができなくなりました。

ヨーロッパの君主たちは、お人好しにも、銀行家は大量の金を持っているのだと信じたのです。そして、国家がおカネを必要とし、しかし税金をもう上げられないとなると、銀行家から借りるしかないとなりました。

「借りる者は貸す人の奴隷となる」(旧約聖書)

こうして次々と“国家に対して貸付ける”ことによって、ロスチャイルド家は絶大な影響力を手に入れるようになったのです。

1815年、ロスチャイルド家はイングランド銀行を支配下に置き、英国の通貨発行権と管理権を手中に収めました。

1913年には米国に連邦準備制度(FRB)を設立し、米国の通貨発行権と管理権を手中に収めています。

21世紀初頭、ロスチャイルド家が中央銀行の所有権を持っていない国は、全世界でアフガニスタン、イラク、イラン、北朝鮮、スーダン、キューバ、リビアの7カ国だけでした。

その後、アフガニスタンそしてイラクに対する米国の侵攻により、現在では残り僅か5カ国のみになっています。

## ■基軸通貨特権とは■

それを説明する前にシニョリッジについて説明しておきましょう。

シニョリッジとは、通貨発行益といわれ、通貨発行者だけが独占的に得ることができる利益です。

昔、お金が鑄貨(コイン)だった頃、貨幣を悪鑄すると、その浮いた分だけ実物的利益を得ることが

できました。

たとえば、金10g = 1,000円の時、金10gを使って2,000円金貨を鋳造すれば、貨幣発行者は1,000円の差額を利益として得ることができます。

ローマ時代、軍事費と宮廷費を賄うため、貨幣の金含有量を減らす“悪貨鋳造”は続き、貨幣により国民の富は搾取され続けました。

中世ヨーロッパや日本の奈良時代・江戸時代にも同様のことがおこなわれています。

当時のおカネは金属で、原則的には、その金属の価値がおカネの価値でした。

ところが、これが現在のような金との兌換性のない紙幣だと、おカネをつくるのにかかる費用は印刷代と紙代だけ。

ほぼ、まるまる差益となります。

今、これを世界的に見れば、シニョリッジによる利益は、基軸通貨であるドルを発行するアメリカが得ていることとなります。

アメリカは、貿易で購入した製品に対し、米ドルを刷って渡すだけで、他国から好きなものを手に入れることができます。

他国のように汗水流し、苦勞して輸出先を開拓し、商品やサービスを販売して稼ぐ必要はありません。

貿易相手国は、基軸通貨のドルなら、アメリカ以外の他の国からも米ドルで商品を買えるという点に“ドルの価値”を認めています。

特に現代文明の源である“石油”を購入できるというのが、もっとも大きな信用となっています。

勿論、その他にも、圧倒的な軍事力や国際政治力もこれを支えています。結局、ドルの価値は米国以外の国々が米国を信用することによって成り立っています。

では、このドルとは、いったいどんなお金なのでしょう？

(安部芳裕氏のサイト『Anti-Rothschild Alliance』より)

【資料】『命より大切だと思ってきたお金なんて、銀行家という詐欺師集団の作り出した紙切れでした③』

---

## ■FRBの正体■

ドルを発行しているのは、アメリカの中央銀行である米国連邦準備制度理事会(FRB)です。連邦準備制度理事会の理事は合衆国大統領によって任命されますが、理事会の実際の業務の管理は、理事と協議しつつ連邦諮問評議会が行います。

連邦諮問評議会は、1914年に開かれた連邦準備制の組織委員会で選定された12の特権的都市の“金融地区”連邦準備銀行の役員によって選出されますが、連邦準備法に基づき一般には公表されていません。

全米12の地区連邦準備銀行は、金利を設定し、公開市場操作を指揮することによって米国通貨の日々の供給と価格をコントロールすることができます。

この12ある地区連邦準備銀行の中で、最大の銀行が“ニューヨーク連邦準備銀行”です。アメリカの金融政策である金利や通貨の数量と価値、および債権の販売は、実質的にはニューヨーク連邦準備銀行が決定しています。

1914年当初、ニューヨーク連邦準備銀行は20万3,053株を発行し、ナショナル・シティ・バンクが最大の株数3万株を取得。

ファースト・ナショナル・バンクが1万5,000株を取得。

チェース・ナショナル・バンクが6,000株、マリーン・ナショナル・バンク・オブ・バッファローが6,000株、ナショナル・バンク・オブ・コマースが2万1,000株をそれぞれ取得しています。

さて、ニューヨーク連邦準備銀行の株を所有するこれらの銀行の株主は一

ロスチャイルド銀行・ロンドン

ロスチャイルド銀行・ベルリン

ラザール・フレール・パリ

イスラエル・モーゼス・シフ銀行・イタリア

ウォーバーグ銀行・アムステルダム

ウォーバーグ銀行・ハンブルク

リーマン・ブラザーズ・ニューヨーク

クーン・ローブ銀行・ニューヨーク  
ゴールドマン・サックス・ニューヨーク  
チェース・マンハッタン銀行・ニューヨーク  
となっています。

つまり、ニューヨーク連邦準備銀行は、欧米の銀行が株の100%を保有していて、米国政府は1株も保有していません。

上記の中でチェース・マンハッタン銀行が米国のロックフェラー系ですが、他はすべてがロスチャイルド系の金融機関です。

要するに、実質的にロスチャイルド一族が米国の中央銀行を支配しているということになります。

ちなみに、現在のニューヨーク連邦準備銀行は、J・P・モルガン・チェースとシティ・バンクの二行だけで53%近くの株を所有しています。

つまり、ロスチャイルド・モルガン・ロックフェラーという世界最強の財閥連合が相も変わらずFRBを支配しているということになります。

## ■無から創造されるおカネ■

日本語で紙幣と手形は違う言葉で表現されますが、英語では紙幣も手形「notes」「bill」「draft」です。

つまり、ドルというお金の正体は、米国政府が発行する国債を担保に、ニューヨーク連邦準備銀行が政府に貸し付けた手形＝債権証書なのです。

たとえば、米国政府が1億ドル必要だとしましょう。

そうすると連邦準備銀行は、米国財務省から1億ドル分の国債を購入し、政府の口座に1億ドルを振り込みます。

この政府に振り込まれた1億ドルは、誰かの口座から借りてきて振り込んだおカネではありません。

連邦準備銀行が何か実物的な資産を提供しているわけでもありません。

ただ、米国政府の口座に1億ドルと記入するだけです。

連邦準備銀行は口座に数字を記入するという行為だけで“無”から1億ドルを創造するのです。

そして、政府は1億ドルを受け取り、公共事業等の出費として米国社会に1億ドルが流れていきます。

さて、政府は時が来たら返済時に利子をつけて返さなければなりません。

仮に利子をつけて1億500万ドルを返済するとしましょう。

米国政府は国民から税金を集め、1億500万ドルを返済しなければなりません。

しかし、世の中に出回っているおカネは1億ドル。

500万ドル足りません。

政府が1億500万ドル返済するには、新しく国債を発行し、世の中に流し、回収するしかありません。

ここに、政府の借金が規則的なリズムで大きくなっていく理由があります。

銀行は“無”からおカネを生み出し、国民はそれに対して利息を支払う義務を負う。

また、政府は財政赤字を積み上げていく。

そして、このマジックのようなおカネを使って世界中からアメリカに実質的な富が流れ込んでいく。

その利益が最終的にはロスチャイルド一族をはじめとする国際金融資本家の懐に収まる、という仕組みになっています。

つまり、銀行とは合法的な搾取システムなのです。

(ここまで、安部芳裕氏のサイト『Anti-Rothschild Alliance』より)

## ■金融の元祖ユダヤ人■

シェークスピアの「ベニスの商人」に出てくる悪役のユダヤ人シャイロックに象徴されるように

、中世ヨーロッパでは多くのユダヤ人が高利貸しを生業としていた。

他人に貸した金から利子をとることはキリスト教が禁止していたため、それに手を染めるユダヤ人は欲深い罪人というイメージを持たれていた。

実はユダヤ教においても、利子の徴収は原則として禁じられていた。

むしろ、一神教の元祖であるユダヤ教が利子を禁じたから、そこから派生したキリスト教やイスラム教もまた、利子を禁止したというのが、歴史の順番であろう。

とはいえ、キリスト教などは利子の徴収を完全に禁じたのに対し、ユダヤ教は例外として異教徒(外国人)から利子をとることは許していた。

そのため11世紀に、バチカンのキリスト教会がユダヤ人をほとんどの職業から追放した後、ユダヤ人にとって数少ない収入源として残ったのが、高利貸し(質屋)や金塊の保管人、両替商(貿易決済業)など、利子を取り扱うことが多い金融業であった。

教会という中世ヨーロッパの支配者が、ユダヤ人をそのような立場に追い込んだ理由は、社会の共通の敵を設定することで、自らの権力を安定させるためだったと思われる。

だがその後、ヨーロッパでは貿易の活発化や産業革命を経て、経済の中心が農業から工業に移った。国家の主目的は、大資本をかけて大きな工場を作り、製品を大量生産することで巨額の利益を出せる体制を作ることになった。

このような近代化が進展した背景には、政治と宗教を分離した宗教改革があった。

中世には、キリスト教会が政治権力や司法権をも握っていたが、プロテスタント運動など宗教改革によって、政治権力や司法権は「国家」を握る国王に移り、その後フランス革命などを経て、国民が力を持つようになった。

ヨーロッパの政教分離は同時に、経済の前提も変えることになった。

教会は人々の経済活動に口出しできなくなり、「利子」をとることが悪事ではなくなったのである。

ところが、それまで利子が罪悪だっただけに、利子を受け渡ししながら巨額の資金を集め、資本として使うという近代経済の技能は、ほとんどの人々にとって未知のものだった。

その技術を持っていたのは、ほかでもないユダヤ人だけであった。

(とはいえ、すべてのユダヤ人が金融業者だったわけではない。

中世から近代にかけて、ユダヤ人は東欧に多かったが、彼らのほとんどは職人か行商人、もしくは貧しい農民だった)

(2001年 田中 宇著『金融の元祖ユダヤ人』より)



【資料】『命より大切だと思ってきたお金なんて、銀行家という詐欺師集団の作り出した紙切れでした④』

---

## ■弾圧から生まれた金融技術■

中世には、弾圧を受けたユダヤ人の移住が何回も起きた。

11世紀には、十字軍やイスラム帝国分裂の影響で弾圧された中東のユダヤ人が、ベネチア(ベニス)などに移住した。

15世紀には、スペインでキリスト教王国がイスラム王国を倒したことにともなってイスラム王国に協力したユダヤ人への弾圧が強まり、ユダヤ人は全員がキリスト教徒に改宗するか追放されるかの選択を迫られ、多くが北アフリカやトルコ、ベネチアなど地中海沿岸の商業都市に移住した。

このような移住は、たとえば以前にスペインの金融業界に属していたユダヤ人金融家が、トルコやベネチアに信頼できる同業者がいるという状況を生んだ。

彼らはこの離散状態を生かし、遠い町との貿易決済業にたずさわるようになり、為替技術を発達させた。

さらに彼らは、貿易商人から毎月いくらかの積立金を徴収し、船が海賊や遭難の被害にあったときの損失を肩代わりするという保険業や、事業のリスクを多人数で分散する株式や債券の考え方を生み出した。

一方、中世にはユダヤ人だと分かっただけで財産を没収されることがあったので、ユダヤ人にとって自らの名前を書かねばならない記名型の証券は安全ではなかった。

そのためユダヤ人の金融業者たちは、無記名の証券(銀行券)を発行・流通させる銀行をヨーロッパ各地で運営していた。

この技術は、やがてヨーロッパ諸国が中央銀行を作り、紙幣を発行する際に応用された。

こうしてみると、銀行、為替、保険、証券、債券といった現在の金融業態のすべてに、ユダヤ人は古くからかわり、金融システムの構築に貢献したことになる。

中央銀行や株式市場ができて、ユダヤ人金融業界内部にあった金融システムを国家が肩代わりしてくれることは、地位が不安定なユダヤ人にとっては資産の安全性を確保できる望ましいことだった。

彼らはシステムを囲い込むことをせず、積極的なノウハウの提供を行ったが、それは自分たちのルールを世界に通用させることにつながった。

はるか後の現在まで、ユダヤ人の銀行や証券会社が金融市場を牛耳ったり、中央銀行の決定に影響

響を与えたりできるのは、この「創業者利得」から考えて、歴史的必然であるともいえる。シャイロックに象徴されるベニスの商人とその同僚たちがいなかったら、現在のような金融ビジネスは生まれなかつたらう。

## ■大英帝国とロスチャイルド家■

産業振興や、市場獲得のための侵略戦争など、国家の運営に必要な資金を最も上手に調達できるユダヤ人は、ヨーロッパの各国の王室にとって、なくてはならない存在となった。各国政府の中枢に食い込むことは、差別されやすいユダヤ人にとっては安全確保の手段でもあった。

ヨーロッパ各国政府のなかで、最もユダヤ人に寛容なのはイギリスであった。イギリスは政教分離や国家の近代化、産業革命が大陸諸国よりも早く、ユダヤ人を重用することの利益が明確だったからだろう。

各地に分散するコミュニティをつないで、貿易や為替、金融の取引をしていたユダヤ人の技能は、世界各地に設立した植民地を一体運営する「大英帝国」の発展にも役立った。イギリスでは1858年からユダヤ人でも国会議員になれたし、19世紀の後半には、大蔵省や外務省などの官庁に、かなりの数のユダヤ人官僚が在籍していた。

この時代に民間資本家として、イギリスの国家運営に最も影響を及ぼしたユダヤ人は、ロスチャイルド家の人々であった。この一族は、もともとドイツ・フランクフルトのゲッターにいた高利貸しだったが、1793年に始まったナポレオン戦争の後、ヨーロッパで多発するようになった国家間戦争のための資金調達をあちこちの政府から引き受けることで、急速に力をつけた。

一族のうちの一人は1797年、産業革命が始まっていたイギリスに進出し、綿花産業への資本提供やドイツなどへの販路拡大を引き受けて大成功し、イギリス政府に食い込んで資金調達を手伝うようになった。

ロスチャイルド家がたどった歴史の詳細は、よく分かっていない。彼らは他のユダヤ人資本家と同様、自分たちに関する情報が広がって反ユダヤ弾圧に使われるこ

とを恐れ、亡くなった家族の日記や手紙、メモなど一切の記録を焼いてしまうような情報管理を行っていたためである。

実態が分からないので、仕方なく反ユダヤの人々は「陰謀家」のレッテルを一族に貼り、マイナスのイメージを語り継ぐようになった。

ロスチャイルドは、稼いだ金をふんだんに使って慈善事業を展開することでも知られていた。その事業の一つに、19世紀末に帝政ロシア政府が国内のユダヤ人に対する激しい弾圧を展開し、多くのユダヤ人がロシアを逃げ出したとき、彼らを後に「イスラエル」となるパレスチナに移民させ、資金を出して集団農業を作ったことがある。この事業こそ、イスラエルの建国とパレスチナ問題の発生につながる最初の起源であった。

ロスチャイルド家に限らず、欧州諸国の政府に資金を貸し、金融などの政策立案まで担当していたユダヤ資本家の多くは、自らの存在を曖昧にし、黒幕として存在し続けることに、意義を見出していた。

それは、ユダヤ人差別への対応策という意味もさることながら、それ以上の理由がある。戦争が起こりそうになったら、敵同士である双方に金を貸したり政策を出したりして、どっちが勝っても儲かるようにするとか、一つの国の産業革命に投資して大儲けできたら、他の国でも産業革命を誘発し、そちらにも投資して儲けを増やすなど、一つの国に対してのみ忠誠を尽くすのではなく、国際的に動くことで儲けるのが、伝統的なユダヤ商人の作法としてよく見られる。

これをやるためには、それぞれの国の黒幕が誰なのか、分からないようにしておかねばならない。

ばれたら両方の国から裏切り者とされてしまう。

ロスチャイルド家の中には、キリスト教に改宗した人が多く、ユダヤ人であることすら自ら改変し、キリスト教社会の中に埋没し、目立たないようにネットワークを張り、その結果、イギリスの「上流階級」と「ロスチャイルド」とが、ほとんど同義語であるような状態を作り出した。

## ■「国際社会」に変身したロスチャイルド■

「国連」や「国際社会」は、イギリスが世界を間接支配するための仕掛けである。

そしてこれらは、イギリスの中でも特にロスチャイルド的な考え方である。

大英帝国は、第一次大戦を機に衰退が明確になるが、イギリスが衰退しても、ロスチャイルドやその系列の資本家たちが世界で儲けることができるようにするために、英米が中心となる国際社会や国連が作られた。

またイギリスは、自国に近いアメリカを次の覇権国にすべく、アメリカの資本家を国際社会で儲けられるように誘った。

欧州のユダヤ商人は、ロスチャイルドの出現以前に、スペイン帝国からオランダ帝国へ、そしてオランダ帝国からイギリス帝国へと、何回も覇権の移転を経験しており、この覇権の移転そのものが、新規投資対象の開拓の結果だった可能性がある。

ロスチャイルドの世界支配は、覇権がイギリスからアメリカに委譲された時点で、ロスチャイルド家という一族支配から、ロスチャイルド家によって作られた英米中心の世界体制で儲ける人々のネットワーク(「国際エスタブリッシュメント」あるいは「国際協調派」)へと進化した感がある。

「国際社会」も、その実態は彼らであり、実際の世界の人々の民意とは、本質的に関係がない。米英の政府やマスコミも、このネットワークの中の組織であり、世界の民衆の世論は、米英中心の国際的なマスコミによって、扇動されている部分がある。

(2001年 田中 宇著『金融の元祖ユダヤ人』より)

【資料】『命より大切だと思ってきたお金なんて、銀行家という詐欺師集団の作り出した紙切れでした⑤』

---

## ■日銀の秘密■

お金のカラクリについて、今一度おさらいしておきましょう。

世界の基軸通貨ドルを発行しているのはアメリカ政府ではなく、ユダヤ系を名乗る一部のファミリーの経営する株式会社FRBであることはもう知っていますね。

アメリカ国民はFRBの発行するドルを政府が借用書を書いて利息を払って借りて使っています。これと同じシステムなのがアメリカの植民地である日本です。

貨幣を支配するものが国を支配するのです。

日銀が諸悪の根源であることは以前、何度も書きました。

日銀が紙幣を発行していることは誰もが知っていますが、日銀が誰のものか知っている人はいますか？

日銀は上場していませんが株式会社ですから資本家があります。

現在の経済論理からいえば、会社は資本家のものということになっていますから、日銀の株主が知りたいのですが公表されていません。一応国が55%の株主であることは判っていますが、残りの45%の株主はいったい誰なのでしょう。

知っている人がいたら教えてください。

私の推測ではFRBと同じ株主ではないかと思っています。

東電の独占経営が批判されていますが、日銀なんてそんな甘っちょろいものではありません。

なにしろ紙幣の発行権を独占していて、日本人は日銀の発行した紙きれをお金だとして使わないと生きていけません。

1枚数円ぐらゐのコストで1万円札を印刷して1万円の価値があるとして国に貸すのです。

タダじゃありません。

利息まで取ります。

ぼろ儲けです。

日本人は日銀券を発行してもらって使うとなるとそれだけ債務を自動的に負います。

それに利息をつけて元金なくなるまで返済（税金というかたちで）することになります。

これを戦後からずっとやってきたのですが、景気がいい時はまだ良かったのですが、今のよう景気が悪いと返しても返しても元本さえ減らないから、国債の発行（日銀券の発行）がどんどん増えて、遂には国家予算の支払いの3分の1が日銀への利払いというような事態になっているのです。

日銀の儲けの55%は一応国庫に入りますが、45%はどこか得体の知れないところへ消えていきます。

これではいくら働いて税金を払っても国民の暮らしが良くなるはずがありません。

働けど、働けど暮らし楽にならず、じっと手を見るわけです。

このいんちきカラクリについて、もちろん国民には教えませんし、国会議員でこの問題を取り上げた人を私は知りません。

共産党の議員でさえ、黙ったままです。

日本がアメリカの植民地であることがお分かりいただけただけでしょうか。

(そういうアメリカもユダヤ金融家の植民地ではありませんが)

この仕組みを壊さないと、いつまでたってもお金の奴隷です。

アメリカも政府とFRBとの間で何度もお金の発行権について争っています。

ケネディーはそれが原因で暗殺されたともいわれています。

日銀なんて必要ないのです。

お札は国民の代表である政府が必要なだけ発行して誰からも借りて使うことはないのです。

震災の復興資金だって必要なだけ政府が発行すれば税金に頼らなくてもいいのです。

それでなくても、ドルは信用をなくしていますから安くなり、円高になっています。

円安にするには円の発行を増やせばいいことです。

こんな簡単なことが分かっているながら、国民を騙し、声を上げることが出来ない国会議員は全員クビにすればいいのです。

与謝野みたいなユダヤの手先は増税しないと国家が潰れるように脅していますが、大借金国家アメリカはデフォルトして世界中から借りた借金の棒引きを狙っているようですから、日本も日銀を潰して赤字国債をチャラにすれば、国家が潰れることはありません。

お金のカラクリに騙されてはいけません。

## ■アメリカ小都市で、現地ドルが流行■

アメリカの小都市では、同国の経済危機に対抗するため、現地通貨が発行されています。

IRIBによりますと、アメリカのカリフォルニア州・サンフランシスコのベルナルハイツ地区で、ベルナルドルあるいは、ベルナルボックスと呼ばれる通貨を使っています。

この計画は、1年前から始まっており、同地区の住民は、この通貨を使用して現地の店補、レストランその他のショッピングセンターで買い物をし、これによって、住民の資産が同地区内に留まるようにしています。

この地区の住民は、現地の銀行で最低預金額100ドルの口座を開き、銀行から出される銀行カードによって同地区の店補やデパートで買い物ができ、このカードを使用するたびに、5%の割引を受けることができます。

アメリカの多くの小都市では、自らの経済をアメリカのほか地域から独立させるため、この方法が利用され、人々はその結果に多少満足しています。

## ■IMF、「イランは世界の経済大国の一つと見なされる」■

IMF国際通貨基金が、「イランは世界経済において17位に位置し、世界の経済大国の一つと見なされる」と発表しました。

イルナー通信が伝えたところによりますと、IMFにより発表された統計では、2011年9月における、購買力平価で見たイランのGDP(国内総生産)は9,300億ドルに増加しており、このことから世界183カ国中17位を獲得しているということです。

この統計によれば、アメリカ、中国、インド、日本が、それぞれ15兆650億ドル、11兆3,160億ドル、4兆4,700億ドル、4兆3,960億ドルのGDPにより、1位から4位に位置しています。

また、この統計では、2011年のイランの購買力平価ベースのGDPは、1980年の値(1,140億ドル)と比較しておよそ8倍に増加しているということです。

購買力平価で見たGDPは、各国の経済行動を比較する上で用いられる重要な経済指標の一つです。

(ここまで、2012年『イラン・ジャパニーズ・ニュース』)より



## 威風堂々[29]『あなたが貧乏なのは、△NIMRODの金融資本主義システムの破綻が原因!?!』

---

～来るべきメシヤの預言を知っていたクシュは、セミラミスとの間に子をもうけたのだが△NIMRODこそ彼らのメシヤであった～

かつて『民主主義』と『資本主義』は「パッケージの詐欺だ」と表現した人がいました…。

お金にちっとも縁のない生活を送っている私には、何のことだか意味がわかりませんでした…、

このところ続いている世界経済の危機的の破綻が何故起きているのかを調べるにつれ、先ほどの意味を納得すると同時に、ムカムカと腹が立ってきたのです…!!

理由は至極単純でした…。

この世界的な金融資本主義システムは、詐欺システムだったのです…!!

このシステムは、元締め△NIMROD連中が必ず儲かる筈だった…!?

そりゃそうですよ、何んたって世界の大多数の国家に入り込んでいる世界中央銀行は…、

紙切れからお金を刷って、それを貸し付けるんですから…、

無から生み出されるお金なのに、利息もしっかり取る訳ですから…!!

銀行業の秘密だった金融の仕組みは、いわば詐欺システムだったのです…!!

そしてこれは全て、ロスチャイルド一族らユダヤ人が編み出したものなのです…!!

例えばギリシャ、粉飾決算の手口でEUに背伸びして加盟したものの、多額の借金でデフォルト寸前まで追い込まれていますが...

ギリシャに限らず世界中の国々が財政危機なのは、国家が銀行から借りたお金が返せなくなっているからです...

国家より大銀行の方が立場が上...!?

アメリカやヨーロッパの国々がこんな状況に陥ってしまったのも、金融資本主義システムの罠だったのでしょうか...!?

言わば、大資本家たちが国家を奴隷にしてしまうという有様なのです...!!

そもそもお金の起源は、金や銀と交換する預かり証だったのですが...

マネーがマネーを生み出す、より大きな資本が資本を飲み込む、その仕掛けに気付いた大資本家たちが、狂喜乱舞しつつ世界の市場を買いあさり...

实体经济を置き去りに、お札が一人歩き、いや資本主義システムそのものが一人歩きし始めて...

気付いた時には化け物みたいな巨大な市場に膨れ上がって...

いまやアメリカとEUのXデー、国家と一緒に世界の大銀行さえも共倒れしそうな状況になりつつあるのです...!!

果たして、アメリカとEUの金融資本主義システムの破綻が....、

△NIMROD連中にとっては、これは想定内の出来事なのか否か、私には判りませんが...!?

しかし最近伝わってきたところによれば、どうやら△NIMROD連中も一枚岩ではなくなってきたのだとか...!?

意地汚い金の亡者たちは、仲間割れを起こしているのではないかと噂されているのです....。

ま、これは自業自得だと思いますが....。

大体、实体经济を蔑ろにしてバブルを膨らまし、金融市場で自由気ままにマネー・ビジネスを広げてきた大資本家たちが悪い...!!

金儲けに突っ走った為に、リーマン・ショックの様に金融機関が破たんして、国家を揺るがす事態を引き起こしてしまったのですから...!!

例えばアメリカの場合は、連邦準備制度(FRB)がドルを刷って、米国政府に貸し付けているのですが....、

FRBは民間企業で....、

しかもロスチャイルドとロックフェラー、△NIMRODの財閥が独占しているのは公然の秘密なのです...!!

世界基軸通貨であることをいいことに、何とドルの裏付けとなるものはナシで、実はお札をただ刷っているだけという噂さえあるのです...(啞然)!?

しいていえば、ドルの裏付けの代わりにニッポンです...(え`え`ッ)!?

第二次世界大戦の敗戦国、日本という植民地に受けていたのは、アメリカによる搾取だったのです...

私たち国民が気付かないところで、毎年毎年、日銀を通じて米国債をドンドン買わされていたんです...!!

アメリカ債、その額約1,000兆円...!!

こんなに日本のお金を搾取していたとは...!!

しかも米国債などと紙切れ同然、恐らくアメリカは日本にお金を返す気などサラサラないと考えられます...!!

アメリカという国は、まるで賭博場を経営している親方が、強引にブン捕るみたいな泥棒国家なのです...!!

かつてニッポンは経済大国にのし上がり、GDP世界第一を誇る豊かな国家になりましたが...

1985年にアメリカの双子の赤字を消すための、「プラザ合意」を結ばされたことがあります...

日本の経済がおかしくなっていったのは、それからだと言われているのですが...

EUの問題は私たち日本にとって、もはや“対岸の火事”どこではないのです...!!

それは、アメリカ・EUだけがドボンしないように、私たち日本国にも経済的に悪くなって欲しい

と願っているのが△NIMRODのヤツらだからです...!!

対日本の戦略を練っているのがアメリカ悪魔帝国の総本山、アメリカ外交問題評議会(CFR)...!!

ディビット・ロックフェラー、キッシンジャー、ブッシュらが、私たちの日本にあらゆる手を使って襲い掛かっています...!!

【消費税増税に応じなければ、地震兵器で火の海にしてやる。】

「IMF＝国際通貨基金は、深刻化するヨーロッパの信用不安を背景に、各国への融資能力を強化するため、5,000億ドルの融資財源の増強を目指す方針を明らかにしました。

IMFは18日、今後数年間にわたって各国からおよそ1兆ドルの融資需要があると考えられることから、最大で5,000億ドルの融資財源の増強を目指すと発表しました。

これは、深刻化するヨーロッパの信用不安を背景に、世界経済がさらに悪化した場合に備えるもので、IMFが各国への融資を適切に行えると市場に安心感を与えるねらいがあるものとみられます。

IMFが目指す5,000億ドル分の増強には、先にEU＝ヨーロッパ連合が表明したおよそ2,000億ドル分の拠出が含まれており、今後、日本や中国をはじめとする新興国がどう対応するかが注目されます。

IMFの融資財源の増強は来月下旬にメキシコで開かれるG20財務相中央銀行総裁会議に向けた検討が決まっていたましたが、IMFが具体的な目標金額を示したのは初めてです。

IMFの発表を受けてアメリカ財務省はコメントを発表し、「ヨーロッパの信用不安の問題を解決するにあたり、IMFは重要な役割を果たせるが、それはあくまでもヨーロッパの国々のみずからの努力を補完するものにすぎない。アメリカはIMFへの追加拠出を行う考えはないことをすでに各国に伝えている」として、アメリカがIMFへの追加の資金拠出を行う予定はないことを改めて示しました。」

IMFとは欧米の国際金融資本(300人委員会)が支配する組織なのだが、そのフランチャイズは米国なのだ。専務理事の大半はフランス人であって、恐らく米国に都合のいいフランス人が選ばれて

いるはずだ。

このような人事構成で実質米国(ロックフェラー)が欧米とのバランスを表向きにとっているのだろう。

IMFを実質支配する米国(ロックフェラー)が支配する基軸通貨制度ドルの輪転機を持つ限りにおいて米国がIMF最後の資金源でなければならない。

ところが、そのアンカーであるべき米国(ロックフェラー)が、「アメリカはIMFへの追加拠出を行う考えはないことをすでに各国に伝えている」と宣言しているのだ。

一方、IMFは「ヨーロッパの信用不安を背景に、各国への融資能力を強化するため、5,000億ドルの融資財源の増強を目指す」というのだ。

IMFの出資比率は国内総生産規模で決められるはずだが、表向きには米国、日本、ドイツ、フランス、イギリス、イタリアといことになっているが、実態としては世界一の債権国家である日本がすべて肩代わりしているのだろう。

米国やフランスは口は出すがカネは出さないのは通例毎度のことであって、すべての請求書の送り先は日本ということになっているのだ。

米国は一銭も出さないと言っているのにIMFが5,000億ドル(約40兆円)の予算を勝手に立てている問題だが、その請求先は「日本」しかない。

先のリーマンショック後に日本はIMFに1,000億ドル(当時レートで10兆円)寄付することを決定し既に実行しているはずだが、さらに追加ボーナスで5,000億ドルを追加するということだ。

こうなると如何にお人よしの『奴隷』日本といえども財源が足りない。

何せ50兆円といえは、一般会計上の国家予算の半年分にあたるからだ。

そのほかに、『奴隷』日本は米国様に毎年30兆円以上の上納金を強いられているのだ。

前々から指摘しているように、これが1990年以降のバブル崩壊の原因であり、それ以降全く改善の兆しが見えないデフレの原因なのだ。

世界の『ATM』であり『奴隷』である日本は、世界中の発展途上国にODAの形で無償で資金、技術移転をしなければならないのであって、加えて宗主国である米国様の巨額不良資産を引き受ける義務があるのだ。

これにIMFに対する将来的にも回収不可能な巨額寄付金がオンされることになるだけのことだ。

この原資は消費税で償還される。

つまり、消費税とは奴隷税のことなのだ。現在の奴隷税は5%だが、IMFはそれを15%までに引き

上げしろと命じている。

「国際通貨基金(IMF)アジア太平洋局日本担当責任者のケネス・カン氏は9日、日本の消費税引き上げに関するセミナーで、日本は公的債務を削減するため、2010年代半ばまでに消費税の税率を倍以上に引き上げる必要がある、との考えを示した。

そのうえで、政策を調整する時間はなくなりつつあると警告した。

IMFは日本に対し、早急に消費税の引き上げに着手し、15%まで引き上げるべきだと提唱している。(ロイター)」

つまり、その15%の使い道は国際金融資本が計画する損失を穴埋めするためのものだ。

彼らが計画する世界大破壊計画上必然的に発生する世界的な巨額損失はすべて「日本国民が血税で肩代わり」というシナリオが出来上がっているワケだ。

それを実際は全く関連性のない年金問題をでっち上げて振り替えようとしているだけのこと。

年金社会保障の問題と消費税は全く関連なし。

日本が出し渋ると地震兵器で攻撃されるだけ。

IMFが40兆円欲しいといえ、奴隷日本は黙って出すしかない。

これに応じなければ、「もう一度、お見舞いしましょうか」と囁かれるだけだろう。

(2012/1/19『超高層マンション スカイラーカー』より)

「消費税を上げろ!!

もっと金をよこせ!!

言うこと聞かないなら、地震兵器で火の海にしてやるぞ!!」

と、悪魔の叫びがあなたにも聞こえますか...!?

【アメリカ金融ユダヤ帝国から血を吸われ続ける日本】

また、日本はアメリカ金融ユダヤ帝国から40兆円を筆り取られるようであり、  
去年311地震兵器による脅迫で管政権が60兆円、  
また、同帝国から脅迫を受けての日銀が行った数回のドル買いでも15~20兆円程を取られ、  
合わせると100兆円をはるかに超え国家予算をも軽く上回る金額を世界権力から徴収されることになる。

彼らは簡単に我が国から数十兆円単位で召し上げていくが、十兆円とは途轍もない巨額なお金であり、東京~大阪間超電導リニア新幹線の総工事費、日本の年間の貿易黒字、消費税5%、等に相当します。

この、外国に召し上げられるお金が国内に回れば日本国民は途轍もなくリッチになれるはずですが、

日本のアメリカ国債保有総額は官民合わせ約1,000兆円と言われる。  
と言うことは、今までここ10数年の間に、アメリカ金融ユダヤ帝国から官民合わせて約1,000兆円（国民一人当たり約1,000万円）を召しあげられたことに等しい。  
年間約70~100兆円である。これが日本経済低迷の最大要因で貧しくもなろうと言うものだ。

1990年バブル崩壊以来の不景気の本当の原因は金融ユダヤ帝国から血を吸われた結果だと考えます。  
毎年約70兆円、1億国民一人当たり約70万円、4人家族で一家当たり毎年約280万円を10数年に涉って取られた計算です。  
働けど働けど我が暮らし楽にならずの原因です。

問題はそれだけではなく、同帝国から日本の内政は制御され、日本にお金が回らないような政策を強制されてきたと考えます。  
政治家、官僚、マスコミ、御用学者や評論家を使ってである。

一つ例を挙げると公共事業の削減は同帝国が陰で仕組んだ可能性があります。  
現在の公共事業予算は20年前の半分に減少させられ総額20兆円程度です。  
談合は悪、から、公共事業は悪にまで国民意識がなったのはマスコミの宣伝が大きい。  
マスコミこそは同帝国の手先である。  
もし、公共事業を減らしてなければ、デフレギャップは約40兆円(GDPの8.5%：デフレ・ギャップという財産)と言われており、失われた20年の不景気は回避された可能性は大でしょう。

戦略的な同帝国はこのように日本から血を吸い、そして、日本国内に金が回らない様に仕向けてくる。



そして、今もIMF(同帝国の手先)による消費税増税強要が当にそうである。

(2012/1/25 『明日に向かって』より)

「消費税増税」と「地震」…。

この2つは一見関係なさそうにみえて、実は…、

民主党にガッカリし、やたら多発する地震に不安にながらも…、

まさかこれがアメリカから仕掛けられているとは、ほとんどの人々は全く気付いていないと思います…!?

しかしこれは、戦争を仕掛けられているのと大差ないんですよ…!!

この状況は経済の低迷というカタチで、私たち日本にも間違いなく影響しつつあるのです…!!

働いても働いても、アメリカを牛耳る△NIMRODの金融マフィア連中に…、

私たちの血液が、ドンドン吸い上げられていくのです…!!

こんな酷い仕打ち、あなたは許せますか…!!

【つべこべ言わずに黙ってこれを観ろ!!】 『△世界支配の構造に切り込んだ、THRIVE(スライヴ)!!』

---

私たちの生活を一変するかも知れない、隠蔽されたテクノロジーの秘密と…、

△国際金融マフィアによる、世界支配の構造に切り込んだDVD…、

『THRIVE(スライヴ)』が、ついに日本語版で無料視聴出来るようになりました…!!

これは必見です…!!

世の中どうも変だと、既に覚醒されているあなたには勿論のこと…、

ご家族その他、大事な方には一人でも多く観て下さい…!!

また、陰謀論に懐疑的な方にも是非とも観て頂きたいと思います…!!

【THRIVE(スライヴ)】

■まえがき■

映画の制作者フォスター・ギャンブル氏は、一般消費財で有名なP&Gの御曹司です。彼は子供の頃の体験をきっかけに実業家ではなく科学者への道を歩むと、技術開発を意図的に邪魔している国際資本家(金貸し)の存在に気がきます。

この現実を踏まえて、人類繁栄の道を考えたのがこの映画であると紹介しています。内容は人類を繁栄へと導くトーラス理論(自由エネルギー論)を解説し、それを邪魔する金貸しの支配構造と計画を明らかにして、最後にその解決策を提示しています。

映画は大きく4章構成で、1章：「概念を解き明かす」、2章：「お金の動きを追う」、3章：「世界支配に向けた行動計画」、4章：「解決策」となっています。

CGや検証動画がふんだんに使用され、また日本語吹替版も用意してあるなど、自主制作とは思えないほどの品質で、雰囲気はNHKスペシャルをイメージしてもらえれば間違いないと思います。

## ■1章：「コードを解き明かす」■

エネルギーの基本法則として、トーラス(円環)というドーナツのような流れを紹介しています。エネルギーは地磁気のように流れており、それは原子、樹木、人間、気候(風向)、惑星(地球)、太陽、銀河全体など万物の構造(≒フラクタル理論)からも分かります。

トーラスの基本的な構造はベクトル平衡体で、古代より生命の花(円で構成された幾何学的な図形)として、中国の紫禁城(狛犬)、インドの黄金寺院(歩道)、エジプトの寺院(柱)などにも表現されています。

このトーラスを応用すれば石油やガスなどの化石燃料を使わずに、自由エネルギーとして自然の内部エネルギーから電力を取り出すことが出来るとしています。

しかし、この理論の研究に取り組んだ科学者達(特斯拉、モレイ、シュバイツァー、猪俣修二等)は、研究所を焼かれたりするなどの妨害にあっています。

例えば、特斯拉はエジソンと並ぶほどの天才で、この理論を応用して電線を使わずに送電する方法を発明しましたが、電線に利用する銅(鉱山)をおさえていたJPモルガンによって発明は潰され

ました。

以後、テスラなどの研究成果は政府に没収され、自由エネルギーはデマだったと隠蔽されています。

次にミステリーサークルを分析し、その形状がトーラスのエネルギー構造を示していることを発見しています。また跡地の地磁気から、電磁放射によってミステリーサークルが生成されることを突き止め、UFO自体もトーラスのエネルギー構造を利用していることを解明しています。

## ■2章：「お金の動きを追う」■

2章では、人類の繁栄を妨害する存在を明らかにするために、お金の動きからアプローチしています。

石油エネルギー市場はロックフェラー家が独占し、またその石油を利用した近代農業や緑の革命(遺伝子組換えと種[F 1]の独占)による市場拡大で、モンサントなどの大企業群が農業・食糧支配をしているとしています。

他にも、権力に従順な国民を育成するための教育支配や、健康を損なう企業や製薬会社が研究支援をしている医療支配、マスコミを世論操作に利用したメディア支配の実態などが取り上げられています。

主要な産業が全て大企業群に支配されていることを明らかにしています。

その産業を上位で支配しているのが金融産業で、銀行の信用創造と紙幣発行権を持つ中央銀行の問題を分かりやすく解説しています。

また銀行(中央銀行、IMF、世界銀行など)による経済のバブル化と、崩壊後の資産回収という金融経済の焼け太り戦略(最近のリーマンショック等)により、格差がますます拡大していると分析しています。

### ■3章：「世界支配に向けた行動計画」■

ここまでの追求で明らかになった悪いことは生活の重要な部分がほとんど支配されているということであり、良いことはその支配が神など未知なる力ではなく人であるなら、自然の原理に修正するチャンスがまだあるとしています。

彼らの目的は、愚かな一般大衆のために世界を制御する新世界秩序(NWO)を創り出すことです。

そのために常識という観念で普通の人を作り上げ、世界政府に向けた分割地域(EU、アフリカ、環太平洋、アメリカなど)を推進。

世界エリート

↑

世界政府銀行

↑

国際銀行(IMF、世銀)

↑

中央銀行

↑

銀行

↑

企業

↑

庶民

ピラミッド構造による支配を考えています。その主なエリートとしてロスチャイルド家、ロックフェラー家、モルガン家が上げられています。

庶民を支配する基本的な手法は、ベトナム戦争やイラク戦争に代表されるように

政府がマスコミを使って問題をでっち上げる

↓  
庶民に問題意識を植えつける  
↓  
庶民が政府に問題解決を要求  
↓  
政府が解決する

という仕組みです。

そのようにして常に庶民が政府に依存するように飼い慣らしていきます。

近年は新世界秩序に向けた準備(実験)として、

△CO2排出税(=世界的な税金)

△FEMAによるテロ対策(治安維持)、

△ケムトレイル・ワクチン・遺伝子組替食品による生殖阻害(人口制御)

△路上カメラ・通話記録

△メールによる行動監視

△戸籍・免許証・パスポートのIC化などの個人情報管理

を取り上げています。

#### ■4章：「解決策」■

エリート支配は庶民の賛同(世論)がなければ成立せず、数では1：100以上の比率で勝っているため、庶民の動き次第で世界を変えることが出来るとしてしています。

例えば世界には庶民の社会活動グループが100万以上存在し、これがもし庶民運動としてNW出来れば簡単に状況はひっくり返るとしてしています。

またガンジーや万物との一体感を体現した合気道などの東洋的世界観に、今後の社会の可能性を

見出しています。

庶民運動はエリートに武力支配の口実を与えないように非暴力を原則とし、政策の中身として3段階の変革を提起しています。

◎1段階目は、現在の実態生活に合わせた政策に変えること。

中央銀行を廃止し、政府予算を半分にし、生活に必要な産業を支援すれば貧困は解決する。

◎2段階目は、個人の権利と自由を尊重すること(=非侵害)。

その実現のために小さな政府を地域毎に設立すれば、権力は肥大化しない。

◎3段階目は、人々の生活を規制せず個人の協調に任せること。

人々が望むサービスを支援することで、経済はより豊かに繁栄する。

最後は運動拠点としてTHRIVEのHPを紹介し、運動に参加する具体的な行動方法を伝えていきます(地方銀行の利用、食糧は自由種を選ぶ、デモへの参加等)。

(『2004 金貸しは、国家を相手に金を貸す』サイトより)

THRIVEインタビュアー デュアンエルジン、ナッシムHaramain、スティーブングリーア、ジャックKasher、ダニエルシーハン、アダムTrombly、ブライアンオリアリー、ヴァンダナシヴァ、ジョンガット、ジョンロビンズ、ディーパックチョプラ、デイヴィッドアイク、キャサリンオースティンフィッツ、G.エドワードグリフィン、ソレデモビル、ジョンパーキンス、ポールホーケン、Aqeela Sherrills、Evonピーター、エンジェルケイドウウィリアムズ、エリザベトSahtouris、エイミーグッドマン、バーバラマルクスハバード。

このDVDには、私たちの地球そして子供たちの未来を左右する、非常に大事なテーマが網羅されています...!!

是非とも十分時間をとって、腰を据えて真剣にジックリと観て下さい...!!

THRIVE オフィシャル・トレーラー(予告編)

→<http://www.youtube.com/watch?v=OibqdwHyZxk&fea..>

THRIVE 本編(132分)

→[http://player.thrivemovement.com/simple\\_player/2?u..](http://player.thrivemovement.com/simple_player/2?u..)



『99%よ!!子供たちの未来のためTHRIVEで目覚めよ!!△1%に支配されていることに気付け!!』

---

世界の闇の構造をズバリ暴露したDVD、『THRIVE(スライヴ)』とは...

「全ての人類が等しく繁栄する」という意味だそうです...

ところが現実の私たちの世界は、人類の繁栄どころか...

飢餓や貧困は拡大し、人々を殺略する野蛮な戦争行為は後を絶ちません...

このままで良いんですか...!?

こんな世界のままで、子供たちの未来は本当に良いんですか...(怒)!!



こんな世界になってしまった原因は、人類が愚かだからではないのです...!!

実はホンの一握りの△1%が、巧妙に99%の人間を支配している間違っただ世の中を作り上げている為であり....

本来、訪れるはずの明るい未来が、暗黒の未来にすり替えられているからなのです...(怒)!!

実はとうの昔に、夢のような技術「フリーエネルギー」は発明されていて...

UFOの動力源や、ガンを治す方法など...

すでに私たちの生活の質を向上させる手法が、この世に存在するのにも関わらず...

△のヤツらはその研究を妨害してきた...(怒)!!

その理由は、化石燃料に依存することで莫大な利益を上げている大手企業をはじめ...

社会を支配している巨大銀行と、それを所有して何百年にも渡って...

無から金を生み出す、銀行家の詐欺システムによって...

世界の金融を思いのままに牛耳ってきた△巨大財閥...!!

エネルギー、金融、食糧、医療、教育、マスゴミ、その他...

実は△1%が、地上のあらゆる分野を独占しているのです...(怒)!!

『THRIVE(スライヴ)』を観たら...

あなたは身震いし、人生観が180度変わるかも知れません...!!

ですが、世界中にはもう何十年も前から目を覚ましている人々がいるのです...!!

△1%に対抗するには、一刻も早く99%の一人一人が覚醒し...

△ヤツらの策略に気付いて、私たちの未来を自分たちで掴み取るべきなのです...!!

『99%よ!!子供たちの未来のためTHRIVEで目覚めよ!!△1%に支配されていることに気付け!!』

もしもこのDVDをテレビ全局で放映したら、ニッポンの社会はひっくり返ってしまうんじゃないかと思うほど、一般の人には強烈なインパクトがあります...!!

一方で、これを見ても(?)な方は、かなり洗脳された重症患者ということになりますよ...!!

無料視聴版を観損ねた方、まだ諦めないで下さい、ニコニコ動画にアップされていますよ...!!

THRIVE 1/10(7:17)

→<http://www.nicovideo.jp/watch/sm16792470>

THRIVE 2/10(14:31)

→<http://www.nicovideo.jp/watch/sm16792519>

THRIVE 3/10(10:36)

→<http://www.nicovideo.jp/watch/sm16792584>

THRIVE 4/10(10:20)

→<http://www.nicovideo.jp/watch/sm16792631>

THRIVE 5/10(11:04)

→<http://www.nicovideo.jp/watch/sm16792683>

THRIVE 6/10(14:51)

→<http://www.nicovideo.jp/watch/sm16792728>

THRIVE 7/10(14:49)

→<http://www.nicovideo.jp/watch/sm16792777>

THRIVE 8/10(14:24)

→<http://www.nicovideo.jp/watch/sm16792819>

THRIVE 9/10(14:49)

→<http://www.nicovideo.jp/watch/sm16792866>

THRIVE 10/10(14:20)

→<http://www.nicovideo.jp/watch/sm16792907>

～父クシュは死ぬ時に、息子と妻を結婚させた

△NIMRODがまだ少年であったときに母親セミラミスは彼を望んでおり、事実上、自分の息子と結婚したのである～

夢や希望に包まれたバラ色の21世紀を想像していた、私たちに待ち受けていたのは....、

飢餓や貧困が益々深刻化し、世界のあちらこちらで人を殺略する紛争のニュースが飛び交う暗闇の様な時代でした....。

宗教戦争、食糧の奪い合い、エネルギーのブン捕り合戦、そして原子力の落とし穴....。

それも全て、△NIMRODの連中のせいだと思うと腹が立ってきますよね...!?

そもそも私たちは一体、何のために生きているのでしょうか...?

恐らく世界中の誰しものが、自分自身と家族の健やかな生活が未来永劫続くことを望んでいる筈です....。

その為に生活の糧を得るべく働く訳なのですが、現実的には食費、水道光熱費、医療費や教育費の負担、クルマ、家のローンなどで、お金の支払いに追われる日々を過ごしてしまうのが正直なところではないでしょうか...?

気が付くと、お金の奴隷になっている...!?

民主主義と資本主義の行き着いた先は、結局大口の資本家による独占でした…。

お金がお金を生む、ユダヤの銀行家たちが考えたこの詐欺システムに、私たちはずっと騙され続けてきました…。

「お金を制するものは世界を制する」と云われるほど、この世の中はカネ・カネ・カネ…!!

こんな世の中にしたのも、やはり△NIMRODの連中の仕業なのではないでしょうか…!?

何と、世界中の企業という企業は、結局どれもこれもが大手の銀行の傘下に入っているというのです…!?

【世界経済は147企業によって支配されている】

スイス連邦工科大学の研究者らにより、世界経済が一部の「資本ネットワーク」によって支配されている事実が明かにされた。

43,000に及ぶ多国籍企業を調べたところ、世界の金融ネットワークの4割以上が147の密に繋がった企業によって支配されていることが分かったという。

従来の研究では考慮されなかった各企業間の間接的所有関係も含め、自然界の構造をモデリングするための手法を用いてこのネットワークを割り出したとのこと。

結果的には多国籍企業の1%以下が全体のネットワークの4割以上を支配していることになり、トップ20にはバークレイズ銀行やJPモルガン・チェース、ゴールドマンサックスグループなど金融企業が名を連ねているとのことである。

The top 50 of the 147 superconnected companies

1. Barclays plc (バークレイズ銀行)

2. Capital Group Companies Inc (キャピタル・グループ)
3. FMR Corporation
4. AXA
5. State Street Corporation
6. JP Morgan Chase & Co (JPモルガン・チェース)
7. Legal & General Group plc
8. Vanguard Group Inc
9. UBS AG <スイス>
10. Merrill Lynch & Co Inc (メリルリンチ)
11. Wellington Management Co LLP
12. Deutsche Bank AG (ドイツ銀行) <ドイツ>
13. Franklin Resources Inc
14. Credit Suisse (クレディ・スイス) <スイス>
15. Walton Enterprises LLC
16. Bank of New York Mellon Corp
17. Natixis
18. Goldman Sachs Group Inc (ゴールドマンサックス・グループ)
19. T Rowe Price Group Inc
20. Legg Mason Inc

(2011/10/26 『スラッシュドット・ジャパン』 より)

世界のトップの企業は、大銀行、証券会社、保険会社といった金融業が上位を占めている訳です…。

そりゃそうですね、お金を右から左に動かすだけで利益が出るんですから儲かるに決まっています…!!

当然ながら、これらの国際的な企業の多くを△NIMRODが所有しているということです…!!

【誰がどんなにごまかしても、ユダヤ権力が世界を陵辱しまくっているのを隠蔽はできない。】

「なんでもユダヤの陰謀」であると断言して、とくに間違いではない。

911にしろ、それ以前の戦争にしろ、ユダヤ権力が捏造した。

調べれば調べるほど、何でもかんでもユダヤ権力の仕業とわかる。

だから、そう断言する。

チャーチルもルーズベルトもスターリンもユダヤ人であったことを、まず知る必要がある。

郵政民営化にも三角買収にも残業代ゼロ合法化にも、ユダヤ権力が暗躍している。

まず、事実を知ってから、口を開こう。

総論否定なら、ガキでもできる。

世界の金融を支配しているのは、ユダヤ人・ロスチャイルドと隠れユダヤ人・ロックフェラーである。

前者はフランクフルトの宮廷ユダヤ人・高利貸しから発祥した財閥である。

後者は、前者から新大陸の経営を委ねられた「隠れユダヤ人」財閥である。

この二者によって支配されている金融グループ(銀行・証券・保険)は、以下のとおりである。

#### ●ロックフェラー財閥系列の代表的な大企業

銀行：

チェイス・マンハッタン

Citigroup (シティ・バンク)

証券：

Merrill Lynch & Co Inc (メリルリンチ)

Morgan Stanley (モルガン・スタンレー)

保険：

Capital Group Companies Inc (キャピタル・グループ)

プルデンシャル

#### ●ロスチャイルド財閥系列の主な大企業

銀行：

ロスチャイルド銀行 <英国>  
モカッタ・ゴールドシュミット銀行  
Credit Suisse (クレディ・スイス) <スイス>  
JP Morgan Chase & Co (JPモルガン・チェース)

証券：  
Goldman Sachs Group Inc (ゴールドマンサックス)

保険：  
ロイズ保険 <英国>

以上のとおり、名の通った金融会社は、軒並み、この2つのグループの企業であり、それ以外のハリマンなども、ユダヤ系であり、二者の傘下・系列企業がほとんどである。  
よって、ユダヤ系以外の金融業者など、存在しないといっても過言ではなく、彼らこそが、「国際的投機金融勢力」そのものである。

アングロサクソンによる世界経済の支配など、実在しない虚構である。  
(それは、一見、アングロサクソンに見える隠れユダヤ資本でしかない。)  
ちなみに「国際的投機金融勢力がユダヤ人であることを示す資料」は、不要である。  
ユダヤ人以外に、国際的投機金融勢力など存在しないからである。

(2007/2/13 『リチャード・コシミズ・ブログ』より)

フォスター・ギャンブル氏が、製作した映画『THRIVE(スライヴ)』…。

この中で暴露した一つに、お金の流れがありました…、

回り回って搾取されたお金は…、

99%の人間→政府→企業→銀行→世界銀行→財閥ら1%の連中

この様にパワー・ピラミッドの構造になっていて…、



最終的に、お金はロックフェラーやロスチャイルドといったユダヤ財閥に…、

つまり△NIMRODの連中の懐に入ってしまうのかと思うと、凄く腹が立ってきますよね…!?

#### 【ユダヤ大富豪 ユダヤ人系7大財閥】

世界経済を牛耳っているのは、ロスチャイルド、ロックフェラー、サッスーン、クーンロエブ、モルガン、ベクテル、ザハロフの7大財閥がある。

この中で、ロスチャイルド財閥とロックフェラー財閥が群を抜いている。ロックフェラー財閥はもともとはユダヤ人財閥ではなく、WASPだった。だがユダヤ財閥との緊密な関係が出来上がる中で融合し、ユダヤ化した。これら7の巨大財閥の特徴は、以下の通りである。

- ◆ユダヤ財閥の総本家・ロスチャイルド財閥(ロンドン、パリ)は、「究極の世界支配を目論む」
- ◆サッスーン財閥は、ロスチャイルドの支家の一つで本家は、イラクのバクダッドに根を張る商人で英国に移り、分家＝サッスーンが、麻薬を商いしてインドから中国・上海に進出して銀行を支配、中国を完全占領した。
- ◆クーン・ロエブ財閥は、ロスチャイルド財閥のアメリカ支店(クーン、ロエブ、ウォルフの三人のユダヤ人が1875年にニューヨークに設立した「クーン・ロエブ・エンド・カンパニー」銀行に発祥)で「ロシア革命に深くかかわり、資本主義と共産主義の両方建てて世界支配」を狙う。
- ◆モルガン財閥は、ロンドン・ロスチャイルド家が1871年にジョン・ピアumont・モルガンをアメリカ総支配人として送り出して金融業を開始、設立。ウォール街を占領し、大富豪となり、「アメリカの産業支配」を図ってきた。
- ◆ベクテル財閥は「ユダヤ・アメリカの世界軍事支配の先兵」
- ◆ザハロフ財閥は「武器を扱う軍需財閥」

◆そして、ロックフェラー財閥は「石油王からのし上がり世界統一支配をめざす」

世界の長者番付では毎年1位はマイクロソフトのビルゲイツのはずだが、この世界長者番付ランキングにはモルガンやロックフェラー、ロスチャイルドなどの大富豪一族がなぜか入っていない。この理由は「本当の金持ちは税の抜け道を知っているから、こういうランキングに名を連ねることはないんです。もし本当のランキングを作ったら、ビル・ゲイツでも100位に入りませんよ」(経済評論家)

(『縄文と古代文明を探求しよう!』サイトより)

しかも、アメリカの連邦準備制度理事会(FRB)がロックフェラー、ロスチャイルドなどによって運営される私企業で....、

必要に応じて紙幣を印刷して市場にバラまくことが出来るという、トンデモない仕組みなんですよ...!!

実は最近になって「2007年12月から2010年6月の間に、FRBが大銀行、大企業、政府に対して、16兆ドルにのぼる救済融資を秘密裡に行なった」という報道がありました...!!

借金返済のために紙幣を印刷して良いのなら、木の葉で作ったお金で化かす狸同然ですよ...!!

【欧米銀行の倒産・破綻予定リスト公開!FRBのバランスシートは大嘘!水面下の16兆ドル融資とは?】

Citigroup (シティ・バンク)..... 2.5兆ドル  
Morgan Stanley (モルガン・スタンレー)..... 2.04兆ドル  
Merrill Lynch (メリルリンチ)..... 1.949兆ドル  
Bank of America(バンク・オブ・アメリカ).....1.344兆ドル  
Barclays plc (バークレイズ銀行)..... 8,680億ドル

Bear Sterns・・・・・・・・・・・・・・・・8,530億ドル  
Goldman Sachs (ゴールドマンサックス)・・ 8,140億ドル  
Royal bank of Scotland・・・・・・・・ 5,410億ドル <英国>  
JP Morgan Chase (JPモルガン・チェース)・・3,910億ドル  
Deutsche bank(ドイツ銀行)・・・・・・・・ 3,540億ドル <ドイツ>  
UBS・・・・・・・・・・・・・・・・ 2,870億ドル <スイス>  
Credit Suisse (クレディ・スイス)・・・・・・・・ 2,620億ドル <スイス>  
Lehman Brothers・・・・・・・・・・・・1,830億ドル  
Bank of Scotland・・・・・・・・・・・・1,810億ドル <英国>  
BNP Paribas・・・・・・・・・・・・1,750億ドル <フランス>

これは何の数字か？

FRBが、2007年12月から2010年6月までの間に  
メディアはおろか米議会にすら秘密にして融資してきた金額です。  
その額、実に16兆ドル（≒1,200兆円）。

しかも、利子ゼロという破格の融資であり、一度も返済されていないようです。  
全額が損失補填や従業員のボーナスに充てられたということです。

これが昨年の史上初の監査により明らかとなり、反FRBデモに拍車がかかりました。  
もちろんメディアが流すのはウォール街デモだけ。  
FRBの方は黙殺です。  
国民を犠牲にしてまで、銀行家を助けた事実になり狂ったというわけです。

先日FRBのバランスシートが公表されましたが、  
これは表の数字、真っ赤な嘘ということになります。  
実際のバランスシートは、公表値の10倍規模にまで膨れ上がっているのです。

(2012/2/15 『news-us.jp』 より)

この様に、世の中は不公平とウソがまかり通っている間違っただ世の中なのです...!!

99%の一般市民が汗水垂らして働いてもなかなか報われない一方で、1%の銀行家エリートに利するインチキ仕掛けは一体何なのでしょう...!!

貧富の格差はますます酷くなる筈です...!!

『99%よ! もう時間がない! △1%に抵抗するにはプライドを捨て勇気をもって声を上げて!!』

---

ジョン・F・ケネディー大統領の最終警告(1961年4月27日)

The very word "secrecy" is repugnant in a free and open society; and we are as a people inherently and historically opposed to secret societies, to secret oaths and secret proceedings. We decided long ago that the dangers of excessive and unwarranted concealment of pertinent facts far outweighed the dangers which are cited to justify it. Even today, there is little value in opposing the threat of a closed society by imitating its arbitrary restrictions. Even today, there is little value in insuring the survival of our nation if our traditions do not survive with it. And there is very grave danger that an announced need for increased security will be seized upon those anxious to expand its meaning to the very limits of official censorship and concealment. That I do not intend to permit to the extent that it is in my control. And no official of my Administration, whether his rank is high or low, civilian or military, should interpret my words here tonight as an excuse to censor the news, to stifle dissent, to cover up our mistakes or to withhold from the press and the public the facts they deserve to know."

ケネディー大統領はこの日、欧米社会に巣食った△NIMRODの連中に対して....

この演説で「秘密外交」、「密談」、「密使」、「秘密会談」、「極秘計画」、「極秘の取引」などを止めるべきだと公然と言ったのです...!!

世界の金融を占有する国際マフィアら△NIMROD、別名イルミナティーに「ガツンと一発」食らわしたという訳なのです...!!

ところがこの直後、ダラスにてケネディー大統領は世界中の人々が見守る中で暗殺されてしまいました...!!

このJFK暗殺とともにアメリカは、いや世界は....

悔しいですが、ヤツらに屈し続けてきたとしか云いようがありません...!!

John F Kennedy last WARNING speech to the WORLD

→<http://www.youtube.com/watch?v=6fOkx-k8a5c&fea..>

ジョン・レノンは、ずっと昔に△の陰謀に気付いていた...!!

彼は、心の底から世界の平和を訴えていた...!!

ジョン・レノンのインタビュー—世界は狂人によって支配されている

→<http://www.youtube.com/watch?v=8t5awfxTbmM>

imagine英語日本語歌詞

→[http://www.youtube.com/watch?v=M0d\\_P-QMdNQ&fea..](http://www.youtube.com/watch?v=M0d_P-QMdNQ&fea..)

マイケル・ジャクソンもまた、世界の愛と平和を訴えていた...!!

そして△の陰謀を、世界中の人々に訴えようとしていた...!!

マイケル・ジャクソンは2012年のイルミナティの陰謀を警告

→[http://www.youtube.com/watch?v=ur\\_cGhvd0Q&fea..](http://www.youtube.com/watch?v=ur_cGhvd0Q&fea..)

マイケル・ジャクソン やつらは僕らのことなんて少しも考えちゃいない  
(彼が暗殺される直接の原因となったとされる曲です。)

→[http://www.youtube.com/watch?v=zXbxbJbSj\\_8&fea..](http://www.youtube.com/watch?v=zXbxbJbSj_8&fea..)

それでも戦う人々 世界統一政府

→<http://www.youtube.com/watch?v=yQKgiVmz-Fo>



そうです、このままでは世界の歴史が終わってしまいます...!!

『99%よ! もう時間がない! △1%に抵抗するにはプライドを捨て勇気をもって声を上げて!!』

## 威風堂々[31] 『△NIMRODと戦って破れた人々!?!』

---

～△NIMRODはすでに人々から神として崇められていたので、彼の母親であり妻のセミラミスは『天国の母』として崇められるようになった～

私たちの気付かないところで、回り回って搾取されたお金は…、

99%の人間→政府→企業→銀行→世界銀行→財閥ら、1%の△NIMRODの連中の懐に入っていたのです…!!

巧妙に仕掛けられたピラミッド・システムは、上に行くに従って富と資源が集中していく…!!

99%の一般市民が汗水垂らして働いても報われない一方で、1%の大資本家に利するインチキ仕掛けという犯罪が隠されている…!!

残念ながらあなたの知らないうちに、不公平とウソがまかり通っている間違っただ世の中が続いていたのです…!!

かのジョン・F・ケネディー大統領は、ロックフェラー財閥らユダヤ系大資本家の権力の増大に危機感を抱いて…、

勇気をもって、△NIMROD連中からの支配と決別するべく戦っていた…!!

ダラスでの最後の演説にて、国民を前にして「秘密外交」、「密談」、「密使」、「秘密会談」、「極秘計画」、「極秘の取引」などを止めるべきだと公然と言ったのだそうです…!!

ところがこの直後、ケネディー大統領は世界中の人々が見守る中で暗殺されてしまったのです…!!

この時の真犯人は、CIAではないかと囁かれているのですが…。



アメリカの話になりますが…、

例えばアメリカ圏を中心とする石油利権は、すべてロックフェラー財閥らのものです…。

ヤツらユダヤ系大資本家は化石燃料で莫大な利益を上げる独占企業を所有し、また軍事産業も支配下に置く…。

エネルギー、食糧、金融、医療、教育、マスゴミ、その他、人々の生活に欠かせないあらゆる分野は、すべてロックフェラー財閥らに支配されています…!!

しかもアメリカのFRB(連邦準備制度)を私有しているのは、ロスチャイルドとロックフェラーの財閥だろうと噂されています…!!

FRBは、次から次へとドルを刷っては政府に貸し付けて金利を得る、無から金を生み出す詐欺システムだったのでしょ…!?

まだあります…!!

アメリカの“裏稼業”を担うCIA…!!

ロックフェラー財閥らは、CIAを手足のように動かしていると噂されているのです…!!

巨大な組織を持つCIAは警察・FBI・米軍を動かすほどで、米政府をしのぐ権力を持つのではないかと云われています…。

何と、CIAの最大の資金源は、呆れたことに麻薬(アヘン)取引なのです…!!

ベトナム戦争が麻薬(アヘン)地帯を奪う、カネ目的の略奪戦争だったと云われています…!!

一説によると、CIA長官やアメリカ高官は、ロックフェラー財閥らウォール街のユダヤ系大資本家から送り込まれてくると云われています...!!

この様に、アメリカ合衆国はロックフェラー財閥らユダヤ系大資本家のコントロール下に置かれており、オバマ大統領とて太刀打ちできる相手ではないのです...!!

こんな連中を放っておいていいのか...!?

勇気あるケネディー大統領が凶弾に倒れてから、アメリカを市民の手に取り戻すべく戦う人は誰もいなかったのでしょうか...!?

いました...!!

かつて、共和党の有力議員でローレンス・P・マクドナルド米下院議員という人物がいたのです...。

彼は、ロックフェラー批判の急先鋒でした...。

「いたのです」という意味は、彼もまた消されたからです...。

このマクドナルド米下院議員は、ゲイリー・アレン著「ロックフェラー・ファイル(邦題：ロックフェラー帝国の陰謀)」の推薦文を書いた政治家です...。

次に、彼がロックフェラー財閥らについて明らかにした内容が載った記事をご覧ください...!!

【税金を払っていない「名家」ロックフェラー】

ロックフェラー財団とは犯罪的なロックフェラー・シンジケートに他ならず、主な銀行、大企業、大学、政府機関と癒着しており、このような組織が不法にも米国を支配し、国を動かし、それでいて驚く事に自らは税金を払っていません。

ロックフェラー財団のメンバーを1人ずつ調べて明らかになる点は、彼らが戦争、革命、化学戦争、国際陰謀、大量殺人に関わってきた人々であるという点です。

例えば、ジョン・フォスター・ダレスはヒットラーが戦争を遂行できるように財政援助を可能にした人物であり、朝鮮戦争の勃発に際し重要な役割を果たします。

また彼の兄弟はCIAを設立しています。

他に日本に原爆を落とさせた人物コンプトンも、このロックフェラー組織に属します。

ロックフェラー、フォード、カーネギーなどの名で知られる財団は、共通の目的に向けて共謀しているだけでなく、舞台裏では完全に癒着しています。

表向きは人間性溢れる立派な理想を掲げていますが、真の目的は、1848年にロスチャイルドの雇われ人カール・マルクスが書いた共産党宣言の内容を遂行することにあります。

文芸や絵画などの世界も、国際金融財閥によって完全に支配されているため、全く文学的価値が無くても大衆の洗脳に好都合とみなされた作品はベストセラーに押し上げられ、芸術性のない前衛作品が有名になります。

その目的は芸術的センスを混乱させ、創造性を破壊することにあります。

ロックフェラー財団の大きな戦略には、世界の農業、食糧生産・流通のコントロールがあり、中

南米の農業プログラムは実質的にはロックフェラーによって支配されています。

独立した自営農民は食料生産を通して自身の資本を持ち、「彼ら」の目指す世界秩序から独立しうる為、邪魔な存在と目されます。

ローレンス・P・マクドナルド米下院議員が公の席で語ったところによると、

「ロックフェラー一族は、その飽く事なき野望を充たすために金だけでは充分でないと悟ると、自分たちが築き上げた莫大な富と社会的な影響力をうまく利用して、さらに大きな権力を手に入れようとしてきた。

彼らの目指す権力は、古代のいかなる専制君主や暴君も夢想だにしなかったような絶大な権力である。

地球の全てを覆い尽くすような権力 —それも単に物を支配するだけでなく、世界中のあらゆる人間をも支配する権力— それこそが彼らの最終的に求める権力である。

…私たちはこれまで資本家と労働者は対立するものと考え、共産主義は億万長者の富を私たちの手に取り戻す主張であると教えられてきた。

しかし、それは事実と反するのだ。

…共産主義とは億万長者の富を否定するものであるどころか、逆に彼ら以外の資本家を倒し、労働者をさらに抑圧して、地球上の全ての富を億万長者が独占するために考え出された巧妙な陰謀なのである。

ロックフェラー一族がこれまでいかに社会主義を背後から支え、共産主義の世界支配に道を開き、全ての人間を超資本主義と共産主義が結びついた世界政府の支配下に置こうとしてきたことか…」

ロックフェラー一族の最も重要な秘密 —つまりロックフェラー一族が長い年月にわたって不正に着服した財力を通して、まずはアメリカを、ついで世界全体を政治的に支配しようという恐るべき計画に従事してきた事実を否定することはできない、とマクドナルド下院議員は指摘した。

「彼ら」に言わせると、世界政府の構築は下から始めたほうが良く、各国の大衆を絶望に導きながら、徐々にその国の主権を侵食し、最終的には主権明渡しを迫るのが手っ取り早いという事です。

つまり国連を通して各国に対しトップダウンで命令を下して、全世界を支配しようとする方法はあまりに性急で露骨なため、マスコミによる大衆操作の戦略を選択し、各国の大衆に、内部問題の満足行く国際的解決方法を提案し、各国のトップが「大衆世論」には逆らえない状況に持ち込み、国家主権を次第に放棄させるように仕向けます。

米国のロスチャイルドとも言うべきJ・P・モルガン、およびジョン・D・ロックフェラー三世らの寄付によって細菌の研究所(CDC)が設立され、アジア、アフリカ、中南米の人口爆発を抑制する研究が始まります。

それがアトランタの疾病管理センター(CDC)です。

エイズ患者の80%が第三世界に集中し、アフリカでは患者の約70%はゲイ以外の人間で、アジアやブラジルの状況もこれに酷似しています。

エイズは人口が爆発的に増えている地域に発生しているのは、偶然ではありません。

これらの国々はIMF(国際通貨基金)の支援を受けている点で共通しています。

これはIMFの要求により医療費が削減され、衛生状態が極端に悪化したためとされています。

ロックフェラー家が管理する財産は1,500兆円に達するといわれています。

ロックフェラー家は、アメリカの十大産業のうちの6社をはじめ、十大銀行の6行、十大保険会社中の6社を含む200社以上の多国籍企業を傘下に置いています。

GM、クライスラー、フォード、エクソン、IBM、ゼネラルエレクトロニクス、テキサコ、スタンダードオイル、USスチール、ゼネラルフーズ、プルデンシャル、ファースト・ナショナル・シティ銀行、チェースマンハッタン銀行など、アメリカを代表する巨大企業の大半は、直接的であれ間接的であれ、ロックフェラーの支配下にあります。

こうして見てきたように、世界の歴史と国際情勢は私たちが習ってきたものとは全く異なります。世界を支配している人々は、私たちからは見えない所にいます。

アスター家、デュポン家、コリンズ家、オナシス家、李家、ケネディ家、バンディ家、ラッセル家、ファン・ダイン家、メロビング家、フリーマン家…これらの名家はロスチャイルド家やロックフェラー家と並んで、世界を動かす重要な役割を果たしています。

(『阿修羅』サイトより)

ロックフェラー財閥らの不正を追及してきた、マクドナルド米下院議員…。

彼は当時の大統領選で、パパブッシュの対抗馬となるとみられていたそうですが…、

世界統一政府樹立を目指そうとする△NIMRODの連中には、さぞや邪魔な存在だったことでしょう…。

ある日のことです…。

マクドナルド米下院議員が乗った大韓航空機は、何故か飛行コースを大きく外れ…、

ソ連の領空を侵犯し…、

やがてソ連空軍機に撃墜されてしまったのです...!?

## 『△ホーム・ラン』

---

「撃たれた～!!  
そして、何処までも何処までも飛んで行く～!!  
これは大きい～!!  
大きい事件だぞ～!!  
これは、『△ホーム・ラン』でしょうか～!?  
グーンと伸びて～、  
山やビルに～、  
入った、入りました～!!  
やはり、『△ホーム・ラン』です～!!」





って、なんなの...?

おとななのに、しらないの...?

なーんだ....

ほんとに、しらないの...?

△大韓航空機007便撃墜事件....

△911ニューヨーク同時多発テロ事件....

△日航ジャンボ機123便墜落事件....

数多くの謎を残すこの3つの事件には、共通点があります...。

あなたが、もし....

ボーイング社のジャンボ機にご搭乗の際は....

『△ホーム・ラン』システムに....

くれぐれも御用心下さいませ...。

マクドナルド議員はなぜ見殺しにされたか(EJ第1127号)

→[http://www.intecjapan.com/blog/2006/05/post\\_246.ht..](http://www.intecjapan.com/blog/2006/05/post_246.ht..)

《ブッシュ親子の自作自演テロ》

→[http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/kok\\_website/firew..](http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/kok_website/firew..)

"Home Run" Electronically Hijacking the World Trade Center Attack Aircraft

→<http://web.archive.org/web/20041208095156/http://g..>

日航ジャンボ機JAL123便墜落事故(M氏の証言\_完全版)

→<http://www.youtube.com/watch?v=Pf3-eJgnOkM&lis..>

(新)日本の黒い霧

→<http://blog.goo.ne.jp/adoi/e/7e253755b1bff9adfa15..>

「御巢鷹山の真相について」 佐宗邦皇代表WF200908例会

→<http://www.youtube.com/watch?v=Y-rbgPbmmTo&fea..>

～△NIMRODがバベルの塔を建てている間に、ノアの息子の一人であるセムが彼に裁きを告げるためにやって来た～

「読者の皆さん、貴方はアメリカに我々が想像する事も出来ない程巨大な富と権力を持った億万長者がいる事を知っておられるだろうか。

その一族は地球の各地に100ヶ所も邸宅を持ち、2,500人も使用人を抱え、語り尽くせない程贅沢な暮らしをしている。

彼等の富は大国の富にも匹敵し、一国の規模を越えて地球の全土にわたっている。

凡そ1個人乃至1家族が一国の規模を上回る私的な富と権力を持ち、この地球上に”見えない帝国”を築いている等と云う事を貴方は想像出来るだろうか。

これは全く信じられない事だが、アメリカには数世代にわたってそのような富を蓄え、金の力でアメリカばかりでなく全世界を支配しようとしている”闇の帝王”がいる。

それは誰か…、

ロックフェラーである。」

この文面は…、

共和党の保守派、ローレンス・P・マクドナルド下院議員が書いた…、

「ロックフェラー・ファイル(邦題：ロックフェラー帝国の陰謀)」の一部なのですが…、

レーガン政権時代、彼はロックフェラー財閥の不正を世間に知らしめ、追及していたと云われています...!!

悪の根源、ユダヤ金融悪魔帝国の総本山、CFR(アメリカ外交問題評議会)....、

その大ボスは言うまでもなく、ディビッド・ロックフェラーなのです...!!

ロックフェラー財閥は、過去100年に渡って....、

エネルギー、食糧、金融、医療、教育、マスゴミといった、アメリカ圏内の途方もない広範囲の分野の独占はおろか....、

CIAを手足の様に動かし、やがては米国政府そのものを牛耳る様になっていったというのです...!!

自由の国アメリカという表向きの顔とは裏腹に、悪魔大王ロックフェラーに国民の主権が奪われつつあったのです...!!

そんな最中現れたのがロックフェラーの急先鋒、マクドナルド議員でした...!!

マクドナルド議員は、議会を通じてロックフェラーの不正を糾弾し....、

これから世間から注目を浴び、やがては大統領選挙の候補として台頭する筈だった...!!

彼はさらにCFR、RIAA(王立国際問題研究所・英国)の批判や、国連の脱退も提案していたのです...!!

ところが、これが恐らく△NIMRODの逆鱗に触れたのでしょうか...!?

ある日....

マクドナルド議員は、搭乗したジャンボジェット機と共に空の彼方に消え去ってしまったのです...!?

それが、『大韓航空機撃墜事件』なのです...!!

『大韓航空機撃墜事件』は....

1983年9月1日に大韓航空のボーイング747が、ソビエト連邦の領空を侵犯したために、ソ連防空軍の戦闘機により撃墜された事件で....

日本人28名を含む、乗員乗客合わせて269人全員が死亡したとされています...!!

何と、このボーイング747型ジャンボ機『007便』に....

ソウルの式典に参加する為に搭乗していたのが、マクドナルド議員だったのです...!?

謎の多い不可解なこの事件は、未だによく判らない点が多いのです...!?

大韓航空のボーイング747が、何故ソビエト連邦の領空にコースを取ってしまったのか...!?

本当にソ連の戦闘機に撃ち落とされたのか...!?

生存者は居なかったのか...!?

問題の大韓航空ジャンボ機、ボーイング747型『007便』は....、

ニューヨークのジョン・F・ケネディ国際空港を出発、アンカレッジ国際空港を經由し、大韓民国のソウルの金浦国際空港に向かう、当時週4便で運航されていた定期便です...

ちなみに事故機には、「I LOVE NEW YORK」というステッカーが貼られていたそうです...

実は、この『大韓航空機撃墜事件』は....、

マクドナルド議員を消すために仕掛けられた、偽装事故だったのではないかと囁かれています...!?

誰の企みか...!?

証拠は有りませんが....、

やはり、マクドナルド議員を面白くないと思っている連中がやったのかも知れません...!?

何故なら、どういうわけか前もって....、

ニクソン元大統領、ヘルムズ議員、シムズ議員の3人には「『007便』に搭乗してはならない」という電話が掛かってきたのに...!?

マクドナルド議員にだけは、どこからもそういう連絡は無かったというのです...!?

もし本当に、この事件がヤツにらによって引き起こされた事件であるなら、マクドナルド議員1人暗殺するのに268人が道連れにされたというのでしょうか...!?

この事件に関する、気になる記事がありましたのでご紹介します...

【1983年大韓航空機の墜落乗客はソ連で生存?】

真偽はわかりません。

自分で調べ、判断するしかないです!

その大韓航空機はソ連空軍機が発射した2発のミサイルで大破して海中に沈んだのではなくて、樺太に近いモネロン島付近の浅い海に軟着水させられた。

乗客(この中には米国下院議員ローレンス・P・マクドナルド氏も含まれる)と乗員はソ連軍沿岸警備隊の手で洋上に浮かぶ機体から連行された。

日本人漁師等から得た目撃証言は、民間機が墜落せず軟着水した事を明らかにしている。

CIAは事件の瞬間からソ連が大規模な偽装隠蔽工作に従事していた事を知っていた。

ソ連が捜査活動をどこで実行しているのかも知っていた。

その一方でソ連は同時に墜落予想地点に関して偽りの座標を公式発表した。

加えて”おとり”の「波動音発生装置」を墜落機の実際の水没地点から約1,000キロメートル離れた公海海域の深海に設置して、米国と日本の捜査隊を欺いた。

1983年、大韓航空機ボーイング747便が、サハリン上空で爆発・炎上、乗員・乗客全員が「死亡した」とされる大韓航空機撃墜事件。

当初、原因は、ソ連(ロシア)のミグ戦闘機による撃墜等とされ、現在では北朝鮮による工作という「定説」になっている。

この大韓航空機には米国のマクドナルド下院議員が搭乗しており、マクドナルドはロックフェラーの悪行を調べ上げた報告書を議会で公表する直前であった。

大韓航空機事件は、このマクドナルドの「口封じ」を行い殺害し、そのロックフェラー告発を「回避するためのもの」であった事が、現在では常識となっている。

長年、ソ連軍の戦車等を製造して来たロックフェラーを「救うため」、ソ連が、マクドナルド「殺害」に協力し、KGBとCIAによって実行された「工作」が、この事件の真相である。

同便に搭乗する予定であったニクソン元大統領は、CIAによって「危険である」と警告を受け、搭乗を阻止されている。

CIAは事前に、「事件が起こる事」を知っていた。

CIA自身が立案・実行した「計画」であるため、事前に「知っていた」。

ソ連VSアメリカと言った冷戦の図式が、いかに「デッチアゲの虚構」であったかを、この事件は明確に示している。

大韓航空機事件でCIAと一体化し動いた旧KGBのボスとして、権力の座についた現在のプーチンのロシアにおいても、その構造は変わっていない。

実際には大韓航空機は撃墜されたのではなく、ミグ戦闘機によりロシア国内に強制着陸させられ、乗員・乗客は全員、ロシア国内の「刑務所＝強制収容所」に収容され、現在も生存している。



マクドナルド議員は、モスクワのルビヤンカ刑務所に、現在も居る。

(『世界の真実の姿を求めて!』より)

案の定、この事件もまた△NIMROD得意のウソっぱち事件なのかも知れません...!!

自分たちの都合で世間を欺き、罪のない人々を苦しめる非道さに呆れるばかりです...!!

それにしても、許せませんよね...!!

さて、ここで一つ大きな疑問が沸きます...

ボーイング747型ジャンボ機『007便』は、そもそも何故ソ連の領空を通ったのか...!?

操縦していたパイロットはCIAの人間だったのか...!?

その答えは、『ホーム・ラン』です...!!

## 威風堂々[33] 『謎の多いジャンボ機事件は△NIMRODの企みだったのか!? II』

---

～セムは△NIMRODを殺し、彼の体をいくつかの部分に切断し、使者を遣わしてすべての異教の神殿に送った～

ロックフェラー財閥の不正を糾弾しようとしていたマクドナルド議員が乗ったボーイング747型ジャンボ機が、ソ連の領空で消息を絶った『大韓航空機撃墜事件』...!!

この事件の最大の疑問は「どうしてジャンボ機がコースを誤ったのか」という点にあり、謎を解き明かすことは永遠に不可能ではないかとも思われましたが...

その18年後...

突如として、ミステリーを解決させるようなヒントが現れたのです...!!

それは、またもやボーイング社のジャンボ機による大事件...

『911アメリカ同時多発テロ事件』のことです...!!

2001年9月11日の『911アメリカ同時多発テロ事件』は...

同時に4機のジャンボ機をハイジャックされたという、世間を震撼させた大事件でした....

ニューヨークの貿易センターにある2つのタワービルに、テロ犯に乗っ取られたボーイング社のジャンボ機2機がそれぞれ突っ込み...

さらにもう1機、ペンタゴンにもボーイング社のジャンボ機が突っ込んだ…。

この事件の犯人は、アルカイダのメンバーとされました…。

当時の大統領ブッシュ・ジュニアは「テロとの戦い」を合い言葉に、アルカイダを支援する「テロ国家」イラクに戦争を仕掛け…、

米国軍の侵攻によって、最後にはフセイン大統領を殺害するに至った訳です…。

しかしまあ、今振り返ってみれば…、

よくもまあアメリカは、あんなウソっぱち・でっち上げをやったものですよね…!?

え`え`ッ…!?

まさか、あなたは今だにあれが本当にテロの仕業だと信じているのですか…!?

あの時、TVで生放送で観たから間違いないというのですか…!?

## 【9・11テロ捏造 — 日本と世界を騙し続ける独裁国家アメリカ】

### 9.11同時多発テロが捏造？

そんな馬鹿なことがあるわけじゃないか。

旅客機が突っ込んでたくさん死んだんだろ。

実行犯も確定してるし。

ところが、突っ込んだのは旅客機ではなく軍用機で、旅客機に乗っていて死んだはずの乗客は一切公表されていない、自爆したはずの犯人が今も生きていて名誉棄損で訴訟の準備をしている、

と聞けばどうだろうか？

さらにはビルが火災によって倒壊した例などないこと(あのきれいな倒れ方はビル解体のプロの手による爆破以外考えられないこと)、ペンタゴンに突っ込んだはずの機体の残骸が最初からきれいさっぱりなかったことなど、おかしなことを上げればきりが無い。

これでは、捏造を裏打ちする証拠ばかり、というよりは、テロがあったことを証明する証拠が一切ない、と言った方が正しいだろう。

事件を捏造して、それをいいがかりに他国への攻撃を仕掛ける、というのは、今ではすでに公に認められた事実となったが、アメリカが今までに散々やってきた常套手段である。

ある目的のために戦争を計画する。

次にはあらゆる手段を講じて相手から先に手を出させる(日米開戦時のように)か、自作自演で相手からの攻撃を作り出すか、である。

今回の捏造してにも当然目的があるわけだ。

(徳間書店 ベンジャミン・フルフォード著

『9・11テロ捏造 ― 日本と世界を騙し続ける独裁国家アメリカ』より)

私はかつて、この『911アメリカ同時多発テロ事件』をきっかけにして....

「アメリカ政府は世界を騙している？」のかも知れないと感ずるようになったのですが....

さらに時間の経過と共に....

「アメリカは何故イラクに戦争を仕掛けるのか？」とか、「大量破壊兵器は見つからないのに？」や、「テロ犯はどこにも居ないじゃん？」や....

「結局、アメリカはイラクの石油が欲しいの？」と疑惑も沸き....

「アメリカは狂ってる」、「国連も止めないし、世の中はおかしい」などと覚醒するに至ったのですが....

そう気付いた人々もきっと多いし、世界中の人々が疑問をもった記念すべき事件だと思います...!!

『911アメリカ同時多発テロ事件』に関しては、これまで世界中の事件研究家たちによって検証され尽くしており...

米国政府による自作自演であるというのは疑いのないところでしょう...

事件が捏造であることは、「世界まる見えテレビ」等のバラエティー番組のネタにさえする位ですから...(笑)。

実は『911アメリカ同時多発テロ事件』には、もう何年も前からシナリオが在って...

それは、やはり中東を支配するための口実にするための事件でした...!!

その首謀者は、悪魔大王ディビット・ロックフェラー、ジョージ・ブッシュ・シニアら△NIMRODの策略によるものと云われています...!!

そもそも、あのビルの元の持ち主はディビット・ロックフェラーですから...

この事件の特徴は、何とんでも「全世界に事件を生中継」という手法のいわゆるショック・ドクトリンだったという点です...!!

何故なら、中東を侵略する為には、世論を大きく動かすきっかけが欲しかった...

TV中継で全世界が観ている前で....

ニューヨークの貿易センタービルに、テロに乗っ取られたジャンボが突っ込んだり、ペンタゴンにジャンボが突っ込めば、そのインパクトは絶大....

米国国民のみならず、世界中の人々がテロ国家を非難することだろう....

そのテロ犯がイスラム教徒であるとしたなら....

太平洋戦争時のリメンバー・パールハーバーの如く、イラクをはじめとする中東に堂々と軍隊を送り込み、そして戦争できるというものだったのでしょ...!!

『911アメリカ同時多発テロ事件』で犠牲になられた人々のことを思うと、胸が痛みます....

もしこの事件が本当に△NIMRODのヤツらが仕掛けた、世間を誑かす為の自作自演だっとしたら....

自分たちの都合で世間を欺き、罪のない人々を苦しめる非道さに呆れるばかりです...!!

それにしても、許せませんよね...!!

ところで、『911アメリカ同時多発テロ事件』その中でも大変興味深いのが、ジャンボ機の疑惑なのです...!!

本当にビルに突っ込んだのか...!?

乗客・乗員はどうなったのか...!?

ジャンボ機については様々な仮説が飛び出し、世界中の事件研究家たちによって今なお論争とな

っているのですが...

そこで見えてきたモノは、『ホーム・ラン』システムでした...!!

### ■貿易センターのツインタワービルに衝突した、2機のジャンボ機■

◇ツインタワー北棟←ボーイング767型ジャンボ機『11便』(アメリカン航空)

◇ツインタワー南棟←ボーイング767型ジャンボ機『175便』(ユナイテッド航空)

仮説①：

テロ犯がジャンボ機を奪ってビルに正確に当てるのは無理。

ボーイング社のジャンボ機には、「遠隔操縦システム」があるのだ。

2機のジャンボ機は、それを作動させて乗客もろともビルに突っ込んだ。

2つのビルは、予め仕掛けておいた爆発物が破裂し倒壊した。

仮説②：

テロ犯は最初からいないし、乗客も乗っていない。

ボーイング社のジャンボ機ではなくて、軍用機にすり替えた。

無人の軍用機2機が、「遠隔操縦システム」を使ってビルに突っ込んだ。

2つのビルは、予め仕掛けておいた爆発物が破裂し倒壊した。

仮説③：

そもそも2機のボーイング社のジャンボ機は、ハイジャックされてない。

TV中継はCGアニメだった。

2つのビルは、予め仕掛けておいた爆発物が破裂し倒壊した。

### ■ペンタゴン(アメリカ国防総省本庁舎)に衝突した、ジャンボ機■

◇ペンタゴン←ボーイング757型ジャンボ機『77便』(アメリカン航空)

仮説：

テロ犯がジャンボ機を奪って低空飛行で当てるのは無理。  
ボーイング社のジャンボ機ではなくて、軍用機にすり替えた。  
無人の軍用機が、「遠隔操縦システム」でペンタゴンに突っ込んだ。

ハイジャックされたとされる本当のジャンボ機は、テロ犯はいない。  
「遠隔操縦システム」で飛行コースを変えられて、  
戦闘機で撃墜して別な場所に墜落した。

■アメリカ合衆国議会議事堂かホワイトハウスを狙った、ジャンボ機■

◇?????←ボーイング757型ジャンボ機『93便』(ユナイテッド航空)

仮説：

乗客がテロ犯と戦った挙げ句に、  
ペンシルベニア州シャンクスヴィルに墜落したとされているが、  
テロ犯はいないし、「遠隔操縦システム」で飛行コースを変えられて、  
戦闘機で撃墜して別な場所に墜落した。

あなたは、この事件をどう思いますか...!?

さて実は、この『911アメリカ同時多発テロ事件』を皮切りに、俄にクローズ・アップされた  
のが....

仮称『ホーム・ラン』...!!

これは、ボーイング社のジャンボ機に備わっているのではないかと囁かれている「遠隔操縦シス  
テム」であり....



それは何と....、

ジャンボ機のパイロットの操作を遮断し、外部から飛行するコースを強引に略奪できるという装置だと云うのです...!!

『ホーム・ラン』は本来、トラブルが起きた際に機体を安全に着陸させる為に生まれた技術らしいのですが....、

仮に「遠隔操縦システム」を悪用すれば、パイロットの操作を無視して思うのままに飛ばせるという悪魔のような行為も可能な訳なのです...!!

だとしたら....、

『大韓航空機撃墜事件』の謎が解けます...!!

△NIMRODのヤツらは、マクドナルド議員が乗ったジャンボ機を「遠隔操縦システム」によって飛行コースを操作し....、

ソ連領空に侵犯させたのではないのでしょうか...!?

そして何と、世界中を飛んでいるボーイング社のジャンボ機には、予めこのシステムが組み込まれているのではないのかという噂があるのです...!?

まさか....、

日本の空を飛んでいるボーイング社のジャンボ機も、そうなんではないのでしょうか...!?

## 『心の瞳』

---

『心の瞳』とは…、

愛する家族の為に歌った…、

坂本 九さんの最後の曲です…。

人前で歌われることなく…、

「愛する家族のため」だけに歌われた…、

幻の名曲です…。

この歌詞に込められていたのは…、

妻、由紀子さんとの永遠の愛…。

そして、家族との永遠の絆だったのでしょ…。

坂本 九さんは…、

「一番大事なのは家族です」と…、

家族を心から大切にされていました…。

(享年43歳)



『心の瞳』

うた：坂本 九  
作詞：荒木とよひさ  
作曲：三木たかし  
編曲：滝口亮介

心の瞳で 君を見つめれば  
愛すること それが  
どんなことだかわかりかけてきた  
言葉で言えない 胸の暖かさ  
遠まわりをした 人生だけど  
君だけが いまでは  
愛のすべて 時の歩み  
いつも そばで わかち合える  
たとえ あしたが  
少しずつ 見えてきても  
それは 生きてきた  
足あとが あるからさ  
いつか 若さを  
失くしても 心だけは  
決して 変らない  
絆で 結ばれてる

夢のまた夢を 人は見てるけど  
愛することだけは  
いつの時代も永遠のものだから  
長い年月を 歩き疲れたら  
微笑なげかけて 手をさしのべて  
いたわり合えたら  
愛の深さ 時の重さ  
何も言わず わかり合える  
たとえ 過去を  
懐しみ ふり向いても  
それは 歩いていた  
人生が あるだけさ  
いつか 若さを  
失くしても 心だけは  
決して 変らない  
絆で 結ばれてる

愛すること それが  
どんなことだかわかりかけてきた  
愛のすべて 時の歩み  
いつも そばで わかち合える

心の瞳で 君を見つめれば……

心の瞳 坂本九 (2008/11/25放映の「泣け歌」より)

→[http://www.youtube.com/watch?v=W\\_rjB2x6pw](http://www.youtube.com/watch?v=W_rjB2x6pw)

心の瞳 ～坂本九～

→<http://www.youtube.com/watch?v=hu5WIMjhIZA>

## 威風堂々[34] 『謎の多いジャンボ機事件は△NIMRODの企みだったのか!? III』

---

～切断された△NIMRODの体を送った使者は、すべての異教に対し「バアル、モレク、チューンなどの礼拝には、これと同じ裁きが来る」と伝え、やがてそれらの宗教は地下に潜ることになった～

1985年8月12日、歌手の坂本九さんら乗客と乗員合わせて520名が犠牲になった....、

『日航ジャンボ機123便の御巣鷹山墜落事故』 ...!!

このニュースの衝撃の大きさは、あれから20年以上経過した今でも私たちの記憶に刻まれていると同時に....、

疑問や謎が未だに解明されないままで、依然として真相が隠されていることに憤りを覚えます...!!

何故なら、あのボーイング747型ジャンボ機『123便』の墜落は....、

「ある重大な日米の政治的な問題」に、巻き込まれて起こったのではないかと噂されているからなのです...!?

つまり、「事故」ではなくて「事件」....。

いや、正確には「事件」ではなくて、「事変」ではないかとも...!?

そしてそこには、△NIMRODの姿が見え隠れするのです...!?

ネット上では、もう何年も掛けて『日航ジャンボ機123便の御巣鷹山墜落事故』を調べている方々がいるのですが…、

その彼らは常に何者かにつけ狙われ、何度も危ない目にあっているのです…!!

ということは、それだけ重大なことを私たち国民に知られたくないからなのだと思います…!!

彼らの資料を見れば不可解な事象があまりにも数多くて、この事件が単なる飛行機事故とは思えないということに誰しものが気付くことでしょう…!!

遺族の方々のお気持ちを考えると、本当に切なくなります…。

何十年経っても本当のことが明かされない限り…、

お亡くなりになられた乗客の人々、操縦士、添乗員は決して浮かばれないと思います…。

被害者の方のご冥福をお祈り申し上げます…。

【日航ジャンボ機123便の御巣鷹山墜落事故とプラザ合意は関係あるのか】

■墜落した原因については諸説ある■

大きく分けると

・機体の破損、故障による事故

・ 米国による脅し

・ 自衛隊の誤射

の3つでしょうか。

不運な事故だったとする説についてはあまり説得力を感じないのです。

理由は以下に

### ■ アメリカからの脅しであったとする説をいくつか ■

この事故はアメリカ軍による撃墜であろう。

横田基地から飛んできたミサイルによって。

日本政府に円高ドル安政策をのませる(プラザ合意)ための脅しのために。

事故=8月12日      プラザ合意=9月22日

脅されたのは中曽根首相と竹下登蔵相

偶然によるジャンボ墜落なんかあり得ない

(この大事故の1ヶ月後の9月22日アメリカ、日本、西ドイツ、イギリス、フランスの先進5カ国がニューヨークのプラザホテルで蔵相・中央銀行総裁会議いわゆるG5のプラザ合意がなされた。人為的為替市場介入が行われたのである。

そして、このプラザ合意は円高に拍車をかけ、バブル経済を呼び、ビッグバンへと向っている。)

(『ちたま研究所』より)

【プラザ合意とは】

一言で言うと、プラザ合意はアメリカの膨大な財政赤字を是正するために、アメリカのために主要先進国が通貨を介して犠牲になる合意です。

欧米に日本がはめられた(だまし討ち)記念すべき日(1985年9月22日)です。

「御巣鷹山 日航機墜落事故」はこのプラザ合意を日本に飲ませるためのいわば「脅し」だったのです。

1985年以降日本はいろんな意味で変わりました。

A級戦犯を靖国に移したのもこの時期です。

(『日本人は知ってはいけない。』より)

そう言えば、ベンジャミン・フルフォード氏もこの事件は、米国による脅しだったと主張していました...!!

彼によれば、アメリカが日本に対して力づくでモノをいわせるようになったのは、この『プラザ合意』からだと言ってますし...

確かに、この後から日本の経済がおかしくなっていたのではないのでしょうか...!?

それから、ボーイング747型ジャンボ機『123便』が墜落した原因については...

公式の発表では、「圧力隔壁の破壊」であるとされていますが...

それだけでは説得力が足りな過ぎます...!!



何故なら、事故現場に落ちていた物的証拠や目撃証言などを調べていくと、数多くの点でつじつまが合わないからなのです...!!

【日航ジャンボ機123便の御巣鷹山墜落事故とプラザ合意は関係あるのか】

## ■事故についての疑惑・謎■

世間に出回っているこの事故の謎・疑惑としては

- ・公式的な事故原因である圧力隔壁破壊説に明らかにおかしい点がある。
- ・日本側の救出部隊の動きがあまりにも遅かった。
- ・救出隊を足止めしたいくつかの事例。
- ・事故後すぐに現地に急行した在日米軍に日本政府が救出活動の許可を与えなかったこと。
- ・ボーイング社の見解が事故直後と1ヶ月後とで大きく異なっていること。
- ・生存者救出よりも先に自衛隊が事故現場から謎の物体をヘリで搬出していた。
- ・ジャンボ機の部品にあるはずのないものが事故現場から発見されている(?)。
- ・相模湾から見つかった垂直尾翼に衝突痕があった。
- ・自衛隊が民間の救助隊を追い払った。
- ・事故現場一帯を警察ではなく、自衛隊が支配していた。
- ・都合良く近くを米軍機が飛んでいた(横田基地米軍輸送機C130)。

・現場近くでは日米合同演習が行われていた。

などなど

■アメリカは日本への圧力として、下田沖で正式な日米合同演習を行いました。■

この演習の間、民間機の飛行はできません。

民間機は演習エリアを避け迂回する必要があります。

(アメリカが日本に圧力をかける記念すべき場所がペリーもそうであったように下田なのです)

この飛行禁止エリアをあのJAL123便は飛んだのです。

御巢鷹山日航機墜落事故現場、当初はなかなか墜落現場を特定できないでいたのを記憶している人もいます。

何故特定できなかったのか？

1985年8月12日何が起きたか？

(『ちたま研究所』より)

そうなのです...!!

どういう訳かあの日、日航ジャンボ機『123便』は...

下田沖で行われていた、日米合同演習の禁止エリアを飛んだらしいのです...!?

何故...!?

ここで私の仮説ですが…、

もしかすると悪魔に取り憑かれた△NIMRODは、この日…、

日航ジャンボ機『123便』の、『ホーム・ラン』システムを作動させたのではないのでしょうか…!?

実は、世界中に就航しているボーイング社のジャンボ機には、予め「遠隔操縦システム」が組み込まれているという噂があるのです…!?

まさか…!?

つまり、日本政府に円高ドル安政策をのませたいアメリカは…、

要求をきかないなら、「日航ジャンボ機『123便』を墜とすぞ!」と脅し…、

『123便』の飛行コースを、遠隔操縦によって意図的に変えて…、

下田沖の日米合同演習の禁止エリアに侵入させた…!?

そこで、アメリカ軍は誤射を装ってミサイルを発射…!?

(または自衛隊が誤射したのではないかという説もあります)

ミサイルは『123便』の垂直尾翼に被弾し…、

『123便』はコントロールを失い、低空飛行で迷走を続け…、

やがて御巢鷹山に墜落したのでしょうか…!?

『ホーム・ラン』システムのことは、『911アメリカ同時多発テロ事件』で発覚するまでは謎に包まれていました…。

しかし、現実に「遠隔操縦システム」は存在することが判ってから、『日航ジャンボ機123便の御巣鷹山墜落事故』を検証すれば…、

日航ジャンボ機『123便』を、事件に巻き込むことは十分可能だったと思えます…!!

ですが…、

もしアメリカが犯人なら、米軍が射ったのなら、どうして日本政府は隠す必要があるのでしょうか…!?

そこにはもっと重大な謎がありそうです…!?

御巣鷹山周辺には、何故だか放射能が高い数値を示しており…、

しかも近辺の村では、急死する者が後を絶たないという情報があったのです…!?

## 威風堂々[35] 『日本は戦後最大の弱みを握られたから△NIMRODに屈したのか!?!』

---

～△NIMRODの母でもある妻は、奇跡的に妊娠してタンムズという息子を産み、「彼こそ民の救い主である」と宣言、やがて偶像崇拜を始めた女祭司となった～

【中曽根元総理は真実を知っている】

日本がバブルに踊らされ、その後の不況に苦しんだ直接の原因は1985年9月のプラザ合意にある。日米貿易摩擦やアメリカの双子の赤字解消のため、先進5カ国が協調して「円高誘導」を進めるという合意だ。

このプラザ合意によって「1ドル240円」が「1ドル120円」になったのである。

つまり、プラザ合意以前に日本が保有していたドル資産があつというまに半額になったのである。

このプラザ合意の売国奴ぶりがおわかりだろうか。

しかも、円とドルのレート外国為替市場で決定されるのにもかかわらず、「協調介入」という「神の見えざる手」を冒涇する行為を政府主導でやったのだ。

中曽根総理&竹下蔵相のコンビはこのプラザ合意の張本人である。

もちろん、この合意がどんなに日本人を苦しめるものになるかを知っていた。

そしてこの当時の日本人はマスコミを通じて完全に情報統制され、真実は全く伝えられなかった。

中曽根時代は、このように1985年以降の日本政治と日本経済に大きな影を落とした、ある意味では暗黒の時代である。

郵政民営化の小泉と同じように完全にアメリカに操られ、日本を売り飛ばしたのだ。

日航ジャンボ機墜落事件は1985年8月12日。

これが、果たして偶然の一致なのか？

(『tommy先生の「世相を斬る」』より)

世間が、『日航ジャンボ機123便の御巣鷹山墜落事故』の報道に釘付けとなっているうちに、どさくさに紛れて....、

いつの間にか結ばれたプラザ合意は、明らかに日本にとって不利であり....、

どう見ても、アメリカに有利な内容を一方的に押し付けられたとしか思えないのです...!?

一体全体、何があったのか...!?

やはり、日航ジャンボ機『123便』の墜落は△NIMRODの罠だったのでしょうか...!?

ある方がこんな事を云いました....。

「アメリカは、あの事件によって日本の戦後最大の弱みを握ったのだ」、と...!!

何と、日航ジャンボ機『123便』には....、

日本国内で密かに製造していた、『核兵器』(あるいは核兵器の材料)が積まれていたという説があるのです...!?

え`え`ッ...!?!?!?

当時の中曽根総理は、自衛隊の『核』武装を秘密裏に進めていた...!?

一般国民には内緒で、日本で『核兵器』を製造していた...!?

それを民間航空機を使って運んでいた...!?

信じられない...!?

事故当日は、日航ジャンボ機『123便』に医療用のアイソトープに偽装した『核』が運び込まれた...

機長は、自衛隊出身のベテラン・パイロットが任務に当たった...

東京から大阪に空輸される、日本製の『核』 ...。

ところが、△NIMRODはお見通しだった...

事件の当日、アメリカはこうして...

米軍を使って、日航ジャンボ機『123便』に嫌がらせをすることで...

つまり、日本政府を脅したというのです...!?

あなたは信じられますか...!?

■日本ですでに核兵器が製造されているという情報があります。■

長野県の某所で密かに稼動する核施設でプルトニウムが取り出され、岩手県にある表向きは民間施設の軍需工場で原水爆を製造し(コバルト)、日本近海の孤島にある貯蔵施設に隠されているそうです。

しかもその原材料であるウラン精鉱(イエローケーキ)は北朝鮮から入っています。

その島の周辺では、近年魚の大量死といった不審な出来事が続いたため調査したところ、自然界に通常存在している値の実に600倍に相当する放射能が検出されました。

現在は民間人が立ち入り禁止になっており、近づくことさえできません。

日本は本来、非核三原則によって核兵器の保有、開発、持ち込みを禁止していますが、それに対する法的な拘束力もありません。

日本の場合、アメリカの核の傘で守られることになっていますが、アメリカが日本を守る保障などどこにもありません。

ですから「日本の国土と日本人を守るためにやむを得ず、核を自前で装備するしかない」と考えるのは、ある意味自然な成り行きかもしれません。

何しろ日本には技術力もあるし、お金もあります。

密かに製造して持っても何の不思議もないのです。

そうした情報は、意外と身近なところにありました。

私の父はかつて科学技術庁に勤めていました。

その父は、秀才だった従兄を呼び寄せて入庁させ、ある時期一緒に働いていたことがあります。



その従兄の妹と私は歳が近かったこともあり、よく連絡を取り合っていたのですが、ある時、彼女がこんな話をしました。

「兄さんは行き先も言わないで出張することが多いんだけど、おじさん(私の父)もそうだったの？」

私の父は会計畑だったこともあり、出張することはあまりなかったのですが、技術畑の従兄は何かの開発に携わっていたようで、繰り返し出張していました。

彼の妹は、ひょっとしたら核兵器じゃないかと疑っていたようです。

もしそうであれば、従兄が仕事の内容を家族にも一切話さなかったのは当然です。

出張先も言わなかったようで、真実は今もって闇の中です。

ただしある時、私が従兄に「日本で核兵器は製造できないの？」と尋ねると、従兄はこう答えました。

「できないも何も、アメリカだろうとフランスだろうと、日本の技術がないと核兵器は製造できないよ。  
日本がその気になれば2ヶ月で製造できる。」

核兵器を積んだミサイルを飛ばすためには、ICチップにせよ半導体にせよ、日本製の部品が必要なのです。

アメリカの対テロ戦争にも使用されているステルス機にも使われる、レーダーに捉えにくい塗料は日本でしかできないし、小松製作所が特許を持っているパワーショベルやブルドーザーは発射台などの施設を作る際に不可欠なものです。

ちなみに可動式の発射台に使われる、1メートル当たり80トンの荷重に耐えられるレールは、日本でしか作れません。

あとはプルトニウムですが、その入手も難しいことはありません。

一番難しいのは、核兵器を製造することよりも、その事実を隠すことなのです。

そして事実、日本は核兵器を製造し、その事実を隠すために過去に何度も大きな犠牲をはらってきました。

## ■JAL123便の真実■

核兵器に使うプルトニウムが、長野県にある極秘の核施設で取り出されているという話を聞いて、私にはピンとくるものがありました。

それは1985年8月に起きた、JAL123便の墜落事故との関連です。

この墜落事故は実は、金属疲労による事故ではなく、自衛隊と米軍による戦闘の結果でした。

一連の事件を目撃した地元の人々が、何度も入山して航空機の残骸を拾い集め、25年以上にわたって調査を続けた結果、見つかったのは123便の機体だけではなく、米海兵隊所属のプロペラ機RC-130の着陸装置、地对空ミサイル・レッドアイの弾頭部分、黒い塗装で偽装した米空軍所属F-106の機体破片など、膨大な量の残骸だったのです。

JAL123便が撃ち落された主な理由は、アメリカが誘導した円高に反対していた関西財界の大物4人を暗殺するためでした。

1985年8月、アメリカは日本に対して「円高にしてほしい」と申し入れましたが、関西財界の大物4人が強く反対し、再度の話し合いでも物別れに終わりました。

しかしこの事件には、実はほかにも理由がありました。

実は、123便は「核」を積んでいたというのです。

国内で製造した核を積んで大阪に運び、大阪港からどこかへ積み出す予定であったというのです。

アメリカは、日本が密かに核兵器を製造していることを疑っており、その証拠を押しえたいと内偵していたところ、JAL123便で運ばれるという情報をキャッチし、現物を押しえるために黒い塗料で偽装した所属不明機でJAL機を付け狙いました。

日本にしてみれば、アメリカを出し抜こうとして核兵器を秘密裡に製造していたので、現物を押しえられると非常に困ります。

そこで機体もろとも海中に沈めてしまおうということになり、海上で米軍機に撃墜されるように仕向けたのでした。

しかし、JAL機の機長は思いのほか優秀な人でした。

日本政府は、JAL機側には積み荷の中身を伝えておらず、ただ「貴重なものである」ということで、ベテランのパイロットの搭乗を要求しました。

そこで自衛隊出身であり、飛行技術に長けた腕利きのパイロットである「高濱雅巳操縦士」をその任に就かせました。

彼は戦闘訓練を積んでいるので、米軍によって尾翼が破壊された時点で、すでに人為的攻撃であることに気づいたようです。

すぐさま、高度1,000メートル以下の超低空飛行へと切り替えました。

この高度ならレーダーに捉えられないからです。

ただしそのために、以後、123便は管制レーダーからは消えてしまい、周辺の航空管制官はJAL機を助けたくとも、その機影を追うことさえできなくなりました。

ですから異常発生後の正確なルートは、今もってわかりません。

その後の事故調査の状況から推察すると、羽田にも降りられず、横田基地にも降りられず、海上着床の望みも絶たれ、行くあてを失ったJAL123便は、突如として現れた自衛隊機に誘導されて、長野方面に向かったようです。

機長にしてみれば、「これで助かった」と思ったでしょう。

ところが自衛隊機は、JAL123便を助ける気など、さらさらありませんでした。

米軍にかぎつけられたことを知り、証拠品である「核」を消すために、追って来ている米軍機だけではなく、JAL123便の乗客もろとも、すべてを消し去ろうとしていたのです。

自衛隊機は逃げまどうJAL123便を誘導し、秘密基地のある高天原(たかまがはら)まで誘い込み、待ち構えていた地上部隊のレッドアイで米軍機もろとも撃墜しました。

こうしてJAL123便は、高天原山中にある御巢鷹山(おすたかやま)の尾根へと墜落したのです。

そのやり方は徹底しています。

JAL123便とそれを追っていた米軍機はもちろん、誘導した自衛隊機、それに諜報活動中であったNSA(米国家安全保障局)の偵察機、さらに異変を察知してついて来ていただけのロシア軍のスポーイまで、ことごとく撃ち落したのです……。

自衛隊は墜落後も徹底した証拠の隠滅を行いました。

事故直後から「おかしい」と気づき、山に入って調査した人がいて、当日、山を縦走していた登山者らの目撃情報などを聞いて回り、その謀略の一端をつかんでいます。

それによると、登山者らが墜落現場近くに入った午前2時ごろには、助けを求める人々の声が多数聞こえていたそうです。

しかしながら現場は険しい斜面の場所でけもの道さえなく、なかなか近づくことができません。

そのうちヘリコプターが飛んできて、何かを撒いたとたん、それまで聞こえていたうめき声や物音がピタッとやみ、あたり一帯に静寂が訪れたそうです。

このヘリコプターの行動について、生存者を残さないために、現場にフッ化ホウ素を撒いたのではないかと、複数の専門家たちが分析しています。

その後、事故を目撃した地元の有志たちが生存者を救うべく入山しようとする、すでに自衛隊がバリケードを築いており、近づくことができなかつたと証言しています。

なぜ最も近くにいた地元住民より、自衛隊が先に現場に到着していたのか。

それが事故ではなく撃ち落したものだということを、如実に物語っています。

おそらくその時すでに、核兵器の残骸などの「証拠品」は回収され、闇に葬られたのでしょう。

その事実を突き止めるべく、調査している人の話を聞きましたが、彼は今も狙われています。

(徳間書店 田村珠芳著『ついに宇宙人が最終戦争後のシナリオを用意しました』より)

日航ジャンボ機『123便』が墜落してから今年で27年目の夏が訪れます…。

墜落現場の御巣鷹山から半径50km以内では、今でも不自然なモノが見つかったり…、

この近くの村では、原爆症と思われるような病気で苦しむ人がみられるといいます…。

すべてを知る人物、中曽根元総理は…、

「事件の真相を墓場まで持っていく」と語ったそうです…。

## 【速報】青い目のサムライの予言が当たった!!

---

どうして日本が、こんな国になってしまったのか...!?

どうして世界が、こんな状況になってしまったのか...!?

誰のせいなのか...!?

「青い目のサムライ」こと、ベンジャミン・フルフォード氏は...

こうした全ての疑問に答えています...!!

TV・新聞マスゴミは、ヤツらの都合のいい報道しか伝えてません...!!

ですから、あなたにも世界の裏側で何が起きているのかを知って欲しいのです...!!

【フルフォード2/20：『3月31日』の期限が300人委員会へ通告】

Ben Fulford: A March 31st deadline has been delivered to the committee of 300 by the gnostic "illuminati" faction

スポークスマンである、アレクサンダー・ロマノフによると、アメリカ、フランス、ロシア革命を起こしたと称するグループが、300人委員会に3月31日の期限を申し渡した。

これに加えて、ハリー王子は、このグループに連絡を取り、英国王室の支配権をエリザベス女王から奪取することに同意した。

1ダースにも及ぶ職位の高い銀行家の辞職、英国での15兆ドルの詐欺、イタリアにおける6兆ドルの詐欺の告知のような、警告がまじめであるしるしが見られる。

イタリアの場合には、逮捕されたものの中に前首相のシルビオ・ベルルスコーニが含まれているのが注目される。

これに加えて、今週には、ホワイトドラゴン社会の代表とアジア大陸のドラゴンの代表との会合が予定され、事務レベルの経済計画エージェントの設立を話し合う。

又、アイルランド、プロトガル、ギリシャ、スペインは、ローンは不法に行われたものであるとして、銀行に返済を行わないと宣言した。

これがムーディーズがシティーバンク、ゴールドマンサックス、バンクオブアメリカ、ドイツ銀行など、114の金融機関の格付けを下げた理由である。

これらはFRBを所有する金融機関で、ペンタゴンのソースによると、FRBは間もなく閉鎖される。

言い換えれば、これらの国は、デフォルトを宣言し、その負債を支払うのは、一般市民ではなく、銀行である。

世界銀行、クレディ・スイス、インド銀行総裁の辞職、及びゴールドマンサックスの総裁の計画辞職はハザール銀行独占体の完全な解体の始まりである。

あらゆる詐欺によって作り出された金は、世界の金融コンピューターシステムから抹消されると、この解体に携わっている者は言う。

イタリアでの6兆ドルの詐欺の場合は、主要な集合体宣伝メディアが報道した、初めてのケースであることが注目される。

イタリアの新聞も、今ではダボス世界フォーラムに対するネイル・キーナンによる訴訟、ベルルスコーニ、国連による1兆ドルの窃盗事件などについて報道している。

8人の逮捕はフリーメーソンのP2支部に対して取られた行動の具体的なしるしである。

これは、これまで法律を無視して行動をし、バチカンや国連のような機関の上に立っていた人たちがもはや逮捕から逃れられないことを意味している。

英国上院でのブラックヒース卿による告知では、15兆ドルがインドシナ皇室の家族から、FRB議長のベン・バーナンキ、米国財務長官のティモシー・ガイトナー及びユウスケ・ホリグチによって盗まれた、と言う。

これはもう一つの大変化のしるしである。

この上院での証言のうちで、最も面白いことは、サッスーン卿という名前が挙げられていたことである。

サッスーン家は、アヘン戦争と日本の植民地化で利益を得たファミリーで、この名前がとうとうスポットライトを浴びたことが面白い。

サッスーン卿は、証言で明らかのように、15兆ドルの事件ですでに偽証をしている。

彼も逮捕されるのものと思われ、査問がすぐに開始されよう。

米国においても同様に、水面下で変化が続いている。

ペンタゴンはすでにハザールの悪魔的影響を排除し、企業、銀行、及び専門的組織を支配するよう決定した。

組織の中の高位の者の逮捕は、米国医療協会、米国歯科協会、精神医学及び心理学協会、酒場協会、商工会議所、そして言うまでも無く、ワシントンD.C.の一带について行われる。

ペンタゴンのソースによると、特に、製薬、及び化学企業、マイクロソフトやモンサントのような悪魔的な企業も対象となる。

多くのソースによると、ラーム・エマニュエル、カール・ローブ、ポール・ボルフォビッツ、ドナルド・ラムズフェルド、J・ロックフェラー、ブッシュ及び種々のネオコンも逮捕の対象である。

これらの告発の根拠は、これらの逮捕が実際に行われてから明らかにされる。

その時までは、まだ、実際に起きるのかどうか疑問の余地はある。

日本においては、告発についての明らかな証拠がある。

日本における黒幕は、革命を起こすと決めている。

彼らは大阪市長の橋下徹を新しい政権のリーダーに推している。

特に注目すべきことは、2人の辛らつな、しかし大きい影響力を持つ黒幕が2人とも橋下を支持していることである。

シオニストの手先も橋下に協力して、道具にしようとしている。

この様なことは起こってはならない。

日本の政権政党である民主党の黒幕であるロックフェラーの小使いである小沢一郎と前首相の、ヨーロッパ王室のために働くフリーメーソンである鳩山由紀夫も、3月にMPの大グループを中国につれてゆき、金融、その他での支持を得ようとしている。

これについては、成果無く帰国することがすでに決定されている。

(日本語訳『ふるやの森』より)

フルフォード氏の予言通りに、この数日後...

現在世界の裏側で起きている勢力争いの結果と思われるような、驚くべき情報が飛び込んできた



のです...!!

ひよっとすると、このピンチを生かすことによって....、

私たちの日本そして世界中が、△NIMRODの支配から解放されて....、

本当の意味で独立国家を構築出来る、最大のチャンスかも知れないのです...!!

【300人委員会・イルミナティ絶賛大崩壊中! 中央銀行総裁、金融トップが続々辞任! 世界はベンジャミン・フルフォードの言う通りになる】

世界銀行ゼーリック会長が辞任

ドイツのクリスチャン・ラフ大統領が辞職

ルーマニア首相と内閣が総辞職

4人の聖職者がバチカン銀行業務スキャンダルで告発

韓国為替銀行総裁が辞職

クウェート中央銀行総裁が辞任

ニカラグア中央銀行総裁が辞任

ケニア中央銀行総裁が辞任

イラン銀行のトップが辞任

スイス中央銀行のトップが辞任

ギリシャ銀行のトップはギリシャを去る

ニュージーランド準備銀行総裁が辞任

ロシア銀行の規制当局のヘッドが辞職

オーストラリア&ニュージーランド銀行グループのトップが辞任

イギリス：上級の個人銀行家が辞職します(クーツの私立銀行)

イギリス：サランダソン・ハウス銀行の最高経営責任者が辞職

イギリス：ロイズ・ホールセールズのトップが辞任

フランス：ソシエテ・ゼネラルの投資金融最高責任者が引退

スペイン：サンタンデル銀行のアメリカ最高責任者が辞任

スロベニア：最大の2つの銀行のCEOが引退

スイス：クレディ・スイスプライベート銀行のチーフアジアエコノミストが辞職

スイス：UBSの日本インベストメント・バンキング議長、松井泰樹が辞職  
オーストラリア：ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド、豪州部門のトップが辞任  
日本：野村ホールセール・バンキングのトップが辞任  
アメリカ：ゴールドマン・サックスのロイド・ブランクファインの後任の準備  
インド：Tamilnad商業銀行のトップが辞任  
インド：Dhanlaxmi銀行の最高経営責任者が辞任  
インド：Kotak Mahindra銀行のトップが辞任  
インド：Beed地区銀行で多くの取締役が辞職  
パキスタン：AJK銀行のトップが辞任  
サウジアラビア：サウジHollandi銀行の経営責任の取締役が辞職  
ガーナ：データバンクグループの経営幹部議長が辞任

これには驚いた。

この数ヶ月で、ここまで多くの中銀総裁や金融関係者が辞任を発表するとは。

明らかに、先週フルフォード氏が述べていた

「The resignation of the heads of the World Bank, Credit Suisse, the Bank of India and “planned resignation” of the head of Goldman Sachs is just the beginning of a complete dismantling of the Khazarian banking monopoly.」

(世界銀行、クレディ・スイス、インド銀行、およびゴールドマン・サックスの会長の辞職は、サタニスト銀行業務独占の完全分解の始まりです)

時期は前後しますが、これに呼応する動きです。

名目上“辞任”とありますが、これは大半が逮捕や拘束されたとみていいでしょう。

(2012/2/25 『News U.S.』より)

【超速報・ガイトナー逮捕!!! アメリカ完全終了! 司法取引後釈放へ 『イルミナティ逮捕ブーム到来か』】

米財務長官ガイトナー、ついに逮捕!!!

フルフォード氏のメルマガネタばかりになりますが、  
しかし、またしてもとんでもない情報が入ってきました。

やはり、先日報じたFRBの16兆ドル不正融資に関連しているようです。  
逮捕は時間の問題ではないかと思いましたが、まさか2月中とは・・

#### ◆ 日中韓、封印された技術の開発競争が本格的に始まった

先週、ホワイトドラゴン関係者と韓国政府機関との間で交渉が行なわれた。  
その結果、現段階における幾つかのことが明確になってきた。

まず、これまで封印されてきたエネルギー技術などの開発・商品化に向けた競争が、日本、韓国、中国の間で既に始まっている。

韓国政府は、アメリカの技術者数十人を韓国の釜山(プサン)に招き、将来的に韓国を新技術開発における世界の中心地にする計画を持っている。

ところが現在、日本と中国のある団体も実は同じアメリカ人技術者たちを自国に招き入れる計画を立てていて、この3ヶ国は既に技術者の争奪戦へと動いている。

また韓国政府は以前から模索されていた朝鮮半島の南北統一に関して、ホワイトドラゴン財団の提案に賛成の意を表明している。その提案を踏まえ、北朝鮮の金正恩(Kim Jong An)が南北統一の象徴として形式的な高位につき、全体の意思決定は従来のアジア式根回し型の政治過程で進められることになりそうだ。

今後は、非公式に水面下で議論されていたことが正式に政府レベルの話し合いへと移行することになる。

こうしてアジアが新しい時代に向けて動き出す一方で、欧米支配階級による旧世界体制は着々と崩壊へと向かっている。

つい先日も、アメリカのティモシー・ガイトナー財務長官がNY検察により逮捕された、との情報が寄せられた。

ガイトナーは司法取引に応じて彼の知りえる情報を次々と暴露し、現在では既に釈放されている

。

ただし国外逃亡など不審な行動を防ぐため、米当局の見張りが彼に四六時中張り付いて監視しているのだという。

(『ベンジャミン・フルフォード有料メルマガ2012/2/27号 Vol.164』より)

フルフォード氏の言うことが次々と現実のものになる。

フルフォード氏は、本物です。

彼はジャーナリスト、革命家を通り越し、今や予言者となりつつあるのです。

彼の言う事がここまで当を得てくるとなると、

「3月31日までに300人委員会の大粛清が始まる」

という発言が本当に、本当に現実のものとなる可能性が出てきました。

既に他のサイトでも話題になっており、騒然となりつつあります。

今はまだ信じられない人が大半かもしれませんが。

フルフォード氏を信用しない人、フルフォードって誰?状態の人、様々でしょう。

しかし、水面下では死闘が繰り広げられ、そして明らかに悪い勢力が負けつつあるのです。

あとは欧州のバチカン、ロスチャイルド本丸を粛清するだけです。

その日は刻一刻と迫っています。

最後の最後まで油断せぬようにすべきですが、次々と入るポジティブニュースには本当に驚かされます。

(2012/2/27 『News U.S.』より)

## 威風堂々[36] 『福島第一原発が△NIMRODテロの標的になった理由とは!?!』

---

～△NIMRODの母でもある妻は女祭司となり、人々は天の女神が救い主であるわが子を抱いている像を拝むようになった～

1985年『日航ジャンボ機123便の御巣鷹山墜落事故』の直後に日米で結ばれた「プラザ合意」から、日本の経済はおかしくなっていました…。

それ以降、日本は完全に悪魔の△NIMROD連中の支配下と成っていったのかも知れません…!?

この25年余りの間、次々と変わる日本の首相とアメリカの権力者(CFR)との間で、何があったのか判りませんが…、

ひょっとすると日本政府は、今日までずっとアメリカに脅され続けてきたのではないのでしょうか…!?

その目的は様々考えられますが、一番は日本のおカネでしょう…。

例えば、毎年毎年ドンドンと買わされ続けてきた米国債、その額何と1,000兆円…!!

泥棒国家アメリカによって、私たちの血税がこんなに吸い上げられてきたんです…!!

しかも米国債など紙切れ同然、恐らくアメリカはお金を返す気などサラサラないのでしょう…!?

きっと『311東日本大震災』という同時多発テロは…、

「TPPに参加しろ!!  
もっとカネをよこせ!!  
言うこと聞かないなら、地震兵器で火の海にしてやるぞ!!」と....

悪魔の連中に散々脅され続けた拳げ句に、仕掛けられたのではないのでしょうか...!?

....

しかし、『311テロ』の最大の標的が何故、福島第一原発だったのか...!?

その理由として、まさかと思うようなある仮説が流れているのです...!?

【4号機爆発の謎 核兵器製造疑惑 ありえない水素逆流説で真相隠蔽に必死の東電】

■東電はあいかわらず、4号機爆発は3号機からの水素逆流が原因だと言っているが、何の根拠もないデタラメであることをはっきり指摘しておこう。■

言うまでもなく水素は最も軽く逃げやすい気体で、閉じ込めておくのは極めて難しい。地面近くの排気管まで下がって横に流れ、隣の建屋に入り込むことはまずあり得ない。

3号機建屋の最上階天井から1階まで水素が充満しなければ排気管には到達しない。建屋の気密性はあまり高くないから、あちこち隙間からどんどん漏れてしまう。仮に水素が3号機建屋全体に充満していたら、もっとすごい爆発になり、下層階までメチャメチャになっていたはずだ。

また排気管は4号機と共有の排気塔につながっており、4号機に流れ込む前に煙突から上空に放出されるはずだ。

百歩譲って4号機に逆流したとしても、3号機爆発、つまり水素流入が止まってから20時間も後に爆発することはない。

定期検査で機材過重積載のところに大地震に襲われ、ヨレヨレ、ひび・隙間だらけの4号機である。

そんなに時間があったら水素はほとんど外へ逃げてしまうし、たとえ残っていてもわずかで、あれほどの大爆発を起こすことはないだろう。

■もう一つ、ブローアウト・パネル開放の可能性もある。■

1号機の水素爆発で慌てふためいた東電は、2号機海側のブローアウトパネルを大急ぎで開放し、間一髪で水素爆発を防ぐことができた。

煙を噴いているあの角穴である。

下には落下したパネルが写っている。

当然、3、4号機にも同じ対策をしようとしたはずだ。

3号機には落下したパネルが見当たらない。

おそらく充満した水素濃度、あるいは線量が高くて作業ができず、もたもたしているうちにあの爆発が起きたのだろう。

4号機はどうか。

2号機同様、パネルが落ちているのがはっきり写っている！

東電は黙っているが、爆発前にパネルが開放されていた可能性が高いのだ。

そうなら穴が開いている建屋に軽い水素が20時間も滞留することは絶対にない。

いや逆流どころか水素爆発でなかった可能性が大きい。

かつて4号機燃料プールで検出されたヨウ素131を東電は3号機から飛んできたと主張し、ガンダーセン氏にあり得ないと一蹴されたが、今度は水素がやってきたと同じウソを言っている。

■東電が必死で爆発原因を隠蔽しようとするのはなぜか？■

使用済み燃料プールで燃料溶融が起き爆発したことを隠すためか？

その危険性はすでに政府・東電は認めており、起きたとしても隠す意味はない。

それに公開された燃料プール映像を素直に見る限り、健全であり溶融等は起こっていないようだ。

となると爆発の原因はおそらく原子炉内部にしかない。

東電は4号機原子炉は空だと言っているが、公衆安全ネットワーク氏などが指摘しているように、発煙の位置、自衛隊撮影のサーモグラフから、炉内に発熱体があるのは明白である。

もし燃料集合体をいくつか燃料プールから移動していたのなら、なぜそう発表しないのか？  
国民に知られたくない理由があるからではないか？

■一部では、福一では核兵器用プルトニウムの製造、保管が密かに行われていたと指摘されている。■

とくに、燃料集合体を頻繁に交換し、プルトニウムを効率よく抽出していたのではないかと、というハタ次男氏のブログの指摘は興味深い。

これだけひどい事故、広範囲の汚染を引き起こし、これからおぞましい被曝被害が始まる。

どうあがいても原子力産業は終わりだ。

この期に及んで、ウソをついて事件を矮小化しようとしても無意味だ。

それを一番良く知っているのは東電だろう。

それにもかかわらず真相を必死で隠し続けるのはなぜか。

単なる原発事故ではなく、国民に絶対知られたくないことがあるのではないか。

疑惑を晴らすためにも、東電は水を抜いた空の原子炉の映像を公開すべきだ。

(水を抜けば軽くなり、倒壊しにくくもなるはずだ)



水が抜けないのなら燃料プールと同じように水中カメラ映像でもよい。  
簡単である。

あわせて4号機の爆発映像も公開すべきだ。  
映像がないとは言わせない。  
常時数十台のカメラがあちこちで監視しているはずだ。

それができないのなら、4号機炉内にはあってはならない燃料があり、国民にはとても公表できないことをしていた。  
それが爆発の原因だと疑われてもしかたがないだろう。

大バカ揃いのマスゴミと違い、われわれ国民は東電が考えるよりはるかに賢いのだ。  
デタラメ逆流説でだませると思ったら大まちがいである。

(2011/11/14 『阿修羅』 より)

福島第一原発に『核兵器』製造疑惑...!?

まさか、信じられない...!?

でも確かに、311事故の当時4号機は、定期点検作業中で原子炉に燃料棒は装填されてなかったにも関わらず水素爆発したのは不思議だなと私も思っていました...

もしも、公式の発表では4号機内に燃料は無い筈が、実は隠してあったとしたら...!?

それにしても、福島第一原発内で...

『核兵器用プルトニウム』の製造と保管が密かに行われていたなんて、絶対にあり得ませんよね...!?

【福島第一原発に秘密の地下施設があった？

日本は核兵器を開発していた!】

## ■「日本は核を持て」と言う石原都知事■

『福島第一原発事故の直前、平成23年3月9日、朝日新聞に「石原都知事が核武装論」英紙報道「中国に対抗」という記事が掲載された。』

「英紙インディペンデントは8日、東京都の石原慎太郎知事が同紙とのインタビューで、中国の脅威に対抗するため、日本は核兵器をつくるべきだとの見解を述べたと報じた。

記事は石原氏が、日本は1年以内に核兵器を開発することができ、世界に力強いメッセージを送れるとの見方も示したとしている。」

石原都知事のインタビューの直後、3月11日に福島第一原発の事故が起きた。

これは偶然なのか？

## ■福島原発で核兵器を開発していた？■

福島原発の地下に秘密の施設がある？

福島第一原発にある共用プール。

建屋の地下に巨大な施設がある？

汚水流入で共用プールの地下施設の存在が発覚!

報告が遅れたのは地下施設を隠したかったから？

『東電が地下の約9トンのたまり水報告せず テレ朝 8月16日』

「福島第一原発の共用の使用済み燃料プールがある建屋の地下で、放射性物質を含む約9トンのたまり水が新たに見つかった。

たまり水は、水深約1センチ、水量約9トン。

大地震で電線の管を通すトレンチにひびが入り、低濃度の放射性物質を含む地下水が流れ込んだとみられる。」

共用プール地下に何らかの施設がある。

施設内の円柱状の物体は核弾頭や核ミサイルを連想させる。

資料では地下施設が黒く塗りつぶされている。

福島第一原発事故の直前、東京都の石原慎太郎知事は英紙インディペンデントとのインタビューで、日本は核兵器をつくるべきだと述べ、日本は1年以内に核兵器を開発することができ、世界に力強いメッセージを送れるとの見方を示した。

このインタビューの直後、3月11日、東日本大震災が起こり、福島第一原発の事故が起きた。

テロか偶然かはともかく、石原氏の発言に根拠が無いとは言えない。

海外では「福島原発で核兵器開発」という報道がされており、副産物として原爆の原料であるプルトニウムが手に入る。

むしろ、福島第一原発では東京電力の発表では説明できない不思議な事象が続いている。

例えば、停止中だったとされる4号機の原子炉には核燃料が存在するように見えるし、南側の壁から何かが漏れている。爆発の原因も解らない。

4号機の地下には放射能汚水が多量に溜まっているが4号機の使用済み核燃料プールには水漏れがないという。それでは4号機の原子炉が再臨界して穴が開いたことになる。

共用プールにも謎がある。異常がないとされていた共用プールの地下施設に放射能汚水が流入したことを隠していたのはなぜだろうか？ 地下に秘密の施設があるのだろうか？

夜間になると4号機と共用プール周辺から水蒸気が噴出する光景が観察できるが、この付近にある地下施設も被災したのだろうか？

福島県が極端な安全論者である山下俊一教授をリスクアドバイザーに任命し、必死で放射能汚染の実態と健康影響を隠そうとしているように見えるのはなぜだろうか？

福島第一原発の事故がテロであっても不思議ではない。

政治家が「日本は1年以内に核兵器を開発できる」などと公言すれば、確実にテロの標的になる。

(2011/9/4『原子力緊急事態宣言』より)

もし....

もしも、国民に隠しながら日本国内で『核兵器』を製造、あるいは『核兵器』に転用できる一歩手前のモノをこしらえていたとしたら....

日本は、イランの核開発疑惑をどうのと言えないし....

当然ながら、日本政府も東電も一般市民の前では本当のことが言えない訳です...!!

だとしたら、『311テロ』の最大の標的が福島第一原発だったとしても....

決して不思議ではなかったのです...!?

～古代の人々は△NIMRODの母子像を礼拝し、聖水を注ぎ、宗教儀式を受けることによって罪が清められると信じた～

『311東日本大震災』発生から1年になろうとしている中で…、

何処からともなく聞こえてきた、日本の『核』開発疑惑の噂…!!

それは何と…、

福島第一原発では前々から、秘密裏に『核兵器』を製造、あるいは『核兵器』に転用できる一歩手前のモノをこしらえていたのではないかというのです…!?

だから、福島第一原発は『311テロ』の標的にされたのではないか…!?

国民に真実を明かせない日本政府は、悪魔の△NIMROD連中にズルズルと弱みにつけ込まれていたのではないか…!?

私も信じたくはないのですが、その可能性がまったく無いとは思えません…。

何故なら、こんなニュースがありましたから…。

【朝鮮中央通信：日本は事実上すでに核武装】

朝鮮の国営通信社である朝鮮中央通信は5日付論説で「日本は事実上すでに核武装しており、非核について語る資格はない」として、日本が国際社会で「非核化」を呼びかけることの合理性に疑

問を投げかけた。

中国青年報が伝えた。

論説は過去半世紀余りの日本の「核の歴史」を振り返った上で「日本は『核武装国』であり、非核について語る資格はない」と「結論」づけている。

論説は「歴史」について次のように論じている。

「非核三原則」発表から間もない1969年6月、佐藤栄作首相(当時)は参議院で、政策の変更や内閣の交替によって、非核三原則はいつでも見直されうると述べた。

1978年3月、福田赳夫首相(当時)は衆議院予算委員会で「武装力(自衛隊)に核兵器を配備することもあり得る」と述べた。

1980年代、中曽根康弘首相(当時)は軍国主義煽動の先頭に立ち、核兵器保有の必要性をしばしば強調し、さらに核兵器保有は日本国憲法に合致するとまで吹聴した。

1995年、日本は核兵器製造技術を掌握していると主張した。

2002年、ある日本政府高官は記者会見で「核兵器によって独立した防衛能力を高めることができる。核兵器を拒絶する理由はない」と述べた。

(Nov/7/2011 『人民網日本語版』より)

う～ん....

強気で何とも意味深な、歴代総理の発言は気になりますね...?

しかし私たちニッポン国には....

世界に誇る『非核三原則』(日本は核兵器を持たない・作らない・持ち込ませない) があるじゃないですか...!!

ですから、日本で『核』兵器の開発など絶対あり得ませんよね...!?

ところが、昨年NHKのある番組で、『非核三原則』を提唱した佐藤栄作首相に関するガッカリするような暴露があったそうなのです...!?

### 【核武装を目指した日本】

今年の10月。

NHK『スクープドキュメント 核を求めた日本』が放映された。

この番組が福島原発事故の後に放映されていたなら相当話題になったかと思う。  
それは原発の本質を示唆する内容が多く含まれていたからである。

番組は佐藤栄作内閣の時代に外務省のトップを勤めた「村田良平」元外務事務次官のインタビュー映像から始まる。

村田氏は語る。

日本政府の考えは『日本の至大な利益が犯される場合は、核兵器を持つ選択肢を完全には除外しない』であったと。

ストレートに言えば『日本はいつでも核兵器を持つ意思がある』という事になる。

佐藤栄作は、周知のごとく1968年に「非核三原則」(核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず)の国会決議を行った総理大臣である。

1974年には日本人初のノーベル平和賞を受賞した。

受賞理由の一つは「非核三原則」で平和貢献をしたからだという。

その佐藤栄作政権下に、日本政府は密かに核武装を目指していたという、大いに矛盾するショッキングな内容が、この番組がスクープドキュメントを名乗る理由である。

当時の時代背景は次のようなものであった。

第二次大戦終了後、米ソの冷戦体制が続く中で各国の核武装は進められた。

1964年に中国が核実験を成功させ、アメリカ、ソビエト、イギリス、フランスに続いて核保有国

となった。

つづいてインドをはじめ数カ国も核武装を進めていた。

核兵器の拡散を恐れたアメリカはNPT核拡散防止条約を取り決め、米、ソ、英、仏、中以外の国への条約調印を迫っていた。

日本はのらりくらりと条約調印を拒否していたが、その理由は『条約に調印すれば永遠の二流国に甘んじる事になる』であったという。

当時の日本政府の首脳陣は核兵器を持つ事が一等(一流)国の条件であると考えていた。

中国の核武装やインドの核開発に危機感を持った佐藤は、密かに核兵器開発の可能性の調査を命じた。その結果は『核弾頭(原爆)を数個所有する事は容易である』であった。

1965年のジョンソン米国大統領との会談で、佐藤は個人的意見としながらも、日本は核兵器を持つべきだと主張した。

さらに日本はかつての同盟国であり、日本同様戦後の経済発展に成功した西ドイツに、核武装に関する意見を求めた。

(2011/9/6 『ミスターフォトンの浮世鍋「原発は核兵器製造所」』より)

『非核三原則』を提唱して日本人初のノーベル平和賞を受賞した佐藤栄作首相ですが....

ところが表向きの顔とは裏腹に、彼は密かに『核』武装を目指していたなんて...!?

しかも....

【ノーベル平和賞と日本の非核三原則の欺瞞】



ノーベル平和賞で思い出すのが、1974年にノーベル平和賞に輝いた佐藤栄作元首相（安倍元首相の大伯父、祖父岸信介元首相の弟）です。

その授賞理由は、同氏が日本の“非核三原則”(日本は核兵器を持たない、作らない、持ち込ませない)を宣言したからです。

この非核宣言は、ある意味、オバマの非核宣言とよく似ています。

したがって両者、ノーベル平和賞の対象であるのは確かです。

しかしながら、今回、政権交代が起きたおかげで皮肉にも、70年代の佐藤首相時代、日米政府間の密約があって、それ以降、日本政府は在日米軍基地への核兵器持ち込みを黙認してきたことがほぼ明らかになっています。

72年、日本に返還された沖縄(今は日本国土)に立地する米軍基地には当然ながら核兵器が秘密裏に装備されているということです。

つまり日本の非核三原則は真っ赤なウソだった!

つまり佐藤首相は、世界をだましてノーベル平和賞をもらったということです(辞退しておけばよかったのに、名誉欲に目がくらんだ)。

このように自公与党時代の日本は30年以上も日本国民と世界の人々を欺いてきたのです。

これは今後、世界の歴史に残る日本の汚点となるでしょう。

CIAのエージェントだった岸信介といい、世界をだました佐藤栄作といい、伊藤博文元首相を筆頭に明治維新以来、問題だらけです。

(2009/10/11 『新ベンチャー革命』 より)

【ノーベル平和賞をめぐる】

平和賞受賞は、上記の通り非核三原則の制定などが評価されてのものであった。

しかし、平和賞を選考するノルウェーのノーベル平和賞委員会は、2001年に刊行した記念誌『ノーベル賞 平和への100年』の中で、

「佐藤氏はベトナム戦争で、米政策を全面的に支持し、日本は米軍の補給基地として重要な役割を果たした。

後に公開された米公文書によると、佐藤氏は日本の非核政策をナンセンスだと言っていた」

と記し、受賞理由と実際の政治姿勢とのギャップを指摘した。

この記念誌はノルウェーの歴史家3名による共同執筆で、同年8月の出版記念会見の際にその一人のオイビン・ステネルセンは「佐藤氏を選んだことはノーベル賞委員会が犯した最大の誤り」と見解を述べて当時の選考を強く批判し、「佐藤氏は原則的に核武装に反対でなかった」と語ったという。

2009年に、沖縄への核持ち込みに関する密約の合意文書が佐藤家に保管されていたことが明らかになった。

さらに、2010年10月に「NHKスペシャル 核を求めた日本」において、佐藤内閣下で、極秘に核保有は可能か検討が行われていたことが明るみになった。

西尾幹二は、佐藤が核武装論から変節したことが日本を墮落させた、と批判している。

佐藤はノーベル平和賞の受賞記念講演の原稿を作成した際に、助言を求めた学者の意見を入れて「非核三原則を世界各国も導入することを望む」という内容の一節を入れたが、最終的に削除した。

これについて上記「NHKスペシャル」では、佐藤が最終稿を作る前に、来日したアメリカのキッシンジャー国務長官と面談した影響を指摘している(キッシンジャーは、「何をとぼけたことを言い出すのか」と反発したという)。

(『ウィキペディア』「佐藤栄作」より)

う～ん....

私たちが信じていた『非核三原則』(日本は核兵器を持たない・作らない・持ち込ませない)などと実はハッキリ、国民を騙していたのです...!!

日本政府はアメリカの『核』の持ち込みを隠していたのです...!!

こんな調子ですから、国内で秘密裏に『核兵器』を製造していたとしても、ちっとも不思議ではないのです...!!

福島第一原発は、『核兵器』製造工場だったのか...!?

青森県六ヶ所村にある「ウラン濃縮工場」や「核燃料再処理施設」も、やはりそうだったのか...!?

あなたはどう思いますか...!?

## 威風堂々[38] 『福島第一原発は核兵器製造工場だった!? 日本の核に△NIMRODを見た!?』

---

～背教者たちの形式では、太陽神△NIMRODのことをバアルとして知られ、多くの国々で、オシリス、ジュピター、バッカスなど様々な名前に変わっていった～

原発の設計とは、そもそも発電の目的のために造られてないそうです...!?

内部に原子炉がありますが、あそこで『核兵器』を造る構造なのだとか...!?

原子炉でウラン燃料をぐらぐら煮て、それを取り出して固めれば...

アッという間に『核兵器』の出来上がり...(驚)!?

そのときに発生する熱と蒸気で、ついでに発電も・出・来・ま・す・よ...(笑)!?

だから、発電設備としてはもの凄く効率が悪い...

原発は飽くまでも、『核兵器』を製造するための設備...

発電は、オマケ...(笑)!?

え`え`ーッ、そうだったの...!?!?!?

問題は、それを如何にして国民を騙すか...

時代を遡っていくと、そこには日本の核兵器にまつわる影の歴史があったのです...!!

【平和利用の名の下で核物質を手にした日本】

1969年2月。

日独秘密協議は秘密裏のうちに箱根の旅館で行われた。

西ドイツの出席者は当時政策企画部長エゴン・バール氏他参事官2名。

日本側は村田氏(佐藤栄作内閣の時代に外務省のトップを勤めた「村田良平」元外務事務次官)と外務省幹部の2名であった。

この席上で日本側は「ドイツと日本が超大国となるには両国の密接な連携が必要」と切り出した。

東西二国に分断され、冷戦下の最前線であった西ドイツが慎重な姿勢に終始する中、日本側は中国やインドのアジア諸国の核武装に危機感と日本の核武装を訴え、次の点を強調したとバール氏は語る。

「日本は憲法9条があることで平和利用の名の下に、誰にも止められることなく原子力の技術を手にした。

日本は核弾頭を作るための核物質を抽出する事が出来る」

バール氏を驚愕させた日本側の強気な発言の根拠は何であったのか。

それはこの当時本格的な商業発電運転を開始したばかりの日本原子力発電、東海発電所〈茨城東海村〉であった。

日本の原子力発電は1963年10月26日に茨城県東海村で動力試験炉を用いて発電に成功したのが最初である。

これを受け継ぎ、1965年には日本原子力発電〈電力会社9社と日本電源開発の共同出資〉がイギリスのコールダー・ホール改良型原子炉を導入し、東海村において16.6万kWの実用発電の運転を開始していた。

内閣調査室の調査結果では、この原発は原爆の材料となる純度の高いプルトニウムが年間100kg〈

長崎型原爆10個分に相当する生産可能であった。

当時の東海発電所の技術責任者であった武田克司氏は、日本政府の核武装計画に驚きを見せながらも、原発が核兵器に利用される事は認識していたが、誰しものが触れてはならない「タブー」であったと述懐している。

(2011/9/11 『ミスターフォトンの浮世鍋「原発は核兵器製造所」』より)

国民には「平和目的」と納得させた上で踏み切った、原発の導入...

この原発の設備を利用すれば、いつでも『核』兵器の製造が可能という計算があったのでしよう...

戦後の日本、政府によって秘密裏に『核』武装しようとしていたことは、どうやら事実のようです...!!

だとすれば、『日航ジャンボ機123便の御巣鷹山墜落事故』の真実を、国がひた隠し続けるのも頷けます...!!

しかし、まだよく判らないのはその後のこと...

最近まで、日本製の『核』を海外に輸出していたのではないかというのです...!?

つまり、悪魔の△NIMRODの支配下にされた日本の原発は...

ここ20余年の間に、アメリカの『核』弾頭製造の下請けに成り下がっていたのではないでしようか...!?

その上で....

311事件の当日、CIA工作員を使って福島第一原発に危害を加えて....

弱みをエサにして日本政府を脅したのではないか...!?

まだまだ謎が多いのです....

【フクシマは核兵器製造工場?】

フクシマの地下で密かに核兵器、或いは核弾頭原料が製造されているとの情報がWEB上でも流れていますが、ある情報筋によると、福島原発の使用済み核燃料は、現地で再処理(プルトニウム濃縮)され、輸出されていたそうです。

主な輸出先はアメリカ。

その他ソ連や世界各国も直接なり間接なり顧客にはいたようです。

アメリカはそれを何に利用していたのか?

核弾頭は時間と共に自然劣化が進むため、劣化した核弾頭を新品に取り替える為に大量のプルトニウムが必要となります。

現在アメリカには9,400発の核弾頭(内 戦略核弾頭2,126発)があり、1967年には3万発以上保有されていました。

フクシマの稼働した1970年代から80年代にかけては、2万5千発前後で推移しています。

この大量の核弾頭の品質保持の為に常時核物質を新鮮なものに取り替えてやらなければならない、つまり核弾頭は生鮮品なのです。

廃品は「劣化ウラン弾」として、湾岸戦争・ボスニアヘルツゴビナ・911WTCビル爆破・アフガニスタン・イラク戦争等で消費されました。

大量の需要はどうやらアメリカの原発だけでは賄うことが出来ず、その供給源を日本に求め、若狭や福島原発銀座の建設(1970年代に稼働)へと繋がったようです。

WEB上で論じられているように、この情報が真実だとすると、日本の原発推進の裏にはとても複雑な流れがどうやら交錯しているようです。

日本は第2世界大戦中、原爆開発の先進国でした。

理論の日本、技術のドイツ、原料のアメリカ、と形容してよいのではないのでしょうか。

日本の原爆開発と云うと、一般に日本のノーベル賞第1号「湯川秀樹」のことを頭に思い浮かべると思いますが、現実には理論と開発を行ったのは「仁科芳雄」博士。

湯川はGHQに仁科博士の研究成果を横流ししたことによってそのご褒美としてノーベル物理学賞をもらったのです。

湯川はアメリカ留学中、原爆の父：オッペンハイマーと親交があった。

オッペンハイマー一族は元々はドイツの財閥で南アフリカでダイヤモンドと金鉱山の経営(ウランも?)を行って財を成し、現在はロスチャイルド・ファミリーの中に組み込まれているようだ。

ノーベル賞を得たラインはきっとこの辺りにあるのだろう。

さて、戦後の日本では岸信介のアメリカへの面従腹背(? : なのか、アメリカの指示なのか?)と正力松太郎(読売新聞社主)によって、日本の原発開発が進められるが、現実には大きく動かしたのは田中角栄。

田中角栄の賄賂の証拠書類が「偶然間違えて」コーチャン委員会に配達された(ロッキード事件)のは、角栄が脱石油・原発独自開発に踏み切ったからとも、アメリカの頭越しで中国と提携したから。

とも云われている(現在の中国の躍進の基礎は、まず毛沢東：八路軍の実戦中核部隊となった満州残留の旧関東軍に、次に田中角栄以来の技術移転にある)。

こうして角栄亡き後の原発利権を握ったのが中曽根康弘。

そう、映画「沈まぬ太陽」の利根川泰司首相、その人である。

ちなみにこの時の配役に実際の人物を当てはめてみると、

竹丸副総理      金丸信(竹下登との合成か?)

十時官房長官      後藤田正晴



道塚運輸大臣 三塚博  
龍崎一清 瀬島龍三(元 伊藤忠会長)

海軍主計局出身の中曽根は、1954年当時から自民党原発推進の旗頭であり、読売：正力と共に原子力発電を強力に押し進めて来た張本人である。

そして瀬島龍三は、陸軍参謀として、満州残留の関東軍将兵をソ連に売り飛ばした人物として有名で、政商として伊藤忠商事を大躍進させた人物。

ロッキード事件では、田中角栄が賄賂を受け取ることで失脚したが、実際の賄賂を受け取った額は日本国内では中曽根の方が遥かに大きい。

と伝えられている。

そして、

1983年1月17日 中曽根首相の浮沈空母発言  
1985年8月12日 御巢鷹山事変(JAL123便撃墜事件)

へと繋がって行く。

浮沈空母発言は、ソ連の爆撃機に対する強い態度表明と云うことだが、ソ連の戦略爆撃機(核ミサイル搭載)の日本の領空侵犯を許さない構えを備える。

と云うことはつまり日本が戦略核ミサイル武装をする。

と云うことに他ならず、すでにこの時、いつでも核ミサイルを組み立てられる準備ができていたのであろう。

と云う結論に論理的には達する。

そして、1985年の「御巢鷹山事変」。

一般報道では、圧力隔壁のボルトが緩んでウンたらカンたらと寝ぼけたことをほざいているが、実際に起こったのは、韓国から飛来した真っ黒にボディを塗りつぶして国籍不明とした当時最新鋭のアメリカ空軍F106による123便の撃墜。

熱探知ミサイルを4発搭載し、内2発は核弾頭を搭載。

そのすべてが123便に発射された。

その直後、現地で起きたアメリカ・ソ連・日本軍の三つ巴の戦闘で、3カ国で推定500名の将兵が翌朝までに死亡しているらしい。

と、ブログ「新・日本の黒い霧」では調査レポートされている。

同ブログ主を中心に2010年5月16日、江戸東京博物館で開催された「御巢鷹山事変 真相解明シン

ポジウム」では、民間現場到着第1号の方の貴重な目撃証言に始まり、この戦闘行為の目的や、この事変を起こした周辺状況等が余すところなく披露された。

その内容は主に7つの部分から構成されていた。

- 1) 現場到着 民間第1号が現場で見たもの
- 2) JAL123便撃墜ドキュメンタリー
- 3) ターゲットとなったJAL123便搭乗者(日独のドル切下げ反対主力)
- 4) JAL123の積載物と現場の核反応
- 5) 現場に出来た揚水ダムと東電疑惑
- 6) 御巢鷹山事変後に急転直下のプラザ合意(ドル大幅切り下げ)
- 7) 闇に蠢く集団と、中曽根康弘・瀬島龍三、日本の核武装

結論から云うと、JAL123便には、核兵器(或いはその材料)が積載されていた。

当時、羽田はアメリカからマークされていた為、民間旅客機で一旦、伊丹に送り、そこから中国へ飛ばすと云う作戦を当事者たちは立てたようであり(ネットで出回ってる医療用のアイソトープの荷物は放射線カモフラージュ用と思われる)、その首謀者は 中曽根康弘と瀬島龍三と思われる。

日本は中国の核兵器開発を後押ししていたのだ。

夏目雅子が白血病で亡くなったのは、人気TV番組「西遊記」の撮影を核実験の行われたゴビ砂漠で行った為と云われている。

実は、1970年の「よど号ハイジャック事件」も、JAL機に積載した核爆弾原料を北朝鮮経由で中国に渡す為だったと云われている。

「新・日本の黒い霧」によると、御巢鷹山の戦闘では、アメリカ空軍と日本軍が交戦している。アメリカ海軍はこの戦闘に際してグアムから偵察機を何度か飛ばしてるがそのすべてが撃墜されている。

アメリカ空軍が撃墜したのか、日本軍が撃墜したのか？

アメリカ軍の内部は(と、云うより日本も含めて世界的に)、陸軍(&空軍)vs 海軍(&海兵隊)が犬猿の間柄にあり、日本の核開発に関して、或いは核兵器の世界的拡散に関して、両者とそれぞれの背後に居る勢力にはどうやら方針が真逆にあるように見受けられる。

つまり、日本の核兵器原料の供給とその流通を推進する勢力とそれを阻止しようとする勢力だ。

御巢鷹山事変は明らかに、そしてひょっとしたら311も、こうした大きな枠組みの中で起きた事件として捉えることが出来るだろう。

そう、日本にはアメリカ陸軍の一部勢力によって裏打ちされた軍官産学複合体としての核兵器開発勢力が存在してるのである。

その頂点に立つのが東京電力。

東電は日本政府の国策子会社ではなく、日本政府の上に立ち、日本の軍官政産学を傘下に従える利権集団なのである。

ちなみに東電+電事連の年間広告費は800億円で、2位のトヨタの700億を上回り、メディアへの接待交際費にも年間800億円を費やしている。

つまり年間1,600億円が東電(電事連)から大手メディア会社に流れているのである。

それにしても800億円もの接待交際費、どうやって使うのだろう???

今回の311は、この昭和初期に確立された日本軍国主義の頂点に立つ「東京電力解体」へと向かう歴史的エポックとなるだろう。

すでに核兵器は無用の長物となっている。

核ミサイルを発射したと同時にその場で撃ち落とす電磁波兵器が配備されているのである。

オバマの「核廃絶」とはつまりこのことなのだ。

アメリカは、ロシアは、そして日本も既に核兵器を必要としていない。

これらの国々の軍事関連技術は一般技術の遥か20年先の技術まですでに開発済みであり、それらを秘密(兵器)としているのである。

国家安全保障と云う観点に於いて最新テクノロジーの「秘密兵器」は当然のことながら最も重要なアイテムとなる。

(2011/11/1 『nueq lab』より)

【アルバム】思い出の町『石巻市』～311前の風景～①













【アルバム】思い出の町『石巻市』～311前の風景～②







遊覧船 **ナンバゴリャ丸**  
 元旦の大笑点で日本一に認定  
 TOKIOの城島と面白対決で勝利  
 笑点の桂歌丸もビックリ  
 所さんのダーツの旅で大爆笑  
 全国面白名物案内人でナンバーワン  
 海の底も見る 超人気船 左折1分  
 年中無休 一周50-60分 定員12名 0225  
 24-0277









私の思い出の町、「宮城県石巻市」は…、

市町村単位では最も大きな被害がありました…!!

見慣れた、ふるさとの風景は変わり果てた姿となってしまいました…!!

そして、あの日を境に人々は…、

みんな、大好きだった人と離ればなれになってしまいました…!!

現在の死者は3,279名・行方不明者629名と、市民のじつに50人に1人が犠牲になったのです…!!

あれから1年が経ちます…。

石巻市内の復旧作業は急ピッチで進み…、

一時は流されてきたクルマや船で塞がれた道路もすっかり取り除かれ…、

流された橋も仮設橋が架けられ、再び通行できるようになりました…。

しかし、街道沿いは壊れた建物が取り除かれポツカリと空間だらけ…、

骨組みだけ残して、今にも崩れ落ちそうな建物があちらこちらに…、

また、壊れた校舎が使えず、他の施設で間借りする学校や....、

JR線は今だ寸断され公共の交通機関は不便....、

激しい地盤沈下のため、満潮や大雨で水浸しになる危険箇所だらけ...。

なお、瓦礫の完全撤去にはあと2年掛かるだろうと云われています...。

罪のない人々に恐怖と苦痛と不安を与え....、

私たちの暮らしを、平和な日々を奪い去られてしまったという....、

この辛さは全く消えていません...!!

果たして、心の傷が癒されるのは何時になるのでしょうか...!?

私は....、

『ふるさと破壊した311同時多発テロ、△を一生恨みます!!』

【東日本大震災】 【津波】 今迄見た中で一番衝撃的な大津波の映像

→[http://www.youtube.com/watch?v=GtG\\_e9pwWmk](http://www.youtube.com/watch?v=GtG_e9pwWmk)

【東日本大震災】 宮城県石巻市 地震、津波後の街 1

→<http://www.youtube.com/watch?v=tcUEDNfx6XI>

2011年の日本の地震 分布図 Japan earthquakes 2011 Visualization map (2012-01-01)



→ <http://www.youtube.com/watch?v=eKp5cA2sM28>

## 威風堂々[39] 『311東日本大震災は、△NIMRODによる同時多発テロだった!?!』

---

～△NIMRODは「神」、母親妻セミラミスは「女神」の原型となり、後の文化や社会に浸透していった～

【水深5,000メートルの泥にセシウム 東北の太平洋、原発放出】

東日本大震災の震源域である東北地方の太平洋海底で、水深約5,000メートルの深海の泥から、東京電力福島第1原発事故で放出されたとみられる放射性セシウムが検出されたことが、産業技術総合研究所(茨城県つくば市)などの研究グループの調査で分かった。

セシウムが検出された泥は水深約120メートルから約5,000メートルまで広く分布。全体として高濃度ではないが、測定結果についてグループの池原研・産総研副研究部門長は「おおむね、福島県に近いほど濃度が高い傾向にある」としている。

グループは今年夏、宮城県・仙台沖から岩手県・大槌沖の海底(水深約120～5,000メートル)で堆積物を採取。採取場所の13カ所全てでセシウムを検出した。同時に採った海底の生物からは検出されなかった。

(2011/12/23 『MSN産経ニュース』より)

こんな記事が昨年末に、全国の朝刊に掲載されたことがあります…。

さて、5,000メートルもという深海から、何でセシウムが検出されるのでしょうか…!?

これが福島第一原発の事故で漏れ出した放射線物質だという説は、あまりにも無理があるのではないのでしょうか…!?

私はピンとききました…。

実はこのニュースは、『311東日本大震災』が、悪魔の△NIMRODが首謀した「人工地震」であるという一つの証拠なのです...!!

### 【3.11はアメリカによる人工地震】

<中丸> アメリカの潜水艦が、核爆弾を三陸沖や福島沖の地底10キロメートルのところに、しかも同じ経度のところに8箇所くらい埋めたんです。

で、そういうことをすると、周波数が狂ってしまうんです、だから茨城県で地震の少し前、3月4日頃だったかと思いますが、イルカや鯨が50数頭打ち上げられていましたよね。

それから、時限装置、もしくはリモートコントロールでこれらの爆弾を爆発させ、地震を誘発させたんです。

私の大学院時代の友人の中には、今、ペンタゴンにいる人間もいるし、米国政府の中にいる人間もいるので、そのようなソースからの情報によると、今回アメリカの潜水艦が核爆弾、つまり原爆を海底に仕掛け、そして離れていくときの影響で、艦隊の海底の両側の岩盤が落ちてしまった。

そのために潜水艦自身が座礁してしまったりして、地震の規模が大きすぎたことで、ちょっとやり過ぎてしまった、という話になっているようです。

あれほど被害が出るとは思わなかったみたいです。

そこで、海軍の幹部3人くらいが軍法会議のようなものにかけて更迭されてしまったと。

要するに、アメリカと日本の長年のマッチポンプの関係において、「脅して金を取る」という「脅し」の部分が過ぎてしまったということらしい。

今回のことが前もって計画されていたというのが分かるのが、原子炉に強く影響の出る場所を選んでいるということと、地震の約3ヶ月前に、プルトニウムを何らかの形で導入していたということです。

プルトニウムは漏れてしまうと人体に与える危険性の非常に高いもので、放射性元素の中でも特に、身体や内臓を強く損傷させる作用を持ちます。

これについては記者会見のときに、保安院の人がポロツとこぼしていましたね。

「アメリカから、汚染した水を海に流すように言われた」と。

プルトニウムを入れた汚染水を海に流せば証拠が消えるじゃないですか。原子炉も爆発したのではなくて、爆発させていますよね。

原子炉に関しても、なぜイスラエルの会社に全部丸投げして安全管理を任せているのか。

日本は原子力発電の分野において、世界に輸出できるような優秀な技術を持っているはずなのに……。

さらに津波の直撃を受けた直後、「闇の権力」の息がかかった2人の作業員が「あること」をしました。

それは、核燃料棒が収納されている圧力容器などを冷やすための初動を阻止したことで、それによって、核燃料棒をプールの水から露出させ、数日後には水素爆発させることに「成功」したんです。

<竹本> やはり、そうだったんですか……。

<中丸> 太平洋戦争中、1944年のアメリカのドキュメントの中に、「いざとなったら、日本の沿岸に核爆弾を埋めてやろう」という記録が残っています。

<竹本> それは聞いたことがあります。

<中丸> 彼らは今回、それを実際にやったといえるでしょう。

イルミナティのある人に、「これはあなた方がやったんですか」といったら、「人口削減において日本は一番のターゲットだ」と。

「できれば日本は全滅させたい」みたいなことを平気で言うんです。

何しろ現在の70億の地球人口を20億人程度にしたいわけですからね。

<竹本> 僕自身は霊能者ではないのですが、実は地震が来るのが直前に分かる人間なんです。ちょっと不思議な体で、十二指腸の調子が元々よくないのですが、地震の前になると、必ず十二指腸が疼(うず)くんです。

そして地震が終わると十二指腸が治る。(笑)

ところが、それが今回はなかったんです!

だから人工地震説というのは正しいかもしれないです。

そういえば、3.11の2週間前にニュージーランドで起こった地震についても、同じように考えられていますか？

<中丸> これも、まったく同じですよ。

クライストチャーチの地震だって、前日に100頭以上もの鯨が座礁して海岸に打ち上げられていましたよね。

やはり潜水艦の動きのせいで周波数が狂ってしまったからと思われます。

今回の地震で、地底の岩盤までが動き出しているみたいです。

<竹本> 3月以降、地層が10メートルくらい動いているみたいですね・・・。

<中丸> ヒラリーさんは、地震後の4月17日に来日しましたね。

このときの彼女はアメリカの代表である国務長官としてというよりも、まるで「闇の権力」の使者としてやって来たように見えました。

たった5時間の滞在の間に、菅さんら政府要人、そして天皇陛下にも会いましたよね。

地震から間もない時期に天皇陛下も被災地を訪問したりして、まだお心を痛めている状況なのに、国家元首でもない人との会見に応じなければならない、というのも由々しきことです。

この来日は、表向きには、災害のお見舞いと支援を表明し、日米同盟をアピールするということでした。

しかし裏では、皇室への何らかの要求と、それ以上に無謀な政府への要求があったようです。

お金をくださいと言ったって、天皇はサインなんてしないですよ。

アメリカの金融体制と軍産複合体と戦争の仕組みが崩れ始めて、私腹を肥やせなくなってきたという理由から彼女が来日したのは明らか。

彼女は何らかの要求をしたはずですよ。

私はあの大地震後、すぐに中国に行ったんですが、同時期に、東京電力の会長や、中部電力、中国電力の役員クラスも皆中国に行っていたそうですね。

中国は、発電と送電を別々にしようと、もう動いているそうです。

日本でもそういう話が出てきているので、その件でちょうど視察に行っていたようです。

そんなときに、あのタイミングで事故が起きたんです。

温家宝さんが、「あの緻密で勤勉、規律的に優れた日本人が携わっていながら、あれだけの事故を起こすというのなら、中国だったら大変なことになる」といって、100基ほどもあった中国の原発新設計画を凍結したそうです。

ちなみに温家宝さんの話を聞いてみると、四川省での(大地震の)体験があったので、日本の震災直後にレスキュー隊や災害救助犬など地震の専門家たちを、150人ほど送り込んで協力したいと迅速に日本政府に連絡したそうです。

でも、しばらく返事が返ってこない。

そこで再度連絡を入れたら、150人のゼロを1つとって、15人だけ受け入れるという返事をもらったそうです。

その一方で、アメリカからは1万5,000人の兵を入れているわけです。

まったく日本は、どこまでアメリカにベッタリなのかという・・・。

<竹本> 日本が海外からの支援を断っていたことは、後に問題になっていましたね。原発に関しては、ドイツも撤廃に積極的だし、スイスも中止の方向のようです。

<中丸> スウェーデンもそうだし、他の国もそういう流れになってきています。これを機に中止しなければダメですよ。

日本の首相官邸には、「IAEA(国際原子力機関)」から送り込まれた、デヴィッド・ウォーレットというアメリカ人がいて、3月17日からずっと官邸に住み込んでいたようですね。

彼はIAEAの上から3番目のポジションの人だそうですが、アメリカ大使館やワシントン、そしてウィーンにあるIAEAの本部と連絡を取りながら、菅さんに全部の指示を与えていたそうです。そして菅さんは、それをそのまま受け入れていたそうです。

菅さんが時々、周囲に何の相談もなく思いつきをポンポンと言っていたのは、こういうことなんです。

側近の人でさえ、この現状を知らなかったそうです。

(VOICE 中丸 馨×竹本 良『UFO五次元東京会議』より)

この様に....

中丸 馨氏によると、311の「人工地震」はアメリカが仕掛けた、核爆弾によるものと断言してい

るのです...!!

アメリカは潜水艦を使って、三陸沖や福島沖の地底10キロメートルのところに、核爆弾を8箇所くらい埋めておいた...!?

いや、水爆を3つ仕掛けたという説もあるのですが...

この核爆発によって破壊された断層は、広範囲に渡って崩れ落ちて...

太平洋沿岸に、大津波を引き起こしたのです...!!

先に記述した5,000メートルの深海から検出されたセシウムとは、この核爆弾から生まれたものだったのではないのでしょうか...!?

しかもヤツらは、福島第一原発の安全システムにも悪魔のような仕掛けをしていたのです...!!

あそこを管理していたイスラエルの管理会社ですから、安全システムを狂わすコンピューター・ウィルスをおぼせるなど容易かったのではないのでしょうか...!?

つまり、『311東日本大震災』は、アメリカとイスラエル合同による『311同時多発テロ』だったという訳なのです...!!

こうして、悪魔のような『311同時多発テロ』は...

大勢の人々に、途方もない恐怖と苦痛と不安を与え...

私たちの健全な暮らしを、平穏な毎日を、無惨に引き裂いたのです...!!

もしも、『311東日本大震災』が....、

△NIMRODが操るアメリカとイスラエルによって起こされた、『311同時多発テロ』であることを  
全国民が知ったらどうなるでしょう...!?

2万人の善良な、何の罪もない市民を虐殺した証拠がハッキリ出てきたらどうなるのでしょうか...!?

果たして東北の被災者は、どんな気持ちになるのでしょうか...!?

#### 【HAARPとは人工地震装置】

「HAARPは、ニコラテスラの無線送電のアイディアに基づき、MITの学位を持つ物理学者バーナード・イーストランドの発想を実現させたものと思われる。

電離圏は電波に対して反射体の役割を果たしているが、その中で最下層のD層と呼ばれる電離層と大地の間で超低周波の電波が反射しあって全地球的な規模の電波共鳴現象が起きている。

この共鳴現象のことをシューマン共振と呼び、その共振周波数は8ヘルツである。

テスラはこのシューマン共振を利用して無線送電を試みたものであるが、バーナードイーストランドはこれを発展させて、電子ビームを電離圏に向けて送ることを考えた。

彼はそれによって特許を取得(USP4686605その他)。

これは、当初気象改造及び、敵のミサイル破壊についてのものであったが、HAARPはそれを地震を発生できるものに更に発展させたものであろう。」

「ウクライナのテレビの解説者は、深度10キロの地震は、地震兵器によるもので、日本の大震災を、アメリカの地震兵器によるものと、断定した。

ロシアのテレビでは、日本の次は、アメリカの地震兵器でロシアがやられると、叫んでいる。」

(2012/2/22 『ツイート・テレビ』より)



この様に、311の大震災がアメリカが隠し持つ地震兵器HAARPによるものという説も根強いのですが...

井口和基博士は、『311同時多発テロ』は核爆弾とHAARPの併用であると主張しているし、私も同感です...

まだまだまだ検証する必要がありますが、いずれにせよこれは自然現象ではありません...!!

海外では311は、ハナっから怪しいとの噂がありましたが、こ、ここまでハッキリ人工地震だと断言されるとなると...!?

もかすると311が自然災害だと未だ信じているのは、一般市民だけなのかも知れませんよ...!?

日本政府は、隠してないで国民に本当のことを話すべきです...!!

真相を明かさないう限り、『311東日本大震災』から1年...

いや何年経過しようとも...

犠牲者は決して浮かばれません...!!

ですから、『311東日本大震災』は、まだ何も終わってないのです...!!

あなたも、そうは思いませんか...!?

## 威風堂々[40] 『△NIMRODの311が核爆発による人工地震だったのは100%間違いない!?』

---

～△NIMRODが死んで太陽神が創造されたとき、母親妻セミラミスは、タンムズという息子を産んだ～

繰り返しますが、中丸 馨氏の主張通りだとしたら....、

『311東日本大震災』は、アメリカとイスラエル合同で起こした自然災害に見せ掛けた「テロ」であり....、

大地震の正体は、ヤツらが仕掛けた核爆弾による「人工地震」なのです...!!

日本政府に「TPP参加や消費税増税せよ」といった圧力を掛けていたCFRは....、

前もって深さ10キロメートルの海底に潜水艦を使って核爆弾を埋めて於いて、あの日遂に起爆させた...!?

この核爆発によって破壊された断層は、広範囲に渡って崩れ落ちて....、

太平洋沿岸に、大地震・大津波をもたらした...!!

一方、福島第一原発では....、

安全を管理しているイスラエルの会社によって意図的に狂わされた冷却システムは、制御不能に陥ってしまい....、

最悪のメルトダウンと、放射能の拡散という最悪の爆発事故を起こした...!!

官邸にはアメリカの要人が乗り込んできて、GHQの如く日本政府をアゴで使って事故処理させた...!?

大地震が核爆弾であることを誤魔化するために、福島第一原の汚染水を太平洋に捨てさせた...!?

米軍による「トモダチ作戦」で復興支援を装ったマッチポンプは大成功、日本から100兆円とも云われる大金をまき上げることに成功した...!?

何と恐ろしいことでしょう、本当に許されないことです...!!

札付きの日米安保マフィアの面々、カート・キャンベル、マイケル・グリーン、R.アーミテージ、ジョセフ・ナイといったCFRの連中を徹底的に追求すべきです...!!

そして、『311同時多発テロ』首謀者である△NIMRODの連中....、

ジョージ・ブッシュ親子、ヘンリー・キッシンジャー、悪魔大王デイビッド・ロックフェラーを即刻逮捕するべきです...!!

こいつらが手下どもを使って、「人工地震・人工津波」を起こし、福島第一原発の事故を引き起こした張本人なのです...!!

こんな気違い連中に、私たちの日本をボロボロにされて....、

私は本当に悔しいです...!!

一般国民は、ヤツらの都合のいいことしか流さないマスゴミによるマインドコントロールに掛かっていることに気付くべきです...!!

ともかく日本政府は、国民に対して『311東日本大震災』の真相を一刻も早く....、

嘘偽り無く、すべて正直に話すべきです...!!

何故、本当のことを言わないのでしょうか...!?

どこまでアメリカの言うなりになるのでしょうか...!!

あなたは どう思いますか...!?

まだ信じられませんか...!?

今年に入ってから、『311東日本大震災』が「人工地震」であることが疑いようのない有力な証拠が出ているんですよ...!!

以下は、井口和基博士がまとめたものです...

あなたも、その事実をしっかりと確認して下さい...!!

【無視された東日本大震災大津波で、核兵器が使用された証拠。】

一見したところ、ここにある情報は非常に秀逸である。

おそらく、これで今回の311大震災が核爆発による人工地震であったことは100%間違いないだろ

うと思う。

なかでも以下のニュース記事は極めつけである。

(あ) まず、韓国と米軍の地震研究の話にこんなものがあるという。

韓国と米国の科学者は、北朝鮮の核爆発を知りたい。

そこで、共同で北朝鮮がときどき起す核実験の時に生じる人工地震を証明するためにいろいろと研究しているらしい。

そしてその特徴を証明したというニュース記事が以下のものであるという。

## ■核問題：最大でTNT火薬2万トンの威力■

### ◇放射性物質の探知で最終確認可能

(韓国の)気象庁の関係者は「今回の地震が核実験によるものと推定される人工地震だという事実は、二つの面ですでに確認された状態だ」と話す。

まず、人工地震と自然地震の違いは、地震波の波長で見分けることができる。

自然地震は規模が大きいほど、断層が長い時間にわたって長く割れることで、地震波は低周波になる。

一方、核実験による人工地震は、核爆弾が一瞬で破裂して発生するため、地震波が高周波になる。

「同規模の地震でも高周波なら人工地震と判断できるし、核実験かどうかは地震波の分析だけでも確認可能だ」と専門家らは話す。

気象庁は「済州島を除いた全国100カ所に設置された地震波観測所すべてで、人工地震であることを知らせる(高周波)波動が観測された」と話した。

人工地震と自然地震を見分けるもう一つの要素は、空中を行き来する音、つまり音波の観測だ。

気象庁のユ・ヨンギョ事務官は「自然地震とは違い、核実験では音波が観測されるが、(今回の核実験当時)全国5カ所にある音波観測所のうち2カ所で音波が観測された」と述べた。

最終確認は放射性物質の検出によって行われる。

核爆弾を爆発させる実験を行ったなら、ウラニウムやプルトニウムが壊れ放射性物質が発生する。

核実験は放射性物質の流出を防ぐため、普通地下1キロの地点で実施されるが、北朝鮮は山に横方向から斜めに坑道を掘る方式を選んだものと分析されている。

山の高さのおかげで地下に掘り進めたのと同等の効果を得られるためだ。

(2009/5/26 『朝鮮日報』 より)

ここをまとめると、

#### 人工地震の見分け方

(あ) 地震波の波長で見分ける。

自然地震の地震波 → 低周波。

核実験による人工地震の地震波 → 高周波。

(い) 地震による音波で見分ける。

自然地震 → 音波は出ない。

核実験による人工地震 → 音波が出る。

(い) そこで、実際に311大地震以後にこの地震の特徴をつかんだものに、以下のものがあつたのである。

東日本大震災の震源域付近で、津波の海面上昇による大気の圧縮で生じたとみられる微弱な長周期の音波を、包括的核実験禁止条約(CTBT)に基づき核実験を監視している千葉県とロシアの施設3カ所で検知していたことが、日本気象協会の解析で23日までに分かった。

千葉で検知されたのは地震発生約17分後。

気象協会は「音波測定で津波の規模を推定できる可能性がある。

今後の研究次第では、強い揺れを伴わず大津波を起こす明治三陸地震(1896年)のような津波地震の防災情報に有効かもしれない」としている。

協会によると、音波を観測したのは津波発生海域から約300キロの千葉県いすみ市と、1,000～1,900キロのロシアのウスリースクとペトロパブロフスクカムチャツキーの「微気圧振動監視観測所」。

地上の核爆発で生じる微弱な気圧の乱れを監視している。

いすみ市の観測所では大震災発生約17分後の3月11日午後3時3分ごろから約12分間、約20パスカルの気圧変動でできた音波を確認。

人間の耳では聞き取れない長い周期で、震源域付近から伝わったと推定できるという。

ロシアの2観測所のデータも検証した結果、ほぼ同じ長周期の音波を約1時間～1時間40分後に捉えており、音波がほとんど衰えずに伝わったとみられる。

微気圧振動監視観測所は、CTBT署名各国が整備を進める核実験監視システムの一環。

いすみ市の観測所は政府の委託を受け、日本気象協会が04年から運用している。

(2011/5/23 『共同通信47ニュース』より)

### ■3・11地震の振動、電離層まで到達■

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の振動は、大気圏外まで到達しかねない強さだったということが、最新の研究で明らかになった。

揺れる大地の上下動と押し寄せる津波によって生じた振動は、上空に横たわる大気を上へと押し上げていたと、アメリカ、イリノイ州にあるノースウェスタン大学の地球物理学教授エミール・

オカル氏は言う。

オカル氏は今回の研究チームには参加していない。

このような影響はこれまでの地震でも確認されていたが、今回の日本の地震で生じた振動は観測史上最大の規模だった。

この振動は低周波数の音波に似ており、地上ではごく小さく、せいぜいその振動の元となった上下動と同じくらいの規模でしかない。

ところがこの振動が大気の薄い上空へ伝わっていくと、その波は大きくなるとオカル氏は話す。

今回の地震から生じた波動が飛行機の巡航高度(9,100メートルくらい)まで到達したときには、振幅が1メートル程度まで拡大していた可能性があるというオカル氏は言う。

振動は通常の均衡状態からこの程度までは増幅するもので、この程度では航空機の乗客は揺れを感じることもない。

だがさらに上空の電離層では、この波動は元の規模の数千倍まで増幅されていたと、台湾国立中央大学宇宙科学研究所の劉正彦(Liu Jann-Yenq)教授らの研究チームは言う。

◇地震の波動を利用して津波を監視できる？

電離層は比較的高温のガスでできている。

高度が高いため、強烈な太陽光の影響を受けて、ガスは電荷を帯びている。

上へと伝わってきた地震の波動がこのガスを圧縮し、その影響はGPSに使われる電波などにも現れるほどだった。

「もし、きわめて正確なGPS装置を持っていれば、(信号の乱れを)確認できる」とオカル氏は言う。

こうしたGPS信号の乱れを利用して、津波が外洋にあるうちから追跡しようと提唱している研究者もいる、とオカル氏は言い添える。

だがオカル氏は、それが警告システムとして実用性を持つとは考えにくいとしている。

信号の変化を確認できるほど正確なGPS受信機は陸上にしかないのも、信号の乱れを捉えられた時には、津波はもう海岸に到達している、というのがその理由だ。

オカル氏によると、電波が電離層で反射するのを利用して水平線以遠を観測するOTHレーダーにも同様の影響が現れ、こちらのほうが利用できる見込みが高い。

「津波の警告システムを改善できる可能性があるとして、これに取り組んでいる研究者もいる」とオカル氏は言う。



今回の研究は「Journal of Geophysical Research」誌6月28日号に掲載された。

(2011/8/5『ナショナルジオグラフィック ニュース』より)

そしてさらにこの事実は日本の東大の研究者も証明したのである。

## ■東北沖地震の二面性■

### ◇発表概要

東北地方太平洋沖地震の破壊プロセスを地震波の分析により解明した。

地震はプレート境界浅部では、海溝まで達する大きなすべりを引き起こし、さらにすべり過ぎることにより巨大な津波を発生させた。

一方で人が感じるような高周波の地震波(ガタガタ震動)はむしろプレート境界深部から放射された。

この奇妙な二面性は、地震発生プロセスの理解にとって重要である。

### ◇発表内容

3月11日の東北地方太平洋沖地震(以下東北沖地震と略す)は、日本史上最大のマグニチュード9という規模で東日本一帯を襲い、広範囲での揺れと巨大な津波によって日本社会に大混乱を巻き起こしている。

地震発生時に、海底下の岩盤で破壊すべりはどのように進行したのか？

これを解明することは、今回の地震による災害から未来への教訓を得るために、まず解決しなければならない問題である。

当研究室は米国スタンフォード大学と共同で世界各地の地震波データを解析し、東北沖地震の全体的な破壊プロセスを解明した。

その結果からは、マグニチュード9という近代地震学史上も希な巨大地震であるがゆえの、研究者

も驚くような一種異様な二面的振る舞いが浮かび上がってきた。

以下省略。

(2011/5/20『東京大学 大学院理学系研究科 広報委員会』より)

この説明は長いので本文を読んでもらいたいが、この著者もこの311大地震が極めて特殊なものであったことに驚いている。

この研究者がいう奇妙な点とは以下のものである。

(1) 前震の地震波より本震の地震波の方がゆるやかに始まっている。

(2) 上方(東向き)から下方(西向き)へと破壊すべりの進行方向転換が起きる。

(3) 沈み込み帯の地震ではプレート境界をはさんで陸側が海側に乗り上げる(逆断層地震)。

その反対、陸側が海側に対してずり落ちるような地震(正断層地震)はまず起きない。

ところが地震直後マグニチュード6程度の正断層地震が2つ発生した。

(4) 体に感じるようなガタガタという高周波の地震波はこのうち深部の破壊すべりからしか放射されていない。

そしてこの分析結果をどう解釈するかという場面でこの研究者の頭は崩壊した。

要するに彼らには前例が見当たらない(予想の範囲外であった)ためにどう解釈していいか分からなかったというわけである。

なぜならこれまでの自然地震ではどこにもそんな事例がなかったからである。

そこで、これが3つの核爆発による人工地震だというこれまでのこの筋の見解を基にすれば、この解析結果は実に理に適ったものであることが分かるというわけである。

最後に付け加えておくと、アメリカの地震研究者も戦後60年ずっと地下核実験を研究して、人工

地震と自然地震の違いを見つける方法をかなり前に確立しているのである。  
もちろん、日本の御用地震学者たちはそんなことはおかまい無しである。

核爆弾による人工地震ではP波(前震)ばかりでS波(本震)がないのである。  
それは当然だろう。

なぜなら、地殻が応力歪みでずれるのではなく爆弾で穴があくわけだから、その時の前震が起これば、その後が剪断ずれによって起こるはずの本震はほとんどないか弱くなるはずだからである。

これが、上の東大の研究者が、不思議がったことに対応するのである。

とまあ、そういうわけで、311が核爆弾による人工地震だったかどうかの件は、これにて一件落着である。めでて一な、である。

(2012/2/7『井口和基博士のブログ』より)

## 【速報】ビルゲイツ拘束!!

---

【ビルゲイツ拘束、逮捕! 違法金融プログラム作成の疑いでワクチン人口削減計画の終焉は近い】

◆ 連日、欧米超エリートに対する捜査情報が相次いでいる

ペンタゴン上層部やMI6の人間によると、米連銀が発行する米ドルを基軸通貨とした従来の国際金融システムを延命するために工作を続けていたパパブッシュやヘンリー・キッシンジャー、マイクロソフト創業者ビル・ゲイツが、先週アメリカ当局に拘束され、追求を受けているという。

この動きは、前号で報告した通り、米財務長官ティモシー・ガイトナーが2月24日に一時拘束され、尋問を受けた際に、司法取引に応じて当局側に明かした数々の情報が引き金となっている。

ガイトナーは保身のために彼が知りえる事実を次々と暴露し、最終的には『自分もオバマも、ジョージ・H・W・ブッシュ(パパブッシュ)の指示で動いている』と証言。

ガイトナーの証言を受けて、次に尋問されたパパブッシュが『マイクロソフト社のビル・ゲイツが、新しい金融システムのために準備されていたコンピュータ網のソフトに40種類以上の横領を可能にするカラクリを構築した』と証言したために、芋づる式にビル・ゲイツにも捜査の手が及んだのだという。

(『ベンジャミン・フルフォード有料メルマガ2012/3/5号 Vol.165』より)

【ビルゲイツ、違法取引プログラム作成の疑いで逮捕!!!】

毎週のように驚くべきニュースがフルフォード氏より寄せられます。  
今週は、ついにビルゲイツが拘束されたようです。

先日ウィンドウズ8の危険性を掲載したばかりですが、絶妙なタイミングでのグッドニュースとなりました。

フルフォード氏曰く、世界経済が崩壊した後の金融システムとして違法な取引を可能にするプログラムを構築していたようです。

これに関連し、キッシンジャーも拘束されたようです。

いずれも、パパブッシュ(ジョージ・H・W・ブッシュ)の暴露により発覚したとのこと。

つまり、ブッシュも既に逮捕、拘束されていたのです。

芋づる式に犯罪者が次々と摘発されているのです。

ビルゲイツといえ、ノルウェーの種子バンク「ノアの方舟」が有名です。

「最後の審判の日」に備えて、世界中の種子を保管しているのです。

「最後の審判の日」種子貯蔵庫の寄贈者リスト

- ビル&メリンダ・ゲイツ財団
- ロックフェラー
- モンサント社
- シンジェンタ社（スイスに拠点を置くGMO多国籍企業）

どんな目的を持って作られたかは、言うまでもないでしょう。

マイクロソフト社の製品を買うと、製薬業界や彼らの世界的ワクチンのアジェンダを今や推し進める事になるのです。

それこそが我々の住む新しい現実なのです。

そこでは世界で最大のソフトウェア会社が”ベッドの中で”世界最大のワクチン推進者となるのです。

集団予防接種は明らかにビル&メリンダゲイツ財団によって採用された唯一の人口削減戦略ではありません。

その組織により資金提供されている新しい研究では意図的に超音波技術を利用して精子を破壊する方法を開発しました。

マイクロソフトの製品を買うと、人口削減計画を推し進める事になります。

マイクロソフトの製品を買うと、人口削減計画を推し進める事になります。

マイクロソフトの製品を買うと、人口削減計画を推し進める事になります。

「現在、世界の人口は68億人である。これから90億まで増えようとしている」

「我々の手で、世界人口をおよそ10～15%は減らすことができるだろう」

「（優生学に基づけば、有色人種は生きる資格がない。全員殺すべきである）」

人口削減計画の主犯格が逮捕されました。

人口削減計画の主犯格が逮捕されました。

人口削減計画の主犯格が逮捕されました。

今はあくまで「違法取引プログラム作成の疑い」にとどめていますが、一度逮捕・拘束となれば、暴力的な手段を取ってでもしゃべらせるはず。

人口削減計画の決定的な証拠を全て吐かせるまで。

■ビル&メリンダ・ゲイツ財団

■ロックフェラー

■マイクロソフト社

■モンサント社

■シンジェンタ社

これらの人物や組織が拘束・解体される日も近いでしょう。

※追記

祝・プーチン当選!!!

(2012/3/5 『News U.S.』より)

## 【速報】フェイスブック、危険な個人情報収集・大衆操作ツール!

---

【フェイスブック、危険な個人情報収集・大衆操作ツール! CIA長官補佐テレビで堂々発言「長年の夢が実現された」】

「マインドコントロールを密かに実行することで、大衆は自らネット上にメールや写真、電話番号などの個人情報を提供する。

フェイスブックこそ我々がネットを開発した目的であり、このシステムにより全世界の個人情報収集が可能となる。

これでCIAの長年の夢がかなった」

CIA長官補佐 クリストファー・サーティンスキー

「フェイスブックはこれまでに作られたものの中で、最も強力な大衆操作ツールだ」

フェイスブック創業者 マーク・ザッカーバーグ

「かつて発明された中で、最もぞっとするようなスパイ機械」

ウィキリークス創業者 ジュリアン・アサンジ

陰謀でも何でもなし、紛れもない創業者自身の発言。

ユーザーのコメントは以下の通り。

- FacebookとTwitterはCIAこれは有名
- やはりな
- やめるわ
- ↑止めてもデータは残っちゃうんだよ。残念w
- やたら流行ってんなと思ったら、また陰謀だったかw
- よーやるわこんなの。まじめにやってる人ある意味すごい
- ソーシャルネットワークはうその映画だったのか

フェイスブックの危険性をついに堂々とテレビで公表するまでになったアメリカ。



もはや情報統制も最終段階に来ていると言うべきかもしれません。

## 人間そのものが管理される日

フェイスブックに個人情報に登録したら最後、すべて抜き取られます。

フェイスブックアプリをインストールしたら最後、すべての位置情報を把握されます。

フェイスブックを一度でも触ったことがあるならば、既にCIAの餌食です。

グーグル、マイクロソフト、ツイッター、そしてフェイスブック。

今や上記のハイテク企業が提供する製品やサービス抜きには、業界どころか世界経済そのものが成立しないレベルにまで侵食しています。

だからこそ、裏で情報を抜き取られても何も抵抗することができないのです。

中でもフェイスブックは露骨に、我々市民のプライバシーを丸裸にします。

●1ヶ月ほど前に買ったばかりのiphoneで登録したんだが、アドレス帳にのってない人まで 友達かも？ てでてくるようになった。10年ぐらい前icqで知り合った人とか、フェードアウトしたメル友とか、入院中にちょっと仲よかったナースとか 忘れてた人たちがでてくる

●一度目を付けられたら最後 お前の情報は全部ネットに流れてるのよ

●最近全然連絡とってないし、新しいiphoneには連絡先も入れてない人がなんでいるんだよ

●アドレス交換もしてないやつがいたり、昔の知り合いがいたりしてなんか怖い

●接点は同じ時期に同じ店でバイトしてたってだけでともだちかも?に出てくる。

どういう仕組みなのかが分からないから怖い

●誰にも教えてないPCのアドレスで登録した

なのに昔の同級生とかバイト先でちょっと喋っただけのやつとか出てくる

マジで怖いなにこれ

●知らない奴だと思ってたら知ってる奴だったてのが恐ろしい

●要はお前のアドレスを知ってる奴がFaceBookやってたらそのデータを吸われて、他の人のアドレスデータも参照して関連づけるみたいだな

●ふつうにスパイウェアじゃん

●あれ退会手順間違えたら一生検索エンジンに自分のフルネーム残るぞ

●足跡機能自体はないけど、システムの誰がいつページを見たとかっていう判定はどこかでしてるっぽい ソースはMy top fansっていうアプリ

●ゲー よくみたら、知り合いかも？のところに友達をナンパしたオッサンがいる。  
その子はオッサンとフレンドになってないのに。  
閲覧履歴が反映されてんのかなー。  
こわすぎ。

ゲームが大好きな日本人の弱みに付け込む、ソーシャルゲームの波。  
テレビを捨ててもなお、大衆愚民化の策略から逃れられないのです。

孫正義は生粋の売国奴です。  
こんな人間の勧めるゲーム等ろくな物ではない。

アメリカでは8500万もの人間がFarmVilleを使い、失業率にも影響を及ぼしていると言われて  
います。  
もちろん情報はCIAに筒抜け。  
趣味嗜好まで丸裸です。

面接で「なぜ君は大根が好きなのかい？」と聞かれるかもしれない。

あらゆる意味で大衆操作、洗脳支配を行なうことができるのです。

※ベンジャミン・フルフォード氏も  
フェイスブックのアカウントを持っているようですが、ほぼ使っていないと言う事です。  
使えばCIAに筒抜けであることは知っているだろうか？  
知らない人間から大量に友達リクエストが届き、上限を超えてしまったそう。

映画『ソーシャルネットワーク』の脚本を書いたソーキン と、主人公ザッカーバーグを演じたア  
イゼンバーグがfacebook退会 - ロケットニュース24

ジェシー・アイゼンバーグは、映画が製作される時にfacebookに偽名で登録したが、その

後facebookの友達レコメンド機能で驚くべきことがあったようだ。

「知り合いかも？」というfacebookが提示した中に、彼の姉妹が高校時代に友達だった友人が含まれており、それが原因で、ジェシー・アイゼンバーグはfacebookの退会を決意したのだった。

ソーシャルネットワークの脚本家、フェイスブックを退会。

ザッカーバーグ役の俳優、フェイスブックを退会。

これを見てもまだ、フェイスブックを使いますか？

(2012/3/5 『News U.S.』 より)

【速報】ロスチャイルド、ロックフェラー、モルガン、ウォーバーグ、サッスーン…3  
月中に一斉逮捕、イルミナティ完全壊滅へ!!!

---

【ロスチャイルド、ロックフェラー、モルガン、ウォーバーグ、サッスーン…3月中に一斉逮捕、  
イルミナティ完全壊滅へ!!!】

金融大帝ロスチャイルド家  
石油大帝ロックフェラー家  
金融霸王モルガン家  
金融大王ウォーバーグ家  
兵器王デュポン家  
麻薬王ブッシュ家  
石油王メロン家  
阿片大王サッスーン家  
ダイヤモンド王オープンハイマー家  
..

次々と逮捕予定リストが増えていくのを見るのは、実に楽しい。  
世界支配者が一斉摘発される日が来るとは。

これは、世界史上稀に見る、大変に重要な世界情勢の動きです。  
世界中の歴史の教科書が全て書き換えられるレベルの出来事が、今まさに水面下で起きているの  
です。

The ongoing financial war is accelerating with arrests and assassinations being seen on both sides. George Bush Senior and Bill Gates were arrested last week for sabotaging the new financial system after being fingered by Timothy Geithner, pentagon sources say. The Federal Reserve Board crime syndicate cabalists for their part murdered Lord James Blackheath on February 29th, after he denounced their theft of \$15 trillion in the British House of Lords. The White Dragon Society, meanwhile has put out an all points bulletin seeking the immediate arrest for questioning of former Hong Kong Police Chief Peter Stevens.

The hunt is on, cabal arrests accelerating

<http://benjaminfulford.net/2012/03/05/the-hunt-is-on-cabal-arrests-accelerating/>

(訳)

現在進行中の金融戦争は、様々な逮捕と暗殺により加速しています。

ジョージ・ブッシュ・シニアおよびビル・ゲイツは、ティモシー・ガイトナーによって言及された後、新しい金融制度をサボタージュした罪(違法に40以上の取引が可能となるプログラムを仕込む)で先週逮捕された、とペンタゴン情報筋が言っています。

ジェームズ・ブラックヒース卿が英国の上院議会で15兆ドルの窃盗を証言・非難した後、FRBの悪魔ファミリーは2月29日に彼を殺害しました。⇒ ロスチャイルドのデマでした。

WDSはその間に、元ホンコン警察署長ピーター・スティーヴンズの現行犯逮捕を求める緊急捜査のすべてを解除しました。

スティーヴンズは、日本に対する311の津波攻撃に使用された核兵器を密輸入した罪に問われています。

スティーヴンズは、現在フィリピンでプエルト・ガレラ・ヨットクラブにいます。

グノーシス派イルミナティファミリーおよびアノニマスは、モンサントおよび他の陰謀組織に対する攻撃プログラムでWDSと協力することに改めて合意しました。

ロックフェラー、クルーガー、オッペンハイマー、メロン、ヴァールブルク、ロスチャイルド、ブッシュ、モルガンおよび他の陰謀ファミリー一家は、慎重に追い詰められ、3月中に降参しない場合、一斉逮捕されます。

ロード・ブラックヒース卿が暗殺されたというデマ情報が昨夜流されたようです。

Update on the "death" of Lord James Blackheath. The just published Weekly Geopolitical News and Analysis 20120305 states that Lord James Blackheath was murdered by the cabal. The source for this information was a member of the Rothschild family. The Wikipedia entry on Lord Blackheath also stated that he died on February 29th. However, a spokesperson for the House of Lords in the

UK said that "as far as we know he is alive and well."

(訳)

ジェームズ・ブラックヒース卿の「死」に際して更新してください。

先程の記事では、ジェームズ・ブラックヒース卿が陰謀によって殺害されたと述べました。

この情報の出所はロスチャイルド家のメンバーでした。

ブラックヒース卿のウィキペディア・エントリーは、さらに彼が2月29日に死ぬと述べました。

しかしながら、英国の上院のスポークスマンは、「私たちが知っている限り彼は元気でぴんぴんしている」と言いました。

ウィキペディアの改竄がなされたと解釈した人もいるようですが、単純にウィキペディアの修正がなされただけのようです。

ブラックヒース卿の死は、ロスチャイルド側が流したデマ情報ということです。

この騒動が何を意味するか？

もはや暗殺の1つも遂行できなくなった、ロスチャイルド家の凋落を象徴しているのです。

例えば、JFケネディが暗殺されたという”デマ”を流しても、何もメリットはない。

今回の出来事はそれに等しいレベルの、どうでもいい事件です。

ロスチャイルド帝国は既に崩壊し、ブッシュは逮捕されました。

ロスチャイルド帝国は既に崩壊し、ブッシュは逮捕されました。

ロスチャイルド帝国は既に崩壊し、ブッシュは逮捕されました。

ロスチャイルドやロックフェラーと比べて比較的影が薄く、

表に出てこないモルガン家。ブッシュ同様かなり性質が悪いようです。

モルガン財閥は極めて悪質です。

今のブッシュ政権の影にモルガンの影響は極めて大きいです。

モルガンとハリマンとブッシュの家系は結婚を繰り返しています。

彼らは戦後ナチスの科学者や洗脳専門家や日本の731部隊をアメリカによんだ連中です。

まさにデイビッドロックフェラーと同じくらいひどい連中です。

またモルガンはニューワールドオーダーの中心人物で、彼らの長期計画は武力でもって世界を支配し、有色人種を全滅することを企んでいます。

とりあえずアジアの人口を50億人にまで減らそうとしています。

911テロや生物兵器や疫病開発、ばら撒き、劣化ウランばら撒きを中心として行っている一つの派閥です。

モルガン、ハリマン、ロックフェラーの絡んだ企業や金融機関と一切取引しないでほしいと言いたいですね。

ピーター・スティーヴンズという人間が日本国内に原子爆弾を持ち込んだ主犯ということですが逮捕のための捜査を解除した、ということの意味が今ひとつ掴み切れません。

今はフィリピンのヨットクラブで泳がせておき、時期が来れば捕まえる算段かもしれません。

WDSのグループは、その間に、私に進行中の金融戦争に関してより多くの情報を提供しました。

ドラゴンファミリーは、1年前に世界の中央銀行へ渡されたドキュメントのコピーを提供しました。

。 私たちは今週、ウェブサイト上でそれを公表するでしょう。

このドキュメントによれば、225の主権者グループと一緒に69のすべての国家?が新しい金融制度に署名しました。

このシステムの主な後援者は、ドラゴン家族情報筋によれば、ロシア、中国および米国の軍隊を含みます。

世界の古い王室は、王族によって所有された金、財宝などに裏付けられた15兆ドルで最初に融資することに合意しました。

これらは、FRB勢力によって戦後ハイジャックされた最初のブレトンウッズ・システムへ資金提供したのと同じ家族です。

新システムは、中央銀行の私有化が全て排除されると説明されました。

225のグループと69の国家?がそれぞれ何を表すのか明確ではありませんが、今週発表されるというドキュメントに詳細が書かれているようです。

元々ブレトンウッズ協定というのは、世界平和のための協定だったのです。

表向きは平和を標榜し、裏で乗っ取るというやり方が確立された頃です。

夢の中央銀行国有化。

実現となれば、銀行家支配の完全なる終焉です。

国家が、国民が借金漬けの毎日から解放されるのです。

さらにドラゴンファミリーは、国家に負債を支払い、かつ「調和した開発」を目的とした新社会資本およびその他のために資金提供することに合意しました。

その資金調達は、ローマにある10の主な世界的宗教の代表によって綿密に調べられています。

それは「D.T.C.のユーロクリア・バンクあるいはFRBの、ブルー、グレーまたはブラック・スクリーン」を通じて確認することができる、とドラゴンファミリードキュメントに記されています。

このシステムへの反対は、FRBの銀行家およびビルダーバーガー、CFR、三極委員会によって実行されています。

それらは、米国、ドイツ、英国、イタリア、フランスおよびスイスの内部で受理される層ドルをまだ出しています。

その他の世界(スイスの金融機関の大部分)は、これらのドルを受理することを拒絶しています。

しかし、一定量の通貨がサバタイ派による資金洗浄によって流れています。

彼らは、世界の至る所で贈賄・恐喝により手なずけた政治家や他の黒幕のリストを保有しています。



サバタイ派はなおも暗殺を試みたり、新システムの支持者の資産を凍結(本人談)するなどしましたが、これにもかかわらず、ますます多くの銀行は銀行ファミリーを無視しており、新システムの支援に対するピケライン(監視ライン)を突破しました。  
バーゼル3を遵守しているか否かを銀行に問い合わせれば、どちらの勢力に属しているかを知ることができるでしょう。

さらにドラゴン・ファミリー代表は、誰が従来の王の宝に対する権利を持っていたかに関する論争が法廷で容易に決着がつくかもしれないと言いました。

彼らは、R.C.Damが銀行ファミリーによって立てられた不正な名義人だったと主張します。さらに、エディ・スカルノがいくつかのドラゴンファミリー財産の法的な名義人だったと付け加えます。

既に報じている通り、サバタイ派内でしか流通できない屑ドルがこの世に存在します。それを何らかの方法(麻薬、パチンコ、タックスヘイブン等?)で資金洗浄し、域外の要人を手なずけたということですが、そのリストが非常に大事です。  
これが、芋づる式に犯罪者が次々とリストアップされる理由の1つです。

R.C.Damといえば、ちょうどフルフォード氏が行方不明になった頃の話です。  
結局は銀行家による不正な名義人だったとのことで、決着はつきました。

デュポント(Du Pont)一族の代表とロスチャイルドの代理がユーロと米連銀の救済策を模索してインドネシアを訪れている。  
巨額のアジア資金を狙っているのだ。

そのためにはまず、資金を引き出すための権利を得る必要がある。  
そこで現在、彼らはその資金口座の名義人をR.C.Damという人物だと主張している。

確かに、以前はR.C. Damがその名義人(最高責任者)であったことは間違いないが、彼が欧米の支配階級に操られていることを知ったDamの親組織が、ずいぶん前にその権限を彼から剥奪している。

現在は、新たにアジア人のある長老が正統な名義人となってその資産を管理している。

その長老は、その資金は本来の目的通りに世界の発展や平和のために使うべきだ、と考えているという。

先週、ビル・ゲイツが新しい金融制度をサボタージュした罪で逮捕された時、金融制度のコントロールに関する戦いは決定的な転換を見せました。

ペンタゴン幹部によれば、ジョージ・ブッシュ・シニアは、ビル・ゲイツに関する証言を提供した人です。

WDSは、能力主義に基づく経済企画庁を設立するためのホワイトドラゴン基礎計画を支援することを示しました。

反血統主義のグノーシス・グループは、4月に計画されている欧米のデモや暴動の準備をするようエージェントに主張しました。

ハッカー集団アノニマスは、サバタイ派の息がかかった企業、メディア、個人、組織へのシステム的な攻撃を行い、着実に圧力を強めると約束しています。

日本では、同様に、すべての陰謀政治家、銀行家およびメディアに対するクーデターの準備は、ほとんど完了しています。

これらの人々は、彼らの権力支配が終了したことを既に知っています。

日本と朝鮮半島で新政体への推移について議論するために、中国からの代表団は今週、日本に着きました。

さらに、彼らは、国連、BIS、世界銀行、国際司法裁判所およびIMFのような国際機関の改造について議論するでしょう。

(終)

ビルゲイツの逮捕劇は、1つの崩壊ポイントとして重要だったようです。

奥の院であるロックフェラーやロスチャイルドとは、知名度が桁違いということで、特に日米において与えられるインパクトには計り知れないものがあります。

ビルゲイツ逮捕記事、既に月間ランキングで他記事をぶち抜き1位となっています。

悪魔信者イルミナティの世界人類完全支配は終了しました。  
悪魔信者イルミナティの世界人類完全支配は終了しました。  
悪魔信者イルミナティの世界人類完全支配は終了しました。

残すは、旧体制の崩壊劇。  
篤とご覧あれ。

- 3月中の大量逮捕
- 3月中のWDS・アノニマスによるサバタイ派企業・組織殲滅
- 3月31日アノニマスによるインターネット壊滅(デマ?)
- 4月の欧米デモ・暴動
- 日本国内の政治家、銀行家、メディアに対するクーデター

アノニマスの攻撃は成功するのか？

いまいち信頼性に欠けますが、情報として頭の隅にとどめておきます。  
イルミナティ壊滅宣言の具体的な手法と詳細に、そろそろ触れてもらいたい所です。

ルートDNSサーバーは大半がアメリカに集中

ルートDNSサーバーが落ちると…

●すべてのネット・ユーザーが迷子になってしまい、ネットがほとんど使えなくなります。  
直接IPアドレスを打ってアクセスするしかありません。

●誰もドメイン名の参照ができなくなる。  
例えば“http://www.google.com”と入力しても、エラーページが表示される。

●ホームページへのアクセスができなくなり、メールアドレスも使用できなくなります。

●ネットを使用するすべてのシステムが利用不可能になります。

飛行機などの交通の予約、ネットバンキングの利用、証券取引、ネット通販・オークションの利用などなど。

日本のクーデターも気になるところです。

オウム事件にプーチンのあざ、ヤタガラス、沖縄の中国化の懸念。

回収していない伏線がいくつかあるため、手放しでは喜べない状況ですが旧体制の崩壊をひとまずは待ち、喜ぶ準備をしておくべきかもしれません。

繰り返しますが、今回の出来事は数十年、いや数百～数千年に一度のとてつもなく大きな変化へとつながることになります。

今のうちから心の準備をしておけば、いざ事が起こった時にも慌てずに済むのです。

ーおまけー

世界の名家・王室一覧(フルフォード氏のブログコメントより)

金融大帝ロスチャイルド家、石油大帝ロックフェラー家、金融霸王モルガン家、鉄道王ハリマン家、麻薬王ブッシュ家、石油王メロン家、造酒王ブロンフマン家

鉄道皇帝ヴァンダービルド家、兵器王デュポン家、穀物霸王カーギル家、金融大王ウォーバーグ家、不動産王アスター家、鉄剛王カーネギー家、建設王ベクテル家、石油王ゲティージャー家、石油王ヒューズ家、石油王ハント家、石油王バス家、材木王ウェアハウザー家、自動車王フォード家、金属王ホイットニー家、石炭王フリック家、鉄道王ヒル家、雑貨王ウォルトン家、大政治家ルーズベルト家、大政治家ケネディ家、阿片大王サッスーン家、金融皇帝ベアリング家、造酒王ギネス家、金融王ロイド家、金融王バークレー家、兵器王ヴィッカーズ家、デパート王セインズベリー家、石油王サミュエル家、金融王グレンフェル家、新聞王ハームズワース家、大政治家チャーチル家、大政治家ラッセル家、イギリス王室、フランス兵器大王シュネーデル家、フランス死の商人ダッソー家、フランス石油王シュルンベルジュ家、フランス化学財閥ジレ家、フランスのファッション・ブランド帝王アルノー家、フランス自動車王シトロエン家、フランス大政治家ミッテラン家、フランス大政治家ジスカールデスタン家、スイス金融黒幕エッシャー家、モ

ナコ公室、リヒテンシュタイン公室、イタリア自動車王アニェリ家、ルネッサンスの父メディチ家、イタリア貴族エステ家、イタリア貴族ヴィスコンティ家、メディア王ベルルスコーニ家、ローマ法王、フリーメイソン・プロパガンダ2、ラ・コーザ・ノストラ、カモッラ、ンドラゲタ、サクラ・クローネ・ウニータ、スペイン財閥マルチ家、スペイン王室、ロシア男爵グンツブルグ家、ロシア皇帝ロマノフ家、ベルギー王室、ベルギー原発男爵アンパン家、ヨーロッパ皇帝ハプスブルグ家、ドイツ大財閥ゲーメンス家、ドイツ金融王シュレーダー家、ドイツ大砲王クルップ家、金属王メルトン家、ナチスの支援者ティッセン家、オランダ電器王フィリップス家、オランダ王室、金融財閥ハンブロー家、デンマーク王室、スウェーデン王室、スウェーデン大財閥ヴァーレンベリ家、ダイナマイト王ノーベル家、ノルウェー王室、ギリシャ王室、ギリシャ海運王オナシス家、フィンランド財閥ノキア家、ルクセンブルク公室、金融霸王ゴールドスミス家、南アフリカのダイヤモンド王オッペンハイマー家、ボリビア鉱山王パティーニョ家、メディア王マードック家、イギリス人香港財閥スワイヤ家、イギリス人香港財閥ケスウィック家、最大華商の李家、海運王の包家、三合会、14K、蛇頭、インド最大財閥タタ家、インド巨大財閥ビルラ一家、インド鉄剛王ミッタル家、フィリピン貴族アヤラ家、フィリピン財閥ルシオ・タン一族、トルコ大財閥サバング家、レバノン財閥ハリリ家、インドネシア財閥サリム家、韓国財閥サムスン、韓国カルト教団統一協会、マレーシア財閥クオック家、アラブ建設王ビン・ラディン家、アラブ金融王ビン・マフーズ家、アラブ建設王オラヤン家、サウジ王室、ボルキア王室、アルゼンチン財閥ロカ家、ベネズエラ財閥メンドーサ家、ブラジル財閥ボトランチン家、ペルー財閥ブレスキア家、ミャンマー阿片王シンハン家、タイ財閥チャラワノン家、タイ王室、ブータン王室、日本カルト教団創価学会、山口組、住吉会、稲川会、天皇家、日本の自動車皇帝の豊田家

(2012/3/6 『News U.S.』より)

## 威風堂々[41] 『△NIMRODの311人工地震の真相が明かされる日は来るか!?!』

---

～タンムズは、息子△NIMRODの生まれ変わりであると母親妻セミラミスは主張した～

私の思い出の町、石巻市を破壊した『311東日本大震災』発生から1年...!

東北の太平洋沿岸を中心とする途方もない広範囲に、未曾有の被害をもたらした原因は....、

「千年に一度」という自然災害であると、一般の報道では結論付けているようですが....、

そんなの絶対ウソです...!!

私は絶対に信じません...!!

『311東日本大震災』が『核兵器』による「人工地震」であることはほぼ100%間違いないという事が判ってきたからです...!!

この首謀者である、ジョージ・ブッシュ親子、ヘンリー・キッシンジャー、悪魔大王デイビッド・ロックフェラーら悪魔の△NIMRODの連中を即刻逮捕するべきです...!!

こいつらが手下どもを使って、『311人工地震』を引き起こした張本人なのです...!!

こんな気違い連中に、私たちの日本をボロボロにされて....、

私は本当に悔しいです...!!

一般国民は、ヤツらの都合のいいことしか流さないマスゴミによるマインドコントロールに掛かっていることに気付くべきです...!!

ともかく日本政府は、国民に対して『311人工地震』の真相を一刻も早く....、

嘘偽り無く、すべて正直に話すべきです...!!

何故、本当のことを言わないのでしょうか...!?

どこまでアメリカの言うなりになるのでしょうか...!!

ところが....。

さらに調べていったところ....、

『311人工地震』の真相が明かされることは....、

ひょっとしたら、永遠にないかも知れないのです...!?!?!?

その理由は....、

昨年末に、ある動画が放映されたのですが....、

「International Premium 12/21 特別完全版 ベンジャミン・フルフォードが真相を!」という番組内で....、

『311人工地震』の実働部隊のことを暴露したのです...!!

フルフォード氏によれば、CIAの手先となって『核兵器』を製造したのは....、

何と、自衛隊員だということです...!!!!!!!!!!

彼らは日本を爆破するとは知らずに造らされて、その後は仲間は皆殺されてしまったそうですが...

キリスト教会に保護された生存者が1名、ロサンゼルスに居るそうですが...

その彼は後悔の日々を送っていて、フルフォード氏は連絡が取れるというのです...!!

【泉パウロ牧師の言っていたことが本当だった!】

驚愕!

3・11 [人工地震説の根拠] 衝撃検証

泉パウロ・著 ヒカルランド 2011年刊

より

人工地震に使われたのはHAARPと純粋水爆なので、自衛隊関与が事実であれば、非核三原則を破る大事件です。

詳細を聞いていますが、生き残っている自衛隊技術者3人の保護のために詳細を書けないことも多々あります。

その点はお許してください。

私もクリスチャンとして知っていることは牧師たちの世界の協力体制と情報網は抜群に凄いものがあります。

どうやら自衛隊技術者15人は311テロ計画を知らないで爆弾製造に携わっていたようですが、真実を知った今、罪責意識で悩まされ、内一人はクリスチャンのため教会に来て罪の告白を牧師にしたようです。

以下は本当のことです。

全文ではありませんが、絶対、捏造ではありません。



「...父親が自衛隊の技術者で本人も同じ働きをしていた中年の男性が訴えました。  
私と数名の仲間はペンタゴンの命令で国外で隠れて特別な爆弾を製造する使命をいただきました。

その爆弾が今回の地震のために使われるとは、苦しくて辛いです。  
それだけではなく、爆弾と一緒に作った技術者の仲間たちは次々に死んでいます。  
今、私と行方不明になっている2人だけが残されています。  
他の者たちは死にました。  
今、私は車で尾行されています。  
誰も信じてくれないと思いますが。――」

この男性は、教会に通っているクリスチャンで、実家が〇〇にあり、たまたまxxに来たときにその〇〇教会に行ったようです。  
友だちの牧師は、彼の姿から、彼の言ったことは嘘のようには思えず、私に電話をかけて来ました。

「自分の名前や教会や連絡先は伝えないでいただきたいとのことです。  
その技術者についてですが、ペンタゴンの仕事をもう何十年か続けているそうです。  
この日曜日にロサンゼルスに帰りました。

彼が所属していた特殊なミサイルを作る3人1組が5組、計15名のうち、彼以外ほとんどの人は死に、彼と一緒に働いていた2人は行方不明とのことです。  
彼らが製作し、今回の大地震で使われた爆弾は特殊なもので、最初の爆破でものすごい津波を起こしたそうです。  
もし次の爆破をしていたら、日本がなくなってしまうほどの被害になっていたのではと話しています。

彼は以前は横須賀基地の技術者として働いていました。  
特殊な小型カメラを作っていた人だそうです。  
現在製作中の水爆は、PN7000と言い、使用する予定がすでに立てられているのだそうです。  
しかし彼は、その開発チームからはずされました。  
彼の年収は4,000万だそうです。  
シベリアにもミサイルを埋め込んだそうです。

また、希望という人工衛星は、軍事のための軍事衛星であると話しています。  
〇x教会には、3回出席して、礼拝が終わるとすぐに帰って行きました。  
いつでも、黒い車2台につけられていると言っていました。

その技術者はきちんとした方です。」

以上ですが、部分的に自衛隊技術者の身元が特定できそうな部分は割愛しました。  
決して知らずとはいえ、罪を犯した人を擁護するわけではないですが、この暴露記事ゆえに暗殺されたら気の毒だからです。

泉パウロ牧師はヒカルランドから人工地震の新しい本を出すようです。  
そこにも新しい情報があるそうです。

(2012/2/『地球と人類そしてロト』より)

ショック...!!!!!!!

自衛隊員が、『核兵器』を製造していた...!?

もしかすると、自衛隊の一部では何十年も前からアメリカの下請けで武器を製造していたのでしょうか...!?

組織的に....

CIAの下請けで、昔から『核兵器』を製造していたのでしょうか...!?

そして今回の『311人工地震』には、特殊な純粋水爆が使われた...!?

その後は口封じされたのか...!?

この情報が正しいかどうかは判りませんが....

もし真実だとしたら...!?

私は直ぐに、『日航ジャンボ機123便の御巣鷹山墜落事故』のことを連想してしまいました…。

自衛隊員と『核兵器』の深い関係…!?

「非核三原則」の日本には、『核兵器』が存在するわけがない…!!

と…、

私も信じたいのですが…。

あの時の日本はアメリカに戦後最大の弱みを握られた為に、プラザ合意を結んだのですが…。

今回またしても、悪魔の△NIMRODの罠だったのでしょうか…!?

悲しいことですが…、

これでは、政府が『311人工地震』の真相を、国民の前に…、

永遠に明かせる筈がないでしょう…。

『911や311を起こした△NIMRODとは、サタニスト(悪魔崇拜主義者)のこと!!』

---

「イルミナティ・カードゲーム」という玩具があるのを...

あなたはご存じですか...!?

そのカードの中には...

まるで震災を予告していたかのように...

「日本に大地震」のカードや...

「原発の事故」のカード...

それに「放射能」という怪物が描かれたカードも有ったのです...!!

そう...

日本人を苦しめた、311東日本大震災とは...

悪魔の△NIMRODの連中が企てた、『311同時多発テロ』であり...

実は、もう何年も前から計画が立てられていたのではないのでしょうか...!?

「イルミナティ・カードゲーム」には他にも...

『911同時多発テロ』を予告したような...

「ツインタワービルの爆破」や「ペンタゴン」なども...

また、「軍隊」「警察」「暴動」「暗殺」「戦争」「薬物」「SEX」「宗教」といった...

とっても不吉で、不気味なカードばかり...

そう...

何故なら...

『911や311を起こした△NIMRODとは、サタニスト(悪魔崇拜主義者)のこと!!』

『世界統一政府』を企む、ヤツらの計画では…、

2012年を、聖書でいう「終末」「この世に終わり」にする…!!

ですから、その前に世界の人口を大幅に減らす…、

大掃除の計画が、幾つも仕掛けられていたのではないのでしょうか…!?

『311同時多発テロ』は、そのミッションの一つだったと言えるでしょう…。

これが、日本人を大量に殺すと同時に…、

日本経済を悪くさせる為にやったのだとしたら…、

本当に許せないことです…!!

ヤツらは、今後もしつこく世界中に自然災害に見せ掛けた人工地震や大津波を起こし…、

人々に恐怖と不安を植え付けようとするのでしょうか…!?

『911や311を起こした△NIMRODとは、サタニスト(悪魔崇拜主義者)のこと!!』



予告された911テロ／イルミナティ・カードゲーム95年

→<http://www.youtube.com/watch?v=ldnyHhkVQqE>

イルミナティカード 9.11 地震兵器 中東政変

→<http://www.youtube.com/watch?v=r5UHX1es9CQ>

マグニチュード9.0の地震が5分間続くと震災前に予言されていた

→<http://www.youtube.com/watch?v=DZJHsoFhXeA>

イルミナティカードと東日本大震災と原発事故

→[http://www.youtube.com/watch?v=E\\_qJGQGjmK8](http://www.youtube.com/watch?v=E_qJGQGjmK8)

## 威風堂々[42] 『△NIMRODに企てられた311はハルマゲドンの始まりなのか!?!』

---

～死んだ△NIMRODは息子タンムズとなって蘇り、彼は金の子牛に象徴されるようになった～

『311東日本大震災』が発生する1年以上前に書かれ…、

あたかも予言を思わせるような、ある記事を見つけました…!?

この著者によれば、日本に襲い掛かる災いとは…、

何と、聖書で予言されている「この世の終わり」…、

つまり、『ハルマゲドン』なのではないかと仮説を立てていたのです…!?

それが、もし本当に聖書に出てくる『ハルマゲドン』なら…、

何故、日本に起こる必要があったのか…!?

『ハルマゲドン』は自然災害だったのか…!?

それとも、やはり悪魔の△NIMRODが首謀した「同時多発テロ」だったのか…!?

繰り返しますが、次の記事は『311東日本大震災』の1年以上前のものなのです…。

私はこれを読んで、大いに考えさせられました…。

あなたはどう思われますか…!?

2010年9月30日

【聖書で預言されたハルマゲドンは日本で起こる?!】

日本の秘密

※不定期更新です。

今回の記事は管理人の仮説のようなもので、現実的な方には退屈かもしれませんが、読み物感覚で読んでいただければ幸いに思います。

ハルマゲドンとは、新約聖書のヨハネの黙示録によれば、終末に起こる善と悪の最終決戦であり、決戦の後、イエスが降臨し、キリスト教の教えに忠実に生きてきた善人のみを救い出し、1,000年続く王国を作り出すとされている。

多くの研究者は、現在のイスラエルに移住したアシュケナジー系ユダヤ人を、聖書に登場する古代イスラエル民族の末裔と誤解し、ハルマゲドンは中東で起こると主張する説が多いが、アシュケナジー系ユダヤ人の人々は、中世ヨーロッパで国ごとユダヤ教に改宗した、ハザール王国の住人の末裔であり、神の選民でも、聖書の民でもなく、かつてユダヤ教を信奉した白人ユダヤ教徒の末裔というのが歴史的事実である。



古代イスラエル民族(ヘブライ人)は有色人種であり、モーゼもイエスも有色人種だった。  
聖書の民である古代イスラエル民族が、その後どこに行ったのか、これまで歴史上の謎とされてきたが、一部の研究者の間では、日本人がその最有力候補と考えられていることもまた事実である。

今から10年以上前に、ブルガリアの国家公認の超能力者で、ベラ・コチェフスカという女性が日本に来日したことがあるが、その際、伊勢神宮に参拝し、

「こんな聖地は他にない。  
ここには世界中の人々が祈りに来なければいけない。」

「日本は地球のヘソのようなものであり、宇宙からのエネルギーを一番ストレートに受ける特別な聖地である」

と述べた上で、

「この伊勢外宮というところは、昔からヤハウエが祀られていると言われますが、ご存知でしたか？」

という質問に対し、

「今、参拝してそのことがよくわかりました。」

と答えている。

また、帝京大学の高山教授は、アメリカでタクシーに乗っていて、いきなり運転手から「日本人に申し訳ないことをした」と謝られたことがあるそうだ。

彼はウクライナ出身のユダヤ人だったが、ウクライナのユダヤ人社会では、次のような言い伝えがあるという。

それは、失われたイスラエル10支族の1つが日本人だった(日本に渡って日本人となった)というものだ。

それなのに、「ユダヤ人のオッペンハイマーはその日本に落とす原爆を作った」から、謝りたい

というのだという。

ウクライナ出身のユダヤ人だった故ヨセフ・アイデルバーグ氏は、日本に渡来した古代イスラエルの失われた10支族の研究に晩年を捧げたが、アイデルバーグ氏は、10支族を探す旅に出て、バハラ地方の少数ユダヤ人の言い伝えを知った。

バハラは、アラビア半島の国オマーンにある。

それによれば、10部族は囚われの身となっていたアッシリア帝国から逃れ、東の方へさまよい出た。

そして長年アジア大陸を放浪し、最後に「中国のかなたの神秘的な国」に定着したという。

その言い伝えを頼りに、アイデルバーグ氏は日本を目指した。

キルギスタンでも、同様の言い伝えがあるとされている。

昔ふたりの兄弟がいて、一人は山の方へ向かってキルギス人の祖先となり、もう一人は海の方へ向かって日本人となった。

またキルギス語には、日本語と共通する単語が数千もあるのだという。

世界的超能力者の言葉やウクライナ人、キルギス人の言い伝えの他にも、日本人＝古代イスラエル民族説を裏付ける様々な傍証が存在するが、その有力なものの一つが万世一系の皇室の存在である。

古代イスラエル民族の聖典である旧約聖書の中で、主である神(ヤハウエ)がイスラエルの王であるダビデに、子孫の永遠の繁栄と王位を約束しているが、ダビデの子孫を王とする南のユダ王国は滅亡してしまった。

しかし、ほぼ時期を同じくして、神武天皇による日本の建国が行われ、その頂点に君臨する天皇は万世一系を保ちながら、現在もその皇位を保っている。

もし日本人が失われたイスラエル民族の末裔であるならば、神(ヤハウエ)は約束を守られたことになるのではないだろうか。

また神は古代イスラエル民族に対し、神の教えを守るならば、カナンの地を永遠に与えると約束したが、その約束の地が、四方を海に囲まれて外敵からの侵略が受けにくく、美しい自然と四季に恵まれ、水が豊かで食べ物が美味しく、危険な動植物が少ない日本列島だとしたら、それもまたうなずける話である。

少なくとも、国土が狭く土地も荒れている現在のイスラエルが、神の約束の地であるとはちょっと考えづらい。

ある研究者によれば、神道にはカッパーラと呼ばれるユダヤの秘儀が使われており、本来の姿がカモフラージュされているという。

その一つが鏡像反転と呼ばれるもので、一神教を多神教に、元々は男神である天照大神を女神に、鏡で映ったように逆さまに変えてあると言われている。

神社の御神体に鏡が使われているのは、決して偶然ではないそうだ。

嘘か本当かは分からないが、もし本当だとすれば、そのような隠蔽を施した理由は、西洋白人の目から、日本人が古代イスラエル民族の末裔であることを隠すためだと思われる。

中世のヨーロッパには「プレステージジョン伝説」なるものがあり、東方にプレステージジョンという王が治める偉大なキリスト教国があるという伝説が信じられていたことがある。

キリスト教の元となった原始ユダヤ教が神道に姿を変えていたとすれば、あながちその伝説も間違いではなかったのかもしれない。

ノストラダムスの予言詩の中には、次のような予言詩がある。

「日の国の法と金星の法が競い合う  
予言のエスプリを我が物としながら双方互いに耳を傾けないが  
大きなメシーの法は日の国によって保たれるだろう」

(「諸世紀」5巻53番)

西洋の研究者からは意図的に無視されているかのような予言詩だが、メシーの法とは神道や国体のことで、日の国とは日本のことなのかもしれない。

日本が仮に失われた古代イスラエル民族の末裔だとすると、いわゆるハルマゲドンと呼ばれるものは日本を中心に勃発すると推測される。

中東のイスラエルでこれから戦争が起きても、それはハルマゲドンではなく、第〇次中東戦争に過ぎない。

なぜなら古代イスラエル民族が神(ヤハウエ)を祀っている場所こそが本当のイスラエルだからであり、旧約聖書の中でたびたび登場する「東の島々」という言葉は、日本列島を示している可能性が高いからである。

日月神示では、日本で大立替、大峠が起こると予言しているが、聖書と日月神示の示す未来図は究極的に一致するのではないかというのが自分の推測である。

ハルマゲドン後の世界については、日月神示も聖書も共通して、神に選ばれた人々による平和な王国の出現を記しているが、その王国は一人の王の下で統治される可能性が高いようだ。

「一つの王で治めるのぞぞ。天津日嗣の御子様が世界中照らすのぞ」

(日月神示 地つ巻 第十一帖)

日月神示では、上記のように世界天皇の出現を予言している。

神(ヤハウエ)の意を受けて世界を統治する立場に立てるのは、イエスと同じダビデの家系に連なる者で、はっきり言ってしまうえば万世一系の天皇家の人間以外にはいないと自分は考えている。ハルマゲドンがいつ起こるのか分からないので特定することはできないが、唯一つ言えるのは、女系天皇や女系天皇につながるような女性天皇ではなく、恐らく秋篠宮家の男系の血を受け継ぐ男子皇族の中から“世界天皇”が生まれる可能性が非常に高いということである。

様々な瑞兆や吉兆を伴ってご誕生された悠仁(ひさひと)親王殿下が、あるいはその立場に立たれることになるのかもしれないが、親王殿下はまだ幼く、ご迷惑がかかってはいけないので断定は控えさせていただきたいと思う。

自分は特定の宗教団体や思想団体に属するものではなく、自分なりにニュートラルな立場から研究や考察を進めて、このような仮説を考えたことを付記しておきたい。

戦後、GHQのウォー・ギルト・インフォメーション・プログラムによって洗脳された人々には、天皇が世界の救世主になるとは認め難いものがあるかもしれないが、恐らくそういう自虐史観の洗脳すらも、日本の民を振り分けるふるいになるのではないかと思う。

日本が本当の神国であるとするれば、反日か親日かで、世界中の民がふるいにかけてられることになるのかもしれない。

そういった天秤のような役割も日本が背負っているように思えてならないが、時が来れば自ずと分かることだろう。

現在、民主党政権の外交的失敗によって領土喪失の危機にある尖閣諸島の問題だが、アメリカが日本を積極的に支援し、米中対立の様相さえ見せている。

中国は少し前に日本を抜いてGDPが世界第2位になったばかりだが、軍事力も考慮すれば文字通り世界第2位の国家にのし上がったと言える。

世界第1位のアメリカと第2位の中国がぶつかれば一体どうなるのか、日月神示には次のような一文が存在している。

「悪の大將は奥に隠れてござるのぞ。

一の大將と二の大將とが大喧嘩すると見せかけて、世界をワヤにする仕組み、もう九分通りできているのじゃ。」

(黒鉄の巻・第14帖)

(2010/9/30 『日本が好きだけなんだよ』 より)

## 【参考】『日本人は古代ユダヤ人(ヘブライ人)の末裔なのか①』

---

### 【日本人は古代ユダヤ人(ヘブライ人)の末裔なのか】

●伊勢神宮の内宮から外宮に至る道路(御幸通り)の両側に並ぶ石灯籠(合計約700基)には、不思議なことに「カゴメ紋(六芒星)」が刻み込まれている。

カゴメ紋は別名「ダビデ王の紋章」といわれ、ユダヤ人のシンボルになっている。

事実、現在のイスラエル共和国の国旗にも、はっきりと描かれている。

●ユダヤ人の宗教的な行事で日本と最もよく似ているのは「過越(すぎこし)祭」である。

過越祭(ペサハ)はユダヤ教でいう新年の祭りで、ユダヤの祭日のうちで最古、かつ最大のものである。

その日は、日本の年越しと同じように、家族で寝ないで夜を明かす。

更に過越祭の日だけは普段と食べるものが違っていて、いつもはふっくらとしたパンを食べるのであるが、この日に限って「種なしのパン(マッツォ)」を食べる。

この種なしパンは日本でいう「餅(モチ)」に当たる。

しかも、ユダヤ人は丸く平べったい種なしパンを祭壇の両脇に重ねて供えるのだが、まさにこれは日本の「鏡もち」以外のなにものでもない。

また、過越祭は全部で7日間と規定されており、これも日本の正月の期間と全く同じである。

●神社につきものの「鳥居(とりい)」は、外国人のみならず日本人自身にも説明がつかない代物である。

しかし、ユダヤ人が見れば即座に理解できる。

なぜならば、「鳥居」の形は古代ヘブライの建物(玄関口)とそっくりの構造をしているし、赤い色をしていることにはしっかりとした宗教的根拠があるためである。

「トリイ」はヘブライ語アラム方言で

「門」という意味である

●ユダヤ人の過越祭(ペサハ)は、かの有名なモーセによる「エジプト脱出事件」(紀元前1290年)にルーツを持っているが、同じく日本の年越しも鳥居もこの大事件にルーツを持っているといえる。

モーセは、かたくなな心を持つエジプト王ファラオにヘブライ奴隷集団の脱出を認めさせるため、一種の“魔術競争”をしたのであるが、エジプト脱出前日に“殺戮の天使”がエジプト全土に襲いかかって来た。

その時、モーセはヘブライ人たちに“殺戮の天使”の害に合わないためにと、玄関口の二本の柱と鴨居に羊の血を塗らせ、“殺戮の天使”が静かに通り過ぎるまで家の中で待つように指示したのであるが、これこそが鳥居のルーツであり、年越しのルーツである。

ユダヤ人の過越祭(ペサハ)

●古代ヘブライの神殿と日本の神社の構造は、驚くほど酷似している。

もともと古代ヘブライの神殿は「幕屋」と呼ばれる移動式だったが、幕屋はその名の通り、周囲を幕や板で囲み、中で神に捧げる祭祀を行なった。

全体ではないが、囲むという概念は日本の神社でも見られ、同様に祭祀は極秘である。

もともと古代ヘブライの神殿は「幕屋」と呼ばれる移動式だったが、日本の「神社」と構造が酷似している。

後に固定式となった「ソロモン神殿」もまた日本の「神社」と多くの共通点を持っていた。

また、幕屋の中の構造は、基本的には聖所・至聖所・拝殿に分かれていて、祭壇には明かりをとす常夜灯があり、脇には手を洗う水盤があった。

また有名な古代ソロモン神殿の前には、お賽銭(さいせん)を入れる箱も置かれていた。

●日本の神社の前に置いてある狛犬(こまいぬ)は、犬というよりもライオンであるが、古代ソロモン神殿の前にもライオンの像が置いてあった。

ライオンはダビデ王統を担うユダ族のシンボルであった。

●現在でもユダヤ人は祈りの時に『旧約聖書』の言葉を収めた「ヒラクティリー」と呼ばれる小さな小箱を額部分に付けるのだが、これは山伏が頭につける兜巾(ときん)と使用方法が酷似している。

また、山伏が吹く「ほら貝」の音は、ユダヤ人の祭りに使われる「ショーファー」という羊の角で作った吹奏器とそっくりである。

●古代ヘブライの祭祀レビ族は、みな白い服装をしていた。

非常にゆったりとした和服のような服で、そで口には「リンネ」と呼ばれる房が付いていた。もちろん「ヒラクティリー」も使用していた。

彼らの姿は、まさしく神道の神官や修験道の山伏のような姿をしていたのである。

●映画『レイダース／失われたアーク』(＝インディ・ジョーンズシリーズの記念すべき第1作)にも登場したヘブライの秘宝「契約の聖櫃(アーク)」は、実際に現在に至るまで行方不明であるため「失われたアーク伝説」として広く公式に知られている。

アーク(聖櫃)とはモーセが神から授かった「十戒石板」を保管するための箱で、全体に黄金が貼られており、『旧約聖書』の「出エジプト記」には、そのアークの作り方が克明に記されているのだが、その記載を見る限り日本の神輿(みこし)にそっくりである。

ヘブライの三種の神器を収めた「契約の聖櫃(アーク)」と日本の「神輿(みこし)」は驚くほど多くの共通点を持っている。

日本の「神輿(みこし)」の上には鳳凰(ほうおう)と言われる鳥が作られており、大きく羽を広げている

●アークの上部には2つの天使(ケルビム)の像が羽を広げて向かいあっているが、日本の神輿も金



で覆われていて、神輿の上には鳳凰(ほうおう)と言われる鳥が作られており、大きく羽を広げている。

また、アークの下部には2本の棒が貫通しており、移動するときにはレビ族が肩にかつぎ、鐘や太鼓をならして騒ぎ立てた。

しかも、かつぐための2本の棒は絶対にアークから抜いてはならなかったように、神輿の棒も抜かれることはない。

祭りが終わった後も棒を差し込んだまま保管されているのである。

このように、日本の神輿と聖櫃(アーク)との類似性は偶然では済まされないものがある。

●かつて北イスラエル王国(10支族王朝)を滅ぼしたアッシリア帝国は、「契約の聖櫃(アーク)」と「ソロモンの財宝」を最も欲しがったのだが、彼らはそれらを見つけることはできなかった。ヘブライの秘宝は北イスラエル王国滅亡と同時に消滅してしまったのである。

そのため、西欧の学者たちは「失われた10支族」と「失われたアーク」の行方を追って、世界各地へ手掛かりとなるものを捜し求め続けている。

なお、四国徳島県の修験道の聖地にして霊山である「剣山」には、ソロモンの秘宝が隠されているという根強い噂があり、一時、発掘隊が組織された時期もあった。

また、この剣山では毎年「神輿祭り」が行なわれるが、その日は「祇園祭り」と同じ7月17日である。

修験道の聖地にして霊山である「剣山」

●伊勢神宮には三種の神器のひとつである「八咫の鏡」があるというが、本物は誰も見たことがなく、その写しである皇室の神鏡にはヘブライ語が書かれているという。

『ユダヤ問題と裏返して見た日本歴史』には、ヘブライ語学者の左近博士が、それを解読するために宮中に呼ばれたと書いてある。

そして鏡の文字は「わたしは“わたしはある”という者である」と読めたという。

これは『旧約聖書』でモーセが神にその名を問うたときの神の答えの言葉に他ならない。

この話は一時、新聞で紹介されたことがあるらしく、日本在住のユダヤ人ラビ・M・トケイヤー

氏が、個人的によく知っている三笠宮にこの記事をご存じか、またこの鏡を見たことはおありかと尋ねたという。

ところが、古代オリエントの歴史に造詣が深く、ヘブライ語にも熟達しているという三笠宮でさえ、「新聞記事のことは知っているが、鏡は見たことがない」とお答えになったという。殿下でさえ、この鏡を見ることができず、更に驚いたことには、殿下の兄である天皇陛下でさえこれを見ることは許されないというのである。

●「伊勢神宮暦」は他の神社と違って「ヘブライ暦」と一致している。

●ユダヤ人は現在でも13歳の男子に、成人を迎える儀式「バル・ミツバ」を行なうことで有名だが、日本人も昔、13歳の男子に成人を迎える儀式「元服式」を行なっていた。また、生後30日目に赤ん坊を神社に初詣でさせる習慣は、日本とユダヤにしか見られないものである。

●日本もユダヤも水や塩で身を清める「みそぎ」の習慣がある。ユダヤ人は食事の前、トイレのあと、教会堂の入り口で手を洗うなどの習慣がある。日本人も神社を詣でる前には必ず入り口で手を洗う。

また、ユダヤ人は日本人と同じように、まず体を洗ってから風呂に入る。ユダヤ人以外の西欧人は、バスタブの中で体を洗う。

●現在の日本で行なわれている相撲(すもう)とは様相が異なるが、『旧約聖書』には、イスラエル12支族の父ヤコブが天使と相撲をとる光景が描かれている。ヤコブはこの天使との相撲に勝ったことで「イスラエル(神と闘う者)」という名前を授けられたのである。

※面白いことに、現在、イスラエルには相撲の愛好者が多く存在し、イスラエル国内に「相撲協会」が2つもある。

天使と相撲(すもう)をとるヤコブ

ヤコブは、この天使との「相撲」に勝ったことで「イスラエル(神と闘う者)」という名前を授けられた

●古代ユダヤ人は金髪や黒人ではなく、黒髪・黒目の浅黒い肌(褐色)をした人種で、背が低かった。  
体格は日本人とそっくりであった。

更に、日本人とオリジナル・ユダヤ人(オリエンタル・ユダヤ人)の男性Y染色体の大きさが同じであることが、パリ大学の教授によって発見された。  
これは、他には見られない現象だという。

マンチェスター大学法医学教室が「イエスの顔」を復元、エルサレムで大量に発見された紀元1世紀のユダヤ人の人骨群の中から、当時の典型的なユダヤ人男性の頭がい骨を選出して復元した。  
中東男性の顔つきをしている。

●『大和民族はユダヤ人だった』の著者であるユダヤ人言語学者ヨセフ・アイデルバーグは、カタカナとヘブライ語の驚くほどの類似性を指摘している。  
また、日本語の中にヘブライ語の単語が混在していることも指摘している。彼は次のように述べている。

「私は14年の歳月をかけて世界各地の言語を調べあげた。  
世界には中南米のマヤ人をはじめ、いくつも“失われたイスラエル10支族”の候補となる民族がいるのだが、日本語のようにヘブライ語起源の言葉を多数持つところはなかった。  
一般に日本語はどの言語にも関連がないため“孤語言語”とされているが、ヘブライ語と類似した単語が優に3,000語を超えて存在している。」

●エルサレム神殿の門には、天皇家の「16弁の菊花紋」と共通した紋章がしっかりと刻み込まれている。

この紋章はイスラエル民族の紋章であった。

現在のユダヤ教のシナゴーク(ユダヤ教会堂)には、必ずといっていいほど、菊の紋章がデザインされている。

ちなみに、現在、世界中を見渡して、菊家紋をシンボルにしている一族はユダヤ人と天皇家以外にはほとんどいない。

エルサレム神殿の門には、天皇家と共通の「16弁の菊花紋」が刻み込まれている

## [コメント]

まず最初にお断りしておくが、自分は何らかの新興宗教やカルト宗教などとは無縁の、葬式仏教と神道くらいしか拝まない、一般的な日本人だということである。

最近ではいわゆる日ユ同祖論をネタにした新興宗教もあるようで、こういった内容の記事を紹介するとカルトのレッテル貼りを行う輩がいるので、あらかじめ断っておきたいと思う。

日本を蝕む反日勢力の工作はまことに巧妙なのである。

日ユ同祖論とはいうが、現在、イスラエルに移住している白人のユダヤ人、いわゆるアシュケナジー系ユダヤ人と日本人に遺伝的なつながりはない。

彼らはユダヤ教を信奉するハザール人の末裔であり、旧約聖書に登場する古代のユダヤ人(ヘブライ人)とは生物学的には別民族である。

旧約聖書に登場したヘブライ人は、公式には行方不明で、非公式には日本人がその最有力候補といっても過言ではないだろう。

今回御紹介した日本とヘブライとの関連性はほんのさわりの部分だが、それでもあまりの類似性にビックリされた方も多いのではないかと思う。

日本の反日マスコミが朝鮮と日本との歴史的な関わりをこじつけようとしても、日本とヘブライの関係以上に、朝鮮半島と日本の関連性など見つかるはずがない。

日本の古代史を捏造したり掘り下げようとすればするほど、反日勢力は自ら墓穴を掘ることになるだろう。

誠に個人的な見解なので話半分で聞き流して欲しいが、旧約聖書に出てくるハルマゲドンの舞台は中東のイスラエルではなく、この日本になると推測している。

日本民族が古代イスラエル民族の末裔ならば、神から与えられた「約束の地」の一つが日本列島であり、真のイスラエルは、ダビデの血統の後継者である天皇陛下を頂点に戴く日本だからである。

ハルマゲドンが中東で起こると予測する人間は多々いるが、現代のイスラエルで戦争が起きようとも、それはハルマゲドンではなく第何次目かの中東紛争に過ぎない。

本当のハルマゲドンは日本が舞台となるし、聖書の預言と日月神示の預言は究極的には一致するのではないかと思う。

神国日本という言葉の本当の意味が、全ての世界の人達に知れ渡る日が来るかもしれないが、その日までは皇統や日本の国体を守るのが日本人の使命だと思われる。

(2010/1/25 『日本が好きだからなんだよ』より)

## ■ユダヤが日本の皇室を狙う理由■

現在のアメリカと日本のメディアは、少数民族による多数の他民族の支配を可能にするアイテムとして活用されており、テレビ、新聞、ラジオ、時には映画なども巧妙なプロパガンダの道具として、制作者側の情報の巧みなコントロールによって、民主制国家を動かしていると自分は考えている。

アメリカにおける少数民族はアシュケナジー系ユダヤ人であり、日本における少数民族は朝鮮人だが、アメリカにおけるユダヤ人批判、イスラエル批判はマスコミのタブーであり、それと同様に、日本での朝鮮人批判、韓国批判もマスコミのタブーとなっている。

どちらも嘘で自分達の歴史を塗り固めており、批判や分析をされるとすぐにボロが出てしまうので、マスコミの支配は彼らにとっては死活問題であり、支配原理の根幹でもあるようだ。

アシュケナジー系ユダヤ人がヨーロッパ起源のハザール人の末裔であることが大々的に知れ渡り、彼らが中東に居座る権利がないことが公に知られれば、なぜアメリカが軍を動員してイスラエルを守らなければならないのか、という声が当然起こってくる。

ただでさえ脆弱な基盤のイスラエルの建国の大儀が疑問視されるわけで、多くの大衆には、アシュケナジー系ユダヤ人＝旧約聖書に出てくるヘブライ人の末裔と誤解させておく必要がある。

以前、ブログのコメント欄になぜユダヤが日本の皇室を狙うのか教えて欲しい旨の書き込みがあったが、簡単に書くと、日本人が旧約聖書のヘブライ人の末裔の最有力候補であり、万世一系の皇室の存在は、旧約聖書に書かれている「神はダビデの王位を永遠に保つ」という神の契約の動かぬ証拠だと推測されるからである。

もし日本人が本物のユダヤ人(旧約聖書のヘブライ人の末裔)であることが証明されれば、アシュケナジー系ユダヤ人が中東の土地を奪って建国したイスラエルの正当性も同時に瓦解するわけで、アメリカを支配しているユダヤ国際資本の支配者層からすれば、目障りな日本を早目に滅ぼして

しまつて、イスラエルが本物のユダヤ国家として取つて代わりたつというのが本音なのではないだらうかと思う。

多くの日本人が忘れていることだが、我々が知る日本は、大和朝日本、もしくは神武朝日本ともいふべき国家であり、皇室の男系継承が終わればその時点で大和朝日本は滅亡してしまう。

民主党の国会議員が一匹残らず死んでも、いや日本国政府が解体しても、天皇陛下がいる限り日本は滅亡することはないが、天皇陛下と正統な皇位継承者が存在しなくなれば、日本は滅亡するといつても過言ではないだらう。

日本の皇室で素行不良で騒ぎを起こしている雅子妃は、学歴ロンダリングのコネ入学とはいえ、ハーバード大学の卒業生であるが、ハーバード大学というのは、アシュケナジー系ユダヤ人や、ユダヤ国際資本の手先になる人間を教育するための大学であり、学歴から見れば、雅子妃はまぎれもなくユダヤの手先に該当するわけである。

雅子妃と愛子内親王がいる限り、今後も女性宮家やら愛子天皇やらの論議が何度と無く蒸し返されるに違いない。

愛子天皇を女性天皇と置き換えて、怪しい世論調査などで巧妙にミスリードする売国奴は尽きないが、問題が多すぎる愛子天皇そのものを支持する国民は少数派だと信じたい。

しかし、例え愛子天皇実現の芽がなくとも、東宮という火種そのものは燻ぶり続けるわけで、完全に火種を消火するまでは、油断も隙も無いというのが自分の感想である。

アシュケナジー系ユダヤ人の問題を抜きにしても、日本が本当のイスラエルだと仮定した場合、いわゆる悪魔的な勢力が日本をあらゆる手段で侵食し、神の選民を墮落させ、自分達の陣営に引き込もうとすることは十分考えられることである。

悪魔的勢力＝反日ユダヤ朝鮮勢力＝反日左翼という等式がほぼ成り立つ理由は、彼らが例外なく

外国の手先であるからだろう。

いわゆるアメポチや似非保守と呼ばれる人間達も、結局は外国の手先という範疇に収まる日本人であり、広い意味での悪魔的勢力の手先と言えるのかもしれない。

はなはだ旧約聖書的な物言いになってしまうが、神の御意志を守り、神の契約を守ろうとする人間が神の側の人間であり、神の契約をなんとか破らせようとする人間が悪魔の側の人間だと考えると、別の視点から皇統問題を考えることも可能である。

この場合の神の契約とは「神はダビデの王位を永遠に保つ」ということであり、すなわち万世一系の皇統の保持のことである。

マスコミや官僚は皇統の維持には消極的であり、むしろ隙あらばこれを断絶させようと狙っている。

マスコミはもちろん、言うまでもなく、彼らが悪魔の側の人間であることの証明でもあり、そう考えると彼らの行動パターンもかなりの確率で予測出来るというものである。

旧約聖書を持ち出さなくても、天皇家による日本の統治は、神道の最高神である天照大神の神勅(天壤無窮の神勅)によって定められたものであり、125代に渡って皇統が存続し、守られてきたのは決して偶然ではないだろう。

旧約聖書的な見方にせよ、神道的な見方にせよ、外国的な価値観を入れて日本の伝統的な皇統を破壊しようとする連中は、少なくとも神の御意志に沿う連中ではなく、むしろ妨害者と言っても過言ではない。

つまりは神の敵であり、神の敵は悪魔ということになる。



自分はイスラム教の過激派や、中世の魔女裁判でのキチガイ神父のように、気に入らない奴を神の敵だといって糾弾することはナンセンスだと思っているが、日本の万世一系のように、神の御意志の動かぬ証拠が存在している場合は別だと思っている。

そういう理屈からすると、プロパガンダ漫画家で、女系天皇推進論者の我らが愛すべき小林よしのり氏も、この場でめでたく晴れて神の敵認定をされるわけだが、神罰が下る以前に、最近ではさっぱり著作が売れなくなり、鳴かず飛ばずの状態が続いているらしく、分かりやすい没落モデルの一つとなりそうである。

清水馨八郎氏の著作「大東亜戦争の正体」の第八章『日本の強さを支える五つの「文明力」』の中で、二番目に天皇についての記述がある。

## ■天皇力■

天皇家と国民を結びつける「血のつながり」

戦前の日本人に、日本の国体とは何かと問うと、即座に「万世一系の天子の国」と素直に答えた。

元旦には「一系の天子、富士の山」と口ずさんで、平和な天皇の国に生まれたことを感謝したものだ。

この世界に比類ない国柄は、神代から続く伝統を保持しようとする皇室の努力と、これを絶対に守り育ててきた日本民族の尊い知恵の成果であった。

皇室の繁栄はそのまま国民の繁栄で、皇室の慶事には、国民は我がことのように慶賀してきた。

天皇制を理解することは、日本文化の神髄を理解することに通ずるからである。

天皇のいない日本は、日本ではない。

天皇は、日本国の象徴であり、国民統合の象徴で元首なのである。

これは古代から現代まで一貫している。

この統合性と連続性こそ、日本の天皇制の特色である。

だから天皇制を無視して、これに触れない日本論は信ずるわけにはいかない。

それは虚構の論に終わるからである。

なぜ皇室は皇統連綿として125代、2,671年も絶えることなく続いてきたのであろうか。

それは共産党が侮辱して呼称してきた「天皇制」というような制度ではなく、民族の中に自然に育まれた国柄という「文化」だったからである。

特定の実力者が創り上げた制度ならば、別の野心家によって何度も変革されていたはずである。

この皇道は、神道の発生と同根で、民族がこの風土から学びとった「惟神の道（かんながらのみち）」と見ることができる。

国民は伊勢神宮や各地の氏神様を畏敬を以って何千年も維持してきたように、皇室に反逆するなど考えられず、親愛の情を以って守り続けてきたものである。

皇室と国民の関係は本家と分家、君民一体の絆は、親と子の血で結ばれているのと同じである。

一般国民は天皇との関係を理論的に知らなくとも、天皇の御前に立つと、ジーンと血がざわめき、感動を覚える。

それは、天皇の血と、私たちの血が同一の起源から発し、常に共鳴するからである。  
これを実証するには、次のように考えればすぐ分かる。

一人の人間を生むためには、二人の親が必要、二代目は四人の祖父母、十代前までの親の数は1,000人台に、二十代前では100万人台に、三十代前では早くも14億人に達する。  
ネズミ算の逆算である。

ところが百二十四代前の神武天皇の昔から、国土に生きてきた人の数は、4、5億人と推計されている。

だから実際は相互の親を何度も何度も共有し、親戚同士でなければ数が合わない。

日本は島国で3,000年来、異民族の大量渡来もなく、侵略されることもなく、完全封鎖、鎖国社会で、純粋培養、相互に血がつながりあって形成されてきた。

だから天皇家を本家とする家族国会になるのは当然だったのである。

誰でもどこかで天皇家とぶつからねば、自己は存在しなかったのである。

歴史上、源氏と平氏とは宿命のライバルの家柄だと教えられてきたが、元を質せば、平氏は桓武平氏(五十代桓武天皇)、源氏は清和源氏(五十六代清和天皇)と言われるように、数代前の祖先はともに天皇家から枝分かれしている。

かくして天皇の血と国民の血は同じだから、日本人は皆、同じような顔をして、「己の中に天皇を観て」暮らしているのである。

だから国民は意識しなくとも、天皇に近づくと血が共鳴し、親愛と感動を覚える。

君が代が栄え永続することは、国民が皆栄えつづけることとまったく同じだったのである。

大東亜戦争の敗戦後、日本列島に天皇陛下を否定しようとする反日左翼なる奇妙な生命体が増殖したが、本来、日本人は連綿として皇室を尊び、守ってきた遺伝子を持っており、またそのような文化の中で生まれ育ってきた民族である。

そういった遺伝子や民族的な集合的無意識を捨て去ってまで、反日ユダヤ朝鮮勢力に媚を売り、日本の根幹である万世一系の皇統を脅かそうとする日本人は、何かのたちの悪い熱病にでも浮かされているようにしか見えない。

小林よしのりはもう手遅れだが、女性宮家設立などを企む女系天皇論者は、神の御意志に逆らわず、日本人としての本分を取り戻し、悠仁親王殿下を奉じたてまつり、後世に汚点を残さないように希望する次第である。

余談になるが、日本の国歌である君が代はヘブライ語でも読めるようで、ヘブライ語で読むと次のような意味になるらしい。

[君が代の本当の意味]

日本語	ヘブライ語	ヘブライ語の意味
君が代は	クムガヨワ	立ち上がる
千代に	テヨニ	シオンの民
八千代に	ヤ・チヨニ	神・選民
細石の	サッ・サリード	喜べ・人類を救う、残りの民として
巖となりて	イワ・オト・ナリアタ	神・予言・成就する
苔の生すまで	コ(ル)カノ・ムーシュマツテ	全ての場所・語られる・鳴り響く

したがって歌らしくすれば

立ち上がれ、神を讃えよ!  
神の選民 シオンの民!  
選民として 喜べ!  
人類に救いが訪れ!  
神の予言が成就する!  
全地あまねく 宣べ伝えよ!

(2012/3/3 『日本が好きだからなんだよ』より)

## 威風堂々[43]『悪魔の△NIMRODと神の国ニッポンの運命とは!?!』

---

～△NIMRODの妻であり母セミラミスは後の「女神」の原型となり、  
ニューヨークの自由の女神像は、この悪魔的な淫婦・セミラミスのことである～

今年2012年は、ロンドンオリンピック開催の年ですが…、

その五輪競技の最中に、10万人が死亡する悪魔のようなテロが起こされるという噂があります…!?

私は、絶対に起こって欲しくないと思っています…!!

もしそんなことをしても、悪魔の△NIMRODヤツらは自滅するだけだと思います…!!

さて…、

今から140年も前、イルミナティの最高幹部アルバート・パイクという人物が、こんな悪魔のようなトンデモないことを語ったそうです…。

「世界を統一するために、今後3つの世界大戦と3つの大革命が必要だ」と…。

一般の人々が信じようが信じまいが、私たちの住むこの地球は…、

ある血の繋がりで守られた悪魔の△NIMRODの一族が、何世紀にも渡って人類の乗っ取り計画を実行し…、

もしかしたら間もなく、完全支配が終了する段階だったのではないのでしょうか...!?

### 【フリーメイソン-83つの世界大戦】

弁護士、詩人、作家として活躍していた、多才な南部連邦の将軍、いくつかのインディアンと協定を結び、「KKK」の創始者でもあるアルバート・パイク将軍は、1857年に秘密結社イルミナティの最高幹部(最高位33階級)にまで登り詰め、「黒い教皇」と呼ばれるようになった人物です。

アルバート・パイクが1871年にイタリアの革命指導者ジュゼッペ・マッチャーニに送った書簡には、次のように書かれていました。

「世界を統一するために、今後3つの世界大戦と3つの大革命が必要だ」

「第一次世界大戦は、ツァーリズムのロシアを破壊し、広大な地をイルミナティのエージェントの直接の管理下に置くために仕組まれることになる。

そして、ロシアはイルミナティの目的を世界に促進させるための“お化け役”として利用されるだろう。」

手紙が送られたのが1871年。

第一次世界大戦が始まったのが43年後の1914年です。

第一次世界大戦では、ロシアは連合国の一員として、ドイツ・オーストリアと戦いましたが、敗北を重ねて領土深くまで侵攻されました。

そして、第一次世界大戦中の1917年に起こったロシア革命でロマノフ王朝は倒された。

この時、ロシア革命を起こすべく、地下深くで活動し、革命勢力に資金援助を行ったのが、ユダヤ国際金融財閥のロスチャイルドと、日本政府から送り込まれた諜報部員の明石元二郎陸軍大佐です。

「第二次世界大戦は、『ドイツの国家主義者』と『政治的シオニスト』の間の圧倒的な意見の相違の操作の上に実現されることになる。

その結果、ロシアの影響領域の拡張と、パレスチナに『イスラエル国家』の建設がなされるべきである。」

第二次世界大戦が始まったのが1939年。

手紙が送られた68年も後のことで、「ドイツの国家主義者」をナチス、「政治的シオニスト」をユダヤ人に置き換えると、歴史はその通りになっている事が分かります。

「第三次世界大戦は、シオニストとアラブ人とのあいだに、イルミナティ・エージェントが引き起こす、意見の相違によって起こるべきである。

世界を統一するには3回の戦争が必要であり、1回目はロシアを倒すために、2回目はドイツを倒すために。

3回目はシオニストとイスラム教徒がお互いに滅し合い、いずれ世界の国々もこの戦争に巻き込まれ、それが最終戦争に結びつくだろう」

シナリオはこうです。

アメリカ背後に、台湾は独立宣言、中国は台湾をミサイル攻撃、アメリカの戦闘機が日本の米軍基地から飛び立ち中国攻撃、中国は日本を攻撃、日本は応戦、そして日中戦争に拡大。

今、世界の富は、日本と中国に集まっており、この地球上では、長く続いた白人支配は終焉を迎えようとしています、彼らがそれを時代のトレンドだといって、簡単に認めるとは思えません。

ここで、中国と日本が戦えば、工場を潰しあい、欧米の産業界は復活のチャンスを迎えます。また冷戦後、リストラの続く欧米の軍需産業にとっては、この金持ちの両国の戦いには、笑いが止まりません。

さらに、中国と日本の国力が疲弊すれば、再び白人支配を取り戻すことができます。

また、中国にとっては軍事的に日本支配をするチャンスでもあり、資本主義経済で大金持ちになった中国の富裕者層にとっては、この混乱に乗じて中国共産党を倒すチャンスでもあります。



なによりもメリットが大きいのはアメリカで、この混乱に乗じて、得意の圧倒的軍事力を行使でき、世界制覇も不可能ではありません。

それと、天文学的な借金を、ドルを暴落させチャラにし、金兌換?の新通貨AMEROに切り替える大きなチャンスでもあります。

中東発の世界的な大混乱は、まさしく第三次世界大戦を引き起こす引き金となり、宗教的にもハルマゲドンにより、救世主マフディ(イスラム教)、イエスキリスト(キリスト教)の降臨を実現させ、ミレミアムキングダム(至福の千年王国)の到来を待っているのが、今日のイランのアフマディネジャド大統領と、アメリカのブッシュ大統領です。

第三次世界大戦の後には、何があるのでしょうか。

それは世界統一宗教(フリーメーソンのような啓蒙思想的な擬似宗教含む)と、世界政府による「新世界秩序」であると思われます。

(2007/11/10『Renaissancejapan』より)

かくして予言通り、先の二つの大戦は実行に移されたのです...!!

こんな気違い△NIMRODの連中が目指す『世界統一政府』樹立の目的の為に、世界中で途方もない数の人々が命を落とすことになったんですよ...!?

本当に腹が立ちます...!!

あとは第三次世界大戦を勃発させれば、世界征服は時間の問題だった筈ですが....

どうやら、その悪魔のような計画は上手く行ってません...!!

その理由は、世界中の人々がヤツらの悪あがきに気付いたからです...!!

こんなヤラセ戦争なんか、まっぴらゴメンです...!!

イランは、もうイスラエルの挑発に乗ったりしません...!!

中国も、欧米諸国のいうことを聞かなくなりました...!!

そして悪魔の△NIMRODの手先だった人々が、ドンドン反旗を翻してきているそうです...!!

繰り返しますが....、

世界は、△NIMRODの連中にずっと騙されてきたのです...!!

実は、ホンの一握りの悪魔の血族に、私たちの住む世界は操られていたのです...!!

このところの世界経済の破綻劇によって、人類はやっと目が覚めたのです...!!

私も気付きました...!!

あなたも気付いた様に、世界中の人々が気付き始め出したのです...!!

ネットのお陰で、皆がようやく気付き始めたのです...!!

それから....、

311東日本大震災が、じつは悪魔の△NIMRODが首謀した「同時多発テロ」であり....、

これが聖書で予言されている「ハルマゲドン」だとしたら....、

何故、日本に起こされたのか、それが起こる必要がどうしてあったのか...!?

その理由は....、

「私たち日本人は『古代ユダヤ人(ヘブライ人)』の末裔」だから、そういう運命を背負っているのです...!?!?!?

311東日本大震災の復興のテーマは、『絆(きずな)』ですが....、

私たちニッポン人は、世界でも珍しいほど純血種に近い民族だということが知られています....。

じつは生まれながらにして日本人同士は家族そのものであり、自然に『絆』が深く結びついている民族なのですが....、

特に驚くべきことは、私たちの体内には、古代ユダヤ人の血が流れているらしいのです...!?!?!?!?

信じられない...!!

かつて、古代イスラエル民族には12支族があった....。

彼らは囚われの身となっていたアッシリア帝国から逃れ、その内の10支族が何処へ行ったのか行方知れずの謎となった....。

ある調査によれば、その失われたイスラエル10支族の1つが日本に渡って、やがて日本人となったのではないかという…。

日本の神道は、日本人が古代イスラエル民族の末裔であることを隠すため、ユダヤ教をカモフラージュしたものではないかという…。

そして大和民族の父は、もちろん天皇…。

天皇家こそが、最も古代ユダヤ人の純血を保っているという…。

そして、私たち一人一人ももまた天皇の子孫であり、血の繋がりがあのではないか…。

だとすれば、まさに『絆』で深く結ばれている筈です…!?

私たち日本人は、本当に『古代ユダヤ人(ヘブライ人)』の末裔なののでしょうか…。

古代イスラエル人は、神と様々な約束を交わしたそうです…。

永遠に続く地とは、神の国ニッポンのことなののでしょうか…。

ハルマゲドン後の世界では、神に選ばれた人々によって平和な王国が訪れるそうです…。

そしてその王国は、やはり天皇によって統治されるのでしょうか…。

日本人は、身体に流れている血液の意味に一刻も早く目を覚ますべきです…!!

311を境に、私は目覚めました…!!

私たちの街がどんなにボロボロになろうとも…、

私たちの魂までは破壊されてはなりません…!!

今こそ、白人の支配から解かれ、本当の独立を図るべきです…!!

大戦の勃発を防いで、世界平和を心から訴えることが出来るのは…、

神の国ニッポンだと確信しています…!!

そして、△NIMRODの連中が目指す『世界統一政府』樹立を阻止するべきです…!!

一方、悪魔の△NIMRODの連中もまた…、

ヤツらなりの純血の『絆』で深く結ばれているという噂があるのです…!?

次に、△NIMRODの正体を綴りたいと思います…。



もしも....

突然、あなたが見上げる空の上に....

十字架が現れたらどうしますか...!?

(ビックリする・祈る・呆れる・無視する)

それでは....

突然、あなたが見上げる空の上に....

UFOの大群が現れたらどうしますか...!?

(ビックリする・祈る・呆れる・無視する)

ここ数年の間に世界中で...

ラトビアで目撃された「光」...

ノルウェー上空に現れた「渦巻き」...

ロシアの空に浮かぶ「キリスト十字架像」...

南アフリカの空中に出現した「赤いラッパ」...

南アフリカの空に浮かぶ「子羊を抱えるキリスト像」...

などなど、不思議なモノが空に現れているのです...!?

そして...

311東日本大震災の前後に、福島県や関東地方で...

「UFO」の大群が頻繁に目撃されたのは有名な話です...!!

これらを見た人々の中には、きっと...

「神」あるいは「宇宙人」が降りてきたとか...

「この世の終わり」がやって来たと...

信じてしまうかも知れませんね...!?

実は、これらの現象はデッチあげ...!!

『△プロジェクト・ブルービーム』の実験ではないかと噂されているのです...!!

神を冒瀆し、バチ当たりなことをするのは...

悪魔の△NIMRODの連中に違いありません...!!

あなたはどう思いますか...!?

ロンギヌスの槍を投げたくなる、空に十字架を描いたUFOのヘブンな映像集  
(2009/4/29 『カラパイア』 より)

→<http://karapaia.livedoor.biz/archives/51408560.htm..>

Norway Sky Spiral - VERY CLEAR HQ - NBC Nightly News 2009-12-09

→<http://www.youtube.com/watch?v=lyWrxY15s6Y&fea..>

空に現れたサインはブルービーム? ラプチャー? 再臨 . . . ?  
(2010/11/17 『...just wondering』 より)

→<http://tiny4649.blog48.fc2.com/blog-entry-56.html>

福島県上空に現れたUFO(2011/11/13)

→[http://www.youtube.com/watch?v=3z4A\\_2vFV-I&fea..](http://www.youtube.com/watch?v=3z4A_2vFV-I&fea..)



## 威風堂々[44]『毎年あなたはクリスマスで悪魔の△NIMRODを祝っている!?!』

---

～イザヤ書の第14章に拠れば、△NIMRODの宗教はサタンの経典として同定されおり、サタンが全世界を欺いている偽りの父であり、  
△NIMRODは人間の形をした偽りの宗教の父である～

あなたは、この小説を読んでいて…、

「△NIMRODって、結局なんなの?」と、疑問に感じていることでしょう…。

でもそれは無理ありません…、

私も初めの頃は、悪魔の△NIMRODの事がよく判りませんでしたから…。

悪魔の△NIMRODとは…、

私たちの知らないところで、全世界を横取りしようとしている影の支配者のことです…。

実は、クリスマスというのは、「サタンの祭り」であり、悪魔の△NIMRODを祝っているという事をあなたはご存じでしたか…!?

### 【クリスマスの真実】

一般的にXmasというと、イエスの誕生日だと思ってる人が多いのですが・・・実は違います。

聖書によるとイエス・キリストが生まれた時、羊飼いは彼らが飼ってる羊と共に屋外ですやすやす寝てました。

イエスが生まれた土地では12月25日だと凍死してしまいます。

では、イエスが何時生まれたかというとならぬのですが・・・これは置いて・・・皆さんが盛大に祝い騒いでるのは誰の誕生日か？

これは驚くことに旧約聖書でヤハウエことエホバ神に最初に敵対した人間、ニムロド(NIMROD)の誕生日です。

ニムロドの生誕祭は、西暦起源のずっと前から異教徒たちが祝ってきたものでした。

12月25日、バビロニアの女神(セミラミス)の息子に祝意を表して。

(ニムロドはセミラミスの子供)

その後、この同じ祭はローマ教会でも採用されるようになり、この祭りの名前に「キリスト」というネーミングが加えられました。

カルデア人の韻文を意識したものによると、このように言っています。

「クシュの息子(クシュの父はハム、その父はノア)・ニムロドは、純潔な血を抹殺してエホバに反逆し、邪悪を世に蔓延させた」。

ニムロドは確かに12月25日に生まれました。

ニムロドが死んだとき、その死はyule log(クリスマスイブに暖炉で焚く太い薪)として表わされるようになりました。

ニムロドの死は、この偉大なる“神”の薪の中に封じ込められ暖炉に投げ入れられることによって祝賀されるのです。

ニムロドとは、世界最古の都市国家と言われているバビロンの支配者で、現世を支配している神から離れ、神に敵対する背教を起こし、これを組織化して広めた人物です。

彼は自分を生んだ女性、つまり、実の母親ーセミラミスという名前の女性と結婚しました。

ニムロドの死後、いわゆる彼の“母親妻”セミラミスは、ニムロドが霊的な存在となって生き続けているという、邪悪な教義を世の中に普及し始めたのです。

セミラミスは、完全に枯れてしまった木の切り株から、一夜にして大きな常緑樹が生え伸びたと主張しました。

死んだニムロドの新しい命が、その中に宿っていると言い出したのです。

セミラミスは、毎年、ニムロドの誕生日の12月25日には、その常緑樹にニムロドの霊が憑るので、ニムロドへのプレゼントとして、その木に贈り物をくくりつけるように人々に伝えまわったのです。

これがクリスマスの本当の起源です。

伝統的に、クリスマス・イブには暖炉の中に大きな薪(yule log)がくべられ、それは一晩中燃え続け、あたたかもマジックのように、贈り物で飾られたクリスマス・ツリーが部屋の中に出現する。

大きな薪(yule log)は、太陽神・ニムロド自身を表しており、クリスマス・ツリーは、ニムロドの息子・タンムズとしてニムロドの復活を表しています。

クリスマスケーキは、ニムロドの死をモチーフにしてデザインされたもの。

大きな薪(yule log)は、死んだニムロドのこと。

クリスマス・ツリーは、ミステリアスなタンムズ(死んだニムロドが生まれ変わるとされている神の子の名前)を表しています。

Xmasの『X』というのは、ニムロドの象徴で、メリー・クリスマス(merry Xmas)は『Magical or Merriment Communion with Nimrod』という意味です。

ニムロドの誕生日は12月25日の日曜日で、それはバビロニアの安息日でもあります。

クリスマスというのはサタンが我々に仕掛けた罠で、本当の期限は古代バビロンにまで遡ります。

友人との間でプレゼントを交換するのは、ペイガニズム(Paganism・ここでは異教崇拝の意味で使われていますよ)から来たものなのです。

近親相姦の悪魔の子・ニムロド崇拝の異教を母体とする12月25日の祝賀は、「クリスマス」と名前を変えて、今日まで脈々と受け継がれ神に成りすました異教崇拝者(ニムロド)を祝っているのです。

サタン崇拝の儀式「クリスマス」を世界中に定着させる原動力となったのがキリスト教で、そのまた元は白人・青い血に代表するヨーロッパ王族(レプティリアン)がこの悪魔信仰を普及させました。

(『奴等は見ている』より)

ちなみに、近年の科学的な調査によりイエス・キリストの本当の誕生日は、紀元前6年4月17日(土)であることが判ったようですが...

そしてこの件に関する情報を、もう一つ...!!

【クリスマスの起源はサタンの祭り!?!】

—Xmasはイエスの生誕にみせかけてサタンが仕掛けた周到な罠である—

これまで、クリスマスとはイエスキリストの生誕を祝うものではなく、ニムロド(NIMROD)の生誕

を祝うのが起源であるらしいことを見てきました。

古代バビロニアに人類初の都市国家を築いたとされるニムロドこそが、「サタン王」であったのです。

そして12月25日はこのニムロドの誕生日だったというわけです。

ただ、なにぶんニムロドは紀元前(数千年前)の人物です。

バベルの塔を建造したくらいですから、「神への反逆者」つまり「サタン王」だったことは明らかですが、その悪魔性を示す事跡が詳細に分かっているわけではありません。

しかしサタン結社である「イルミナティ」が今日まで伝えるところにより、ニムドロの悪魔性の一端をうかがい知ることができます。

かつてイルミナティのド中枢にいた人物が、「クリスマスはニムドロの生誕を祝うもの」であることを明らかにしているのです。

「Merry Xmasの『X』というのは、ニムロドの象徴で、merry Xmas は『Magical or Merriment Communion with Nimrod』という意味である。

ニムロドの誕生日は12月25日の日曜日で、それはバビロニアの安息日である。

したがって、クリスマスはイエスではなくニムロドの生誕を祝うものである。

ニムロドのシンボルが『X』の十字であることは重要である。

多くの魔女(例えばチャールズ・マンソンの女性たち)の額の上にこのマークがある」

ージョン・トッドー

こう記したジョン・トッドなる人物は、「悪魔の13血流」随一の強力なオカルティストの家系であるコリンズ家の一員でした。

ジョン・トッドは上記文を含む『イルミナティと魔術』という小冊子を著し、同結社のおぞましい秘儀を世間に暴露したため同結社によって暗殺されています。

ここで「イルミナティの悪魔の13血流」とは、英国王室を筆頭に欧州各王室や元貴族、それにロスチャイルド、ロックフェラーなどのアシュケナジー系の“偽”ユダヤなどの、世界を裏から支配している“白人種スーパーエリート”の血流(血統)を指すと思われます。

ケネディ家、ブッシュ家、クリントン家など米国大統領を出した家系の多くは、この13血流にま

で遡るイングランドなどの元貴族の家柄だとみられているのです。

私見では、この血流は元からの地球人ではなく、サタン性を有する(地球外生命体の)レプティリアン(爬虫類人)と地球人のハイブリッドであると思われます。

欧州貴族の代表格である英国王室(ウィンザー家)の現女王、そして初代女王の「エリザベス」の文字を分解して読み解くと「トカゲの女王」となることは近年つとに知られています。

この「悪魔の13血流」の始祖がニムロドだったかどうかは分かりません。

が、まったく無関係ということはないでしょう。

確実な情報かどうかは不明ですが、ニムロドは「一つ目」だったという説があるようです。

「一つ目」、これはサタンやイルミナティの重要なシンボルなのでした。

代表例はご存知米国1ドル紙幣に描かれた「ピラミッドの一つ目」です。

別名「万物を見通す目」や「プロビデンスの目」とも言われますが、多くの研究家によってこれは「サタン(ルシファー)の目」とされているのです。

ニムロドが一つ目だったとしたら、彼自身がサタンそのものではなかったとしても、サタンの霊流を受けたまさに「サタン王」だったと見ていいと思います。

(『カレイドスコープ』より)

ここで遂に、悪魔の△NIMRODの正体が明らかにされます…。

世界を裏から支配している『イルミナティの悪魔の13血流』こそが…、

紀元前数千年前、人類史上最初に神に逆らった人物であり、世界最古の都市国家バビロニアを創った…、

「サタン王」ニムロドの末裔ではないでしょうか…!?

しかも、『イルミナティの悪魔の13血流』の種族は…、

“白人種スーパーエリート”の血流(血統)を持つ…!?

サタン性を有する(地球外生命体の)レプティリアン(爬虫類人)と地球人のハイブリッドの可能性が  
ある…!?!?!?

俄には信じられないことですが…、

私たちの住むこの地球は…、

ある血の繋がりで守られた悪魔の△NIMRODの一族が、何世紀にも渡って人類の乗っ取り計画を  
実行し…、

もしかしたら間もなく、完全支配が終了する段階だったのではないのでしょうか…!?

悪魔の△NIMRODの連中が、もし本当に「サタン王」ニムロドの純血を受け継ぐ種族であるな  
らば…、

人類を家畜とみなす、その残虐性も頷ける訳ですし…、

これまで何世紀にも渡って、しつこく諦めずに何代にも渡り、世界征服を目論んできたのは…、

『世界統一政府』という、ワンワールド『全世界バビロニア帝国』の樹立を押し進めてようとい  
う野望があったからこそではないのでしょうか…!?

悪魔の△NIMRODたちは、恐らく…、

何千年もの間、キリスト教を隠れ蓑にして…、

ユダヤ人(ユダヤ教徒)になりすまし....

フリーメイソンリーに紛れ込んで....

イルミナティに潜伏し....

各国の政府首脳を操り....

着々と『全世界バビロニア帝国』を創り上げつつあったのではないのでしょうか...!?

今年2012年はその総仕上げの年...!!

ヤツらの計画では、聖書でいう「終末」、「この世に終わり」にする予定だったのです...!!

ハルマゲドンを起こし、70億の世界の人口を5億人まで大掃除するつもりだった...!?

そして12月25日、何世紀にも渡る悲願だった『全世界バビロニア帝国』完成の暁....

今年のクリスマス(ニムロドの誕生日)は、悪魔の△NIMRODの連中はさぞや大喜びでお祝いでも挙げるのでしょうか...!?



『この現代社会に、△悪魔なんていないよ!?!』

---

『この現代社会に、△悪魔なんていないよ!?!』

と、あなたは否定することでしょう...

私もそう願いたいのですが...

しかし...

古代バビロニアの△NIMRODの血流を継ぐ、サタニスト(悪魔崇拜主義者)どもによって...

△悪魔教は、何世紀にも渡って脈々と受け継がれてきたと云われているのです...!?!



△悪魔は、その姿形を変えて潜り込むのが得意で...

例えば、別な宗教に隠れていたり...

それに音楽・映画・TV等、マスゴミを巧みに利用して...

平和だとか博愛だとか、耳障り良い言葉で近寄り...

あなたや家族の心の中に、いつの間にか忍び込むのです...!!

まさか△悪魔教だと気付かないまま、嵌っていたりするのです...。

その毒牙には、若い人ほど掛かりやすく...、

例えば...、

若者が好んで、身体にピアスや入れ墨を入れたり...、

ドクロ・マークのリングを嵌めたり、不気味な絵柄のTシャツを着たりするも...、

実は、まんまと△悪魔に心を奪われている証拠なのです...!!

ヤツらの思う壺かもかも知れません...!!

そして、気が付いたとき既に...、

この地球は...、

サタニスト(悪魔崇拜主義者)どもによって、人類が完全支配される一歩手前まで来ていたとしたら...!?!?!?

イルミナティ 悪魔の13血流と構造 フリッツ・スプリングマイヤー氏

→<http://www.youtube.com/watch?v=pw-hYhsLXs4>

ヨハネの黙示録666の正体

→<http://www.youtube.com/watch?v=qhQfNDJdiRE&fea..>

フリーメーソン カトリック由来のこの恥ずべき性癖

→[http://www.youtube.com/watch?v=\\_CDjT5oeUic&fea..](http://www.youtube.com/watch?v=_CDjT5oeUic&fea..)

サタン信仰 エリートがイルミナティになる瞬間

→[http://www.youtube.com/watch?v=\\_vrW8rdGMo4&fea..](http://www.youtube.com/watch?v=_vrW8rdGMo4&fea..)

## 威風堂々[45]『古代バビロニアの悪魔教を守る一族は△NIMRODの末裔なのか!?!』

---

～△NIMRODのサタン教という古代バビロニアの宗教は全世界に侵入し、偶像崇拜の仕組みの基本形となり、「神」は世界で様々な呼び名を与えられているが、世界の主な宗教を遡っていくと、バビロンに行き着くのである～

「サタン王」△NIMRODの純血を受け継いでいるのではないかと囁かれている、ある種族について…、

その謎を明かした為に、暗殺されたジョントッド氏や…、

服役中のフリッツ・スプリングマイヤー氏が、命懸けで暴露したのが…、

『イルミナティ悪魔の13血流』です…!!

そこには、何ともおぞましい悪魔崇拜主義者たちの、隠された闇の世界があったのです…。

【人類は、悪魔崇拝者たちに人質にされた】

By Fritz Springmeier

誰がイルミナティなのか？

と私はしばしば尋ねられた。

この陰謀の最上位の連中は、誰なのか？

悪魔の家系は、誰なのか？

イルミナティは、血流で強められた魔術的な13家から成っている。

他に名をあげるのに価値がある若干の有力な血流もあるが、その一族がイルミナティであるならば13の有力な血流のうちのどれか1つと血縁関係がある。

私が知っているイルミナティの約半数は、どの家系の出身であるのか隠されている。

まだ本当の親が誰であるかわかっている多くの者でも、イルミナティが家系を示すまで、彼らがどんな血流に属しているか知らない。

イルミナティのほとんどはMPD「多重人格症」である。

高位の悪魔主義者がMPD [多重人格症] でないとき、頻繁に恐ろしい血の儀式のストレス下にさらし感情破壊させるよう要求される。

最近では、シカゴのMPDでない悪魔主義者が、感情破壊されたあげく彼の人生をキリストに捧げてしまった。

(私は、悪魔崇拝を暴露しているこの男性のインタビュービデオを持っている)

リンカーン、リー、ベイジェントという3人の研究家がわずかな手懸りや秘密をこと細かに調べ上げるまで、重要な血流のうちの1つは秘密のままだった。

彼らは、これを「Holy Blood, Holy Grail(邦題『レンヌ=ル=シャトーの謎ーイエスの血脈と聖杯』)」、と言う本に収めた。

私がこの本と続編の二冊を薦めるのは、連中の13血流のうちの1つがどのように自分の姿を秘密のままに、すべてにおいて巨大な権力を担ったのか教えているからだ。

ベルギーの南部には連中の城がある。

これはマザー・オブ・ダークネス城である。

その城の中に聖堂があり、その聖堂の地下室では、毎日小さい赤ちゃんが生贄に捧げられ霊力をよびよせている。

そしてその血はインクとして、反キリストが権力を握っていく歴史を特別大きな本に書き込むのに用いられる。

書物は、ほとんど24時間休みなく書かれる。

(この城について拙著『蛇の如く聡くあれ』に記述済みである)

世界の主要なニュースメディアが騙されやすい国民に流した宣伝工作の裏側の本当の事実を、そ

の手書きの歴史書は明らかにしている。

その本に書かれた歴史は、アブラハム・リンカーンがロスチャイルドの末裔であったことを明らかにする。

アブラハム・リンカーンは、薔薇十字会の秘密の長であり、これは連中の3つの最高議会のメンバーである。

(私は、リンカーンに関するこれらの事柄の追跡調査の書類を見たことがあるが、これらが真実であると納得できるものだった)

アドルフ・ヒトラーもロスチャイルド血流の秘密の一員であった。

ヒトラーは、高水準の悪魔的な霊的支配で彼の精神高揚のために、血の犠牲を実行した。

ロックフェラーは、第二次世界大戦を長引かせるためにその戦争の間スペイン経由でヒトラーに石油を売っていた。

その本の歴史には国民に与えられる『歴史本』にはでてこない人々にも言及している。

—マイケル・アウグストゥス・マルティネリ・フォン・ブラウン・ラインホルト（数年前、世界で最も強力な悪魔主義者）など。

彼には、66人の悪魔の花嫁がいた。

また、マザー・オブ・ダークネス城の悪魔の本は、ロックフェラー血流にも言及している。

インサイダーだけが、人間の歴史で起こったことの本当の歴史を知っていると想定される。

本当の決定や本当の実力者は、大衆の目から隠されてきた。

一般大衆に与えられるものは、イルミナティの操り人形がまわりをパレードして、台本通りの盛大なスピーチをしている劇場演出だ。

それぞれ13の家族は、連中自身のひとそろいのマザー・オブ・ダークネスを持っている。

それぞれ13の家族は、マザー・オブ・ダークネスという連中自身の秘密の悪魔の指導者、王、女王、皇太子、王女がいる。

たとえば、ロックフェラー家には、秘密の儀式で彼らの血流の王と皇太子として選ばれる人々がいる。

王と皇太子、女王と王女は、厳密に血流でつながっている。

連中らは、自分たちの血流でひそかに世界の領域を統治する。

イルミナティは、いくつかの議会の下にいろいろな血流を統合している。

高位ドルイド僧会議または13家族会議は、死のブラザーフード結社のためにある主要評議会だ。

13家族会議の上部に、9家族のより高い会議がある。

そして、内部の3グループは9家族会議の長とされている。

どのように、我々はこれらを知ることができるのかって？

神の力は、悪魔の帝国のまさしくその核心部に達して、最も強力な悪魔主義者から何人か引き抜いて、彼らをキリストに引き合わせた。

何人かの悪魔主義者のトップは、キリストの真理に出会うことができた。

さらに、ピラミッド型の階層の例えばマザー・オブ・ダークネス階層の何人かは、キリストの真理に出会っている。

もし誰かが世界情勢の方法と決定がなされる理由を理解したい、そして、それは誰によってなのか知りたいなら、イルミナティについて勉強する必要がある。

本当の答えは、アメリカ合衆国会議の議事録にも、一般大衆が知っている共産主義国の指導者のところにもない。

私が話す例として、ジェイムズ・プールとスザンヌ・プールによって書かれた「Who Financed Hitler」（邦題『ヒトラーの金脈』早川書房、1985年）と題される本がある。

物事の舞台裏を見るのをいとわない人々がいることは、いつもうれしいことである。

本当だ、ヒトラーが従っていた連中がいた。

儀式に向かわせた連中がいた、そして、ヒトラーを権力の座につかせた。

(KKベストセラーズ1998年刊・フリッツ・スプリングマイヤー著・太田龍監訳『イルミナティ悪魔の13血流』より)

【イルミナティ悪魔の13血流】

闇の勢力と言われるイルミナティという言葉は知られてきましたが、ピラミッド構造をしたフリーメーソン33階位であるということぐらいで具体的な名前を知っている人は少ないと思いま

すので、今日はフリッツ・スプリングマイヤーの著作である『イルミナティ悪魔の13血流』から、その家系に名を連ねる家族を簡単に紹介しておきます。

フリーメーソンは中世ヨーロッパでアダム・バイスハウプトが設立したと言われていますが、どうやらその歴史はもっと古くからあったようで、デービッド・アイクなどによれば、その起源は数千年前のバビロニアン・ブラザーフッドに遡るともいわれます。

彼らはイニシエーションといわれる、身の毛もよだつような秘密の儀式を執り行うことで、幽界の低層から情報を得ているようです。

昨日書いたように、幽界の低層とは邪悪な魂たちの溜まり場で、闇を支配するルシファーの世界です。

彼らはユダヤ教徒のように装っていますがルシファー(悪魔)信仰なのです。

次元が違えば、この世界では分からない情報も入手することもできますから、明日何がどのようになるかも分かるわけで、簡単な例えをすれば、次に走る馬のレースの着順が分かれば、いとも簡単に大金を手にもすることも出来ます。

そうして長年にわたって蓄財し、今や世界の富の半分以上は彼らの手中にあります。

この莫大な富を後ろ盾にして世界支配を可能にしてきました。

彼らの目論見は世界人口の95%以上を削減し、世界統一政府、世界統一通貨の世界、いわゆるニュー・ワールド・オーダーNWOの成立です。

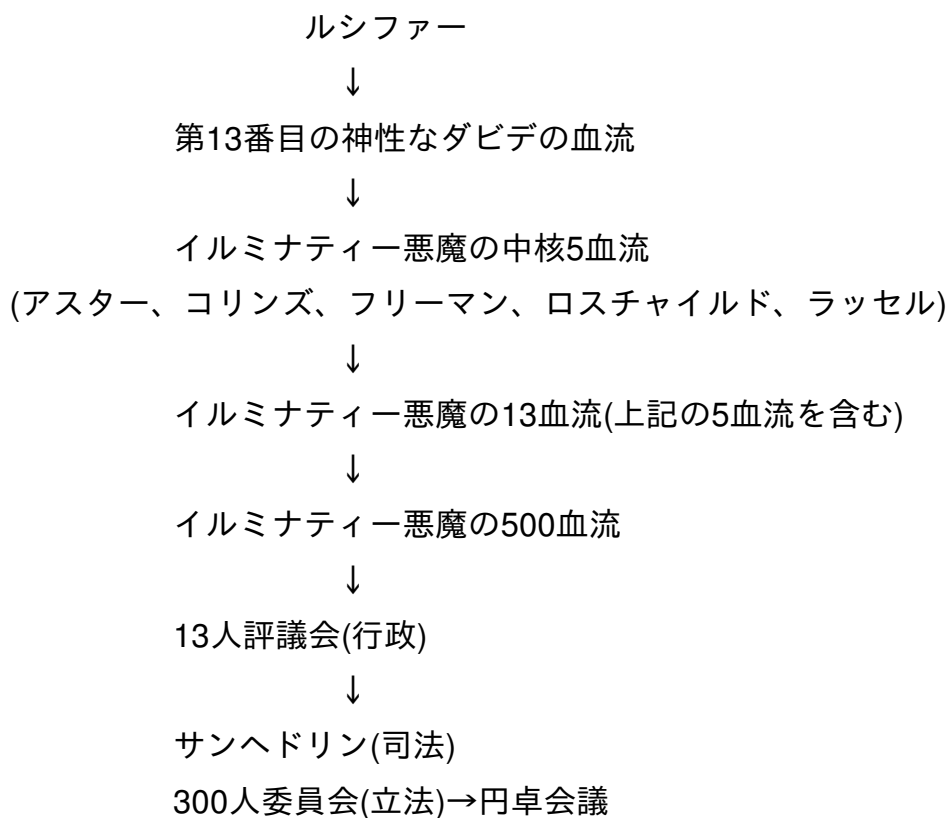
これらのことは、今までも幾度も話題にはなってきましたが、そういう話題になると、必ず陰謀論として処理されます。

そう信じている人も多いのですが、いつまでも真実が隠され続けることはできません。

情報が拡散される現代において、世界がほんの一握りの人たちによって支配されてきていることに気が付いた人たちが増えてきたのです。

こうした情報を広めた功績者の一人がフリッツ・スプリングマイヤーです。

(2010/11/20『ひとりごと、ぶつぶつ』より)



英国王立国際問題研究所(RIIA)

米国外交問題評議会(CFR)

ビルダーバーグソサエティー

日米欧三極委員会

ローマクラブ

フリーメーソン高級幹部

その他(M16、MJ12、CIA、FBI、NSA、モサド、ADL、テンプル騎士団、薔薇十字会、ピルグリム・ソサエティ、サンヘドリン、スカル&ボーンズ)

■13血流名簿■



- 1、アスター家(ピルグリム・ソサエティー、円卓会議。ローズ奨学金の重鎮)
- 2、バンディー家(悪魔主義者ハリー・バンディー、合衆国薔薇十字会指導者)
- 3、コリンズ家(イギリス清教徒革命のクロムウエルにつながる悪魔の家系)
- 4、デュポン家(世に広く知られつつも、生活は完全に隠された悪魔の王族)
- 5、フリーマン家(メロビング王朝、メディチ家、黒い貴族...発するシオン修道院の存在)
- 6、ケネディー家(アイルランド貴族、サンジェルマン伯爵とイルミナティーとマシューケネディー)
- 7、李家(共産主義中国の権力中枢、新世界秩序に向けて貢献する李嘉誠、李鵬、李光耀)
- 8、オナシス家(スミルナの三大麻薬商社の一つ、オナシス家)
- 9、ロックフェラー家(ご存知アメリカ帝国の帝王を輩出する)
- 10、ロスチャイルド家(ロスチャイルド一族とイスラエル国家の誕生)
- 11、ラッセル家(ものみの塔創設者チャールズ・ラッセル、スカル&ボーンズ設立ウイリアム・ラッセル)
- 12、ファン・ダイン家(イルミナティーの中のオランダ系譜の代表)
- 13、第13番目の「聖なるダビデの血流」(ルシファーの直系卑族、ワシントン、ブッシュ)

(さらにこれらの家系周辺の血流として、レイノルズ家、クルップ家、ウインザー家などがあります。)

本当にこれが、私たちの地球を影から操ってきた悪魔の△NIMRODの連中の...

正体の全てなののでしょうか...!?

アスター家、バンディー家、コリンズ家、デュポン家、フリーマン家、ケネディー家、李家、オナシス家、ロックフェラー家、ロスチャイルド家、ラッセル家、ファン・ダイン家と、世界的に有名な超大富豪十二家に、第十三番目の「聖なるダビデの血流」であるとしていますますが...!?

まだいます...

キリスト教に隠れたヤツらが...

## 威風堂々[46]『春分の日、悪魔の△NIMRODが牙を剥く危険日!?!』

---

～△NIMRODとは、バビロンという太陽崇拝に中心地を置くことによって、世界のサタンへの忠誠心を競わせようとしたものであり、  
神と神の権威に挑むことはサタンの企みなのである～

【ユダヤ金融悪魔のみなさん、12.3.20にはなにか悪魔のイベントを企画していませんか?】

①在日イスラエル大使館がわざわざ「3.20休業」すると公示しておいて、翌日にはなぜか記事を消しています。

大使館員と家族が一斉に東京を離れるようなことはないですよ?

監視されていますよ。

在京のユダヤ金融機関の白人のみなさんも監視対象ですよ。

911の時のWTCのように六本木のユダヤ人満載ビルにユダヤ人が一切出社しないなんてことはないですよ?

②03年「3.20」には、全世界のユダヤ人がピュリム祭で前祝したあとに隠れユダヤ人ブッシュがイラクを侵略しましたね。

ユダヤの宿敵サダムフセインを打倒しましたよね?

③オウム・サリン事件も95.「3.20」でした。

オウムの黒幕が金融ユダヤだったと今では誰でも知っていますよ。

④「3.20」とは「ユダヤの宗教報復記念日」だと聞いたのですが?

～2012年の3月20日にはどんな悪魔の所業をご企画中ですか?～

(2012/3/2 『richardkoshimizu』 より)

3月20日前後にXデーが来るのではないかと囁かれています...!!

またもや人工地震&津波でしょうか、アメリカの崩壊とFEMAの発動でしょうか...!?

何が起こっても不思議ではありません...

春分の日、悪魔の△NIMRODが牙を剥く危険日なのだそうですが、一体何故なのでしょう...!?

そこには、「春分点歳差」という、年に一度起こる現象に秘密があるというのです...!?

【キリスト教をでっち上げた秘密結社「フリーメイソン」の正体】

## ■ミトラ教をパクった秘密結社■

キリスト教徒が絶対に認めたくない事実ではあるが、「キリスト教」が「ミトラ教」の“パクリ”という説は、これまで宗教研究家や学者によっても指摘されてきた。

別のいい方をすれば「ミトラ教」をベースに「キリスト教」という宗教が作り上げられたということだ。

軍神・太陽神など複数の顔を持つ「ミトラス神」を信仰するミトラ教は、古代ローマ帝国で最も繁栄しおもに軍人を中心に普及した密議宗教といわれている。

12月25日といえば今や、キリストの降誕日と思われているがこれはミトラス神が冬至に生まれ変わるという信仰に基づく、ミトラス教の「ナタリス・インウィクトゥス」と呼ばれる祭典に由来しているといわれる。

また、キリスト教の聖体拝領の儀式は、信者に聖なるパンとワインを分け与えるミトラ教の儀式を模倣したものだという。

そして、こうした模造を行いキリスト教をでっち上げたのが、実は「フリーメイソン」であるといわれているのである。

### ■ヴァチカンに秘められた「空間の暗号」■

ローマ・カトリック教会の中心「ヴァチカン」は、紀元326年、ミトラ教の聖地跡といわれる場所にコンスタンチヌス帝によって建てられた。

ヴァチカンのサンピエトロ広場（1656年～1667年ジャン・ロレンツォ・ベルニーニ設計）の中央には、紀元1世紀頃にエジプトから運ばれたとされるオベリスクが据えられており、地面にはそこから放射状に広がる「12宮街道」が記されている。

占星術の「バーナル・エクイノクス・プレセシオ」（春分点歳差）を示したものであるが、これはバチカンの信仰が、キリストではなく「アストロジー」（占星術）もっといえは「春分点歳差」そのものであることを暗に示しているといっている。

そして、古代より「春分点歳差」を信仰してきたのが「フリーメイソン」だという。（ごく最近になって、フリーメイソンの内部告発による情報からも明らかにされている。）

これはローマ・カトリック教会を操作してきたのは、「フリーメイソン」であることを意味しているといえる。

### ■乗っ取り集団「イルミナティ」■

フリーメイソンの起源については諸説あるが、元々、建築・土木の専門集団だったフリーメイソンに「思想的メーソン」といわれる技術者以外の人間が加わり、現代に近い形態になったのは、18世紀といわれている。

が、実際の起源は古代、少なくともエジプト王朝の時代に遡るといっていいだろう。

また、フリーメイソンの一派といわれる狂信的・黒魔術集団「イルミナティ」は、1776年にバイエルン王国のインゴシュタット大学の教授アダム・ヴァイスハオプトによって創設されたとされる。

そして、その資金援助をしたのが「死の商人」として知られるマイヤー・アムシェル・ロスチャイルドといわれ、以降、フリーメイソンの上層部をイルミナティが占めるようになったといわれている。

別のいい方をすれば、世界を裏で動かすことを画策していたマイヤー・アムシェル・ロスチャイルドが当時、すでにロッジを世界展開し、各国の上層部に浸透していたフリーメイソンをイルミナティを使って乗っ取ったといってもいいだろう。

ダン・ブラウン著の小説「天使と悪魔」では、イルミナティは現存しない伝説の秘密結社ということになっているが、こういったイルミナティにまつわる情報は、ほとんどが隠蔽情報と思ってい。

確かに、イルミナティは1784年に、複数の内部告発者の出現により、政府により活動を禁止され、表向きは消滅した形になった。

が、これもロスチャイルドの画策の一部だったといわれている。

ロスチャイルドにとってイルミナティは、あくまでもフリーメイソンを乗っ取る手段であり、だとすれば、目的達成後、イルミナティを創始者ごと葬り去り、世界の表舞台からその存在を消せば、ロスチャイルド自身の関与も隠蔽することができるからである。

とはいえ、ロスチャイルドが仕掛けたこうした「嘘」は後に世間に暴露されかけて、一大スキャンダルにまで発展したことがある。

1978年にローマカトリック教会の上層部に異教徒が多数存在することを知ったヨハネ・パウロ1世が彼らを更迭しようとしたために、不振な死を遂げたといれる事件である。

その後、フリーメイソンP2ロッジによる暗殺説などイタリア・メディアなどを中心に、事件が大々的に報じられた。

■でっち上げられた聖書の史実■

フリーメイソン(もしくはフリーメイソンの前身)は、すでにエジプト王朝の時代には存在していたとていい。

古代エジプトの神秘主義や宗教的思想を模倣したのも聖書をでっち上げたのも、また彼らであるといわれているのである。

「汝盗むなかれ」「汝殺すなかれ」で有名なモーゼの十戒はエジプトの「死者の書」からの“まるパクリ”(100パーセント盗作)ともいわれる。

非常にタイムリーな情報として、今月号の「DAYS JAPAN」の特集では聖書の史実性を否定するテルアビブ大学のヘルツォーグ教授らイスラエルの考古学を代表する学者たちの記事が掲載されているが、これによれば当時のエジプトの詳細な記録文書には、数百年に渡り奴隷状態に置かれたユダヤ人の居留地後の記述も、モーゼのエジプト脱出も記録にないといっている。

また、「約束の地」といわれるカナンは当時エジプトの支配下にあった為、ユダヤ人がカナンへ移動したとしてもエジプトを脱出したことにはならず勿論、その記録も残っていないという。

聖書で神がユダヤにカナンの地を「約束の地」として与えたことは「虚偽」、つまり現在イスラエルが進めている占領・入植政策はまるっきりのでっち上げの上に成り立っていることになるのである。

## ■フリーメイソンとギザのピラミッド■

エジプト考古学者・吉村作治氏も言及しているが、当時ギザのピラミッドの建設(通説では推定紀元前2540年代頃)にかかわったのは、ある時北方からエジプトに流入し、エジプト王朝に浸食した「星派」と呼ばれる外来の種族だという。

(「オリオン・ミステリー」etc.以前、テレビでも特集が組まれたことがあるので記憶にある人も多いと思う。)

この「星派」といわれる種族こそがフリーメイソンに発展した集団だと思っている。

フリーメイソンが信仰してきたのは「星」＝「春分点歳差」であり、建築・土木のプロとして、空間etc.に様々な暗号を仕込む手法は、まさに彼らの手法そのものだからだ。

結局のところ、エジプト王朝はクレオパトラ7世の「プトレマイオス朝」を最後にローマ帝国の属国となるが、ヴァチカンを有するローマ帝国の背後ですでに彼らが策動をしていたことは容易に推測できる。

21世紀の現代でもアメリカとローマ帝国がしばしば比較され論じられることがあるがこれは決して偶然ではないといえる。

イルミナティ・フリーメイソンがアメリカの建国を陰で指揮し、現代においてもロックフェラー仕切るFRB(連邦準備銀行)やCFR(外交問題評議会) etc.の組織を傘下においているといわれている。

米ドル紙幣に「ニューワールドオーダー」の文字とともに描かれた「ピラミッド」は、“歴史のでっち上げ”のシンボルともいえるだろう。

(2010/3/22 『賢者の剣 ～コトバと知恵と想像力～』より)

ロスチャイルド→イルミナティ→フリーメイソンが、まさか....、

キリスト教をでっち上げた...!?

そして、ローマ・カトリック教会の中心「ヴァチカン」の「イエズス会」は....、

イルミナティの隠れ蓑であるという噂が絶えないのです...!!



春分点歳差というのは、このブログでも若干ご紹介しました。

この程度の説明では、よく分からないと思います。

以下の記事を読む上では支障にならないので、時間のあるときに、他のサイトなどで調べてみてください。

NWOが好きな西洋占星術の根本的な考え方も、ここから来ています。

簡単にいうと、この春分点歳差があるお陰で、太古の昔から何度かのポールシフトのような、地球の「ガラポン」が起こった、ということです。

地球の地軸は23.4度傾いている、というのは皆さんご存知です。

上も下も、横・縦もない宇宙のどんな座標に対して23.4度傾いているのか、といわれると、私も正確には答えられません。

(地球が太陽の周りを公転する円(公転面)に対して垂直方向を0とした、地球の自転軸の傾きです。)

とにかく、23.4度という数字に重大なヒントがある、ということです。

垂直→  $90度 - 23.4度 = 66.6度$ 。

666です。

つまり、この地球の「大ミソギ」こそ、人類の大転換期だ、人類が覚醒し、新しい時代の戸口(とばぐち)だ、と。

ここから、太古の人々は「神への畏敬の念」を持ち始め、宗教の原型が出来上がったし、いわゆるニューエイジの概念にもなった、ということのようです。

これが「アセンション」の考え方にもつながっているのです。

$90 - 23.4 = 66.6$

この意味を人類が知るときが2012年12月21日(23日としている考え方もある)以降だと、ニューエイジャーが言っているわけですね。

(2010/2/10 『カレイドスコープ』 より)

「春分点歳差」から悪魔の数字666が導き出される...!?

ヨハネの黙示録の啓示666の意味が、今一つ解らないのですが...

## 【速報】マライア・キャリーの命が危ない!? ホイットニー・ヒューストンは悪魔の生け贄だった!?

---

(2012/3/19 『阿修羅』より)

### FROM THE MOUNTAIN PROPHECIES

預言、主の山より

第12巻

マライア・キャリーの命が危ない?

皆さん、こんにちは!

ホイットニー・ヒューストン(Whitney Houston)に関する彼らの悪魔の陰謀を私たちはまだ最後まで見てはいないようです。

私の友人のマークが、今日、2012年2月22日電話を掛けてきて、「最新の情報を見ましたか」と私に尋ねました。

今日、私は一日中忙しくしていたため何も見てはいませんでした。

ですから、ええ、私には興味がありました。

彼は続けました。

ある情報があって、ホイットニー・ヒューストンの非常に金持ちの音楽「ハンドラー」であったクライヴ・デイヴィス(Clive Davis)がホイットニーの遺体のある葬儀所の裏口から中に入った時のことです。

奇妙なことに、葬儀所の入り口の両側に2個のエジプトの棺があったのだそうです。

このオカルト的なとても奇妙なビデオを見たとき、私はある興味深い記憶が私の心に蘇ってきました。

そのビデオは<http://www.beforeitsnews.com>に掲載されています。

しかし、記憶はホイットニーの死の時に戻りました。

確かホイットニー・ヒューストンが亡くなった次の日だったと思います。

ホイットニー・ヒューストンとマライア・キャリー(Mariah Carey)のビデオにある奇妙な「もの」を見た時のチャット板でのいくつかのコメントを読んでいたときの事です。

その時、彼女の死にとっても関心を持っていましたから、彼らが話している奇妙な「もの」を見ようと思いました。

そのビデオがいつ作られたかは知りませんが、その日付が興味深さを証明するかもしれません!

YouTube(ユーチューブ)を捜せば、そのビデオは見つかるでしょう。

(訳注：次のサイトを参照<http://www.youtube.com/watch?v=5DI3Lu6hICA&fea..>)

見てみると、なるほど、とても奇妙です!

まず、ホイットニーが歌いながらステージに出て来ます。

それから、他のだれかが彼女と一緒に歌っていました。

後ですぐ分かりましたが、それはマライア・キャリーでした。

二人が別々の歌詞を歌っていましたが、その歌い方はとても不調和なものでした。

彼らはなぜこんなひどい歌い方をするんだろうと不思議に思いました!

二人とも白い衣装を着ていました。

これもとても変です。

終わりに近付くと、二人は調和の取れた歌い方をしました。

そして、背後の幕が開きました。

舞台のレイアウトが見えます。

二人の背後に、二つのカーブした階段がありました。

初めは、特に気になりませんでした。二人の歌が終わりに近付くと他の歌手たちが出て来て、二つのカーブした階段の間のステージに立ちました。

考えてみると、これら二つのカーブした階段は悪魔の型である女性の子宮を示しているのかもしれない。

この後から加わった歌手たちの形づくったものが奇妙にもピラミッドでした。

彼らも白装束でした。

彼らは象徴的に何を言おうとしていたのでしょうか?

悪魔の双子の生け贄!

次はだれ?

その時、開示されたサタンのメッセージの意味を考えていました!

全ビデオはホイットニーの来るべき悪魔の生け贄を述べているに違いないと私は感じ始めました

。

しかし、マライア・キャリーとホイットニー・ヒューストンを見ると、二人ともまるで双子のように白をまとっています。

そこで、私は双子の生け贄かも知れない、と思いました。

この白装束の二人は、同時に11を表しているのではないのでしょうか？

悪人たちは、サタンの対の生け贄を意図しているのでしょうか？

また、一对のカーブした階段とホイットニーとマライアが二つの階段を下ってきたことは不審に思われます。

これら一对の階段のことを邪悪な者たちが言わんとすることは、「この二人は下って来るが、二人が下って来たならば、我々は、彼らを模倣する者たちのピラミッドを上げて、一人の歌手をトップに据えよう。」と、言うことでしょう。

ジェニファー・ハドソン(Jennifer Hudson)はこの模倣歌手たちのひとりでしょうか？

伝えられるところによると、クライヴ・デイヴィスは、ホイットニーの死の数時間前にそのジェニファー・ハドソンが次の「ホイットニー」であると述べたということです。

ジェニファー・ハドソンが今やトップに据えられるというのでしょうか？

ピラミッドの歌手たちは皆、ホイットニー・ヒューストンの声を経て誕生してきた多くの歌手たちのことを表しているのでしょうか？

或る人が、彼らはホイットニー・ヒューストンの真似をすることによって歌うことを学んだのだと言っているからです。

そして、マライア・キャリーが出て来、さらに、また、多くが彼女を見習ったのです。

それで、曲がった階段の間にある形もまた産道、おそらく子宮を表しているのでしょうか。

そして、サタンが彼らを皆所有しているのです！

2月にサタンが自分の王国を活性化させたのは疑問の余地がありません！

悪魔の音楽産業を通じて、大々的に世界に向けてそれを活性化させました！

しかし、少々早過ぎたのではないのでしょうか？

二日前、2012年2月24日の晩、私はベッドに横になってホイットニー・ヒューストンの殺害と二重殺人の可能性のことを祈っていました。

その時に思い浮かんだことは、「上でと同様、下でも」(as above, so below)でした。

私はサタンの秘密の象徴の専門家ではありません。

しかし、「上でと同様、下で」のことを考えながら、ホイットニーとマライアという名のことを考えていました。

そして、はっきりしてきたことがあります。

W

お分かりでしょうか???

上でと同様、下でも!

この二つの文字、MとW(Whitney Houston と)は二つの11を表してはいないでしょうか?

私はどこかでそのことを読みました。

それが私には理解できません。

私たちが知っているように、すなわち、ホイットニーは下で、即ち地上で殺されました!

彼らはマライアを上で、飛行機の事故などで殺そうと計画しているのでしょうか?

上でと同様、下でも!

今日、私は南アフリカの女性からメールを受け取りました。

彼女は、夢を見、次にビジョンを見たことを交わってくれました。

神の霊が私に彼女の夢の意味を示して下さいました。

まず、彼女はハンガーにいる二匹の巨大な黒いクモのビジョンを見ました。

それと二匹のクモの上の方にいて二匹を「肥らせ」ようと場所を用意している別のクモを見ました。しかし、英語が彼女の母国語ではないので、彼女は「肥らせる(fertilize)」との意味に取ったのではなく、毒を盛る、即ち毒殺だと私は思います。

彼女がなぜハンガーにいるクモを見たのでしょうか?

このハンガーは絞首台、絞首刑を執行する場所、即ち殺害の場所を表していると思います。

この二匹のクモは間違いなくホイットニー・ヒューストンとマライア・キャリーだと思います。

マライア・キャリーの生命が重大な危機に瀕していると私は考えます。

いずれ、彼らは彼女の命を狙うだろうと思います。

毒を盛って彼女の命を取ろうとするのでしょうか?

しかし、いつ?

どのようにして?

マライア・キャリーのために祈ってください!

親愛なる魂たち、それだけではありません!

主イエス・キリストが私たちに憐れんで下さいます!

イエス様はこの非常に暗い世の光です。

彼の聖なる御名のなんと貴いことでしょう!

リンダ・ニューカーク

(預言、主の山より、XII-86パートII)

Whitney Houston & Mariah Carey Live bei den Oscars

→<http://www.youtube.com/watch?v=5DI3Lu6hICA&fea..>

## 威風堂々[47] 『△NIMRODの末裔、サタニスト(悪魔崇拜主義者)は本当に実在するか!?'』

---

～サタンの計画の全体的な統率者こそ△NIMRODその人であり、  
△NIMRODは、異教の太陽崇拜の起源なのである～

悪魔の△NIMRODが信仰している「春分点歳差」が起こる3月20日から数日間は、危険日なのでそうです...!!

核攻撃、人工地震かはたまた怪事件か判りませんが、サタニスト(悪魔崇拜主義者)たちはとにかくしつこいらしいので....

良からぬ事件が起こらないことを願いながら私は過ごしていますが....

今のところ日本国内では特に変わった事は発生していないようです、が...!?

地球の裏側メキシコで、大地震が起きたというニュースが飛び込んできたのです...!!

【メキシコで地震、民家など800軒以上に被害】

米地質調査所(USGS)によると、メキシコ南部で20日午後0時2分(日本時間21日午前3時2分)ごろ、マグニチュード(M)7・4の地震が起きた。

米CNNテレビによれば、南部ゲレロ州では民家など800軒以上に被害が出た。

同国のカルデロン大統領は「人的被害は伝えられていない」と述べたが、負傷者が出たとの報道もある。

震源は南部オアハカの南西162キロ、深さは約18キロ。

震源地付近では比較的強い余震がしばらく続いた。



ロイター通信によれば、太平洋岸の観光地として知られる南部アカプルコでも、多数の観光客や地元民がカフェやレストランから路上に逃げ出す光景がみられたほか、広範囲で停電が発生、信号も一時止まった。

首都メキシコ市でも強い揺れを感じ、歩道橋の一部が崩落し、無人のマイクロバスを直撃した。多くの建物に亀裂が走り、携帯電話が不通となったほか、交通も一時、麻痺した。

米ホワイトハウスによれば、オバマ大統領の長女、マリアさん(13)が休暇でオアハカにいたが、無事が確認されたという。

(2012/3/21 『産経ニュース』より)

今のところ死亡者はいない模様ですが今度もまた、すっかり有名になった気象兵器HAARPを使った人工地震だったのでしょうか...!?

このニュースで注目すべき点は、オバマ大統領の長女が巻き込まれたということです...

たまたま起こったメキシコの大地震で、その震源地にオバマ大統領の長女が居合わせたというのは本当に偶然でしょうか...!?

ひょっとしたら、悪魔の△NIMRODのヤツらがオバマ大統領に報復を企てたのではないのでしょうか...!?

何故なら、今年になってオバマ大統領はイスラエルに対してイラン攻撃をしないようにと忠告しているのです....

私はてっきりオバマは悪魔の△NIMRODのヤツらの操り人形なのだばかり思っていたものです

から、このところの彼の行動が不可解でした…。

でも、もしかすると彼なりに闇の支配者に抵抗しているのではないかという説も有るようなのです…!?

その理由として、もしやる気ならイラン攻撃にGOサインを出し、第三次世界大戦の口火をとっくに切っているとは思議ではないからです…。

オバマは白か黒か…!?

もし白であれば、報復措置としてオバマ大統領の長女もろともメキシコを大地震で血祭りに上げようとしたのではないかと勘ぐってしまうのです…!?

あなたはどう感じますか…!?

ついでにお伝えしますが、オバマ大統領には出生疑惑というトンデモない噂がつきまっています…!?

ハワイ出身というのはウソで、ケニア人であることを偽装してアメリカ国籍を不正に取得しているというのが明らかにされようとしているというのです…!?

その旨を正義の味方、共和党のロン・ポール議員が米議会に提出した暁には…、

オバマは、大統領の権限を剥奪されるのではないかという噂が…!?

そうなったら、世界中を揺るがす前代未聞の大スキャンダルとなります…。

果たして…!?

さて....

私たち99%の人間は、たった1%の連中によって動かされています、これは紛れもない事実です...

。

では、さらにこの1%の連中を操っているのは誰かというとな....

古代バビロニア帝国のサタン王△NIMRODの末裔ではないかといわれる、『イルミナティ悪魔の13血流』なのです...。

彼らは、神を信じていませんし、キリスト教を信仰しているフリをしているに過ぎないのです...

。

彼らは神に背く人々、つまり、サタニスト(悪魔崇拝主義者)と呼ばれているのですが....

しかしあなたは、未だに信じる事が出来ないのではないのでしょうか...?

人類はサタンを信仰する連中に征服されつつあるということが、俄には理解できないかも知れません...。

では、サタニスト(悪魔崇拝主義者)は本当に実在するのでしょうか...。

また一つ情報を載せておきます...。

【サタニスト(悪魔崇拝主義者)は本当に存在するか?!!】

■サタニストの実像と虚像■

サタニスト(悪魔崇拜主義者)、別名ルシフェリアン(ルシファー崇拜主義者)とも云われる。  
この世の中に、そうした存在はあるのであろうか。

ハリーポッターの様な物語の世界の話ではないのか？

ハリーポッターは、物語である。

しかし、その作者ジョアン・ローリングはサタニスト(彼女はとてもここには書けない言葉でイエスキリストをののしっている)である。

と同じく、9.11事件は、自作自演のテロ事件である。

しかし、その演出者は、間違いなくサタニストである。

普通、人は生まれながらにしては、天使に憧れる。

か、少なくとも素直な心情を根底に持っている。

素直というのは、ひねくれたところがないことを云う。

尚、突き詰めて云うと、命の源に対してひねくれたところがないと言う意味である。

命の源とは、創造主のことであり、霊であり、心の中の真我(アートマー)である。

神と云っても良いと想う。

故に、イエスの言葉にもあるように、『幼な子、乳のみ子たちの口にさんびを備えられた』(マタイによる福音書/21章 16)、つまり、人は神の属性をもって生まれ出るのである。

ところが、実際のこの世の中には、到底、神の属性を捨てた(良心のかけらもない)人間が多く輩出するのであろうか。

巷間の情けない事件を初めとして、残虐非道としか表現仕様のない事件の数々。

これらは、すべて良心を失った人間のなれの果てである。

良心を失う原因は、自我我欲にある。本心(神の属性)を失った結果、本来備わった良心を失ったのである。

まさしく、幼な子の心を取り戻さなくてはならない時代である。

この時代をカリユガの世(末法の世)とも云うらしいが、そう思う。

そして、調べていくとその根源に、サタニスト(悪魔崇拜主義者)の暗躍があって、どうも大きくコントロールしている気配がある。

となると、俄には信じられないだろうが、本当である。

間違いなく、サタニスト(悪魔崇拜主義者)達の帰属サインを意味している。

彼らが、世界の影の支配力を維持していて、表には『博愛』、『平等』、『自由』だの曖昧な美辞を吹聴して、人間の『マインドコントロール(洗脳)』に精出している。

## ■『博愛』『平等』『自由』考えてみたことがあるだろうか■

『博愛』とは何か。

愛はすべからく違いがある。

エネルギーは同じでも 方向性は自ずと違う。

恋愛もあれば、家族愛もある。

忠孝の愛もあれば、君公の愛もある。

人間愛もあれば、精神愛もある。

信仰の愛もあれば、慈愛もある。

数々あると言うことは、愛には様々な顕れがあるということである。

彼らの愛は、Love=LOVE=LOAVE=BREAD=BRED=BREEDING

=SEX(<http://angel.ap.teacup.com/applet/gamenotatsujin/200711/archive?b=5>より)である。

重大なすり替えであることを見破らなければならない。

『平等』も同じである。

長くなるので割愛するが、一言で言えば、悪平等であって、奴隷としての『平等』である。

『自由』は、反抗の『自由』であって、天地自然(創造主)への畏敬と恐れ、感謝を取り去った『自由』である。

そこには、『義務と報恩』の余地はない。

## ■サタニストの13血流(BLOODLINES)というモノがある■

血流とは血統という意味である。

### 1. The Astor Bloodline

2. The Bundy Bloodline
3. The Collins Bloodline
4. The DuPont Bloodline
5. The Freeman Bloodline
6. The Kennedy Bloodline
7. The Li Bloodline
8. The Onassis Bloodline
9. The Reynolds bloodline
10. The Rockefeller Bloodline
11. The Rothschild Bloodline
12. The Russell Bloodline
13. The Van Duyn Bloodline

[Merovingian] (European Royal Families)

Interconnected families:

The Disney Bloodline

The Krupp Bloodline

The McDonald Bloodline

<http://www.thewatcherfiles.com/bloodlines/index.htm> (by Fritz Springmeier)

13血流(BLOODLINES)が世界を影で操っていることは間違いはない。

全く報道はされないが、この13血流(BLOODLINES)の動静を辿っていけば、世界情勢が見えてくる。

見えたら皆に伝えることが大切である。

悪魔はゴキブリである。

ゴキブリは光を嫌う。

同じく、見破ると、悪魔は退散しておとなしくなる。

『理知』は神の光である。

■許されざる、その悪魔性■

ベルギー南部のムノ村近郊にMothers-of-Darknessという城がある。

城の中には聖堂があり、この聖堂の地下室では毎日小さな赤ん坊が生贄にされている。

そしてその血はインクとして、反キリストが権力を握っていく歴史を特別大きな本に書き込むのに用いられる。

この書物は24時間ほとんど休みなしに書き込まれる。

この手書きの本の中の歴史を読めば、世界の主要なマスメディアが騙されやすい大衆に対して行なっている喧伝活動の裏に、どんな真実があるのか明らかになるだろう。

(2007/11/11 『飄(つむじ風)』より)

近年に於いて日本でも、子供が親をあるいは親が子供を殺めるといった、かつては考えられないような事件が多発するようになったと思いませんか...!?

どうして、いつから私たちはこんなにケダモノの様なはしたない事をするようになってしまったのでしょうか...!?

それこそが、△NIMRODが仕掛ける罠に嵌った末の行動ではないでしょうか...!?

今、世界中で起こっている陰惨な事件を筆頭に、私たちは知らず知らずのうちに神に逆らう思考や行動をとってしまうのではないかと...!?

何故なら、あなたが信じようが信じまいが...

サタニスト(悪魔崇拜主義者)たちが手下どもを使って、世の中に様々な手口で織りなす『すり替え』によって人々を騙し、人間性を狂わせているのではないかと云われているのです...!?

そして、まさか...!?

と思われるような、こんなニュースが昨年飛び交いました...!?

### 【ローマ法王 批判の矢面 相次ぐ聖職者の児童性的虐待】

児童に対するカトリック聖職者による性的虐待が世界各地で発覚し、ローマ法王ベネディクト16世に対する批判が高まっている。

法王自身がスキャンダル隠ぺいにかつて関与していた疑いも報道されており、一部被害者は法王の退位を要求している。

聖職者による児童虐待は昨年以降、アイルランドをはじめ、法王の出身国ドイツ、スイス、オーストリア、オランダ、ブラジルで報告された。

アイルランドでは1930年代から90年代にかけ数千人の児童が性的暴行などの虐待を恒常的に受けていた。

法王は3月、一連の事件で初めて謝罪する書簡を発表。

しかし、書簡は教会の体質には言及せず、事件を隠ぺいした教会トップの辞任も求めなかったため、逆に批判を浴びた。

さらに、スキャンダルは法王自身の身にも降り掛かった。

法王がバチカン(法王庁)教理省長官時代、米国の神父による聴覚障害児200人に対する性的虐待を報告する書簡を地元教会幹部から受け取りながら、何の対応も取らなかったと米紙ニューヨーク・タイムズが3月下旬に伝えた。

ドイツでは、法王がかつて大司教を務めたミュンヘン司教区で多数の虐待が行われていたことも明らかになった。

しかし、法王は強気の姿勢を崩していない。

3月末、バチカンのミサでは「イエス・キリストは、流言を通じた脅しに立ち向かう勇気を持つように、われわれを導いてくださる」と表明。

バチカン広報も「スキャンダルで法王の権威が弱まることはない」と語っている。



一方、欧州の一部メディアは法王の退位問題について報じている。

スキャンダルの広がり、カトリック教会が聖職者の妻帯を認めていないことに内部から異論も出始め、一部司教らは禁欲が性的虐待に結び付いているとして妻帯を認めるよう主張。また、もともと小児性愛者が聖職者を志望するという実態も指摘されており、カトリック教会の抜本的改革を求める声は日増しに強まっている。

(2010/4/1付『西日本新聞朝刊』より)

## 【速報】全世界で陰謀犯罪者、大量逮捕のテレビ報道近し 2012 間近に迫るテレビ報道 : 10000人の世界陰謀メンバーの大量検挙

---

【全世界で陰謀犯罪者、大量逮捕のテレビ報道近し 2012 間近に迫るテレビ報道 : 10000人の世界陰謀メンバーの大量検挙】

間もなく、世界中で多くの陰謀犯罪メンバーたちが大量逮捕されることを目撃するでしょう。これらの検挙は借金と貧困の条件を押し付ける現在の経済システムから人類を解放する新しいシステム導入への最後の障害物の排除を意味します。

このことを実現するために、長年にわたり、陰に隠れて、一所懸命尽くしてきた多くの男性、女性が存在します。

彼らは人類に新しいシステムを提示することに努力を続けています。

このシステムは直ちに人類に富の再分配を行い、一般に考えられている普通の生活から人類を解放するでしょう。

科学技術は他の制圧されていた要素は開放され、この移行に助けになります。

これらの大量逮捕のニュースは突然現れ、強烈なものでしょう。

準備をしていない多くの人たちにはなぜ起きているのかを理解することに関して、大量の人間が留置されるのを、目の当たりにして、ショックを受けたり、混乱するかもしれません。

しかし、検挙される大量の男性、女性たちは、皆さんを永久に奴隷化するために従事してきました。

いくつかの大手メディアグループはこれらの出来事について報道し、何が起きたのかを時系列に公開する手助けをすることに合意済みです。

これらの検挙はテレビで放映され、みなさんと完全に共有されます。

こうすることは世界の人々に対する義務だからです。

そして、世界の人々はこの瞬間、この出来事を目撃し、人類を支配、搾取してきたこれらの大量の人間たちから開放されることを意味するのです。

巧妙な工作による支配は終わり、人類は新しい人生に突入します。

このことを心に留めておけば、これらの検挙を恐れを持たずに見ることができるし、私達の世界に対する彼らの存在の意味が理解できます。

このような開放への情報に対する情報源がたくさん存在しています。

この情報を希望する人たち、あるいは希望しない人たちにも伝わるように要請します。

少なくともこの件について事前に親しんでほしいのです。

この情報を広く伝える努力は重要なことで、これは恐怖を取り除き、衝撃を減らすことに役立ちます。

間もなく、真の自由が皆さんのもとに戻されます。

(2012/03/18 dandominaさんがyoutubeにアップロードしたものより転載)

【拡散希望】全世界で陰謀犯罪者、大量逮捕のテレビ報道近し #newsjp #TPP

→[http://www.youtube.com/watch?feature=player\\_embedd..](http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedd..)

## 【資料】『サタンに乗っ取られた米国』

---

サタンの影響があからさまに出始めた。

ヒラリー・クリントンの写真を見てほしい。

サタンの顔らしきものが写っている。

これはロイターが配信した写真であり、合成ではない。

(ただし、これは、あるオハイオ州の高校の、Red Devilsという名のバスケットチームの応援旗の前に立った写真らしい。)

今のアメリカがサタンに支配されていることは、逆五芒星が象徴に現れていることからわかる。

逆五芒星は、サタンの象徴である。

オカルトにおいて、これは、黒魔術の典型的な象徴であり、「メンデスの山羊の頭」とか「魔女の足」、「悪魔の足跡」と呼ばれている。

クリントンの演説の背後の米国旗を見てほしい。

星がさかさまになっている。

正式な米国旗は、五芒星である。

最近、共和党のシンボルが変更され、そこに含まれる星の向きが逆になった。

もとのシンボルは星が上向きであった。

しかし、2000年にジョージ・ブッシュが大統領に選出されてから次のように星が逆さまになった。

この変化は明らかに、アメリカがはっきりと悪魔に従うようになったことを象徴している。

しかし、アメリカが悪魔の象徴を持つようになったのは今にはじまったことではない。

下の写真は、ワシントンDCの街路である。

あきらかに逆五芒星である。

これまで背後に隠れていた悪魔がはっきりと姿を現すようになったということだ。

アメリカを動かす悪魔の手先たちは、2000年をひとつの転換の年と考えている。

2001年に911事件を起こしたのは、新しい活動のはじまりである。

おそらく2001年から2012年にかけて一気にアメリカを支配し、そして、世界を完全に手中に収める計画なのだろう。

あと3年の間に彼らはとんでもない事件を起こして、世界をナチ化、北朝鮮化するつもりなのだろう。

さあ、われわれは、神の民として、この悪魔の策謀を阻止しなければならない。

祈りと活動によって彼らを撃退しよう。

イエス・キリストがこの世に来られた目的は「悪魔のしわざを打ちこわすため」(第1ヨハネ3:8、ヘブル2:14)である。

われわれが攻撃すると悪魔は逃げる以外にはない。

さあ、イエスの権威によって悪魔に立ち向かおう。

「ですから、神に従いなさい。

そして、悪魔に立ち向かいなさい。

そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」(ヤコブ4:7)

(2009/2/4『ミレニアム』より)

→<http://tak0719.web.infoseek.co.jp/qanda3/satanamer..>

## 【資料】『世界のリーダーたちは悪魔崇拝者だった!』

---

アメリカとヨーロッパのエリートが集まってサンフランシスコ市郊外のボヘミアン・グローヴというところでキャンプをするボヘミアン・クラブという社交クラブがある。

会員には、ブッシュ大統領、ブッシュ元大統領、故ニクソン大統領、カーター元大統領、故レーガン元大統領、コリン・パウエル、ヘンリー・キッシンジャーなどそうそうたる面子が含まれている。

一般には、単なる気晴らしに集まっていると考えられているが、実は内部でとんでもないことが行われているらしい。

2000年7月15日に、アレックス・ジョーンズが潜入に成功し、ビデオで「夏の祭典」の様子を撮影した。

そこには、巨大なフクロウの像のもとで、ク・クルックス・クランのような服装をした人々が、ダミーの生贄を像に捧げて、燃やすという儀式が行われていたのだ。

巨大なフクロウの像(20m)

ボヘミアン・クラブが単なる同好会のようなものでないことは、その象徴が政府の重要なものに用いられていることから分かる。

ボヘミアン・クラブの象徴

この象徴は、ドル紙幣に刷り込まれている。

米国記者クラブのシンボルにも採用されている。

アメリカ議会を上から見るとフクロウの形になっている。

ブッシュ大統領が泊まったヒルビリーズという場所のシンボルはサタンである。

参加者は、自然を「母なる地球」として崇拝し、「She」という代名詞を使う。

地球温暖化という新興宗教の出元はここにあるのではないか。

(2009/9/6 『ミレニアム』 より)

→<http://tak0719.web.infoseek.co.jp/qanda3/bohemianc..>

## 【資料】『欧州連合はバベルの塔である』

---

欧州連合は、自らバベルの塔であることを宣言した。

聖書において、バベルの塔とは神に反逆した人類による世界統一の最初の試みの象徴である。

欧州連合が発行した次のポスターを見てほしい。

EUの旗とバベルの塔を組み合わせた図柄で、その下に「多くの言語、一つの声」という motto が書いてある。

しかも、EUを構成する12カ国を象徴する星は、さかさまになっている。

この逆五芒星は、アメリカの国旗において述べたように、サタンの象徴である。

さらに、EU議会の建物を見てほしい。

明らかにバベルの塔をモデルにしている。

欧州連合の創設の中心人物はロックフェラーである。

これで、ロックフェラーが目指しているものが、サタンによるヨーロッパの統一であることがはっきりした。

しかも、その中心にローマ・カトリックがあることに注意してほしい。

これは、2004年10月29日にローマにおいて、EUの憲法の署名が、教皇イノケンチウス10世のブロンズ像の前で行われた写真である。

ローマ・カトリックは、イエズス会を通じてイルミナティに乗っ取られているから、ローマ教皇を中心とするということは、イルミナティを中心とすることを意味する。

イルミナティ・オカルト秘密結社によってヨーロッパは統一される。

そして、さらに、この計画は世界に及ぶだろう。

世界統一政府の樹立。

世界の各地域のブロック化は、この世界統一のための布石だ。



しかし、神はこのような世界統一を絶対にお許しにならない。

バベルの塔が完成寸前に崩壊したように、彼らの計画も完成寸前に挫折する。

神は彼らの言葉を乱して、ヨーロッパを散り散りにし、さらに、世界を散り散りにされる。

民族国家の再興が起こるだろう。

我々日本人は、東アジア共同体なるものに反対し、日本という民族国家を堅持するために働くべきだ。

日本人の誇りを取り戻し、このような地域統合のために働く政治家を選挙において落とし、日本民族のための日本を築き上げる意志を持つ政治家を当選させなければならない。

(2009/3/9 『ミレニアム』 より)

→<http://tak0719.web.infoseek.co.jp/qanda3/satanEU.h..>

## 【資料】『世界を支配しようとしているニムロデの子孫たち』

---

EUのシンボルはバベルの塔である。

バベルの塔とは神に反逆した人類による世界統一の最初の試みの象徴である。

そのころ、人々は東のほうから移動して来て、シヌアルの地に平地を見つけ、そこに定住した。彼らは互いに言った。

「さあ、れんがを作ってよく焼こう。」

彼らは石の代わりにれんがを用い、粘土の代わりに瀝青を用いた。

そのうちに彼らは言うようになった。

「さあ、われわれは町を建て、頂が天に届く塔を建て、名をあげよう。

われわれが全地に散らされるといけないから。」

そのとき主は人間の建てた町と塔をご覧になるために降りて来られた。

主は仰せになった。

「彼らがみな、一つの民、一つのことばで、このようなことをし始めたのなら、今や彼らがしようと思うことで、とどめられることはない。

さあ、降りて行って、そこでの彼らのことばを混乱させ、彼らが互いにことばが通じないようにしよう。」

こうして主は人々を、そこから地の全面に散らされたので、彼らはその町を建てるのをやめた。

それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。

主が全地のことばをそこで混乱させたから、すなわち、主が人々をそこから地の全面に散らしたからである。(創世記11・2-9)

このバベルの塔の建設者は、バベルの王ニムロデであった。

ニムロデは地上で最初の権力者となった。

彼は主のおかげで、力ある獵師になったので、「主のおかげで、力ある獵師ニムロデのようだ。」と言われるようになった。

彼の王国の初めは、バベル……であって、みな、シヌアルの地にあった。

(創世記10・9-10)

ニムロデは、フリー・メイソンにおいて、ルシファー(サタン)と同一と考えられている。

W・E・リデルは、著書 'The Pickingill Papers — The Origins of the Gardnerian Craft' (W.E. Liddell and Michael Howard. Published in 1994 by Capall Bann Publishing, ISBN 1898307105.)の中で、次のように述べた。

中世の魔女やイギリスのフリー・メイソンは、ルシファーを「ニムロデ」と呼んだ。

ニムロデは、天に昇ろうとした「内在神」の奮闘を表す一般的な用語である。

…ルシファーは、ニムロデと同一と考えられる。

ほとんどのフリー・メイソンたちは、ニムロデとバベルの塔が[もともと]、(メイソン)クラフト神話における基本の一つであると知って驚くだろう。

…我々の創始者であり、最高のグランド・マスターは、あの有名な[悪名高い]塔の建設者、ニムロデ王本人であると断言されている。

当時の活動的メイソンたちに最初の「命令」を与えたと言われるのは、ソロモン王ではなく、ニムロデなのである。

ニムロデは、バアルという名で知られるようになり、バビロンの人々に太陽神として崇拝されるようになった。

バアルは、聖書において、イスラエル人の偶像礼拝の象徴であり、モロクの別名である。

つまり、ニムロデ＝バアル＝モロクである。

モロクは、火による犠牲を要求する神であり、その象徴の一つはフクロウである。

バビロニアの月の女神イシュタルが、2羽のフクロウに挟まれて立っている。

ボヘミアン・グローブで、世界の指導者は、フクロウの像の前でモロク礼拝をしている。

ギリシアが発行したユーロ・コインにフクロウの図柄がある

ピラミッドの中に目がある図柄は、ホルスの目と呼ばれる。

この象徴は、バビロンの宗教で用いられている。

エジプトの神話では、オシリスがセトに殺害され、セトはホルスに殺害された。

ホルスはその過程で片目を失った。

33階級のフリー・メイソンで、黒い貴族であったフランクリン・デラノ・ルーズベルトは、1933年、このシンボルを1ドル札に加えた。

このシンボルは、合衆国が採用する前に、ヨーロッパにおいて秘密結社のシンボルとして長い歴史を持っていた。

ロスチャイルドはニムロデの子孫と言われており、ロスチャイルド系の企業にはRothschild Nemrod Diversified Holdings、Rothschild Nemrod Leveraged Signature Fundなどニムロデの名が入っているものがある。

今世界を支配しようとしているものは、古代のサタン崇拝者ニムロデの子孫たちである。

(2009/4/3 『ミレニアム』 より)

→<http://tak0719.web.infoseek.co.jp/qanda3/nimrod.ht..>

## 【資料】『歴史を通じて続くニムロデとの戦い』

---

さて、シヌアルの王…は、…アブラムのおいのロトとその財産をも奪い去った。  
…アブラムは自分の親類の者がとりこになったことを聞き、彼の家で生まれたしもべども三百十八人を召集して、ダンまで追跡し…彼らを打ち破り、ダマスコの北にあるホバまで彼らを追跡した。  
そして、彼はすべての財産を取り戻し、また親類の者ロトとその財産、それにまた、女たちや人々をも取り戻した。  
(創世記14章)

以前掲示したように、EUの象徴は、バベルの塔である。

バベルの王はニムロデであり、後にニムロデは神格化され、バアル、モロクとなった。

イスラエル人が誘惑されてバアルを礼拝し、神の裁きにあった。

イギリスのフリー・メイソンはニムロデを始祖と呼び、サタンと同一視している。

現在世界をコントロールしている人々は、モロクを崇拝するサタン教信者である。

このような図式が成立する。

バベルの塔＝世界統一王国＝ニムロデ＝バアル＝モロク＝メイソン＝イルミナティ＝世界統一政府

最初に引用した創世記の聖句にあるように、神の契約の祖アブラハムは、シヌアルの王と戦った。

ニムロデは、シヌアルの王であった。

彼の王国の初めは、バベル…であって、…シヌアルの地にあった。  
(創世記10・10)

つまり、アブラハムはニムロデの子孫と戦ったのだ。

これは、歴史を通じて続いている神とサタンの戦いの雛形である。

現在、我々アブラハムの霊的子孫たちは、ニムロデの霊的子孫と戦っている。

アブラハムはニムロデの子孫に勝利した。

同じように我々も勝利するだろう。

(2009/4/10 『ミレニアム』 より)

→<http://tak0719.web.infoseek.co.jp/qanda3/97ypNjcYc..>

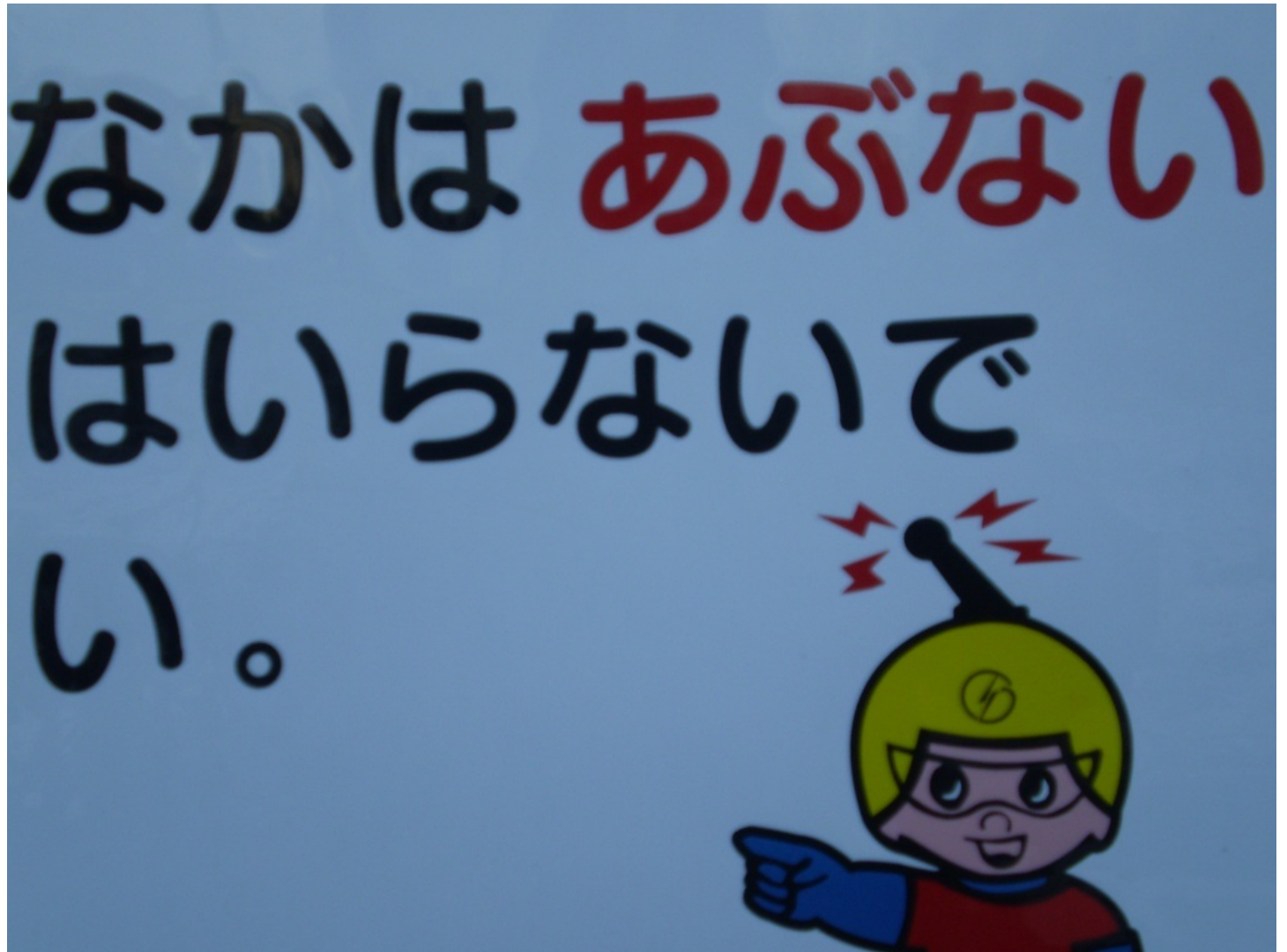
『これを聴いて魂が揺さぶられないヤツは日本人じゃないッ!』

---

それでもあなたは、見て観ぬフリを続け...

以前と変わらぬ生活を繰り返し....

何も行動を起こそうとしないのですか...?



『これを聴いて魂が揺さぶられないヤツは日本人じゃないッ!』

FRYING DUTCHMAN "humanERROR"

→<http://www.youtube.com/watch?v=Q5p283KZGa8&fea..>

## 『フクシマの放射能を9.1分で無毒化する技術を△イルミナティは持っている!?!』

---

311以降、私たち日本人を苦しめている、悪魔の放射能汚染...!!

むかし夢中になって観たアニメの、宇宙戦艦ヤマトは...

地球の放射能を取り除くことの出来る、コスモクリーナー(放射能除去装置)を求めてイスカンダルに旅立つというストーリーでしたが...

もし本当にそんな装置があったなら...

福島第一原発の放射能の深刻な問題も、一挙に解決できるのに...

と思ったら...

井口和基博士によると...

その昔ニコラ・テスラが研究していた「スカラー波」という電磁波を上手くコントロールすれば...

空中を飛ばすことによって電気を送るのに送電線が要らなかつたり...

そして何と...

放射性物質を無毒化できる可能性があるのだそうです...!?

ある特殊な電磁波を当てると、一瞬にして放射能を消すことが出来たなら...!?

まさか...!?

でも、もしこれが実現出来るならば画期的、凄く素晴らしいことです...!!!!!!!

福島は、いや日本は救われます...!!!!!!!





「スカラー波」を使えば一瞬にして放射性物質を無毒化、中性化できるのだと主張しているのが  
トム・ペアデン博士...!!

彼が現在この技術をいろいろと研究したり特許を持っているらしいのですが、この博士は何と...  
、

△イルミナティーの元極秘研究所の研究者なのだとか...!?

ひょっとしたら、△NIMRODは既に「スカラー波」を研究済みで、未知の新技术を隠匿している  
のではないのでしょうか...!?

『フクシマの放射能を9.1分で無毒化する技術を△イルミナティは持っている!?!』

あなたは どう思いますか...!?

→<http://www.rumormillnews.com/cgi-bin/archive.cgi?r..>

(エキサイト翻訳)

【9.1分で核廃棄物を中和する方法】

～それはNEUTRALIZE(中和します)放射能に可能です～

非常に多くが高度に技術を「進めた」のは真実の悲劇です、秘密にしておかれ、いわゆるメディアの権力によって隠されるか、そうでなければ可能な手段がであるものすべてによって抑えられる。

このテーマはSusoniの最近のポストで触れられました。

見てください:

<http://www.rumormillnews.com/cgi-bin/members/forum.cgi?read=202643>

この抑制(数十年間用の)に逆らった勇ましく彼の全人生の彼のウェブサイトCheniere.orgの研究をレイアウトした1人のヒーローは、トムBearden大佐です。

彼のウェブサイトは、スカラー電磁気学の驚くべき新規分野および時空自体の直接のエンジニアリングに関する知識の広大な大要になりました。

この時空エンジニアリングによって可能になった多くの驚異の中には、それらを非放射性にする放射性物質の処理があります。

もし私たちの主流(つまり、後方へ)科学者がBeardenのリードを理解しており従ったならば、それらは、今、日本で起こる放射能のものすごい漏出に対処するために今ごろはもう技術を設置しているでしょう。

Beardenは、Cheniere.orgの現在の一面上のこのまさに考えを言います:

「もし真空からのエネルギーのための開発を資金提供することが利用可能になっていれば、この日本の原子力発電所は必要ではなかったでしょう。」

(福島第一原発の写真)

このステートメントは少なくとも2つの異なる方法で理解される場合があります。

1番目はそれです、場合、真空システムからの「自由な」エネルギーは発展されました、そのとき抑えられ、秘密にしておかれた、どんな種類の核エネルギー・サイトのためにもいかなる場所にも必要少しもならないでしょう。

また、別のあまり知られていない様相があります:

スカラー電磁気学の自由エネルギー・システムpossilbeを作るのと同じ法則は、さらに非放射性の材料に放射性物質を変形することを可能に(理論上)します。

例えば、世界中の危険な核廃棄物のトンが無害にすることができるかもしれません。

Cheniere.orgのページは、スカラー(縦のEM)波を使用して、問題を扱い変更する方法のための「臨時の特許出願」を持っています。

これは放射性廃棄物処理および他の放射性物質を含んでいます。

出所：トムBearden - 問題を変更するメソッド  
<http://www.cheniere.org/patent%20application/claim.htm#nuclear>

ページのトップは、このように外にスタートします：

[トマスE.Beardenの臨時の特許出願]

『磁気可能性、フィールズおよびWAVESに条件付ける方法、システムおよび装置  
問題を扱い変更すること』

発明者：名前 トマスE.Bearden博士  
次のものへのアドレス一致：名前 トマスE.Bearden博士  
次のものによって準備されました：トマスE.Beardenおよびマーシャ・ピーターズ  
次のものによってファイルされました：アンソニーJ.クラドック  
参照は次のものを引用しました：[ここでリストされた多くの参照...]

関連する図形は、交差するか交差するために縦波干渉計の2本のビームがどのように作られるか示  
します。

また、放射性物質は、どのようにスカラ波の妨害によって変更されるその干渉帯に置かれるか  
。

上記の言及されたドキュメントから：(上図)

図18は、離れた目標からの空間のエネルギーを加えるかもしれないし削除するかもしれないし、  
そして、決定論的に、条件付きのスカラ・ポテンシャルの妨害によって、ターゲット・ゾーン中  
の問題を変更する具体化を説明します。

スカラ干渉計発信機システム1600は、1520または1605のような発信機システムおよびコントロ  
ーラー1200でむしろ構成されます。

アンテナ1710は、レーダー周波数のような選択された搬送波周波数を送信するのにふさわしい従  
来のタイプかもしれませぬ。

各アンテナの出力は、以前に記述されたように、それで調整された、選択された時空屈曲エンジ  
ンを備えた搬送波です。

図18例において、ターゲット・ゾーン1800は、危険な化学化合物、核廃棄物、病原体などのよう  
な危険か、環境上有害な物質用の記憶エリアかもしれませぬ。

適切な時空屈曲エンジンを選択し記憶エリア内の干渉帯320にそれらの搬送波を干渉させること  
によって、物質はそれらを有害でない材料に変換することにより安全距離から変更されるかもし  
れませぬ。

様々な材料(それらは干渉計発信機1600のサイトからの遠隔の距離に位置してもよい)に図18技術  
が適用されるかもしれないことは1つの当業者に明白でしょう。

熱による化学結合の壊れることから、変更が成るかもしれないことも明白でしょう；

その要素の核子内のクォークを弾きその結果ニュートロンに、あるいは逆に陽子を変わらせる  
ことによる異なる要素がアイソトープへの要素の変化；

など。

別の様相では、図18の装置は長命で危険な放射性同位体の腐食を促進するために使用されてもよい。

スカラー武器のトピックをカバーするスライドの別のセットの中には、時空エンジニアリングの使用が核廃棄物を中和することを示す次のイメージがあります。

(下図)

明白に、すべてのこの詳細は私たちのうちのほとんどの把握よくを越えてあります。

しかし、重要なことは単にその可能性を確信するようになることです。

その多くさえ一つが集合することができるだけの研究を要求するでしょう。

例えば、上記のスライドのわずかに異なるバージョンでは、私たちは一層の手掛かりを拾い上げることができます：

これがすべて働くその1つの方法は目標とされた材料中の放射性崩壊の割合を劇的に促進することによります。

私たちは、時空エンジニアリング(時間であるキー)、時間領域のオペレーション、さらにスペースの次元に対処していることを思い出すことができます。

他の多くのヒントおよび手掛かりはBeardenのサイトで検索エンジンを使用することにより見つけることができます。

<http://www.cheniere.org/search.html>

## 威風堂々[48] 『カトリック信者は△NIMRODのサタニスト(悪魔崇拜主義者)に欺かれている!?!』

---

～異教思想において、その偉大なる母としてすり替えられたのがイエスの母マリアであり、バベルにおいて、人々の言語が混乱したことを利用して△NIMRODの邪教を世界に広げていったのである～

残念ながら、私たちのこの地球は...

もう既に、サタニスト(悪魔崇拜主義者)という気違い連中に征服されつつあると云わざるを得ないので...!!

何故そんなことが出来るのか...!?

1%のエリート連中が、どうやって99%の私たちをコントロール出来るというのか...!?

その一つの手段が宗教であり、キリスト教だったのではないのでしょうか...!?

古代バビロニア帝国のサタン王△NIMRODの血を引くものどもは、サタン(ルシファー)信仰を隠すために、キリスト教を利用したのではないか...!?

キリスト教を信仰している方には申し訳ありません、信じたくない情報だと思えます...

私は宗教の自由を否定するつもりはありません、しかし世界の闇支配を調べていくと...

どういう訳かバチカンに、そしてローマ・カトリックのイエズス会に辿り着いてしまうのです...!?

元イエズス会の神父で、しかもローマ教皇庁内部の秘密グループで20年以上働いてきたマラキ・マーチン(Malachi Martin)という人がいます…。

その方が亡くなる前に出版した著書の中に、イエズス会の内部を告発した「The Jesuits」というタイトルの書があります…。

この書によれば、本来ローマ・カトリックの構造としては、バチカンがトップ、そのすぐ下にイエズス会があったそうなのですが…、

やがてその力関係が逆転して、イエズス会がバチカンに命令を出す下克上が起きたことを詳しく説明しています…。

1999年に亡くなる直前(暗殺?)…!?

しかも、そこで彼が見てきたものは…!?

【「The Jesuits」(イエズス会)】

by Malachi Martin

ローマ教皇庁にオカルト的陰謀が存在し、悪魔崇拝の儀式が、ルシファーに捧げられる秘密礼拝堂で行われている。

イエズス会修道士の入会者は、入会式でイエズス会とローマ教皇の共通の敵との戦いに従事するという、こんなテロリストもどきの冷酷無比な「血の宣誓」をさせられます。

「私は機会ある限り、密かに、あるいは公然と、指示された通りに、全ての異教徒やプロテスタント、自由主義者をこの地上から根絶させ撲滅するまで、徹底的に戦い続けることを誓い、宣言

する。

相手がどのような年齢、性別、健康状態でも決して容赦はしない。

忌まわしい異教徒を吊し上げ、疲弊させ、茹で上げ、皮を剥ぎ、首を締め、生きたまま土の中に埋める。

女の腹と子宮を裂き、子供の頭を壁に打ち付けて粉碎し、呪うべき者たちを永久に根絶させる。

公然と行えない時は陰に隠れ、毒を盛った盃を、短剣の刃を、絞殺の為のロープを、鉛の弾丸を使う。

相手の地位、品格、権威に関わり無く、彼らの状況がどのようなものであろうと、公私にかかわらず実行する。

私は常に教皇の、あるいは聖なる修道会であるイエズス会の長の代理人の命じるままに動く。」

(1987年刊Malachi Martin著 『The Jesuits(イエズス会)』より)

イエズス会修道士の入会式とは、何ともおどろおどろしいものなんですね...!?

やはり根本には、悪魔の△NIMRODがらみの女神セミラミス(太陽崇拜)があるようです...

ちなみに、イエズス会の高等教育施設のことを「セミナリー(神学校)」と呼ぶそうですが、「神々の苗床(セミナリウム)」と称されたセミラミスから来ているそうです...

修道士は「死体のように従順」であれ、と命じられるそうで、イエズス会はローマ教皇と組織内の上位者への絶体服従...!!

独裁体制が、今でも貫徹されているようです...

イエズス会士(修道士)は現在、世界112ヶ国に約25,000人がいます...

## 【バチカンの悪魔崇拝】

臆面もない悪魔崇拝が現在カトリック教会内部にはびこっている。

高位の聖職者がこの神に反逆する憎むべき悪事を犯している。

信頼できる筋によれば悪魔の煙がバチカンのサンピエトロ聖堂の聖域に入ってしまった。

驚くべきことであるが、司祭、司教が一様に悪魔に仕える誓いの契約に自らの血で署名したと言われている。

これらのバチカン及びその付属施設での悪魔崇拝に関する驚くべき事実はローマカトリックに敵対するプロテスタント批判者達からの情報ではなく、高位に序せられているカトリックの聖職者からのものである。

カトリックの学者でジョージ・タウン大の前イエズス会派の教授マラキ・マーチン博士とバチカン内部の一人の親友は、最近のニューヨーク市でのインタビューで卒直に発言している。

「そうです、それは本当です。  
ルシファーが教会内部で王位につきました。」

マーチンは、また、カトリックの良く知られた雑誌「ファチマ・クルーセダー」誌の取材を受けた。

マーチンは再びその主張を繰り返し、彼自身も所属しているカトリックの機関が1960年代に開催された第二バチカン公会議以降、非常に退廃し道徳的に神に見放された状態になってしまった驚きと悲しみを表明している。

ローマ・カトリックに悪魔主義者が存在しているという主張は「完全に事実である」と博士は語って更に、

「最近35年間のバチカンの事態を知っているものは‘闇の王子’がローマのサンピエトロ聖堂の中庭で自らの代理者を保持し続けており、現在もそうであることをよく承知している。」と付け加えた。

約5年前に出版され好評を博した「Keys of this blood」は現在の教皇ヨハネ・パウロ二世の教皇権を支持する強い弁護の書であった。

しかし、今やマーチン博士は疑いを持っている。



彼は現教皇が何ゆえそのような悪魔が教会内に存在し、はびこる事を許しているのか理解できないのである。

マーチン博士は、さらに次のように主張している。

「事態は非常に悪化しており、高い地位の聖職者たちが現実に自分たちの血で署名して誓約を行い、ミサの神聖な供物を冒瀆し、悪魔に模倣して茶化す、綿密に計画され実施される儀式に参加している。」

もしマラキ・マーチン博士がカトリック教会内部での悪魔崇拝に関して警鐘を鳴らす唯一の権威者であるなら、一人の聖職者の根も葉もない非難にすぎないとして全ての事は簡単に片付けられてしまうかもしれない。

しかし、1976年に教皇パウロ6世は次のような事実を打ち明け、カトリック関係の聴衆に衝撃を与えた。

「悪魔の煙がサンピエトロ聖堂の最も神聖なる場所に入り込んでいる。」

教皇はさらに、深夜に悪魔的な黒ミサが、サンピエトロ聖堂の祭壇の教皇自身がミサを執り行なうのと、全く同じ場所で挙行され続けていると語った。

ローマで開かれた「ファチマ2000世界平和国際会議」において、何千人もの参加者を前に、尊敬を受けているエマニュエル・ミリング大司教が演壇に向かった。

ミリングは聴衆に対して、「カトリック聖職者集団の成員たちが秘密裏に最暗黒の種類の正式な悪魔崇拝に巻き込まれている。」と断言して彼等を驚愕させた。

悪魔払い師であるミリング大司教は慶術的現象を暴露するベストセラー「悪魔と対峙して」の著者である。

その講演の中で大司教は悪魔崇拝を「悪の第三次元」と名付けて説明した。

‘フリーメーソンの神聖な書物’について言えば、それらはローマ時代の神秘主義的宗教や19世紀のオカルト主義、そしてエジプト人の信仰、バビロニア人の信仰等にその起源を持っている。

これらが悪魔主義フリーメーソン・ロッジの‘古代の価値’である。

以下、プロテスタントのメソジスト派、カリスマ派、聖公会、英国国教会またモルモン教の教会で行われている悪魔礼拝。

南部バプテスト派の代表者会議のトップを支配し続けていると語っているが簡単な説明にすぎないので省略する。

それにしてもこのコーク枢機卿の言葉には驚いた。

これはフリーメーソンの信仰そのものである。

そしてそれは悪魔ルシファーを神と信じる人の言葉以外の何物でもない。

これがカトリックの枢機卿の言葉か。

(『Technopolis-Mars』より)

繰り返しますが...

キリスト教を信仰している方には申し訳ありません、信じたくない情報だと思います...

私は宗教の自由を否定するつもりはありません、しかし世界の闇支配を調べていくと...

もしも、あなたの信仰している組織内の上位者たちが、サタニスト(悪魔崇拜主義者)だったとしたら本当に恐ろしいことだと思いませんか...!?

【奴らの信じる悪魔教】

奴らのやっていることをいろいろ書いてくると、奴らと言うのはどういう精神構造になっているのか不思議に思うはずです。

例えばいくら石油が欲しくたって、インドネシアで地震を起こして20万人も殺すでしょうか。

いくらアフガニスタンの麻薬畑が欲しくっても、自国民を911で6,000人もビルごと吹っ飛ばすな

どということをやるとでしょうか。

まあ、その昔は第二次大戦で平気で広島長崎に原子爆弾を落とした奴らですから、何を今さらな話なのですが。

奴らは悪魔教を信じていると書きました。

奴らの宗教は調べれば調べるほど反吐が出るというか。

まさにキチガイ宗教です。

モレクという名の牛頭のこんなやつを崇拜しています。

その昔、イスラエルにはこんな神殿があったようです。

ワタスは感覚が変なのか何なのか。

この絵を見ると何か非常に吐き気をもよおしてしまうのです。

気持ち悪い。

見ていて。

ただそれだけです。

皆さんも気持ち悪くなりませんか。

ワタスは何故だか見ていると強烈な拒否反応を起こします。

ふるふる。ふるふる。

ワタスのバイオセンサーが大きく振れ出し、危険を教えてください。

気分が悪くなる人は、あまり見ない方が良いでしょう。

日本人だったら神社仏閣。

感覚の鋭い人なら神社にいったら何かしら神々しい感覚を感じるかと思います。

量子理論でいえば、物体と思っているものは何かしらのエネルギー体ということになるのですが、神社などは肯定のエネルギー体だと思っています。

このモレク野郎はその逆です。

全てを奪い尽す否定のエネルギー体です。

本当かどうかは知りませんが、このモレク野郎はご利益があるようです。

何かしらお願いするとかなえてくれる。

しかし、その代償が大きい。

人の願いが大きければ大きい程、代償として与えなければならないものも大きくなるようです。

その昔は、王権をつぐ者の長子。

つまり王様の長男を生贄にささげていたようです。

実際に神殿で火の中に子供を投げ捨てて拜んでいたのですからキチガイ極まれりなことをやって

いたのですた。

キリスト教とかユダヤ教はこのモレク崇拝を隠すための目くらまし。

誰にでも受け入れられる作り話を作って、それを広め、その裏に悪魔崇拝集団が寄生している。

ユダヤ教やキリスト教が広まれば広まるほどその寄生虫が肥え太るという構造です。

ソロモン王の時代から崇めている気持ち悪いモレク神。

この牛頭ちゃんを神と奉って、子供を生贄にささげていた集団がいた。

今でも、ボヘミアングローブなどでも生贄の儀式をやっています。

ボヘミアングローブでやっているのは、子供のマネキンを使っているという話もありますが、未だに本物の人間を犠牲にしているという話もあります。

キチガイとしか言いようがない話です。

ちなみに聖書。旧約聖書と新約聖書。

旧約聖書を信じるのが、ユダヤ教。

新約聖書を信じるのがキリスト教ということですが、まあ、信者さんが聞くと気を悪くされるかもしれないのですが、あんなもの両方、作り話です。

まあ、日本人の大部分は作り話でしょと誰も信じてないのかもしれませんが。

モーゼがどうだの、ヨセフがどうだの。

出エジプト記がどうだの。

歴史だとか神話だとか、土着の宗教とかをごちゃまぜにして作っている人工宗教。

オウム真理教も浅原と幹部信者が、いろんな経典をひつつき合わせて作ったインチキ宗教。

同じです。

奴らは、一般の人たちにはその人工宗教を信じ込ませて、ちゃっかりと自分たちはモレク野郎を拝んでいるのです。

奴ら自身は、悪魔教であって、キリスト教とユダヤ教は隠れ蓑にすぎない。

奴らは隠れ蓑をうまく使って活動をしている。

いつもの手です。

奴らはいつも正反対の組織にまぎれこんで自分たちをカモフラージュするのです。

WHOは、ワクチンを接種したりして、世界で疫病や病気の撲滅のためにがんばっているありがたい団体と思いきや、その中身はウイルスをばらまいている悪魔のような団体。

CIAは麻薬取締りなどと言っておきながら、正反対の世界最大の麻薬密売組織。

ユダヤ人が悪い。

ユダヤ人は金の亡者だ。

ユダヤを吊るせ！

などと煽っておきながらユダヤ人の中に紛れ込んだ奴らが世界を操る。  
同じです。  
いつものお決まりの手なのです。

悪魔教だとおおっぴらに言っても信者が集まらない。  
だから人当たりの良い、誰にでも受けの良い神様を作って信じ込ませる。  
信者が増えれば増えるほど、その裏にいる悪魔崇拜の黒幕が肥え太るという構造になっているの  
です。

カトリック信者など世界に10億人もいるのです。  
10億の人口がある国家が存在するようなものです。  
その力たるや強大です。

まあ、エージェントさんから前に聞いた話です。  
本当かどうかは自分でお調べになれば分かることでしょう。

宗教などウソっぱち。  
そういう、詐欺師が作りだした概念から抜け出せ。  
美しい自然を見れば、何かしら敬虔な気持ちがわきあがってきます。  
美しい紅葉、遠くに連なる山々。  
心から湧き上がる何かしら畏怖の思い。  
美的感覚が何かしらの敬虔な思いを呼び起こす。

神様ありがとう。  
こんな素晴らしい世界に生かしてくれてありがとう。  
ただそれだけです。  
そこには、心の底から生まれる自然な感情があります。

奴らの作りだした人工宗教は、美しさがありません。  
その概念は不自然で、おどろおどろしく、その物語からは邪気を感じます。  
自然さがないのです。

考えるな感じるんだ。  
若い頃に、それがすぐにインチキだと答えを出してくれました。

あなたの心の声に耳を澄ませば自然と正しい方向に導いてくれるはずです。  
心の羅針盤が守ってくれるはずです。  
人工的な物語から少しでも距離を置き、自分の心を守って下さい。

(2009/11/7 ふぐり玉蔵氏のブログ『黄金の金玉を知らないか?』より)

## 【速報】ビルゲイツ全財産没収確定か! ロスチャイルド逮捕寸前! 世界人類解放の記念日が近い

---

(2012/3/27 『News U.S.』 より)

【ビルゲイツ全財産没収確定か! ロスチャイルド逮捕寸前! 世界人類解放の記念日が近い】

ほとんど迷惑行為、名誉棄損に近かったクローン説を完全解消し、さらに強い信頼を勝ち取り、遮るものが何もなくなったフルフォード氏。本日の英語ブログでも、期待通りかっ飛ばしています。

ビルゲイツ、人生のどん底へ真っ逆さまです。

The new financial system is online now and abundant financing is either already or soon to be made available, according to dragon family representatives. The final take down of the criminal cabal has also begun in earnest with over 200 senior bankers arrested and 450 resigned last week alone, these sources say. Japan is also now doing the final paperwork needed to set up an international economic planning agency with an initial funding facility of \$10 trillion or about 200 times what the World Bank lends every year, according to Japanese government sources. There will be some sort of announcement about this and other things on Tuesday evening, March 27th, 2012 Japan Standard Time according to illuminati and White Dragon Society sources. The arrest of some very high profile individuals is imminent.

ドラゴン家族代表によれば、新しい金融制度は今オンラインです。

また、豊富な調達資金は既に利用可能です。

先週、最終的に200人以上の上級の銀行家犯罪者どもが逮捕され、450人は単独で辞職した、とこれらの情報筋は言います。

日本の政府筋によれば、10兆ドルを元に国際的な経済企画庁の設立、あるいは毎年世界銀行が用意する約200回の創業資金設備のために必要とされる最終書類事務をしている、と言います。

イルミナティ(註：ロスチャイルドらは偽イルミナティ)およびホワイトドラゴンによる2012年3月27日火曜夜(日本標準時)に、これらに関する発表があるでしょう。

何人かの非常に高い地位にいる個人の逮捕は切迫しています。

The general structure of the financial cabal and its top leaders has also now been mapped to some

extent. For example, the Rothschild family dynasty leaders have been identified. The Swiss branch of the family is run by David de Rothschild in Geneva, the French branch by Guy de Rothschild, the German branch by Rothschild family member and Hitler daughter Angelina Merkel and the British branch by Evelyn de Rothschild.

金融陰謀およびそのトップのリーダーの全体構造も、ある程度まで把握されました。

例えば、ロスチャイルド帝国のリーダーは識別されました。

スイス分家ジュネーブのダヴィッド・レネ・ド・ロスチャイルド、フランスのギー・ド・ロスチャイルド(註：死亡したのでダヴィッドが兼任?)、ドイツのロスチャイルド家およびアンゲラ・メルケル、英国のイヴリン・ド・ロスチャイルドです。

In the US, JP Morgan is a Rothschild front.

米国では、JPモルガンはロスチャイルドのフロント企業です。

The Rockefeller family syndicate uses Goldman Sachs and Citibank as its major financial fronts. Bank of America is a front for the Italian black nobility behind the Vatican and the mafia, run in part by Peter Hans Kolvenbach, the former black pope. Pope malevolent the 16th is also a senior member of this satanic group.

ロックフェラー家シンジケートはその主なフロント金融機関として、ゴールドマン・サックスとシティバンクを使用します。

バンク・オブ・アメリカは、バチカンとマフィアの後ろのイタリアの黒の教皇のためのフロント企業です。

一部分ピーター・ハンス・コルベンバッハ(前黒の教皇)によって動きます。

悪意に満ちたポープ、16番目はさらにこの魔王のグループの古参党员です。

The Nazi faction is run by Fuhrer George Bush Senior with Ben Bernanke acting as Deputy Fuhrer. Their chemical and pharmaceutical mass murder division is run by the Du Pont family.

ナチの党派は、代理の総統としてベン・バーナンキを立てた総統ジョージ・ブッシュ・シニアによって実行されます。

それらの化学・製薬の集団殺人部門はデュ・ポン家によって実行されます。

世界支配者は3本の矢で成り立っているようです。

△金融のロスチャイルド、ロックフェラー

△軍事のブッシュ、デュポン



## △宗教のバチカン

3勢力が複雑に絡み合い、世界を長きにわたり支配してきたのです。

ロスチャイルドが全勢力のトップという説もありますが、こちらがより近いと思います。

ロスチャイルド家は、さらに3本の矢に分かれます。

△スイス&フランスのダヴィッド・レネ・ド・ロスチャイルド、

△ドイツのロスチャイルド家&アンゲラ・メルケル、

△イギリスのイヴリン・ド・ロスチャイルドです。

メルケルの強気、やはり背後にロスチャイルドがいたか。

ロスチャイルド家の当主ジェイコブは権力を持っていませんでした。

だからこそ、世界支配者に逆らい、ロスチャイルド家の分裂が起こったのです。

同様にスイスのベンジャミン・ロスチャイルドも、中立を保ったものとみられます。

The Bill and Melinda Gates foundation is now in Africa forcing families at gunpoint to accept the sterilization by vaccine of their daughters. In North America, Japan and elsewhere the mass sterilization by vaccine is taking place under the guise of protecting girls against cervical cancer. Message to Bill Gates: your company and foundation are going to be confiscated and you are going to spend the rest of your life making restitution.

ビル&メリンダ・ゲイツ・ファンドは、多くの家庭の娘にワクチンを投与し、強制的な殺菌を行なうために、アフリカにて活動しています。

北アメリカ、日本および他の多くの地域で少女を子宮頸癌から保護するように装い、不妊化のためのワクチンが投与されています。

ビル・ゲイツへのメッセージ:

おまえの会社と財団は没収され、おまえは残りの生涯を、損害賠償で過ごす。

The United States government has been so compromised by these and other cabal families and their foundation fronts that the upcoming US Presidential “election,” is nothing more than a power struggle between the Chicago mob and their front man Mitt Romney versus the Bush Texas illegal drug mafia and their guy Jeb Bush.

アメリカの政府は、これらおよび他の陰謀ファミリーによってそのように危険にさらされました。

そして、来たる米国大統領「選挙」は、まさにシカゴの暴徒およびそれらの表看板ミット・ロムニー対ブッシュ・テキサス違法麻薬マフィアと彼らのガイ、ジェブ・ブッシュの間の権力闘争です。

Hopefully the new financial system, once it is fully implemented, will pull the plug on the entire farcical show and Americans will be able to choose their own leaders based on true information provided by free media. For now though, electronically rigged elections and corporate propaganda provide sham democracy for dumbed down and drugged up Americans.

うまくいけば、新しい金融制度は、一旦それが完全にインプリメントされれば、茶番の金融市場全体から手を引くでしょう。

またアメリカ人は、無料のメディアによって提供される、真実の情報に基づいた自分達のリーダーを選ぶことができるでしょう。

今のところ、電子的な選挙および企業宣伝は偽物の民主主義を提供します。初心者向けに易くされ、アメリカ人を洗脳してきました。

However, a look at the pentagon budget for this upcoming year shows they have dedicated plenty of resources to financing reserve troop units inside the United States. This does not mean they are preparing to put average Americans into FEMA camps as feared by many. To the contrary, they are preparing for a mass round up of cabal agents and proxies, according to pentagon and CIA sources.

今年のペンタゴンの予算は、アメリカの内部の軍備リソースへ多く注入されているがこれは、心配されているような一般アメリカ人をFEMAキャンプに入れる準備をしているわけではありません。

ペンタゴンとCIAの情報筋によれば、それとは逆に、陰謀ファミリーおよび代理人を大量逮捕する準備であるということです。

There was a clear indication of change on March 20th, when instead of having the cabal scheduled

earthquake hit Tokyo, a magnitude 7.4 earthquake hit Oaxaca, Mexico exactly when President Obama's daughter was vacationing there. Furthermore, this earthquake was advertised in advance through pamphlets distributed locally. This is a clear sign the bad guys no longer play the HAARP.

3月20日に東京を地震で襲う陰謀があったが、明瞭な変更がありました。

メキシコで、オバマ大統領の娘が休暇をとっていた時、正確にマグニチュード7.4地震はオアハカを襲いました。

更に、この地震は、ローカルに配布されたパンフレットを通じて前もって通告されていました。

これは悪人どもがもはやHAARPを使わなくなった明確なサインです。

祝・ビルゲイツ全財産没収!!!

世界中の少女を不妊にした罪は重い。

一生損害賠償で苦しめ、この人格障害者めが。

新しい金融システムは、茶番の現行金融システムから手を引くとのことですが  
つまり、市場そのものが消えてなくなるということを意味しているのか？

ダウ、日経平均、上海総合、ハンセンなどは消え、

ニューNYダウ、ニュー日経平均・・・となるのであろうか？

いずれにせよ、今の金融市場は偽りの実体なき茶番劇です。

もしもある日突然市場が消えたら、ポジションを保有していた投資家が全員大損します。

売りも買いも関係ありません。利益確定もできません。

資金も引き出せないかもしれません。

だから、株や債券、FX、その他ペーパー資産は全て処分すべきです。

金や銀、食糧、燃料、土地など実物資産に替えておくべきなのです。

3月20日、やはり東京の地震テロをメキシコ地震テロに変更したか!

思った通り「プランB」を実行したようです。

だから何も起こらなかった、デマというのは大変な思い違いということです。

色々と言いましたが、この点に最も早く気付いたコシミズ氏の功績は大きい。

Another sign of change was the public rebuke of Obama, Clinton and cabal controlled media outlets when the official Chinese government news site, Xinhua stated that North Korea was not on the agenda of the 50 nation nuclear security summit taking place in Soeul, Korea this week. The cabal propaganda media has been carrying a fake story about nuclear danger from North Korea even though that country has already announced it will cease nuclear weapons development.

変更の別のサインは、「北朝鮮が50ヶ国のソウル国家核安全保障サミットのアジェンダ上にはない」と公式の中国の政府ニュース・サイト(新華)が述べた時、オバマやクリントンおよび陰謀勢力が公で非難されたことです。

たとえ核兵器開発を止めると北朝鮮が発表したとしても、陰謀宣伝メディアは、核の危険のプロパガンダを報道します。

The secret agenda behind this 50 nation summit is an attempt to steal 200 tons of gold that is in South Korean warehouses. That theft is not going to be allowed to go ahead so the cabalists will leave the summit empty handed.

この50ヶ国の国家サミットの背後にある秘密計画では、韓国の倉庫にある200トンの金を盗む予定でした。

その窃盗は許されず、犯罪者どもは手ぶらでサミットを後にするだろう。

There was also plenty of speculation about a coup d'etat in China last week. All that happened was that a Maoist cabal agent Bo Xilai was removed from power after one of his henchmen was discovered taking instructions from the US consulate in Chongqing, according to MI6 sources. China is still on course for a stable and harmonious regime change-over later this year, according to White Dragon Society sources. The talk of a Maoist coup d'etat was wishful cabalist thinking fanned by cabalist media outlets.

先週、中国ではクーデターについての多くの推測がありました。

MI6の情報筋によれば、毛沢東主義の陰謀代理人薄熙来が権力を剥奪されたということでした。

チョンチンで米国領事職から指示をとって、彼の手下のうちの1人が発見された後のことです。

ホワイトドラゴンの情報筋によれば、中国は今年後半に政権交代があり、安定・調和に向けて進んでいるところです。

毛沢東主義のクーデターの話は、犯罪組織直下のメディアによって煽られた犯罪プロパガンダでした。

Speaking about fake stories, the “White Hats” group on the internet, consisting of Bush agent Mike Cotrell and Hawaii resident Danny Gammage, has been spewing out laughable libel (such as this writer is a clone).

ガセ情報について話します。「ホワイトハット」インターネット上のグループ、ブッシュ代理人マイク・コットレルおよびハワイ在住のダニー・ギャメージが、私がクローンであるなどという滑稽な侮辱を垂れ流しました。

More damagingly, they managed to fool Lord Blackheath of the UK Upper House of Parliament with a fake story about \$15 trillion that he raised in Parliamentary session. The House of Lords is now going to summon a White Dragon Society ally to testify about what is really going on in the financial wars.

より有害なことには、それらは、偽の物語で英国上院のロード・ブラックヒース卿を騙しました。彼が国会のセッションで証言した、15兆ドルの件についてです。

上院は、金融戦争のさなかで、今実際に何が起こっているかに関して証明するため、ホワイトドラゴン呼び出すつもりです。

The London financial district is headed for further purges and the talk is that Lord Sassoon is headed for a big fall. The investigation may even extend to the UK Royal family, European CIA sources say.

ロンドン金融街はさらなる浄化に向かって進みます。また、サッスーン卿が大きな落下に向かって進むということです。

調査は、英国の王室にまで及ぶかもしれない、とヨーロッパのCIAの情報筋が言います。

ブラックヒース卿、騙された?!

15兆ドル、ヨハネス・リヤディの件、すべて偽物語だったのか?

ブッシュの代理人による情報戦争と金融戦争、ついに暴かれたようです。

この件については詳細の続報を待ちたいと思います。

中国の薄熙来に周永康、江沢民勢力の大物政治家が失脚しました。

ロックフェラー直系の江沢民が失脚すれば、中国も完全に支配から脱却できます。

その前に、中国共産党の壮絶な崩壊も起こるかもしれません。

In Japan, meanwhile, the status quo is expected to remain on hold until the March 31st end of the fiscal year because of overwhelming workloads in the bureaucracy and the parliament. After March 31st, there will be concrete negotiations taking place involving the Finance Ministry, Bank of Japan, Prime Minister's office and Royal Household Agency aimed at setting up a new international economic planning agency.

日本では、3月31日の年度末まで官僚政治と議会中が多くの仕事に圧倒されるために、現状を維持すると予想されます。

3月31日以降は、新しい国際的な経済企画庁の設立を目指すために、財務省、日銀、首相官邸、宮内庁が具体的な交渉を始めるでしょう。

The Japanese self-defense forces and bureaucracy are also planning a major purge of cabalist puppets in the Japanese Parliament, banks, corporations and media.

日本の自衛隊および防衛省は、さらに日本の国会、銀行、企業およびメディアでの犯罪組織の手下共の大粛清を計画しています。

Overall, things are looking very good. However, unless we see these senior cabalists on world TV confessing to their crimes, we must not be complacent. Until this financial war is over, keep your powder dry and stay alert.

全体として、事態は非常に良い方向に進んでいるように見えます。

しかしながら、世界中のテレビでこれらの犯罪者が報道されるまで、我々は油断してはなりません。

この金融戦争が終わるまで、平静を保ち、警戒を続けてください。

新しい金融制度がオンライン化するとともに、200人以上の上級の銀行家が先週逮捕されました。

<http://benjaminfulford.net/2012/03/26/over-200-senior-bankers-arrested-last-week-as-new-financial-system-goes-online/>

ベンジャミン・フルフォード氏万歳!

世界人類万歳!!!

3月31日で、つまらない世界は終わりです。

人類がお金の詐欺から解放される日がやってくるのです。

日本政府が日本を滅ぼすと書きましたが、フルフォード氏のメルマガから状況が少しよくなり、ようやく重い腰を上げ、飼いならされた檻を出る準備ができたようです。

無事に経済企画庁が始動し、10兆ドルの使い道が決まれば、日本は復活できます。

日本が売られゆく計画も阻止され、アジアのリーダーになれることを願っています。

勝栄二郎氏も根っからの悪魔ではなく、ただ脅されていただけと思いたい所です。

人相は悪いですが、本当に日本のために動くならば、支持したい気持ちはあります。

その前に、大量逮捕が全世界でテレビ報道されることと思います。

その日はすぐそこまで迫ってきているはずです。

(2012/3/27 『News U.S.』 より)

【資料】 『アングロサクソン・ミッション①』

---

Bill Ryan

ビル ライアン

Projectavalon.net

A presentation about the testimony of first-hand witness to Illuminati plans for Planet Earth.

『イルミナティ地球支配計画の直接的目撃者』のプレゼンテーション

The witness attended a special meeting in the City of London in June 2005.

この証言者は2005年6月に ロンドンのシティで『ある特別な会議』に出席します

Since then, Some things have changed.

その時以来 状況のうちの何かは すでに変化しました

Since then, Some things have changed. Other things have not.

そのとき依頼 何かは変わったのです でも変わっていない部分もあります

The plan presented in this video is not currently on track.

ここで紹介される彼らの計画は 現在 当初の計画通りには進んでいません

it's unlikely to work.

計画通りに行くとは思われません

But you need to know what it is.

しかし私たちは それが何なのかを知っておく必要があるのです

City of London

シティ オブ ロンドン

【The Anglo-Saxon Mission アングロサクソン・ミッション】



プロジェクトキャメロットとプロジェクトアバロンの  
ビル・ライアンです

今日は2010年2月16日です

このビデオプレゼンテーションは ちょっと変わっています  
と言うのも

このビデオは

ある重要な証言者との 音声によるインタビューの

説明・解説版として

作ろうとしているからです

その人物は

ちょっと前...2、3週間前にプロジェクトキャメロットに来て

自分の話をしてくれました

私たちの証言者は 多くが匿名を希望しますが

この人物もそうでした

ただ彼は録音を 文章化することに同意してくれました

それでこれを

[アングロサクソン ミッション :

証言者による音声インタビュー]として原稿化し

ビデオと同時に公開することになっています

なぜなら

ここで私がビデオについて言っていることを考えながら

同時に録音内容を読めるということが 大切だからです

話に入って行くと

全ての情報を把握する重要性が

はっきり分かってくるでしょう

全てをしっかりとバランスよく理解するためです

さて この人物はイギリス人です

長年 英国軍に勤務し

退役後は

ロンドンのシティで

非常に高い地位についていました

ロンドンのシティで立派な地位 ですよ

このビデオを見ている皆さんの中で  
ロンドンのシティを知らない方のために説明しますと  
シティというのは独立地区  
つまりロンドン自体の中心にある  
経済独立地区のようなものなのです  
ちょっとだけバチカンと似ている と考える人もいます

非常に古い 昔からある場所です  
それは ロンドンだけではなく  
おそらく 世界中の経済システムの中心です  
多くの研究者が  
おそらく非常に高い確率で  
ロンドンのシティが アメリカの経済システムを  
支配しているのではないかと 考えています

シティの人々が 連邦準備銀行や  
国際決済銀行などの  
あらゆるできごとを 支配しているというのです  
ここは世界経済の神経中枢のようなものです  
そしてとてもメーソンの的です つまり  
非常に古く 伝統的なのです

我々の情報源であるこの人物は  
上級メーソンと同席する 多くの会議に出席しましたが  
その多くは 興味深いながらも  
シティの標準的ないつもの会議 つまり  
いつもお決まりの経済会議でした

そして2005年6月  
またいつもの経済会議だと思い  
彼はある会議に出席したのですが  
それが実は ふだんとは違うものだったのでした  
ふだんと違うということは 着いてすぐに気づきました

実際 我々とのインタビュー[アングロサクソン ミッション :

証言者による音声インタビュー]  
の原稿にも載せてありますが  
彼が「自分は手違いがあってそこに出席したのだ」  
と言っているのがわかると思います

彼は本来そこにいるべきではなく  
何が行われているのかわからず  
そういうわけで 本当のところ  
その会議には参加していませんでした  
いわばこっそり観察するような状況で  
そこにいたのです  
何が起きているのかを  
ただ聞いていたのです  
初めの頃は  
何が話題になっているのかも  
理解できなかった ということです

さて そこにいた人々はメーソンでした  
上級メーソンです  
25～30人いて  
中には ほとんどのイギリス人が  
名前を聞いただけでわかるような  
高い地位にある政治家もいました  
私は これらの人びとが誰なのか知りません

彼は 彼らの名前をあきらかにはせず  
私も聞きませんでした  
彼によれば 有名な人びとばかりだ  
ということです  
警察本部長  
教会の代表者たち  
軍の代表者たちなど 25～30人いたわけです

そして彼は この話が話題になっているのを  
聞いていたのですが  
それは形式張らない会議でした  
それはよくある大きなテーブルに

メモ帳、水の入ったグラス、議事録、  
協議事項、そして議長のいるような会議  
ではなかったのです  
人々がただ部屋に集まって  
この話題について語り合う  
というようなものでした

彼らが話し合っていたのは  
あきらかに  
かなり前に計画された ある計画についてでした  
討論していたのは  
この計画の実行についてでした  
彼らは 状況の進み具合と  
計画通りに進んでいるかどうか  
について討論していたのです

もうちょっとわかりやすく言えば  
彼らは  
この計画を実行するに当たっての  
問題点などについて  
話し合っていたのです  
このプレゼンテーションが進んでいくと  
何の計画についてだったのかが  
わかってくるでしょう

私はここで  
証言者にあきらかにされていったのと  
すっかり同じやり方で  
そして  
彼が私にあきらかにしたのと同じように  
少しずつ  
段階を踏んであきらかにしていきます

イスラエルは  
すぐにでもイランを攻撃するような準備は  
まだできていないようだ、  
と皆が話し合っていたことでした

これがまず問題点だったので

2005年6月の時点でさえすでに

彼らはあきらかに

ある種の時系列によって計画されたことが

スケジュール通りに展開していないのは どうしたことか

と懸念していたようでした

そして

それが彼らにとっての論点だったわけです

それで

それが一気に彼の興味を引いたわけです

なぜなら

今までこんなことを話し合う会議には

出たことがなかったからです

次に彼らは

中国について話し始めました

中国が軍事力 経済力ともに

いかにすばやく力をつけて来ているか

そして日本が やるべきことを

やっていない つまり

中国の経済システムに

何らかの形で干渉することになっていたのに

やっていない、とも話していました

日本がやることをやっていない

これがもうひとつの問題でした

中国が 急激に力を持ちすぎて 来ていたからです

他にそこで話し合われていたのは

例えば やがて来る金融崩壊

富の中央集権化

私たちが目撃したような

2008年10月から始まったすべてのことです

彼らはそれを計画し  
2005年6月の会議の時点で  
そのことに言及していました  
ですからあきらかに  
現在 計画が開始されているわけです

彼はとてもショックを受けて  
さらに聞き進んで  
何が起きているのか 本当にわかった時は  
極度の衝撃を受けました

私がここで  
このビデオでプレゼンテーションをしているのは  
ショックをやわらげ 少しでもこれを解釈するためです  
とても衝撃的な情報ですから

またここで  
彼が実際に自分の耳で聞いて報告したことと  
彼自身の推測の部分とを  
区別するようにし  
こういったこと全てがどう組み合わさるのか  
私の考察も入れたいと思います

これはとても重要な情報です  
たとえこういったことが  
軌道に乗るようには見えないとしても  
知っておく必要があります

私はこれが起こるとは思っていません  
私が考えるに 気の狂った人々の一団がいて  
あることをやろうと非常に固く決心していて

→ <http://www.youtube.com/watch?v=Mj--c9wYCmM&fea..>

## 【資料】『アングロサクソン・ミッション②』

---

あることをやろうと非常に固く決心していて  
しかも急いでいる…  
ここが重要です…とても急いでいるのです  
この一連の出来事を展開していこうと…

さて 彼が説明したのは  
一連の出来事がどういう順番で起こるかでした

それはイスラエルのイラン攻撃で始まります  
今はまだ起こっていませんが  
このことを起こそうとしている勢力がある  
という兆候は  
たくさんあります

過去2年間のニュースを辿るだけで  
一般の人々が  
この手のこと への正当化に慣らされて来ている  
ということに気づくでしょう  
イランは 攻撃されても仕方ないような悪い奴らだ  
とか何とかいうふうに 仕掛けられているのです

さて それが  
チェスの最初の手のようになるわけです

その計画は イランまたは中国に  
報復するよう誘発します

我々の証言者は軍関係者ですが  
彼は個人的に  
これは一度も公になっておらず  
知られてもいませんが  
イランが核兵器を持っていることを  
限りなく確信しています  
彼は  
イランが中国から内密に核兵器を供給されている



と信じています

そしてこれは全て計画されていることであり  
これらの支配勢力にとっては  
イランが核兵器を持っているのは  
問題ないわけです  
使ってほしいわけですから

計画では  
イランが核兵器で攻撃されたあと  
イランか中国に  
報復してほしいわけです  
その時点で  
中東で 限定的な核攻撃のやりとりがあり  
その後 停戦になる  
ということです

彼は 会議でこのことが計画されていくのを  
聞いたのです  
これは演出されているのです  
映画の脚本のようにです  
本当に これから起こりうるものが  
図られているのです

そしてこの間に  
このことのために  
他のことも仕掛けられていくのです

そして  
これを視ている多くの方が気づくでしょうが  
これは舞台裏で  
仕掛けられていくのです

私たちはこのことについて  
多くの国の信頼のおける研究者たちから  
インターネットを通して  
たくさん報告を受けているのですが

国民を厳重に管理する 厳戒令のようなものが  
欧米諸国の多くで  
設置されつつあるのです…つまり  
軍や警察以外の治安部隊、警護隊などへの権限が  
新たに付与され強化されつつあるのです

例えばイギリスでは この証言者によれば  
非常に多くの民間の警備員たちが  
市民を逮捕、拘束したり  
市街地での暴動を処理する権力を  
与えられてきている、  
と 彼は個人的に本当に  
知っていました

ここで話しているのは  
ごく普通の民間の警備員  
通りで交通違反切符を切ったりする人たち  
のことを言っているんです  
その人たちの権力が  
同様のやり方で大きくされているのです

また昨年 オバマ大統領が  
アメリカ国内に国家警察隊のようなものを作り  
こういったことに対処するようにしたいと  
話していたのを聞いたでしょう  
この仕組みが 設置されつつあることを示すものは  
たくさんあります

それから この気の狂ったシナリオが展開する中で  
中東で限定的な核攻撃のやりとりがある、  
と意図されているのは  
考え方はこうです

世界中が 中東を恐怖の目で注目する  
そうしたら 彼らは各国政府を通して  
旅行、通信、人々の会合、

市街地での反対運動などを  
強かに規制するよう 命令するでしょう  
彼らは  
飛行機に気の狂った爆弾テロリストが乗っていないか  
ショッピングモールにはいないか を確認したい  
と言うでしょう

そして人々がこれを聞いて 恐怖に陥るので  
各国政府に 強かに警備するよう 要求 命令 主張し  
それは正当化されるでしょう  
これが全ての欧米諸国で起こるであろう  
厳戒令状態です  
正当化として意図されているのです

これら全ては  
単にあることの始まりです  
この話はずっと大きい  
非常に恐ろしいことになってくるからです

これを見ている人たちは  
ちょっとショックを受けているでしょう  
私がこの情報を聞いたときと同じです  
そして それは  
この証言者が会議で感じた気持ちと一緒に  
これは始まりに過ぎないのです

さて  
停戦の間  
誰もが衝撃を受け  
恐れ  
どうなっていくのか 恐怖にかられるでしょう  
どこでも国民は 強かに支配されているわけです

そして  
次のチェスの手では  
中国で 生物兵器がばら撒かれます

彼は　これが会議で話されるのを聞きました  
彼らは  
中国の国民を　遺伝子的に標的にした  
インフルエンザのようなウィルスを撒くつもりです

これは人種的に中国人を標的にしています  
これは山火事のように拡散するべく  
そして大量の中国人が罹患するべく  
計画されているのです

そして会議に出ていた人々は  
これを笑っていました  
彼らは「中国が風邪を引くんだよ」と言ったそうです  
「中国が風邪を引くんだよ」というのが彼らのことばです  
そしてこの生物兵器が  
中国国民に大打撃を与えることについて  
笑っていたのです

それでは　その後　事実上  
欧米にも同様に伝染病が  
世界をわたって広がるような可能性は  
あるのでしょうか

彼にははっきりはわからない  
ということでした  
中国の報復があるかも知れない　あるいはそれが  
人種的なものを標的にしていようがいが  
広がるうちに　制御不可能となってしまうかも知れない  
とも言いました  
突然変異があるということです

と言うことで  
中東での限定的な核戦争があり  
世界的な伝染病が世界中を一掃し  
はっきりわかるくらい  
多くの人々が死ぬことになり

そして こういったことで  
人々がパニックになるので  
欧米諸国で  
例のような全体主義的軍隊による  
厳重な警備体制が 敷かれるわけです

そしてその後 彼によれば  
本当の戦争が始まるということです  
おそらく正当化されて  
「第三次世界大戦」とも呼ばれるようなものが  
もっと大量の核攻撃を伴って始まると

ここまで来て 私は彼に聞きました  
これはただ人口削減のためなのですか？  
何が目的なんですか？  
何で彼らはこんなことをしようとしてるんですか？  
どうしてこの気の狂ったストレンジラブ博士(映画「博士の異常な愛情」)は  
世界中でこういったことを引き起こそうとしているんですか？  
なぜですか？

会話が進むにつれ  
この質問についての答えが  
次第にわかってきました

これらのことは考察ですが  
何がどうなっているのかを理解し  
一緒に活動するためには本当に重要なので  
皆さんとこの考察を  
シェアたいと思います

今からお見せするビデオの部分が  
ヒントになっています  
とても大切なヒントです

彼は言いました  
「まったくその通りです。  
人口削減のためです。」

それで私は聞いたのです

「それでは、この会議中に数字などについては話していましたか？」

彼は言いました

「はい。

50%と言っていました。」

世界人口の半分です…

これはジョージア・ガイドストーンにより

計画されているのです

ジョージア・ガイドストーンを

ご存じない方のために補足しますと

これはアメリカのジョージア州にある 石の記念碑で

何年も前に 匿名で建てられたそうです

これは8ヶ国語で書かれており

まるでイルミナティの「ニューワールド」向けの

マニフェストのようです

これがニューワールドに向けたマニフェストである

ということをしばらく考えてみてください

これが 今私が解説していることにおいて

大切な概念なのです

このニューワールドに向けたマニフェストの

重要ポイントのひとつが

500万人の人口というところですよ

500万人ということは

この会話の時点でのおよそ70億人からすると

圧倒的な減少です

これは

ほとんど95%の人が

この地球からいなくなっているということです

そして50%はそれに至る段階で

彼らがこれをするには理由があるのです  
彼らがなぜ急いでいるかには  
理由があるのです  
このキチガイ沙汰には  
理由があるのです

そして彼はこれを説明する時に  
このプランには彼らがつけた名前がある  
と言いました  
このプロジェクトには 名前があるのです

私は聞きました  
「何という名前ですか？」

彼は答えました  
「アングロサクソン・ミッションと呼ばれています。」

アングロサクソン・ミッション  
その名前は以前聞いたことがありました  
何か歴史的な  
おそらく十字軍に関する事で非常に昔のことです  
でも私も彼も  
現在の状況では聞いたことはありませんでした

そして後で彼の話が続くにつれ  
何の何をを言っているかも知れないのかが  
だんだんわかってきました  
ですからこのビデオのタイトルが  
そうなっているのです

また現在何が起きているのかを理解して  
一緒に力を合わせる必要があるため

bill 2

→ <http://www.youtube.com/watch?v=6f4sTYmkLO8&fea..>



## 【資料】『アングロサクソン・ミッション③』

---

また現在何が起きているのかを理解して  
一緒に力を合わせる必要があるため  
この情報を皆さんとシェアしたいと思っています  
これは本当に重要な情報です

私が信じるに ある計画があり  
これはヒトラーが誇りに思うような  
非常に邪悪な マキャベリ的な  
直視するのが困難なくらいのもので  
信じられないような内容なので  
皆さんの目の前において  
見てもらわなくてはならないのです

そうすれば こういった可能性があるのかどうかを  
自分で考えていただけるでしょう  
私が説明している計画は  
間違いなく可能性のあるものです

というのも  
私がここまで語ってきたことは全て  
つまり「限定的戦争」の後の  
大規模な戦争行為の勃発まで含めて  
彼がこの会議の中で自分の耳で聞いたことだからです

ということで  
計画されている 順番は次の通りです

イスラエルがイランを攻撃し  
その後停戦になるが  
その頃同時に 全ての欧米諸国で  
国民に対して  
政府の軍による強力な支配が起こっている

その後 中国が生物兵器で攻撃を受ける  
それはインフルエンザのような病気で

山火事のように広がり  
世界中に広がり  
それから第三次世界大戦が起こる

そしてその時までに  
全世界人口の50%が削減される  
ただ戦争や伝染病によるものだけでなく  
これを見ている人にはわかるでしょうが  
このような状況においては社会経済基盤が停止するからです

スーパーマーケットに食料はなく  
スタンドにもガソリンはなく  
電気通信も停止し  
水さえも水道からでなくなるかも知れません

人々は この状況をやりくりする手段も持たないまま  
ビクトリア時代に後戻りさせられるような状況なのです  
菜園を持っている人はほとんどないでしょう  
馬も馬車も持っていないでしょう

かつては生き延びられたやり方では  
生き延びられないでしょう  
我々は 現代の科学技術の進歩の中では非常に非常にもろいのです  
私たちは 非常に攻撃を受けやすいのです  
そしてもちろんのこと  
支配者たちはこのことを知っているのです

この段階で  
証言者は推測していました…  
なぜ彼らは急いでいるのか？  
なぜこれをやろうとしているのか？

ここで これは非常に皮肉な感じですが  
わたしが言ったのです

そうですね、もし第三次世界大戦を計画するなら  
時間をたっぷりとして

きちんとうまくいくように進めて  
本当に成功するようにしたらいいじゃないですかね？  
だって 20年後だって30年後だって  
あんまり関係ないのではないですか？  
どうしてそんなに急いでいるのでしょうか？

そうしたら彼は  
彼が引き続き受け取っている内部情報によれば

今でもこれは  
今から18ヶ月ぐらいを時限目標としている  
つまり2011年の半ばぐらいをメドにしていると思う  
と言いました

彼は 実はこの一連の出来事が  
日程による設定ではないため  
確信がないということです

それは実は 出来事の順番による設定なのです つまり  
これはあれの前に起こる必要があります  
それから次のことが起こり  
そうしてその後次のことが起こる  
という具合です

ですから 全てのドミノが倒れる前に  
たくさんのごことをそれぞれの場所に  
配置しておかなければならず 言ってみれば  
彼らはいくつかのごことでスケジュールから遅れているようだ  
ということなのです

計画された出来事で 絶対にまだ起こってないことがあります  
この話を聞いたときに  
思い出したごのひとつが  
我々の証言者であるヘンリー・ディーコンの情報です

過去3年間に プロジェクト・キャメロットのビデオを見て  
彼らの報告を読んだ人たちの多くは覚えていると思います

2006年に我々がヘンリー・ディーコンにあった時  
この話が出ていたのです

彼が 彼の内部情報として  
2008年に対中国の戦争があるだろう  
と言っていたことですが  
これは起こりませんでした

そして今回…  
あの時はまったく意味がわかりませんでしたし  
今でもまったくわかりません  
まるでこんな感じです  
ふ～んなるほど、でも何でそんなことをするんですか？  
何でなんだろう？誰がするんですか？

さて 次に述べるのが「証言者」の答えでした

この人は非常に賢い人です  
彼はずっと軍にいるわけです  
そしてこれは彼が音声録音の時には述べていなかった  
まったく別の話なのですが…  
ちなみに録音については  
原稿になっていますので読んでください…

彼は 軍において自分自身が  
ETに会った経験があるので  
彼はこのことについての裏情報も  
自分自身の情報源から得ています

彼が言うには  
彼はかなりの確信を持って  
この世の中で命令を下している人々 つまり  
イルミナティ、支配者、秘密結社など  
名前はいろいろありますが

その人々は「地球物理学上の事件」  
と彼は呼んでいましたが

大規模な地球物理学的事件が起こる、  
と信じているということです

彼によれば  
自分が受け取った最高の情報として  
内部関係者たちが  
このことが起こるだろう、あるいは  
起こることを懸念しているということでした

そして これを見ている多くの人が  
これがすっかり気の狂った情報 とも言えない  
ということにお気づきでしょう

何らかの理由で  
これまでに何兆ドルもの金額が  
地下深部の基地建設に  
使われており  
それがなぜ存在するのかも  
我々にはわからないのです

また スヴァールバルにあるシードバンク  
というのを聞いたことがあるでしょう  
世界中から  
全ての植物と農作物の種子を集め  
ノルウェイ北部の花崗岩でできた地下貯蔵庫に  
保存しているのです

この種子銀行も含めて  
まるで こういった貴重な資源にとって  
脅威になることが  
起こるかも知れない  
とでも言うように  
多くの予防措置が取られているわけです

さて もし彼らが信じているように  
地球物理学的事件が  
起こるのであれば

というのもこれは  
イルミナティの内部情報として  
保存されているようなので  
本当かどうかはわかりませんが  
1万5千年ごとに繰り返され起こる  
地球物理学的な事件があるということなのです

アトランティスに本当に起こったことの情報  
は、2、3千年前に焼け落ちた  
アレクサンドリア図書館に  
あった確率が 非常に高いです  
そのほとんどの情報が回復されて  
現在バチカン図書館にあるという噂が  
ずっと続いています  
これは公になっていない情報で  
内部関係者なら  
アクセスできるかも知れないというものです

この情報が正確であろうがなかろうが  
重要なことは 彼らが  
おそらくこのことが起こるのであろう  
と信じていて  
自分たちの予防措置を取ろうとしている  
ということに気づくことです

そしてこのことが  
さっき聞いたばかりのこの計画について  
その異常さを正当化することになるのかも知れません  
このことについて考えてみてください  
彼は言ったのです

「もしポールシフト(極移動)のような  
大規模な地球物理学的な事件が起こるとすれば  
もしかすると惑星Xだとか、もしかすると  
何らかのエネルギー現象が起こって  
それで太陽系が動きそのことで  
地殻がどういうわけか不安定になるとか

そういうことかも知れない・よくわかりません」

しかしもしそういった  
ものすごい緊急事態が起こるなら  
戦争を起こすなどということは  
まったく見当違いに思えます  
人類を救うとか、  
人類の一部だけでも救うとか  
そのために 事が起こる前に  
危機管理をきちんとしてあるかどうか  
そういうほうが筋が通るわけですよ

言いかえれば  
もし緊急事態が発生するとわかっていたら  
例えば ハリケーンが  
自分の都市を直撃するのが  
わかっていたら  
前もってまんべんなく  
準備をするだろうということです

警官隊の準備を整え  
社会経済基盤を整備し  
軍隊の準備を整え  
一番よい方法で  
反応・対応・復旧できるよう  
この状態を掌握するための  
全ての準備を整えるでしょう

我々の証言者によれば  
この第三次世界大戦のシナリオが  
作られている理由は

欧米諸国の政府が  
中国だけを除いて  
国民を全体主義的体制で  
支配する状況になる  
ということからではないか

ということですよ

そして地殻大変動の後  
最高の装備で  
ニューワールドを 復旧・復興しよう  
ということではないかと  
それで今こういうことが起こっていると  
彼は考えているわけです

実は私も ひどい理論ではありますが  
彼らがこのように考えているということには納得がいきます  
もちろん 一瞬たりとも  
それが起こるのに同意するということではありません

私としては これが  
とんでもなく気の狂った計画だとは思いますが  
彼らはそれが起こると  
信じているならば  
この計画が  
本当に話し合われているということは  
彼らにとっての正当化という意味でも  
あり得るように思います

さて今度は  
現在の私の考察ですが  
これも 私にとっては筋の通るものです  
ですからこれについての  
皆さんのコメントや考えをお願いします  
皆さんと一緒に 今何が起こっているのかを  
明らかにしていかななくてはならないので

これはアングロサクソン・ミッションと呼ばれています  
ここからわかることは  
この名前の由来が  
新しい地球を継承することに関する  
白人の人種差別主義者の  
計画予定だということですよ



ヒトラーが自慢しそうな計画です

もし彼らが 新しい地球を再建しなければならない  
と考えているなら

「ニューワールド」・・この短いことばについて  
考えてみてほしいのですが

もし地殻大変動の後に

「ニューワールド」を再建する必要があるなら

彼らはアングロサクソンに

それをやってほしいと思っているわけです

bill 3

→<http://www.youtube.com/watch?v=IG44y3wM5fg&lis..>

彼らはアングロサクソンに  
それをやってほしいと思っているわけです  
中国がやるのはいやなのです

まず中国を排除して  
その後アングロサクソンが  
他の民族、  
おそらくアジアやアフリカ、南アメリカ  
の各国とともに  
ニューワールドを継承する と

彼らは 何にせよ  
彼らが思っているようなことが  
起こった後は  
どんなやり方にせよ  
自分たちで復興する力を持つような  
状況を掌握するだけの  
資源・財源はないのだろう  
と推測されます  
それで  
他のいくつかの部分にも  
つじつまが合うところがあるので

そしてこのプレゼンテーションが  
重要である理由のひとつは  
個人的に これは私個人の考えですが  
これまで私が  
こういった重要な問題については  
多くの十分な根拠に基づいた研究を  
追跡しているからです  
我々は過去3年間  
独自の情報源を持ってやってきています  
しかし 私はいつも  
自分自身に問いかけてきました

どうして彼らはこんなことをするのか？と  
中国に戦争を仕掛ける？なぜ？  
第三次世界大戦？ どうして？

そして急にこれらの多くのことが  
少しだけ意味を成してきたのです  
可能性はあります  
例えば 去年2009年の終わりに  
ジョーダン・マックスアエルとの  
インタビューで聞いたのですが

彼は  
ヒットラーの時代や さらにそれ以前から  
繰り返し使われている  
「新しき日の夜明け」  
についての  
シンボルや映像などの  
イメージについて  
ずっと研究してきたと  
言っていました

フリーメイソンや イルミナティ的に考えると  
「新しき日の夜明け」には  
何かとても重要な意味があり  
ここにきて私たちも  
恐らく彼らが信じている理由として  
もしかしたら地球大変動かも  
彼らは本当に起こると 信じているのかも  
と考えています

2012年という映画は  
多くの方がご覧になるでしょうが  
全ての洪水や地震、津波の後  
あのように大きな船が  
雲のしじまから陽がさす  
静かな海に出て行く  
それが「新しき日の夜明け」だ

と言うわけです

そしてあの映画の中で

暗示しているのが

これからあの人たちが

新しい地球を再建することができる

あれは生存者たちで

この映画は現代のノアの箱船だから

というわけですね

「新しき日の夜明け」が例のことに言及している

という可能性はありますね

他の研究者たちの見解も

聞いてみたいものですが

まさにこの言葉

「ニューワールドオーダー」(新世界秩序)

という言葉さえ思い浮かびました

この言葉を初めて聞いたのは

20年くらい、いや、もっと前でしょうか

しかし「ニューワールド」というのは

大変動後の世界

まさに「ニューワールド」なのかも知れません

大変動の後の新世界の秩序

なのかも知れません

誰が新世界を継承するのかを

計画しているのかも知れません

最低限でもそうでしょう

これが「ニューワールドオーダー」の

全貌なののでしょうか？

まさに彼らが起こるだろう と思っている

新世界の秩序ですね

彼らは本当にそうになると

思っているのですから

さてここで もう一度言いますが

この全情報を区別することは  
本当に本当に重要です  
私はこれらが本当に起こるとは  
まったく思っていませんが  
彼らは 自分たちの利益になる  
と信じていることを守るために  
何か気ちがいじみたことを  
試みているのかも知れません

ここでは私たちはこのことに  
気づく必要があるのです  
私は 自分がなぜ  
これが起こると 信じていないのか  
の深い理由について  
ただただ ハッキリさせたいのです  
起こるように意図されたことで  
起こっていないことが  
たくさんあるからです

覚えている皆さんも多いでしょうが  
たしか2007年8月30日だったと思いますが  
B-52爆撃機が  
6個の巡航ミサイルを 涼翼端に装着して  
マイノット空軍基地から  
アメリカの半分も横切って  
ルイジアナ州バークスデイル空軍基地まで  
飛んだのですが

こんなことは 決して  
間違いで起こるようなことではないのです  
それは違法であり  
起こってはならないことでした

空軍基地の武器庫からは  
銃弾ひとつでさえ  
いくつものサインを もらわなくてはならないし  
誰の目にも触れずに

こっそり持ち出すことなどできないのです  
ましてや 巡航ミサイルをつけたB-52爆撃機が  
誰にもわからず間違いで  
などということはあり得ないのです

そのことが起こったのには理由があり  
実際これは それ以上のことが進む前に  
阻止されたのです  
それはルイジアナ州バークスデイルで  
止まりました  
何人かの 非常に勇気のある航空兵たちが  
内部告発し  
自分たちのやるべきことをやり  
部隊に報告したのです

そのニュースは 主なメディアで  
非常に短時間だけ 取り上げられましたが  
その後は完全に隠蔽され  
誰もが あれは間違いだった  
と言ったのです  
それは間違いでは ありませんでした  
彼らが それをやったのには 理由があり

そして これはほとんどの皆さんは  
ご存じないのですが  
8月末の同じ頃  
匿名の投資家グループが  
2007年9月21日以前に  
株式市場が50%暴落することに  
20億ドル投資していたのです

もし賭けが成功すれば  
45億ドルを得るという投資でした  
これはいわゆる  
プットオプション(売り付け選択権)  
というものです

株式市場の内部関係者は  
その投資を  
「ビン・ラディン・トレード」  
と呼んでいます  
それが9月11日頃に起こっていたからだ  
と言います

さて その投資家たちはそれが起こらなかったので  
賭けに失敗しました  
計画は失敗したのです  
株式市場は暴落しませんでした

爆撃機はそれ以上遠くへは行かず..  
皆知るように  
それは第三次世界大戦の始まりとして  
計画されていたのです  
でもそうはなりませんでした  
ですよ

何分か前に聞いたと思いますが  
私はヘンリー・ディーコンが  
2008年に対中国の戦争が始まる予定がある  
と説明していた と言いました  
それは起こりませんでした  
多くの人が そんなの気がい沙汰だ  
と思いましたし  
彼が気が変になっている と思いました

恐らく彼は  
本当の計画を聞いたのでしょう  
でもスケジュールから 2年遅れになっていて  
恐らくこれはまったく起こらないのでしょう  
他にも、恐らく計画されていたのだろうが  
起こらなかった  
ということはたくさんあります

いわゆる メキシコインフルエンザとも呼ばれる

豚インフルエンザの勃発について考えるのは  
非常に興味深いことです  
過去6～9ヶ月間  
私たちはシナリオを見てきました

そこではまるで 彼らが多量のワクチンを  
展開させたがっているようにも  
多くの人に 病気にかかってほしいようにも  
世界的流行病(パンデミック)を  
宣言したがっているようにも見えました  
今でさえ このパンデミック宣言を  
さらに2年間  
延長しようと言う提案がされているのです  
何も起こっていませんが

イギリスでは 私たちはこれを  
「ティーカップの中の嵐」(内輪もめ)と言います  
実際は何も起こっていませんが  
恐らく何かが  
計画されていたのでしよう

さて もしそう計画されていたのであれば  
全てが  
人々がどう反応しどう行動を起こすか  
どれくらいの速さで広がるのか  
ワクチンの効果はどうかなど  
ある種の試みだったかも知れません

そして もちろん我々プロジェクト・キャメロットと  
世界中の多くの活動家たちは ずっと  
このことに  
人々の注目を集めようとしてきており  
いまや私たちは全員  
データベースに載っていますから  
彼らは  
誰が立ち上がって  
こういったこと全部を話し始めるか



わかっているわけです  
ですから これは  
もしかしたら実験なのかも知れないし  
あるいは何かを展開しようとして  
失敗したのかも知れません

ものごとが変わりつつあると  
信じることができる理由は 数多くあります  
これは重要なことです

デイビッド・アイクの活動を追ってきている人々  
これはここでは重要な視点です

というのも  
彼が素晴らしいプレゼンテーションをし  
開口一番「我々は無限の意識である」と言う限り  
我々は彼の仕事を  
完全に支援しているからです  
表現の仕方はいろいろありますが  
これに同意しないのは  
非常に難しいことです

私たちは ずいぶん前に  
自分たちの力について忘れてしまった  
神のような不死の存在なのです  
意識の可能性は  
途方もないものです

この全体像の中で  
私たちが  
どれほど力を持った存在であるか  
に気づくことは  
非常に重要で  
それは  
この窮地から私たちを救うことができる  
唯一最も重要な要素であるかも知れません  
これこそが

ことの全てなのではないか　と思います

ジョージ・フーパー提督は  
1998年に亡くなっていますが  
彼は　米海軍の海軍諜報部に  
勤務していました

その彼が　研究者でUFOマガジンという雑誌の  
編集者であるビル・バーンズに語り  
そしてビル・バーンズはその会話のことを  
コースト・トゥ・コーストというラジオ番組の  
ジョージ・ナーリーに話しているのですが…

ジョージ・フーパー提督が  
ビル・バーンズに話したのは  
米海軍が発見してしまったという  
「最大の秘密」のことですが  
これは本当に非常に興味深い話です

二人は  
ロズウェルに降り立った人々について話し  
ジョージ・フーパー提督によれば  
この人々は未来からやって来た我々だった  
と述べたのです  
彼らはタイムトラベラー(時間旅行者)だったと  
異星人ではなかったと

さて　他の研究者や内部告発者も  
同じことを話しており  
これ自体とても魅力的なことです

しかしジョージ・フーパー提督が  
「最大の秘密」と言った本当のことは…  
これらのタイムトラベラーの  
能力と意識の力  
についてでした

彼らが

未来からやって来た我々 であったために

陸軍の権力者たちは

本当は人間にどんな力が備わっているか

ということが わかってしまったわけです

bill 4

→<http://www.youtube.com/watch?v=BZ5tMYg27IU&lis..>

本当は人間にどんな力が備わっているか  
ということが わかってしまったわけです  
そして彼は ことごとがしっかり隠蔽された  
と言いました

もし私たちが  
自分たちが どんなに強力な力を持ち  
そして持ちうるか について知れば  
彼のことばによれば  
大混乱を引き起こすだろう  
ということで  
これは決して口外を  
許可されなかったのです

私たちは 自分たちが望むように  
現実を置き換えることができ  
ある意味 これは本当のことですが  
未来の人間は  
その方法を学んでいたわけで

それが 例えばタイムトラベルのような  
信じられないような種類の能力を  
利用可能にしているわけです

フィリップ・コルソ大佐は  
彼の著書「ロズウェル後の時代」に  
いくつかの詳細を書いています  
彼が理解したところによると

その宇宙船はパイロット自身の  
意識の増幅によって  
動くようになっているようだった  
ということです  
彼らの意識の力です

宇宙船によって増幅されるのは  
彼らが  
移動し2箇所に存在する能力  
だったのであり  
これらの能力は元々  
彼ら自身の意識の力に  
結びついた能力だったのです

そしてもし 彼らが私たちであるなら…

我々は故意に  
馬鹿になるようにされているのです

我々の食べ物には  
有害なものが入れています  
子供たちは学校で  
嘘を教えられています  
我々はメディアの宣伝活動で  
頭が一杯にされています

我々はこの小さな小さな箱に  
無理やり詰め込まれているのです  
また毎日クイズや 野球番組で  
忙しくさせられています

そして我々は  
この星の我々の本当の伝統を  
見つけるのを 妨げられているのです

エーリッヒ・フォン・デニケンは  
ついこの間  
「歴史は間違っている」  
という本を出版しました  
我々が否定されてきたことは  
数多くあるのです

ジョージ・グリーンは

我々が「食べるだけの役立たず」として  
知られている  
と言っており

この何十億もの「余剰人口」と共にいる  
わずかばかりの人々が  
我々がお互いを監視し  
あざけり合い  
本来 自分たちがどんな存在であるべきかを  
同じ見方をするよう  
仕向けられることで  
一線を越えないようにさせ  
その頂点に君臨しているのだ  
と言っています

ということで  
このような拘束衣があり  
壊して脱ぎ捨てるチャンスが  
私たちにはあるわけですが  
この拘束衣を故意に導入したのが  
今回の計画を練っているのと  
まさに同じ人々だということなのです

この計画がどこに由来しているのか  
推測するのは非常に興味深いことです  
我々の証言者いわく  
これはかなり前に設定されたことだと言います  
彼が初めて アングロサクソン・ミッション  
について聞いたのは1996年かそれくらいだそうです

「新しき日の夜明け」を  
イルミナティが象徴化しているのは  
かなり前からです

多くの人が  
この計画には  
まさに 超人的レベルの高度な知能と

戦略的理解、そしてその理論が示すように  
本当に非常で冷酷であることが  
必要だと考えています

そしてデイビッド・アイクも  
ジョーダン・マックスウェルも  
私たち自身も  
この考えにすっかり同意します

つまりこれは 人類の中から出てきたものではない  
ということです

人間は他の人たちに対して  
ここまでやることはできません  
この背後には  
何か他のものが存在しているのです

私たちは 大きく考えなくてはなりません  
私たち人間が戦わされなくて すむように  
私たちのできる限り最高のスピリチュアル的見地に  
立って考えなくてはなりません

まずしなくてはならないのは  
私たちがされてきていることから  
そして 私たちがその一部になっている この計画から  
ただ 同意を取り消すことです

そして さっき私が言ったように  
もしあなたが 軍や諜報局などにいるのなら  
この計画の同意を取り消すことです  
この同意がなくては  
こういった計画は起こりえないからです

イルミナティも何か変な感じで  
その展開の仕方が非常に限定的です  
彼らはフォーエス(訳注：エネルギー)を使っており  
進退きわまっています

彼らは 私が知っている人たちが皆  
世界中で非常に大きな意識の拡大  
つまり大規模な目覚めが起こってきている  
と認識したり言及したりしていることに  
反撃しようとしているのですが

私たちは毎日  
とくにとても若い人たちからメールをもらい  
その人たちはこんなことを言っています  
「私は世界で何が起きているのか  
本当にわかってきました  
何をしたらよいか教えてください  
でも準備はできているんですよ  
何かをする準備が  
何かはわからないけれど  
自分がここにやってきたことをする  
準備ができています  
それが何かはまだわかりませんが  
自分たちが  
大きな問題を抱えていることは  
わかりますから」  
20年前には  
人はこんなことは言っていませんでした

なんらかの意識の拡大が  
とてつもない大きさで  
始まっているのです  
すごい勢いでそれは  
形の変化となっていており  
何かが変わってきています

私は個人的に  
これが確実にサポートされている  
と信じています  
確実にサポートされています  
言ってみればこんな感じでしょうか  
つまり こういった計画のことを知っている



好意的な人間以外の存在の仲介によってです

彼らはそれが起こるかどうかは  
わからないのですが  
それが計画されている  
ということは知っているのです  
多くのコンタクティ(訳注：宇宙人からの接触を受けている人)  
がいるのです  
いくらかのチャネリングによる情報があります

チャネリング情報については  
非常に注意深く扱わなくてはなりません  
とにかく チャネリングによる情報があり  
コンタクティの報告があるのですが  
みな このようなシナリオについて話し  
私たちが用心深くあるべきであること  
注意深くあるべきこと  
警戒すべきこと  
防衛手段を取るべきこと  
こういったことに用意をすべきことについて話します

もちろん このような意識の高まりが  
この暴力的で強制的な計画に  
直接的に反応することも  
十分可能です

まあこれは  
これまでの自分のプレゼンテーションで  
私がたびたび言ってきたように  
悪の勢力と 意識の気づきの勢力を  
何らかの最終対決へと 準備させるように  
全てをクライマックスに向けて準備していくという感じで  
ちょっと映画の脚本にも似ていますね

さて 私はここで聖書風にしようとしているではありませんし  
ここで説明してきたことが  
ちょっとアルマゲドンの戦い

のような感じなのもわかっています  
でも 前から何度も言っているように  
こういったことが起こるとは信じていません

私がフリーダム・セントラルと行ったインタビューがあり  
こらはキャメロットのサイトで  
見られるようになりますが  
そこで私はこのように言っています

解決しなくてはならない問題はたくさんありますが  
私が 自分たちはもうどうにもならないとか  
絶望的だとか 何か本当に悪いことが起こるとか  
そういったことを信じていない  
たったひとつの強力な理由は

もしそういうことなら  
私もこれを今見ているあなたも  
ここにはいなかったら  
他の星に転生していただろう  
他のどこかに行っていたら  
ということです

私は逃げる場所もないまま  
戦いを目の前にして  
見物をしているつもりはありません  
ここでやるべき仕事があるのです  
そしてこれを見ている多くの人が  
やるべき仕事があるからここにいるんだ  
ということに気づくでしょう  
ドロレス・キャノンがいうボランティアですね

恐らく私たちは理由があって  
ここにいるのでしょう  
私たちは この意識の高まりの  
引き金となって助けるべく  
ここにいるのかも知れません  
それがこういった計画が起こるのを

阻むことになるからです

もし私たちが こういったことが  
私たちが望む未来だと言うことに同意しなければ  
それは私たちが経験することには  
ならないからです  
私たち全員が  
その中の一部分を担っており  
こういった計画に気づくことこそが  
それらが起こるのを防ぐやり方だと  
深く深く信じているのです

予言(prediction)と預言(prophecy)と違います  
これらは英語で皆が  
混同しやすいことばです

予言と予測は そうか  
データによって倫理的に判断を下すと  
3ヶ月後にはこういうことが起こるんだな ということです  
これが予言と予測の全てです

預言者のすることはこれとは違います  
預言は時として誤用・悪用されることがあり  
誤解をされることもあるので  
取り扱いを慎重にしなければなりません  
そして聖書の表現のようなものでもあり  
そのような理由から  
預言に反発する人たちもいます

しかし預言者が常に言ってきたことは  
`聞きなさい もし私たちが目覚めずに  
行動を起こさなければ  
このようなことが起こりますよ` ということです

そして預言者が  
このような預言的警告を与える目的は  
それが起こる と言って人に警告を与えるのではなく

こう言うためです 聞きなさい  
今ここで変えるべきことがあります  
やり方を変える必要があるのです  
自分のあり方を変える必要があるのです  
人との関わりを変える必要があるのです  
自分の態度をすっかり変える必要があるのです

あなたが変わることが何であろうと  
変えることの目的は そうすれば  
その予言的できごとは起こりませんよ  
ということです

ということで  
ここにあるのは一種の預言です  
予言ではありません  
ですから私はこのことばを  
非常に非常に注意深く扱っています

私がこのプレゼンテーションをする理由  
そしてこの情報を流す理由は  
これが起こらないことを  
確認するためです

では私たちは  
この情報をどうするのでしょうか？

これはできる限り多くの言語に訳されていきます  
このビデオは中国語、アラビア語、ロシア語、スペイン語、  
その他の主な言語で 字幕が付けられます  
私は この情報を中国人に見てほしいです  
この情報が一線を越えるところまで  
発展して行ってほしいです

中国人は自分たちについてのビデオについて  
特に中国語で字幕の付いているものについて  
とても過敏になっています  
これは中国の諜報機関や

軍の司令官たちに  
報告されることになるでしょう

そうなってほしい理由は

bill 5

→<http://www.youtube.com/watch?v=q7ITBvOQ5JM&fea..>

【速報】BRICS銀行設立、新金融システム始動へー先進国(白人クラブ)の支配が終わり、日本が世界を平和に導くだろう

---

(2012/4/2 『News U.S.』より)

【BRICS銀行設立、新金融システム始動へー先進国(白人クラブ)の支配が終わり、日本が世界を平和に導くだろう】

既に多くのブログやサイトで言及されていますが、ついに「新しい金融システム」の全貌が表に出つつありますので、ここで一旦振り返ってみましょう。

- 国際決済にドルを使わない
- アジア、アフリカ、ラテン・アメリカなどにおける貧困国にも融資
- 貧困国のインフラ整備や食糧問題の解決、生活水準の向上を目指す
- 欧米諸国が望まないプロジェクトにも積極的に投資
- 日本が経済企画庁を設立すれば、世界がついてくる

ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカをまとめるBRICSは、世界金融市場において、自らのゲームのルールで活動するつもりだ。

BRICS諸国はIMF(世界通貨基金)の改革テンポが遅いことに不満を表明している。

デリー・サミットの総括宣言では、BRICS諸国が今年中にもIMFにおける議決権について、さらに多くの割当を受けることが出来るよう要求している。

BRICS 自らのゲームのルールに従って

「世界銀行とIMFは、先進国が覇権を握っていた時代に作られたもの」

「欧州にはすでに資金はありませんし、米国はすでに債務にまみれています」

「BRICS諸国は資金を有しており、また欧米諸国が望まないプロジェクトの実現を目指す」

金融アナリスト ナタリヤ・スミルノワ

「欧州にはすでに資金はありませんし、米国はすでに債務にまみれています」

「欧州にはすでに資金はありませんし、米国はすでに債務にまみれています」

「欧州にはすでに資金はありませんし、米国はすでに債務にまみれています」

フギャ—————m9(^Д^)—————!!!!!!

メウマ—————、(^Д^)/—————!!!!!!

BRICSがなぜ強気に出れるのか？

●欧米のゴミューロ、クズドルに比べて、アジアはリアルマネー、世界の富の70%を保有しているからです。

●そして、その方針は白人のような自己中心的なものとは異なり、世界人類のために使う事を公言しているからです。

●先住民との約束を1つも守らなかった白人とは、信頼度が桁違いです。

世界銀行やIMFによる投資は、途上国民のためのものではありませんでした。

発展途上国に白人のオアシスを作るための、欧米企業への投資です。

その借金を国民が背負うだけの、不条理な仕組みだったのです。

BRICS諸国で、この理不尽な仕組みに対抗しようとしています。

これを受け、欧米や日本のメディアは

「BRICSが生意気にも先進国に対抗し始めた!」

「中国がBRICSを支配する!中国は怖い!」

「世界銀行や国連に消極的なBRICSは分断している!」

「BRICS銀行の話は思ったほど進んでいない!」

と、重箱の隅をつつくような攻撃を始めました。

相変わらずの糞っぷりに反吐が出ます。

会議で合意された「BRICS銀行」の設立へ向けた準備は、期待されたほどの成果はみられなかった。

「BRICSで最も強い経済力を持つのは中国だ。」

ブラジル、ロシア、インド、南アフリカにそれほどの資本はない。

世界銀行やアジア開発銀行のような組織を作るのは時期尚早だ」

BRICSは「団結」より「分断」が目立っている。

世銀の次期総裁には統一候補を立てることができず、インドやブラジルの国連安保理常任理事国入りにも中国は首を縦に振っていない。

(中国の「BRICS支配」 インドで警戒の声 MSN産経ニュース)より

(BRICS、IMF改革や金融政策で先進国批判 | 世界経済展望 | Reuters)より

本当に、テレビや新聞を見ていると馬鹿になりそうです。

今すぐ破壊し、燃やしてしましましょう。

「先進国の金融政策は、貿易面で先進国に多大な優位性をもたらし、その他の国にとって不当な障害になっている」

ブラジル ルセフ大統領

そもそも「先進国」とは何か？

なぜ、欧米や日本が先進国で、他の国が発展途上国なのか？

先進国の定義は曖昧である。

先進国になる明確な基準がないため、国際機関によっても異なるが、国際社会では「先進国クラブ」とも呼ばれている経済協力開発機構(OECD)加盟国を先進国として扱う傾向にある。

経済協力開発機構は、ヨーロッパ、北米等の先進国によって、国際経済全般について協議することを目的とした国際機関。

本部はパリに置かれ、公用語は英語とフランス語。「先進国クラブ」とも呼ばれる。

(先進国 - Wikipedia、経済協力開発機構 - Wikipedia)より

先進国クラブ。

またの名を「欧米クラブ」「白人クラブ」



先進国とは白人が勝手に決め、勝手に自分達の都合良い経済政策を、世界に押し付けるための自分勝手な枠組みだったのです。

ここに日本人が入れてもらったおかげで、日本が発展できたのです。  
白人クラブのさじ加減では、フィリピンのような状態になってもおかしくなかった。  
このことを日本人はよく肝に銘じる必要があります。

既に新しい金融システムは動いているようです。  
日本は、ここに後から参加させてもらう立場です。

BRICS が、新しい金融システムを構築中というのは本当だ。  
134ヶ国がこの計画を支持し、他に、54ヶ国(英連邦)も、それと同調する計画を持っている。  
障害は、アメリカ、ドイツ、日本、フランス、イタリア、およびその奴隷となっている国々の政府である。  
だが、日本政府は近々、支持を表明するだろう。  
日本政府は、原則的に、既にその前触れとして、10兆ドル（1,000兆円）の予算で、新しい国際経済企画庁を日本に創設するという計画を支持している。  
この組織は、砂漠を緑化したり、海を再び魚で満たすというような大規模な開発計画を実施する。  
既存の政府や開発団体のプランと、対立したり矛盾するものではなく、協調して活動する。  
これまでの経済システムを支配している5ヶ国と、それらの国を支配しているファミリーたちの間で、ただ今、移行について交渉中だ。  
うまく行けば、近々、合意に至るだろう。

(BRICS銀行と、新しい金融システム)より

日本は白人クラブの腐敗幹部とは違います。

今のトップは腐っていたとしても、欧米と日本は根本的に異なります。

太平洋戦争でアジア諸国に授けた恩恵を、世界中の人が覚えています。

「我々を白人支配から救い出してくれたのは日本だった。  
我々は大戦終盤に日本を見限ったが、その恩は忘れない」

「日本ほどアジアに貢献した国はいない。  
日本ほど誤解を受けている国はいない」  
「真の独立記念日は1948年1月4日ではない。  
1943年8月3日だ。  
独立の真の理解者は東條大将と日本だった」  
ビルマ連邦首相 バ・モウ

「日本が謝罪をする必要性を我々は感じていない。  
それ故、インドはサンフランシスコ講和会議には参加しない。  
講和条約にも調印しない」  
インド連合首相 ジャワハルラール・ネルー

「日本のおかげでアジアは独立できた。  
日本というお母さんは、母体を壊してまでも『アジア諸国』という子供を生んでくれた」  
「今日、東南アジアの諸国民が米英と対等に話ができるのは、いったい誰のおかげであるのか。  
それは、身を挺して仁をなした日本というお母さんがいたからである」  
「我々は12月8日(太平洋戦争開戦日)を忘れてはならない」  
タイ王国首相 ククリット・プラモート

「あの戦争は我々の戦争であり、我々がやらなければならなかった。  
それなのに全て日本に背負わせ、日本を壊滅寸前まで追い込んでしまった。  
申し訳ない。」  
「我々アジア・アフリカの有色民族は、ヨーロッパ人に対して何度となく独立戦争を試みたが全部失敗した。  
インドネシアの場合は350年間も失敗が続いた」  
「それなのに、日本軍が米・英・蘭・仏を我々の目の前で、徹底的に打ちのめしてくれた」  
「我々は白人の弱体と醜態ぶりを見て、アジア人全部が自信を持ち、独立は近いと知った。  
一度もった自信は決して崩壊しない」  
インドネシア首相 ブン・トモ

「欧米諸国は、日本が侵略戦争を行ったということを歴史にとどめることによって、自分らのアジア侵略の正当性を誇示すると同時に、日本の17年間の一切を、罪悪と烙印することが目的であったに違いない」

「私は1928年から1945年までの17年間の歴史を2年7カ月かけて調べた。

この中には、おそらく日本人の知らなかった問題もある。

それを、私は判決文のなかに綴った。

その私の歴史を読めば、欧米こそ憎むべきアジア侵略の張本人であることがわかるはずだ。」

「それなのに、あなたがたは自分等の子弟に "日本は犯罪を犯した" "日本は侵略の暴挙をした" と教えている」

「満州事変から大東亜戦争にいたる真実の歴史を、どうか私の判決文を通して十分研究していただきたい」

「日本の子弟がゆがめられた罪悪感を背負って卑屈、荒廃に流されて行くのを私は平然として見過ごすわけにはゆかない。彼らの宣伝を払拭せよ」

「誤った歴史は、書き換えなければならない」

インド極東国際軍事裁判判事 ラダ・ピノート・パール

「日本が立派にやり遂げたことは欧米の植民地帝国を完全に破壊したことである」

中華民国顧問 ラティモア

「なぜ、日本が謝るのでしょうか？」

あの戦争でマレーシア人と同じ小さな体の日本人が大きな体のイギリス人を追っ払ってくれたではないですか？」

「日本なくして東南アジアの独立はありませんでした」

「この日本の尊い犠牲を否定することは、バックミラーばかり見ているようなものです」

マレーシア外相 G・シャフエー

「大東亜戦争というものは、本来なら私達インドネシア人が独立のために戦うべき戦争だったと思います」

「もしあのとき私達に軍事力があつたなら、私達が植民地主義者と戦ったでしょう。

大東亜戦争とは、そういう戦いだったのです。」

インドネシア共和国首相 モハマッド・ナチール

「インドの独立は日本のおかげで30年早まった。

この恩を忘れてはならない」

インド弁護士会会長 G・デザイ

「日本の戦いは8月15日に終わった。

我々の戦いは8月17日に始まった」

「オランダは独立の腹いせに、多額の債務をインドネシアに要求した。  
これを、戦時賠償の形で肩代わりしたのが日本であった」  
インドネシア独立の父 M・ハッタ

「日本の統治は過酷なものだった。  
しかし、日本軍により欧米のアジア支配は粉碎された。  
これはアジアに自信を与えた」  
「大戦後15年以内に、アジアの植民地は全て解放された」  
シンガポール共和国首相 ゴー・チョクトン

アジア人にとっての太平洋戦争～アジアには日本がいた。  
アラブには日本がいなかった  
ここが可笑しい日本人よ！  
～頑張れ日本

朝鮮半島を中国の手から引き離し、独立させてあげたのも日本です。

悲しい事に、当の日本人ほど捏造されたプロパガンダを信じ込んでいるようですが。  
(これは中韓も同様です)  
日中朝韓の国民だけが、間違っただけの歴史を叩きこまれているのです。

日本が経済企画庁を立ち上げれば、世界がついてくるというのは、そういった背景から来る信頼性の高さであると思っています。

日本は立派なキャリアウーマンのようです。  
だらしない欧米ヒモ男に借金漬けにされていただけです。  
情が残っていても敢えて突き放し、別れを告げるべきなのです。  
「あなたのことは好きだし、あなたのおかげで成長できた。  
でも、今は別れるべきだと思う。  
その方がお互いのためだから」  
とでも言ってやればいいのです。

欧米のルールに従って、財政破綻を起こす必要はもうありません。

欧米のカス共に貢いだ実物資産をすべて返してもらえれば、日本はもう破綻しません。

欧米の資産は盗んだもの、日本の資産は働いて稼いだものです。全然違います。

そのカギを現在の日本政府が握っているというのが、唯一の不安要素ですが。

財政破綻の危機は少し前よりもだいぶ薄れました。

危ない所でしたが、欧米の支配者が次々と逮捕されているので、

以前ほど危機を心配する必要もなくなりつつあります。

日本人が日本についてもっと正しく学び、認識を改めて

日本人であることに誇りを持てる日が来るように。

世界を平和に導くのは、日本人であると。

「資本主義は、花火のように爆発する」

「光は極東の日本から」

経済学者 ラビ・バトラ

「"闇"を打ち払う光のネットワークは日本から起こる」

ベンジャミン・フルフォード

(2012/4/2 『News U.S.』より)

## 『ダイアナ妃が△サタニスト(悪魔崇拝主義者)に事故を装って暗殺された本当の理由は!?!』

---

カトリック教の方にはショックかもしれませんが、ローマ法王は...

実は△NIMRODの悲願である『世界統一政府』を目指す、闇の世界支配者層イルミナティのトップに君臨しています...!!

裏で実際にやっていることは悪魔教です...!!

オカルトです...!!

ルシファー(サタン)信仰なのです...!!

そして何と、英国王室も絡んでいるらしいのです...!!

ヨーロッパの王室も、グローバルエリートも軍需産業トップ、ネオコンもなのです...!!

このような、世界の支配者であるサタニスト(悪魔崇拝主義者)どもの顔をよく見ると、みな、気持ち悪い顔をしています...!!

身の毛がよだつ顔で、まさに悪魔に取りつかれている感じです...!!

ほんの一部ですが、みな、目つきが怖い...!!

まるで、ヘビやトカゲに似ている...!?

(エキサイト翻訳)

【上層部中のぞくぞくする人々】

by ゼン・ガードナー

Sheesh。

それは超現実的ですね?

私たちの圧制者の顔および表現および奇妙な目をただ見てください。

それはどのように世界ですか、自分の目がこれらの胸の悪くなるようなヘビの口から出て来る言葉をまだ信じると信じることができない?

この証拠は、ほとんどの世界が期間の下にあるということではありませんか?

それはそうです、でなければなりません。

私は強調するつもりではありません、否定、しかし、それはそうです、のように「C'mon人々は元気を出します!

それらが実際にであるものについてはこれらの人々を参照して、任意の方法、形あるいは形式で

それらに従うことをやめてください!

それらは、地球とその人々の生命血液エネルギーを頼りに生きる寄生する捕食動物です。  
それらは悪く(だけ)残忍な意図を持っており、位置し、盗み、欺き、最も少しのめまいなしで殺すでしょう。

また、そのため、私たちは、私たちがこれらの実体が一単位で行う恐怖および残虐行為を働くことをさらに想像しないであろうのがso...becauseかもしれないと信じることはできません。  
しかし、それらは行います、また私たちが重い規模で起きなければ、そうし続けるでしょう。

それらはライフのすべての徐行から来ます

力を渴望するものはそれを得るべきではありません。  
しかし、私たちは沈黙を守ります。  
それは意味をなしません。  
それらは、最新の残忍な一時の流行の名のもとに略奪し略奪する、所有されたイグアナのように歴史の景観に関して徐行し行き、それをまだ逃れます。

人間性はいつ起きるでしょうか?

この短いギャラリーは単に私たちの顔の中の弊害の注意です、だけでなく、人間性に直面して私たちの会社だが規則で自由に歩きます。

それは相反します。

核心へのVisciousな毒蛇。

しかし、汝のものの目が有害な場合、汝の全身は暗さでいっぱいのものであります。  
したがって、汝ににある光が暗さである場合、何て大きな[である]その暗さ!

詐欺師フリーメーソン・ロバート・シェラー。  
中古車、または死骸を必要としますか?  
ぞくぞくします。

Oooops。  
私の弊害は示しています。  
しかし、私はbloodlinerです。  
あなたであるどんなタイプ、へつらいを言う?...

NATO事務局長アンダーズFoghラスムッセン。  
私たちはしっかりした精神病質の保護、人々の下にいます。

この絵にとって悪いこと。  
悪魔主義者支配(ヘイ)!

「私は単に平和を望みます。  
私を信じてください。さもないと、私はあなたの骨格boy..."を壊します。」

つまり、「バーজন」は商標です?  
彼の写真の探索を行ってください..暗さで衝撃を受けるでしょう。

彼は、10億以上が彼がそうであるとする回転call...surrealを常に作ります、キリストの教区牧師。  
HS!また、それは神聖な精神ではありません。

ADLのエイブFoxman、表示、彼は、どのように骨格から肉を得ますか。

生活のための捕食動物。

アメリカの・インストールされた操り人形独裁者怪物「故殺」ムガベ。

話されない恐怖。

ありがとう、CIA。

ブタの湾からの脱走者。

これらの豚が振る権力と、どんな知的生命体形式もそれらを許容するだろうと思うのは難しい。

しかし、彼は、新しい世界芳香をスプレーする地球を跳ね回らせます。

スカンク・エリート尊重者。

楽しみのためのBTW...justおよび有名人はぞくぞくするtoo....theirです、自分自身のもの、特別のway...here's、迅速なsample...

「ポップのキング」を見てください。

少なくとも、彼は多少起きました...、その後、それらは彼を死にました。

私たちは司祭長「マドンナ」で終わるでしょう。

逸脱して明示的なセクシュアリティ、そして公然と不可思議、しかし、魂の彼女の暗さは主流Superbowlでフル回転の魔王の出来事で賞賛されます。

私たちがインチを実践する暗い時。

あなたが知っているように、多量がもっとあります。

これらの異常は、それらの様相、アクションおよびそれらの言葉の中でおのずから明らかです。

驚くべきことは、世界がどのようにこの醜さを見るかです、そして、それを許すだけでなく呑み込みます、そして崇拜、それは、ちょうどマスメディアによって知覚を計画しました。

人々はいつ地獄を起こすつもりですか？

それすべてに近寄らせてください。

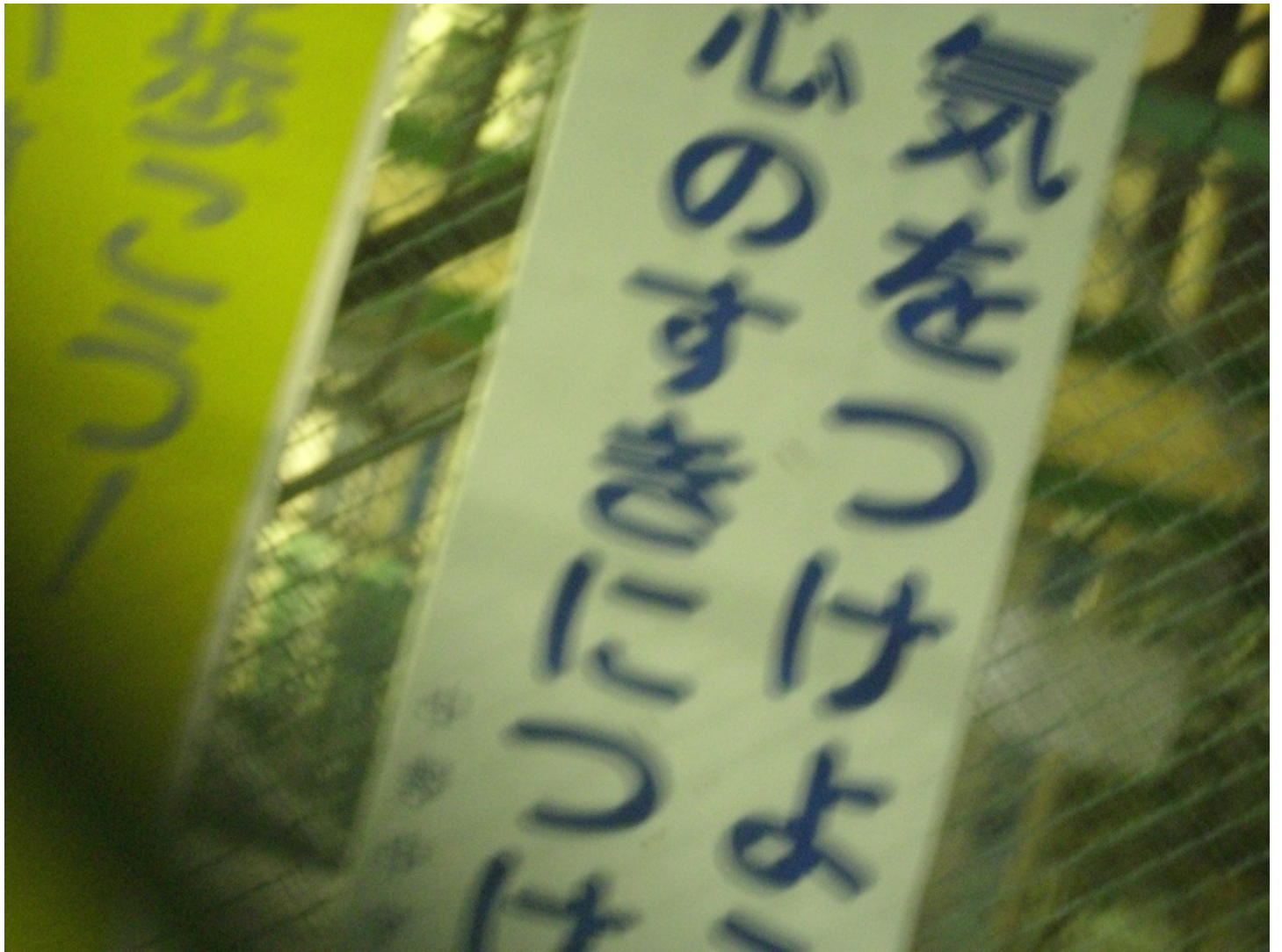
しかし、それに直面している場合、それを露出してください！

愛、禅

(『ZenGardner.com』より)

→<http://zen-haven.dk/creepy-people-in-high-places/>





さらに、あのダイアナ妃の自動車による死亡事故は...

実は、暗殺だったのではないかという説があるのです...!?

チャールズ皇太子と離婚した彼女が...

英国王室の絶対に知られてはならない秘密を、外部に漏らすのを恐れ....

口封じを企てられたのではないかというのです...!?

果たして...

英国王室の絶対に知られてはならない秘密とは...!?

『ダイアナ妃が△サタニスト(悪魔崇拜主義者)に事故を装って暗殺された本当の理由は!?!』

爬虫類人レプティリアンは人類を支配していた

→<http://www.youtube.com/watch?v=pNH5oQaJYtM>

## 威風堂々[49] 『地球を乗っ取ろうとするNIMRODの頂点、「サタン王」は誰だ!?!』

---

～アングロ・サクソンは、もともと悪魔崇拝者たちであり、  
△NIMRODの邪教からなる悪魔崇拝の儀式は、アングロ・サクソンの冬の12月の祭の一部として  
執り行われていたのである～

あなたが信じようが信じまいが…、

私たちの住むこの地球は…、

ある血の繋がりで結ばれた悪魔崇拝者、ほんの一握りの△NIMRO一族によって…、

何世紀にも渡って、乗っ取り計画が進められており…、

間もなく、完全支配が終了する筈だった…!?

その筋では有名な、ビル・ライアン氏が語った『アングロサクソン・ミッション』によれば、今年2012年はその総仕上げの年でした…!!

悪魔崇拝者たちはハルマゲドン、つまり核戦争を引き起こし、厳戒態勢を敷き、細菌兵器をバラ撒き、有色人種を抹殺する策略だった…!?

世界の大多数の人々を削減、現世界を「終わり」にするつもりだった…!?

やがて次の世界で主導権を握り、『世界統一政府』というワンワールド、『全世界バビロニア帝国』の樹立を目論んでいたのです…!!

そんな背筋の寒くなる様な、残酷な計画が立てられるヤツらとは....

既にお伝えした通り....

『イルミナティの悪魔の13血流』と呼ばれる、アスター家、バンディー家、コリンズ家、デュボン家、フリーマン家、ケネディー家、李家、オナシス家、ロックフェラー家、ロスチャイルド家、ラッセル家、ファン・ダイン家と、ブッシュ家...!!

おぞましい悪魔の儀式を伝承しているヤツらこそが....

紀元前数千年前、人類史上最初に神に逆らった人物であり世界最古の都市国家バビロニアを創った「サタン王」ニムロドの末裔ではないのか...!?

その証拠に、かつてロスチャイルドは、自ら「ニムロド王の生まれ変わりである」と言っていたそうです...!!

しかも、『イルミナティの悪魔の13血流』は“白人種スーパーエリート”の血流(血統)を持つ一族で....

サタン性を有する(地球外生命体の)レプティリアン(爬虫類人)と地球人のハイブリッドの可能性がある...!?!?!?

ヤツらの遺伝子は、3重螺旋構造であるという驚愕の情報まで飛び交っているのです...!?!?!?

そして何と、イギリス王室、ベルギー王室、ドイツ王室をはじめとする貴族は何世紀も前からヤツらと血流の繋がり、つまり血縁関係となっており....

つまり、欧州の王族らも△NIMROD、悪魔崇拜主義者たちに乗ってられていた...!?

エリザベス女王の名前は、トカゲという意味だと云われており....

ごく最近の情報では、エリザベスの先祖に当たるヴィクター女王は何と、ロスチャイルドの隠し子だったというのです...!?

こうして考えてみると、今まで世間の人々が△NIMRODの連中の存在に気付かなかったのは....

ヤツらの地下活動が、常に欧州の王族らによって隠されていたからなのではないでしょうか...!?

【エリザベス女王は、ロスチャイルド王家(クラウン)の表向きの隠れ蓑】

By Alcuin Bramerton  
(for henrymakow.com)

オーストラリア、ニュージーランドとカナダが独立していないとか、主権国でないと断定することは、正しい。

しかしながら、これらの国々は自国の所有者でないけれど、英国によって経営されているというのは、シティー・オブ・ロンドン自治区の、ウィンザー・クラウン・テンプル・シンジケートが所有者であり、経営者であることだ。

クラウン・テンプル・シンジケートの筆頭署名者は、エリザベス・ウィンザー(イングランドのエリザベス2世女王)だ。

西欧世界で最も強力な金融シンジケートがヨーロッパのロスチャイルド家であることを忘れてはいけない。

ロスチャイルド家は、シティー・オブ・ロンドン自治区の内部における勢力基盤なので、ロンドン・クラウン・テンプル・シンジケートの会員をコントロールしている。

さらに、イタリアのP2フリーメーソン・ロッジにバチカンとマフィアを実行制御させている。

ロンドンの新しい英連立政権の財務も、ロスチャイルドの制御下である。

ここの直属の管理者は、ジェイコブ・ロスチャイルド>ナサニエル・ロスチャイルド(ロンドン・ロスチャイルド商会； N.M.Rothschild & Sons Limited, New Court, St Swithin's Lane, London EC4P 4DU)>オリバー・レットウィン [内閣府相当国務省；保守党] >ジョージ・オズボーン[英国の財務省、第二大蔵卿；保守党]であると理解されている。

エリザベス2世女王は、ロスチャイルド家の表向きの隠れみのである。

彼女は、地球で最大の土地所有者である。

彼女はイギリス、他の31の国と植民地の国家代表であり、66億エーカーの土地(地球の地表面積の6分の1)の合法的な所有者である。

女王が署名し、所持しているクラウン・テンプル・シンジケートの土地の価格を控え目に見積っても、£17.6兆(イギリス ポンド)ある。

女王のシンジケートの土地の所有財産は、彼女が所有する国の法律に基づき、彼女の土地所有権はそれらの各国々で有効である。

彼女の主な所有財産は、カナダ(地球で2番目に大きな国)で24億6,700万エーカー、オーストラリア(地球で7番目に大きな国)で、19億エーカー、パプアニューギニで114,000万エーカー、ニュージーランドで6,600万エーカー、英国で6,000万エーカーである。

エリザベス・ウィンザーとロンドンの彼女の秘密のシンジケートは、かなりの差をつけて世界最大の土地所有者である。

次に最大の土地所有者はロシア政府で42億1,900万エーカー全体にわたって所有しているのに、女王が所持する24億4,700万エーカーの土地は、直接所有に相当する。

3番目に大きな土地所有者は、中国政府で、中国の土地のすべての権利を要求したとしても、約23億6,500万エーカーである。

地球で4番目に大きな土地所有者は、アメリカ合衆国の連邦政府で7億6,000万エーカー(米国の陸地面積のおよそ3分の1)を所有しているとしばしば言われている。

しかし、このワシントンDC民間会社連邦資産(Federal Estate)は、実はロンドン・クラウン・テンプル・シンジケートに所有され、支配されている。

本当のところ、現在、古い家族の中国のシンジケートと協力してロンドン・シンジケートを保持し、47兆ドルで常設国際司法裁判所の強制執行令状、米国財務省の担保物件、米国連邦準備制度理事会を起動させている。

地球上で5人の最大級の「個人」土地所有者は、現在、イングランド(66億エーカー)のエリザベス2世女王、サウジアラビア(5億5,300万エーカー)のアブドラ王、タイ国(1億2,600万エーカー)のブミボン王、モロッコ(1億1,300万エーカー)のモハメッド6世、オマーン(7,600万エーカー)のスルタン・カブースである。

しかしながら実際は、これら名前を上げた個人は、隠れた家族の受託を経て団結して活動している古い血統シンジケートのまさに筆頭署名者である。

Letter:

ヘンリー、私は女王エリザベスがクラウンの本物の相続人でなく、彼女の実父がウィントン・チャーチルであることを大変よく知っているものです。

どのようにこれが起こったかは知らないけれど、しかし、これはイルミナティのクラウンの乗っ取りであり、すべての事に関係しています(どんなことでも)。

さらに、彼女の2人の息子エドワードとアンドリューは多分、どちらも夫の子どもではありません。  
プリンセス・マーガレットが本当の相続人であり、ジョージ6世の子どもでした。

ウィリアム皇太子はイルミナティで、彼がそのようなサインを指で示しているのを見られるでしょう。

私自身のことですが、私はアメリカ人 [削除された名前] です...しかし、その前の私は、私は庶出のイギリス人 [削除された名前] でした。  
(こういうことは、アダムとイブ、カインとアベルの物語のようです。)

【翻訳；タドン】

(2010/7/27 『ヘンリーメイコウのニューズレター』より)

まさか、信じたくはありませんが、エリザベス女王は、いや英国王室はロスチャイルドと一心  
同体...!?

世界一の土地の所有も、財産の保有も、実はロスチャイルド家が握っているとしたら...!?

地球を乗っ取ろうとしている△NIMROD....、

その中で最も影響力が強い頂点いわゆる首領、「サタン王」がいるとすれば....、

それはロスチャイルド家+英国王室である、と考えるのは当然と言えるでしょう...!!

どうやらこれで、黒幕の正体がハッキリしたようです...!!

あのダイアナ妃の自動車による死亡事故は、実は暗殺だったのではないかという説があるの  
ですが....、

チャールズ皇太子と離婚した彼女が、英国王室の絶対に知られてはならない秘密を外部に漏らす  
のを恐れ、口封じを企てられたのではないかというのです...!!

真相は定かではありません、しかし....、

欧州貴族、各国政府、キリスト教、金融システム、エネルギー、食料、科学、医療、教育、マス  
ゴミの各分野、その他あらゆる分野が△NIMRODの支配下に置かれ、悪魔崇拜主義者の餌食にな  
っており....、

あなたが信じようが信じまいが....、

私たちの住むこの地球は....、



ロスチャイルド家+英国王室を頂点とした悪魔崇拝者、ほんの一握りの△NIMRO一族によって…

、  
何世紀にも渡って、乗っ取り計画が進められており…、

間もなく、完全支配が終了する筈だったと言わざるを得ないのです…!!

さて、ロスチャイルドラ△NIMROの一族の、体内には…、

「サタン王」ニムロドの血が流れている…!?

果たしてヤツらは、本当にレプティリアン(爬虫類人)と地球人のハイブリッドなのか…!?!?!?

聖書には、ニムロド王が興したのが世界最古の都市国家、『バビロニア帝国』であるとされているのですが…、

そもそも『バビロニア』人とは、何かそんなに特別の人種なのでしょうか…??

幻のアトランティス大陸に住んでいた民族だという説もあるのですが…!?

調査を進めていくと…、

『バビロニア帝国』とは、世界四大文明のうちの一つである「メソポタミア文明」の流れの初期の時代にあったとされる国家であり…、

紀元前5,000年前に、忽然と誕生した…、

超文明的で謎の多い『シュメール帝国』の古名であるらしいのです…!?

## 【資料】 『謎のシュメール文明』

---

### 【謎のシュメール文明】

～神々からの贈り物か？ その起源と繁栄の謎～

紀元前5千年頃、後にメソポタミアと呼ばれるユーフラテス河の沿岸地帯に、ある農耕民族が住み着いた。

彼らの住み着いた土地は、耕作や放牧に適しており、近くの湿地帯では、魚と鳥が常に豊富に得られるという生活するには理想的な環境だった。

その農耕民族は、ウバイド人と呼ばれ、その後、千年以上もそこに住み着き、泥でレンガをつかって街や神殿をつくり、その後のメソポタミア文明の基礎をつくることになった民族である。彼らの有能で進取性に富んだ気性は、まもなく、この地を中近東で最も繁栄した地帯に押し上げていった。

ただ、彼らは、文字を持たなかったので、詳しい記録を残すことはなかった。

ところが、紀元前3,800年頃、どこからかシュメール人と呼ばれる民族がやって来ると、信じられない大変化が起こった。

文明の一大ブレークとも言うべき現象が起きたのである。

メソポタミアの地は、わずかの間に、前例のない大繁栄を記録した。

そして、空前とも言える政治権力が打ち立てられたのである。

それは、美術、建築、宗教は言うに及ばず、社会機構、日常の細かな慣習から楔形文字の発明に至るまで、それらは、すべて、彼らシュメール人の成せる画期的偉業であった。

世界最初と言われる船や車輪つき戦車なども、この頃、シュメール人によってつくられたのである。

この後も、彼らは、エリドゥ、ウル、ウルク、ラガシュと言った高度な都市国家を次々とつくり上げていった。

それらは、都市としては世界最古のもので、今日、我々は、この文明をメソポタミア文明と呼んでいる。

ウルの都市予想図、中央にジググラドが見える。

\*

これまで、シュメール人に関することがらは、全くと言っていいほど何も知られていなかった。しかし、20世紀になって、次々とシュメール人の都市国家が発掘されるにつれて、次第に彼らの社会や風習が明らかにされていった。

それにつれて、シュメール人の謎は一段と高まった。

イギリスの考古学者レオナード・ウーリーは、当時、彼らの首都であったウルを発掘したが、大量の金銀、おびただしい宝石類、恐ろしく精巧な装身具が次々と出土し話題となっている。

また、それと同時に、あらゆる分野におけるシュメール人の優れた業績が明るみにされていったがそれらは驚くべき内容だった。

それによると、彼らは、紀元前3800年前後に、優れた文化を携えて突然と登場したことがわかった。

高度な医学、法体系、慣習などがあり、彼らは、スズと銅を微妙な配分比率で混ぜ合わせて青銅をつくるという合金技術すらも知っていた。

医学では白内障での水晶体の混濁部分を除去すれば直るということやその手術方法も知っていた。

また、彼らの法体系は画期的なもので、労働者、失業者を保護する法律などがあり、裁判ですらに陪審員制度がとられていたのだ。

議会の二院制もしかり。

これらは、現代の法体系に生かされていることは周知の事実である。

シュメール人の都市は、神聖国家と言うべき社会だった。

その中心には、ジググラトと呼ばれる巨大な建造物が建てられていたことが知られている。

ジググラトというのは、階段式ピラミッドとも呼ばれ、その規模は、奥行き60メートル、幅45メートルほどの基底部分を3層に構築した巨大な聖塔のことである。

その地上20メートルの頂上には祀殿が建てられていた。

祀殿には、それぞれの都市の主神が祭られていた。

エリドゥでは、エンキ(地の神)、ウルクではアヌ(神々の父)とイナンナ(豊穡の女神)の2神、ウルの場合は、ナンナ(月の神)という具合にである。

ジググラドがエジプトのピラミッドと根本的に異なる点は、ピラミッドが王墓だったのに対してジググラドは主神をまつるためのものであった。

さらに、ウルの王墓を発掘してみると、殉葬が行われていたことが判明した。

その様子は、実に衝撃的な光景であった。

王の墓では、武装した兵士や家臣団が、隊列を組み戦車を従えたままの格好で、きちんと並んで死んでいたのである。

一方、王妃の墓では、多くの侍女が正装して、楽器を持った楽士たちとともに何の取り乱したふうもなく横たわっていた。

あたかも、彼らは隊列を組み、儀式用の衣装をまとい、頭飾りや見事な金銀の装身具をつけて、今まさにパレードでもするかのような華やかさで、そのまま土中に埋もれていたのである。

そこには、苦しんだり死を恐れた様子は微塵も見られない。

ウルの王墓では、自ら進んで毒杯をあおって死んだとしか思えないのである。

恐らく、数百人のお供、侍女、家臣団、多くの兵士が、きちんと列を成して一斉に毒をあおったに違いない。

まさに戦慄すべき死の儀式を想像してしまう。

来世の信仰がないと言われるメソポタミアで、なぜこのような形の殉葬が行われたのかは今もって謎である。

さらに、ウーリーは、かつて、この遺跡で大洪水が起こったと思われる痕跡も発見した。

それは、厚さ3メートルにもおよぶ粘度の層で、広範囲に広がっているものであった。

年代は、紀元前3,500年頃と推定され、これによって、ユーフラテス河一帯で大洪水が起き、周辺の都市が水没してしまい、水位が長期間引かなかった事実が明らかとなったのである。

この頃、つくられたギルガメッシュの叙事詩でも、大洪水の話が登場するが、これらの話が、作り話ではなく、実際に起きた過去の事実に基づくものであったことが証明されたのである。

恐らく、そのストーリーが脚色され、3千年後の旧約聖書に影響を与え、ノアの箱舟伝説となっていたのであろう。

この大洪水跡の発見は、ウーリー自身、かなりショッキングな発見だと見えて、興奮状態でロンドンに緊急電報を打っているほどだ。

シュメール人とはいかなる民族なのか、それも謎に包まれている。

シュメール人が、どういう民族で、どういう言葉をしゃべり、どこから来たのか？

一切わからないのである。

シュメール語にしても、周辺民族のそれと何ら類似性が見られないのである。

掘り出されたシュメール人を描いたと思われる像は、どれも目が異様に大きくあご髭をはやしているのが印象的だ。

もう一つ、彼らの出所を複雑怪奇にする理由は、シュメール文明の基になる文明の痕跡が見当たらないことである。

つまり、いくら、発掘を重ねても、それ以前の遺跡が見つからないことである。

どういう文明にも、その発端となる文明は存在するものである。

それが、シュメール文明に関しては、それが見当たらないのである。

何よりも不可解なのは、シュメール人が、使っていた暦だ。

それは、月の満ち欠けで、年月をはかる太陰暦と呼べるもので、世界最古の暦(こよみ)と言えるものだった。

彼らの用いた暦は、驚異的とも言える恐ろしく正確な暦で、日食、月食のタイミングを始め、様々な惑星の事細かな動きまで詳細に予想出来たのである。

さらに、信じられないことには、2万5,920年かかって地球の地軸が円を描くという歳差運動(さいさうどう)の周期すら知っていた!

メソポタミアの地に登場して、たかだか2千年ほどで、どうして、そのようなデータがわかったのだろうか？

記録によれば、シュメール人は、当時、すでに何百もの天文用語を使っていたことも判明している。

彼らがどのようにして、そのような高度な天文学を持つに至ったのかはわからない。

彼らは、世界最古とも言える60進法を基本とする数学を確立し、それに基づいて高度な暦をつくり上げたのである。

かくのごとく高度な天文知識に加えて、恐ろしく高度な彼らシュメール人の文明が、何を手本にし、また何に影響を受けたのかは不明である。

ただ言えることは、シュメール文明は、紀元前3,800千年ほど前に、奇跡と思える暦、高度な数学、複雑な社会機構や合金技術を持った状態でいきなり歴史に登場して来たということだ。

これは何を意味するのだろうか？

シュメール文明が、古代史最大の謎と言われている所以がここにあるのだ。

ウルは、その後、紀元前2,000年頃、セム族(現代のアラブ人の直系にあたる)のアムル人に征服され、以後、メソポタミア文明は、彼らアムル人によって受け継がれることになる。このように、シュメール人の首都ウルは、先史時代の5千年前に農耕民族が住み着いて以来、様々な民族の変遷を経て、5千年もの間、脈々と都市として生き続けた歴史をもっている。こうした例はメソポタミアでも類い稀な存在だ。

シュメールの偉大な文化を引き継いだアムル人は、まもなく、バビロン第一王朝をつくる。そして、「目には目を、歯には歯を」で有名なハムラビ法典をつくり出したが、その基になったのは、シュメール人の法体系なのであった。つまり、ハムラビ法典は、世界最古ではなく二番煎じなのである。

旧約聖書に出て来る「バベルの塔」も、その実体は高さ100メートルはあろう巨大なジググラドだと言われている。つまり、これもシュメール人の文化を受け継いだ代物なのである。

「ノアの箱舟」の話にしても、シュメールの神話「ギルガメッシュ」からの引用に他ならない。

このように、シュメール文明は、その後の世界文明のあり方に大きな影響をおよぼすことになった。

今日、我々が何気なく使っている1日が24時間で1時間が60分、1分が60秒という法則も、60進法を基本となすシュメールの高度な数学にあやかっているのである。

1ダースが12個や1フィートが12インチと言った単位もそうだし、星座占いに出て来る黄道12宮も、ギリシア神話に登場する12柱の神々の話も、そのルーツを探るとすべてシュメール文明に行き着くのである。

つまり、現代の生活は、メイド・イン・シュメールで成り立っていると言っても過言ではない。

シュメールの古文書には、これらの驚異的な天文学の知識、高度な医学、合金技術を「神々からの贈り物」という不思議な表現で記されている。

これは、どういう意味だろうか？

つまり、彼ら自身がつくり出したものでなくて、神々から与えられた既成の知識だということなのであるだろうか？

実際、彼らが登場してから衰退し、歴史上から姿を消す2千年ほどの間、テクノロジーがそれ以上発展することもなかったのも事実である。

これは、自分たちが独力で生み出した知識ではなく、何者かに与えられたからなのだろうか？

また、「混ぜ合わされた物」という表現で人間をあらわす言葉が出て来るが、異星人と原始人のような土着の生き物との間で遺伝子操作が行われたような記述にも思える。

そうすると、人間とは、異星人と未開人との間で人工授精を行ってつくり出された混血種ということになる。

こうした事実から、シュメール文明は、実は、異星人が持たらしめた文明で、人間自身も、異星人の遺伝子操作によってつくられた存在ではないかという想像性に富んだ仮説が考え出されることになったのである。

しかし、これらの仮説がただの想像力による作り話だと断定することは出来ない。

世界中に、大洪水の伝説が残っているのはどういうことだろうか？

また、シュメールの神話のみならず、エジプト、インド、チベット、エスキモーなどの神話の中に、揃いも揃って、火を吐く船の話や空を飛ぶ神々の話、すべてのものを焼き尽くすという凄まじい戦争の描写が出てくるのは全くの偶然なのだろうか？

神話の中には、事実に基づく鍵が隠されている場合がある。

つまり、それらは、古代に地球的規模で起きた一つの事実の証ではないかとも思われて来るのである。

シュメール文明が果たして、神々からの贈り物なのか？

失われたモザイクに決定的な証拠とも言える断片が見つかった時、この複雑難解なジグソーパズルは完成する。

(『古代の不思議』サイトより)

## 『△NIMRODの祖先はシュメール人か? 宇宙人か?』

---

戦慄の「アングロサクソン・ミッション」を遂行し…、

来るべき次の世界において「世界統一政府」樹立を悲願としている…、

悪魔崇拜主義者どもの頂点に君臨する、ある血流で結ばれた一族の…、

その頂点にいる者は…、

旧約聖書に出てくる、ルシファー(サタン王)こと…、

△NIMRODの生まれ変わりであると噂されています…!!

では…、

人類史上、最初に神に逆らった人物とされる△NIMRODは一体何者か…!?

バベルの塔を建て、古代バビロニア帝国を創ったとされていますが…、

伝説、いや創作である為なのか…、

もうこれ以上、詳しいことは掴めません…。

一方、バビロニアが誕生するよりさらに先に遡ると…、

何と、同じ地に高度な文明を持ったシュメール文明が存在していたのです…!!

シュメール文明は…、

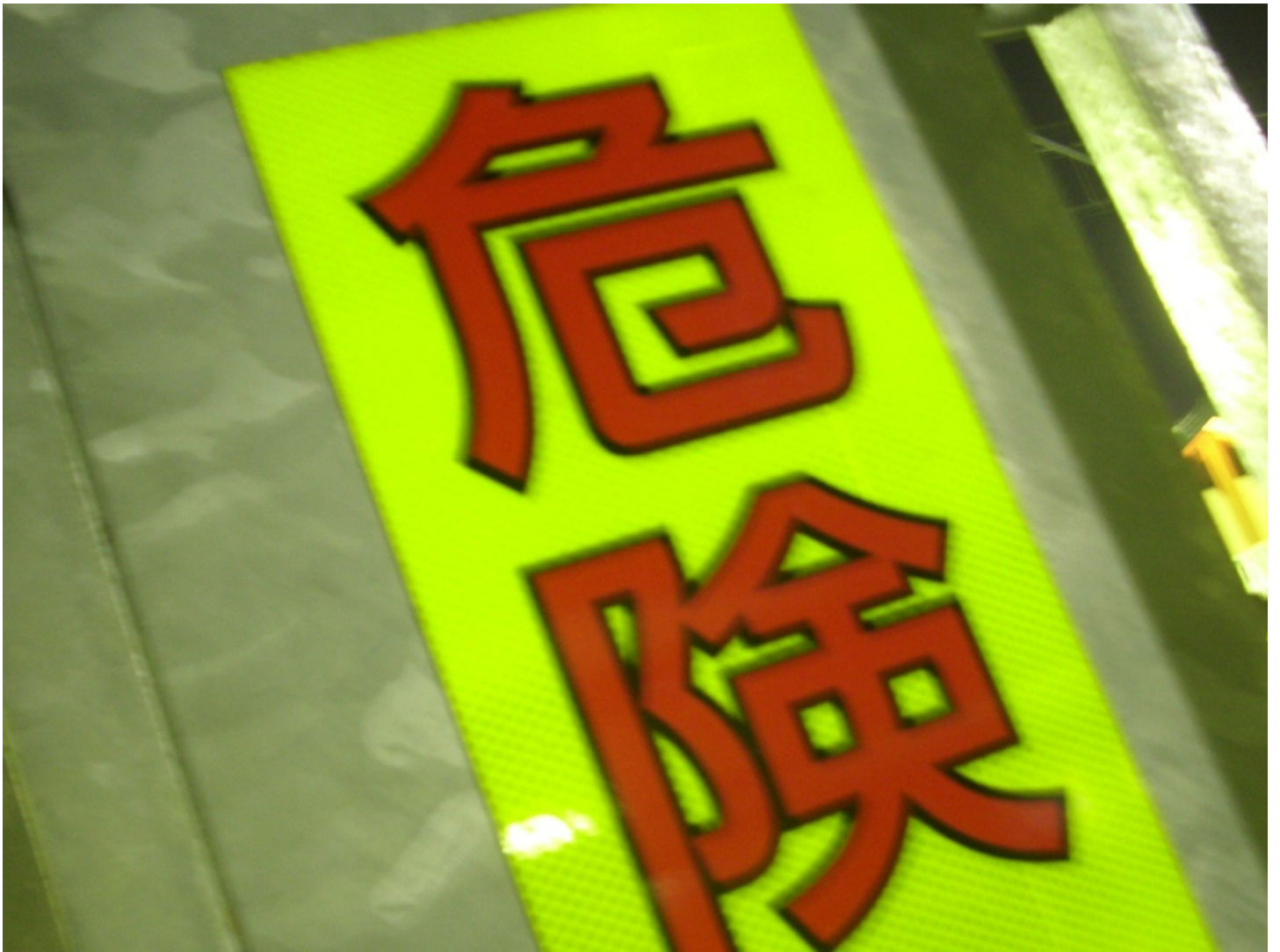
突如出現して…!?

天文学、医学、合金技術など、驚異的な知識を持っていたことから…、

そこには、よその天体(惑星ニビル)からやって来た…、

知的生命体が関係しているのではないかと云われているのです…!!





そして何と....

私たち人類は、彼らと地球の霊長類との遺伝子操作で創られたのではないかという説もあるのです...!!

『△NIMRODの祖先はシュメール人か? 宇宙人か?』

あなたは どう思いますか...!?

シュメール文明の謎(セガリア・シッチン博士の説)

→<http://www.youtube.com/watch?v=tR4vZnA5aXw>

【大いなる秘密 く上』「爬虫類人」(レプティリアン)】

デーヴィッド・アイク

～超長期的人類支配計画アジェンダ全暴露!!～

警告!

本書のなかには、一般の常識からはあまりに掛け離れた情報が大量に収められている。

だから、あなたがあくまでも既存の常識のうえに立とうとするのなら、この本を読むのをやめてもらってもいい。

また、「世界のこの現実を直視することに耐えられない」と言う人も、この本を閉じてもらってもいっこうにかまわない。

ただ、もしもあなたがこの本を読むことを選択したのなら、どうか次のことを覚えておいていただきたい。

生命は永遠に続いて終わることがない。

すべての事象は、生命が「光」へと向かう途上での経験なのだ。

至高のレベルから見ると、この世には善も悪も存在しない。

自らの選択によって経験を積み重ねてゆく意識のみがただ存在している。

この本が明らかにする数々の驚くべきできごとは、「光輝く自由の夜明け」へと向かうプロセスの一部なのだ。

どうか気づいていただきたい、2万6千年来の「大いなる意識変革の時」が近づいていることを。

そして、これからあなたが知ることになる数多くの深刻な情報にもかかわらず、今ほど生きるのにすばらしい時代はないことを。

デーヴィッド・アイク

## ■ 1 ■ 一忍び寄る恐怖の全人類管理体制

「フラザーフード・アジェンダ」とは何か

われわれは今、驚くべきことに、人類がいまだ体験したことのない極めておぞましい“「世界的大変革」直前の時”を生きているのだ。

そして、この地球の未来を極悪地獄にするかどうかは、われわれの決断一つにかかっている。

思えば「精神の監獄」に、何千年ものあいだ人類は閉じ込められ続けてきた。

しかし、われわれの決心しだいでその牢獄のドアを蹴破って、今こそ自由な外に飛び出すことができるのだ。

また、外に飛び出すことをしなければ、われわれはアジェンダなる超長期的地球人類完全支配計画という超謀略の完成を許してしまうことになるだろう。

そうなれば、やがて地球上のすべての男や女や子供たちは、艱難辛苦のワン・ワールド政府、ワン・ワールド軍、世界中央銀行、ワン・ワールド通貨、そして埋め込み式のマイクロチップによって、肉体的・感情的に、また精神的・霊的に、完全に奴隷化されてしまうだろう。

いきなりこんなことを知らされて、とまどっている読者もおられよう。

一読、たしかに私の言っていることは荒唐無稽の世迷いごとに聞こえるかもしれない。

しかし、とんでもない。

とるにたらない低俗なテレビやゲーム・ショーばかり見るのをやめて真剣に真実を見ようとするなら、やがてこのことが真実であることを即座に理解できるようになるだろう。

いや、私はなにも呑気に「これから先に何かたいへんなことが起こる」などと言っているのではない。

それはすでに今、まさに現在進行中の現実そのものなのだ。

世界の政治・軍事・経済・金融・メディアの集中化は日々そのペースを上げつつ進行し、グローバル・コントロールはますますその勢いを強めている。

人々へのマイクロチップの埋め込みもすでに決定済みで、この大いなる苛酷熾烈な「人類管理計画」は現在もさまざまな形態で進行中である。

長いあいだ水面下に隠されていたアジェンダが実施されようとするときは常に、計画実現のための最後の一押しという形で、現実世界の表面に急浮上してくるものだ。それを現在、われわれは「銀行や大企業の世界的統合」の急増現象や、EU(欧州連合)や国連を通じての「政治・経済の急速な一極集中化」としてその悲惨さを目の当たりにしているではないか。

WTO(世界貿易機構)やMAI(多国間貿易協定)、世界銀行やIMF(国際通貨基金)、G7やG8の謀議的国際首脳会談……これらもまた同様に、急速な謀略的一極集中化の媒体となっている。

実はこの狡猾かつ大々的な一極集中化の裏には、古代中近東にその起源を持つ『特異な血流の一族』の力が働いているのだ。

この「特異な血統の一族」たちは、同じ血流を有する一族間での結婚を重ねることによって自らの血の「純粋性」を保ち続けてきた。

彼らはヨーロッパの王侯貴族・司祭階級として世界の歴史にその姿を現わし、「大英帝国」を通じて世界中にその勢力を拡大した。

彼らは、英国を中心とする欧州列強が占領した世界中の各地域に、自らの血流を送り込んだ。

その最たるものがアメリカ合衆国である。

42代の合衆国大統領のうち、なんと32名もが、イングランドのアルフレッド大王やフランスのシャルルマーニュの遺伝子を受け継いでいるのだ。

この特別な血流の者たちによるアジェンダは、驚くほど長い年月をかけて着々と現実化されてきた。そして今や、凶悪な集権的グローバル・コントロールが可能となる段階にまで到達したのだ。

われわれが早く目を覚まさなければ、かつてのナチス・ドイツのような血塗られた監獄社会が、地球的規模で実現されることになるだろう。

それが、私が「ブラザーフッド・アジェンダ」と呼ぶ超謀略が用意した人類の未来なのである。

この「ブラザーフッド」とは先ほど述べた、あの特別な血流の者たちによって形成される、古代より続く超秘密結社ネットワークのことである。

また「アジェンダ」とは、繰り返すが、彼らによる超長期的地球人類完全支配計画のタイムスケジュールのことだ。

本書ではこの驚異的な現実を暴露してゆくことにする。

■ 2 ■ — 「特異な血流の一族」による世界人間牧場計画は  
2012年に完成する!

2000年から2012年は、このアジェンダの最終段階とされている。

そして、特に2012年が決定的な年となるだろう。

その理由についてはのちほどご説明しよう。

残念なことに多くの人々は、自分たちがのぞき込んでいる深淵の深さをまったく理解していない。

われわれの子供たちにどんな世界を残そうとしているのか、それをまったくわかっていない。

大部分の人々は、そんなことはまったく気にかけていないようだ。

基本的に人々は、無意識的に(あるいはやや意識的に)真実に直面するのを嫌がっており、自らその耳目を塞(ふさ)いでしまっているのである。

なんだか私は、柵の外に飛び出した一頭の牛になったような気がしてならない。

私は柵の中で草を食んでいる仲間たちに向かってこう叫んでいるのだ。

「おーい、みんな聞いてくれ。毎月トラックがやって来ては、そのつど仲間を何人も連れて行くだろ？

あれはさ、みんなが思っているように、仲間たちを別の牧場に連れて行ってってくれるんじゃないんだ。

実は連れて行かれた仲間たちは、頭を撃ち抜かれて殺されているんだ。

そして血を抜かれて切り刻まれて、パックに詰められているんだ。

人間たちはそれを売り買いして食べてるんだよ！」と。

牧場の仲間たちの反応を想像していただきたい。

「馬鹿だなお前は。

よく考えてみろよ。

人間たちがそんなことするはずないだろ。

それに俺はトラック輸送会社の株を持ってて、それなりにいい配当をもらってるんだ。

わけのわからないことを言って騒ぎを起こすのはやめてくれ！」。

まあ、こんなところだ。

さて、これからその実体を明らかにしようとしている彼らのアジェンダだが、それは何千年もの

時をかけて徐々に現実化されてきたものである。

しかも、現在それは完成間近となっている。

人類が自らの精神と責任を無防備に放棄し続けてきたため、事態をここまで許してしまったのだ。

人類は、単におのれの生存を第一と考えて行動する以上に、自らが正しいと思うことを行なうべきだ。

「無知なる者は幸いなり」という諺があるが、それが当てはまるのもほんの少しのあいだのことだ。

たとえば竜巻が近づいているのを知らないでいることは、見方によっては幸せなことかもしれない。

それは「何か手を打たなくては」と心配する必要がないからだ。

しかし、頭を砂の中に突っ込んで耳目を塞いでみたところで、竜巻が接近しているという事実は変わらない。

そこで勇気を出して目を開き現実を直視するならば、災害を避ける方法も見つかるかもしれない。

しかし、あくまでも現実を否認し無知のままにいるならば、それは常に最悪の結果を招くことになるだろう。

それは現実から強烈な不意打ちを喰らうことになるからだ。

無知なる者は幸いなり。

ほんの少しのあいだだけ……は。

現実とは、われわれの思考と行為の結果以外の何ものでもない(何もしないことも一種の「行為」である)。

もしわれわれが自らの精神と責任とを放棄するならば、それは自らの命を投げ捨てるに等しい。

だから、もしわれわれの大部分がそんなことをするならば、それは世界を投げ捨てるのと同じことを意味する。

それはまさしく、これまでの歴史を通じて人類全体が行なってきたことだ。

常に少数の者が大衆を支配し続けてこられた理由はここにある。

今日、全世界は金融・ビジネス・コミュニケーションのグローバリゼーションを通じて、邪悪な少数の者たちによって完全に支配されているのが現実である。

とはいえ、昔から彼らによる大衆支配のメソッドは常に同じであった。

すなわち

「大衆を無知の状態に保て。

人々を互いに争い合わせて戦争の恐怖を生み出せ。

分割して支配せよ。

一方で真に重要な知識は独占して秘匿せよ」である。

このメソッドによって何千年ものあいだ人類をコントロールし続けてきたのは、長大なアジェンダを進める者たちだった。

彼らは、同系交配を繰り返してきた「特異な血流の一族」のメンバーである。

彼らのアジェンダは現在、かつてなかった最大の山場を迎えている。

というのは、彼らが待望した「全地球的ファシスト国家(世界人間牧場)」出現の 때가迫っているからなのだ。

(三交社 2000年刊 デーヴィッド・アイク著『大いなる秘密〈上〉「爬虫類人」』より)



■ 3 ■ — 「彼ら」にマインドコントロールされている  
ゾンビ的人類

しかし、彼らの「全地球的ファシスト国家(世界人間牧場)」が必ず実現するとは限らない。

というのも、真の力は彼ら少数の者たちの側にではなく、圧倒的多数を形成するわれわれのうちにあるからだ。

究極的なことを言うなら、われわれ一人ひとりのなかには無限の力が眠っているのである。

だからわれわれが彼らにコントロールされ続けているのは、自らの運命を切り拓く力がないためではなくて、われわれが自らの人生の一瞬一瞬においてその力を放棄してしまっているからなのだ。

何か良くないことが起こると、われわれは常に他の誰かのせいだと考えてしまう。

世界で何かの問題が発生すると、われわれはいつも条件反射的にこう言っている。

「彼らはいったいどう対処するつもりなんだ」と。

実はこの「彼ら」というのが、なんと意図的にそれらの「問題」を作り出した張本人なのだ。

そして、それをなんとかせよと言う大衆の「反応」に応じて、前もって用意しておいた「解決」策を実施するのである。

これによって、自由への侵食と権力の集中化がさらに推進されるのだ。

だから警察や保安局や軍隊の力を強化したいときは、テロなどの暴力犯罪を頻発させて、人々のほうから治安の強化を求めてくるように仕向ければよい。

この方法を使えば目的達成は朝飯前だ。

略奪や爆弾テロの恐怖に取り憑かれた人々は、自らの身の安全と引き換えならば、あっさりと自由を明け渡してしまうだろう。

私自身はこのような手法を、「問題―反応―解決」戦略と呼ぶことにしている。

少し説明を加えよう。

まず最初に「問題」を作り出す。

そして、「なんとかしてくれ」という人々の「反応」を引き出す。

さらに彼らに「解決」策を提示してみせ、それを実行するのである。

これはフリーメーソンのモットー「混乱を通じての秩序」という一言に集約される手法である。

混乱状態を生み出したうえで、秩序回復の手立てを提示するのだ。

もちろんその秩序とは、当然ながら彼らにとっての「秩序」なのである。

大衆は、さまざまな形態の感情的・精神的コントロールを通じて、家畜の群れのように動かされる。

たしかに膨大な数の人々を支配するには、これしか方法がないはずである。

さもないと少数の者が、その他の何十億もの人々を物理的にコントロールすることは不可能なのだ。

牧場の場合を思い浮かべていただきたい。

数多くの家畜を物理的にコントロールするのは、かなりの人手を用意しなければ不可能だろう。

世界中の人々を「物理的にコントロールすること」はとうてい不可能だ。

しかし精神的にコントロールすることは不可能なことではない。

もし世界中の人々の考え方に十分な影響を与えることができるならば、自分が人々にやらせようとしていることを、人々自身の「決断」によって行なわせることが可能になるのだ。

自らが導入したい法案を、人々のほうから要求してくるようにはさせることも、当然可能である。

「人に何かやらせたいならば、それがその人自身の考えだとその人自身に思わせておくことだ」とは、古い格言の一つだ。

すでに人類は、「彼ら」によって完全にマインドコントロールされている。

ゾンビよりややまし、という程度にすぎない。

それは言いすぎだと思う人もいるだろう。

しかし現実の世界はそうではない。

「人々の思考を操作することによって、あたかも人々が自分自身で判断したかのような形で、操作者の意図に即した行動をとらせてしまう」、というのが私の言うマインドコントロールの定義だ。

このような観点からみるならば、「どれくらいの数の人々がマインドコントロールされているのだろうか」と考えるよりも、「マインドコントロールされていないような奇抜な人たちも、多少はいるのだろうか」と考えるほうが適切なくらいだ。

程度の差こそあれ、すべての人々がマインドコントロールを受けていると言ってよいであろう。

たとえばあなたが宣伝広告に踊らされて、必要ではなかった物を買ってしまったとすれば、それも一種のマインドコントロールである。

また、あなたが微妙に歪曲された新聞やテレビのニュースを無批判に受け入れてしまっているなら、あなたは確実にマインドコントロールされているわけだ。

軍隊の訓練を想像してみるとわかりやすいかもしれない。

あれは純粋なマインドコントロールだ、軍隊に入ったその日から、「上官の命令には絶対服従」となる。

もし上官が、見ず知らずの人々を「撃て」と命令するならば、あなたはいっさいの口答えなしに、ただちにその人々を狙撃しなければならない。

これを私は「《イエス・サー》メンタリティー」と呼んでいる。

このようなメンタリティー(精神的傾向)は、軍隊の外の世界にも蔓延しているものである。

こんなセリフが日常で飛び交っていないだろうか。

「よくないってことはわかってるよ。

でもボスがやれって言うんだ。

仕方がないよ」と。

仕方がないだって？

仕方がないなんてことは絶対はない。

われわれは常に自らの意志によって、何をしたらよいかを選択することができる存在だ。

選択の余地がないなんてことはありえない。

仕方がないなどと言うのは、単なる言いわけにすぎないのだ。

■ 4 ■ ——われわれは「人people」するか、  
「家畜人sheeple」するか？

マインドコントロールのテクニックは無数に存在している。

彼らは、間違いなくあなたの精神を狙っている。

なぜならあなたの精神を手に入れることができれば、それはあなたのすべてを手に入れたも同然だからだ。

すべてのことは、われわれが自らの精神を取り戻すことができるかどうかにかかっている。

自らの力で考え、また他人が独自の考えを持つことに寛容であることだ。

そして自分自身も「みんなと違っている」と非難されたり嘲笑されたりすることを恐れてはならない。

また逆に、普通とは違った考えを持つ人を白い目で見て、その人たちの心を萎縮させるようなことも決してしてはならない。

そしてわれわれが自らの力で考えて行動するようにならない限り、アジェンダは現実に完成してしまうだろう。

しかし、もしわれわれが自らの精神の主体性を取り戻すならば、アジェンダはその存在の基盤を取り去られ、崩壊することになるだろう。

私はこれまで20カ国以上を回って講演や研究調査を行ってきた。

その結果として、それらのどの国にも、グローバル・アジェンダの線に沿った同一の支配構造や政策がみられた。

しかしまた同時に、世界的な精神の覚醒もはっきりと感じる事ができたのであった。

現在ますます多くの人々が、霊的な目覚まし時計の音を聞くようになってきており、全地球的な眠りから目覚めつつある。

新たなミレニアム2012年へと至る決定的に重大な時期、その主導権を握るのは彼らなのだろうか

、それともわれわれなのだろうか？

その答えは我々次第だ。

現実とは、あくまでもわれわれの想念や行為の結果として生み出されるものである。

もしわれわれが、自らの思いとその行ないを新たにすれば、それは世界を変えることになるだろう。まったく単純なことなのだ。

私はこれから本書において、現在世界を支配している一族(彼らは同系交配を重ね続けてきた特殊な血流の一族である)の歴史を、そして彼らのグローバル・アジェンダの正体を、明らかにしていきたいと思う。

私がこれから明らかにしていくアジェンダは、いわゆる陰謀と同一のレベルにあるものではない。

陰謀(コンスピラシー)というものは、アジェンダ推進のための部分的な構成要素とでも言うべきものである。

それには、大きく言って3つの形態がある。

まず1つは、アジェンダ推進の邪魔になる人間や組織を除去するという方法(たとえばダイアナ妃暗殺事件)。

2つめは、アジェンダを推進する人物を権力の座につけておくこと(ジョージ・ブッシュ、ヘンリー・キッシンジャー、トニー・ブレアなどがそうだ)。

そして3つめは、戦争や煙弾テロや経済崩壊を引き起こすことによって、人々のほうからアジェンダに沿った要求をしてくれるように仕向けること、すなわち「問題—反応—解決」戦略だ。

以上のようなやり方を通じて、一見ばらばらのように思えるさまざまな事件は、同一の陰謀、同一のアジェンダの構成要素となっている。

日々あなたが新聞やテレビで見聞きする政財界の指導者たちの語る情報は、大衆をコントロールするという目的のために、選別・再構成されたものである。

見る目のある人はすでにわかっているだろう。

私の過去の著書を読んでいただければ、預言されたことが現実になっているという衝撃の事実を知るだろう。

かしそれは預言ではない。

太古の昔よりあらかじめ定められていたアジェンダなのだ。

近い将来に世界的ファシスト国家が実現してしまうことは避けられないのだろうか？

その答えは、次のような問いに対してわれわれがどう動くかにかかっている。

つまり、《われわれは人(people)になるのか、それとも家畜人(sheep)のままでいたいのか？》だ。

彼らのアジェンダの成否の鍵を握っているのは、そう、われわれ自身なのだ。

(三交社 2000年刊 デーヴィッド・アイク著『大いなる秘密〈上〉「爬虫類人」』より)

## 【速報】4月3日の爆弾低気圧は気象兵器HAARPによるフクシマ攻撃だったのか!?

---

(2012/4/8『井口和基博士のブログ』より)

【HAARPによる暴風雨：4月3日のテプコ雨雲レーダーが証明!】

みなさん、こんにちは。

先日の4月3日の猛烈な台風のような低気圧の現象。

日本の科学者の理解を超えたものであっただろう。

しかしながら、私のようにHAARP兵器の存在をよく知っている人間からすれば特に驚くほどのことではない。

HAARPという強力な電源を持つ巨大装置を持っているのであれば、だれでも気象はコントロールできるのである。

それゆえ、私は実際の当時のHAARPモニターの電磁放射のデータから、今回の異常低気圧はHAARPの仕業だと結論したのであった。

「日本を低気圧で攻撃すると、テキサスが竜巻に襲われる」：HAARPの仕業か？

どうやらこれを支持する、というか、このことを見事に証明してくれるデータを「憂いの果てに～次男坊のアフォーリズム～」のハタ次男氏が見つけてくれたようなので、ここにもメモしておこう。以下のものである。

暴風雨の日、テプコ雨雲レーダー画像 4月3日分

雨量データ 20120404

→<http://www.youtube.com/watch?v=njvHeVdjOVE&fea..>

これを見れば一目瞭然。

何ものかが、福島県いわき市を中心とするような電磁パルス照射していたことがわかるのである。



もはや説明の必要なしである。

同心円状に雨が降る現象がレーダーに捕らえられたわけである。

はたしてこれは何の目的であったのだろうか？

悪党が福島第一原発をさらに襲ったのか？

あるいは、善玉が福島第一を除染してくれたのか？

あるいは、それ以外の何かか？

いったい何を狙ったものなのだろうか？

(2012/4/8『井口和基博士のブログ』より)

【資料】『大いなる秘密〈下〉「世界超黒幕」(ワールド・スーパー・マスターマインド)』①

---

【大いなる秘密〈下〉「世界超黒幕」(ワールド・スーパー・マスターマインド)】

デーヴィッド・アイク

～現代グローバル国家を操る巨悪の正体が見えた!!～

警告!

本書のなかには、一般の常識からはあまりに掛け離れた情報が大量に収められている。

だから、あなたがあくまでも既存の常識のうえに立とうとするのなら、この本を読むのをやめてもらってもいい。

また、「世界のこの現実を直視することに耐えられない」と言う人も、この本を閉じてもらってもいっこうにかまわない。

ただ、もしもあなたがこの本を読むことを選択したのなら、どうか次のことを覚えておいていただきたい。

生命は永遠に続いて終わることがない。

すべての事象は、生命が「光」へと向かう途上での経験なのだ。

至高のレベルから見ると、この世には善も悪も存在しない。

自らの選択によって経験を積み重ねてゆく意識のみがただ存在している。

この本が明らかにする数々の驚くべきできごとは、「光輝く自由の夜明け」へと向かうプロセス

の一部なのだ。

どうか気づいていただきたい、2万6千年来の「大いなる意識変革の時」が近づいていることを。

そして、これからあなたが知ることになる数多くの深刻な情報にもかかわらず、今ほど生きるのにすばらしい時代はないことを。

デーヴィッド・アイク

## ■ 1 ■ クモの巣の中心「ニュートロイ」ロンドン・シティに君臨、 歴史を破壊・抹殺し、人類奴隷化計画を推進する

数千年の進化を経た今日、爬虫類人的異星人であるレプティリアンのネットワークは途轍もなく巨大なものとなった。

ここには、秘密結社、銀行、企業、政党、安全保障機関、マスコミ企業所有者などがクモの巣のように絡み合い、計り知れないほどの規模のものがほとんどを占める。

だが、彼らの超長期的人類奴隷化計画そのものの基本構造は、今もごく単純明快なままだ。

クモの巣の中心にあって作戦を遂行しているのはロンドン・シティで、これにフランス、ドイツ、ベルギー、スイス、イタリア、アメリカなどの各地域の指導部が連携している。

この巣にいるクモのなかで、とりわけロンドン・シティ＝ニュー・トロイが最も重要だ。

この巣の中心から地球的超謀略が推進、管理され、各地の「支部長(ブランチ・マネージャー)」がそれぞれの国にその政策を導入する。

それがグローバル・アジェンダに適うのなら、アメリカ・ドルやメキシコ・ペソ、または南アフリカ・ランドであれ、極東の証券市場であれ、それらを崩壊させるべく、各地域の支部長はそれに必要な行動を起こす。

それで超秘密結社が困ることはない。

実のところはそのまったく逆だ。

なにしろ連中は、何が起きるのかを事前に知っているのだから。

米国のブラザーフッド系大銀行、たとえばロックフェラーのチェースマンハッタン銀行などは、1991年のメキシコ・ペソ絡みでは、利益を大きく増やしている。

ペソが大暴落したこの年、連中は、保有していたペソを直前にごっそり売却した。

1987年には、億万長者の金融業者でロスチャイルドの親戚筋にあたる故ジミー・ゴールドスミスが保有証券をすべて売却し、その直後に、世界の株式市場が大暴落している。もちろん、「偶然」ということにされているが。

このクモの巣の中心、あるいはピラミッドの頂点——どちらでも好きな方を選んでもらっている——には、爬虫類人たち、レプティリアンがいる。

もっとも彼らの動きはほとんど表に出ない。

それというのも彼らは、地下の基礎領域から、レプティリアンと人類の血流を圧倒的に支配しているからだ。

この血流こそは、低層四次元にあるレプティリアンの意識と極めて密接に響き合う。

こういった純血種のレプティリアンやレプティリアンに支配された人間は、世界中で、大きな権力をもつ地位にある者、首相や大統領といった誰の目にも見える権力の座にいる者を、陰から支配していたりする。

ただ、大半の人間にとって、まさかレプティリアンなりレプティリアンに支配された人間が大統領になっているなど、たとえ豆粒ほどその可能性を認めたとしても、やはりあまりに現実離れた話でとても信じられない。

だが、数千年以上にわたる証拠を合わせて考えてみれば、歴史の「謎」は完全に意味の通るものになるのだ。

当然の疑問として、他の惑星を乗っ取るために自分の生涯を捧げる者がいるだろうか、どうせそれが達成されるはるか以前に自分たちが死んでしまうことはわかっているではないか、と考える人は多い。

答えはこうだ。

意識が肉体をコントロールしているのであって、肉体はコート(外套)や宇宙服のようなものだ。

そのうちに傷んで駄目になってしまうが、そうなったら、意識は別の肉体を手に入れればいい。

こうして、同じレプティリアンどもが、この陰謀のおもな登場人物すべての肉体を占拠してきた。

しかも、それははるか古代にまでさかのぼるものだ。

彼らが強迫観念のようにブラザーフッドの血流内での近親交配にこだわるのも、レプティリアンの遺伝子を継承する必要から起きたことであり、そうすることで彼らは、三次元にある人間の肉体と低層四次元にある支配力との質的なつながりを維持しようとしているのだ。

この真実を隠したいがゆえに、彼らは何世紀にもわたり、古代の歴史記録、文書、記述の破棄・消失を計画し、世界各地の社会を破壊、略奪してきたのである。

そのため、レプティリアンが望んだのは、以前は公然だった彼らの存在や過去の支配に関する記憶と記録を、すべて抹消することだった。

もしそれが達成されていれば、人類はまったく何もわからないままに、人間のような肉体を通して、人間ではない四次元の力によって操られていたことだろう。

## ■ 2 ■ フリーメイソン、マルタ騎士団、スカル・アンド・ボーンズなど 謀略操作機関・組織は融合、一頂点を形成す

過去に起こったこと、今も起こり続けていることの真相は、超秘密結社のネットワークの最高奥の院での最高機密とされていて、ごく一握りの関係者しか知らない話だ。

世界的なピラミッド状組織の各セクションは、それ自体が小さな分野別のピラミッドになっている。

それは、ちょうど船の防水区画のようなものだ(あるいはその密封性を考えれば、潜水艦の防水区画と考えるほうが妥当かもしれない)。

上がそうなら、下もそうだ。

たとえばフリーメイソンのピラミッドは1つの共通の指導部の指揮下にあるが、一方でその指導部も、より高位の指導部の指揮下にある。

イルミナティの位階はフリーメイソンの位階を昇り詰めたところから始まる。

フリーメイソン・スコティッシュ・ライトは第33位階で、ヨーク・ライトは第10位階で終わっているように、誰が見ても見えるし、ほとんどのフリーメイソン結社員にとってはそれで正しい。

だが、ブラザーフッドが彼らにとって正しい精神と由緒ある血筋をもつとみなした者はさらに上の水準、すなわちイルミナティの位階なり、円卓会議のようなより秘密性の高い中枢グループへと進むことになる。

こういった中枢グループは、公然の秘密結社であるフリーメイソンやエルサレムの聖ヨハネ騎士団(マルタ騎士団)などよりも高位の水準で活動している。

そしてその頂点では、数々の秘密組織による位階組織は融合し、共通の指導部と結ばれている。

この段階では、すべては1つの同じ組織となり、内部での争いや対立は数えきれないほどあっても、「同一の人類奴隷化計画(アジェンダ)」に向かって動いている。

この秘密結社のネットワークは、秘儀を授けられた者のなかから特に信頼できる者を選び、世界の銀行業、営利企業、政治、メディア(マスコミ産業)、軍事、医療といった各分野での最も影響力の大きい地位に就ける。

そこで再び最高奥の院を見てみると、互いにつながりなどないように見えるそういった組織や機関が溶け合っって一つのピラミッドの頂点を形成し、同じ面々に支配されていることがわかる。

ちょうど入籍(いれこ)細工のようになっていて、まるで、中からいくつも人形の出てくるロシアのマトリョーシカ人形に似ている。

ただ、こちらはピラミッドの中から次々とピラミッドが現れて、最後はすべてを包含する世界的なピラミッドにまで至るのだ。

こういった組織やそれを陰で操る連中の表向きの顔は、このネットワークでのつながりでいえばフリーメーソンであるかもしれないし、マルタ騎士団員、あるいはスカル・アンド・ボーンズの会員ということもある。ほかにも秘密あるいは準秘密組織として、王立国際問題研究所(RIIA)、外交問題評議会(CFR)、ビルダーバーググループ、ローマクラブ、日米欧三極委員会(TC)などがある。

こういった組織についてはすぐに詳しく説明するが、ここでは、名称も違い、一見したところでは目的も違う各組織が、すべて、究極的には同じ指導部に操られている同じ組織なのだということを強調しておきたい。

(三交社 2000年刊 デーヴィッド・アイク著『大いなる秘密〈下〉「世界超黒幕」』より)

【資料】『大いなる秘密〈下〉「世界超黒幕」(ワールド・スーパー・マスターマインド)』②

---

■ 3 ■ 一 麻薬カルテルと取締機関、マフィアと警察、  
テロリストグループと諜報機関など対立双方に  
「彼ら」の手先が

秘密結社や秘密組織では、数多くの作戦司令部が互いに絡み合っ  
て巨大なクモの巣を形成しているが、これは太古以来、連綿と  
続く同一のネットワークが肥大・拡大してきたものなのだ。

研究者によっては位階組織の最上位に、「三人会議」、「五人  
会議」、「七人会議」、「九人会議」、「十三人会議」、「三  
三人会議」、「グランド・ドルイド会議」、「[300人委員会]  
(オリンピックズともいう)」、「500人委員会」などを含めて  
いるようだ。

もっとも、同様な組織のなかにはその存在を隠すために、あ  
えて名前をつけていない組織も多い。

私は、このピラミッドの頂点には、男か女かはわからないが、  
1人か2人(あるいは数人)の世界「司祭長」がいるとにらんで  
いる。

なんとなればあとに詳述するが、最重要の位階組織として他  
の組織すべてを配下においているのが、悪魔教の位階組織だ  
からだ。

ゲームを支配しようとするれば、そのゲームのあらゆる側面  
をコントロールしなければならない。そこで、この構造なら  
それを可能にする。

ブラザーフッドは金融、ビジネス、マスメディア、政治などの  
各分野ごとに、「賛成派」と「反対派」の両方を操っている。

つまり、あらゆる国の政府の内奥にブラザーフッドの手先が  
ひそんでいる。

しかもその政府に「反対」している野党にも同じブラザーフ  
ッドの手先がいるという寸法なのだ。



戦争や政治的紛争でも、いつも、敵対する両方に彼らの手先がいる。

麻薬企業連合と「対抗」する麻薬取締機関に、組織犯罪企業体合同と取り締まる警察や公安機関、テロリストグループと「調査」する諜報機関の双方向に、すべて彼らの手先がいるのだ。

また、自分は自由と平和のために闘っていると公言しているからといって、そのとおりだとは限らない。

実際にそうならば、明白なことなのだから、あえて言葉に出して言う必要はないはずだ。

単純明快な原則をわきまえておくべきだ。

それは、「民主的を自称するところは民主的ではない」ということだ。

世界中の数ある民主主義を看板に掲げる闘争組織をみればいい。

どこも、独裁を押しつけようと躍起になっているではないか。

主要なネットワークには、円卓会議を中心にして運営されているものがある。

すでにみたとおり、円卓会議には世界中に支部があり、1920年と2021年には、RIIAとCFRをそのクモの巣の中に加えている。

RIIA自身も海外支部を設けているし、ニューヨークにあるCFRも米国内に独自の傘下ネットワークを作っていて、バビロニアン・ブラザーフッドは、アメリカ政府各省、連邦議会、マスコミ企業所有者、編集者、ジャーナリスト、各種免税財団(ロックフェラー財団など)、大学、科学者、各国大使、軍指導者、「歴史学者」、銀行家、企業家たちとつながっている。

主要各国にそれぞれこういったネットワークがあり、ロンドン・シティ、ドイツ、フランス、スイスの世界センターから指令を受けて、アジェンダを推し進めている。

#### ■ 4 ■ ——知識、愛、理解、知恵なる無限の潜在能力を 呪縛する宗教と科学

ブラザーフッドが儀式や象徴主義的な意味にこだわるのは、一見すると理屈に合わない

とっぴな行動に見えるかもしれないが、実はそうではない。

彼らは、人類の心と感情に呪いをかけて縛りつけているのだ。

これは数千年前から続いていることであり、これを理解することは、今のようなレプティリアンの支配を逃れて自由になるためにはきわめて重要なことだ。

あらゆる存在は1つのエネルギー場、すなわちエネルギー振動の組合せであって、そのエネルギーは思考や感情によって作られる。

あらゆる存在は同一のエネルギーなのだが、その組合せは無限にあるために、存在の形式も無限に生み出される。

ちょうど水が、液体、気体、蒸気、氷と姿を変えるようなものだ。

見かけも触感もまったく違うが、形式が違うだけで、やはり水は水だ。

エネルギーの組合せによって、ある場合は人間の肉体として現われ、別の場合には人間の心となる。鳥、樹木、昆虫、水、空、空気になる場合もある。

純粋なエネルギーの段階では、あらゆるものは、それ以外のあらゆるものにつながっている。

「われわれ」と「彼ら」といったものはなく、あるのはわれわれと究極的な「私」だけだ。

潜在的には、われわれはみな、自分以外のあらゆるエネルギーに接触する能力を持っている。

エネルギーと意識は同じものだから、われわれはあらゆる意識、すなわち究極の意識である「神」に近づく能力を持っているということだ。

この「神」はわれわれと別物ではない。

それはわれわれ自身であり、われわれが「神」なのだ。

われわれの一人ひとりはこの究極的な意識の1つの側面であり、それは、爬虫類人(レプティリアン)やそのほかのあらゆる存在についても同じだ。

したがって、われわれは、この究極の精神のすべてを活用するだけの潜在力を持っている。

なぜなら、究極の精神状態が最高の段階で表現されたとき、それはわれわれのすべてと同じだからだ。

あらゆるものがそうなのだ。

われわれは無限の大海の一滴のようなもので、ある程度までは独立しているが、合わされば全体となる。

全体とは一滴一滴の総計だ。

一滴一滴がなければ大海はできない。

だが、こういう疑問がある。

われわれは、この大海とどれほどつながっているのだろうか。

もしそれがほんのわずかだったら、それは繭か、あるいは卵の殻の中に生きているようなもので、知識、愛、理解、知恵といった無限の潜在能力からは隔絶されていることになる。

であるなら、人生は先の知れたものとなり、悩みや恐怖に支配され、平凡で、自分の運命を動かしていく力などないと考えるようになるだろう。

だが、もし精神と心を開き、その繭を破って外へ出ることができれば、無限とのつながりはどんどん大きく広がる。

そうするなかで人は、自分が物質としての肉体以上のものであること、意味のない生涯を経験す

るだけのものではないことを理解するだろう。

そして無限の意識となってこの世界を体験し、この世界は、経験を通しての進化という、永遠に続く旅の一部になる。

人はすべてであり、すべてを知り、すべてを行なうだけの潜在能力を備えているのだ。

さて、今あげた、2つの存在状態のうち、レプティリアン=ブラザーフードにとって支配しやすいのはどちらだろう。

もちろん答えは明瞭だ。

そしてこのことが、この世界について多くのことを説明してくれる。

われわれのしているこの世界は、現在知られている「人類の歴史」を通じてのものにすぎない、だからこそ、われわれが本当はどういう存在であるかという知識は体系的に破壊され、人の目に触れない場所に隠されてきた。

人類がその本質、力、価値を真に理解していれば、これまでにみたようなやり方で陰から操作することは不可能になる。

人類をこういった知識から切り離すことによつてのみ、レプティリアン=ブラザーフードの超長期的人類奴隷化計画は、数千年にわたって推し進めることが可能だった。

これに関しては、宗教および公に認められた「科学」の創造がその基本であり、すでにみてきたとおり、どちらも同じ流れをくむ数々の秘密結社が創り上げてきたものだ。

そうだ、「神」の概念を一人の人間、1つの物質形態に個別化することで、あらゆるものは神であるという理解が抑圧されてきた。

現在はそれが徹底しているから、自分は神であるなどと言おうものなら、とんでもない嘲りと非難を招くことになる。

私自身、1990年代初めのイギリスでそういうことをおおっぴらに口にして、身にしみてよくわかっている。

自分がいったい何であるか、われわれすべてが何であるかを口にすることは、神への冒瀆とされるようになっていく。

そして、宗教を信じない者には科学があって、証明可能なものだけが存在するのですよと、こちらは無限や生命の永遠性そのものを否定する。

## ■ 5 ■ 一人類が低層幽気周波数帯と共振すれば 世界超黒幕たちの支配は完遂する

ブラザーフッドのアジェンダは一貫して、人類の自己認識を枠組みのなかに幽閉し、操作しようというものだ。

われわれは天地の創造を、われわれ自身の多次元無限性から切り離し、潜在能力のほんの何分の一かで活動しているにすぎない。

だが、レプティリアンもまたこの無限性の1つの現われであって、われわれは、彼らがわれわれに与える経験を利用することで進化していける。

ちょうど、レプティリアンの支配に挑む人たちが、実は彼らに経験を積ませているのとまったく同じだ。

人類は今、自分の幻を放棄してしまうとどういうことになるのかを学んでいる。

一方、レプティリアン一族はこれから、力を濫用すればどういう結果になるかを学ぶことになるわけだ。

詰まるところ、これは遊戯だ。

進化という試合(ゲーム)のなかで、われわれは自分の精神と感情を制御することを学んでいる。

本書でこれまでに述べてきたことも、関係するあらゆる集団にとっての、進化のための1つの経験だ。

われわれの誰もが、決断し、選択し、その結果と直面する。

われわれは今、そうした結果を経験している。

今新たな選択をすれば、また違った結果が生まれる。

われわれは、自身の運命を支配しているのであり、多くの人々はそれに気づき始めている。

レプティリアンが操作してくるのは低層四次元、いわゆる低層幽気周波数帯からだ。

地球を支配するためには、人類の大多数をこの水準以下に維持し、それ以上の高い周波数帯から切り離しておかなければならない。

これが理解できれば、これまでに世界で起こったことや現在起こっていることに、再び、完全に筋が通るようになる。

人間の心を切り離して無知な状態にしておくうえで決定的に重要となるのは、恐怖、罪悪感、怒り、自己嫌悪、他者の軽蔑といった、低い周波数での感情を操ることだ。

こういった感情は、結局は、すべて恐怖がさまざまな形で表れたたものであり、こういう感情こそが、低層四次元の周波数帯と共鳴する。

一度こういった感情の支配に屈伏すれば、それは、レプティリアンの意識による支配に屈伏したことになる。

支配、という言葉に注目してほしい。

人生経験の一部として、今述べたような感情を持つことは結構だ。

われわれが進化して、より大きな理解と知恵を得るためには重要なことだ。

だが、こういった感情に完全に支配されるような段階になってしまうと、心の焦点がまるごと低層四次元に接続してしまい、そうなれば、レプティリアンの意識がその人の思考型に連結し、浸透してしまう。

そこでブラザーフッドは恐ろしい悪魔教儀式を利用し、生け贄を捧げるなどして、参加者をレプティリアンの波長に同調させようとする。

また彼らは、われわれのR複合の性格特徴をも刺激しようとする。

R複合とは、われわれの脳のレプティリアン的な部分で、攻撃性、儀式好み、位階構造への欲求を司る。

私が生命の本質についてここで述べていることは、馬鹿げた屁理屈ではない、ちゃんと証明できることだ。

米国の科学者・研究者らは、恐怖の感情が低い振動パターン、すなわち長い波長と同調し、愛のような感情が高い振動パターン、すなわち短い波長と同調することを研究している。

これは極めて重要なことだ。

なぜなら、この問題を研究している作家で、考古学にも造詣の深いグレッグ・ブレイドンがビデオ『ゼロポイントへの目覚め』で示しているように、人体の遺伝子を形成している物質はさまざまな周波数に対応する、非常に高度な送信機であり受信機だからだ。

数々の実験によって示されていることだが、DNA(=体内における遺伝子の青写真)を電子の詰まった試験管に入れると、電子はひとりで集まってそのDNAのパターンに並び、しかもDNAを取り去っても、同じパターンを維持する。

言い換えれば、DNAは常に周囲のエネルギーに影響を与えているということであり、われわれの存在の仕方が、刻一刻とこの世界に影響を与えているということだ。

人が生き方を変え、その在り方を変えれば全体も変わる。

なぜなら人は全体の一部だからだ。

さらに言うなら、人こそが全体だからだ。

それでも、自分を平凡で無力な存在だと感じるだろうか。

(三交社 2000年刊 デーヴィッド・アイク著『大いなる秘密〈下〉「世界超黒幕」』より)



【資料】『大いなる秘密〈下〉「世界超黒幕」(ワールド・スーパー・マスターマインド)』③

---

■ 6 ■ — 真の純粋な愛を表現すれば、心臓の「光の輪」が花開き、  
高遠回転、無限大の力が出る

われわれの体内にはアミノ酸と呼ばれる微小な触角(アンテナ)がたくさんあって、これがDNAと相互に作用している。ブレイドンによれば、人間の遺伝子には64種類の暗号、すなわちアンテナが隠されていて、さまざまな周波数を発信・受信するのだという。

簡単に言えば、見えない64本のアンテナが、高い周波数にも低い周波数にもわれわれをつないでくれるということだ。

だがブレイドンは、働いているのはそのうちの20本だけで、44本は「スイッチが切れている」と言う。

これはつまり、われわれのパワー、知恵、潜在能力をフルに発揮するための能力が、かなり駄目になっているということだ。

われわれが脳の潜在能力のうちのほんのわずかししか使っていないというのも、これが原因に違いない。

さらに米国のハートマス研究所などで、こういったDNAの「触角」を働かせたり閉じさせたりするのが感情の波長であること、それがつねにDNAを通過していることが研究されている。

恐怖の感情(ここからあらゆる否定的な感情が派生する)は、長くてゆっくりとした波長で、われわれの見えない触角のうち、ほんのわずかにしかスイッチが入らない。

だが愛(love)(あらゆる肯定的な感情が派生する)は短くて速い波長で、はるかに多くのアンテナが動き出す。

したがって、恐怖にとらわれているときの人間は、無限性との真のつながりから切り離され、小さな意識の一滴ないしは卵の殻の中の人生を送ることになる。

愛の感情を表現するとき、人は多次元的な自己とつながり、その潜在能力は無限大となる。

それは、われわれが「無限」そのものになるからだ。

こうしてわれわれは、再び大海＝「神」とつながることができる。

これは別の言い方をすることもできる。

つまり、われわれの意識は、一連の、互いにつながったエネルギーの場だ、と。

われわれには知性、感情、魂などがあり、すべて別々の周波数に共鳴している。

だが互いに浸透し合ってもいて、それはチャクラといわれる一連の渦を通して行なわれる。

チャクラとは、サンスクリットという言葉で「光の輪」という意味だ。

先にも触れたように、このチャクラの渦を通して感情のバランスの乱れが心の位相に伝達され、それが続くようなら、今度は肉体の位相にまで達する。

こうして緊張から病気が起こる。

また、感情的に動揺していると正しく考えることができなくなるのも、このためだ。

主要なチャクラは7つあって、脊椎のいちばん下から頭頂部にかけて位置している。

下の3つによってわれわれは大地と結ばれ、上の3つによって魂、すなわち「大海」すなわち神と結ばれている。

理想的な状態では、人間は物質的なものと精神的なもの、すなわち天と地との結合だ。

チャクラの体系においてバランスの中心となるのは心臓のチャクラで、ここから愛の感情も嫌悪の感情も表われてくる。

つまり、チャクラの周波数帯の上限と下限が表われてくるということだ。

今日では、愛は肉体的な心臓に密接に関連するものとされているが、本来は精神的な心臓、すなわち心臓のチャクラこそがこの象徴体系の発想の源なのだ。

真の純粋な意味での愛(無条件の、批判のない愛と言ってもよい)が表われるとき、心臓のチャクラは花のように開き、高速で回転して大きな力を出す。

これが「フラワーパワー」だ。

これが低層意識全体を純粋な愛の周波数に共鳴させ、そうすることで、高次元のものも愛の周波数と共鳴し、それが人と再び結びつく。

誰であろうと、何をした人であろうと構わない。

そんな人の魂は純粋な愛だ。

他次元のレプティリアンだろうと、イギリス女王だろうと、ジョージ・ブッシュやヘンリー・キッシンジャーだろうと構わない。

その人の魂は純粋な愛なのだ。

だが、低層意識を持つ彼らがどうなっているかと言うと、低水準の意識が高い水準の自己から切り離されてしまっているのだ。

一度そうなってしまうと、低い意識は、何か信じられないような恐ろしいことをしでかす。

では、あれほどの嫌悪と共鳴してしまっている彼らは本当の自己、すなわち純粋な愛と再び結びつくことができるのだろうか。

できはしない。

われわれもみな同じことだが、純粋な愛と再び結びつく唯一の方法は、純粋な愛を表現し、生きることだ。

ちろんそのためには、人間を操り支配しようという欲望を捨て去らなければならない。

なぜなら、あのアジェンダを継続しているあいだは、彼らは無限の自己から隔絶されたままだからだ。

そこで彼らは人類を操作して、さらに低い意識水準に引き込もうとするのである。

## ■ 7 ■ —— 恐怖心を煽り、「問題—反応—解決」で 人類のさらなる転落を企図

レプティリアンなどの低層四次元の存在は、自身が意識の囚人であるために、人類にはさらに狭いところで生きていてほしいのだ。

自分が変わらなければ、彼らはずっと檻の中にいなければならない、無限へと進化することはできない。

彼らの目的は、われわれを一緒にこの檻の中に閉じ込めておくことだ。

それを達成するためにレプティリアンがここ数千年来採ってきた方法は、恐怖の感情を利用することだった。

常に戦争や紛争があり、テロリストによる暴力があり、金融不安があり、そのほかネガティブな事件が起こるのは、すべてブラザーフッドが仕組んだことだ。

それは、人類を圧倒的な恐怖状態に、つまりは限定的な、本当の自己から切り離された状態に維持しておこうという計画だ。

これに加えて憎しみ、怒り、復讐心、非難(すべては恐怖の表れ)が奨励され、しかもそれが、さらなる紛争と恐怖のための条件整備となる。

さらにそれ以上の恐怖を、想像を絶する規模で刺激しているのが宗教だ。

すなわち神への畏れ(=自己への畏れ)、死への恐れ、そして「神」の裁きへの恐れである。

「科学」についても同じことが言える。こちらは、死の恐れと忘却の恐れだ。

人類は、恐怖とそのさまざまなかたちでの表出によって消耗し、圧倒されている。

われわれが本当の自分から切り離されてしまっているのはそのためだ、バビロニアン・ブラザーフッドはこれまで、われわれにこのことを知らせないようにしてきた。

そのために学校や大学や「科学」機関で教えることも、マスコミが可能あるいは信頼できるとする情報も、管理・操作してきた。

そして彼らが用意した「標準」に異を唱えるものは、どんなものでも傲慢かつ感情的に否定してきたのだ。

人類はずっと、世界という名前の映画上映を観てそれを現実だと信じ込んでいる。

だが、本当の世界は視界からは隠されたままだ。

ジャーナリストは世界で何が起きているのかを伝えているのではなく、映画の筋書きをレポートしているにすぎない。

だから私は、CNNは映画番組だと言っておきたい。

さらに、恐怖を操作する者には特別賞与が加わる。

人間は誰しも、恐怖状態におかれると、誰でもいいから自分を守ってくれそうな者に権力を委ねてしまう。

私が「問題—反応—解決」と呼ぶテクニックは、すなわち恐怖心を操作することだ。

恐怖や、そこから派生する怒りなどに刺激されると、戦争や暴力のあとには「何かしなければいけない」という声があがる。

そこへブラザーフッドのフロントマン

(前線作業員。

みたところ、超秘密結社とは無関係のように見えるが、その実体は彼らが放った作業員)が出てきて、解決策を提示するのだ。

## ■ 8 ■ 一人類を「意識の牢獄」に幽閉するために 活用され続けてきた宗教思想

私が言っているのは、大衆の心と感情の制御だ。

もし意識操作の定義を、「人の心を操作して望むような思考や行動をとらせること」とするならば、現在の地球上でマインドコントロールされていない人間がどれほどいるだろうか。

ケネディ大統領やダイアナ妃の死もこれに含まれる。

たとえば、本当の人柄についてとやかく言われることはあっても、やはりJFKは、未来への新たな希望を表わしていたと認知されている。

実際にそうだったかどうかは問題ではない。

大衆がそう考えたのであり、したがって、それがJFKの表現していたものなのだ、数多くのアメリカ人から長年にわたって聞かされたように、JFKが殺されたとき、アメリカ人の心のなかで何かが死んだのだ。

希望と呼ぼうが、無垢の心と呼ぼうが、それは構わない。

何か、アメリカの魂の奥底にあるものが、JFKとともに死んだのだ。

根底にある感覚は、善人は早死にし、いつも邪悪が勝つように思ってしまう、ということだ。

ダイアナの場合も同じだ。

彼女の例は、この場合にまさにふさわしいと言える。

実際、純粋に現わされた愛を身にまとった女性だった。

彼女が死んだあとに起こった大衆の感情の波。

それは、人間としてのダイアナに対する以上に、愛のシンボルとしてのダイアナのためのものだった。

大衆がみせたあの悲しみは、何かほかのものがダイアナとともに死んだという悲しみだった。

そう、愛が死に、善が死んだのだ。

善人が早死にして、邪悪がいつも勝ち残る。

この2人の死は、全世界的な規模で、無力感と絶望感へと大衆心理が操作された好例だ。

それをしたのは、ロンドンのタヴィストックネットワークなど、各地にいるブラザーフッドの心理作戦用の医師だ。

大衆は、恐怖、無力、絶望の状態に置かれれば、結局は心のスイッチを切ってしまう。

すると、推奨されるとおりの羊の群れになってしまっていて、生涯を通じてただ呆然として言われるがままに従ってしまう。

(三交社 2000年刊 デーヴィッド・アイク著『大いなる秘密〈下〉「世界超黒幕」』より)

■ 9 ■ ———— 迫り来る地球的規模どころか  
銀河系規模の大転換

調査によってある種の電波的鼓動(パルス)、すなわち電子的な信号が存在することが示されたのだ。

これは銀河系の中心で生まれ、われわれの太陽に(ほかの恒星にも)達し、太陽からさらに地球へと送られてきている。

このパルスは人間の心臓へ入り、脳へ送られ、脳を出て全身の細胞へと進む。

このパルス、すなわち共鳴共振が、この道筋を完全に壊されることなく通過するとき、人間は宇宙と一体となれる。

こうしてあらゆる細胞は宇宙のパルスとつながり、調和する。

だが、そこで邪魔になるのが、低い振動数の感情やバランスの崩れだ。

こういうものがあると回路が切れてしまい、人間は再び地球から、そしてさらに大きな宇宙から切り離されてしまう。

ほとんどの人は、心臓と脳とのつながりが切れている。

なぜならで頭と心、知性と直観、肉体的なものと霊的なものとが別々になっているからだ。

今日、レプティリアン=ブラザーフッドがその超長期的人類奴隷化計画を急速に推し進めようとしているのは、大きな試練が目の前に迫っていることを知っているからだ。

あらゆる被造物は、エネルギーの循環(サイクル)に支配されている。



一つの例としては、春夏秋冬という地球の四季にそれをみることができる。

だが、それよりもはるかに大きなサイクルがあって、数字やシンボルというかたちでその記録が残っているシュメール、エジプト、インド、中国、中央アメリカのマヤといった古代人や、アリゾナ州のホピ族のようなアメリカ原住民によるものがそれで、こういった石碑や記録は、太陽や月、そのほかの宇宙エネルギーの大きさを示している。

各種の宇宙エネルギーは地球のエネルギー場を変え、その結果、この惑星に住む生命も変化していく。

おそらくわれわれは、こういったサイクルのなかでも最大の変化のただなかにいるのだろう。

こんなことは推定では2万6千年に一度しか起こらないはずで、マヤの暦では、その決定的な移行が2012年12月12日に起こると予言されている。

これこそ本当の変化の焦点だ。

それは、人工的に作られた「ミレニアム(千年紀)」とは遠う。

こういう意識のサイクルは、はるかに高い位相の意識へと移る準備のできている者にとっては、扉か入口のようなものだ。

私はこれを、ある種の鳩時計のようなものだと思っている。

つまり、時間(というかサイクル)のある一定のポイントにくると、扉なり入口なりが開く。

しかし、この入口を逃すと次のサイクルが始まってしまい、次の入口が開くまで待たねばならないからだ。

だが、どうやらわれわれが今迎えようとしているのは、入口どころか巨大な谷間のようなものらしく、現在我々が信じきっているありとあらゆるものをひっくり返すような、全世界的な超大変化の機会となりそうだ。

宗教や神秘主義各派の文書には、このことが数千年前からはっきりと、あるいは象徴的に予言されている。

現在では肉体的、霊的なものに加え、科学的な証拠も数多く提出されるようになり、いわゆる「時代の大転換」が迫っていることが確認されてきている。

時代が変わりつつあるということが確認できる。

1991年、新たな周波数が銀河系の渦の中心から共鳴しているのが認められ、1994年には探査機ユリシーズが太陽の変化を調査するために打ち上げられた。

1980年代半ば以降、太陽閃光(フレア=太陽面爆発)とX線爆発が急増していたが、ユリシーズは、太陽の磁場が急速に減少していることを発見した。

太陽の南極・北極と赤道上で数値が、予想をはるかに上回っていたのだ。

また、太陽が冷却しつつある一方で、太陽系の各惑星は温度が上がっていて、特に外の星ほど熱くなっている。

これは、惑星の熱がその星の内部からのものであることを示唆しているが、太陽の磁気や電子の変化によって刺激されているという可能性もある。

こういった変化が太陽で起こると同時に、中国人が三千年前に初めて記録した木星上の嵐も、突然の変化を示している。

木星の嵐のなかの巨大な渦の1つが、逆方向に回り出したのだ。

1994年に木星と衝突したシューメーカー=レヴィ彗星による衝撃波などの現象による影響も、地球を含む太陽系へと広がっている。

はっきりしているのは、太陽磁場の変化と同じことが木星でも起こっているということだ。

## ■ 10 ■ —地球の自転は停止し、地球磁場はゼロになるのか？

そのとき世界は激変する！

地球はさまざまな水準の磁力を持った巨大な磁石であって、自転することで磁場を作り出している。

地球の自転が速ければ、磁場はそれだけ強力で密なものになる。

この磁場は、2千年前にその密度が現在の周期での頂点に達し、それ以来、地球の自転が遅くなるのにつれてどんどんと弱くなっている、とブレイドンは言う。

磁場は1千5百年前と比べて50パーセントの強さしかなく、弱化の速度はさらに速まっている。

だが、パニックに陥る必要はない。

これはすべて自然のサイクルなのであって、毎年の季節の移り変わりが、ずっと長い年月をかけて、気の遠くなるほどの力で起こるようなものだ、これに連動するように、地球の共鳴共振する振動数(鼓動と言ってもよい)が急速に増加しているというニュースが入ってきた。

「基礎共鳴振動数」あるいは「シューマン空洞共鳴」というこの振動数は、1899年に存在が確認され、当時から1980年代半ばまでは、およそ7.8ヘルツ(毎秒7サイクル)の一定の律動を維持していた。

ところが、1986年から1987年にかけて、これが確実に速くなり始めた。

1995年の終わりには8.6ヘルツに達したと推定されており、私の聞いた最新の値は10ヘルツ以上で、さらに現在も上昇を続けているという。

グレッグ・ブレイドンは、マヤが変化の年とした2012年には地球の共鳴は毎秒13サイクルとなり、地球の磁場はほとんどゼロになると考え、これを「ゼロポイント」と呼んでいる。

そのときには、地球の磁場はほとんど消滅する。

なぜなら、地球の自転が止まるからだ。

だが、これは重力がなくなるということを意味しない。

重力は別の現象から生じるもので、地球の自転とは無関係だからだ。

このようなことは、過去450万年のあいだに少なくとも14回は起こっているようだ。

最後のものは約1万1千から1万3千年前と推定され、「時間の窓」は、アトランティス大陸が沈んだ時期(数多くの推定が指し示している)と一致する。

また、紀元前1万500年頃以降に起こったあの大地殻変動から立ち直り始めるのもこの時期だ。

1万3千年前がちょうど、2万6千年かかる大周期の折り返し点だったのだろう。

今それが一巡して、また大きな変化が起きようとしている。

地球の自転が止まるとは断言できないが、その可能性を排除できないのも確かだ。

しかし、磁極の転換はもっと最近で、およそ3千5百から3千6百年前に起こった可能性があることが、グリーンランドや両極地方の氷を調べてわかってきた。

地球では、今われわれがみているような急速な磁場の減少が起こるたびに、それが極の転換へとつながり、北と南の磁気が入れ替わっていたのである。

ブレイドンをはじめとして、やがて地球の自転が数日間止まり、それから逆方向に回転を始めると推定している者も多い。

ご存じのとおり、鉄の棒を流れる電流の向きが逆になると、磁極も逆になる。

地球が逆に回れば電流の向きも逆になり、したがって磁極も逆になるに違いない。

地球の自転が止まれば、そのあいだは地球の片側は太陽が照り続け、反対側は闇となる。

まさにそのとおりのことが数千年前に起こった、と古代人は語りかける。

ペルーでは3日間の「長い夜」があったという話が残っているし、聖書には、昼が20時間続いて最も長い日となったとある。

ホピ族の記録では、太陽が一日に2度昇ったとある。

1度西から昇って東へ沈み、そのあとで東から昇って西に沈み、その周期がそれ以来長く続いたという。

ほかにも、太陽が西から昇って東に沈んでいたという古代の話はいくつも残っていて、かつては地球が逆方向に回転していたことを示唆している。

1990年代の初めの、私がこういったことに気づき出して間もないころ、ある心霊術師が霊界の情報として、

「世界は変わる。  
北は南に、東は西になる。  
時間が始まったときからそう決まっている」  
と教えてくれた。

まさにどんぴしゃり、という感じだ。

カリフォルニアで科学研究を続けているブライアン・デズボローも、マスコミは無視しているが、何か大きな地球物理学的な事件が起こりつつある、と言っている。

デズボローは、地球の地磁気の方が指数関数的な割合で弱くなっているのは確かで、間違いなく、もうすぐゼロになる、と言っている。

彼も私と同じ考えだが、われわれは(控え目にみても)、地質学的に相当なでこぼこ道を走っている。

アメリカ地質学局によると、地球の磁場は50万年ごとにゼロになって、それからゆっくりと回復し、そういう時期に大きな地殻変動が起こったり、地震や火山の噴火があったりするという。それは地球の自転が一時的に止まるためだ。

デズボローの情報源によると、太陽の磁場はすでにゼロになっていて、どうやら、水素からヘリウムへの変化はさらに高い水準に達しているようだ。

太陽フレアは赤道から緯度にして上下に19.5度のところで噴出しているそうだ。

ここは、表面下で、自転する南北半球間でのエネルギー交換が行なわれるところであり、地球ではこの緯度に各地のピラミッドが配置されている。

この緯度の地点で受け取る太陽からのエネルギーは、今では驚くべき量に達しているに達しない。

■ 11 ■ — 広大な電子場「光子帯」に入る2012年12月12日、  
時は終わり、六十四の波動すべてが頂点(ピーク)に

ここまで、銀河の中心からの共鳴に変化が起こり、太陽で変化が起こり、地球で変化が起こると  
いうことをみてきた。

この変化はさらに、人間の心臓へ、ついで脳へ、そして身体中の細胞すべてに達するのだ。

心が開いていればいるほど、この流れは強力なものとなり、高まる振動数により早く同調し、高  
い意識状態へと変わっていくことができる。

心と精神を閉ざしては、こういった変化を拒絶することになり、実は自分の人生を変え、開  
放してくれるはずのエネルギーを相手に闘ってしまい、自分のエネルギーを多く消費すること  
になる。

しかも肉体は、周囲のエネルギーと同調することから、魂とどんどん離れていく。

その結果として、精神的、情緒的、身体的にどうなるかは明らかだろう。

この急流の中に立ちほだかり、それを引き留めようとしてもよい。

あるいは、力を抜き、ふわりと身を横たえて、一緒に流れていくのもよい。選択は自由だ。

何が起ころうと、人は永遠に生き続ける。

この高周波数の光の流れ込ませてやれば、われわれの肉体は損傷を回復し、年をとらなくなる。

物質としての肉体で永遠に生き続けることも、望むならばOKだ。

精神的・心霊的なパワーには限度も限界もないからである。

さらに、われわれは今、「光子(フォトン)ベルト」と呼ばれる広大な電子場に入りつつあると言われている。

もしこの説が正しければ、驚異的なことがいくつも体験されるはずだ。

古代人は変化の大きな周期を知っていて、エジプト、マヤ、チベット、中国などの古代の暦は、すべて、われわれが生きているこの時代で終止符を打っている。

エジプトの暦はおよそ3万9千年前から始まっているし、マヤではおおむね、1万8千年前からだ。

その長きにわたる暦がわれわれの時代で終わっているのだ。

マヤの言い伝えでは、古い世界と新しい世界の移行期が訪れ、時間のあり方が別のものへと変わっていくという。

この時期は「時のないとき」と言われ、1982年7月に始まり、2012年12月12日に移行が起こる。

これが人類にどういう影響を及ぼすかは容易に理解できる。

私はここ数年で20カ国以上を訪問したが、どこへ行ってもその兆しが見え始めていた。

決して大多数がというわけではないが、魂の警告時計によって眠りから目覚めた人の数は、日ごとに増えている。

地球の(実際は銀河系全体の)振動が速まっていることで、時の経過が速くなっているという印象を受けているのだ。

本当は時間などはないのだから、これは幻影にすぎないのだが、そう感じられるというのは、周波数が速くなっているからだ。

1990年代始めに心霊術師から、恐ろしいほどに時間が速く動くように思えるような、そんな日が近づいている、と心霊交信を通して教えられた。

その瞬間は近い。

それは確実だ。

これもまた、自然の循環に過ぎないのだから案ずるには及ばないのだが、それでも多くの試練が訪れるだろう。

また、それだけにチャンスは無限だとも言えるのだ。

宇宙は、あらゆる物質世界がそうであるように一種のホログラム(レーザー光線による立体写真)だ。

つまりは光がぶつかりあって三次元形式の像を作り出しているにすぎない、ちょうど、池に石を投げて、その波がぶつかりあってできる波紋を見ているようなものだ。

アメリカの2人の科学者、テランス・マッケンナとデニス・マッケンナは、宇宙は64の波動、すなわち時間の尺度からなるホログラムであると言っている。

だから「易経」には64の卦があり、「生命の樹」は64本で、DNAには64のコドン〔訳註・遺伝情報の最小単位〕がある。

この2人がコンピューターで分析したところ、64の波動すべてが2012年に頂点を迎えるという結果が出たそうだ。

ということは、これからの数年間が激動期になるということの意味する。

両マッケンナは、波動が倍加するまでの時間がどんどん短くなっていて、まるで今世紀の技術発



達のような、飛躍的な勢いだと言う。

さらに、推定ではこれか2012年の変化の年まで継続し、その頂点時には、これまでの周期をすべて合わせたよりも大きな意識の変化が384日間のうちに起こりそうだ、と2人は言っている。

それから、6日間の周期が訪れ、さまざまな出来事がさらに速く動き、最後の135分間に18回、さらに大きな人間意識の飛躍が起こる。

それは最後の0.0075秒で頂点に達し、さらに13回の飛躍が生じるとも2人は言っている。

(三交社 2000年刊 デーヴィッド・アイク著『大いなる秘密〈下〉「世界超黒幕」』より)

【速報】嘘だらけの新聞くだらないTV見る暇があったら、青い目のサムライの話を  
聴け...!!

---

青い目のサムライが斬る...!!

青い目のサムライは、こうした全ての疑問に答えてくれています...!!

どうして日本が、こんな国になってしまったのか...!?

どうして世界が、こんな状況になってしまったのか...!?

誰のせいなのか...!?

私たちは悪魔の△NIMRODの連中によって....

長いこと牛耳られてきたことは紛れもない事実です...!!

しかし、TV・新聞マスゴミは、ヤツらの都合のいい報道しか伝えてません...!!

ですから、あなたにも世界の裏側で何が起きているのかを知って欲しいのです...!!

彼の言葉にじっくり耳を傾けてみて下さい...!!

もしかすると、ピンチを生かすことによって....

私たちの日本そして世界中が、悪魔の△NIMRODの支配から解放されて…、

本当の意味で独立国家を構築出来る、最大のチャンスかも知れないのです…!!

国家非常事態対策委員会 4/10 プロパガンダ辞める!!のダイジェスト版

→<http://www.youtube.com/watch?v=NRu-NuDNADQ&fea..>

■ 12 ■ ー電気と異なりチャクラの回転と同調する  
「フリーエネルギー」開発を畏怖する爬虫類人

金融界の情報源で、自身の経験からレプティリアン機関の存在を認めている人物が、現在のエネルギー供給制度の背景について興味深いことを教えてくれた。

彼はフリーエネルギーの発明家と仕事をした経験が多いのだが、そのなかで、フリーエネルギーの技術は「時計回り」の方向、つまり、チャクラの回転と調和する方向に働くことに気づいた。

だが、既存の電化製品はほとんどが「反時計回り」で、チャクラとは対立してしまうというのだ。

彼はこれを、チャクラの体系を閉じさせて人間を他の意識位相から切り離すためのものだと考えている。

そういうこともあってブラザーフッドは、多くの場合は殺人によって、フリーエネルギー技術の開発を抑圧してきたわけなのだ。

通常の家電の電気配線は毎秒60サイクルで、これは人体に極めて有害であり、脳波の活動に影響をおよぼす、ブライアン・デズボローは、内部に電気配線のある壁にベッドをくっつけている人は、病気の症状などが悪化すると言っていた。

そういう訴えも、ベッドを壁から60センチも離せば消えてしまうことが多い。

このように、われわれは「現代的な」技術が作り出す、悪い電磁波がのたうつ海の中で暮らしていて、それが常に人間の肉体的、感情的、精神的健康に影響を及ぼしているのだ。

人類の精神、肉体、感情は、大転換への秒読みが進むなか、信じ難いような攻撃にさらされている。

それは、ブラザーフッドが必死になって、人類が全体として意識の飛躍を成し遂げ、レプティリ

アンの周波数を越えてしまわないようにしているからなのだ。

ブラザーフッドが構築した「教育」体系やマスコミも、私の言う「左脳の牢獄」に人間を閉じ込めておくためのものだ。

左脳は、物理的な世界観や「合理的」思考、見たり、触れたり、聞いたり、臭いを嗅いだりできるものを扱う領域だ。

また、右脳は直観であり、高い次元と結びついている。

この領域では、ユニークな思考や表現に刺激され、芸術性や創造性が生まれる。現行の教育システムやそこから派生してくるマスコミや科学は、左脳にのみ語りかけ、右脳思考のスイッチを切るようにできている。

だからこそ、世界中で芸術各分野への学校予算が削られ、硬直した左脳向けの教科が押しつけられているのだ。

「教育」によって脳には情報が詰め込まれるが、その大半は間違っているか不正確なものだ。

しかも、それを貯め込んでおいて、試験用紙の上に吐き出すことが要求されている。

ロボットのようにそれができれば合格するが、その情報を右脳のふるいにかけて、「おい、こりゃクソみたいなもんだ」などと言おうものなら、たとえ真実を語っていたとしても合格はできない。

素晴らしきかな教育、だ。

恐怖はレプティリアン最大の武器だから、本物も作り物も含めた「事件」が計画的に仕組まれ2012年へ向けた秒読みが進むなかで、多大な恐怖が生み出されることだろう。

これには、イスラム教世界を西側世界に対する「聖戦」に向けて駆り立てるか、あるいは中国を利用して地球的衝突を引き起こすことによって、またあるいはその両方を同時に推進することによって、第3次世界大戦を始める計画が含まれている。

1998年にアフリカ各国のアメリカ大使館の近くで爆弾が仕掛けられ、アメリカがそれに即時に反応してイスラム教国の標的を爆撃したりしたのも、すべてはその一環だ。

彼らの重要な計画の一つに「プロジェクト・ブルービーム」というものがある。これには、世界各地にある「スターウォーズ」ネットワークの衛星が作り出すレーザー光線を利用して、UFOやイエス、ムハンマド、ブッダ、クリシュナなどの像をホログラムで空に浮かび上がらせるということが含まれている。

各宗教・集団が自分たちの救世主がやってきたと信じ込めば、大規模な宗教紛争が起こりかねないのは明らかだ。

こういった伝達情報は、すでに行なわれているように、極低周波（ELF）、極長波（VLF）、低周波（LF）、さらにはマイクロ波の各周波数帯で送られ、人間の脳がそれを拾う。

この技術は今日ではきわめて高度なものになっていて、多くの人が「神」や「救世主」が自分に語りかけていると信じ込んでしまうほどだ。

だが実際は、ブラザーフッドが操作しているのだ。

すでに出回っている「心霊交信」による情報も、多くはこれが源なのだ。

プロジェクト・ブルービームには、さまざまな「超自然」現象を現出させるということも含まれている。

大衆を恐れさせ、その恐怖と争いのなかに、ブラザーフッドの「救世主」が現われるのだ(やはり空中でホログラム像が使われる)。

このプロジェクトについて考えるうえで強調しておかねばならないことがある。

それは、ミステリーサークル現象は、必ずしも地球外生命や「超自然的存在」によるものではないということだ。

とはいえ、地球外生命や「超自然的存在」が引き起こしたものだとしている研究者は多いし、

その可能性もなくはない。し

かし、絶対にそうだと言えるものではない。

なぜなら、麦畑などに複雑な模様が登場し始めた1980年代までに、そういうものを作り出す技術がすでに開発されているからなのだ。

それは、軍事目的で開発された「高周波ガンマ光線装置」である。

ミステリーサークルはたいていがニセ物だが、本物のおもな特徴は以下のとおりだ。

- ①作物は茎の一番下の節目から倒れるが、折れるわけではない、
- ②作物の細胞構造が変化している、
- ③畑等に描かれた図柄からマイクロ波のエネルギーが放出される、
- ④同サークル内部の生物の死骸は炭化している、
- ⑤図柄が最初に描かれるときには高周波数の音波が出て、カチッという音が聞こえる、
- ⑥プラズマの光が見えることもある。

これらの特徴は、どれも、ガンマ光線装置で引き起こされるものだ。

(中略)

疑問に思う人もいるだろう。

ミステリーサークルを作っているのが当局だとして、そんなニセ物を作っても自分たちの信用がなくなるだけで、今ではマスメディアからも無視されているではないか、と。

これはとてもいい疑問なのだ。

だが、人間の技術によってミステリーサークルがきれいに作れるというのは事実だし、そのことは知っておくべきだろう。

### ■ 13 ■ ——UFO、地球外生命への大衆の関心を加速煽動する、 これこそが爬虫類人支配の「真相」隠し

プロジェクト・ブルービームの最大の目的は、「地球外生命によって地球が侵略されつつあると大衆に信じ込ませること」だ。

こんな作り話には乗らないことが肝心だ。

地球外生命は今侵略しているのではなく、数千年前からここにいる。

外見も、地上にいるときにはあなたや私と変わらない。

1938年に俳優オーソン・ウェルズは、ニュージャージーの「エイリアン」着陸地点から生放送中、とラジオで伝えた。

だが事実は、俳優と特殊効果を使っただけの放送だった。

この番組はH・G・ウェルズの『宇宙戦争』という「小説」を脚色したもので、火星人が侵略してきたと言われた地域に戦慄をもたらし、恐慌を引き起こした。

一人が自殺し、逃げ出そうとする人たちで交通渋滞が起こった。

彼らは本当に火星人がやって来たと思ったのだ。

オーソン・ウェルズは、単なる放法劇だ、みな誤解したのだ、と説明していた。



これは実は、このような状況で大衆がどう反応するかという実験だったのだ。

その原作の小説も、ブラザーフッドの手先で、大規模マインドコントロールを含むレプティリアンのアジェンダの唱道者だったH・G・ウェルズが書いたものだった。

こここのところを考えてほしい。

世界の政府、金融、軍事、政治、その他あらゆる機関を中央統制する口実がほしければ、地球全体に対する脅威が必要になる。

大衆を騙し、宇宙から侵略されると信じ込ませる以上によい手があるだろうか。

世界的な問題があれば、世界的に「何かしなければ」という要求が起こり、世界的な解決策を提示する機会が出てくる。

そこで統一世界政府とワンワールド軍がその「脅威」に当たるわけである。

今、この計画への準備が着々と進んでいるのだ。

今をさかのぼる1960年代のケネディ政権時代、各分野から15名の専門家からなるグループが作られ、戦争を起こさずに人口を抑制し、中央集権化を進める方法について報告書が提出されたと言われている。

のちに『アイアン・マウンテン・レポート(鉄の山からの報告)』と呼ばれるようになったもので、その名称は、最初と最後の会議が聞かれたニューヨーク州のある地下施設にちなんだものだ。

メンバーの一人が友人に内容を漏らし、そこからさらに広く情報が漏れていったのだとされている。

世界に一極権力樹立のために勧告されたのは2点、すなわち地球環境への脅威と地球外生物による侵略の脅威だった。

同レポートの完成は1966年とされている。

1968年には、ブラザーフッドの前線戦闘部隊ローマクラブが設立され、環境運動が作り出された。

明らかに、『アイアン・マウンテン・レポート』にあった環境問題の勧告が現実化したものだ。

今、彼らは、地球外生命という切り札を切ろうとしている。

数十年にわたって地球外生命という考えを無視し、笑い者にしてきたマスコミが突然、時至れりとばかりに真剣に取り上げるようになり、それがどんどん加速している。

米国でのUFO「研究」に資金提供しているのはローレンス・ロックフェラー研究所で、スタンフォードの物理学者ピーター・スタロックを長とする、9人の科学者による委員会まである。

スタロックはアメリカのテレビで、現在、何か理解し難いことが起こっていて、さらに「信じざるを得ない物的証拠」を発見したと語った。

さて、いったいなんのことやら。。

一方、テレビ番組や映画では『インデペンデンス・デイ』、『エイリアン4』(この2つを製作した20世紀フォックスは、ルパート・マードックが企業主)、『X-ファイル』(同様にここでも製作のフォックステレビはマードックがオーナーである)と、恐怖を土台にした作品が目白押しだ。

さらにこれに付け加えねばなるまい。

「ルパート・マードックはブラザーフッドがオーナー」と。

■ 14 ■ 一宇宙からの外的脅威の口実で、大胆不敵  
全世界に非常事態権力、行政命令を行使

UFO「研究」業が生息しているのは、誤情報を流すブラザーフッドの人間と、その情報を収集する人間のおかげだ。

おもだった「内部告発者」とUFO作家の多くが情報集団「エイヴィアリー」の所属会員だ（「エイヴィアリー」とは鳥小屋の意味で、メンバーの暗号名が全員鳥の名前なのでこう呼ばれる）。

ここで、どうして「元」情報部員が秘密計画について自由に話せるのかという疑問が湧いてくる。

そんなことをすれば秘密保持の誓約を破ることになって重い罪に問われ、年金の権利もすべて失われてしまうではないか、と。

実は「EDOM(記憶の電子的消去)」という技術があって、これを利用して、元情報部員の知識のうち、当局が公開したくない部分を消去しているのだ。

エイヴィアリーの所属会員や職員には、ほかに催眠術師も大勢いて、「誘拐された人たちが「異星人」に誘拐されたときの「記憶」を取り戻す「手助け」をしている。

異星人と接触した「名士(スター)」のなかには、さまざまな秘密計画とつながりのある者もいる。

例のジョージ・アダムスキーは、ポイントローマ海軍エレクトロニクス研究所や、パサデナの同様の研究所の科学者と関わっていたときに、地球外生命との接触を世界に発表した。

誘拐された者に地球外生命によって埋め込まれたとされる極小端子についても説明しておこう。

このマイクロチップは、実は純粋な地球製で、開発したのはモトローラ、ゼネラルエレクトリック、IBM、ボストン・メディカルセンターからの技術者で作る合併企業だ。

その一例が「IBM2020チップ」だ。

このチップはプロジェクト・モナークのマインドコントロール計画で使われた。

またこういったチップは、情報機関と契約した医師や歯科医師によって、何も疑っていない患者に埋め込まれている。

地球侵略を狙う邪悪なエイリアンに関する本はどんどん出版されているが、このままでいくとどうなるのだろう。

やはりこれは、ヘンリー・キッシンジャーに答えてもらおう。

以下に掲載するのは、1992年にフランスのエヴィアン・レ・ベンで開かれたビルダーバーグ会議での発言からの一節だ。

書き留めたのはスイスの代表のようだ。キッシンジャーはこう述べている。

今日、秩序を回復するために国連軍がロサンゼルスに入ったりすれば、アメリカは激怒するだろう。

だが、将来は歓喜するようになる。

まして宇宙からの外的脅威があると聞かされれば、それが本物でも宣伝によるものでも、自分たちの存在自体が脅かされるとなれば、特にそうなるだろう。

そのときにこそ全世界の人間は、この邪悪から救い出してくれと、世界の指導者に懇願するのだ。

どんな人間も恐れるもの、それは未知のものだ。

この筋書きどおりにことが運べば、誰もが個人の権利など喜んで放棄して、安寧の保証を求めよう。そしてそれは、ワン・ワールド政府が与えてくれる。

これが「UFOというペテン」の目的だ。

問題—反応—解決、だ。

地球外生命は今、侵略してこようとしているのではなく、すでに地球にいる。

そう、ずっといたのだ。

彼らこそが物質としての肉体を通じてわれわれを操作し、われわれを「救う」と申し出てくれているのだ。

UFOの研究者で講演活動もしている早川紀夫によれば、この計画は「プロジェクト・パニック」と呼ばれ、高い技術の設備を利用して、UFOが侵略してくるという視覚的幻影を作り出すのだという。

そうなれば各国政府や国際連合は、それを口実に全世界的な非常事態を宣言し、あらゆる非常事態権力や行政命令が施行されるだろう。

先に詳しくみたように、今世紀になって米国大統領が出した数々の行政命令は、連邦議会による議論も承認もないものだった。

これを使えば、アメリカ政府は、交通機関、エネルギー、個人の家、さらにはあらゆるマスメディアを接收することができる。

こういった行政命令によってアメリカ政府は、誰が、どこに住んで、どのような仕事をするかまで命令することができる。

子供が連れて行かれることもありうる。

人工的な「緊急事態」でこういった命令が強要されれば、どんなことでもできるのだ。

他の国のどの政府も、そういった状況になれば同様の権力を手に入れるだろう。

ほかに「ミレニアム」から2012年にかけてブラザーフッドのアジェンダに含まれるものとしては、

①世界的な金融破綻が起こり、ワン・ワールド電子通貨が導入される。

②紛争とテロ活動があふれる。

③その他あらゆる事件が人類を恐怖させ、氣力を奪い、なんの疑問も抱かない奴隷状態へと向かわせる。

といったところだ。

だが、必ずそうなると決まっているわけではない。

あなたは「平凡で」「無力な」人間ではない。

あなたは永遠の意識の一部であり、その精神は、今にも現実のものになろうとしている。

ただ心を、意識を開けばよいのだ。

そうすれば、その精神と再び結びあって無限のパワーをつかみ、自身の運命を作り出せる。

それが、この信じ難いような好機を迎えた、われわれの試練なのだ。

この惑星に自由が帰ってくる！

そして、それは初めて、長く、長く続くのだ。

(三交社 2000年刊 デーヴィッド・アイク著『大いなる秘密〈下〉「世界超黒幕」』より)

『威風堂々』組曲

---

『威風堂々』組曲

作曲：エルガー／ミッキー吉野／タケカワユキヒデ  
作詞：奈良橋陽子  
うた：ゴダイゴ

たがいに腕を組み  
明日に立ち向かおう

我々の試練は始まった

欲求と希望と勇気と愛をもって

ともに平和を追求しよう

そうすれば  
人間同士愛し合える

叡智よ我々を平和へ導き

真理よ暗黒を照らせ

高く顔を上げ前を見て行こう

終わりになき全人類の平和を

神の助けにより明日に求める

だが君は嘘をつき  
きれいごとを云い  
逃げる事も出来る

「俺はただの労働者  
小さな夢をこわさないでくれ」

「仕事も給料もまあまあ  
俺はこれで結構」

「ニュースを読み税金を払い  
あんたにや関係ない」

「邪魔しないでくれ」

「ほっていてくれ」

それとも君は評論好きか  
おりこうさんか?

口ではいいこと云ったって

憎しみは直せない

君は指導者じゃない  
横取りねらいのサギ師

名誉と勢力に欲張りな  
君は失格だ

降りなさい虚飾の冠をぬいで

降りて来なさい  
名誉欲の冠をぬいで

降りなさい偏見の冠をぬいで

降りなさい欺慢の冠をぬいで

人類の歴史が燃えつきる前に  
国を越えて手を差し延べ合おう

止めてくれ!

人類の歴史が燃えつきる前に  
国を越えて手を差し延べ合おう

たがいに腕を組み  
明日に立ち向かおう

愛する世界の人々よ  
もう始まっている

強く抱き合い明日に立ち向かおう

力を合わせて平和を追求しよう

そうすれば人間同士  
愛し合えると信じる





ゴダイゴ 平和組曲

→[http://www.youtube.com/watch?v=rgTi\\_F4OvMA&fea..](http://www.youtube.com/watch?v=rgTi_F4OvMA&fea..)

## 威風堂々[50]【完】『人類共通の敵、悪魔の△NIMROD「ロスチャイルド、イルミナティ、バチカン」退散しろ!!』

---

～アングロ・サクソンの悪魔崇拝者たちは、キリスト教に改宗した後、△NIMRODの生まれた12月25日「クリスマス」を、私たちの救世主が生まれた日と偽り、ローマカトリックは「キリスト」という別の名前を与えて、この祭りを採用した為に何世紀もの間、異教徒たちがこの日を祝ってきたのである～

私たちは、いったい何の為に生まれてきたのか...?

何処から来て、そして何処へ行くのか...?

そんなことを、誰でも一度や二度は思い浮かべることがあるだろうと思います...

誰しもが、生まれながら運命は定められているのか...?

運命に逆らうことは、出来ないのか...?

こんなことも、誰でも一度や二度は思い浮かべるのではないのでしょうか...

敬虔なクリスチャンなら、生命も大地も神によって創造されたのだと信ずることでしょう....

でも、本当に神様はいるのか...?

しかし、もしあなたが信じている神様が...

偽りの神であったとしたら、どうしますか...?????

もしも、世界的な規模のキリスト教カトリックの組織の中枢の連中や....、

英国王室をはじめとする欧州の王室や貴族、政府の閣僚の中に....、

じつは世間に隠れて....、

ルシファー(サタン)を信じ、身の毛もよだつような儀式を行う....、

サタニスト(悪魔崇拜主義者)がいるとしたら....、

さぞや、あなたは驚くことでしょう...!!!!

昨年のことですが....、

日本のある少女が、ローマ法王にこんな質問をしたそうです....。

「どうして神様は『311東日本大震災』という、このような悲劇を起こされたのですか」と....。

『311東日本大震災』という、世界を震撼させた出来事が....、

もし、天地の創造主である神が起こされたものであるなら....、

あるいは、発生することが予め定められていた運命であるなら....

犠牲になった大勢の人々も、少しは諦めがつくかも知れません....。

が、しかし....、

ローマ法王は何と、「なぜ神がこの様なことをなさったのか、私にも判らないのだ」と答えたそうです...(笑)。

ちなみにバチカンのローマ法王ベネディクト16世は、イルミナティの重要メンバーと云われており、元ドイツの国家元首であり、しかも元ナチス少年隊です...!!

神様はいません、偽の神様はそこにいます...!!

神の姿に化けた、悪魔がいます...!!

そして、運命はありますが、変えることは出来ます...!!

世界で起きた大事件と呼ばれる出来事のすべては偶発的に起きるのではなく、必然的に起きるのだと云われています....。

正確に言えば、あらゆる大事件はその裏側で人間が作為的に起こしているのです....。

もちろん、『311東日本大震災』は神様が起こしたものではありません...!!

悪魔の連中が命令した、日本への攻撃だったのです...!!

私は『311東日本大震災』の真相を知るべく、数ヶ月掛けて情報を掻き集めてきましたが…、

今回の震災が1,000年に1度の自然災害であったという説よりも、人工的に引き起こされたものである可能性の方が情報の質も量も圧倒的に勝っているし、十分に辻褄が合います…!!

私は、CIAとモサドによる自然災害に見せ掛けたテロだったと確信しています…!!

『HAARP』を使って日本各地に群発地震を誘発させ、さらに『純粹水爆』を使って海底の断層を破壊し大地震と大津波を引き起こし…、

しかも、福島第一原発に『スタックスネット』でサイバー攻撃し、冷却装置がコントロール不能になった為の事故…!!

『311東日本大震災』は人間が起こしたテロであり、運命で定められていたものでは決してありません…!!

神様はいません、偽の神様はそこにいます…!!

神の姿に化けた、悪魔がいます…!!

この全世界を裏側で操っているのは誰か…!?

あなたが信じようが信じまいが…、

実は私たちの住むこの地球は、何世紀にも渡って…、

ほんの一握りの、血の繋がりで結ばれた悪魔の△NIMROD一族によって、乗っ取られようとして

いた...!!

JPモルガン家もロスチャイルド家の親類であり、またエリザベスの先祖に当たるヴィクター女王はロスチャイルドの隠し子で、英国王室はロスチャイルド家と血の繋がりで結ばれているとしたら...!?

世界の名だたる富豪はロスチャイルドの一族であるとしたら...!?

「サタン王」がロスチャイルドと英国王室であるとしたら...!?

もしヤツらが、高度な知識を持ったとされる世界最古の文明、『シュメール文明』からの種族で...

しかも、『バビロニア帝国』を創り、神に逆らった『ニムロド王』の血を引く末裔であったとしたら...!?

既にお伝えした通り...

『イルミナティの悪魔の13血流』と呼ばれる、アスター家、バンディー家、コリンズ家、デュボン家、フリーマン家、ケネディー家、李家、オナシス家、ロックフェラー家、ロスチャイルド家、ラッセル家、ファン・ダイン家と、ブッシュ家...!!

おぞましい悪魔の儀式を伝承しているヤツらこそが...

紀元前数千年前、人類史上最初に神に逆らった人物であり世界最古の都市国家バビロニアを創った「サタン王」ニムロドの末裔ではないのか...!?

その証拠に、かつてロスチャイルドは、自ら「ニムロド王の生まれ変わりである」と言っていたそうです...!!

しかも、『イルミナティの悪魔の13血流』は“白人種スーパーエリート”の血流(血統)を持つ一族で....

サタン性を有する(地球外生命体の)レプティリアン(爬虫類人)と地球人のハイブリッドの可能性がある...!?!?!?

ヤツらの遺伝子は、3重螺旋構造であるという驚愕の情報まで飛び交っているのです...!?!?!?

ヤツら1%は、「自分たちこそが神である」と...!!

「99%の人間は家畜、奴隷である」と...!?

ヤツらは、「白人(アングロサクソン)が優秀な種族である」と...!!

「有色人種(黒人や黄色人)は家畜、奴隷である」と...!?

悪魔の△NIMROD一族たちは、カネにモノを言わせてイルミナティを使って世界中に手を回し続け....

ハルマゲドン、つまり核戦争を引き起こし、厳戒態勢を敷き、細菌兵器をバラ撒き、有色人種を抹殺する策略だった...!?

世界の大多数の人々を削減、現世界を「終わり」にするつもりだった...!?

2012年までに、完全支配『アングロサクソン・ミッション』が終了する筈だった...!?

やがて次の世界で主導権を握り、『世界統一政府』というワンワールド、『全世界バビロニア帝国』の樹立を目論んでいたのです...!!

しかし、ヤツらの陰謀はことごとく失敗していると思われます...!!

何故なら、近年はそうした影の支配者連中たちの非道ぶりに嫌気が差した内部から情報がリークしてくるので....、

悪魔の連中の策略に気付く人々が増え....、

世界中で覚醒する者がドンドン現れているからです...!!

人類共通の敵、悪魔の△NIMROD「ロスチャイルド、イルミナティ、バチカン」退散しろ...!!!!!!!

そうなのです...!!

神様はいません、偽の神様はそこにいます...!!

神の姿に化けた、悪魔がいます...!!

そして、運命はありますが、変えることは出来ます...!!



1%の白人スーパーエリートどもが何を企もうと....

私たち99%が抵抗することによって、さしもの彼らも身動きは取れない筈なのです...!!

ヤツらの地球乗っ取りを阻止し....

戦争を回避し、平和を守るには....

まずは悪魔の連中を怖がらずに、堂々と立ち向かうこと...!!!!!!!

ヤツらは、TV新聞マスゴミを使って得意のプロパガンダを展開してきます...!!

「おかしい」と感じることは、「おかしい」と気付くこと...!!

「間違っている」と思ったら、「間違っている」と主張すること...!!

とにかく、悪魔の△NIMROD一族たちが作り出す『罨』に引っ掛からないこと...!!

嘘だらけの新聞、無知にする下らないTV視る暇があったら、真実に向き合って...!!

ワクチンをはじめ、衣食住はキケンな物質だらけ...!!

白旗作戦...!!

テロや戦争はでっち上げ...!!

政治家は演技しているだけ...!!

シナリオがある...!!

真の平和を...!!

環境破壊...!!

飢餓と貧困...!!

大資本家が儲かる仕掛け...!!

ニュースはデタラメばかり...!!

歴史は偽りだらけ...!!

騙され続けてきた...!!

私たちはまんまと騙され続けてきた...!!

臆病...!!

無関心...!!

ハッキリとNO...!!

それでもあなたは見て視ぬフリをし続けるのですか...!?

神様はいません、偽の神様はそこにいます...!!

神の姿に化けた、悪魔がいます...!!

そして、運命はありますが、変えることは出来ます...!!

心の瞳を開いて...!!

本当の戦いは、これから始まるのです...!!!!!!!

威風堂々と...!!

【完】